オクタゴンの悪夢再び! ミルコ引退危機!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING

enterbrain MOOK

2007
115
880yen



格闘帝国ロシアに緊急潜入!
ついにUFC参戦か? 皇帝を独占キャッチ!!
エメリヤーエンコ・ヒョードル

地上波復活、祝・結婚!!
ギラギラ輝くハッスラーの野望!
坂田亘&小池栄子

天下取りへ攻めるカ・イ・カ・ン!!
LOVE & HUSTLE

観られなくても感じるんだ!!
8.25 ラスベガス& 9.8 ロンドン
地球的規模のUFCサバイバルウォーズ!
ヴァンダレイ・シウバ
クイントン・R・ジャクソン
ランディ・クートゥアー
ダナ・ホワイト UFC代表
ロレンゾ・フェティータ

木戸修に藤原喜明、石川雄規が"神様"が語る!
カール・ゴッチ口伝

狂気サク裂! "青春の新日本プロレス"対談!!
船木誠勝×獣神サンダー・ライガー

UFCは観るんじゃない。感じるんだ！ ちびっ子の諸君！

©みのもけんじ


PRIDEファイター、UFCに続々と上陸！ はたして、宇宙規模的大戦の結末とは!?

2007 No.115 CONTENTS

kamipro

表紙写真／タイコウクニヨシ♂


氷の皇帝の決断は?
UFCとの交渉、大詰め!!
ANENKO
DOR

ロシア緊急潜入インタビュー

「PRIDEとUFC、どちらが強いか？私がオクタゴンに入れば、すぐにわかることでしょう」

聞き手／堀江ガンツ　文／編集部　写真協力／レッドデビル

EMELIA
FED

ここにきて〝さまよえるPRIDEファイター〟たちがそれぞれ新天地にたどりついているが、今後のMMA勢力分布図を大きく左右する最後の大物といえば、エメリヤーエンコ・ヒョードルだ。
すでに報じられているとおり、ヒョードルはUFCと参戦交渉の真っ最中だが、ほかにもヒョードル獲得を狙うプロモーションは数知れず。いったい〝60億分の1〟はどこへ向かっているのだろうか。
9・8『UFC75』ロンドン大会の翌日、本誌取材班は格闘帝国ロシアに緊急潜入。アエロフロート・ロシア航空242便でモスクワに飛び、そこからさらにロシア発サンクトペテルブルグ行きの寝台列車『赤い号』に一晩揺られて、レッドデビルの本拠地サンクトペテルブルグへ——。
そこからサンクト郊外にある、レッドデビル代表ワジム・フィンケルシュタイン氏が所有する、総合格闘技の専門学校「レッドデビル・ミックスファイト・スクール」を訪問した。ヒョードルをマネージメントするワジム代表の独占インタビューは、10月1日発売予定の『kamipro Special2007 AUTUMN』に収録予定。『PRIDE』のこと、『HERO'S』のこと、ボードッグのこと、そしてUFCのこと。非常に興味深い内容になっているので乞うご期待。
そして肝心のヒョードルはというと——、この翌日、故郷スタールイオスコルでプーチン大統領との面会を控えていたため、同席できなかったが、ワジム代表のケータイで電話インタビューに応じてくれた。

——もしもし、ヒョードル選手ですか？

ヒョードル はい。そうです（微笑）。

——おひさしぶりです！ お元気でしょうか？

ヒョードル はい。私は元気です。日本の皆さんはお元気ですか？

——それがあまり元気じゃないんですよ（笑）。どうですか、調子のほうは。

ヒョードル しばらく試合から離れて身体を休めているので、コンディションはとてもいいです。また全力で試合をしたいですね。



——明日、プーチン大統領と会われるというお話ですが、それはどういった用件なんですか？

ヒョードル 大統領のスケジュールははっきりとわかりませんが、予定としては市長と一緒に面会する運びです。以前は私の試合を観戦していただきましたし、本当に光栄なことですね。

——それで、今日はお聞きしたいことがたくさんあるんですが……。

ヒョードル はい。時間が許すかぎり、なんでも聞いてください（微笑）。

今回の敗戦によってミルコのファイター人生は終わってしまったのではないでしょうか

——まず今年4月に『PRIDE』がロレンゾ・フェティータ氏に買収されましたけど、PRIDEヘビー級チャンピオンとして、その件に関してはどのように感じましたか？

ヒョードル 私は『PRIDE』の素晴らしさをよく理解しています。日本の多くのファンがどれだけ『PRIDE』を愛していたかも知っていますから、非常に残念なニュースだと思いました。

——そして諸問題のために再開のメドがいまのところ立ってないんです。

ヒョードル その話も聞いています。ただ、いまやMMAの市場は世界的に広がっていますから、『PRIDE』のファイターたちは積極的にほかのプロモーションに出場して、ファンを魅了する闘いをするしかないでしょう。私もこれからも頑張りたいと思います。

——そこで聞きたいのは、ヒョードル選手がいま一番、興味がある団体のことなんです。

ヒョードル いまUFCとの交渉を進めています。もしその交渉がまとまれば、近いうちにオクタゴンで闘うことになるでしょう。

——交渉の進捗状況は……。

ヒョードル それはあなたの隣にいるワジムさんに聞いてください（微笑）。

——たっぷりうかがいます（笑）。で、交渉の状況はともかく、一番、興味があるのはUFCということでよろしいんでしょうか。

ヒョードル そうですね。『PRIDE』が活動していないこともあって、いま世界でナンバーワンのプロモーションはUFCになります。UFCには強いファイターも多いですし、興味はありますね。

——UFCにはヒョードル選手のライバルだったミルコやノゲイラも参戦していますが、彼らがオクタゴンで闘う姿はご覧になっていますか？

ヒョードル はい。観てます。ノゲイラは『PRIDE』での実力どおり勝利をものにしました。ミルコに関して言えば、一昨日の敗戦によって、もう彼のファイター人生は終わってしまったのではないでしょうか（キッパリ）。

——ミルコは終わってますか！ じつに厳しい意見ですね。

ヒョードル 彼はUFCで連敗中です。試合から離れて身体をしっかりと休ませるか、敗因を見極める必要があります。そうしないと、ミルコはいまのままでは勝てないでしょう。

——ミルコはUFCでなかなか実力が発揮できていないんですが、オクタゴンとリングの違いもあるんでしょうか？

ヒョードル それはとくに問題にはなってないと思います。彼自身の問題です。繰り返しますが、ミルコは敗因を見極める必要があります。

——ヒョードル選手はオクタゴンという戦場に不安はないですか？

ヒョードル まったく問題はないと思います。

——もしかして、すでにオクタゴンを想定した練習をしていたりとか。

ヒョードル はい。でも勘違いしないでほしいのは、私は昔からオクタゴンで練習をしています。さらに言えば、私はリングやオクタゴンの違いによって、とくに何かを左右されることは決してありませ



4.14ボードッグのロシア大会出場後、大統領官邸に招かれプーチン大統領との食事会に出席したヒョードル。サンボマスターでもあるプーチンとのスパーは観てみたい!!

ん。

――なるほど。で、ミルコが負けた同じ大会で、UFCライトヘビー級王者のジャクソンとPRIDEミドル級王者のヘンダーソンが〝93キロ最強〟を懸けて闘いました。

ヒョードル　ええ。知っています。まだ試合を観てないですが。

――判定でジャクソンが勝ったんですけども、この結果に関してはどう思いますか？　ミルコやヘンダーソンが負けたことにをきっかけにして、『PRIDE』とUFCの比較が活発になっているのですが……。

ヒョードル　いいことを教えてあげましょう。ジャクソンは『PRIDE』の選手です（笑）。

――ガハハハ。UFCはUFCのチャンピオンこそが世界最強だと言ってますが、それに対してはどう思われますか？

ヒョードル　私はUFCで闘ったことがありませんので、まだわかりません。

――自分が出ればどちらが最強かわかると？

ヒョードル　そういうことですね。私がオクタゴンに入れば、すぐにわかることでしょう（微笑）。

――で、UFCのヘビー級王者、ランディ・クートゥアーはヒョードル選手との〝チャンピオン対決〟を熱望しているんです。

ヒョードル　クートゥアーのことは尊敬していますが、もしも交渉がまとまれば確実に彼と試合をすることになるでしょう。私のほうも準備はできているから、いつ

EMELIANENKO FEDOR

でもかまいません。

――UFCの中では彼が一番、興味がある選手ですか？

ヒョードル　そうですね。クートゥアーは一人のファイターとして優れておりますが、非常に素晴らしい人間性も持っていると思います。とくに感心するのは競技やほかの選手の対する姿勢ですね。

――44歳なのに〝老いてますます盛ん〟ですし。これまでヒョードル選手のライバルというとノゲイラでありミルコでしたけども、UFCでライバルになりそうなファイターは誰だと思いますか？

ヒョードル　ノゲイラとミルコはこれからもライバルでしょうし、もちろんランディ・クートゥアーもライバルになるでしょう。まあ、交渉がまとまったわけではないので、そういった話をするのはまだ早いと思います。ほかにも闘ってみたい選手はたくさんいますけどね。

――ほかにも試合したい選手といいますと？

ヒョードル　それは契約書にサインしてから言います（微笑）。

――では、話題を変えます。かつての盟友であるセルゲイ・ハリトーノフが『HERO'S』と契約したことについてどう思いますか？

ヒョードル　よかったのではないでしょうか（淡々と）。

――ヒョードル選手とハリトーノフのあいだにはいろいろ確執があったそうですが、ワジムさんが言うのは「ハリトーノフはヒョードルに無礼を詫びて、レッドデビルに来ればよかった」と言ってます。

ヒョードル　（ため息をついて）……ふぅ～。べつにレッドデビルに入らなくてもいいです。確かにハリトーノフをレッドデビルに誘ったこともありますが、もう彼の名前は口にはしたくありません。

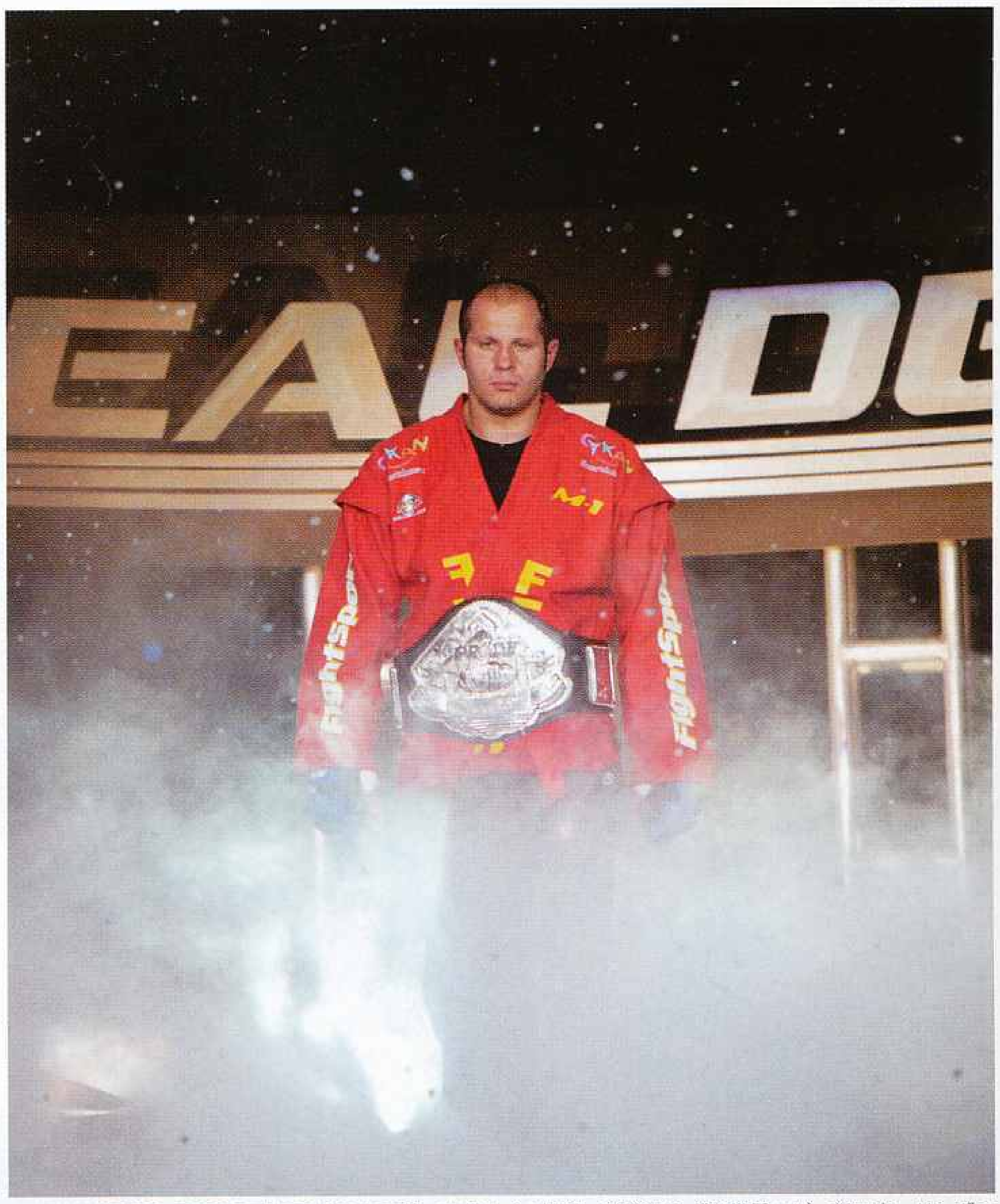
──わかりました（笑）。では、ヒョードル選手は『HERO'S』に興味はありますか?

ヒョードル　ある程度は興味があります。

──『HERO'S』でなくても、日本で試合したい気持ちが強いということですが。

──『HERO'S』とも契約交渉の場を持ったという話が流れていましたが……。

ヒョードル　今後のことはワジムさんに聞いてくださったほうが話は早いと思います（微笑）。



EMELIANENKO FEDOR■1976年9月28日、ウクライナ出身。初代リングス世界ヘビー級王者、リングス世界無差別級王者、PRIDEヘビー級GP王者、現・第2代PRIDEヘビー級王者。MMA戦績27戦26勝一敗1ノーコンテスト。名実ともに世界最強。レッドデビル所属。182cm、101kg。

──わかりました（笑）。では、いま『PRIDE』は休止している状態ですが、もし再開するようになれば……。

ヒョードル　う～ん。残念ですけど、あの素晴らしかった『PRIDE』が簡単に復活するとはちょっと思えないです。

──あの世界観を復活させるのは、かなり難しいんじゃないか、と。

ヒョードル　はい。まず、ほかのプロモーションはリングに選手を放り投げて闘わせるだけですが、『PRIDE』は違いました。ファンを興奮させると同時に、ファイターが全力をもって臨めるエンターテインメント空間を作りあげます。『PRIDE』は一つのショーとして完成されていたのです。

ほかのプロモーションとは比較できないほど PRIDEの世界観は本当に素晴らしかった

──そういえば、先ほど弟のアレキサンダー選手にも『PRIDE』のお話を聞いたんですが、「ファイターにとって大きな目標を失なった。それくらい『PRIDE』は高いステージだったんだ。UFCやほかのプロモーションに、あそこまで惹かれることはないだろう」というふうに言われてましたね。

ヒョードル　本当にそうですね……。我々にとって『PRIDE』は本当に素晴らしいプロモーションでした。まず選手と対等に接してくれる。ほかのプロモーションはプロモーターが100、選手はゼロの力関係ですが、『PRIDE』だけは選手とフィフティ・フィフティの関係を築いてくれました。イベントの完成度を含めて、あんなプロモーションは二度と現われないでしょう。

──現われないとみんな困ってしまうんですけど（笑）。ところで、次の試合はいつ頃を考えていますか?

ヒョードル　11月のコマンドサンボの試合にはぜひ出たいと考えています。

──じゃあ、MMAの〝ネクストファイト〟はそれ以降ということですね。

ヒョードル　そうですね。これからボクシングのオリンピックチャンピオンとともにオランダで打撃トレーニングを行なう予定です。アイブル選手やコーチとともにまた頑張りたいと思います。まだまだ自分の実力を上げていきたいと思います。

──まだまだ強くなる、と。30歳になられましたけど、体力面に不安とかは感じませんか?

ヒョードル　いいことを教えてあげましょう。ランディ・クートゥアーは44歳です（微笑）。

──失礼しました（笑）。

ヒョードル　ああ、そろそろ時間ですので、今後のことはワジムさんに尋ねてください。

──わかりました。最後に日本のファンへメッセージをお願いします!

ヒョードル　日本の皆さん、お元気でしょうか。私はいま、次の試合に備えてトレーニングを行なっております。これからも一生懸命、頑張りますので声援をよろしく。それでは、ごきげんよう!（微笑）。

【07年9月12日／ロシア・サンクトペテルブルグにて電話収録】

あいかわらずの〝氷の微笑〟節が炸裂した皇帝インタビュー。あまりにリラックスしすぎて「今後のことはチーク・〝コンゴ〟に聞いてくれ! な～んつってな。ンムフフフ!」というロシアンジョークが飛びだしかねないほどだった。ないか。


マジメにインタビューを振り返ってみると、ヒョードルはUFC参戦を見据えている印象が非常に強い。

しかし、独占契約を主張するUFCと、コマンドサンボやロシア国内のMMAイベントへの出場を希望するヒョードル側の折り合いはまだついていない模様。

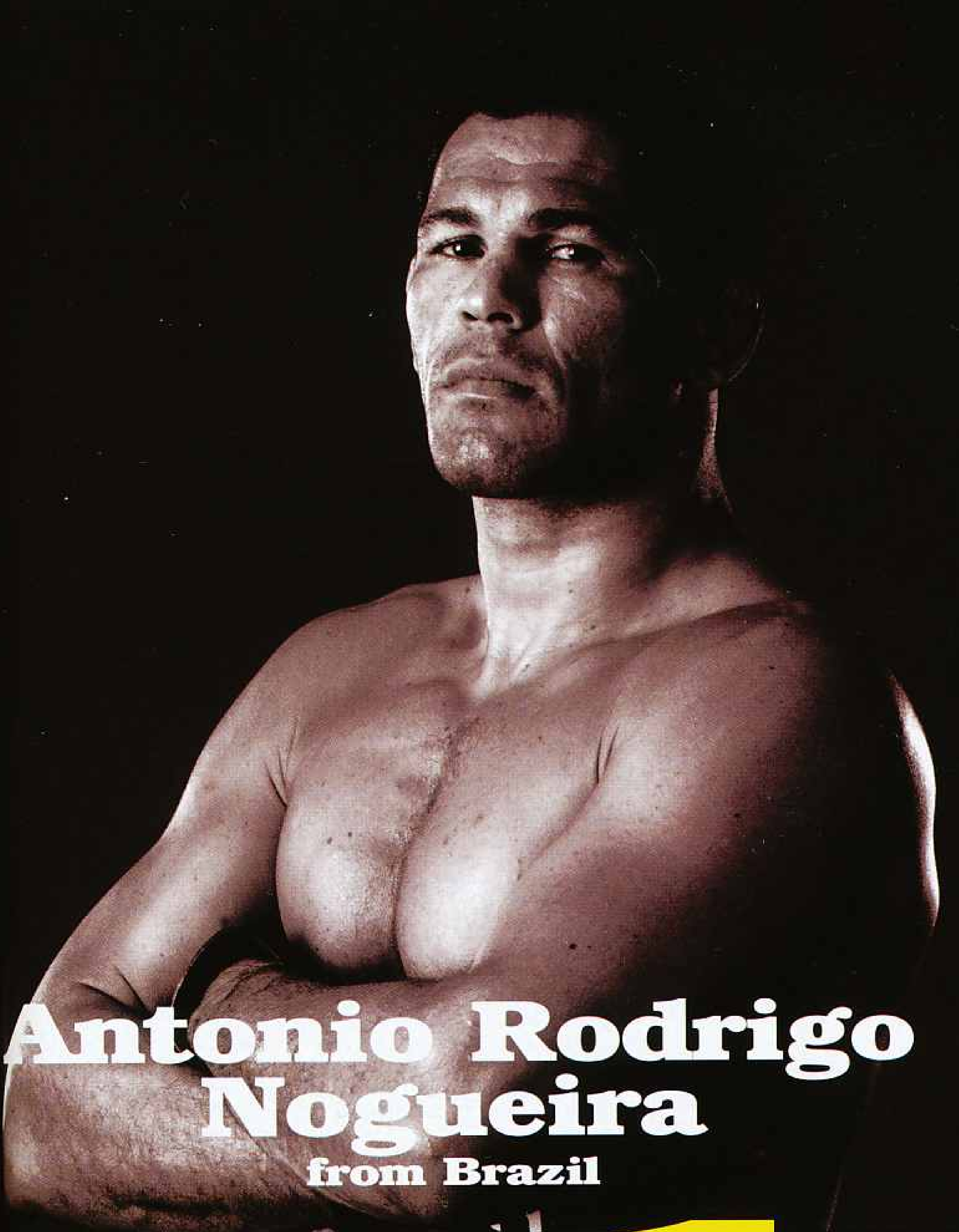
その間隙をぬって、あのエド・フィッシュマンや、カルビン・エアーをもしのぐアメリカのIT富豪がヒョードル獲得を狙っている怪情報もある。

最近はPRIDEっぽいのが大好きなFEGのサダハルンバ谷川氏も、もしかしたら秋山成勲ばりにヒョードルへ手紙を出している可能性もある。ないか。

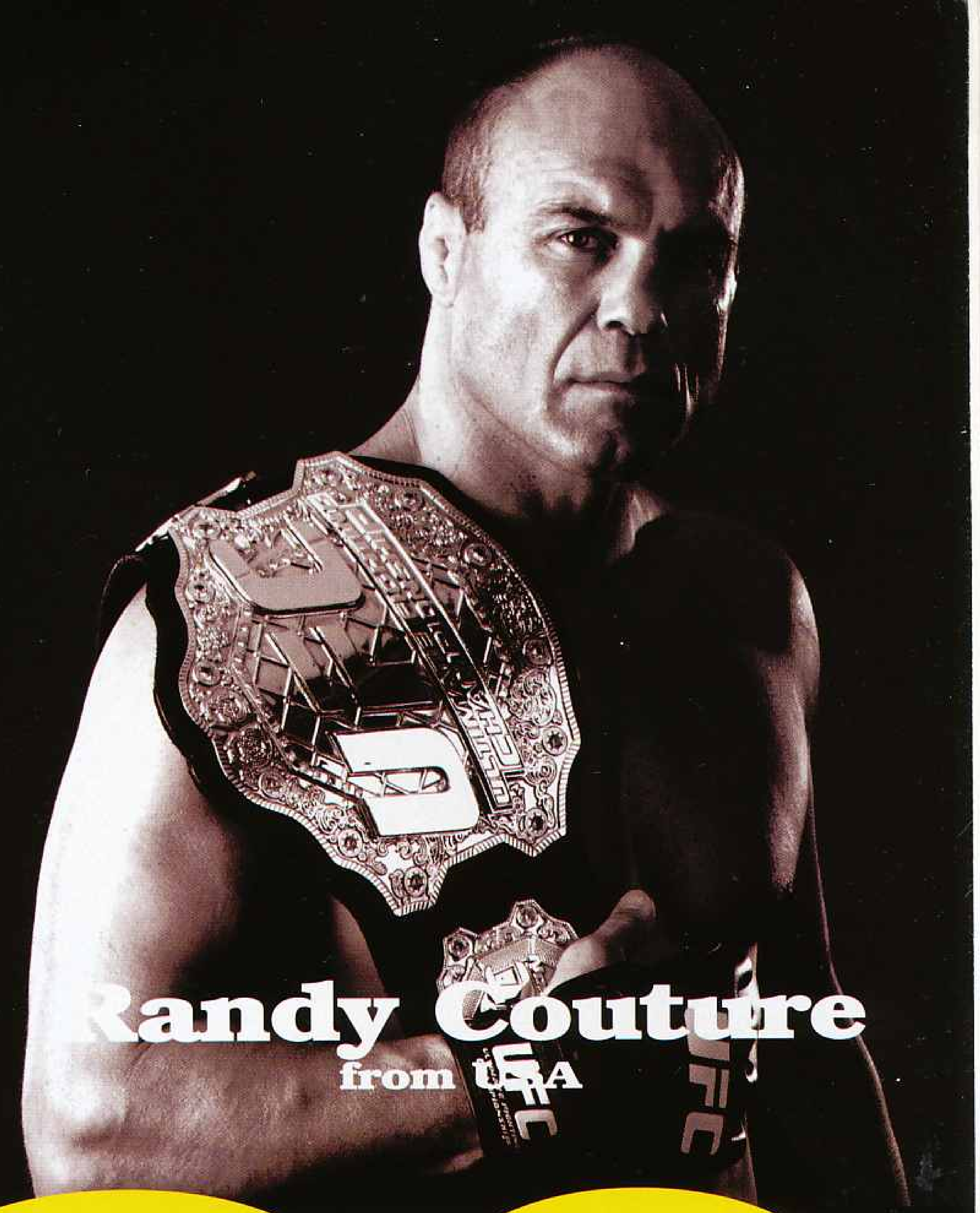
いずれにしても、皇帝がどんな決断をくだそうが〝MMA新世界〟は大きく変わることは間違いない。それでは運命の決断を下す日まで、ごきげんよう!（微笑）。



EMELIANENKO FEDOR



Antonio Rodrigo Nogueira
from Brazil

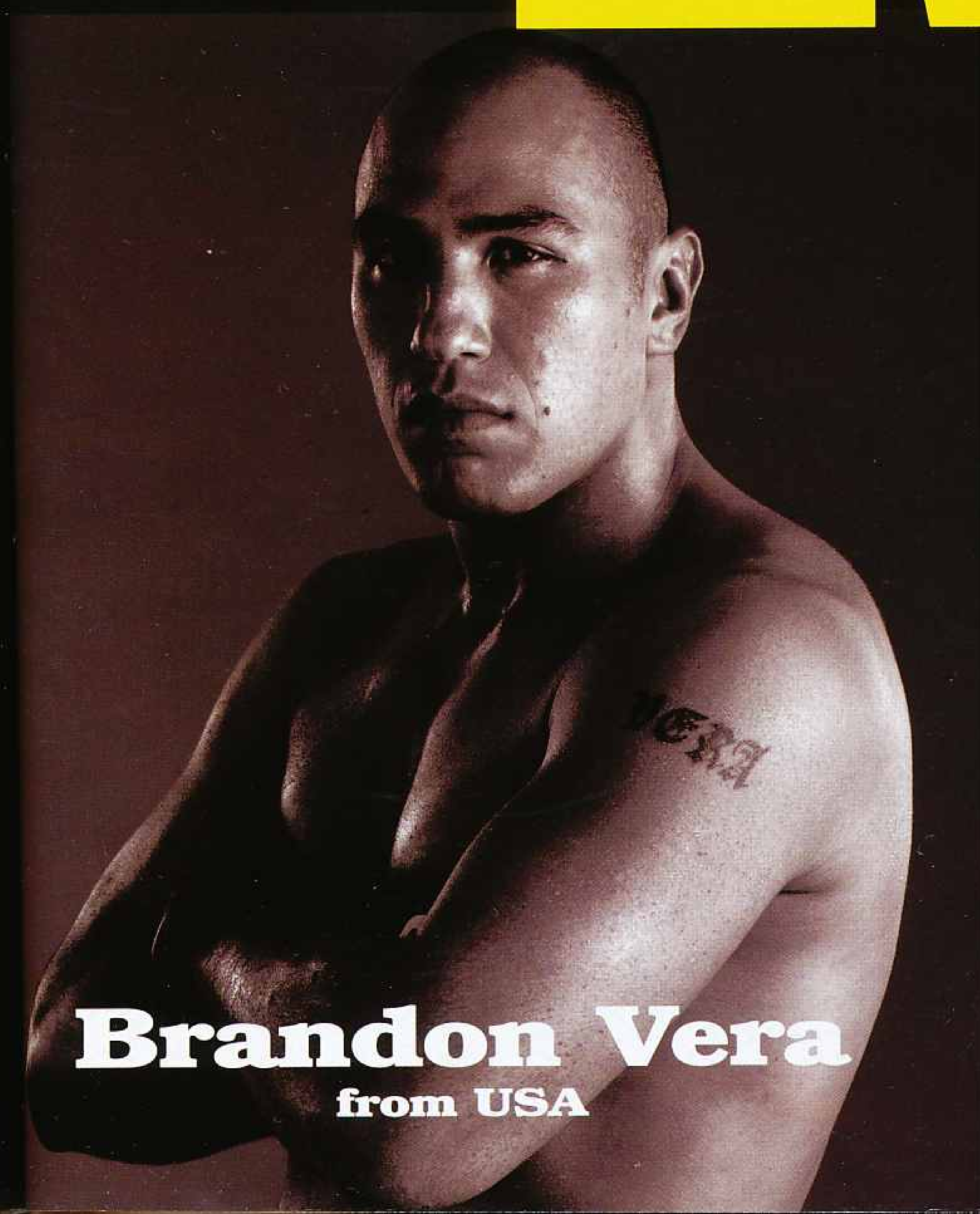


Randy Couture
from USA

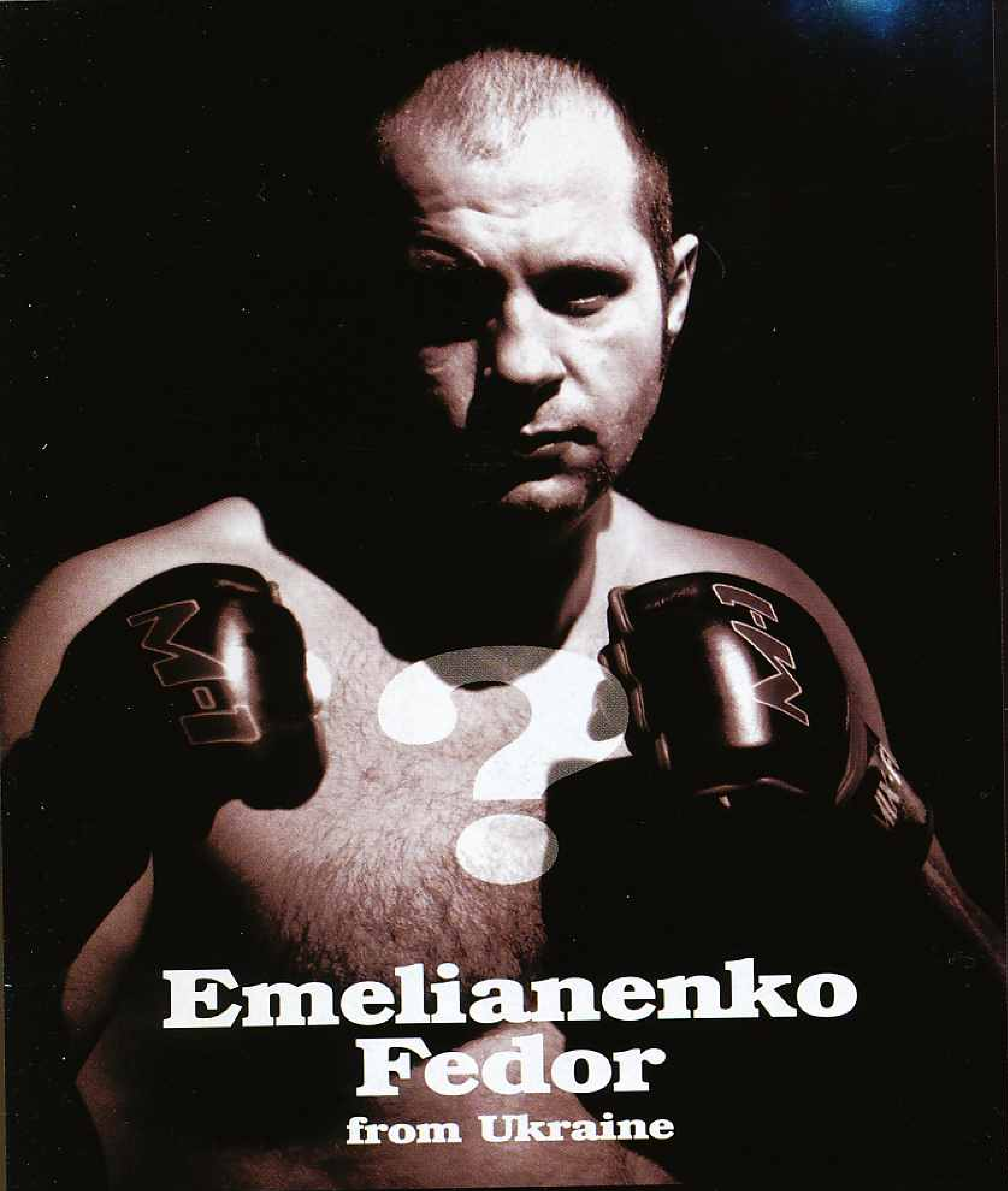
-120 kg HEAVY WEIGHT FIGHTERS in UFC

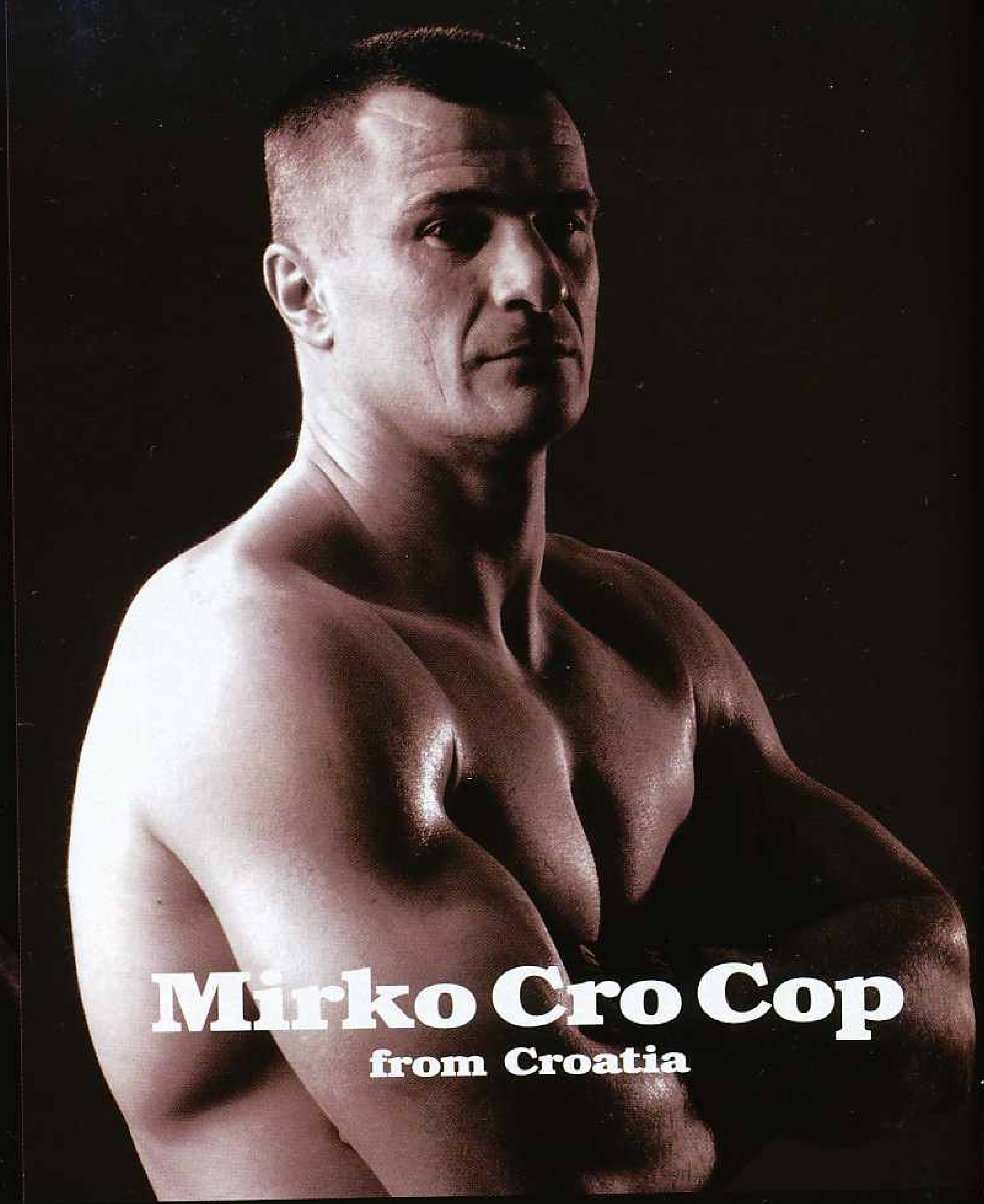
人類最強に最も近い男たちが集うUFCヘビー級戦線。
“鉄人”クートゥアーの牙城を誰が揺るがすのか？
ミルコがまさかの連敗を喫し、
一寸先も読めない混沌状態に突入！
そして“皇帝”ヒョードルは……？
“怪物たちの宴”はまだまだ始まったばかりだ。

撮影／Josh Hedges（UFC）

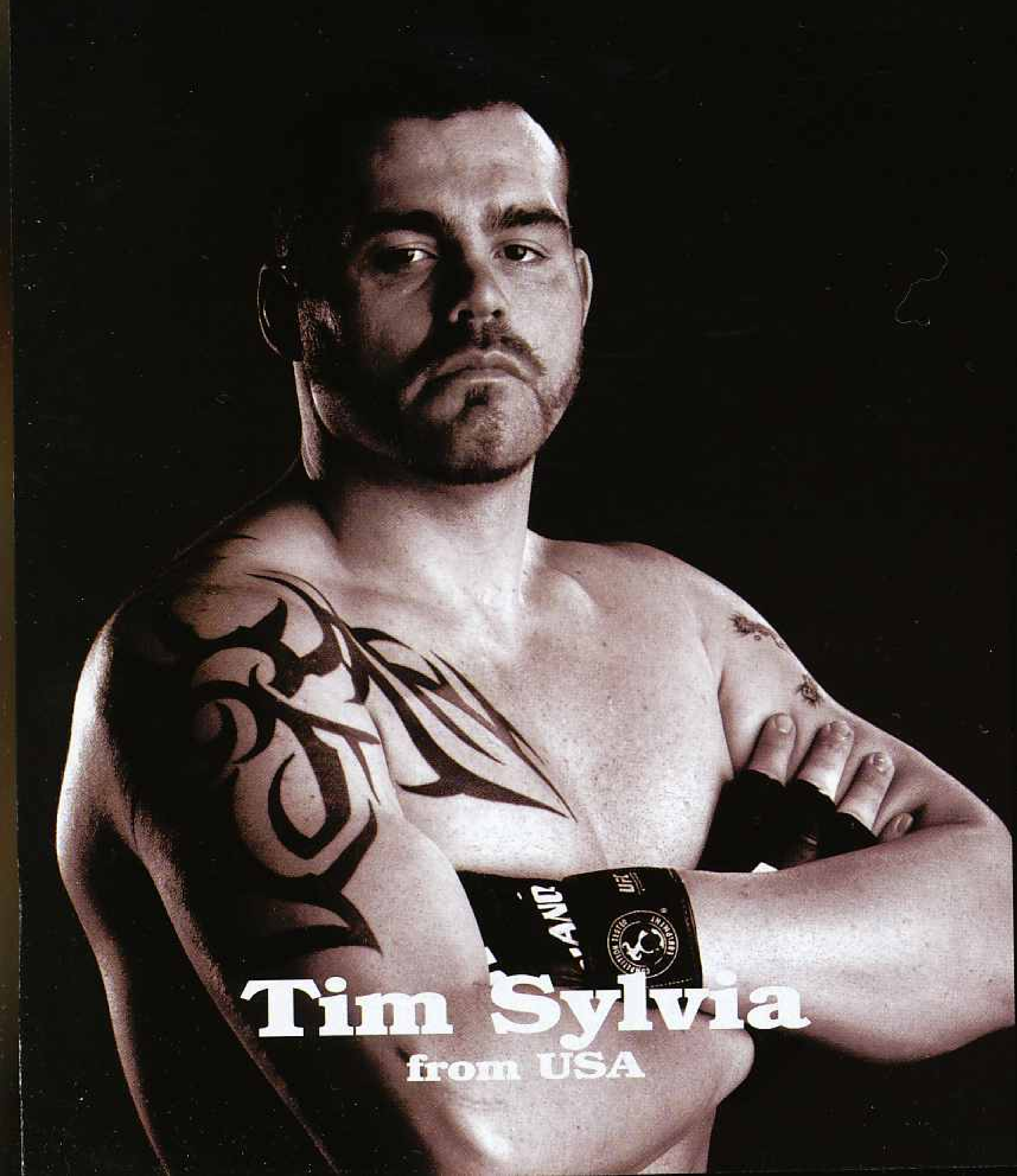


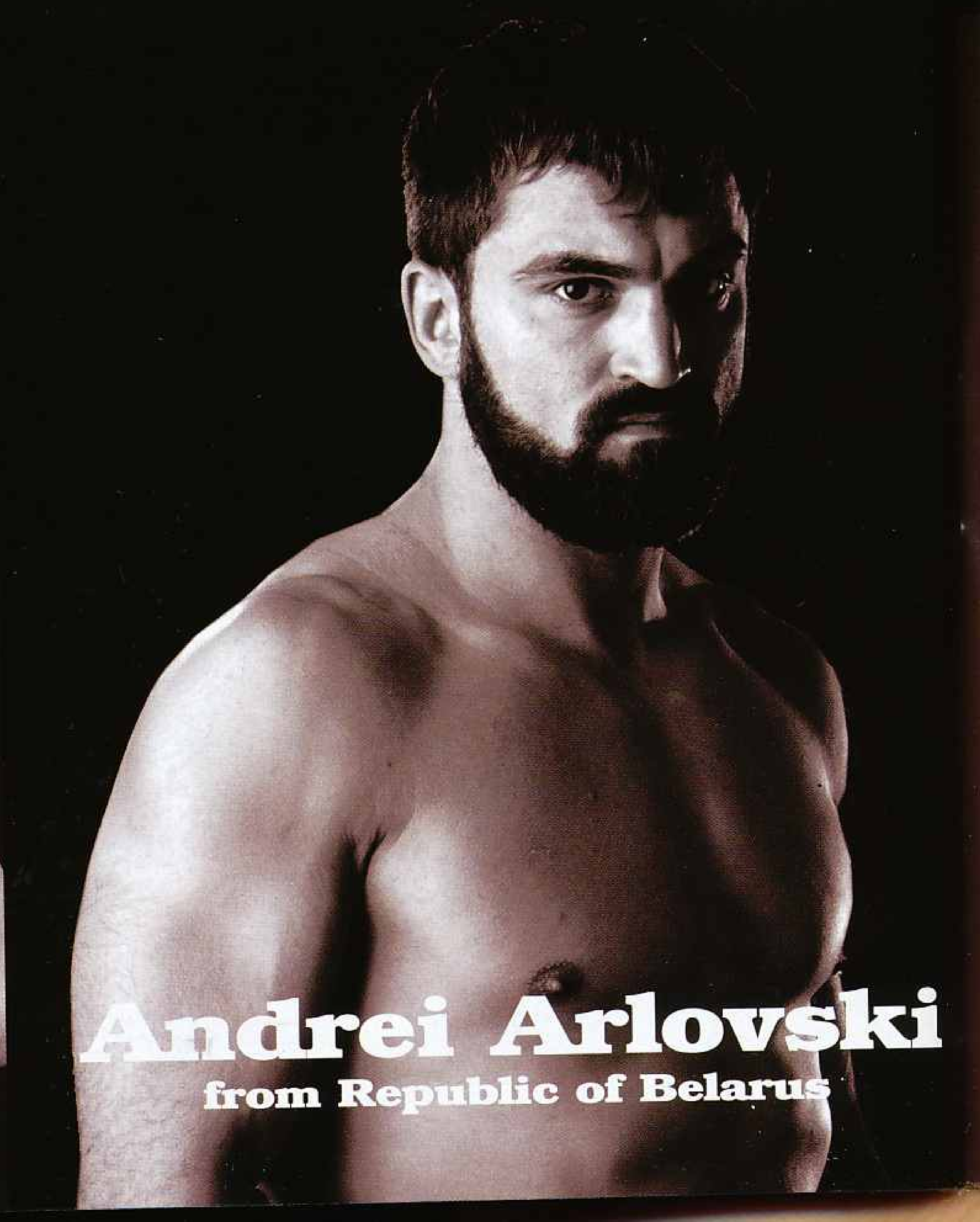
Brandon Vera
from USA


Emelianenko
Fedor
from Ukraine


Mirko Cro Cop
from Croatia

“人類最強”の宴!!


Tim Sylvia
from USA

Andrei Arlovski
from Republic of Belarus



チーク・コンゴに判定負け
屈辱のUFC2連敗

ミルコ
引退危機

文／堀江ガンツ
試合写真／黒田史夫、Josh Hedges (UFC)



［9.8 UFC75-CHAMPION VS CHAMPION-］
ロンドン／02アリーナ
◯チーク・コンゴvsミルコ・クロコップ×
（3R 判定3-0）

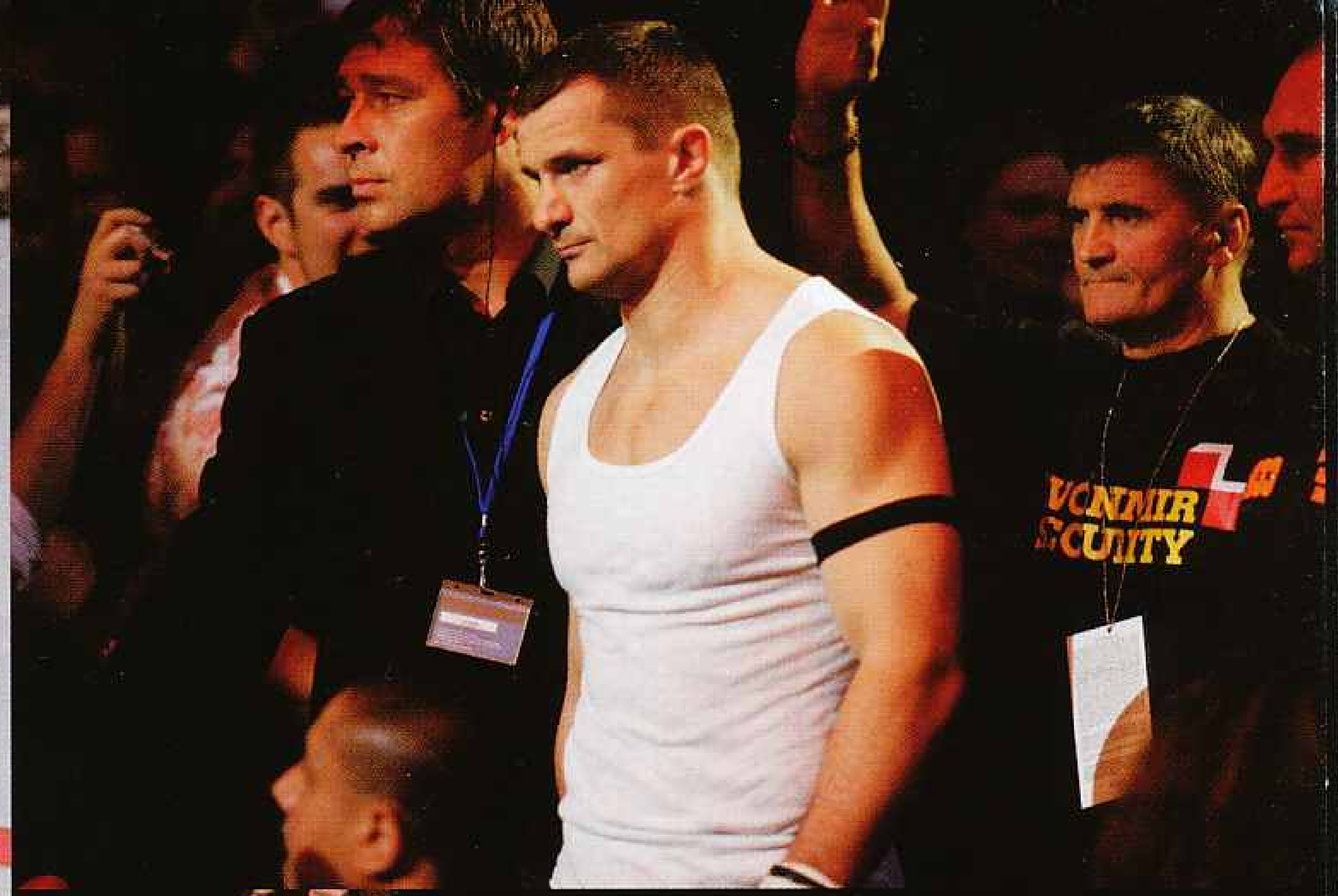
2万人近い大観衆で膨れ上がったO2アリーナが重苦しい空気に包まれた。

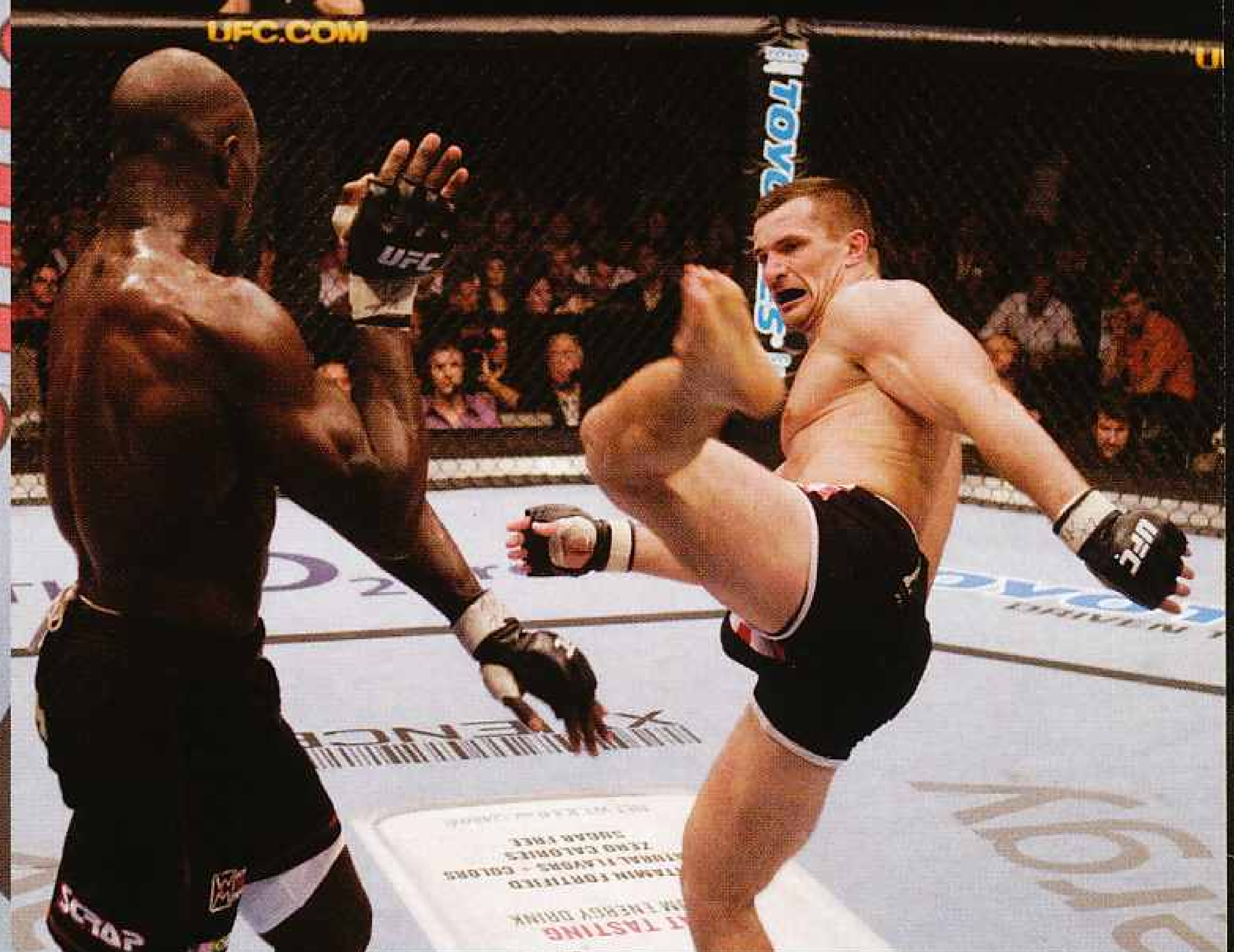
9・8『UFC75』ロンドン大会。「英国の借りは英国で返す」を合言葉に、ミルコ・クロコップが、4・21『UFC70』マンチェスター大会におけるガブリエル・ゴンザガ戦の屈辱を晴らすべく復帰戦に選んだ舞台。英国のファンもそんなミルコを後押しするべく、自国のスター選手マイケル・ビスピングと並んで、この日一番の大歓声を送った。客席には前回に続いて、クロアチアからの大応援団、さらには「PRIDE無差別級GP王者ミルコ・クロコップ」Tシャツを着た〝青い瞳のPRIDEファン〟の姿もあった。みんなが、〝強いミルコ〟復活に期待し、そして信じていた。しかし、結果はまたしても残酷なものとなった――。

3ラウンドをフルに闘い、試合終了のブザーがなったとき、金網の上に駆け上がり勝利をアピールするチーク・コンゴ。対するミルコはコーナーのイスに肩を落として、力なく座り込む。勝敗は誰の目にも明らかだった。

ミルコ判定負け。しかも、言い訳のきかない屈辱のゴンザガ戦は、UFCルールへ







鬼神のような強さと自信を全身にみなぎらせていたミルコはどこへ行ったのか

の準備不足ということで仕方がない部分もあったが、今回は試合前に自宅ジムにオクタゴンケージを導入。さらに打撃コーチにイワン・ヒポリット、寝技コーチにADCC2003王者ディーン・リスター、さらにスパーリングパートナーには、コンゴをKOしたことがあるギルバート・アイブルと、K－1ツータイムス王者レミー・ボンヤスキーまで招聘し、万全を期したはずだった。それなのに、オクタゴンに上がったミルコは、あまりにも弱々しく見えた。あの鬼神のような強さと自信を全身にみなぎらせていたミルコはどこへ行ってしまったのか？

試合序盤、1ラウンドのミルコは悪くなかった。前回ゴンザガ戦で後手に回った反省からか、積極的に自分から前に出てプレッシャーをかけていく。そして、コンゴが右ミドルを放った際、スリップしたのを機に、グラウンドで上になることに成功。細かいパウンドを入れながらパスガードし、マウントポジションも奪取した。

しかし、2ラウンドに入り逆にコンゴが前に出てくると、ミルコは下がってしまう。そしてクリンチしてきたコンゴを強引にフロントチョークで捕らえようとしたところでテイクダウンを奪われる。ミルコは前回、クローズドガードの体勢からヒジ打ちの餌食になってしまった反省から、オープンガードで距離を取ろうとするが、なかなか抜け出すことができない。そして、猪木・アリ状態から、なんとかスタンドに戻すことに成功するが、グラウンドで下になっているあいだにスタミナをロス。立ち上がったときには口が開いてしまった。

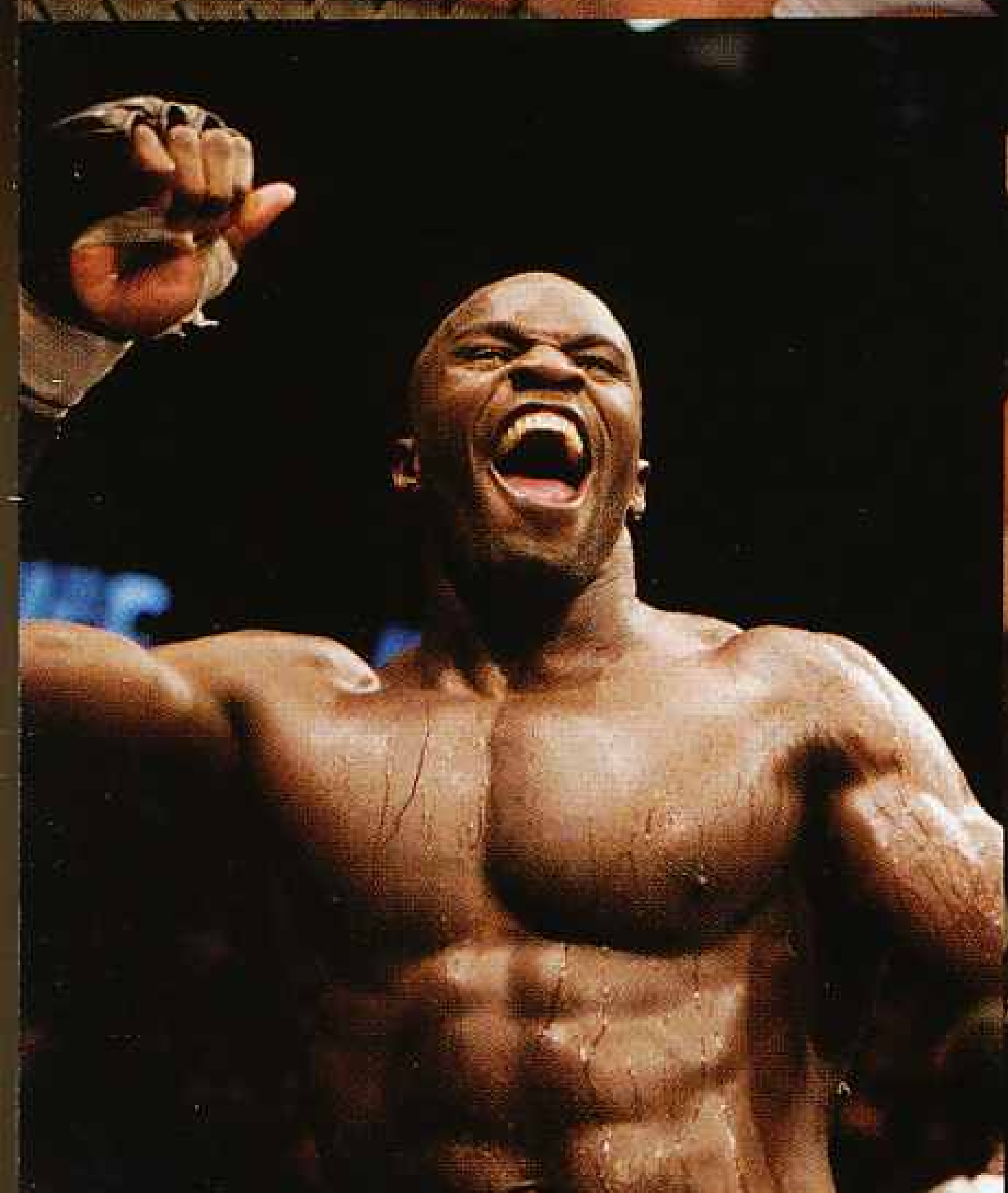
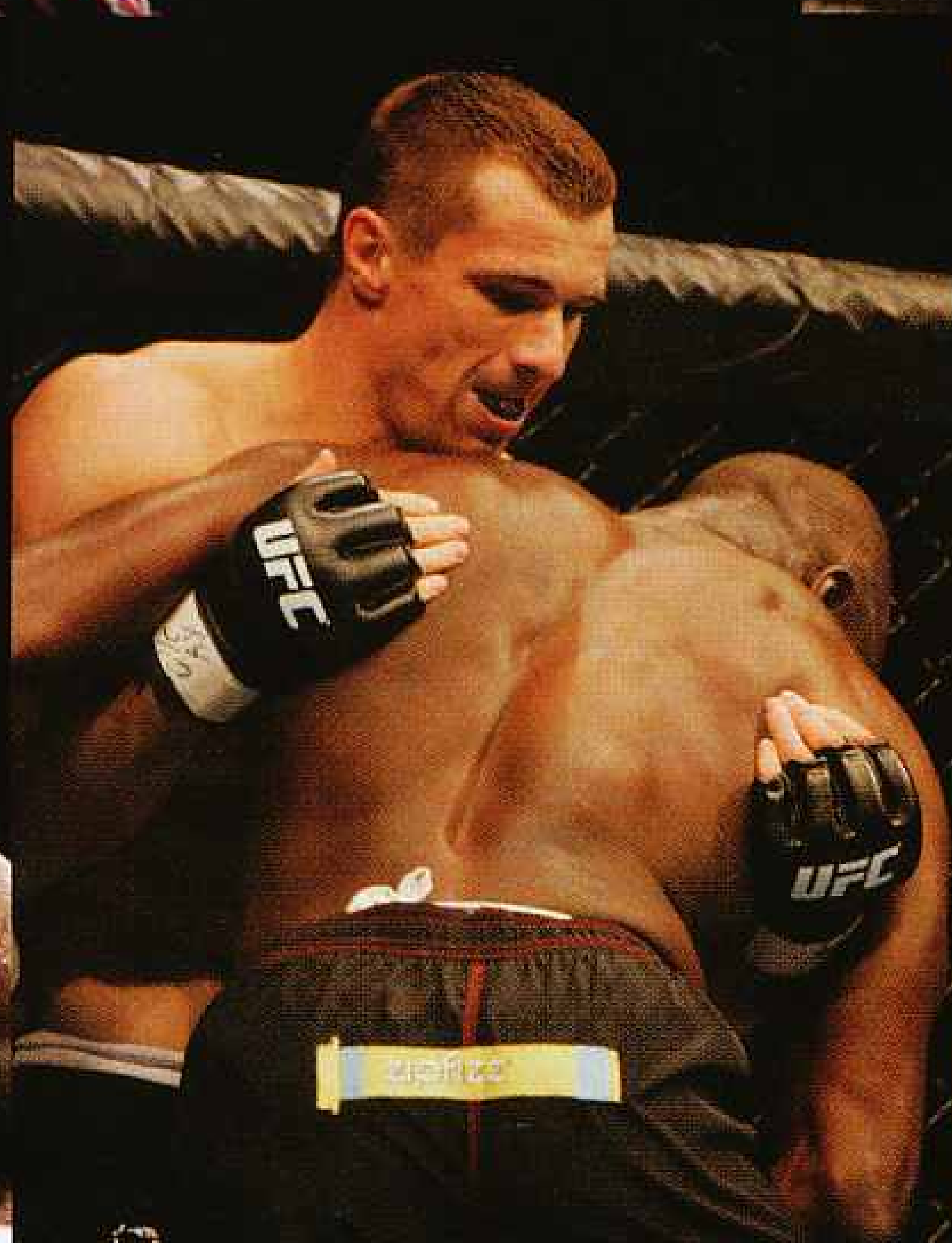
そして最終3ラウンド。まさに勝負を決めるラウンドだったが、明らかに疲れが見えるミルコ。金網に押しつけられ、コンゴ得意のクリンチからのヒザ蹴りをボディにもらうのを露骨に嫌がる。さらにそのヒザが金的に入り、ミルコ悶絶。なんとか再開するも、ミルコの打撃にはもはや力がない。かつてのヒョードル戦やマーク・ハント戦での最終ラウンドを思い起こさせるような展開。そして無情にも試合終了のブザーが鳴った——。

自分より大きな相手にプレッシャーをかけられ後手に回り、スタミナを消耗してしまい、そのままズルズルと判定負け。ミルコの負けパターンにハマってしまった格好だ。ただ、これまでのミルコであれば、スタミナが切れる前までは、ミルコらしい鋭い打撃を放っていたが、今回はそれすらもなかった。

試合後、ランディ・クートゥアーは「いつものミルコらしくなかった。1ラウンド中に、前に出てコンゴを押していたときでさえも、彼の中に火がともってないように見えたよ」と語っていたが、確かに試合を通してミルコには覇気がなかった。

じつはこうなる〝予兆〟となるようなことを試合前日、ディーン・リスターが語っていた。彼が言うには、早い段階から激しいトレーニングを積んでいたため、早く身体ができすぎてしまったというのだ。確かに試合の一カ月前に本誌がクロ




敗因はオーバーワークだけではない。今回の敗戦は多くの課題を突きつけられた

アチアまで試合前のキャンプの様子を取材に行ったとき、ミルコの身体は上半身下半身ともに太く力強く仕上がっていた。しかし、オクタゴンに上がったミルコの身体は小さく、しぼんでいるようにさえ見えた。事実、ミルコの体重はベストウエートの103キロを大きく下回り、99キロしかなかったのだ。

これをミルコは「K－1のグランプリで闘っていた90年代後半と同じ体重。グッドシェイプだ」と語っていたが、MMAファイターとなってから100キロを切っていたのは、03年の金原弘光戦のみ。あのときは、PRIDEヘビー級GP一回戦でケビン・ランデルマンにまさかのKO負けを喫した直後、その汚名を返上すべく試合直後から猛練習で身体をいじめ、5週間後の試合に強行出場。しかし、疲れきった肉体は試合開始早々からスタミナ切れを起こし、判定でなんとか勝ったものの、一階級下の金原に大苦戦を強いられた。

今回のコンゴ戦もまさにそのときと同じ状況だったのではないだろうか。ガブリエル・ゴンザガにまさかのKO負けを喫したあと、復活すべく自分の身体をいじめ抜いたが、あまりにハードなトレーニングを積みすぎたためにオーバーワークとなり、いざオクタゴンに上がったときにはもう、エネルギーが残っていなかった……。


もちろん敗因はオーバーワークだけではない。相手にプレッシャーをかけられたときの弱さは以前から指摘されていたことだし、あいかわらず打撃が一発狙いで手数も出ていない。またUFCでの闘いで重要視される、金網際でのクリンチワークでもミルコはスタミナをロス。コーナーにもたれ、ブレイクを待てばよかったPRIDE時代の闘い方が抜けきっていない部分が見受けられた。さらには、ゴンザガ戦での肉体面、精神面でのダメージもあっただろう。

あまりにも多くの課題を突きつけられた今回の敗戦。ミルコは本当に復活できるのだろうか？　ランディ・クートゥアーは、ミルコ復活の可能性についてこう語る。

「彼が優秀なアスリートであることは間違いない。でも復活できるかどうかは、すべて彼次第だね。自分を律してトレーニングをして、そしてエネルギーを取り戻すこと。それはすべて彼次第だろう」

これまでK－1からMMAに転向して以来、何度かの挫折を経験しながらも、その都度、自分に厳しいトレーニングを課して這い上がり、昨年はついにPRIDE無差別級GPを制したミルコ。そう、ちょうど1年前、ミルコはファイターとして絶頂期を迎えていたのだ。しかし、あれからわずか1年後、いまは暗いトンネルの中でもがき苦しんでいる。はたして、ミルコはこのまま堕ちていってしまうのか？

引退の噂までささやかれるなど、ここがファイターとして生涯最大の正念場。しかし誇り高き男が、このまま引き下がるわけにはいかない！



ミルコに最後通告

「いままでとは比較にならないほど大きな試練が目の前に立ちはだかっています」

ミルコ・クロコップ全権代理人が語る敗戦の裏側

今井賢一

聞き手／堀江ガンツ　撮影／黒田史夫、Josh Hedges(UFC)

—今回、新生チーム・クロコップを結成し、万全を期したはずのチーク・コンゴ戦でまさかの判定負け。UFC2連敗となってしまったわけですけど、陣営のマネージャーとして、この結果をどのように受け止めていますか?

今井 （しばしの沈黙のあと）……確かに万全は期したはずだった。しかし、その一方で、この結末を心のどこかで予期していたというか、覚悟していた部分もじつはあったんですよ。

—え!? そうなんですか?

今井 今回ボクは試合前、毎晩のように（今回、チーフトレーナーを務めた）イワン・ヒポリットと話していたんですけど、試合前のミルコの状態について報告を受ける中で、今回の試合について、まったく同じ類の「不安要素」というものを、ボクもヒポもお互いに共有していたんです。それだからなのか、ボクは試合当日の朝、ミルコがコンゴに苦戦している夢を見て、汗をびっしょりかいて目が覚めたりしてたんですよね。こんなことは、この4年間で初めてでした。

—試合直前まで、その不安は拭えなかった、と。でも、あれだけのコーチとスパーリングパートナーを集めて、ミルコ自身もしっかりと気合いを入れて練習をしたはずだったのに、なぜ"格下"であるはずのコンゴとの試合にそこまで不安があったんですか?

今井 やはり、誰に聞いても、4月21日の失神KO負けからわずか4ヵ月で、心身ともに完全復活できるような超人はいない、と言うんですよ。たとえば、いまから1年前の『PRIDE無差別級GP』で、ヴァンダレイ・シウバがミルコに壮絶なKOで負けたあと、5ヵ月後にダン・ヘンダーソンとタイトルマッチをやりましたよね。そのときボクは、たった5ヵ月じゃ、本来のシウバに戻るわけがない、と思っていたんです。ボクはK—1時代にあれだけ長いあいだ、アンディ・フグ、ピーター・アーツ、アーネスト・ホースト、ジェロム・レ・バンナ、マイク・ベルナルド、レイ・セフォーたちのそばにいましたから、ヘビー級の打撃でKO負けしたあとの、心身のダメージというものはどれほどのものなのか、メンタルの面でどれだけの後遺症が残るのか、そして次戦では、どれだけ彼らが動きに精彩を欠くかということをイヤというほど見てきましたからね。

—そして事実、シウバは精彩を欠いた動きで、ダンヘンにKO負けしてしまいましたよね。

今井 そのシウバのときは、やはり他人事と言っては失礼だけれど、完全に客観的に見ることができるわけですから。余談ですが、そのときラスベガスに行っていた何人もの友人たちがBET（勝敗に賭けること）したいと電話してきたときには、全員にメインイベントはダンヘンに賭けさせました。そんな自分が、今回は客観的な判断を徹底できなかった……。ミルコの場合はこの4年半、二人三脚でやってきた自分の分身のような存在ですからね。最も細心の注意を払って決断しなくてはいけなかった次戦の時期と、対戦相手決定の判断を誤ったのかもしれない……。たとえミルコと口ゲンカになってでも、時期と対戦相手に関して、もっともっと熟考してから決めればよかったのではないか、と。

—KO負けからわずか4ヵ月で試合を組んでしまったという決断に関してということですね?

今井 ゴンザガにKO負けしたあと、ミルコはあの性格ですから、「一日も早く試合をさせろ」って言ってきてたんですよね。それを「待て」と押さえてはいたんですけど、UFCのほうからも「ロンドンで大きな大会をやるけれど、ミルコは間に合うか?」という打診が来たんです。

—ああ、確かにロンドンでのミルコの人気は、メインを務めたランペイジやダンヘンを大きく上回ってましたよね。

今井 そういったUFC側からの打診、そしてミルコからの「英国での借りは英国で返したい」という強い希望。その中でボクは「4ヵ月かあ……」という躊躇はあったんですけど……。その躊躇を、なんとなく自分の中でも、プラスのほうにだけ舵を切って、あえて不安を打ち消すようにGOサインを出してしまったという、その責任に苛まれているというか、自分が甘かったのか、なんでもっとミルコを説得しなかったのか、自分以外にいったい誰がそれをやってやれるんだと、本当に自分を責める部分がありますね。

—そこにマネージャーとして責任を痛感している、と。

今井 試合前日に、ロブ・カーマンが教え子のブランドン・ベラ（コンゴとスパーリングをやってきたUFCヘビー級の若手のホープ）を連れてロンドンに来ていて、ボクもロブ・カーマンとはたぶん10年ぶりくらいの再会だったので、一緒にお茶を飲んだんです。当然、ミルコの試合の話になりますよね。やはり"帝王"ロブ・カーマンに聞きたくなりますから。そうしたら、ロブもブランドンも異口同音に、「ミルコが元に戻っていたら何も問題はないよ……」と。でも、この"……"があったんですよ。その後、ランペイジの打撃コーチであるクリス・ライリーと昼食をとったんです。去年の10月にラスベガスの『PRIDE』を観に行く前に、ロスの彼のジム（レジェンド・ジムといって、その頃はクリスと引退から復帰する前のランディとバス・ルッテンが共同経営していた）でミルコのミット打ちに付き合ってもらっていて、彼はそのときにミルコのミドルの蹴りで痛めたヒジがまだ治らないとか言いながら、やはり試合の話になると、「普通のミルコだったら何も心配はないけど、俺たちはランペイジがKO負けが続いて低迷したあと、彼を元に戻すのにかなり時間がかかったよ……」と。みんながみんな、表現の違いこそあれ、口を揃えて同じことを言ってましたから。



──「普通のミルコ」という但し書きつきで、ミルコが勝つ、と。

今井　そういったこともあって、ちゃんと本来のミルコに戻ってくれるだろうか、という不安は常にありました。だから、ミルコのジムにオクタゴンケージを導入して、さらにヒポを説得してコーチになってもらい、スパーリングパートナーも揃えて、新生チーム・クロコップを作りましたけど、それはボク自身の中にあった不安というか『イヤな予感』を打ち消すためでもあったんですよね。

──不安があったからこそ、マネージャーとして、できうる限りのことをしたわけですね。

今井　だから、先月の『kamipro』で特集を組んでもらいましたけど、やはり試合1ヵ月前のあの時点ということもあって、コンゴ戦について不安はあったんですけど、それは口が裂けても表には出さなかったんですよ。

──まぁ、ミルコのマイナス要素を試合前に公開するわけにはいきませんもんね。

今井　コンゴ陣営に情報が漏れないようにするためでもありました。コンゴと一緒に練習しているランペイジの彼女は日本人だし、『kamipro』も読んでたりするかもしれない。

──あ、そうなんですか（笑）。

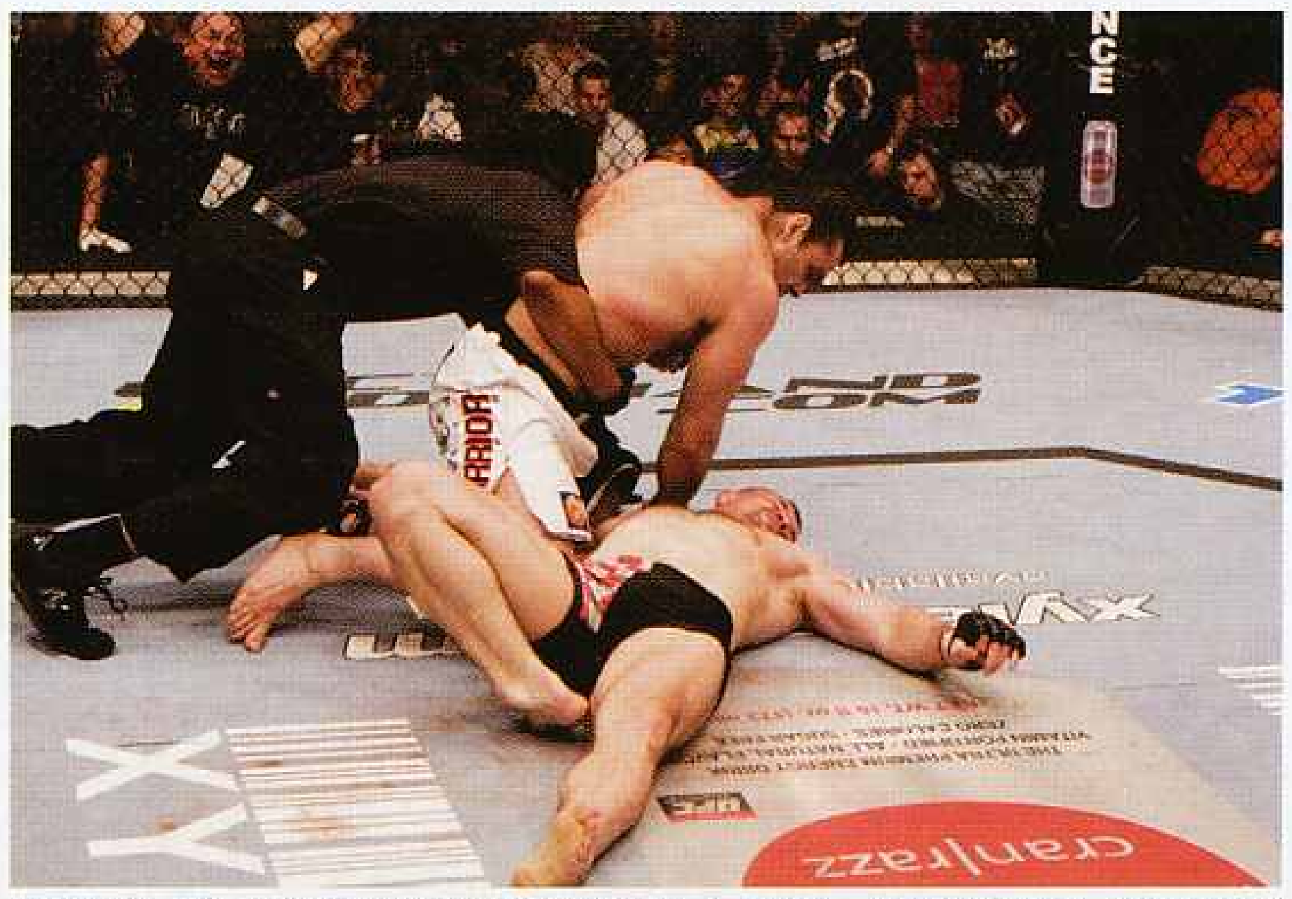
今井　その彼女が『kamipro』で読んだミルコ情報を、コンゴに知らせないとも限りませんからね。それに、ネット上でボクのインタビューは毎回誰かがご丁寧に英訳をしてくれているんですよ。ちょっと英訳がヘタだったりするんですけどね。そんな状況ではポジティブな情報、万全な体制、コンゴ側に伝わってもプレッシャーになるようなことしか、あの時点では言えなかった。『kamipro』の読者には申し訳ないんですけど……。

──そこまで考えていましたか。

今井　かなり神経質にはなりましたね。さらにあのインタビュー時点ではまだ露呈していなかったことがたくさんあって、トレーニングキャンプの中盤から後半にかけて、実際にイワン・ヒポリットから上がってくるミルコの状況報告というものは、決していいものではありませんでした。そして8月の最終週の段階で、仕上がりと呼ぶにはほど遠かったんです。

──結果的に調整がうまくいかなかったわけですか。

今井　ヒポから「ケン、どうしようか？今日もアイブルに一発もらってうずくまってしまった」なんて聞かされてね。今回のスパーはミルコのためのものですから、ミルコ一人に対して、レミー、ギルバート、ディーン・リスターに代わる代わる連続でやらせたんですよ。



『UFC70』ゴンザガ戦で衝撃のKO負けを喫したミルコ。心理的な面で、その敗戦が今回の『UFC75』コンゴ戦にどれだけの影響を及ぼしたのかは計り知れない……。

彼は王様のように、自分の家来のような道場生にかしずかれながら練習していたと言ってもいい

──いわゆる百人組手みたいな感じで。

今井　だから相手は休みながらなので仕方がないと言えばそうなのですが、スパーの最中、ミルコが明らかに押されることが続いたらしいんです。だからこのままでは、試合前の自信をつけさせなければならない時期に、逆効果になってしまう可能性があったんですよ。それでヒポが、レミーやギルバートに力をセーブさせて、ミルコに自信を取り戻させなければとなったんです。

──追い込むのではなく、力を引き出す練習にスイッチしたわけですか。

今井　でも、それをミルコに気づかれたら自信がつくどころか、逆にプライドが傷つきますから、ヒポがスパーの最中に状況を見ながら、ミルコにわからないようにオランダ語で、レミーたちの力をセーブさせたり、逆に追い込ませたりさせてたらしいんです。

──そんな状況だったんですか。

今井　だから要するに、ミルコはKO負けのあとで、本能的に肉体が守りに入って、精神的な部分で踏み込んで打つことに躊躇が出ていたんでしょう。そんな、まさに心と身体がバラバラになっている状況で、いままでとは格段にレベルの違うスパーリングパートナーが来て、それを受け止めきれなかった。これがKO負けのあとじゃなかったら、ミルコもガンガンいったんでしょうけど、あの時点でのミルコの状態では、レミーたちを相手にするだけの〝胆力〟がなかったんでしょうね。その証拠に、ミルコの体重がかなり落ちてしまっていたでしょ？

──確かに痩せてましたね。オーバーワークかな、と思ってたんですけど。

今井　それもあったんでしょうけど、やっぱり一流のスパーリングパートナーたちを受け止めるには、メンタルな部分で荷が重かったから、それが逆にストレスになってしまったんですよね。そして体重が落ちてしまった。試合前夜に計ったら、99キロちょっとしかありませんでしたから。

──ミルコが100キロを切るってなかなかないですよね？

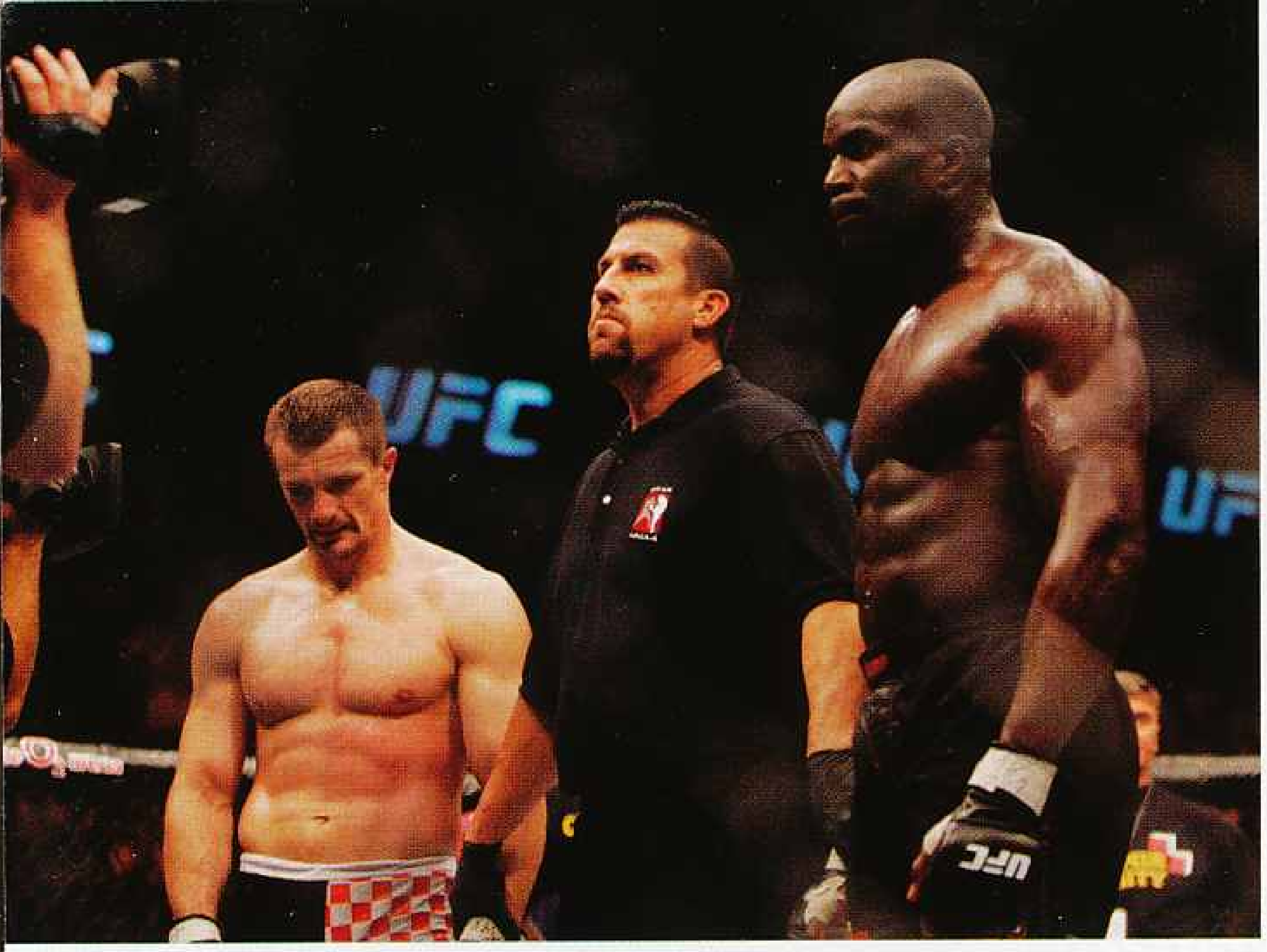
今井　04年のランデルマンにKO負けしたあとの金原弘光戦が97・8キロだから、それ以来ですね。そして試合では、踏み込むのにも躊躇があるからパンチがまったく出ない。ヒポ仕込みのコンビネーションもまったく出ませんでしたね。それが今回の敗戦の直近の原因だと思いますけど、これから先も見据えた遠因ということを考えると、クロアチアに引きこもっての練習に限界が来てるということですね。

──まぁ、今回は自宅にオクタゴンケージを導入して、最高のコーチとスパーリングパートナーを集めても、結果的には好転しなかったわけですからね。

今井　これまでミルコは、言ってみれば自分の〝城〟にみんなを招聘して、王様のように自分の家来のような道場生にかしずかれながら練習していたと言ってもいいかもしれない。やっぱり道場生は練習中もミルコに対して遠慮してしまう。そういう状況でスパーリングを続けていては、もう進歩がないのではないか……。死にもの狂いのライバルたちに追いつかれ、追い越されるだけですよね。

──少なくとも伸びしろはなかなか作りづらいですよね。

今井　これは映画の『ロッキー』シリーズなんかで描かれている典型的な現実であって、頂点に手が届いて経済的に豊か



になって、それでも若い頃のようにガンガン自分の身体をいじめ抜くというのは、なかなかできることじゃないんでしょう。あのランディ・クートゥアーだって、転落した時期があり、リングから離れていたわけですから。でも、彼が凄いのは、40歳を過ぎてから心身にムチを打ち直して、頂点に返り咲いたことですけどね。

――そこがランディのランディたる所以というか、並外れたところですよね。

今井　そのランディと試合の翌朝会ったとき「ランディ、ちょっと時間ある?」って聞いたら、非常に快くボクの話を聞いてくれたんですけど、そこで「ミルコ、どうしようかな?」って非常に抽象的な問いかけをしたんですよ。英語で言うと「What shoud I do with Mirko?」と言ったんですけど、その中にはいろんな意味が含まれているんですよ。

――要するに、これからどう復活させるかということだけではなく、進退問題までも暗示した意味で話したわけですね。

今井　そのとおり。それをランディも同じ言語を話す人間として、すぐに察知したんです。自分が通ってきた道でもあるし。そしたら彼は開口一番「それはもうミルコ次第だ」と。「周りが何を言っても本人が決めることだ」と言うわけですよ。そして具体的なトレーニングのアドバイスは、ミルコ本人から聞かれたわけではないから彼も控えめだったんですけど、「とにかくトレーニング環境を変えたほうがいい」から始まって、「俺はいま、新しい技術なんかを習ったりしたときは、実際にその技で相手を封じ込められるかどうかを試すことが楽しくてしょうがない」「朝、起きてトレーニングやスパーリングに行くことが少しでも億劫になったり、つらくなったりしたらそれが大きなサインだね。自分も経験しているから」「とくに、ストライカーのミルコなら、まずオクタゴンの中で相手を効果的に追い詰めるためのライン取りを頭に入れないといけない。それがまったくわかっていないようだね。3試合目でもまったくできていなかった」などなど。

――つまり、いままでと同じことをやっていてはダメだ、と。

今井　そしてヒポも同じ考えなんです。試合後に話したとき、彼が言うには「本当にミルコがこれからも自分の指導を受けるなら、しばらくは100パーセント俺のやり方でやらせてくれないと、ミルコのためによくない」「俺が課したことはすべて『押忍!』と言ってやらなければ、自分の指導を受けたことにならない」と。

――鬼コーチをパートタイムで雇っても最大の効果は得られない、ということですね。

「次は頑張るよ」なんて軽々しい電話はほしくない
2～3週間連絡がつかないくらい悩んでほしい

今井　オランダのキック界というのは、もともとルーツは極真にあるわけですから。ヒポの師匠であるヨハン・ボスだって、黒崎健時先生の弟子ですからね。そういった厳しい指導のもとで、名選手を育ててきた土壌がオランダにはあるんです。ところが、ミルコはコーチの言うことに対して100パーセント「押忍!」と言ってやるなんてことは、ブランコ・シカティックのところにいた新人時代はあったかもしれないけど、そのときもヤツは反発して出て行ってしまった。それ以来、完全なトレーナーや師匠というのはいないままここまで来たんですよ。

――そんな環境で、あそこまで強くなるミルコも凄いですけどね。

今井　でも、それももはや限界でしょう。試合であれだけパンチが出ないんだから。自慢のハイキックだって、パンチでセットアップして、追い込んで蹴るならまだしも、単発で出したところでよけられるに決まっている。あらゆる面で、自分を立て直し、さらにレベルアップするには、クロアチアに引きこもって、自分の城にコーチを呼んでやるんじゃなくて、オランダに行くか、アメリカに行くか、しばらくは外で自分を追い込んで、少し心身ともにたくましくしないと、ここから先の進歩は期待できないでしょう。

――周りはどんどんレベルアップしてきてますもんね。

今井　得られるファイトマネーがこれだけ大きくなってきたわけですから、優秀なアスリートがどんどんMMAというスポーツを選ぶようになるだろうし、一発当ててやろうというファイターが死にもの狂いでやってきてるわけですからね。いままでのやり方じゃダメでしょう。そしてミルコ自身が、もう一回自分をそこまで追い込むつもりがないのであれば、彼がここでグローブを置くという選択をしたとしても、ボクはそれをそのまま受け入れるつもりです。「ミルコ、おまえはよくやったよ。ご苦労さま」って。

――う～ん、ここであきらめるのは、もったいないですけどね。

今井　ランディなんかも「それは早すぎるだろう」と言ってますけどね。「絶対にあとで後悔する」って。

――44歳のランディに対して、ミルコはまだ32歳ですもんね。

今井　いや、今日33歳になったんですよ。

――あ、そういえばそうですね。9月10日。『PRIDE無差別級GP』で優勝してから、ちょうど1年ですか。

今井　あのときは、4万人以上のファンに誕生日を祝ってもらいましたけど、今年は「ハッピーバースデー」なんて、言われたくもないんじゃないかな。まさに、この1年で天国から地獄に突き落とされました。ここからミルコが這い上がってくるのか、それともここで気持ちが切れてしまうのか。ミルコの格闘家としての人生で最大の試練ですね。いままで乗り越えてきた試練とは比較にならないほど大きな試練が目の前に立ちはだかっています。安易な決断はできないでしょう。軽々しく、「次は頑張るよ」なんてボクに電話をしてきてほしくない。2～3週間連絡がつかないくらい悩んでほしい。立ち上がるのは彼自身であって、ボクが代わりにやってやれるわけはないですからね。とにかく悔いが残らないように、悩みに悩み抜いたうえで決断をしてほしいですね。

【07年9月10日／電話取材にて収録】







UFCの頂点に立つ44歳の鉄人
“ミルコ・キラー”を倒し
“皇帝”との対戦をアピール!

ランディ・クートゥアー

UFC HEAVY WEIGHT CHAMPION

「世界中のオヤジ連中の夢を背負ってヒョードルと闘いたいね」

聞き手・撮影／石井史彦　構成／堀江ガンツ　試合写真／Josh Hedges (UFC)

NDY
TURE

いやはや、凄いオヤジがいたもんだ。〝UFCの鉄人〟ランディ・クートゥアーが、8・25『UFC74』でガブリエル・〝ナパオン〟・ゴンザガを3ラウンドTKOで破り、見事UFCヘビー級王座防衛に成功した。


4・21『UFC70』で、あのミルコ・クロコップを失神KOで破り、勢いに乗る28歳のゴンザガに対し、ランディのほうは一度は引退も経験した44歳の老兵。戦前のラスベガス、スポーツブックのオッズでは「ゴンザガ有利」となっていたように、下馬評では若いゴンザガがランディに引導を渡すという予想が大半を占めていた。

しかし、実際の試合では予想を大きく覆し、ランディの完勝。

1ラウンドからランディはスタンドのパンチで主導権を握り、さらにUFCでの闘いを知りつくした抜群のインサイドワークで、常に自分の距離を保ち、小さい打撃を入れ続ける。これによって、ゴンザガはトレードマークの大きな鼻から出血。2ラウンドからは肩で息をするようになっていた。

それに対し、ランディはラウンドを重ねてもスタミナ充分。そして3ラウンド、動きの悪くなったゴンザガの巨体を大きく持ち上げてテイクダウン。そしてパウンドの雨を降らせて、TKO勝ちを奪った。その瞬間、超満員のマンダレイベイの観客はスタンディング・オベーション。44歳の王者を会場全体が祝福した。

それにしても、凄まじいオヤジだ。一口に44歳というが、日本のレジェンドである桜庭和志や船木誠勝がともに38歳だから、彼らより6つも上なのだ。そして髙田延彦とは1歳違い、前田日明とも4歳違



RAN
COUT

いであり、世代的にはＵＷＦ第一次世代と同年代なのである。そんな〝オヤジ〟が、ＵＦＣの頂点に立っているのだから、その鉄人ぶりと、たゆまぬ鍛錬には頭が下がる。そんな偉大なる〝中年の星〟を、王座防衛後に直撃。さらなる高みを求める王者は、なんと〝皇帝〟エメリヤーエンコ・ヒョードルの名前を口にした！

―見事なＴＫＯ勝ちでのＵＦＣヘビー級王座防衛、おめでとうございます！

ランディ　ありがとう（ニッコリ）。

―挑戦者ガブリエル・ゴンザガの印象はいかがでしたか？

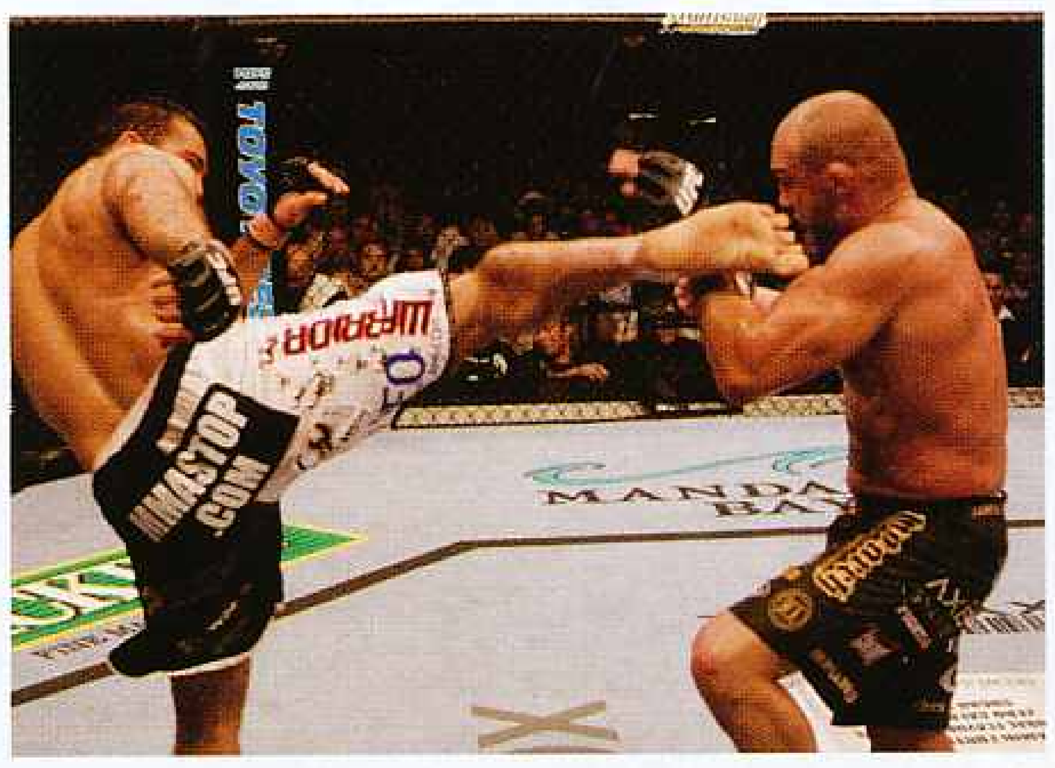
ランディ　ガブリエルはタフな相手だったよ。パンチも重たかったし、キックもいいものを持っている。さすがミルコ・クロコップを倒して挑戦権を奪っただけのことはあるファイターだよ。とくに弱点はなかったし、とにかく大きくて強い相手だったね。

―実際、試合前のオッズではゴンザガが有利だと思われていましたよね。

ランディ　私は44歳だ。だから、今回のような若くて強い選手を相手にしたとき、みんなから期待してもらえずにいることはわかる。だが、じつは期待されることのほうこそつらいんだ。勝たなきゃいけないというプレッシャーも大きい。でも期待されないほうは、そのプレッシャーを感じることなく、勝つために必要なことをやるのに専念できたりするんだ。

―では王者なのに、むしろのびのびと闘えた、と。

ランディ　そうだね。それに加えて私は頑固な男だからね。「おまえは勝てない」と言われたら、「なにくそ！」と思って、そいつらが間違っていることを証明して



RANDY COUTURE

[8.25 UFC74 -RESPECT-]
米国ネバダ州ラスベガス マンダレイベイ・イベントセンター

○ランディ・クートゥアーvsガブリエル・ゴンザガ×
(3R 1分17秒、TKO)

スタンドでの距離の取り方、密着しての打撃、そしてテイクダウンしてからのコントロールなど、すべての局面での闘い方が抜群だったランディ。ミルコをKOしたゴンザガのハイキックもすべてガードし、最後はパウンドの雨を降らせてTKO勝ちを奪った。



シウバだけでなく、マリオ・スペーヒーも試合前のキャンプに参加してくれたんだ

やろうと意地になるんだ（笑）。

―オッズがモチベーションにもつながりましたか（笑）。では、その強敵に勝てた勝因はなんだったと思いますか？

ランディ　ガブリエルのハイキックをブロックできたこと。そして何より、常にスタンドでプレッシャーをかけて、クリンチとパンチのコンビネーションを成功させたことだね。

―確かに、接近戦での打撃は素晴らしかったですね。それはゲームプランどおりだったんですか？

ランディ　そうだね。作戦どおりのことを完璧にできたよ。ただ、5分5ラウンドを闘う上で大事なのはコンディショニングと集中力なんだ。勝因は、その差だよ。そしてレスリングで勝てたことも大きかったね。

―たびたび、ゴンザガをテイクダウンし、コントロールしていましたよね。今回は、試合前に何か特別なトレーニングは積んできましたか？

ランディ　もちろんだよ。ＵＦＣに上がってくる選手はみんな強敵なんだ。とくにタイトル戦に絡んでくるような選手はね。だから私は誰が相手でも、その試合のための特別なトレーニングメニューを必ず組むようにしているんだ。今回は、ジェイ・ワイというガブリエルぐらいの体格を持つ、大きなグラップラーをスパーリングパートナーとして用意して、トレーニング・キャンプを張ったんだ。彼は仮想ガブリエルに最適な男だった。だからこそ、私は作戦どおりに闘えたんだ。

―ヴァンダレイ・シウバとも一緒にトレーニングをしたそうですが？

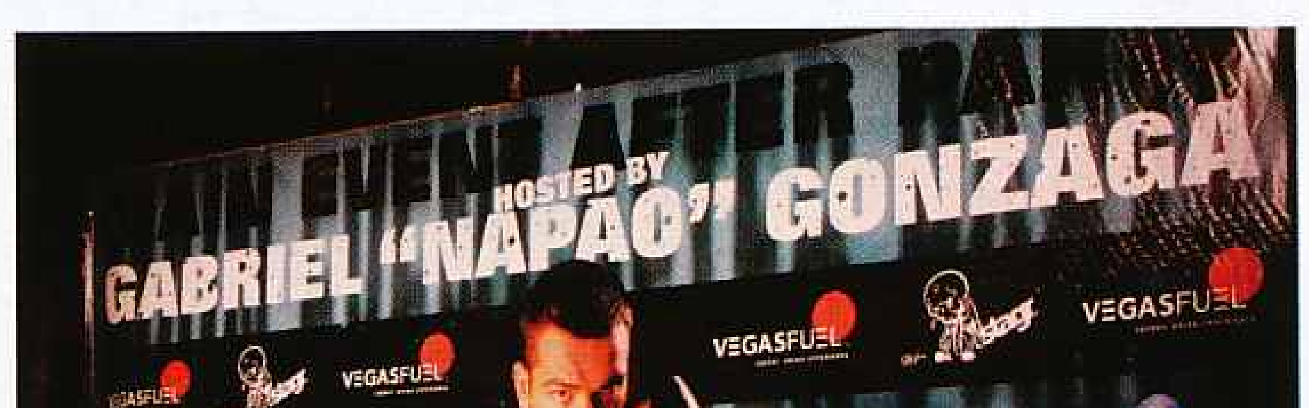
ランディ　彼は試合の2週間前にジムに来たんだ。でも試合の2週間前というのは、まったく初めての練習相手とトレーニングを始めるのには短すぎる。だからヴァンダレイとは、ほんの少しだけ一緒に練習したけど、試合に備えて特別なトレーニングはできなかった。ただ彼とはいい関係を築けたし、これから将来のことを考えると意義のある時間を過ごせたよ。今後、フロリダにあるクートゥアー・ジムでコーチとして活躍してくれればと思っているよ。

―ランディさんのフロリダのジムでコーチをするんですか？

ランディ　彼は自分のジムを持つプランを持っているが、私のジムでのコーチとして協力してもらえたらと思っている。12月にチャック・リデルと闘うことになるかもしれない彼が、そこでＵＦＣという新しいステージで闘うのに必要なものを身につけてくれるといいね。

―ほかには、誰と一緒にトレーニングをしたんですか？

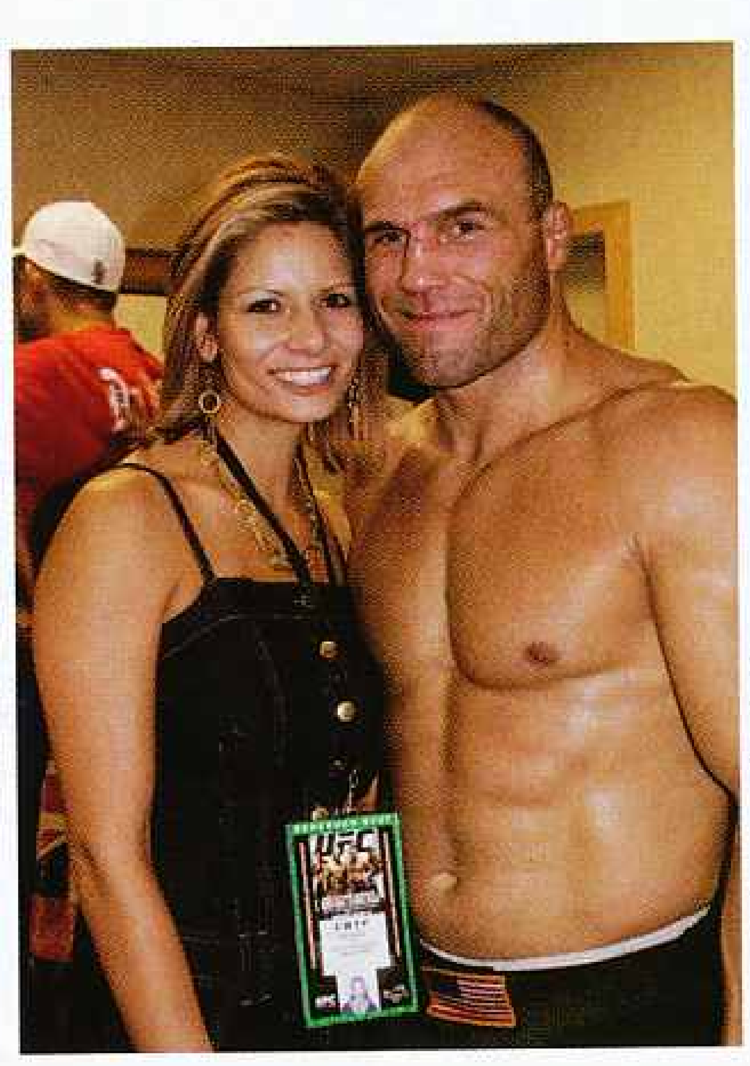
ランディ　さっき言ったジェイ・ワイと



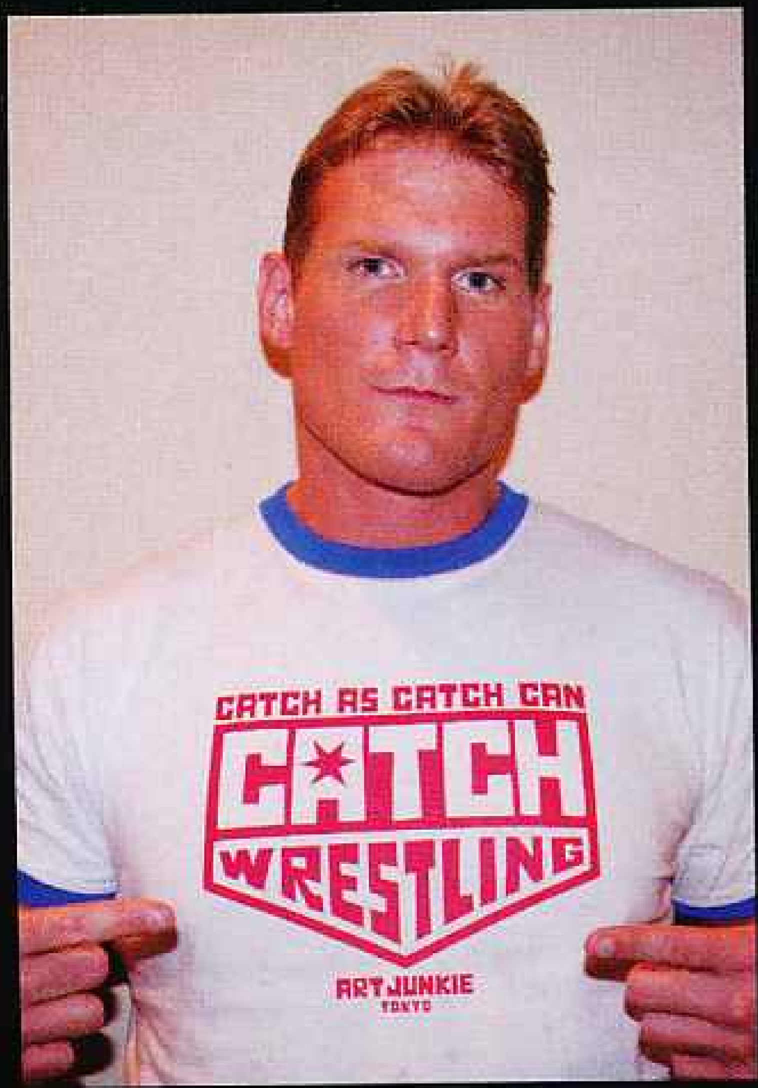
会場となっていたラスベガスのマンダレイベイホテルには、ガブリエル・ゴンザガがホスト役を務める「メインイベント・アフターパーティ」の巨大な告知が！　周囲も本人もタイトルマッチの勝利を確信していたことがわかる。

ロジャー・フェルタ、いつものジムのメンバー。それからマリオ・スペーヒーがキャンプに来てくれたね。
——ブラジリアン・トップチームを離れて、アメリカに移住を計画しているマリオがですか！
ランディ　ああ、彼は独特のテクニックを教えてくれたんだ。非常に参考になったよ。彼とも今後、友好関係を築けていけたらと思っている。
——ところで、ダナ・ホワイトはヒョードルをUFCに参戦させるべく動いていますが、その件についてはどう考えていますか？
ランディ　この会場にいるファイターはみんな〝最強の男〟と最高の試合をしたいと考えている。そして、彼らが世界最強だと考えているのは、やはりPRIDEヘビー級王者、エメリヤーエンコ・ヒョードルなんだ。
——では、やはりヒョードル戦は望むところだと。
ランディ　もちろんだね。彼とチャンピオン同士の試合を行なうことは、私にとっても、世界中のファンにとっても素晴らしいことだと思うよ。
——ファンも、その一戦を楽しみにしています。
ランディ　そして、さっきも言ったけど、私は44歳の選手。世の中のオヤジ連中の希望を背負って闘っていきたいね。私の闘う姿を観て、みんなが何かを感じてくれたら、嬉しい限りだよ。
——中年の星であり続ける、と（笑）。
ランディ　そうだね。多くの人が私をリスペクトしてくれていることを感謝しているんだ。だから、若くて強いヒョードルと闘って、その気持ちに応えないとね（笑）。
——では、世界統一戦の実現に期待しています！
ランディ　それは、ダナ（・ホワイト）に言ってくれよ（ニッコリ）。私はいつでもOKさ！

【07年8月25日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】



Randy Couture
1963年6月22日、米国ワシントン州出身。97年UFCデビューし、ライトヘビー級とヘビー級の二階級を制覇した唯一の選手となる。昨年4月のチャック・リデル戦後に引退を表明。今年3月、一年ぶりとなる現役復帰戦でヘビー級王座に返り咲いた。188cm、100kg。



8.15『UFC74』大会後
“真のUFC王者”が吠える！

JOSH BARNETT
ジョシュ・バーネット

「ボクに勝たない限りランディは本当のUFC王者じゃないよ」

聞き手／石井史彦

8・25『UFC74』ラスベガス大会の会場にジョシュ・バーネット現わる！
これは最近一緒に練習しているレナート・〝ババル〟・ソブラルのセコンドとして来場であったが、UFCおよびダナ・ホワイトとは以前から〝因縁〟があり、その去就が注目されているジョシュだけに、じつに興味深い。
本誌は『UFC74』のメインイベント終了後にジョシュを直撃。ジョシュはランディvsゴンザガをどう見たのか？　そして気になるUFCとの今後の関係は？

——今日のメインイベント（ランディ・クートゥアーvsガブリエル・ゴンザガ）はどうでしたか？
ジョシュ　いい試合だった。ランディのパフォーマンスは悪くなかった。でも、あれはUFCヘビー級チャンピオンシップじゃない。
——と、いうと？
ジョシュ　〝本当のベルト〟はボクが持っているからね。
——ああ、2002年3月の『UFC36』でランディを破って、UFCヘビー級のベルトを奪取したんですよね。
ジョシュ　そのあと、ヤツらにうまく巻き上げられてしまったけどね（※試合後の薬物検査でジョシュに陽性反応が出たため王座剥奪。ジョシュは薬物使用を否定したが認められなかった）。だから、ボクには彼らがなんのために闘っているのか、よく理解できないな……。ひたすら〝ナンバー2〟を競っているんだからね。
——ジョシュ選手自身はUFCでの試合に興味はありますか？
ジョシュ　モチロンさ。いますぐとは言わないけど、興味はあるよ。でも、彼らはボクをUFCのオクタゴンに入れることを怖れている。第一の理由は、ボクは彼らにとってコントロールしやすい人間じゃないから。次に、ボクはほかのファイターたちを全員倒してしまうからね。
——多くの選手が『PRIDE』からUFCに移ってきていますが、この状況をどう思いますか？
ジョシュ　UFCのビジネスにとってはいいことだろうね（皮肉っぽく）。でも、もし彼らが本当に一番強いヤツを決めたいなら、ボクとヒョードルを呼ばないとね。ボクたちが参戦したら、これまでのUFCヘビー級戦線なんてものはなくなるよ（笑）。
——では、最後に、日本のファンにメッセージをお願いします。
ジョシュ　ボクは去年のようにたくさん試合ができない。それにUFCともまだ契約していない。（突然、日本語で）♪でも、そんなの関係ねぇ！
——アハハハハ！　なんで、もう小島よしおのギャグまで知ってるんですか！（笑）。確かにほかのPRIDEファイターたちがUFCや他団体に参戦を決めていく中、ジョシュさんはまだ……。
ジョシュ　（さえぎって）♪でも、そんなの関係ねぇ！
——わかりましたから！
ジョシュ　ほかの選手はどうでもいいよ。ボクは特別なファイターだからね！　いまは自分についてきてくれている下の選手をトレーニングしているし、IGFでプロレスの試合もある。MMAの試合をするチャンスもすぐにくるだろうから、日本のファンも期待していてよ。
——わかりました！　では、その日を楽しみにしています！

【07年8月25日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】

UFCヘビー級トップファイターが語る“PRIDEファイターのUFC侵攻”

“The Truth”
BRANDON VERA
ブランドン・ベラ

「俺はミルコより寝技がノゲイラより打撃がうまいよ（笑）」

聞き手・撮影／石井史彦　構成／堀江ガンツ



1977年10月10日、米国・バージニア州出身。フィリピン系アメリカ人。バージニア州大学と米国空軍でレスリングで活躍。右ヒジじん帯のケガで空軍除隊後、柔術を学びMMAに転向。02年にデビュー後、05年から本格的に試合に出場するようになり、現在MMA 8 戦全勝。元UFCヘビー級王者フランク・ミアにもTKO勝ちしており、今後が期待される。MMA戦績 8 勝 0 敗。188cm、102kg。

UFCヘビー級の“秘密兵器”とも言えるのが、このブランドン・ベラだ。ここ1年、UFCとの契約が途切れていたが、MMA8戦全勝の実力は本物。“キックの帝王”ロブ・カーマンが打撃コーチについており、打撃スキルも高い。この男の復帰は、ヘビー級戦線に嵐を呼ぶ！

――10・20『UFC77』シンシナティ大会で1年ぶりの復帰戦が決まりましたけど、なぜこれほど長いブランクが空いてしまったんですか？

ベラ　俺自身はずっとカムバックしたいと思っていたんだけど、俺の前のマネージャーとトラブルがあって、試合をすることができなかったんだ。だからほかのヘビー級ファイターが活躍している姿を、指をくわえて観ているハメになったのさ。

――そのマネージャーのせいかもしれませんが、『PRIDE』と契約を結んだというウワサもありましたよね。

ベラ　それはただのウワサだよ（笑）。これまでもいろんな“ウワサ”はあった。その中でも最も笑えたのは「（その噂を聞いた時点の）2週間後に『PRIDE』でビクトー・ベウフォートと闘う」ってやつだよ。まったく聞いてないって！　そんな話は。「悪くないね」とは思ったけどさ（笑）。

――『PRIDE』から参戦してきたミルコやノゲイラの試合は観ましたか？

ベラ　オフコース。彼らの試合は、UFCだけでなく、『PRIDE』のときから欠かさず観ているよ。ただ戦場を変えてオクタゴンで闘う彼らはちょっとナーバスに見えたね。もっとも初めてUFCで闘う選手はいつもの実力を出せないものだけどね。

――そういうものですか。

ベラ　みんな人間だということだよ。緊張もするし、常に実力を出せるものでもないよ。ただ、彼らは世界のトップ5、いやトップ3の実力者だろう。これからタイトル戦に絡んでくるのは間違いないね。

――では客観的に見て、ミルコやノゲイラに比べて自分はどういう点でアドバンテージを持っていると思いますか？

ベラ　う〜ん、ノゲイラよりも打撃は強くて、ミルコよりもグラウンドができるってことかな（笑）。

――大雑把な比較ですね（笑）。

ベラ　二人とも、寝技か打撃のエキスパートだからね。とはいえ、ノゲイラが寝技だけじゃなくて、打撃も素晴らしいのはわかっているよ。彼はキューバのボクシング・オリンピックチームと練習しているぐらいだから。でも、キックに関してはオレのほうが上だと思うんだ。だから突破口はあると思う。

――ところで、『PRIDE』とUFCではルールが違いますよね。

ベラ　そうだね。ミルコもノゲイラもまだ新しいルールに対応できていない。エルボーやグラウンドでのキックという部分で違うし、ポジショニングから変えないといけないんだから、かなり大変だと思うよ。それに1ラウンドの時間も違うわけだから、試合のペースも変えないといけないしね。だから、まったく違う競技を始めるようなものだよ。

――では、たとえばエメリヤーエンコ・ヒョードルがUFCに参戦した場合もルールに慣れるのには時間がかかると思いますか？

ベラ　それは正直わからないな。まず彼のUFC第一戦を観ないとね。ただ、彼は一般的に言われているように、世界最強のファイターであることに異論はないよ。とてつもなく強い男だ。そんな彼の地位を脅かすのが俺だといいんだけどね。

――ところで、『PRIDE』以外ではブロック・レスナーもUFC参戦を希望していますが？

ベラ　愚かなヤツだよ（バッサリと）。ハッキリ言って、プロレスの世界に戻ったほうがいいんじゃないか？　彼は確かに大きくて力の強いファイターだから、1試合か2試合なら勝つかもしれない。でもそのあとの保障はないね。WWEにしがみついていたほうがいいと思うよ（笑）。

――では、あなた自身の話に戻りますが、UFCへの復帰戦がティム・シルビアに……。

ベラ　（さえぎって）いきなり、前ヘビー級チャンピオンだよ（笑）。

――それについては、どう感じていますか？

ベラ　これまでにないぐらいハードな試合になるだろうね。相手はベルトを失なって、怒り狂っているジャイアントだろう。一番、闘いたくない相手だよね。オレとしては、エキサイトしているけど、正直なところ、同時にちょっとビビってるよ。

――どういうゲームプランになりそうですか？

ベラ　ランディが彼からベルトを奪った試合を観ただろう？　それを完全にコピーするよ（笑）。パンチにいくのか、タックルにいくのかわからないようにフェイントをかけて闘うのさ。あれでシルビアはペースがつかめなかったわけだからね。

――なるほど（笑）。

ベラ　シルビアに勝てば、ヘビー級のタイトルも見えてくる。そしてヘビー級チャンピオンになれたら、その後はライトヘビー級に落として、二つ目のタイトルを狙うという目標もまだ持っているんだ。

――二階級制覇ですか！

ベラ　それはUFCに来たときから言っていることで、それは変わってないよ。UFCとは6試合契約を結んでいるんだ。だから、その目標を達成するのにはちょうどいい。必ず達成するよ！

【07年8月25日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】

UFCヘビー級トップファイターが語る
“PRIDEファイター”のUFC侵攻



“The Pitbull”

ANDREI ARLOVSKI
アンドレイ・アルロフスキー

「ヒョードルがUFCに来たら俺が真っ先に闘ってやる」

聞き手・撮影／石井史彦　構成／堀江ガンツ

1979年2月4日、ベラルーシ・ミンスク出身。サンボとキックボクシングを経験後、99年にロシアの『M-1』でMMAデビュー。ローマン・ゼンツォフを倒し欧州トーナメントに優勝後、2000年よりUFCに参戦。05年『UFC51』でティム・シルビアをアキレス腱固めで破り、UFCヘビー級王者となるも、『UFC59』でリマッチに敗れ王座転落。現在はマーシオ・ベジバーノ、ファブリシオ・ヴェウドゥムと柔術の大物を破り2連勝中。MMA戦績11勝5敗。191cm、109kg。

ミルコ、ノゲイラらPRIDEトップファイターが参戦してくる前、ティム・シルビアとともに、UFCヘビー級の二枚看板だったのが、このアルロフスキーだ。旧ソ連圏のファイターらしく、高いボクシングスキルとサンボの技術を持ち、身体的にも恵まれたこの男が、ミルコ、ノゲイラの前に立ちはだかるか？

——4月のファブリシオ・ヴェウドゥム戦の感想からうかがえますか？

アルロフスキー　試合結果には満足しているさ。スタッフとトレーナーたちと練り上げたゲームプランを完遂して勝つことができたからな。KOや一本で勝つことはできなかったけど、確かに俺が勝ったと思っている。感情的にならずにゲームを進められたんだ。

——しかし、ファンの中には「いつもに比べてあの試合は消極的だった」と見る人も多いようですが。

アルロフスキー　ファブリシオは柔術の強い、タフなファイターだろ。だからグラップリングマッチのような展開にはしたくなかった。とくにこれからのタイトル挑戦権を考えると、やはり慎重にならざるを得なかったのさ。

——あくまで勝負に徹した、と。ファブリシオ以外にも、ミルコ・クロコップやアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラら『PRIDE』のトップファイターがUFCに続々と参戦していますが、その状況をどう見ていますか？

アルロフスキー　UFCがPRIDEファイターたちを連れてきたことはいいことだね。おかげでいまのヘビー級戦線はこれまでになく充実している。ライバルは増えたが、俺はファイター。強いヤツと闘うためにここにいるんだから。

——では、ノゲイラやミルコの実力をどう見ていますか？

アルロフスキー　彼らが『PRIDE』でトップを張っていたことはわかっているし、それがどんなに大変なことかもわかっている。彼らがUFCでどれだけ実力を発揮できるかはじきに明らかになるだろう。楽しみだよ。

——もし、彼らと闘うとしたらどういうゲームになると思いますか？

アルロフスキー　もし闘うことができれば、俺にとって、自分自身のレベルを知る上でいいテストになるだろうね。クロコップは素晴らしいストライカーだが、俺も打撃には自信がある。激しい打撃戦を見せたいね。また、もしノゲイラと闘うことになれば、グラウンドの展開に引き込まれても対応できるように練習を重ねるし、俺はもともとサンビストだから互角に渡り合う自信もある。

——では、彼らよりも上回っているというのはどういう部分ですか？

アルロフスキー　たぶん、俺自身のキャラクターと知名度だろうな（笑）。それは別として、勝利に対する執着心は負けないね。

——ミルコやノゲイラはUFCで苦戦しているイメージがありますが、それはルールの違いによるものだと思いますか？　それともあれが本来の実力なのでしょうか？

アルロフスキー　彼らほどの実力があれば、オクタゴンにも適応できると思うな。ルールによる問題はないはずだ。

——では、オクタゴンで闘うことは、PRIDEファイターにとって、たいして不利なことではない、と？

アルロフスキー　そうだな。彼らのスキルからすれば、多少のルールの違いは、大きな影響を与えないね。パンチやキックはオクタゴンだろうが、リングだろうがその威力は変わらないだろう。つまりミルコが負けたのであれば、それは彼のそのときの実力ということだ。だが、今後、どうなるかはわからないね。敗戦から再び這い上がってくるのか、それとも沈むのか。それもミルコ自身の実力次第だね。

——PRIDEヘビー級王者、エメリヤーエンコ・ヒョードルが多くの人から「最強」だと呼ばれていることについてはどう思いますか？

アルロフスキー　彼が一度も叩きのめされたことのない選手なのは確かだ。そして現在、最強の称号を手にしていることに異論はない。だけど、時間は流れるもので、次の試合で彼が必ず勝つとは限らない。ヒョードルがもしUFCに参戦してきたら、俺が真っ先に闘いたいね。俺がUFCヘビー級の王者でいたころ、彼と闘うことを希望したんだが、そのときは実現しなかった。いまなら可能性はあるだろう。

——ところで、話は変わりますが、元WWEのブロック・レスナーのUFC参戦が噂されていますよね。

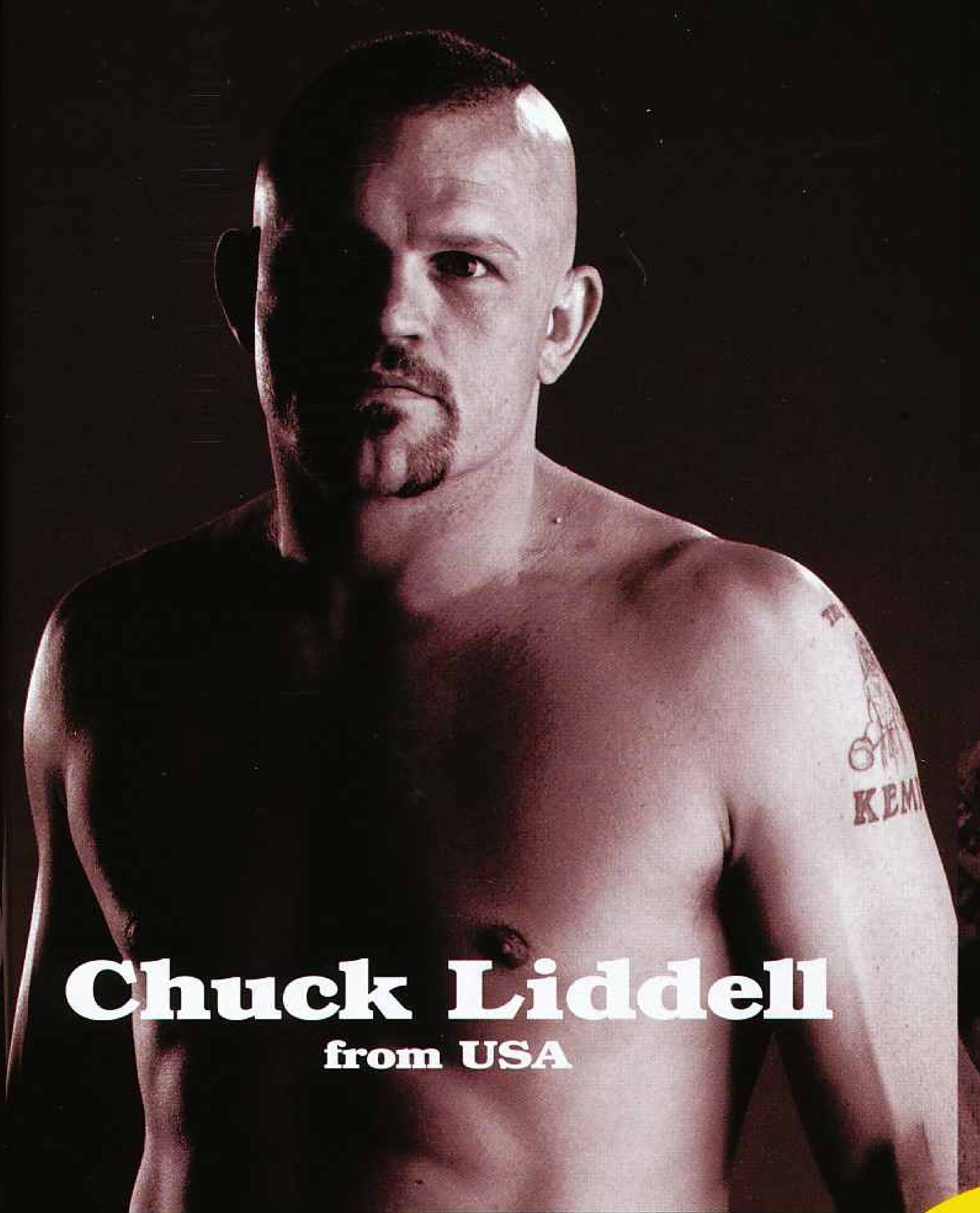
アルロフスキー　彼のような有名な人間がUFCに参戦するのはいいことだよ。UFC以外にもストライクフォース、IFLなどがあるが、ベストファイターが集まるのは一つだけ。このリングだ。だが、正直言って、彼の実力はたいしたものじゃないとは思うけどな。挑戦するのは、彼の自由だけどね（笑）。

——では、アルロフスキー選手の話に戻りますが、いまのゴールは？

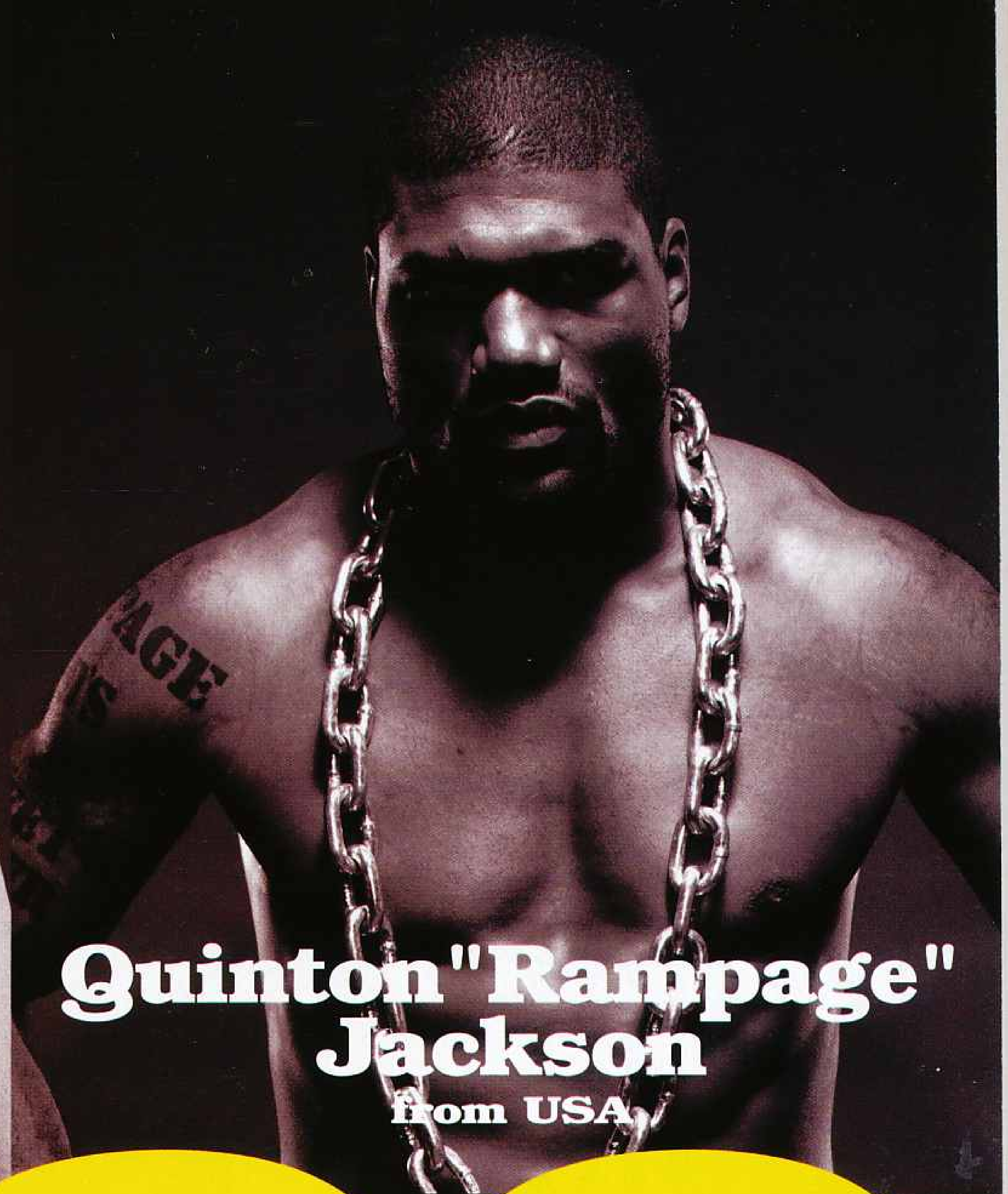
アルロフスキー　もちろん、もう一度チャンピオンになりたい。王座から滑り落ちて以来、喪失感に包まれたまま、立ち直れていないんだ。それには、やはりもう一度、ベルトを巻くしかないね。いまはUFCからの次の試合のオファーを待っているんだ。ダナは「今年中には」と言っているけどね。12月になるんじゃないかな。

——タイトル戦が実現することを期待しています！

【07年8月25日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】



Chuck Liddell
from USA



Quinton"Rampage" Jackson
from USA

区!!

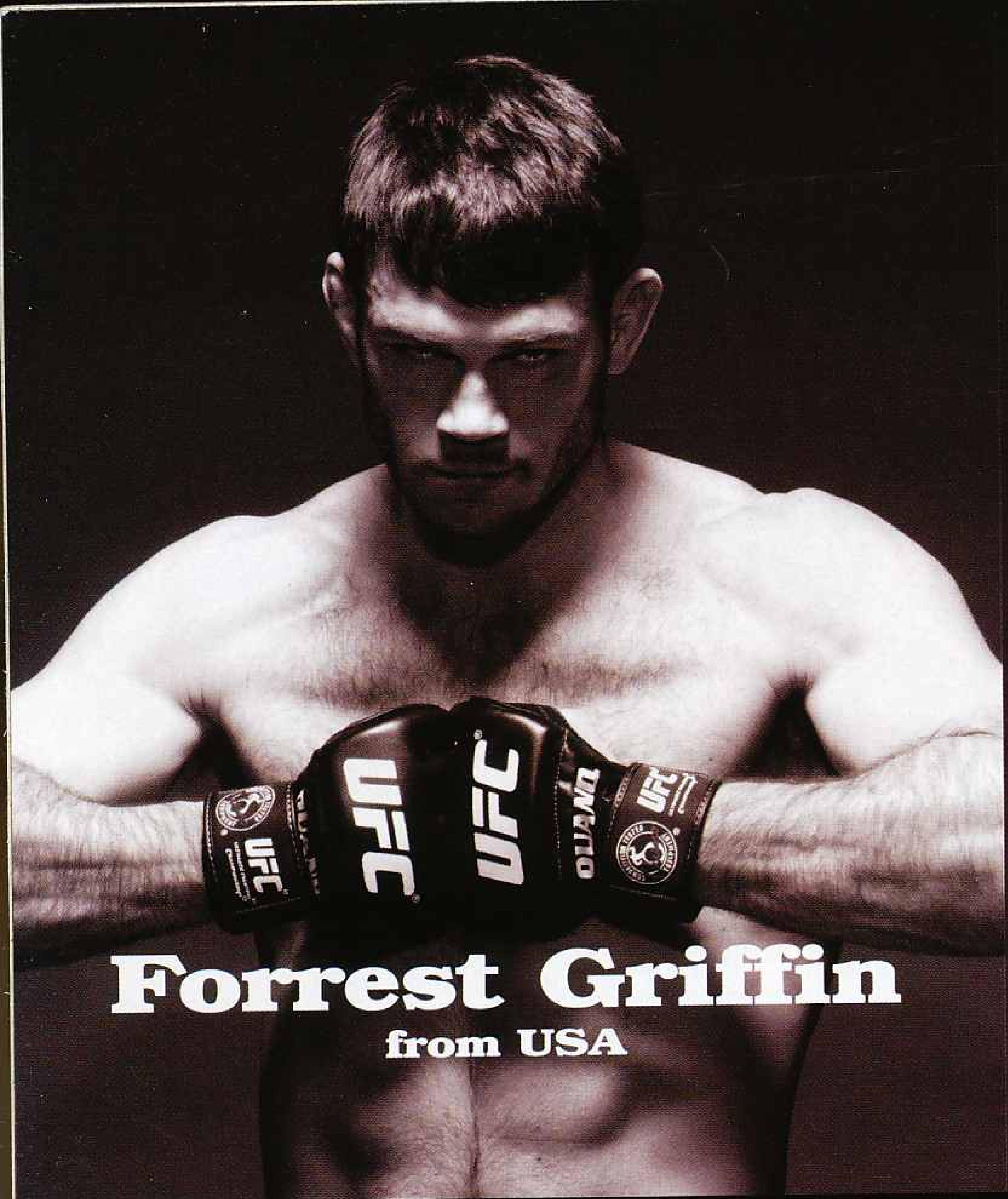
-93 kg LIGHT HEAVY WEIGHT FIGHTERS in UFC

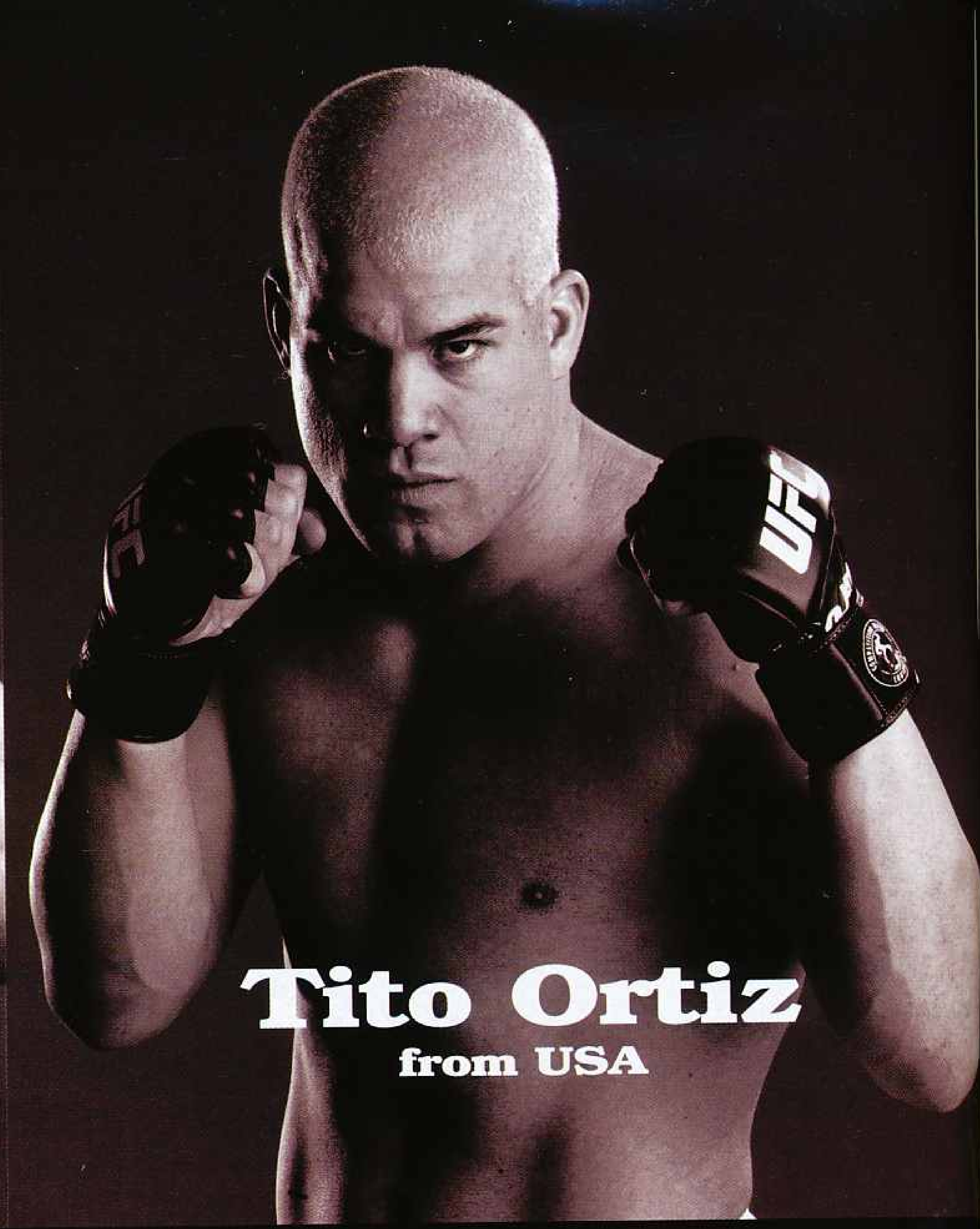
人類史上、いや宇宙史上でも最激戦区!
それがUFCライトヘビー級戦線。
ジャクソンの王座を狙うリデルにシウバ、ショーグン、
ダンヘンらの元『PRIDE』3強が肉迫。
さらに“新鋭”グリフィン、
“ベテラン”ティトという布陣は鉄壁。
究極のデッドレースを抜け出すのは誰だ?

撮影/Josh Hedges(UFC)、Marcelo Alonso

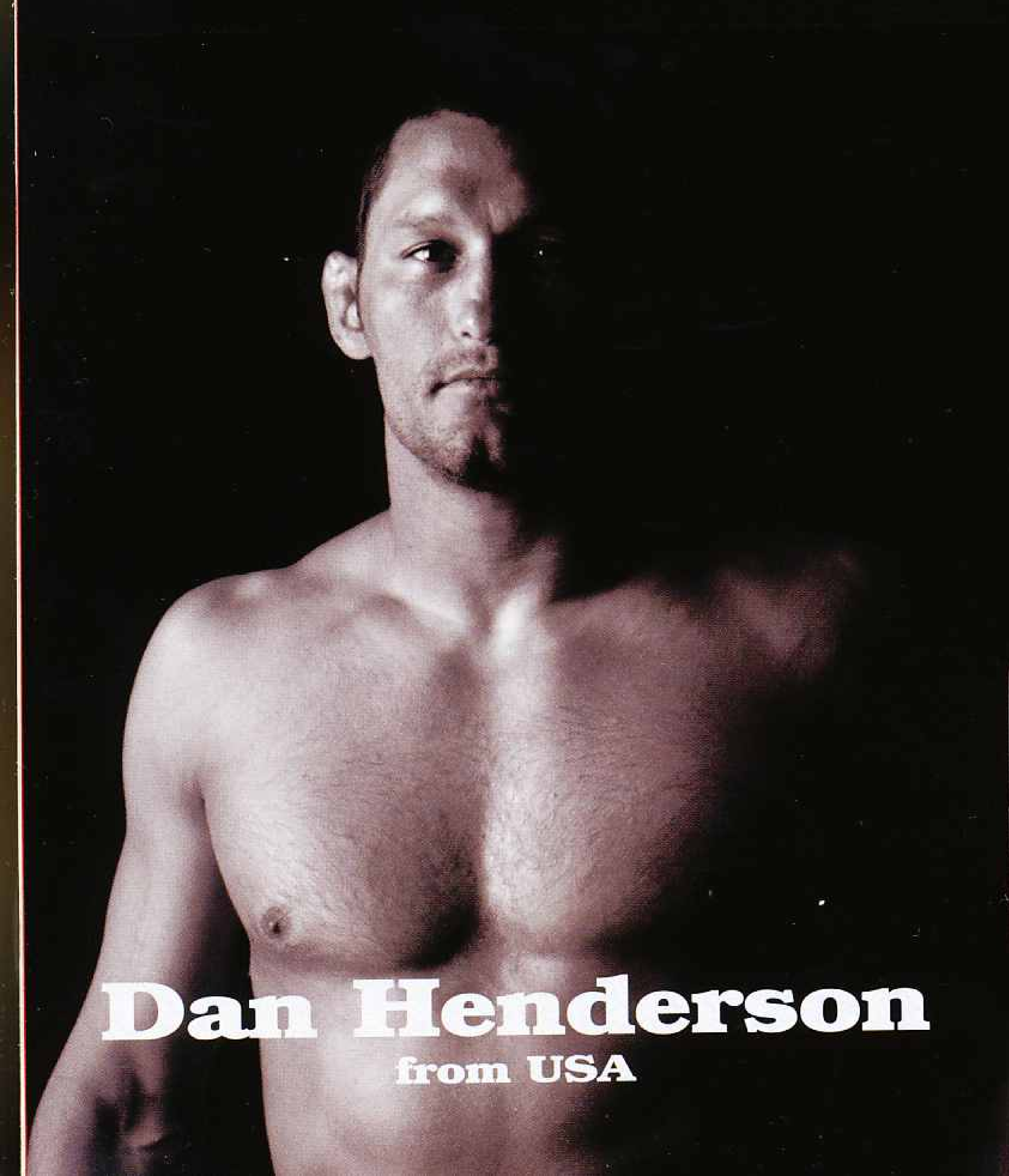


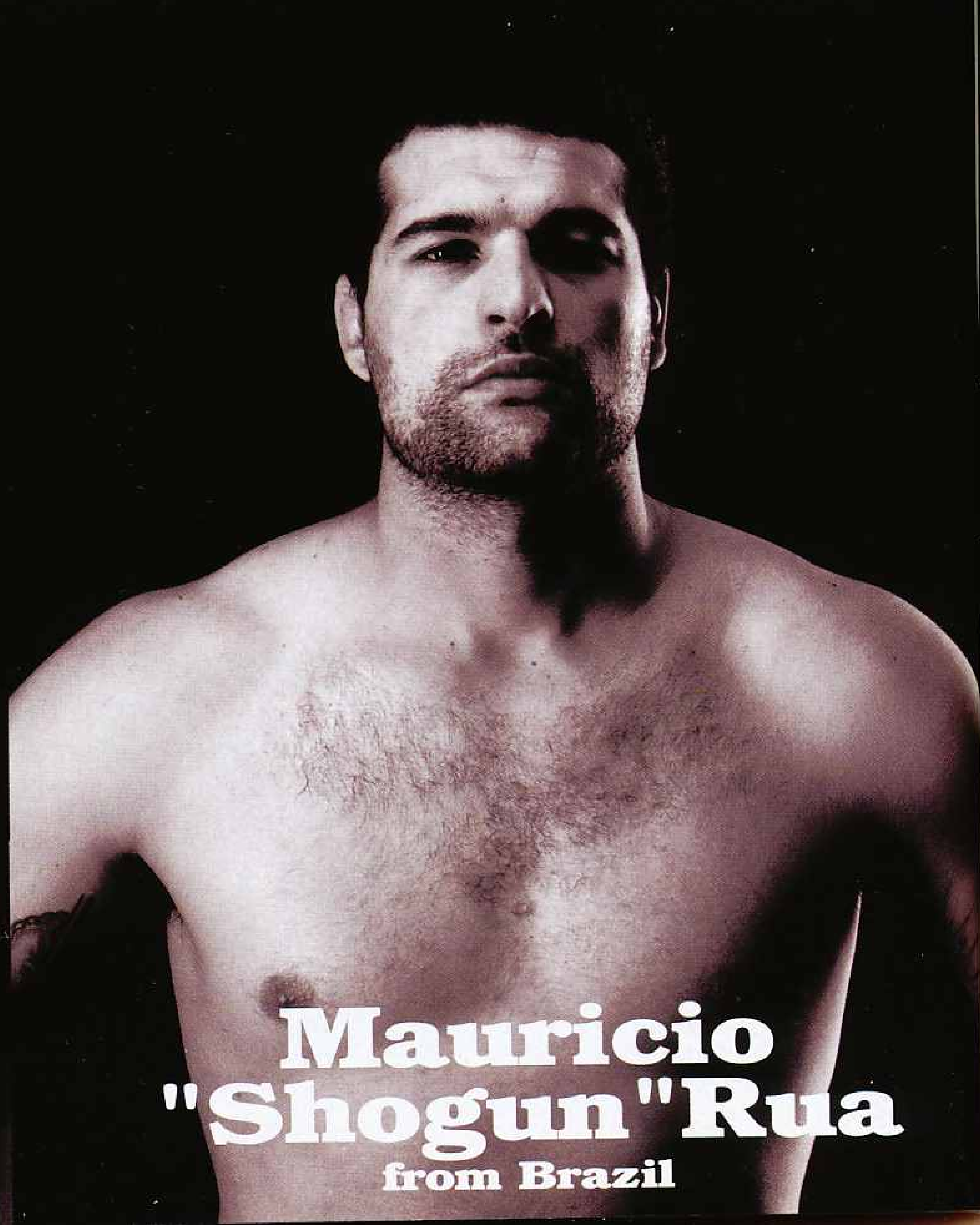
Wanderlei Silva
from Brazil


Forrest Griffin
from USA


Tito Ortiz
from USA

開戦! 宇宙最激戦


Dan Henderson
from USA


Mauricio
"Shogun"Rua
from Brazil



衝撃！ 歴史の残る激闘は
なんと！ ダブルタイトル戦だった!?

9.8 UFC75 CHAMPION vs CHAMPION

クイントン・R（ランペイジ）・ジャクソン vs ダン・ヘンダーソン

UFC×PRIDE 王座統一報道の真相

文／上杉捨てゼリフ　撮影／黒田史夫、Josh Hedges(UFC)

『PRIDE』とUFCの王座が統合!? 9・8『UFC75』ロンドン大会で、それぞれUFCと『PRIDE』のチャンピオンとして激闘を繰り広げたクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンとダン・ヘンダーソン。ついに〝93キロ級の世界最強〟が決定したわけだが、その素晴らしい試合内容は後述するとして、ある疑問が浮かび上がってきた。それはダン・ヘンダーソンの持っていたPRIDEミドル級のベルトはどうなるのか？ということだ。

　というのも同大会直後、UFC公式サイトに『UFCライトヘビー級のタイトルを防衛したランペイジ・ジャクソンが、ダン・ヘンダーソンの保持する205ポンド（≒93キロ）のベルトを奪い、MMA史上初のメジャータイトルを統一した男となった』という記事がアップ！ なんと!! 両王座が統合されたことになっていたのだ。いつの間に!?

　そもそも、そんな公式発表はなかったはずと思いつつ、動画サイトにアップされた試合映像を観てみると、確かにリングアナ、ブルース・バッファー氏が「UFCライトヘビー級チャンピオンシップ」ではなく、「世界統一ライトヘビー級チャンピオンシップ」とアナウンスしている。え？ でもランペイジがUFCライトヘビー級のベルトを持ってきているのに対して、ダンヘンは『PRIDE』のベルトを持ってきてないじゃん！ オフィシャルの試合結果を読み返しても、ダブルタイトル戦ともPRIDEミドル級選手権とも記載されていない。いったいどういうこと？ この疑問を解くべく、ひとまず二人の対戦決定から大会開催までの流れを振り返ってみよう。

　まず二人の対戦の発端は5月26日に開催された『UFC71』にさかのぼる。同大会のメインイベントで、〝ミスターUFC〟ことチャック・リデルにランペイジが挑戦。『PRIDE』でトップ戦線に位置するも、栄光をつかむことができなかったランペイジだが、1ラウンドにリデルの顔面を右フックで打ち抜き、秒殺KO！ ついにメジャータイトルを奪取してみせた。

　王者敗戦の衝撃で騒然となる場内。そこにPRIDEミドル級&ウェルター級王者、ダン・ヘンダーソンがその2本のベルトを両肩に掲げてオクタゴンに入場したのだから、会場はハチの巣をつついたような大騒ぎに。ダンヘンは「クイントンもリデルもマイ・フレンド。だがその彼らと闘うのが、このスポーツ、ファイティング・ビジネスだ。友だちと一緒に金を稼げるなんて、悪くないだろう（笑）」とUFC参戦を表明。大会直後の記者会見では、ダナ・ホワイト代表が「いずれ闘うことになる二人の勝者がUFCと『PRIDE』の両方のタイトルを手にするだろう」と発言し、王座統一戦を行なう考えを明らかにしたのだ。

　その後6月18日には、UFCが「チャンピオン同士が激突！」と煽りながら、二人の対戦を公式に発表！ しかしこの時点では、この試合が王座統一戦になるのか、もしくはUFCの王座だけが懸けられるのか、はたまたノンタイトル戦なのか、その発表はなし。ファンやマスコミのあいだでも、その行方が注目されるようになる。

　そして6月28日に開催されたメディア・カンファレンスコール（※報道陣の質問を電話で聞いて答える記者会見）で、ダナ・ホワイト代表は「この試合は統一戦ですか？」との問いに対して、キッパリ「ノー」と回答！「我々はUFCと『PRIDE』の両方のタイトルをリスペクトしている。ヘンダーソンが勝っても、クイントンはUFCのベルトを持



[9.8 UFC75-CHAMPION VS CHAMPION-]
ロンドン／02アリーナ
○クイントン・ランペイジ・ジャクソン vsダン・ヘンダーソン×
（5R 判定3-0）

ランディ・クートゥアーが『UFC74』の対ゴンザガ戦で体現した、まるで"UFCの教科書"に載っているような闘いを見せた二人。UFCルールに苦戦するミルコやノゲイラとは対照的だが、もともとのファイトスタイルがUFCに適しているとも言えるだろう。

PRIDE出身の二人のファイターが UFC最高峰の闘いを見せつけた

ち帰るし、逆の場合も同じだ」と続け、王座統一を否定してみせた。

しかし！ それから約3週間後、7月17日にUFCから送られてきたプレスリリースには"王座統一"との記載が。あれ？ さらに7月31日にケーブルテレビ局ESPNに「王座統一戦なのか？」と再び聞かれたダナ・ホワイト代表が「これは完全な統一戦だ」と即答！ 続けて「ヴァンダレイ・シウバを倒したヘンダーソンをリスペクトするべき。ランペイジが『PRIDE』のタイトルを獲れなくて、ヘンダーソンだけがUFCのベルトを獲ることができるというのはおかしいだろう？ この試合でどっちが本当のチャンピオンかわかるよ」と説明した。『PRIDE』やダンヘンをリスペクトしているところはブレてないが、タイトルの扱いはまるで違う話になっているが……でもそんなの関係ねぇ！ とばかりに、とにもかくにもランペイジとダンヘンの一戦は、一転して王座統一戦として行なわれることに。

だが大会1週間前のカンファレンスコールで、またもやダナ・ホワイト代表の態度に変化が！「『PRIDE』のベルトは二人の試合後に消滅。チャンピオンは一人だけになる」と語ったのだ。つまり、ダンヘンが勝っても、負けてもUFCのベルトだけが残るってこと？ こうしてファンやマスコミを振り回したのち、大会直前になって、この試合にUFCライトヘビー級王座が懸けられることが決定。しかし『PRIDE』の王座については、その扱いは最後までUFCから公式な見解が示されることはなかった。

そして迎えた9月8日、約1万6000人の観客で膨れ上がった会場でランペイジとダンヘンが激突。二人の試合は、公式なタイトルの扱いはどうあれ、ファンの期待をはるかに超えた、両ブランドの威信を懸けた最高の一戦となった。

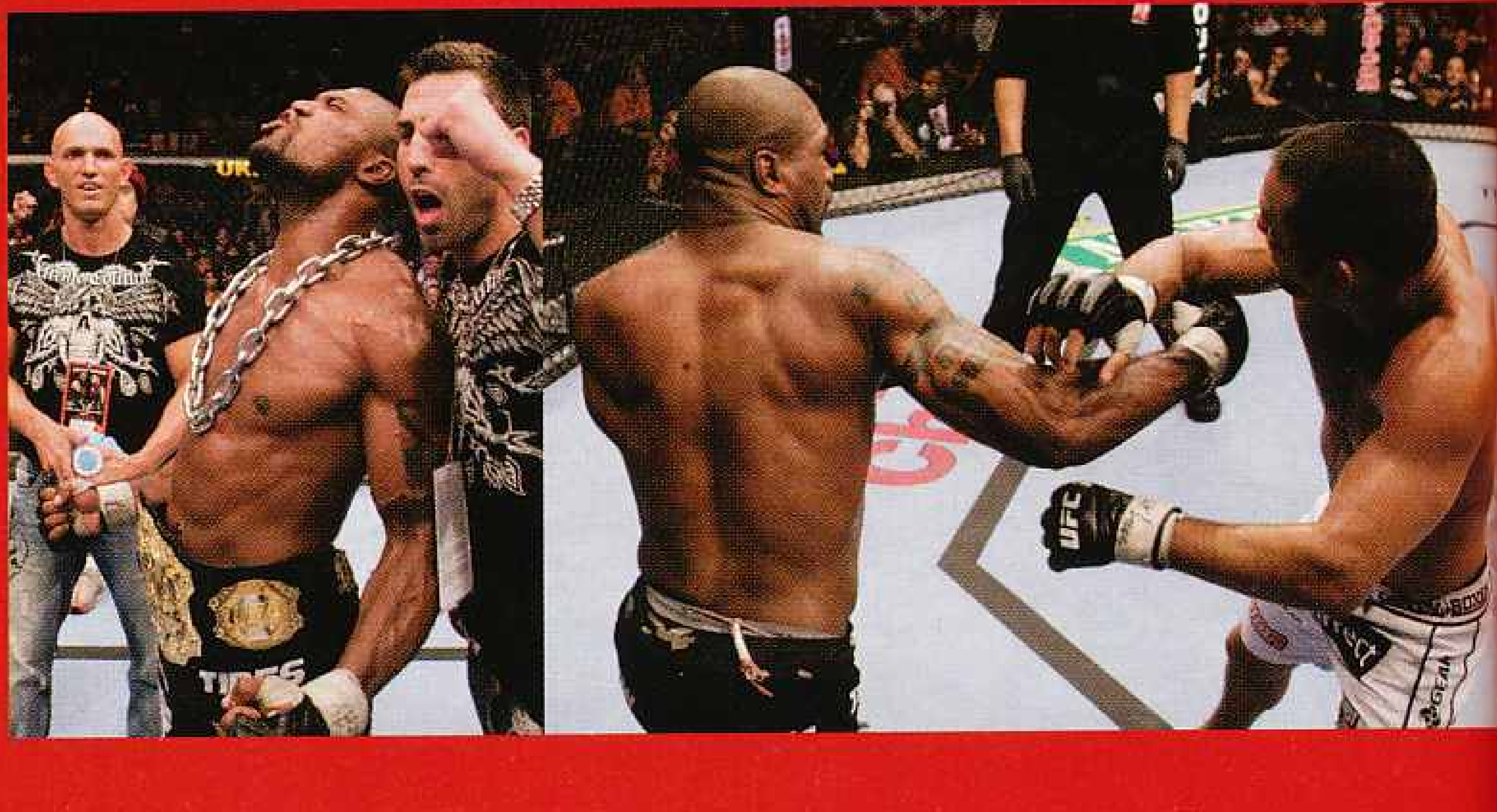
ゲームを振り返ると、試合開始直後から前に出たのはランペイジ。ロングフックでいきなり勝負をかける。これをダッキングしてかわしたダンヘンは得意の右ストレートを打ちながら、タックルで組みつき、金網に押し込むとテイクダウンに成功！ レスリングスキルの高さを見せつける。しかしランペイジはうまく金網を使ってリバース！ これに対してダンヘンがすぐさま腕を取り、防禦しようとするランペイジの動きを利用してポジションを切り返す。攻防がめまぐるしく入れ変わるハイレベルな闘いに客席からは大歓声が。この後も一進一退の試合を展開した両者。それぞれパンチでダウンを奪い合う、激しいせめぎあいは5ラウンドの終了のブザーが鳴るまで続けられることになった。

ところで、オクタゴンには『PRIDE』のリングとは違う闘い方がある。ボクシングスキル、金網際でのクリンチワーク、グラウンドで下のポジションになったときのディフェンス方法。それらは決して派手な技術ではないが、その習得はUFCで闘う上で絶対的に必要。同大会で敗れたミルコと違って、ランペイジもダンヘンもそのUFCの闘い方をモノにしていたのだ。そして、この日『PRIDE』出身の二人のファイターは"UFC最高峰の闘い"をファンに見せつけたのだった。

その判定の結果はランペイジに。試合全体を通すとダンヘンがペースを握っており、勝ったランペイジ自身、「KOされてもおかしくなかった」と振り返るほどの接戦だったが、試合のところどころでヒットしたランペイジのパンチが評価されたのだろう。ジャッジは3人ともUFC王者に。しかし敗れたダンヘンにもロンドナーから惜しみない拍手が。

こうして、この試合に懸けられたUFCヘビー級のベルトはランペイジの腰に巻き続けられることになったのだが、結局『PRIDE』のベルトについては、冒頭で記したように、大会終了後、UFC公式サイトが「ランペイジが王座統一」と報道。「ランペイジとダンヘンが王座統一戦を行ない、勝利したランペイジのUFCのベルトが存続。敗れたダンヘンのベルトは消滅」というUFCにとって"理想的なストーリー"に書き換えられていた。マジ？ ダンヘンも大会後に「『PRIDE』がないなら、ベルトはもう関係ないんじゃないかな」と苦笑いを見せる。

とはいえ、事実として、『PRIDE』とUFCではルールがまったく違うので、体重が同じだということだけでは、"競技"として統一戦にはなりえないはず。だいいち、せっかく、こんなメジャータイトルの統一戦をやるんなら、もっと大々的に開催してくれよ〜！ しかしながら『PRIDE』が活動を再開しないのであれば、『PRIDE』のタイトルは、このまま封印されたことになるだろう。そして将来、MMAの歴史には、「2007年9月8日、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンがダン・ヘンダーソンを破り、『UFC』と『PRIDE』のベルトを統一」と書き記されているのかもしれない。





“MMA界の首領”が「シウバ」と「日本」を語った！

独占インタビュー

ロレンゾ・フェティータ

UFC & PRIDEオーナー

「来年、UFCを日本に持っていく」

聞き手・撮影／石井史彦　構成／堀江ガンツ

8・25『UFC74』の大会前、ヴァンダレイ・シウバのインタビューをすべくオクタゴンサイドで待っていると、シウバとともになんと、UFC&PRIDE共同オーナー、ロレンゾ・フェティータ氏も颯爽と登場。その場でインタビューをお願いしてみると、「ヴァンダレイのUFC参戦についてのコメントなら」という条件つきで、OKの返事をもらうことができた！

基本的にスポークスマンとしての役割はダナ・ホワイトに任せているというロレンゾ氏が、急なインタビュー申請に応えてくれるのは極めてまれなこと。今年2月以降、ヴァンダレイの契約はしばらく宙に浮いており、さまざまなプロモーションからオファーが殺到していた。それだけに、ロレンゾ氏にとっても念願のヴァンダレイ獲得だったということだろうか。

というわけで、今回は〝UFCオーナー〟としての視点ながら、ヴァンダレイの話とともに、日本市場についての考えについても短い時間ながら聞くことに成功。今後のマット界の行方について鍵を握るロレンゾ・フェティータ氏のインタビューを独占でお届けしよう！

——ついにUFCがヴァンダレイ・シウバを獲得しましたね。

ロレンゾ　いい気分だね。エキサイトしているよ。ついにライトヘビー級で最高のファイターが我々のもとに来たんだからね。この5年間、ファンが待ち望んだ世界最高の闘いがついに提供できるんだ。

——ロレンゾさんは、『PRIDE』のオーナーになる前から、ヴァンダレイの存在を非常に評価してましたよね？

ロレンゾ　もちろん。ファンもそうだろうが、私自身、ずっとこの日を待っていたんだ。私は『PRIDE』のオーナーにはなったけれども、ヴァンダレイとの契約は『PRIDE』でもUFCでも結べていなかった。それがようやく合意に至ったんだから、エキサイトしているよ。

——ヴァンダレイと誰と闘わせるつもりですか？

ロレンゾ　それは、これから何が起こるかによるだろうね。ヴァンダレイは12月29日、ラスベガスのマンダレイベイで開催される『UFC79』で闘うことになると思うけど、チャック・リデルとキース・ジャーディンの勝者と闘うことになるだろうね。

——9・22『UFC76』では、マウリシオ・ショーグンもフォレスト・グリフィン相手にUFCデビューが決まるなど、ライトヘビー級は非常に盛り上がってますよね。

ロレンゾ　ショーグンは、現時点でライトヘビー級のナンバーワン・ファイターだろう。ただ、グリフィンの実力を低く見積もってはいけない。彼は、対戦相手のレベルまで自分を高めて闘うことができるんだ。いい試合になるだろう。

——グリフィンはUFCにとっても期待のファイターですよね。

ロレンゾ　彼は『TUF』（ファイター育成のリアリティショー）出身で、常にあきらめない姿勢を見せてくれる。それがファンの心をつかんでいるんだ。
——ヘビー級もいつの間にか凄いメンバーが揃っていますね。
ロレンゾ　さっきも言ったように、私たちは、このときを待っていたんだ。世界最強を争う男たちが集結するときをね。
——ただ、エメリヤーエンコ・ヒョードルの参戦なくして「世界最強」は名乗れないとファンの多くは思っています。
ロレンゾ　確かにそれはそうだ。ヒョードルだけでなく、素晴らしいファイターがまだUFC以外にもいるが、じきにみんなこの闘いに加わることになるよ。
——でも、これだけUFCに選手が集中すると、『PRIDE』が復活したとしても、選手が残っていないんじゃないかと心配なのですが……。
ロレンゾ　その心配はない。『PRIDE』が再開したときは、『PRIDE』のブランドに相応しいメンバーを揃える。でなかったら、『PRIDE』として行なう意味もないしね。重要なのはUFCか『PRIDE』かではなく、〝我々〟のイベントに素晴らしいファイターが揃うことなんだ。
——ただ、ここまでMMAが大きな盛り上がりを見せている中、日本のファンはその闘いに飢えているんですよ。イベントもテレビ放送もないわけですから。
ロレンゾ　わかっているよ。TVディールについては、いま全力で動いているところだし、UFCの日本大会を開催すべくいま動いているところだ。
——では、『PRIDE』の開催はないということですか？
ロレンゾ　いや、そういう意味ではない。もちろん『PRIDE』の再開についても、我々としては日本でイベントを開催するということを第一に考えていて、もしかしたら『PRIDE』の再開よりも、UFCのほうが先になるかもしれないということさ。日本のファンにも早く我々のイベントを見せてあげたいんだ。
——日本でのイベント開催はいつ頃になりそうですか？
ロレンゾ　できれば今年中に開催したいが、スケジュールを考えると来年になってしまうかな。日本のファンには、もうしばらくつらい思いをさせてしまうかもしれないが、待っていてほしい。必ず素晴らしいイベントを持って日本に行くから、と伝えておいてくれ。
——一日も早い日本でのイベント開催を期待しております！

【07年8月25日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】



ついにUFCと正式契約を結んだ
“ミスターPRIDE”を直撃！

WANDERLEI SILVA
ヴァンダレイ・シウバ

「PRIDEファイターの強さをUFCで見せつけてやる！」

——ついに、UFCと正式に契約を結んだようですね。
シウバ　ああ、UFCからはいいオファーをもらったよ。今度のボス（ダナ・ホワイト）は強いエネルギーを持っていて、この団体にベストファイターが集まってきている。そういった環境で闘いたいと思うのは、ファイターなら当然のことだろう。ファイターだけじゃない。団体運営の面でも、いまのUFCはナンバーワンなんだ。
——UFCとは何試合契約を結んだんですか？
シウバ　4試合だよ。ここアメリカでヴァンダレイ・シウバがどれほどのファイターなのかを、ファンに見せつけたいね。
——シウバ選手のいるライトヘビー級は、チャンピオンのクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンをはじめ、チャック・リデル、キース・ジャーディン、フォレスト・グリフィン、ティト・オーティズと強いファイターが揃っていて、さらにかつての同門であるマウリシオ・ショーグンや、『PRIDE』でしのぎを削ったダン・ヘンダーソンまでいて、とにかく強豪がひしめき合ってますよね。
シウバ　確かに凄いメンバーだ。いま世界で最もレベルの高い階級だろう。でも、誰がいようと関係ない。俺は俺だからね。ヴァンダレイ・シウバがオクタゴンに上がったら、これまでの彼らの色を消してみせるよ。PRIDEファイター、そしてシュートボクセの強さを味わわせてやるさ。
——UFC再デビュー戦の相手は、9・22『UFC76』で行なわれるチャック・リデルvsキース・ジャーディン戦の勝者となる可能性が高いようですが、どちらが勝つと思いますか？
シウバ　ジャーディンのことはよく知らないんだ。でも、チャック・リデルは最初から挙がっていた名前で、世界中のファンが俺とチャックの試合が実現することを望んでいる。その声に応えるためにも、彼には9月の試合で勝ってもらって、12月に闘いたいね。
——つまり、シウバ選手のUFC登場は12・29『UFC79』になる、と。
シウバ　俺はそう思っているよ。もう、いまから12月に向けて準備をスタートしているんだ。
——UFCで闘い続けていけば、かつての同門であるマウリシオ・ショーグンと闘う日も来るかもしれませんが、その対戦オファーが来たらどうしますか？
シウバ　彼とはいまでも親友同士だ。闘うことは不可能だね。俺はすべての対戦相手を尊敬して闘っているが、同時に殺すつもりでパンチを叩き込んでもいる。でも、友だち相手にそんな気持ちにはどうしてもなれないし、そんな（力をセーブした）試合を見せるのはファンにも失礼になる。だから、もしショーグンがチャンピオンになって、俺に挑戦権が回ってきたとしても、そのときは辞退するつもりさ。
——それだけ、ショーグンとの絆は強いわけですね。シウバ選手はUFCでのゴールはどこに設定していますか？
シウバ　う〜ん、それはっかりはわからないな。俺は一試合一試合を全力で闘っているだけだから、先のことはわからない。もしかしたら、次の試合で選手生命が終わることだってあるんだからね。何があるかわからないのが、このスポーツだ。だから目の前の試合に全力を注ぐだけだね。そして日本のファンも、俺が命懸けで闘う姿を観てほしいね。オレはここで頑張っていくから、

【07年8月25日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】



某格闘技団体にも急接近!!

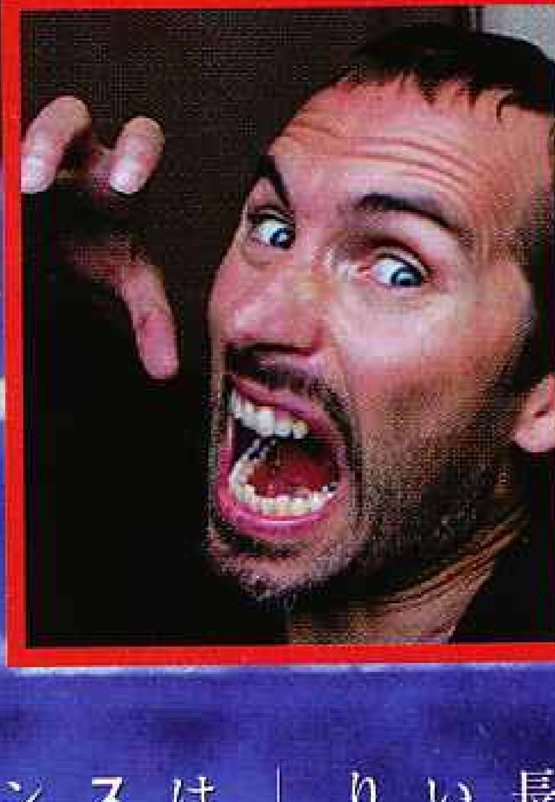
日本市場参入か!?

元"アメリカのPRIDEの父"

エド・フィッシュマンの陰謀

『MMA WEKLY』スコット・ピーターソンがクールでアメリカンなニュースをお届け!

COOL 宅急便



PROFILE
Scott Petersen
【すこっと・ぴーたーそん】
格闘技情報WEBサイ『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居をかまえ、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「盗っ人は最後の一人まで草の根かき分けても探し出す」

前号でもお伝えしたように、元"アメリカのPRIDEの父"ことエド・フィッシュマンの動きが活発化! さらにボードッグ総帥、カルビン・エアー様をもしのぐ資本家が突如、MMAへの参入を表明! それぞれ"最強王者"ヒョードル獲得を宣言している。いったい何が起ころうとしているのか!?

聞き手/デューク東郷　撮影/乾 晋也

スコット (鼻歌を歌いながら)♪コガネムシは金持ちだ〜。

——どうしたのさ、スコット? シャレた格好して。

スコット いつまでもアンタらみたいに小汚い格好して取材現場を駆け回ってらんないんだよ。MMAが成長しているいま、稼がないといけないんだから、コチトラ広告を獲ったり忙しいの!

——へ〜、『MMA WEEKLY』はそんなに好調なんだ。

スコット (自慢げに)まあね。スポンサーもどんどん増えてきているし、アメリカの大手ポータルサイトへの記事配信も決まって、順風満帆。これでオレらも時代のメインストリームだ。

——その流れを牽引しているUFCからは取材拒否されているのに!? アンタたち、クライアントを騙しているじゃないの? (笑)。そういえば、アメリカではMMA雑誌も創刊ブームなんだってね。

スコット そう。いまでは7、8冊のマガジンが出ている。

——え〜、そんなに!?

スコット それがいまのアメリカMMAの盛り上がりを如実に示しているってことだよ。

——そうは言ってるけど、アメリカのMMAバブルがもうすでに崩壊しつつあるという話も聞くけど。エリートXCやIFLら新興団体の株価が急激に落ちていんだって?

スコット 確かにIFLの株価はヤバい! 今年の2月には15ドルの価格をつけていたIFLの株だけど、7月にはなんと、1ドル割れ! さ



リングマットに自動車メーカーのSUZUKIや、X BOXなど大手企業の広告が入っていたIFL。チームコンセプトなどの運営方針について、選手からの評判はいいものの、ファンからは注目されず、ついに投資家や協賛企業からも見放された格好だ。

らに9月に入ると50セントまで下がってしまったんだ。

——15ドルが50セントに‼ 単純に計算して30分の1ってことでしょ！ なんかあったの？

スコット 株価が下がったのは、決算発表で赤字の拡大が明らかになったから。ま、当然のことだけどね。IFLのチーム別対抗戦なんて、ファンは最初から観てなかったんだからさ。視聴率が伸びない中、マイクロソフトといったスポンサーも離れ、秋には番組放送枠も大幅にカットされることになったらしい。

——MMAバブルにのせられた一般の投資家がちょっと気の毒だね。で、IFLはどうなるのさ？

スコット 正直、来年の終わりまで持ちこたえられるかどうかってところだね。ブラジルでもIFLをマネして、チーム別対抗戦を始めたばかりだけど、大丈夫かな？（笑）。

——でもアンタ、そんなことを心配するより、バブル崩壊の余波を食らうことになる自分自身を心配したほうがいいんじゃないの。

スコット いやいや、そんなことじゃ、いまのアメリカでのMMAの勢いは止まらないよ。なんたって、あのマーク・キューバンがこのマーケットに参入するという話まであるんだから！

——マーク・キューバンって？

スコット キューバンは、テレビ番組にもよく出ている有名なドットコム・ミリオネア（※90年代後半のアメリカで起きたITバブルで成功した人のこと）。自身が立ち上げたコンピュータ・コンサルティング会社やネットラジオ会社を売却して巨万の富を築いた男で、今年の（米経済誌）『フォーブス』によると、総資産23億ドル（＝約2655億円！）と紹介されており、それはカルビン・エアーをもしのぐ額なんだ！

——ボードッグ総帥、カルビン・エアー様以上の金持ち‼

スコット キューバンは、その豊富な資金力をもって2000年に、ファンだったNBA（米プロバスケットボール協会）のダラス・マーベリックスを2億8500万ドル（＝約329億円）で買収している。

——どひゃっ！ 成金の道楽って凄いね（笑）。

スコット いや、それがマーベリックスの買収はただの道楽じゃないんだ。キューバンは90年代不振に苦しんだマーベリックスの再建に真剣に取り組んで、チームを見事に建て直している。つまり〝道楽〟ではなくて〝投資〟としてNBAに大金を注ぎ込んだわけ。そして、次なる標的として、キューバンの視野に入っているのがMMAなんだ。

——でも、どうしてキューバンはMMAに進出したいわけ？

スコット キューバンは、アメリカで市場が伸びているハイビジョンテレビ向けの放送局『HDNet』の共同設立者でもあり、その放送コンテンツとしてMMAに目をつけているんだ。

——なるほどね〜。

スコット そして、キューバンはヒョードル獲得に興味を示しているんだけど、その彼に歩調を合わせるかのように、世界中のカジノと太いつながりを持つエド・フィッシュマンの動きがさらに活発化している。

——かつてPRIDE USA代表を名乗り、榊原氏からも〝アメリカのPRIDEの父〟と呼ばれたエド・フィッシュマンね。

スコット ヒョードル擁するレッドデビルとのコンタクトをほのめかしていたエドだけど、新しいイベントの立ち上げを考えているらしく、「近いうちにヒョードルら6選手と契約を結ぶ」と話しているんだ。

総資産2655億円！ ボードッグ総帥、カルビン・エアーをもしのぐ超資産家がMMA市場へ参入しようとしている

——ヒョードルと契約⁉ じゃあ、レッドデビルとUFCの交渉は決裂？

スコット ロシアでのコンバットサンボの大会に出場を望んでいるヒョードルに対して、UFCがあくまで独占契約にこだわっていることで両者の話し合いは膠着。その間隙をついてエドが皇帝を獲得しようとしているんだ。そしてエドが言う「6選手」の中には、ジョシュ・バーネットも含まれている。

——ジョシュとも契約⁉ ジョシュはUFC参戦を巡って、ダナと挑発合戦を繰り広げている最中だけど……ホントなの？

スコット エドは「もう少しすれば、正式にアナウンスできる」と話している。エドはストライク・フォースにも出資していて、9月29日に開催される『プレイボーイ・マンション』大会にも来場予定。こうやってMMAマーケットで確実に足場を築いている。また、日本の某格闘技団体がエドに買収を持ちかけているという話もあるし、この号が出ている頃には、トンデモない大発表がなされているかもね。

——日本にも進出！

スコット さらにエドはUFCにおける『TUF』のような宣伝番組を製作。第1話はすでにできあがっているということなんだ。

——テレビ局も決まったってこと？

スコット いや、いまは放送局に売り込んでいる段階。アメリカではよくあるパターンなんだけど、〝パイロット・ショー〟と呼ばれる第1話を自分で作ってテレビ局に売り込んで、第2話からテレビ局が製作するということが多いんだ。

——へ〜。でも、MMAイベントをやる前からその煽り番組を作るなんて、にわかには信じられない話だけどね。

スコット 実際のところ、ラスベガスのカジノと関係の深いエドはすでに会場も押さえていて、スポンサーも見つけているとのこと。あとは、放映するネットワークだけだと語っていた。

——そうなると、『HDNet』を持つキューバンは理想的なパートナーになる、と？

スコット そのとおり！ カジノと太いパイプを持ち、ラスベガスの会場を押さえることのできるエドと、メディアを持つキューバンのタッグは理想的な相互補完関係。そして実際、二人は9月1日に行なわれた、エドが投資していると言われる格闘技団体『ART OF WAR』のテキサス大会でも目撃されているんだ！

——ん〜。二人の動きは非常に怪しい。この強力な金持ちタッグが何を生むのか？ ちょっと、これは目が離せないね。

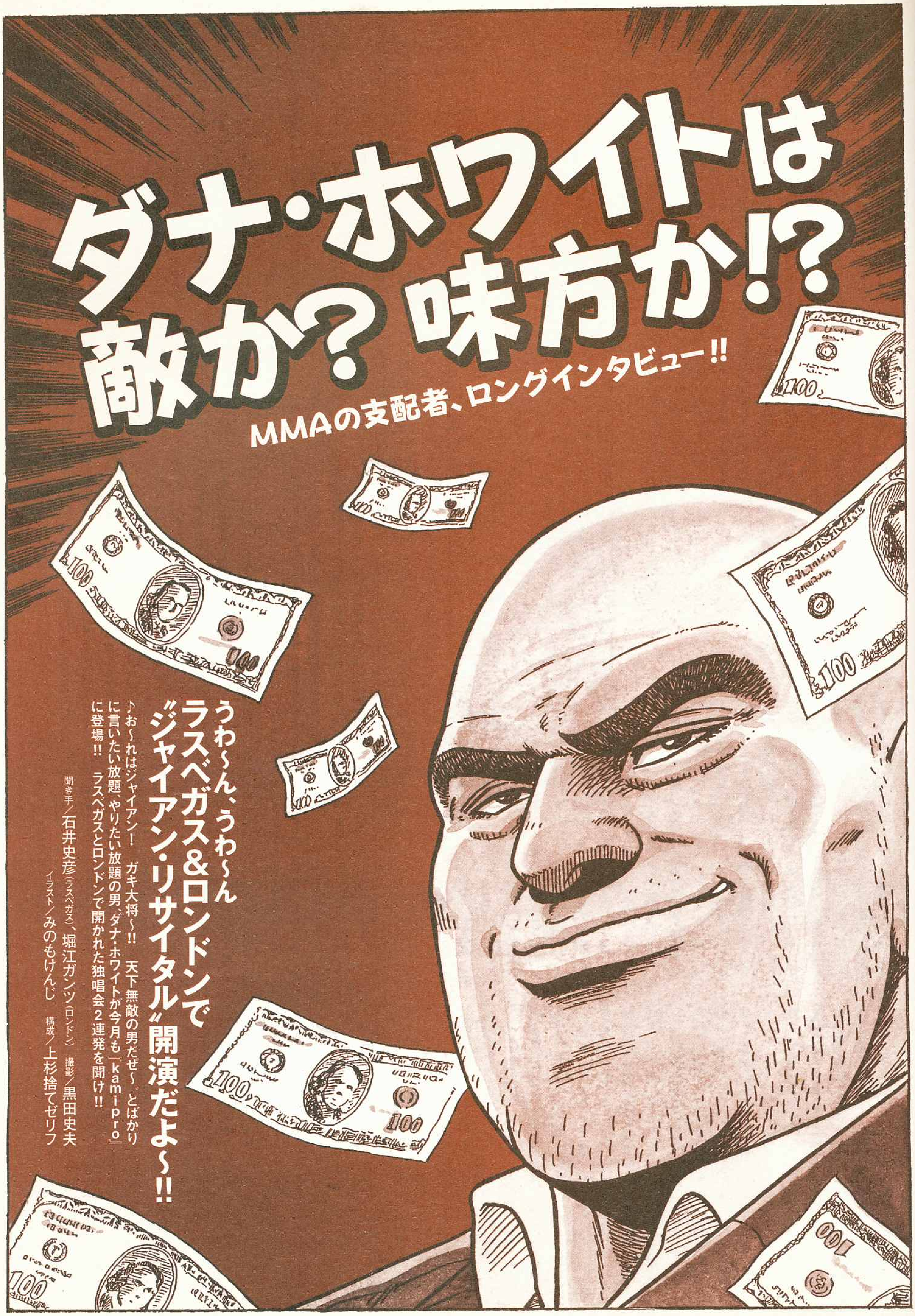
スコット ま、とにかくシーンを盛り上げてくれればいいよ。そして、オレもMMAブームにあやかって二人のようにリッチになりた〜い！

【07年9月6日／kami-pro編集部にて収録】


ショーグン、リデルに、ドンペン君!?
宇宙最激戦区
ライトヘビー級
戦争開戦!
9.22 UFC76 in アナハイム
ショーグンの"プライド"は
守られるのか!?
ヴァンダレイ戦
いよいよ実現か!?
UFC.76『KNOCK OUT』
米国アナハイム・ホンダセンター
9月22日(土・現地時間)
[対戦カード]
マウリシオ・ショーグン vs フォレスト・グリフィン
チャック・リデル vs キース・ジャーディン
中村和裕 vs LYOTO
小見川道大 vs マット・ウィマン
チアゴ・タヴァレス vs タイソン・グリフィン
ジョン・フィッチ vs ディエゴ・サンチェス ほか
kamipro Handの
速報も見逃すな!
9.17 HERO'Sもやります!
9.22 UFC76 in アナハイム
完全詳報
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro
Special
2007 AUTUMN
10月1日(月)全国書店にて発売予定!! 予価¥780(本体743円+税)

ダナ・ホワイトは敵か? 味方か!?

MMAの支配者、ロングインタビュー!!



うわ〜ん、うわ〜ん
ラスベガス&ロンドンで
〝ジャイアン・リサイタル〟開演だよ〜!!

♪お〜れはジャイアン! ガキ大将〜!! 天下無敵の男だぜ〜♪とばかりに言いたい放題、やりたい放題の男、ダナ・ホワイトが今月も『kami-pro』に登場!! ラスベガスとロンドンで開かれた独唱会2連発を聞け!!

聞き手/石井史彦(ラスベガス)、堀江ガンツ(ロンドン) 撮影/黒田史夫
イラスト/みのもけんじ 構成/上杉捨てゼリフ

ヴァンダレイ・シウバ、マウリシオ・ショーグンら『PRIDE』で活躍したシュートボクセ勢と契約を結び、ノリにノリまくる"MMAの帝王"ダナ・ホワイト。その彼を8月25日の『UFC74』大会で独占キャッチ！　ジャイアン独唱会はまず、このラスベガス編からお読みくださ～い！

ダナ　（『kamipro』No.114のクロアチア特集を見て）ミルコのトレーニング・キャンプに行ったんだろう？　レミー・ボンヤスキー、ギルバート・アイブル、ディーン・リスター……いいメンツだ。

——ミルコはオクタゴンも導入して真剣にUFC対策に取り組んでいるんです。

ダナ　これまでのパターンだと、敗戦後のミルコは厄介だ。負けたあとは、手のつけられないファイターになって戻ってくる。

——でも、あなたはそれを待ち望んでいるんでしょう（笑）。

ダナ　そのとおりだね（ニヤリ）。

——ミルコが勝てば、次はノゲイラとのタイトル挑戦者決定戦だという噂が流れていますが。

ダナ　それはまだ決まってない。それにノゲイラはまだUFCで1試合しか闘ってないんだ。勝手なことを言ってもらっては困るね。

——では、ガブリエル・ゴンザガを下してヘビー級王座を防衛したランディ・クートゥアーへの次の挑戦者は誰になりますか？

ダナ　わからないな。1年前はヘビー級の挑戦者を探すのに苦労したが、いまでは素晴らしいラインナップになった。正直、誰を挑戦者にしていいかわからないよ。

——確かに、UFCには続々と大物選手が集まってきていますね。最近ではUFC公式サイトでヴァンダレイ・シウバが契約書にサインする映像をアップしていましたが、シウバとの契約はUFCにとっても、やはりそこまでするほどのビッグニュースということですか？

ダナ　オフコース。彼は偉大なファイターだ。彼とシェイクハンドできてとてもハッピーだよ。なんといっても彼を獲得するのに1年以上かかったからね。UFCのファンも非常に喜んでくれているよ。

——しかし、そのシウバはここ最近、2試合連続でKO負けを喫しているのですが、それでもあなたの中での評価は下がってないわけですか？

ダナ　評価は下がってないが、ミルコ戦に関して言わせてもらえば、ライトヘビー級の彼をヘビー級と闘わせること自体が間違っている。彼はあの無謀な闘いをすべきじゃなかったということだ。それからダン・ヘンダーソン戦でのノックアウトはパンチの応酬のあいだに起こったもので、そんなことは激しい試合の中では誰にでもあることだ。まったく恥ずべきことじゃない。最近、

DANA WHITE
UFC PRESIDENT



『UFC75』ロンドン大会前日、PRIDEファイターをその手中に収め、念願だった"UFCチャンピオン vs PRIDEチャンピオン"実現を控えてすっかりご機嫌のダナ・ホワイト。その直後のインタビューではいつにも増してジャイアン節が炸裂！

ヴァンダレイ vs ショーグン？　私はすべての試合が観たいんだ

ヴァンダレイとも話したが、彼はヘンダーソンとのリベンジマッチを希望している。それをオクタゴンで観るのもおもしろいだろうな。

——『PRIDE』でのリベンジマッチがUFCで実現することもありえる、と。シウバのほかにも、シュートボクセからはマウリシオ・ショーグンが参戦しますね。

ダナ　彼は強い。そして残酷なファイターだ。UFCでの活躍には期待しているよ。

——しかし、その相手が『TUF（ジ・アルティメット・ファイター）』出身の人気者のフォレスト・グリフィンですよね。このマッチメイクの意図はなんですか？

ダナ　正直に言って、これはグリフィンにとって試練になる。ショーグンは手強い相手だからね。だがグリフィンもティト・オーティズ相手に、もう少しで勝利をつかめそうになったほどの強いファイターだ。そして、じつを言うと、グリフィン自身がこの試合を望んだんだ。

——93キロ級最強とまで言われるショーグンを逆指名ですか！　グリフィンも勇気がありますね。

ダナ　日本のファンは知らないかもしれないが、グリフィンを甘く見ないことだね。まあ、見ていてくれよ。それに、グリフィンはファンに愛されている。そのバックアップもあれば、この試合はどうなるかわからないよ。

——純粋に結果が楽しみなマッチメイクですが、もしショーグンが勝てば、次はタイトル戦になりますか？

ダナ　それはまだわからないな。いまではライトヘビー級には多くの選手がいるからね。205ポンド（≒93キロ）クラスはこれから最大級の盛り上がりを見せることになるよ。

——ところでUFCでは、ショーグンとヴァンダレイの禁断の同門対決を組むことはあるんですか？

ダナ　私はすべての試合が観たいんだ（ニヤリ）。いまのUFCには魅力的な選手が集結している。ヘビー級、ライトヘビー級だけじゃない。ミドル級、ウェルター級、ライト級もだ。すべての階級でベストファイターが揃ってカードが充実している。MMAファンにとって、最も素晴らしい時代が来たと言えるよ。ハッハッハッハ。

——日本のファンにとっては、いまだに暗黒時代なんですけど……。UFCはすでに12月29日のラスベガス大会まで開催スケジュールが出ていますけど、『PRIDE』の年内開催のメドは立ちましたか？

ダナ　ノー。まったくないね（キッパリ）。

——……では来年には？

ダナ　わからないね。フリーテレビ（地上波放送）の契約が取れるまでは『PRIDE』の再開はまずない。

——前からおっしゃっているように、やはり地上波獲得が条件だ、と。しかし『PRIDE』が開催できないとなると、日本でもUFCをプロモートすることもあるんですか？

ダナ　いや、そういうことはしないだろうな。日本では『PRIDE』ブランドのほうが強いことはわかっているからな。しかし日本のテレビ局の連中は、まったくもってビジネスをするのが難しい。これまで世界中の多くの人とビジネスをしているが、まったく理解できないよ（タメ息をつきながら）。

——しかし地上波獲得が難しいとなると、ケーブルテレビや衛星放送（スカパー！）から放送を始めて、徐々に浸透させていくという手段もあると思うのですが。

ダナ　ノー！　私たちはすでに大金を投入

ダナ・ホワイトは敵か？味方か!?

PRIDEを開催するのにどれだけの資金が必要かわかるか？ 12億円だよ!!

しているんだ。地上波でないとダメだね。『PRIDE』のショーを日本で開催するのに、いったいどれだけの資金が必要か、わかるのか？　1000万ドル（＝約12億円）かかるんだよ。

―……大金ですね。

ダナ　だが、たとえば今日の大会を例にとると、ゲート収入は300万ドル（＝約3億6000万円）にすぎない。つまりテレビの収益がないと成り立たないわけだ。

―アメリカでは、PPV収益でイベントを成り立たせているわけですね。そして、アメリカのPPV収益にあたるほどの放映権料を確保しないかぎり、日本での『PRIDE』の開催は難しい、と。そうなるとケーブルや衛星放送では成り立ちませんね。

ダナ　そういうことだ。

―なるほど……。ところで、日本での試合がないこともあって、中村和裕や小見川道大ら日本人選手のUFC参戦が決まりました。

ダナ　この流れが止まることはないよ。日本のファイターは優秀だし、私も彼らを招くことができて嬉しい。かつてのカオル・ウノ（宇野薫）みたいに活躍してくれることを願っているよ。

―軽量級では以前、「五味隆典に興味がある」と話していましたが？

ダナ　彼に興味があるが、正直に言うと、いまの彼の状況がわからない。できることならUFCに来て、BJペンとリベンジマッチをしてほしいだけどね。

―それはいいカードですよね。

ダナ　日本のファンが彼を愛していることはわかっているし、今後、日本のテレビ局と契約する際に必要な人間だろう。

―では山本KID徳郁はどうですか？　9・17『HERO'S』での試合が発表され、63キロ契約で闘うことになりましたが。

ダナ　彼もずっとほしかった選手だ。ぜひWECに来てほしいね。K―1は彼を輝かせることはできないだろう。せっかく大金をかけて獲得したのに、それから先のプランが何もないのがK―1の特徴だ。金をムダ使いするのが、ホントに好きなんだ（笑）。私ならもっといいプロモーションをするよ。

―もし五味や山本KIDと契約する場合は、やはり、ほかの選手同様に独占契約ということになりますか？

ダナ　ああ、もちろんだ。

―しかし、独占契約にこだわることで、ヒョードルも含めて、契約締結を難航させる一つの原因になっていると思うのですが、そこまで"完全独占"にこだわる理由はなんですか？

ダナ　ハァ？　簡単なことだ。それは私の可愛いファイターたちがクソみたいな団体で闘う姿を見ていられないからだよ。エリートXCを観たか？　あんな大会に出して、ファイターたちをツブしたくないだろう。それに我々と一緒にいれば、選手にはスーパースターになる道が待っているんだ。

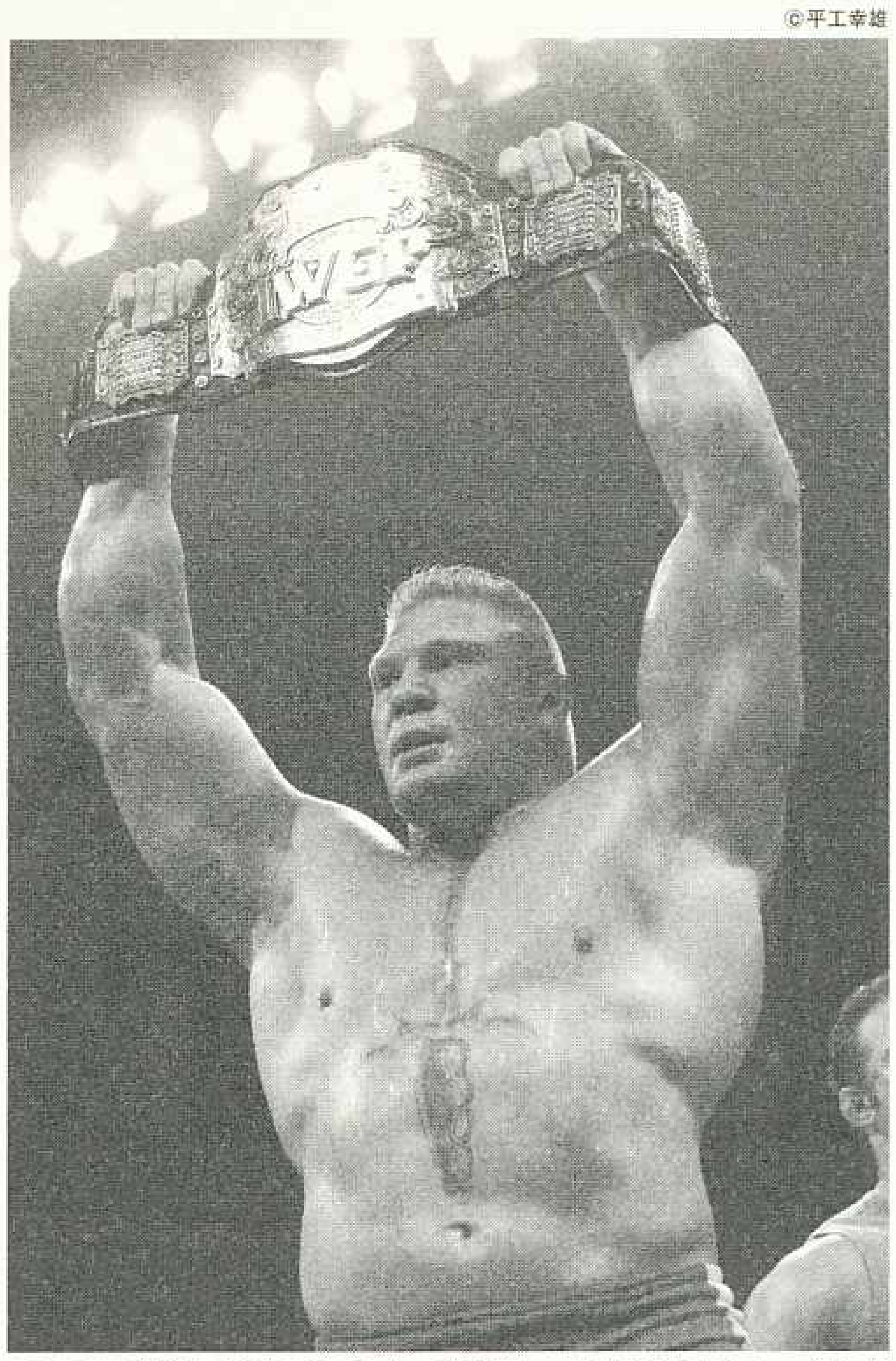
―選手のプロモーションは任せろ、と。

ダナ　ああ、我々は選手を磨いて、そして彼らが輝ける場所を提供できる。だから彼らがほかの団体に出場する必要はまったくないんだ。それにもし、私がヤマモトの獲得のために100万ドルを投入したとしよう。なぜ、その大金を注ぎ込んだ選手をジョーク団体に貸し出してやらないといけないんだ？

―ただ日本の選手はUFCと契約しても、日本でも闘える契約を求めてくると思いますけど。

ダナ　では、彼らがもし日本で闘って負けたら？　それはUFCにとって、ただの損失になるだろう。余計なことを考えなくていいから、私たちを信じてUFCに来いと言いたいね。そうすれば私が素晴らしい未来を提示してあげるよ。ハッハッハッハ。

【8月25日／米国ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンターにて収録】



©平工幸雄

8.25ラスベガス大会にはレスナーも来場。一部報道によると、ダナは「来年、UFCに参戦させる」とも発言。プロレスとMMAが地続きではないアメリカで、レスナーの参戦はどれだけのファンを開拓できるのか？

こうしてラスベガスでは『PRIDE』の地上波放送決定の難しさを語りつつも、UFCの繁栄ぶりや日本人選手を含むトップファイター獲得について、自信タップリに語ったダナ・ホワイト。しかしその後、「UFCとヒョードル側との交渉が決裂した」という報道が流れたり、"超巨大資本家"マーク・キューバンがMMAマーケットへ参入を表明するなどシーンに変化が。さらにダナ・ホワイトからは記者会見で「『PRIDE』はメチャクチャだ」という衝撃発言も。その真意を尋ねるべく再びロンドンで直撃した！

ダナ　（『kamipro』No.114を見ながら、いきなり大きな声で）アイ・ラブ・ディス・マガジン！

―どうしたんですか、いきなり（笑）。

ダナ　ハハハハ。わかるか？　以前は日本からこの雑誌を送ってもらっても読み飛ばしていた。UFCのことなんて、ほとんど載っていなかったからね。

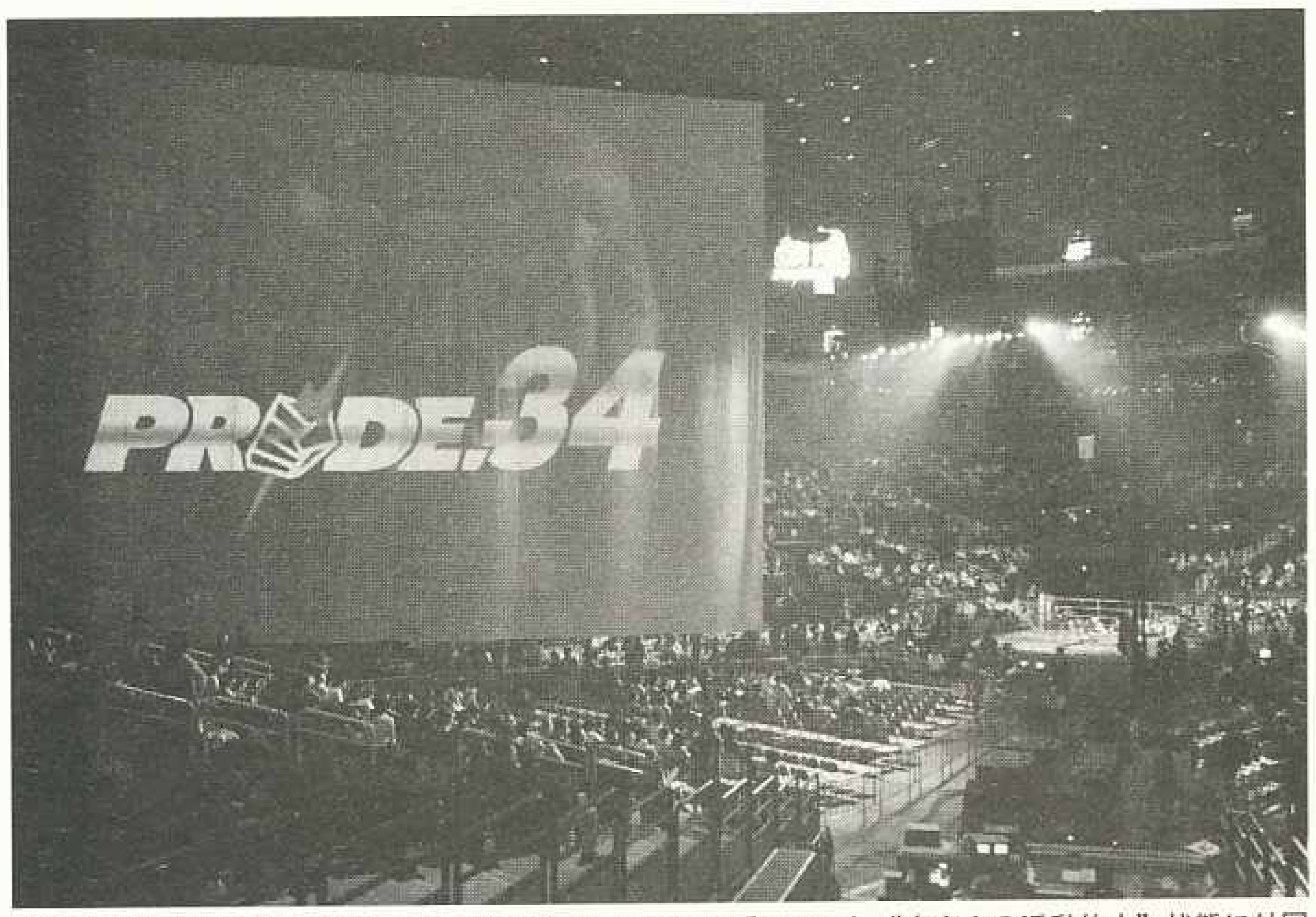
―う～ん、確かにほんの1年前までは、そうだったような気もします（笑）。

ダナ　私自身、魅力的な選手が雑誌に載っていても、指をくわえて見ているだけだった。それがいまはどうだ！　どのページを見ても私の選手ばかりだ！　ハッハッハッハ！（ページをめくりながら）クロコップもヴァンダレイ・シウバもショーグンも、みんな私の選手だ！（カール・ゴッチのページを開いて）この男だけは私のものではないがね（笑）。

―ゴッチさんはすでに亡くなっていますからね（笑）。そんな話より、いよいよ明日、UFC vs『PRIDE』の王者対決が実現しますね。

ダナ　エキサイティングだ。これから2年

間にわたって、各階級で真のチャンピオンを決める試合を行なっていくつもりだが、明日の試合がその幕開けとなるわけだ。
――そんな計画があるんですか！　しかし、とはいえPRIDEヘビー級王者ヒョードルの獲得に難航しているという話もありますが？
ダナ　う〜ん……、彼は〝もうちょっと〟だな（笑）。
――もはや、ヒョードルすらそんな段階にきてますか。しかし、その〝もうちょっと〟の壁を越えられないない理由はなんですか？
ダナ　それは、彼がそのキャリアのほとんどを『PRIDE』でしか闘ったことがないからだ。（ヒョードルを擁する）レッドデビルは『PRIDE』のビジネスのやり方には慣れているが、私たちのビジネスのやり方はまったく違う。だから、契約面において考え方を変えさせるのに時間がかかっているんだ。
――一部報道によると、ヒョードルは独占契約を嫌がっているとのことですが？
ダナ　そうだ。「コマンド・サンボの試合に出たい」とかぬかしやがる。だが、ほかの選手同様、我々はそんなことは認めない。
――では、逆に言えば、独占かどうか以外、たとえば金銭面ではヒョードルとは合意しているんですか？
ダナ　金銭面ではおおむね満足しているようだね。ただ契約にはいろんな要素がある。彼らは「ロシアでの（レッドデビルが主催する）M-1のイベントに協力してほしい」と言ってきたりもする。だが我々はまだロシアに行ったこともないんだ。どうやって手伝えっていうんだ（笑）。
――確かにそうですが、ヒョードルはとても愛国心が強く、ロシアでMMAを盛り上げたいという考えがあるらしいんですよ。
ダナ　それはわかるよ。その考え自体は素晴らしいことだ。しかしハッキリ言わせてもらうと、我々はUFC単独でほかの国でもうまくやっているんだ。パートナーを必要としているように見えるか？（笑）。



4月のDSE体制最終興行以降、すっかり沈黙したままの『PRIDE』。"事実上の活動休止"状態に外国人トップファイターたちが次々と離脱。さらに、吉田秀彦までもが最後通告を突き付ける事態に。テレビ局との契約を再開の条件に挙げるダナだが、勝算はあるのか？

――共同開催には興味はない、と。レッドデビルは、これまでボードッグと手を組んでいましたね。
ダナ　ボードッグ？　犯罪者集団はとっととファイティング・ビジネスから出ていくべきだな。それに彼らは実際、利益を生み出せずに崩壊しようとしている。だからヒョードルたちも愛想を尽かしたんだろう。
――ボードッグのオンライン・カジノ事業が違法だ、と。それからマーク・キューバンという新たな資本家もヒョードルに興味を示して、MMAに参戦してきましたね。

日本で権力を持った人間が我々を妨害しようとしている

ダナ　彼が本当に興味を示しているかどうかわからないが、多くのニューカマーたちの一つにすぎないね。
――驚異には感じていないようですね。
ダナ　多くの人間が「MMAは儲かる」と思って、気軽にこのビジネスに入ってくる。だが犯罪者集団は金を浪費するだけして、それを取り戻すことができずに脱落しかけている。そしてIFLも株価の暴落でもうおしまいだろう。プロエリートもケージ・レージを買収して金をドブに捨てた。
――『PRIDE』のラスベガス大会に協力したエド・フィッシュマンがサンノゼのストライク・フォースに接近していることは、気になりませんか？
ダナ　おもしろいな。一つ言わせてもらえれば、スコット・コーカー（ストライク・フォース代表）はいいビジネスマンだ。彼は長いあいだにわたって団体を運営していて、そのクオリティも高い。UFCに選手を供給する団体としてはいい団体だし、小さな町で頑張っていると思うよ。
――見事に見下してますね（笑）。エド・フィッシュマンのほうは気になりませんか？
ダナ　（一笑に付して）フッ……。彼も素晴らしいビジネスマンで成功者だ。だけどMMAビジネスではうまくいかない。ほかのビジネスにもっと投資すべきだろう。
――ほかの団体の動きはまったく気にしてないようですね。
ダナ　そのとおりだ。UFCで手一杯なのに、雨後のたけのこのように出てくる、小さなジョーク団体のことなんか気にしてられないんだ。だいたい、この業界の2番手の団体がどこなのかもわからない状況だろう（笑）。
――『PRIDE』が2番手になるはずじゃなかったんですか？（笑）。
ダナ　『PRIDE』は2番手なんかじゃなかった。あの団体はUFCと並んでトップ中のトップ団体だった。私は真剣に観ていたものだ。
――では、そのトップ団体である『PRIDE』の再開を断念したような発言を先日されていましたが、その真意を聞かせてください。
ダナ　ギブアップはしてないさ。ただ、日本で人々の注目を集める魅力的なイベントを開くことは現時点ではできないんだ。日本でイベントを開催しようとすると、テレビの契約が切られたことや、ダークな話ばかり出てくる。まったく理解できない。私たちは『PRIDE』を買い取って、前のオーナーとは縁を切った。なのに、なぜテレビ契約を結べないんだ？　そして、『PRIDE』のスターを集めているUFCもテレビで放送できない。不思議でしょうがないよ、まったく。たぶん誰か日本で権力を持った人間が我々を妨害しようとしている。そして彼らは独自で団体を旗揚げしようとしているに違いない。そう考えないと、なぜ日本でテレビ契約が進まないのか、納得できる説明ができない。これだけ日本には、ファンがいるというのにね。
――確かに日本のマーケットは特殊な部分があると思いますが、それらの問題をクリアするために日本での協力者を得ようとは思わないんですか？
ダナ　我々にも力を持った協力者はいるよ。だが、話が進まない。日本でのテレビ放映は3ヵ月ぐらい前に本当に契約を結ぶ寸前まで近づいたんだ。ところが、まるでプラグを抜かれるように話が消えてしまった。

ジョシュはUFCでは中堅ファイターでしかない。ずーっとプロレスだけをやってればいいさ（笑）

誰かが邪魔しているとしか考えられない。

―一部の報道では、ロレンゾ（・フェティータ）新オーナーが『PRIDE』の関係者や社員の身辺をまだ調べているために、イベントが開催できないと言われていますが。

ダナ そんなことは断じてない！ PRIDE FC WORLDWIDEについて言えば、私たちがイベントを走らせるために乗り込んだわけだ。でも、（イベントの開催実現に必要なテレビとの契約交渉が）動かない。サカキバラ（榊原信行前代表）が問題だったんだろ？ でも彼はすでに『PRIDE』から離れているし、クリアにした。でもまだ、ダメなんだ。クリーンじゃない人間は新組織にはいないのにね。我々は日本に行きたいんだ。でも、誰かが我々を締め出している。君たちはテレビ局の重役たちを捕まえて、なぜ『PRIDE』をオンエアしないのか調査する必要がある。

―う～ん……、問題はいろいろあると思いますが。しかし、お話をおうかがいしていると、日本のファンが楽しみにしている恒例の大晦日イベントは、今年はなさそうですね。

ダナ （胸を張って）今年は、（12月29日にラスベガスで開催する）ヴァンダレイとチャック・リデルの試合だよ。リデルが次の試合で勝てばね。

―あ、今年の年末はそっちですか（笑）。

ダナ それに加えてマット・ヒューズvsマット・セラというビッグカードも並べるよ。日本のファンも楽しみだろ？

―う～ん……、『TUF』のコーチ対決がアメリカで人気なのはわかりますが（笑）。ちなみに元祖・日本での大晦日イベントの可能性は？

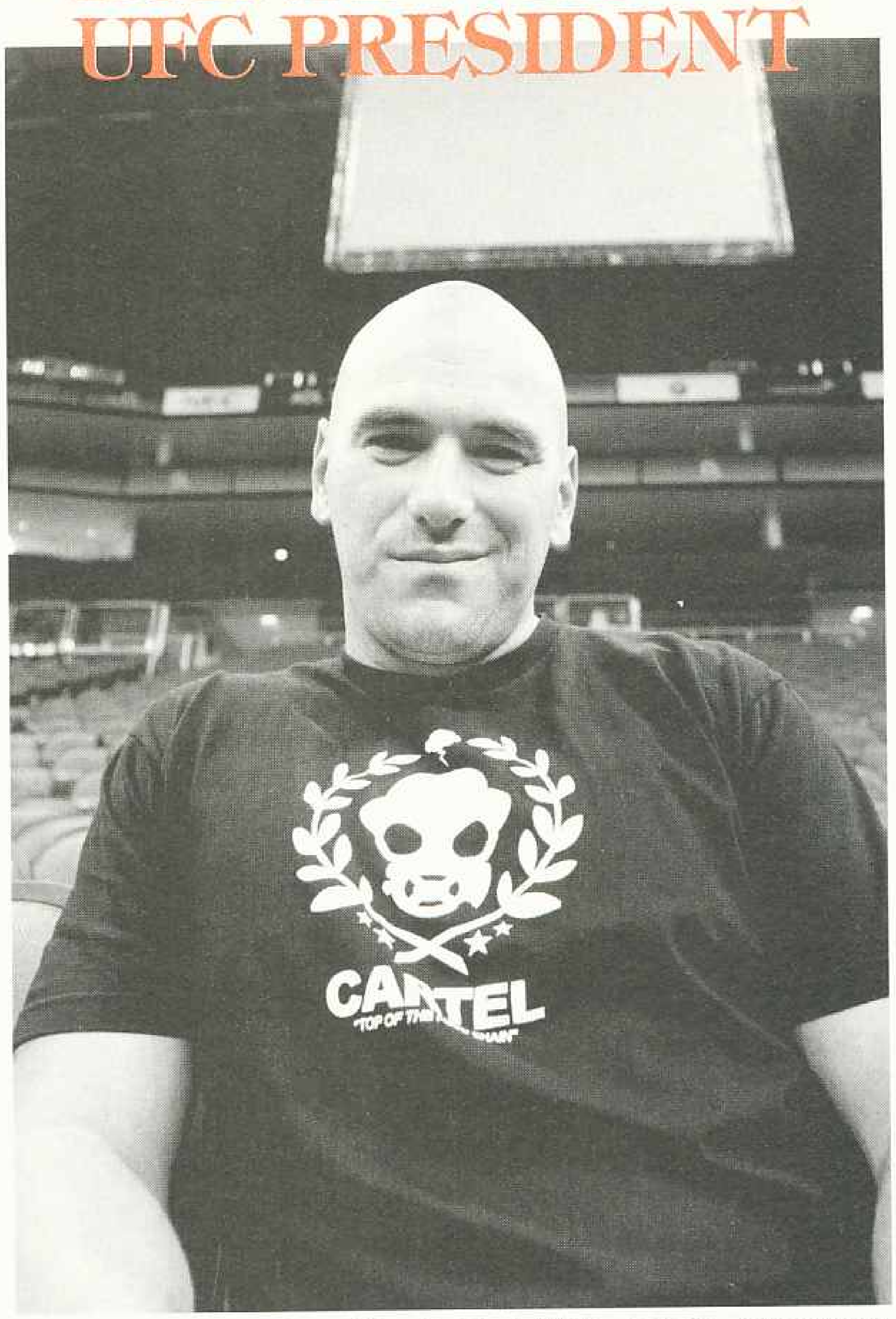
ダナ それは、日本でのスポンサーが決まって、テレビネットワークが決まればの話だね。

―12月29日の大会にはアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラも出場したりしますか？

ダナ いや、彼の試合は11月のニュージャージー大会で組むつもりだ。相手はまだ決まっていないがね。

―ところで、ジョシュ・バーネットはどうなりそうですか？

DANA WHITE
UFC PRESIDENT



DANA WHITE■1969年7月28日、米国コネチカット州出身。ハイスクールの同級生であるロレンゾ・フェティータらとボクシングジムを経営。その後、チャック・リデルらの代理人として活躍。01年よりズッファ社の代表となりUFCを運営。経営手腕を発揮し、当時赤字体質だったUFCを再建。世界ナンバーワンの団体に押し上げた。

ダナ （急にムスっとして）アイツはふざけたパンク野郎だ！

―かなりお嫌いのようですね（笑）。

ダナ アイツとはいい関係を持ったことがない。ただ、それは、サインしたくないという意味じゃないがね。

―彼が言うには「ランディに勝っているから、俺が本当のヘビー級のチャンピオンだ」ということなんですが。

ダナ なんて、おめでたいヤツだ。いつの話をしているんだ!? アイツはミルコに3度も負けているだろう。そしてミルコはゴンザガに負けている。そしてランディはゴンザガに勝っている。これでわかってもらえるかな？（笑）。

―しかしジョシュの評価は日本では高いのですが。

ダナ ジョシュがUFCのビジネスに価値があるとは思わない（キッパリ）。それにヘビー級のトップにはランディとヒョードル、ミルコがいて、さらにノゲイラ、アンドレイ・アルロフスキー、ティム・シルビア、ブランドン・ベラと続いている。この中では、ジョシュは中堅ファイターだ。

―では、ジョシュが言うように「UFCが逃げている」わけではない？

ダナ ハァ？ 我々が彼を怖がらなきゃならない理由がまったくわからないね。アイツはずーっとプロレスだけをやっていればいいんだ（笑）。

―実際に明日、IGFでプロレスをやるみたいですけど（笑）。しかし、そうは言いつつも、UFCは同じプロレスラーであるブロック・レスナーにも興味を示しているようですが？

ダナ 彼は単なるプロレスラーじゃない。（アマチュア）レスリングでの素晴らしいキャリアがある。そして、なんといってもあの身体だ。彼がUFCでどこまでできるかは興味深いし、プロレスファンを取り込むことで、ビジネスを拡大するのに役立つだろうな。実際、彼はMMAとプロレス両方で活躍できる唯一のファイターになるかもしれない。

―期待は本当に大きそうですね。ところで、ロレンゾは日本にUFCを持ち込みたいと言っていますが。

ダナ それは、『PRIDE』を吸収したときからのプランだよ。全然進んでないけどな。とにかく、日本でショーを開くために、何が問題なのか、テレビ局の関係者を調査してくれ。それが、『PRIDE』開催への一番の近道だよ。

―わかりました。では、次回のインタビューまでの宿題ということで（笑）。

ダナ エクセレント！ アイ・ラブ・ディス・マガジン！

【9月7日／英国ロンドン・O2アリーナにて収録】

PRIDE再開

イナズマはいつ走るのか?
テレビ復活の可能性を探る

横たわる現実

文/ジャン斉藤

「俺のものは俺のもの。おまえのものも俺のもの！」

そんなジャイアニズムな精神を持って、MMAシーンを我がもの顔でコントロールし、誰彼かまわず容赦なく言葉の鉄槌を浴びせる男。現在、世界最大の格闘プロモーションとなったUFCの代表ダナ・ホワイトは、日本格闘技界にとって敵なのか、味方なのか。

一刻も早い再開を待ち焦がれる『PRIDE』のファンからすれば、PRIDEファイターを次々とオクタゴンに引っぱっていく〝強大な敵〟という認識を持つのは当然だ。そして新生『PRIDE』沈黙へのイライラは、いつしかダナ・ホワイトに対する怨念へとすり替わる。「こいつのせいでPRIDEは再開できないんだ！」。なるほどその構図はわかりやすいが、「敵か？ 味方か？」という二元論で整理できるほど、ダナ・ホワイトの置かれた立場、そして新生『PRIDE』周辺の状況は簡単ではない。

確実にわかっているのは、『PRIDE』再開の足音が一向に聞こえてこないこと。そして、日本でのUFCの視聴環境が整う気配は見えないということ。現在のUFCの熱狂を伝達しきれない状況は、確実に日本の格闘技文化の後退につながる。ジャイアンが去ってしまう空き地には退屈しか残されていないが、これらの行く手を阻むものはいったいなんなのか。これまでの経緯をあらためて整理しながら、日本マット界に横たわる問題を浮き彫りにしたい。

二つの大津波

『PRIDE』の悲劇は昨年6月、突然の地上波中継打ち切りから始まった。テレビという後ろ盾を失ったまま『PRIDE』の運営を続けたドリームステージエンターテインメント（DSE）は、格闘技プロモーション史上、類を見ない巨大な負債を背負った。そこでラスベガスのカジノ王、ロレンゾ・フェティータが格闘技史上、前代未聞の大金を支払うことによって『PRIDE』を手中に収めたのだった。今年3月のことである。

UFCのオーナーでもあるロレンゾは、ダナとは高校の同級生という間柄だった。『PRIDE』とUFCは別会社とはいえ、ロレンゾがMMAシーンを熟知しているダナに全幅の信頼を寄せるのはなんら不思議ではない。本誌読者ならばご存知のとおり、ダナは事実上、〝新生PRIDEのスポークスマン〟と化している。

一方、いまだに『PRIDE』新組織（PRIDE FCワールドワイド）の体制概要は固まっていないが、一部報道では新社長にジェイミー・ポラック氏が内定したとされている。ジェイミーは元テレビ局の関係者で弁護士の資格を持つズッファ社の人間だが、MMAシーンにそれほど深く精通しているわけではない。そのため海外の格闘技関係者のあいだでは「ジェレミーに任せるなんて、本腰を入れて『PRIDE』をやる気はないのでは？」というネガティブな憶測が飛び交った。ジェイミーはこれまでに何度か来日をはたし、テレビ局との放送交渉のテーブルにもついている。



ロレンゾ氏に譲渡されることが発表された3.27六本木会見。わずか半年前の出来事なのに、上の写真の中で新生『PRIDE』の今後について饒舌に語れるのはダナ・ホワイトしかいない。PRIDEホームページ内の高田本部長ブログも更新は止まったままだ。

ダナ・ホワイトや新生『PRIDE』関係者らが、『PRIDE』再開の重要ポイントとして挙げるのは、やはり地上波放映の獲得だ。噛み砕いて言えば、日本におけるビジネススキームの確立である。いまやMMAはメガイベントにかぎらず、ゲート収入だけではとても成立しえない。旧『PRIDE』はPPV収益が大きな柱だったとはいえ、テレビの放映権料も収益の大きなウエートを占めていた。加えて、テレビを後ろ盾にした有力企業からのスポンサードを失ったダメージも大きかったという。

いわゆる〝フジテレビ・ショック〟で片翼飛行を強いられた『PRIDE』に、地球的規模のMMAバブルという大津波が追い討ちをかけた。ファイターのファイトマネーは従来の額の2倍、3倍へと跳ね上がった。

そのMMAバブルぶりをあらわす象徴的なエピソードがある。格闘史に残る大ヒットシリーズになった04年の『PRIDEヘビー級GP』の決勝ラウンドにはヒョードル、ノゲイラ、ハリトーノフ、小川直也のベスト4ファイターに、ミルコ・クロコップ、ヴァンダレイらがスーパーファイトで出場。とてつもない超ウルトライベントになった（当日券を求めて開催二日前から会場外に泊まり込むファンもいた）が、全出場選手のファイトマネーの総額は、DSE体制ラスト興行となった4・8『PRIDE・34 KAMIKAZE』のほうが上回ったというのだ。いますぐこの二つのイベントの出場選手を並べて見比べてほしい。そこにはMMAバブルの恐ろしさが浮き彫りになっている。

一人歩きするウワサ

5・20に予定されていた『PRIDE』ライト級GP開催延期発表後、新生『PRIDE』からのオフィシャルアナウンスは何一つない。そのため、ウワサだけが『PRIDE』を取り巻くことになった。

一部スポーツ紙上では大々的に〝8・18復活〟が報じられたりもした。記事を読むと、『PRIDE』側が8月18日にさいたまスーパーアリーナを予約し、大会開催の準備を開始。関係者が「新体制最初の大会は、東京近郊でやりたいという新オーナー（ロレンゾ・フェティータ氏）の意向のようです」と明言したという。結局、8月18日の予約は、DSE体制時にされたことがのちにあきらかになる。それにしても、このニュースは本当に不思議だった。まず掲載されたスペースはバトル面ではなかった。『PRIDE』サイドに確認を取りさえすれば、〝事実無根〟だと判断できるニュースをわざわざ掲載した理由はなんだったのか。何かしら政治的な背景があったのだろうか……。バラバラになっているジグソーパズルが完成されたとき、いったいこのニュースの裏側からは何が見えるのか。

その後も何度か開催説が浮上する。髙田延彦PRIDE統括本部長が『PRIDE・1』が行なわれた10月11日の開催を〝希望〟した話が、いつの間にか開催説として各地を飛び交い、流れ流れてアメリカにたどり着き、ダナ・ホワイトが一笑に付すこともあった。関係者が発した噂が巡り巡ってやまびこのように本人に跳ね返り、それを事実として「やっぱり本当だったんだ！」と確認する悪循環も続いている。

本来ならば新生『PRIDE』のお披露目となっていた5・20ライト級GP開幕戦は、ノーテレビで行なわれる予定だったという。アメリカサイドはおそらく「新体制になればテレビがつくだろう」と楽観視していたのだろうか。それに軽量級はヘビー級ほどファイトマネーが高騰しておらず、収支的にも赤字にならないと踏んだのか。

『UFC73』で起きたエルメス・フランカのステロイド事件からもわか

るように、UFCにつけ入るスキがあったとすれば、軽量級ファイターが恵まれた待遇を受けていないということだ。チャンピオンシップの機会を手に入れたフランカは、「5ヵ月ぶりの試合のチャンスを流したくない」一心で、ケガによるトレーニング不足をステロイドで補った。

「私のレベルのファイターでも生活は質素そのものだ。試合を終えたら、次の試合まで収入はない。そして妻と子どもの待つ、家のテーブルに食事を出すため、そして、来月の家賃を払わないといけないというプレッシャーのために、後先考えずにステロイドに手を出してしまった」（フランカ）

いまではUFCは五味隆典、山本KID徳郁らにオファーを出していることを表明。「どこよりも高いファイトマネーを出す」ことを明言しているともいう。日本格闘技がつけ入るスキは埋まってしまったのか。『HERO'S』はともかく、人材流失が激しい『PRIDE』からは、現時点でどのような性質のイベントになることすらも見えてこない。そもそもまず確実なビジネススキームが組み立てられないことには始動しえない。

ダナ・ホワイトとテレビ

33ページのインタビューで触れられているが、ダナ・ホワイトは日本のテレビ局との交渉の最中に〝妨害〟が入ったことを示唆した。ロレンゾに5・20ライト級GP開幕戦の中止を判断させ、『PRIDE』を沈黙状態に追いやった〝巧妙な妨害〟があったことを前号でも報じたが（この妨害についてはいろいろと憶測がされているようだが、いま言えるのは〝日本発〟のものだということだ。いずれ時を見て明らかにしよう）、その妨害と手段は異なっていても、とにかく『PRIDE』&UFCの行く手を阻む障害は多いということなのか。そもそも妨害がなかったとしても、日本のテレビ局が長期的展望を持って『PRIDE』&UFCに取り組む可能性は未知数だが……。

「アメリカで大人気のUFC、おまえら当然放送するんだろ？」

「もちろんです！」

「当然だな。ついでに『PRIDE』も流していいぞ。ガッハッハッ！」

……以上のやりとりは大げさだとしても、交渉の席では相当に強気な評判は伝わってくる。それはそうだろう。いまやアメリカやイギリスで莫大な収益を上げている。なのに、日本だけなんの戦略もなしに「一大会につき12億円」ものリスクをただ無謀に背負うわけがない。旧『PRIDE』はそれで立ちゆかなくなったことを、ダナは理解している。

しかし、『PRIDE』だろうが、UFCだろうが、そんなに簡単に事が進むわけがない。放送枠を調整するのは編成局。スポンサーを獲得するのは営業局。現場の声も無視はできない。あらゆるセクションにまたがって一つの番組は作られていく。そのためそれぞれの思惑もあるのだろう。ある格闘技イベントでは、現場と事業局の主導権争いによって、会場のビジョンにテレビで放送されるはずの煽り映像が流れなかった。ゴールデンタイムの中継なのに、内部の軋轢が平気でイベントの歯車を狂わせた。



大晦日開催の有無が新生『PRIDE』の命運を握っているという言い方は決して大げさではない。そして開催ができなかった場合、大晦日のさいたまスーパーアリーナはどこが使用するのか!?

フジテレビの格闘技番組がスマートに見えたのは、『フジテレビ格闘技委員会』という強力なコネクションを持つ存在があったからだ。編成、営業、中には取締役の人間も名を連ねた『フジテレビ格闘技委員会』は、94～96年頃、K—1のゴールデンタイム進出のために各方面で各人が尽力した。格闘技情報番組『SRS』がスタートしたのもその成果であり、局を挙げての格闘技に対するバックアップがあったのだ。それは『PRIDE』ブレイクの基盤にもつながった。

テレビの可能性

現在も『PRIDE』やUFCを放映したいと思っているテレビ局の人間は多いと聞く。ただ、一人の力で一つのテレビ局を動かすことはどうにも不可能だ。一時期のフジテレビのように、局を挙げて格闘技に力を入れていくかといえば、いまのタイミングでは相当に難しい。あるテレビ関係者はこう言う。

「もう、『PRIDE』自体が問題じゃないんです。格闘技自体を取り扱うことにテレビ局がおよび腰になっているんですよ」

「黒か白か、そういう問題ではないんですか？」

「事実はさておき、イメージの問題。ただ、風向きを変える話題性があればいいんですよ。たとえば、朝青龍が活躍できるかどうかはともかく、来るなら（テレビ局としても）また動きますね」

その関係者は『PRIDE』とUFCの中継についてこう語る。

まずUFCにおける障害は、オクタゴンにはバイオレンス性の強いイメージが強く、ゴールデンタイムには不向きであること。マニア層はともかく、一般層を取り込んでの視聴率が見込める要素が薄い。この問題はゴールデン&プライム進出前の『PRIDE』も危惧されていたが、深夜枠や夕方枠で時間をかけてブランドを磨き上げたことで解消された。しかし、いまや飛ぶ鳥を落とす勢いのUFCである。深夜枠や夕方枠の放映権料でうんとうなずくことはないだろう。『PRIDE』の放送復活に関しても、かつての『PRIDE』の世界観を維持していくのであれば、ネックになるのは放映権料だ。

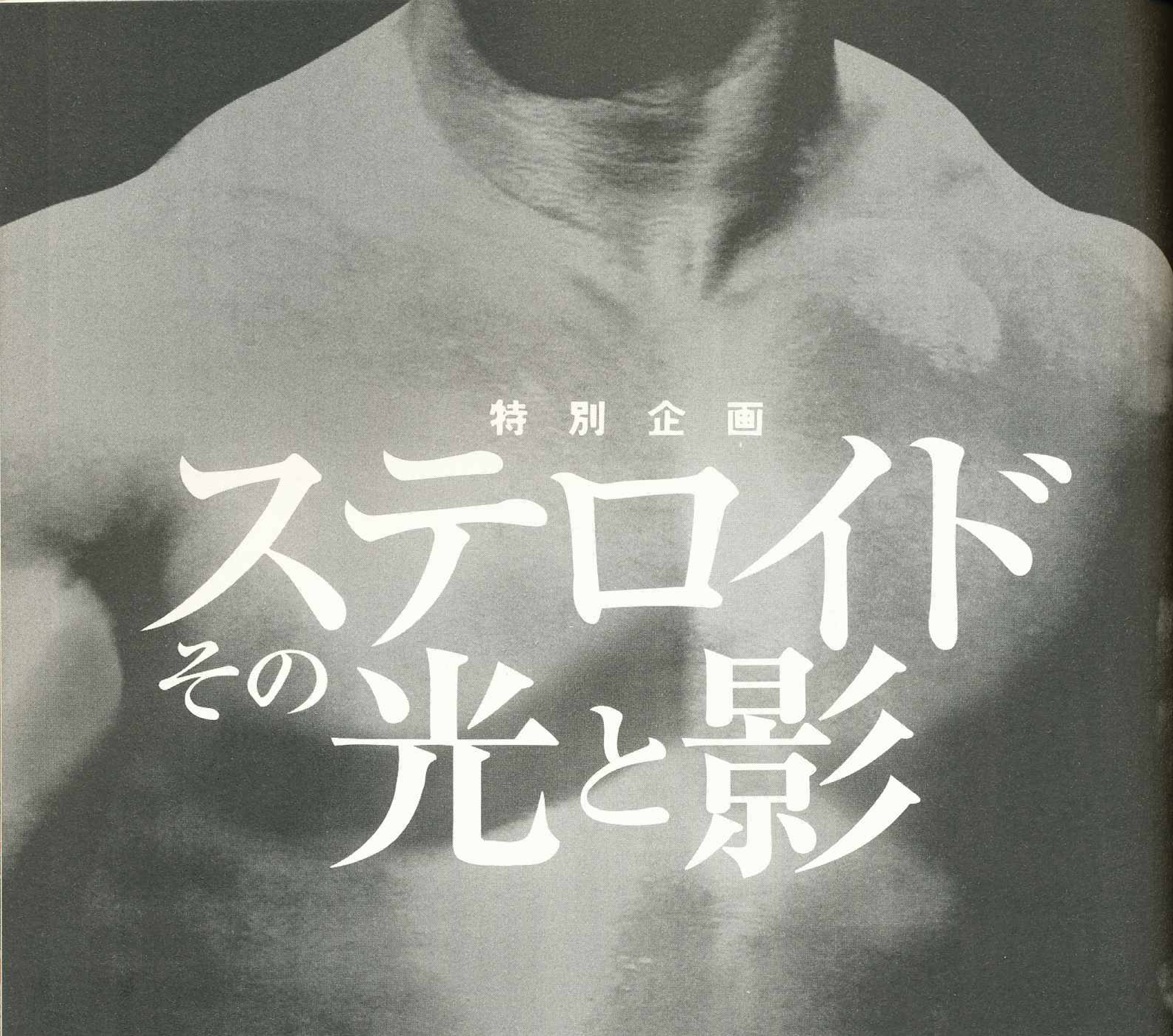
逆にテレビ局からすれば、格闘技に何億円もかけるのならバラエティやドラマに予算をかけたほうがはるかに効率はいい。『PRIDE』の場合はフジテレビ上層部の決断によって打ち切りが緊急決定。逆に言えば、上層部の意向によって急きょ放送が決まる可能性もあるということなのだが……。

地上波に関してわずかな光明があるとすれば、逆にUFCのほうなんじゃないだろうか。UFCはアメリカ市場のPPVで充分に採算が取れる。日本開催でも、スパイクTVのレギュラー番組内での放送は可能だし、リアルタイムは厳しいが、一応PPV中継も可能である。放映権料を度外視し、深夜枠を日本進出のプロモーションとして有効活用。時間をかけて成長させる考えがあるかどうかだが……。ダナに言わせれば「いますぐUFCを放送したいと言ってる国は世界中にある」のだろう。

とどのつまり、MMAビジネスは大きくなりすぎてしまった。テレビ局でさえ手に負えないジャンルになろうとしている。

かつて日本の大晦日——。ブラジル人選手同士の血を血で洗う抗争が、あたりまえのようにノーカットで放送されたなんて誰が信じる？ ポーランド人柔道家と、全身に刺青を入れた無愛想なロシア人の試合は、同時刻に裏番組で放送された矢沢永吉のライブを視聴率で上回った。ありふれた日常は、いまとなってはおそろしく奇跡的な空間だった。

そして今年の大晦日——。かつてあたりまえだった奇跡は再現できるのか。新しい奇跡が舞い降りるというウワサはあるが、雲をつかむような話ではある。いずれにせよ、新生『PRIDE』の大晦日開催の有無は、遅くとも10月中までには判明するだろう。……してほしいなあ。



特別企画

ステロイド その光と影

クリス・ベノワ事件の続報も……



**プロレス＆格闘技界がいま揺れている。
6月のクリス・ベノワ事件を発端に
アメリカのメディアではWWEの
薬物問題が社会問題化！
世間を巻き込んで大きな話題となり、
ようやくWWEも重い腰を上げて
大量の処分者が出た模様だ。
台頭著しいMMA業界でも
ステロイド使用の発覚が続出している。
これは「アメリカのことでしょ?」などと
笑い飛ばすことはできない。
プロレスでもMMAでも、
日本とアメリカは地続きなのだから。**

構成／坂井ノブ



なぜプロレスにステロイドは必要なのか!?

この企画でもう一度、根本的に考えてみたい!

プロレスにステロイドは必要なのか?

この企画では、そんな遠大なテーマに取り組んでみたい。ステロイドを過剰に摂取したオールドタイマーのムチャクチャなエピソードが伝説のように語り継がれているが、アメリカのトップレスラーがステロイドを摂取して鎧のような肉体を作り上げるのは、もはや伝統のようになっている。リスクを省みず、過剰に摂取することで、肉体もどんどん過剰になっていく。過剰な肉体に人々の目が注がれ、より多くの稼ぎをあげることができる。そんなルーティンの中から多くのスターが生み出されていった。

その一方で、70～80年代に一世を風靡したプロレスラーたちが40代そこそこで急死するという事態も発生している。その悲報が伝えられるたびに「ステロイドの影響で……」と枕詞のように語られるが、日本のプロレスファンは海外から伝えられる訃報に持って行き場のない悲しみだけを募らせている、というのが現状だ。

そんなときに発生したのが今年6月のクリス・ベノワの一件だ。次のページで詳しく触れるが、ステロイドの影響であるという断定的な論調で、アメリカでは社会問題になってしまっている。標的となったWWEは選手を大量処分することで「ステロイドの乱用を容認している」という批判をかわそうとしているが、問題の本質からはだいぶ離れてしまっているような気がする。

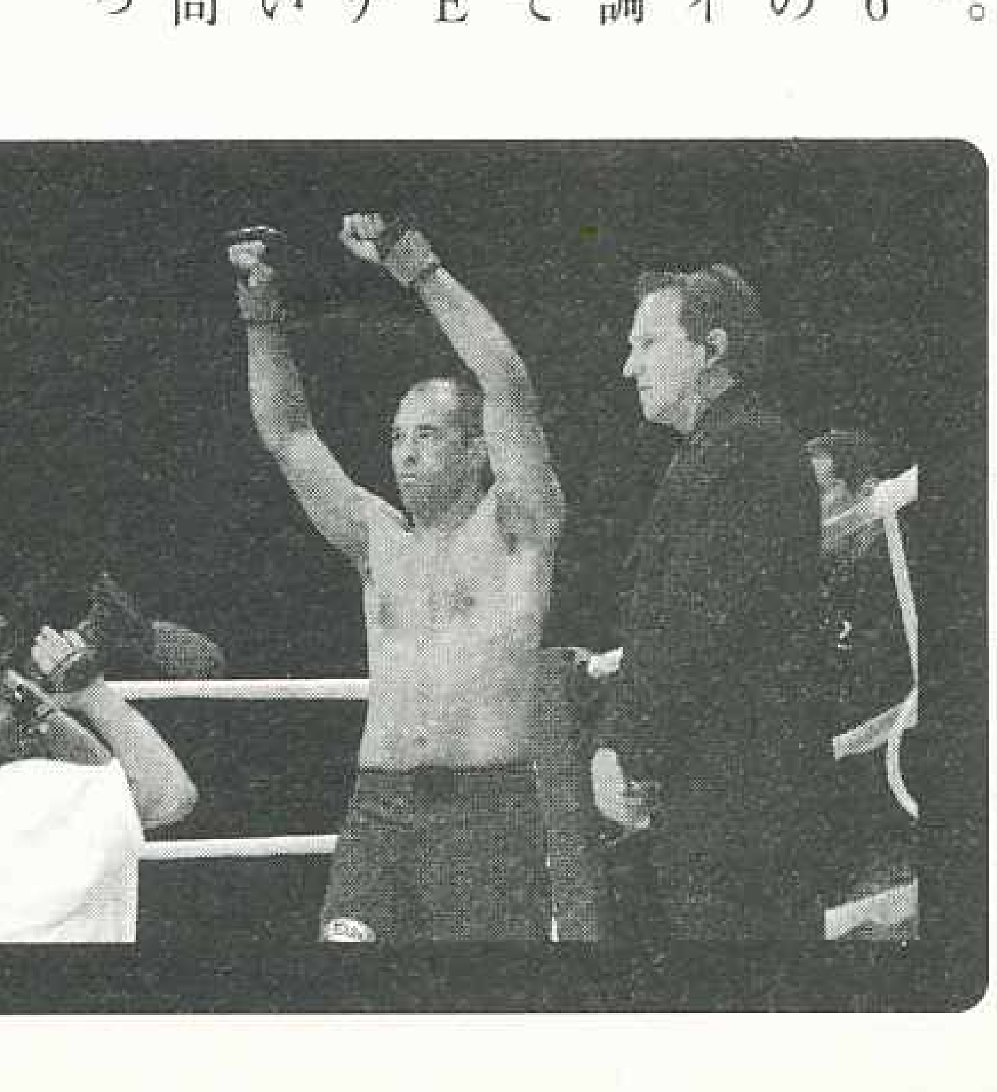
徹底的にショーマンシップを優先するプロレスとはそもそも成り立ちが違うので同列に比べることはできないが、アメリカで台頭するMMA業界でも多くのステロイド使用が発覚している点も見逃すわけにはいかないだろう。アメリカにおけるMMAでは出場選手に各州のアスレチックコミッションによる検査が義務づけられているので、ステロイド使用をチェックする体制がしっかりとできあがっているのだが、それでもステロイドを使用する選手があとを絶たない。

こうした状況を考えるとき、プロレスにせよ格闘技にせよ「ステロイド根絶」を掲げるのが従来のマスコミ的な立ち位置だろう。ステロイドをやめようという主張はおそらく正しい。ただ、正しいだけの正論を振りかざしているだけでは問題の本質に触れないのではないか? 机上の空論の域を出ることはないだろう。

ここでは安易な暴露やスキャンダルに走ることなく、プロレスラーや格闘家がステロイドを使用する背景や現状を探っていきたい。

(文/坂井ノブ)

プロレスだけじゃない! 2007年格闘技ステロイド事件簿



プロレスラーのステロイド使用ばかりがクローズアップされているが、アメリカで台頭著しいMMAでもステロイド使用が発覚するケースも増えてきた。各州のコミッションがドーピング検査を徹底しているため、いわゆる筋肉増強剤以外にもマリファナなど向精神性のドラッグの検査も徹底化している。ここでは主要選手の事例をピックアップしてみたい。

【1月】
ジョー・ピアソン

1月20日のWECでユライア・フェイバーと対戦したピアソンからマリファナ陽性反応が検出され、6ヵ月の出場停止と800ドルの罰金が命じられた。ピアソンは『PRIDE武士道』でパンクラス稲垣組の前田吉朗を秒殺KOで下したこともある強豪だ。

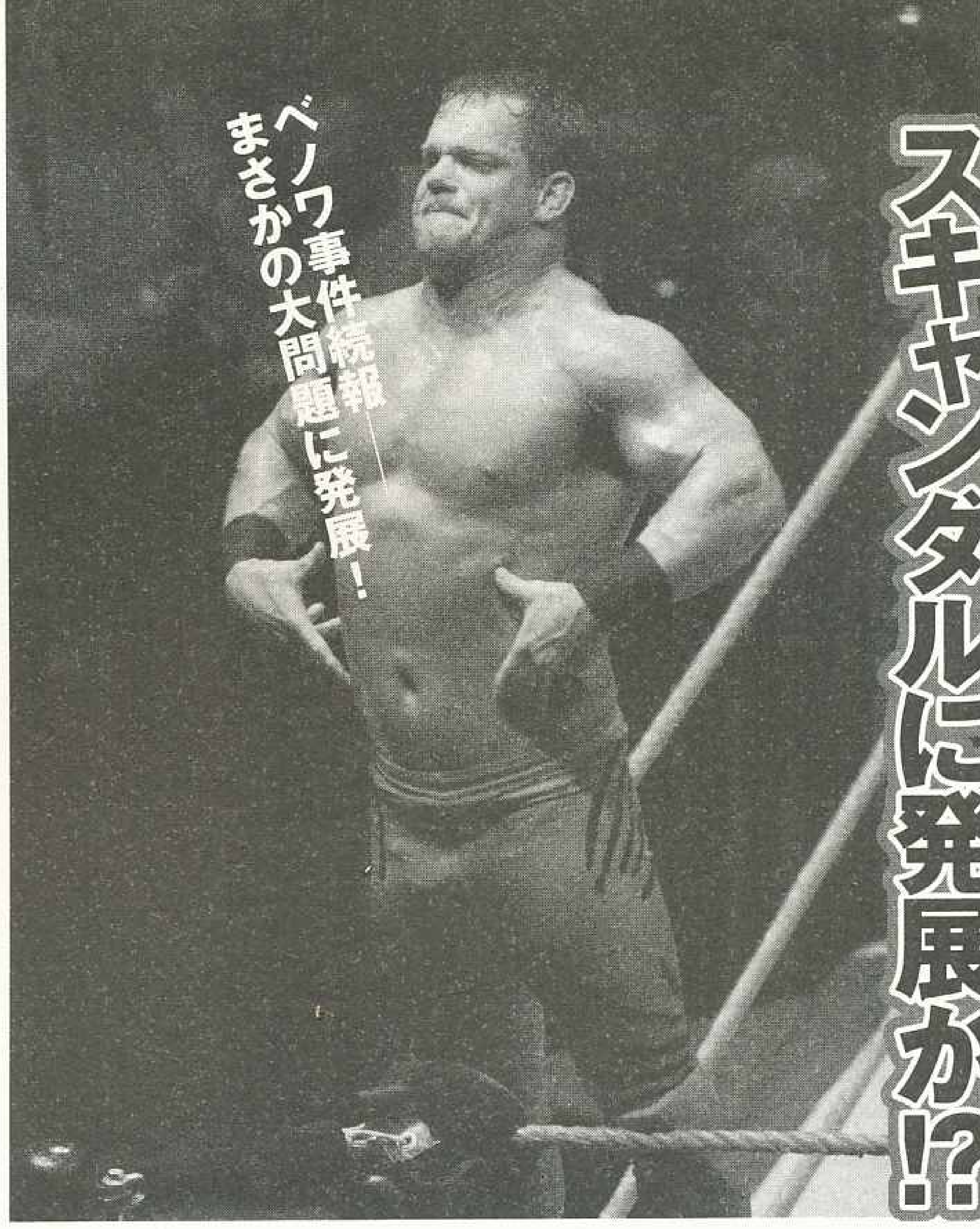
【2月】
ニック・ディアス

2月24日の『PRIDE・33』で行なわれた五味隆典戦の際にマリファナ陽性反応が出たため失格処分となり、6ヵ月の出場停止が課せられた。マリファナは痛みを感じなくなるため、カリフォルニア州では医療用の使用は認められているとはいえ、試合前に使用することダメージの影響がなくなると考えられている。本人は「当日は吸っていない」と主張。当日であろうとなかろうと、違法であることには変わりないのだが。ちなみに06年12月の『UFN』に出場したディエゴ・サンチェスからもマリファナ陽性反応が出たが、こちらは3ヵ月の出場停止、罰金500ドルの処分が下されている。

WWE激震！

史上最悪のステロイド・スキャンダルに発展か!?

トップ選手が軒並み処分対象に！



6月末のクリス・ベノワ事件を発端に、いまアメリカではWWEバッシングが凄まじいことになっている。

息子と妻を殺害したあとに首を吊って自殺するというショッキングな行為はスキャンダラスな報道となり、悪い意味での世間の注目がWWEに集まることとなった。ベノワは検死の結果、ステロイドや違法な薬物は見つからなかったものの、体内からは通常の10倍にあたるテストステロン（男性ホルモンの一種）が検出されたと発表された。こうした薬物が内臓だけでなく精神にも悪影響を及ぼすということで、ベノワ事件の原因をステロイドに求める声が強まっていく。

そんな中、「WWEはペインキラー（鎮痛剤）とステロイドまみれだった」などとテレビ番組で暴露しまくる元WWEのマーク・メロやストーンコールドの元妻デボラに対して、WWEスーパースターが真っ向から否定するという構図が続いていた。

また、こうした議論に対して議会も動きだす。アメリカ下院政府改革委員会の議長であるヘンリー・ワックスマン（民主党）がWWEの薬物検査に関する資料を提供するように要求した、というニュースがESPN.comで伝えられた。ベノワの事件によって、プロレス業界におけるステロイドや薬物の乱用の問題が浮上したというのが彼らの主張だ。

また共和党のクリフ・スティアンズ下院議員と民主党のボビー・ラッシュ下院議員もビンス・マクマホンに対して情報提供を呼びかける文章を送付。9月下旬には公聴会も開催される予定になっている。

WWEでは05年11月にエディ・ゲレロが急死した直後からより一層、薬物対策に力を入れており、06年2月にはWWEタレント・ウェルネス・プログラム（以下、ウェルネス・プログラム）を導入していた。これはステロイドや薬物をレスラーが使用していないか管理・検査するためのプログラムで抜き打ちで行なわれるもの。いままでベノワはこのテストもクリアしているのだが、その詳細は公表されておらず、世間の注目が高まっていた。

そして、ついに爆弾が炸裂する。8月中旬、ベノワも顧客だったフロリダ州オーランドにあるシグニチュア・ファーマシーという薬局が、インターネットで注文を受け、タンパク同化ステロイドや成長ホルモンや鎮痛剤などを医師の処方箋なしに販売していたことが判明したのだ。WWEの調査により、シグニチュアの顧客として名前が挙がり『ウェルネス・プログラム』に違反したことが判明した選手たちには、30日もしくは60日のサスペンド（出場停止）が科せられることになった。WWEは今回名前の挙がった選手を公表しておらず、11月1日にすべてを公表することにした模様だ。

だが、ネット上では（噂レベルだが）処分対象者として、エッジ、フナキ、ランディ・オートン、グレゴリー・ヘルムズ、ウマガ、キング・ブッカー（処分を受け退団）、クリス・マスターズ、サイモン・ディーン（すでに引退して裏方として働いていた）、チャーリー・ハース、ウィリアム・リーガル、チャボ・ゲレロ、ジョン・モリソン、ミスター・ケネディの名前が挙がっている。さらに、今回の騒動と関係があるのかどうかは不明だが、ユージーンの解雇も発表された。

このシグニチュアからはNFL（アメリカンフットボールのプロリーグ）の選手にも薬物が流れていることが明らかになり、この問題はさらなるスキャンダルに発展する可能性が高い。WWEはウェルネス・プログラムの強化を決定し、いままでテスト対象ではなかったマリファナも検査され、ステロイド使用を隠蔽する薬剤もドラッグテストの対象とすることになった。また、どんな選手であろうと3回の違反で解雇となることが確認された。

ここまでの大規模な処分はWWE始まって以来のこと。もはやアメリカにはメジャー団体はWWEしか存在しないだけに、WWEがコケれば業界そのものの存亡に関わる一大事となる。今回の事件は対岸の火事ではないのだ。

（文／坂井ノブ）

【6月】

ホイス・グレイシー

6月2日の『Dynamite!! USA』で行なわれた桜庭和志戦の試合後のドーピング検査でナンドロロンが検出された。1年間の出場停止と2500ドルの支払いが命じられた。ホイスは1年1試合のペースだし、約30万円程度なら痛くもかゆくもないのだろうが……。「ステロイドを使っているような身体には見えない」とはダナ・ホワイトの弁。本人は使用を否定している。

ジョニー・モートン

6月2日の『Dynamite!! USA』でベルナール・アッカと対戦してKO負けを喫した元NFLスター選手のモートンから高いレベルのテストステロンが検出された。2500ドルの罰金が科せられ、ライセンスも取り消しという厳しい処分が下った。ドーピング検査への協力を拒否した上に、公聴会への出席もしていないため厳しい処分が下されたようだ。

フィル・バローニ

6月22日の『ストライク・フォース』でフランク・シャムロックと対戦して2Rにチョーク・スリーパーで敗れたフィル・バローニ。ステロイドが検出され1年間の出場停止処分と2500ドルの罰金という処分が下された。

【7月】

ショーン・シャーク
エルメス・フランカ

7月7日の『UFC73』で行なわれたタイトルマッチで、王者と挑戦者がともにドーピング検査に引っかかるという前代未聞の事態が発生した。シャークからはナンドロロンが検出され、フランカからはアナボリックステロイドが検出された。シャークは使用を否定した一方で、フランカは「タイトルマッチの約6週間前に足首にひどい怪我をした」と声明を発表。さらに経済的な窮状から試合を断るわけにはいかなかったこと、試合をするためにステロイドを摂取したことを告白した。ちなみに、タイトル戦にもかかわらずフランカのファイトマネーはたったの1万4000ドルだった。フランカには2500ドルの罰金と1年間の出場停止が命じられた。

【8月】

ザビット・サメドフ
リカルド・ノードストランド

8月11日のK-1ラスベガス大会でザビット・サメドフ（ベラルーシ）とリカルド・ノードストランド（スウェーデン）からステロイドが検出された。サメドフは世界最終予選の準優勝選手。ステロイドはアメリカだけの問題ではない。



弘邦医院
林督元医師

プロレス界を代表するリングドクターに聞く
ステロイドの効果と副作用

ステロイドにまつわるショッキングなニュースが次々と伝わってくるわりに、「ステロイド」という薬物が、何で作られていてどんな効果があるのか、あれこれ噂されている副作用ってホントのところはどうなのか、意外と知らないことが多いのではなかろうか。そこで、正しい知識とプロレスの現場の両面をよく知る人として、リングドクターの林督元先生を直撃した。

聞き手／齋藤奈緒子

――まず、「ステロイド」という薬について教えてください。

林　アトピーの塗り薬や、気管器系の治療に使うステロイドと、筋肉増強剤としてのステロイドがあって、その二つはちょっと違うんですよ。前者は副腎皮質ホルモンと呼ばれるもの。後者の筋肉増強としては、タンパク同化ステロイド（※1）、それと男性ホルモン剤（※2）があって、これらを指して「ステロイド」と呼んでいるのでしょう。タンパク同化ステロイドや男性ホルモン剤は、原料は化学物質、あとは**大豆**や**山芋**などが使われる場合もあります。筋繊維が大きくなるのでパワーアップしたり、元気になって疲れにくくなったりしますね。アスリートだったら、より早く走れるような実感があるでしょう。

――筋肉増強用にはどんな薬が使用されているんですか？

林　われわれ医師が日本で手に入れられる範囲で言うと、タンパク同化ステロイドではプリモボラン（※3）、男性ホルモンでは、エナルモンデポ（※4）など。それと、デカデュラボリン（※5）というタンパク同化ステロイドもありますが、そちらは関節の痛みに即効性があると言われてます。あとはヒト成長ホルモンというのもあって、アメリカではよく使われていますが、高価だし、日本ではここ1年でやっと発売されたぐらい。いまは**インターネットで海外からいろいろ買えたりする**ようですけどね。

――メ、メモが追いつかない……。やはり気になるのが、そういったものを使った場合の副作用なんですが。

（※1）
タンパク同化ステロイド
人間の体内で作られる男性ホルモンの中で、最も強力な作用を示すテストステロンの化学構造を模した薬物のうち、タンパク同化作用（筋肉などの原料となるタンパク質の合成を促進する）が強いものを指す。別名「アナボリック・ステロイド」。経口、注射などによって

ステロイドは「悪魔の薬」ではない!?
問題は〝自己判断〟と〝大量使用〟

林　長期間使わないと、副作用を起こすってことはないし、医師が体調をチェックしながら使えばまず心配はないんですよ。ただ、身体が大きくなるという理由で、**自己判断で勝手な量を打ち続けてしまう**のが問題なんです。アメリカのレスラーたちが40歳前後で亡くなっているのは、ステロイドを**長期間、大量に使う**ことに原因があるんです。

――「ステロイド」という言葉からイメージするほど、何がなんでも危険な薬ではないというわけですね。

林　そうです、そうです。外国人レスラーのステロイドの使用量は、**日本人の5倍ぐらい**ですから、それを**週に2回も3回も**使えば、動脈硬化を起こして心臓や脳の血管が詰まったりするだろう、と。よくみんな、頭がハゲるとか、生殖機能が落ちたり、睾丸が小さくなるのを心配しますが、それはどちらかかというと男性ホルモン剤のほうの影響が大きいです。タンパク同化ステロイドにも男性ホルモンの作用が強いものがありますが。でも、いずれもきちんとチェックを受けて、よっぽど大量に長期間使用しなければ、そういったことにはならないです。

――ビリー・グラハムが腰の骨が砕けたとか、あと胸が女性化して大きくなるという話も。

林　長く使っていれば骨はもろくなりますよ。大腿骨が変形したり骨折することもあります。ケガもしやすくなります（※6）し。**胸が女性化する**のは、使いすぎというより**突然変異**です。テストステロンと女性ホルモンの構造はよく似ていて、人によっては体内で変異してしまうことがあるんです。

――「短気になる」とかは、ステロイドのせいだけじゃないような気もしますが。

林　ステロイドで鬱になるっていうのはわかるけど、クリス・ベノワも自殺までは可能性としてあるかもしれないけど、人まで殺すっていうのは考えにくいよね。

――ところで、もしどんなにトレーニングを積んだとしても、ステロイドで鍛えた筋肉のようにはなりえないんでしょうか。

林　そう思いますよ。**使えばその違いはわかる**でしょうね。

――アメリカではチェック機関が厳しくなって、WWE、UFC、K-1などでどんどん違反者が出ていますが、日本のプロレス界の場合、そういうチェック機関はあるんでしょうか。

林　**ないですね（キッパリ）**。検査するのもけっこう大変で、日本では三菱化学メディエンス（※7）しかやってくれないんですよ。費用もかかるし。ただ、いくらインターネットでステロイドが簡単に手に入るからといっても、日本がアメリカみたいな状況になるっていうのは考えにくいですけどね。

――いまのところは、個人の管理にかかっているんですね。

林　私もまあ、血液検査をいろんな団体でできるだけやるようにはしてますけど、全員ってわけにはいきませんし、べつにステロイドの反応を調べてるんじゃないですし。ただ、肝機能が低下したり、筋肉を鍛えるとCPKっていう酵素が出るんですけど、その数値が異常に高い人なんかはステロイドの疑いがありますよね。

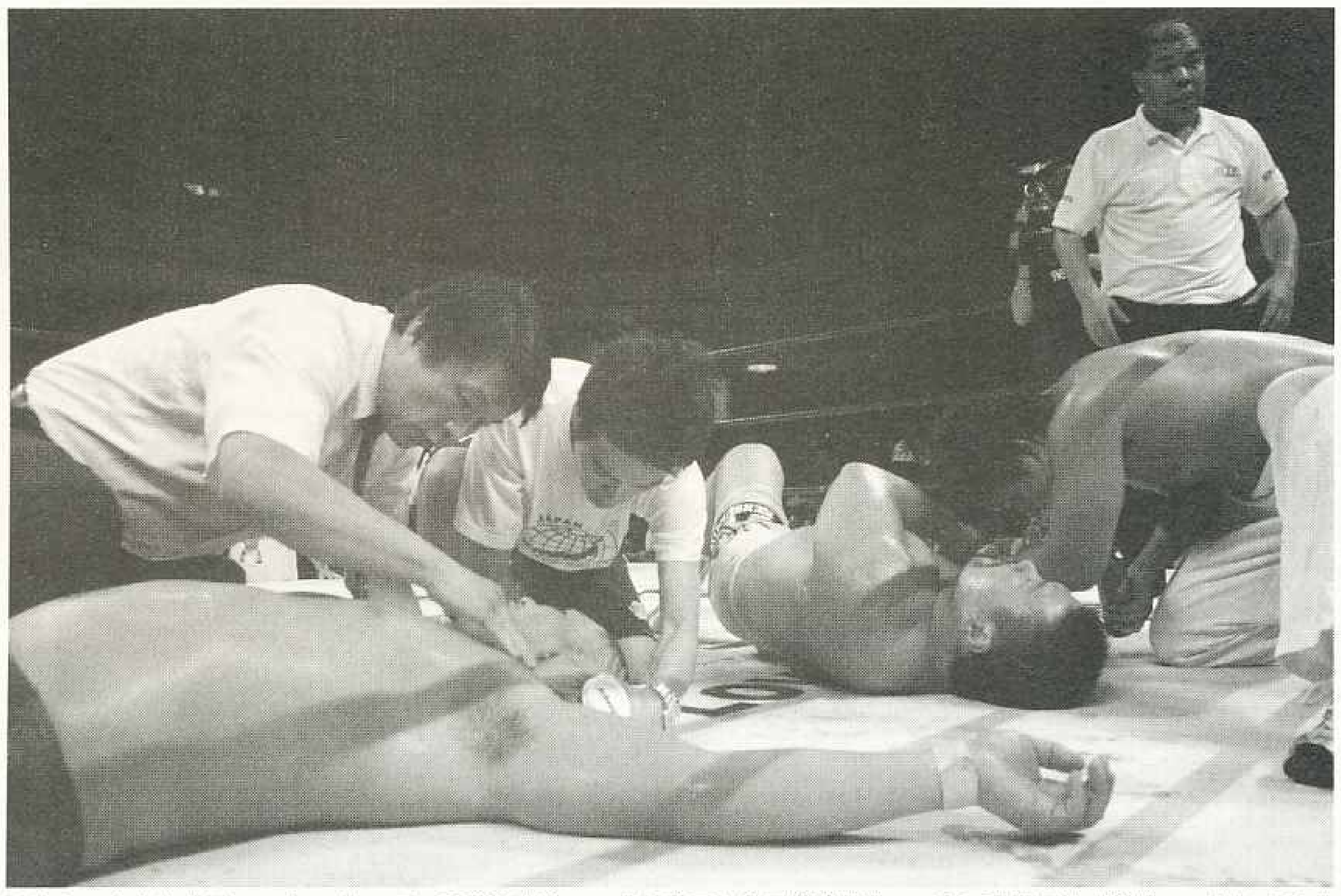
――日本のプロレス界ではまだステロイド絡みの刑事事件は起こっていませんが、海外では、将来の健康を抵当に入れてまで、大量にステロイドを使って、命を落としてしまうレスラーもいるわけで。先生はそういう心理をどうお考えになりますか。

林　まあ、レスラーとしては、**ハイリスク・ハイリターン**なんでしょうね。やっぱり**仕事はほしい**し、人気が出るためにはいい身体も必要でしょう。でも、若いうちは、将来どうなるかってことを考えないで使ってしまうんじゃないかな……。人間の身体は、いろんな成分が微妙なバランスで釣り合っているから、どこかのバランスが崩れるとほかとの釣り合いがとれなくなるんです。でも、それだと**普通の人**なんですよ（笑）。

――普通の人（笑）。プロレスラーが普通の人じゃ困っちゃいますよね。

林　そこがこの問題の難しいところなんですよね。

【07年9月3日／江戸川区弘邦医院にて収録】



はやし・まさゆき■1949年12月19日、千葉県出身。76年に秋田大学医学部卒業。84年に弘邦医院を開業。88年に全日本女子プロレスのコミッションドクターに就任後、プロレス界のさまざまな団体のリングサイドで選手の健康状態を管理している。プロレスラーや団体関係者からの信頼も厚い。また日本スポーツ吹矢協会の発足にも携わり、お笑いライブにも出演するなど幅広く活躍中。あらためて書くまでもないが、ここに写っているレスラーとステロイド問題の関連性はない。

体内に摂り入れる。代表的な薬品名には、ベン・ジョンソンが使ったとされるスタノゾロール、01年、世界陸上でマリーン・オッティが使ったとされるナンドロロンなどがある。

（※2）
男性ホルモン剤
タンパク質同化ステロイドと同様、テストステロンの化学構造を模した薬物で、特に男性化作用（男性らしい身体を作る）の強いものを指す。主に注射、経口で摂り入れる（海外ではジェルや貼り薬もあるが日本では不認可）。タンパク同化ステロイドと併用されるケースが多い。メジャーリーグのトビー・マグワイアが使っていたアンドロステンジオンもこの一種。

（※3）
プリモボラン

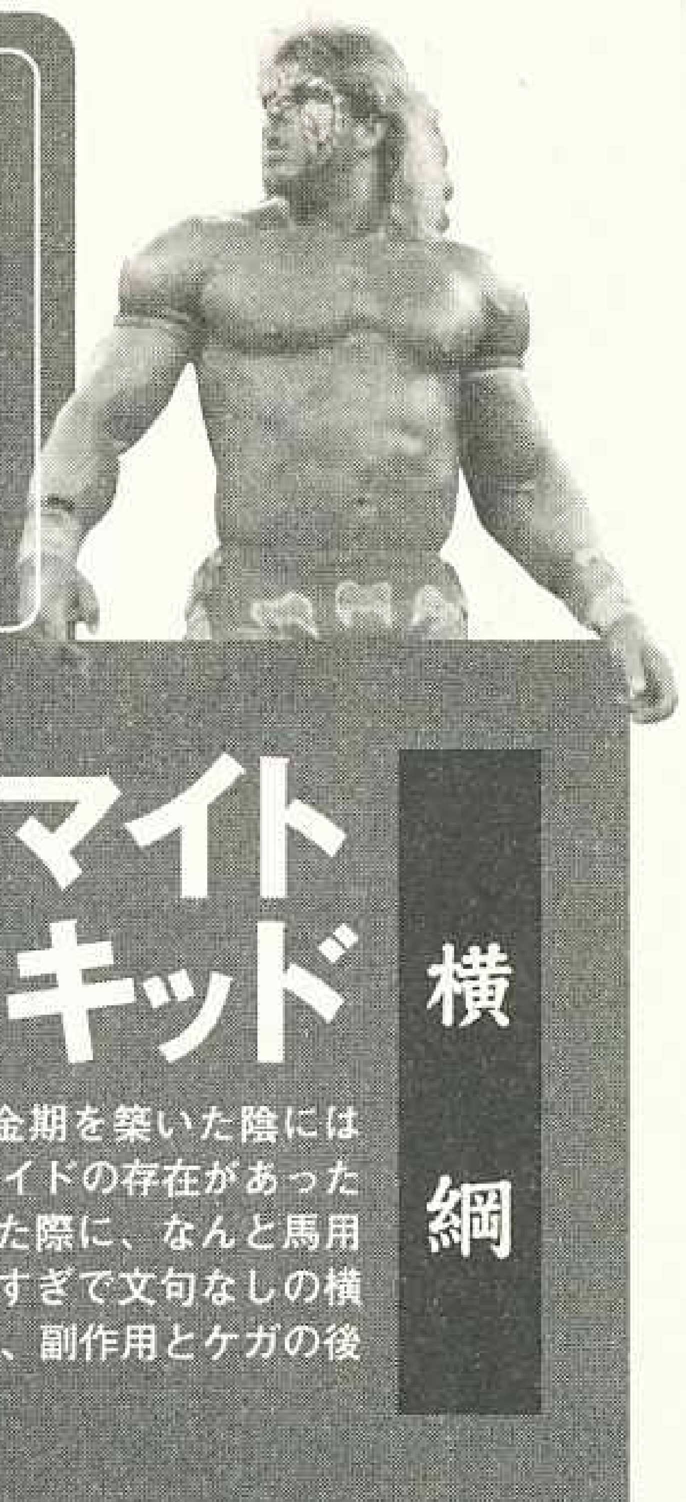
（※4）
エナルモンデポ

（※5）
デカデュラボリン
いずれも薬品名。

（※6）
ケガもしやすくなります
「血管が弱くなるため出血しやすくなったり、アキレス腱や筋肉の断裂を起こしたりする」と林先生。「筋膜（筋肉だけでなく骨、内臓器官、血管、神経を包む重要な膜）が、筋肉の大きさについていけなくて切れることもありますね」

（※7）
三菱化学メディエンス
日本で唯一のドーピング検査を請け負う機関。世界アンチドーピング機構（WADA=World Anti-Doping Agency）公認で、オリンピックや国体のドーピング検査などを行なう。





自分の身体と輝かしいキャリアを代償に彼らは何を手に入れたのか!?

古今東西

ステロイド番付

捨露威怒番付表

西 / 東

横綱

ハルク・ホーガン

プロレス史上最大のスーパースターも90年頃からステロイド使用疑惑がかけられ、「ステロイド裁判」渦中の人に。後年、デビュー前から全盛期にあたる1975年〜91年まで、ほぼ毎日ステロイドを使用していたことをカミングアウト。現役トップレスラーの告白が与えた衝撃は極めてデカい。その後、"ハリウッド"ホーガンとしてヒール転向した。

ダイナマイト・キッド

自著『PURE DYNAMITE』の中で、黄金期を築いた陰には「タバコを吸うように」打ち続けたステロイドの存在があったことを暴露。通常のステロイドを切らした際に、なんと馬用ステロイドを打ったエピソードも。豪快すぎで文句なしの横綱！ しかしそのツケはあまりにも大きく、副作用とケガの後遺症で、現在は車イスで生活。

大関

ビンス・マクマホン

93年の「ステロイド裁判」で、組織ぐるみでレスラーにステロイドを提供している？ と嫌疑をかけられたビンス。WWE最大のスキャンダルに発展したが結果は無罪放免！ちなみに本人がステロイドを使ったのは過去一度だけらしいが、還暦すぎてあの身体、試合はもとよりボディビル雑誌の表紙まで飾るなど、「本当に一回だけ？」と聞きたくなる大活躍。

ビリー・グラハム

元祖マッチョ系レスラーの肉体はステロイドの力で作られていた！ 上腕周りはなんと66センチ。「寝ているだけで身体が大きくなったようだ」との発言も。しかしその後、ハゲた！腰骨の関節が壊れた！と、ステロイドの恐ろしい副作用を身をもって体験した人物でもある。引退後はWWEを相手どり裁判を起こしたが、のちに和解している。

関脇

パトリオット

大学時代からステロイドとコカインを使っていたことを告白。ピーク時に一日に飲んでいた錠剤の数はなんと150粒！ それゆえケガが絶えず、選手生命を縮めることに……。さらにペインキラーの依存症のため、処方箋を偽造したかどで5年間に20回も逮捕されている。ちなみに現在は薬を断って車のセールスマンに。

デイビーボーイ・スミス

「ブリティッシュ・ブルドッグス」にて、「東のステロイド横綱」ダイナマイト・キッドとともにステロイドで肉体増強。ちなみに若い頃、キッドに「ステロイドだ」とだまされて牛乳を注射されたことがある。02年5月、心臓発作で死亡。39歳。検死で、原因は長期にわたるステロイドの使用の影響があると診断された。

小結

シッド・ビシャス

93年イギリスのホテルにて、カッとなりアーン・アンダーソンを20カ所もメッタ刺ししたのは、ステロイドの副作用で情緒不安定になっていたのでは？とのウワサが絶えない。実際ステロイドを使用すると短気になる、という自覚症状は何人ものレスラーが証言している。しかし現在シッド本人は黙して語らず、真相は藪の中。

アルティメット・ウォリアー

「超合金戦士」と呼ばれた鋼の筋肉もまた、ステロイドによって作られていた…。しかし世間のステロイドへの風当たりが強くなるのと時を同じくして、WWEを解雇された。最近ベノワ事件でテレビに出演し、「ステロイドの使用は適度であれば悪いことではない。激昂して暴力を振るうなんてこともない」と、マスコミの一面的なステロイド批判に反論、大きな話題を呼んだ。

前頭

ブライアン・アダムス

94年にWWEを解雇されたのは、ステロイドとスタンガン不法購入のかどだった。「ステロイド裁判」の直後でタイミングも悪かったか？ そして今年8月、43歳の若さでお亡くなりに。死因は不明だが、「やはり…」という思いは拭えない。合掌。

船木誠勝

96年、自著『船木誠勝のハイブリッド肉体改造法』で、自らのステロイド使用体験を告白。使用は一時期のことですぐやめたとはいえ、日本人がステロイド使用を公表したのは初であり、日本のマット界にいち早く警鐘を鳴らすことになった。

超人的肉体を得たツケは？ ステロイドにまつわる事件 社会的な影響を考える

ひが〜し〜、ダイナマイト〜・キ〜ッド〜（二十七代行司・木村庄之助ふうに）。さてまず最初に、ここに挙げた番付表は、決してステロイドを使用したレスラーを糾弾するものではないし、逆に茶化すためのものでもない、ということをお断りしておきたい。彼らスーパースターとステロイドに関係する物語は、やりきれない悲劇だったりショッキングなスキャンダルだったりする一方で、水面下で徐々に広がっているステロイドの濫用に対し、大きな警鐘を鳴らす役割も持っているのである。引退後の告白もかなりのリスクは伴なうが、まして現役にもかかわらずカミングアウトした人々の勇気は相当なものに違いない。そこで、その衝撃度、ニュース性、そしていかに社会に与えた影響が大きかったか、の3つの視点からランクづけを行なったのが、この番付というわけだ。

やはり、まだステロイドに対して正しい知識がなかった世代のエピソードは、スーパースターらしい豪快さと向こう見ずさにあふれている。そんな彼らの豪快さ比べに度肝を抜かれていただいたら、その少しあとに、なぜ彼らがときには自らの身体や未来をボロボロにして、何を手に入れたかったのか、考えていただくキッカケになれば幸いである。では、見合って見合って〜。

（文／齋藤奈緒子）

ステロイドの是非を考えた末の結論

それは——とにかく死ぬな！



9月5日、ロイター通信で珍しくプロレスに関するニュースが配信された。なんと、それはクリス・ベノワの事件について医療専門家が「脳損傷」によるものだったという見解を発表したニュースだった。引退したプロボクサーなどが苦しめられる症状で、ベノワの脳は85歳のアルツハイマー患者と同じレベルの損傷だったという。同じ時期にWWEは主要選手に謹慎処分を下している。偶然かもしれないがなんともタイミングが合いすぎているので、こんな疑問が頭をもたげてくる。結局のところ、これらはステロイドを排除しようとする動きと、それに対する反作用でしかないのではないか？　もし、ベノワの「脳損傷」説の信憑性が高いのであれば、本当に規制されるべきは脳損傷を引き起こす可能性のある行為、それはすなわちプロレスということになるが、そういった動きはない。

怪物的な肉体と超人的な動きを駆使した〝闘い〟で観客を魅了するのがプロレスだ。とくにWWEの選手たちは過酷な移動と短い睡眠時間、ケガをしても休みなく闘い続けることで自分を追い込んでいく。映画『ビヨンド・ザ・マット』で描かれたように華麗な舞台の裏には過酷で孤独な闘いが待っているのだ。TAJIRIも本誌113号で「心が『助けて！』と叫びだしそうになるぐらい厳しい」と語っていることでも、その過酷さがおわかりいただけるだろう。そのWWEがプロレス界で初めてウェルネス・ポリシーを打ち出した。現在、WWEのような取り組みは日本のプロレス界ではまったく行なわれていない。そもそもドーピング検査を日本アンチドーピング機構でしか受け付けていないという現状では厳しいだろう。もっと突っ込んで考えると、プロレスにおけるドーピング規制は必要なのか？　という倫理的な問題も残されている。ステロイドの話題はタブーであるがゆえにまったく議論されていない。ミスター高橋本でプロレスの〝仕組み〟が世間にさらされてしまったいまとなっては、タブー度はステロイドのほうが高いのではないかとさえ思う。

厳密な意味でプロレスに、MMAやMLBやその他のオリンピック競技などと同じような倫理を求めるのはどうかと思う。アメリカのMMAでは各州のアスレチックコミッションが選手のドーピング検査を行なっているが、初期UFCは検査などおかまいなしの無法地帯だったと聞いている。怪物的な肉体と圧倒的なパワーでのし上がったにもかかわらず薬物でボロボロになったマーク・ケアーは、そんな時代の象徴的なあだ花であろう。

つい最近、元UFCのジェフ・モンソンが米国MMAサイト「sherdog.com」で「すべてドーピングを解禁せよ！」と凄いことを言いだしている。ドーピングを禁止したところで、その規制の網の目をくぐった高価な合法の薬品が出てくるだけで、そうすると不平等な条件で試合をすることになる。だったら、すべてを解禁すべし！　という意見だ。モンソン自身も以前はドーピングのお世話になっていたことを告白している。

確かにドーピングは進化しており、最近では筋ジストロフィーなどの筋肉疾患への治療を応用して、遺伝子レベルからドーピングを行なうという恐るべき方法も開発されている。薬品を用いるドーピングと異なるため、検査はかなりの困難だ。

現在まで日本の総合格闘技でドーピング違反が指摘された事例は皆無である。一部の団体で血液検査は義務づけられているが、それはあくまでも健康チェックの範囲内。本腰を入れてドーピングを規制するところまではいっていない。

「ドーピングは悪だ」「ドーピングはやめよう」とお題目のように唱えたところで、その方法はどんどん進化する一方だ。進化すれば当然、使う選手だって現れる。モンソンのように規制と開発のイタチごっこをやり続けるぐらいなら解禁しろというのも、一つの方法だろう。「ドーピングをやめよう」と言うだけで、この問題を議論して考えることをやめてしまったら、結局のところ何も解決しないのではないか？　本誌としても、この問題は今後も取り上げていくつもりだ。

そして、最後に一つだけ、個人的にこれだけはどうしても書いておきたい。ドーピングをやろうがやるまいが、結局のところは選手個人の意思だ。ただ、とにかく死ぬな！　子どもの頃のヒーローや直接取材した選手が40代そこそこでなくなるのを伝えるのは、もうたくさんだ。

（文／坂井ノブ）

【参考文献】●「ドーピング　スポーツの底辺に広がる恐怖の薬物」（高橋正人、立木幸敏、河野俊彦 著／講談社ブルーバックス／2001年）●「ハリウッド・ハルク・ホーガン　ハルク・ホーガン自伝」（ハリウッド・ハルク・ホーガン&マイケル・ジャン・フリードマン 著／エンターブレイン／2003年）●「ピュア・ダイナマイト　ダイナマイト・キッド自伝」（ダイナマイト・キッド 著／エンターブレイン／2001年）●「WWEの独裁者　ビンス・マクマホンとアメリカン・プロレスの真実」（ショーン・アセール、マイク・ムーニハム 著／葉山 繁 訳／ベースボールマガジン社／2004年）●「船木誠勝のハイブリッド肉体改造法」（船木誠勝 著／ベースボールマガジン社／1996年）

朝青龍仮病疑惑騒動に

極上の人間模様

プロレスとドラゴンが見えた!!

「大ちゃんは悪くない!」

朝青龍、格闘技転向、カウントダウン!?

構成／松下ミワ



朝青龍の〝龍〟はドラゴン藤波の〝龍〟だった!?

……と、勝手に深読みしてしまうほど、最近の朝青龍騒動はドラゴン的な展開が繰り広げられてはいないだろうか。孤軍奮闘する高砂親方を見るたびに脳裏をよぎるのは、橋本真也引退騒動時のドラゴンの姿なのだ。

〝1・4事変〟の橋本真也vs小川直也戦後に勃発した、破壊王とドラゴンのズンドコ愛憎劇。〝1・4事変〟のセメントマッチをきっかけに破壊王はすっかり精気を失ない、引退にまで追い込まれた時期があった。

当時、新日本プロレスの社長に就任したばかりのドラゴンは、そんな破壊王に救済の手を差し伸べるが、じつにハッキリとしない〝こんにゃく発言〟を連発!

当時どれだけ現場が混乱していたかといえば、ドラゴンは好評発売中の『紙の破壊王爆勝証言集』のインタビューで「周りからはボクが余計な混乱を招いたみたいな感じで受けとめられていた」「あんときはかえって何もしないほうがよかったかもしれない」「自分が逆の立場（橋本）だったら納得いかない」などと振り返るくらいなのだ!

とにかく、ドラゴンは図らずも大混乱を招きながらも、破壊王の復活のために奔走!破壊王引退の危機を見事に救ったのだったが、いま世間を騒がせている〝朝青龍仮病疑惑騒動〟の高砂親方の言動は、繰り返すがじつにドラゴンそのものなのである。

ケガをしていたにも関わらず母国モンゴルでサッカーに興じるというとんでもない事態を起こしてしまった弟子・朝青龍を、師匠の威厳を賭けて立ち直らせようとする高砂親方。また、処分の厳しさからか、精神的不安定にまでなってしまった弟子を、なんとか説き伏せようとするが、どうにも空回りしてしまう。その姿はまさにドラゴンイズム!

そんな〝プロレス的〟騒動を本誌が放っておくわけにはいかない。しかも、一部ではプロ格闘家転向の噂もある朝青龍である。そこで、本誌は〝朝青龍、プロ格闘家転向カウントダウン〟企画として、この問題を徹底的に洗い出してみた。〝ドラゴン的〟高砂親方の魅力を噛みしめながら、極上の人間模様を読んでほしい。ひま潰しに。

7/25（水）
朝青龍、サッカー事件発覚!! 高砂親方、北の湖理事長ら激怒！

あの川淵チェアマンも絶賛した鮮やかなヘディングシュート!!　25日、腰の疲労骨折などで全治6週間の診断書を提出し巡業を休場、母国モンゴルで療養中だったはずの朝青龍が、なんと、元日本代表の〝旅人〟中田英寿氏らとサッカーをしていたことが発覚!!　中田氏のパスを得点につなげた朝青龍の俊敏な動きからは腰の疲労骨折とはとても感じられなかったが、感じられないどころかその事実はいずれフェードアウトしていくことになるから世の中って不思議なんです。日本相撲協会の北の湖理事長は「診断書が出ているのに、おかしい！」というあたりまえの苦言を呈し、朝青龍の師匠である高砂親方に至っては「サッカーができるなら、巡業に参加しろ!!」とこれまた正論!!　「入院するほどじゃないと判断したら、巡業は全部出す!!」と容赦ない発言をするなど、〝親方としての威厳〟を見せつけたのだったが、ここから事態は予想もしない方向へどんどん転がっていくのである。ローリングストーン。転がりまくるのは親方、じつはあなたなんです！

7/30（月）
朝青龍、帰国し「反省します」 高砂親方「私も反省しないといけない」

渦中の人物、ついに再来日！　サッカー事件発覚後、高砂親方、北の湖理事長をはじめ、日本相撲協会の巡業部も激怒させた朝青龍。一般のファンからも「横綱が巡業に出ないならチケット代を安くしろ！」などの苦情も殺到するという大変な事態に見舞われていたが、30日、ついにその張本人が姿を見せた。朝青龍は一度帰宅して正装に着替えると、北の湖理事長の待つ両国国技館に直行。「反省してます。治療に専念し、来場所から頑張ります」と平謝り。翌日31日には、ケガの治療のため、朝青龍は入院することになっていた、……がっ！

7/31（火）
ええっ！　入院の必要なし!?　高砂親方「ヒジにメスを入れるのはやめたほうがいいということだった」

31日、都内・病院で再検査を受けた朝青龍。相撲協会が腰よりも深刻と発表されていた左ヒジに関しては、なんと〝手術は受けないほうがよい〟という診断結果！　このため、通院治療でケガの完治に励むことになったが、この後、朝青龍の精神的な問題が徐々にクローズアップされていき、腰だのヒジだの身体的ダメージは、宇宙の彼方イスカンダルへ飛んで消えてしまうのであった。

7/31（火）
中田英寿にも批判の声、続出!?　FAXで「知らなかった」と謝罪!!

〝旅人〟として現在世界を放浪中の中田英寿氏から、なんと高砂部屋に謝罪FAX。現地モンゴルにて朝青龍とともにサッカーに興じ、〝ナイスアシスト〟を繰り広げた中田だったが、一部報道によると中田は日本サッカー協会から「責任は中田氏にもある！」と、わかったようでわけのわからない指摘されてしまったらしく、思わぬ〝飛び火〟を食らうことに。そのFAXには「当時はケガしていることを知らずに、申し訳ない」という記載があったと報じられており、さすがの〝旅人〟も疲労骨折は見抜けなかった模様。観戦に来ていた朝青龍が飛び入りで参加したことも「サービス精神旺盛で感謝している」とのこと。腰の疲労骨折なら通常は歩行ですら困難だが、朝青龍は旺盛なサービス精神をもって奮い立ったのだろう（適当）。

8/1（水）
日本相撲協会、厳しい処分！　二場所出場停止および減俸処分!!

朝青龍、引退の危機か!?　1日、両国国技館で行なわれた緊急理事会にて、朝青龍への厳罰処分が下り、①秋場所、九州場所の二場所出場停止②4ヵ月30パーセントの減俸③8月1日から九州場所千秋楽（11月25日）までの謹慎（自宅、高砂部屋、病院以外への外出禁止）という3つの処分が突きつけられた。あまりの厳しい処分に対して、モンゴルでは「人権侵害をしないください」と朝青龍を擁護するデモも行なわれたが、高砂親方の「4ヵ月30パーセントの減俸」という厳しい処分には誰もフォローしないのであった。

8/3（金）
高砂親方「謝罪会見をする！」発言も、朝青龍は自宅〝ろう城〟でノイローゼ!?

事実上の〝引退勧告〟とも報じられ、厳しい処分を科された朝青龍が、なんとノイローゼに!?　1日の夜、高砂親方は「朝青龍に会見に出るように説得する!!」と息巻いていたが、翌日には「人前に出せる状態じゃない……」とあっさり前言撤回！　早すぎるよ、親方。その背景には、朝青龍が精神的に不安定になっているという不穏な事態が渦巻いていた。「朝青龍は『もう一回頑張ろう』と思ったり、『もうあかんわ』と思ったりと心が揺れている」と話す高砂親方。弟子から会見を〝拒否〟されるばかりか、とても縦社会の師弟とは思えない驚ガクの関係性があきらかになるのは数日後のことである。

8/4（土）
平石医師、モンゴルへの帰国を勧めるが　高砂親方「順番が逆！」と一喝!!

モンゴル帰国説が急浮上！　4日、精神的に不安定な状態にある朝青龍について、自宅で精神科医の診察を受けることが判明したのだが、3日に診察した朝青龍の主治医・平石貴久医師は、食事もほとんどとれず、言葉も発せない朝青龍を見て「いまのままでは相撲はとれない」と衝撃発言！　相撲どころか人間として危ないよ、それ！　高砂親方にも「モンゴルに帰したほうがいい」と伝えていると話したが、なんと親方は「順番が逆！」と一蹴ッ!!　「まず会見を開くなり、やることをやらないと」と正論をぶちまけたが、親方はこの〝順番が逆〟地獄をとことん巡り続けることになる……。

8/5（日）
朝青龍、〝うつ病〟一歩手前状態！　高砂親方「限界であれば話は別」

朝青龍がいよいよ危ない!!　精神的不安定状態に陥っている朝青龍を、本田昌毅医師が5日、自宅で診察したところ、なんと「神経衰弱および抑うつ状態で、うつ病の一歩手前」であることが発覚！　本田医師は「あと数日でうつ病になってしまう危険な状態」と心配したが、これを受けた高砂親方は「モンゴルに帰せばいいというものではない！」と反論。しかし、「限界であれば話は別」ということなので、いずれ説得されるのは目に見えていたのだった。

8/6（月）
本田医師は、なんと包茎手術の形成外科専門だった!?

6日、朝青龍を「うつ病の一歩手前」と診断した本田昌毅医師が、包茎手術などの形成外科を専門として形成クリニックを経営していることが発覚!!　一部報道において、その点を追及された本田医師が「私の中では一緒。コンプレックスを治療する意味においては、その根本を絶たなければいけないので矛盾はしない」というステキな持論をもって反撃している局面もあり、本田氏は精神保健指定医にも認定されているという。そういえば、〝1・4事変〟で小川直也に鼻を折られた破壊王は、鼻骨手術のついでに包茎手術を受けていたが、まさか朝青龍も？　とにかく朝青龍には破壊王のように〝一つウエノ男〟を目指してもらいたいものである。

8/6（月）
7日ぶりの再会で高砂親方も仰天！「朝青龍が憔悴している……」

モンゴル帰国に一貫して反対の態度を示していた高砂親方は精神的不安定状態にある朝青龍と会って「憔悴している……」と蒼白。しかし、こちらの顔面が蒼白してしまうのは、師弟関係を持つのにじつに7日ぶりの対面だったということなのだ！　どうりで話につかみどころがないし、会見出席にしたって説得できるわけないよ！　とにかくひさしぶりに朝青龍と対面した親方は、「帰国よりも治療が先！」とあらためて認識。「一人より二人の診断のほうがより正確だろう」と、いきなり数の論理を持ち出し、包茎で話題の本田医師とは別に、相撲診療所内部の医務委員会・委員長の吉田博之医師のつてで、大泉メンタルクリニック所長・今坂康志医師に診察を依頼。翌7日に、今度は「急性ストレス障害」とあらためて診断されたのだったが、基本的に精神医学は何度かの面接を経て結果が診断されるもの。あまりにあっけない診断スピードに世間はますます〝仮病〟疑惑のムードが高まっていくのである。

8/8（水）
大島巡業部長、高砂親方を叱咤！「汗をかけば治る」発言が波紋!?

迷走を極める〝朝青龍問題〟について、大島巡業部長が高砂親方と朝青龍に喝！　大島巡業部長は、まず「高砂親方がおかしい。なぜ、親方はいままで一度しか会ってないの？」と、小学生でも感じる疑問をブチあげた！　ほかにも「ボールを蹴っ飛ばしてい

サッカー事件勃発から、モンゴル帰国までの全36日間

紙の朝青龍新聞

今夏の猛暑をますます熱くさせた朝青龍問題。これを読めば、
素晴らしき“プロレスの世界”がきっと堪能できるはずだ!
炎天下、汗だくになりながら朝青龍の自宅を訪ねる
高砂親方を想像しながらお読みください。

た人間が、いきなり閉じこもったって同情する人はいない」とピシャリ。しかし、こういった正論が通用しないからこそ我々は楽しめる。常識どおりにいく世界なんて不気味でつまらないだけだよ！

8/8（水） 高砂親方「理事長に診断書は見せない。私と朝青龍の問題です」！

親方としての指導力不足への批判も飛び交う中、高砂親方が腹をくくった！　「急性ストレス障害」と診断され窮地に立たされている朝青龍の問題を、日本相撲協会に頼ることなく、自力で解決すると宣言！　……したのはいいが、アクセルを踏み込みすぎたのか、北の湖理事長に報告する予定だった診断結果を「見せない。私と朝青龍の問題です！」とキッパリ。これだけ協会に迷惑をかけているのに！　まあ、この背景には、医師の診断によって理事会が再招集されることに否定的な声があったからだとも言われている。いずれにせよ、親方の電車道は止まらない。「なんなら（朝青龍を）引っぱり出してしゃべらせるか!?」と気合い充分！　GO!! GO!! 大ちゃん！

8/9（木） 朝青龍、会見出席を"拒絶"！ 高砂親方「説得に失敗しました」

「朝青龍を引っぱり出してくる！」と高らかに宣言していた高砂親方だったが、なんと朝青龍はまさかの"拒絶"!!　早くも出鼻をくじかれた高砂親方は、「説得に失敗しました……」と、しょんぼり。親方は「記者会見をやろう、入院しようと言い続けたが、説得に至らなかった」と事情を説明し、「でも、説得できるまで（毎日）行きますよ！」と責任感の強さを感じさせる発言が飛び出したが、よくよく考えると師匠としてはあたりまえの行動。迷走を極める騒動に、両国国技館周辺に街宣車が出動するという非常事態にも見舞われた。「日本の国技をなめるな！」など、拡声器で約30分間罵倒が止まなかったという。とんでもないことになってきた！

8/10（金） K-1転向の可能性もアリ!? 谷川氏「頑張っていただきたい」



やっぱりこの男が黙っちゃいなかった！　ご存知、我らがサダハルンバ谷川である。最近こそは「PRIDEっぽいのが好き」だと公言してはばからないが、かつては「相撲っぽいのが大好き」だったサダハルンバ。"引退危機"ともいえる窮地の朝青龍に、谷川FEG代表は「あれだけの実績を作ったし、気になりますねえ～」と意味深すぎるコメントをポロリ。また、「横綱といえども厳罰を下した協会の措置はさすがですよお。ファンを大切にしてるんですねえ」と、秋山問題をさておき日本相撲協会の決断に拍手を贈る場面も。今回に限らず、"トラブル"が勃発するごとに"プロ格闘家転向"の噂が飛び交う朝青龍だが、"谷川黒魔術"の洗礼を浴びる日は来るのか？　んあ～！

続いて有名馬主にして朝青龍の"日本の父"として知られる近藤利一氏が朝青龍本人と面談。なんと「睡眠薬を1回10錠ほど食べるように飲んでいる」など、朝青龍の異常アクションを激白！　というか、止めろよ、おい！　近藤氏は「妄想にからまり、発言は支離滅裂。若い衆に乱暴し、窓から物を投げようとした姿を目撃した」という。そして「テレビで（中田氏との）サッカー映像を見るたびに頭を抱えている」とも……。っていうか、医師にしても近藤氏にしても、朝青龍の帰国をうながそうとコメントしているのはわかるが、あきらかに横綱の人間性をマイナスに捉えさせかねない迂闊な発言を連発しすぎ！　横綱はテレビをつけないよーに。

8/11（土） 高砂親方「新しい医者に診てもらう」と話すも二日後に「医師を一本化する」!!

「毎日会って説得する！」と息巻いていた高砂親方に、疲れ!?　10日にようやく3度目の師弟対談をはたした高砂親方は、朝青龍の度重なる"拒絶"により、とうとう会見の実施を断念。そんなことより治療に専念だ!!　とばかりに、13日から始まる本格治療で、これまた新しい医者に診てもらうことを希望。しかし、親方は「一人でも多くの先生に診てもらったほうがいい」と信じて疑わないのだ。……と思いきや、なんと二日後の13日には「医者を一本化する」と、またまた180度方向転換。……親方本人の診断を要求したい今日この頃である。

8/11（土） 大仁田厚、朝青龍に究極のアドバイス！「電流爆破マッチをやれば治る」!!



つまらなくておもしろくもないアドバルーンをぶち上げることでおなじみの大仁田厚さんがまた苦笑させてくれた。11日、再出発の拠点となる新事務所で会見を開いた大仁田は、朝青龍に「電流爆破マッチをやればいい。肩も腰も治る！」とアドバイス。リップサービスのつもりなんだろうが、このつまらなさはとにかく拳を硬くさせる男である。

8/12（日） 朝青龍の"マブダチ"一宮章一が知られざる裏ネタを続々披露!?

高砂親方でもなかなか"入室許可"が下りない朝青龍のマンションだが、意外な男が"顔パス"で出入りしていた！　プロレスラーの一宮章一である。一宮といえば、弟が朝青龍のマネージャーで、朝青龍とは家族ぐるみのお付き合いだそうだ。差し入れを持ってきたところをTBS「サンデー・ジャポン」の記者につかまえられ、神妙な表情で朝青龍の容態についてコメント。調子に乗って、翌週には「サン・ジャポだけのために情報を集めて提供していきたいと思っております！」と、よくわからない愛情まで発揮。ところが8月26日、DDT・ディファ有明大会のリング上では「今日お越しの新聞記者のみなさん、ボクに聞きたいのは朝青龍問題のことでしょ？」と叫び、生々しい裏ネタを披露していたとか……。こちらも"迷走中"である。

8/13（月） 高砂親方、"夏休みを返上"宣言から急転！ やっぱり「お墓参りに行きたい」!!

朝青龍問題も中盤にさしかかった8月中旬、通常ならば13日から17日まで夏期休暇である高砂親方は、朝青龍の容体を気遣うばかり、親方らしく、当初"夏休み返上宣言"!!……したはずだが、14日から二日間の休暇をとることを明言。おい。「お墓参りにも行きたいし、休むよ」とアッサリ言ってのけた親方。さらには13日から本格治療をスタートさせると言っていた件も、今坂康志医師の"海外バカンス"により、容赦なく延期に。これだけの騒ぎになっているのに、この隙だらけな姿勢。みんなの鳥肌が全部立つわけだ。なあ、ランペイジ？

8/16～18（木～土） 今坂医師、今後の診療を断る!?「治療や主治医になることは頼まれてない」

世間の騒ぎをヨソに、二日間の夏休みを堪能した高砂親方が16日、延期になっていた朝青龍の治療を17日にもスタートさせると宣言！　……したのはいいが、「いまは（今坂医師と）連絡がとれない」と、またもやズンドコ発言。しかし、それだけならまだマシ。なんと"一本化"治療を行なう今坂康志医師

主な登場人物



■北の湖理事長
第55代横綱の元大相撲力士。現役時は三保ヶ関部屋に所属、現在は日本相撲協会理事長を務めている。朝青龍とは直接のやりとりはしておらず、情報はほとんど間接的に入手。事件勃発当初はマスコミに対してコメントを残すこともあったが、中盤からは遠方に避難するかのような見守る体勢に。また、高砂親方に対し、「師匠が気配りしてあげないと」と苦言を呈する場面もあった。



■高砂親方
朝潮太郎の名で人気を博した元大相撲力士で、現在は第四代高砂親方。現役時代の最高位は大関。一連の騒動では、直属の"師匠"としてなんとか朝青龍を復活させようとするが、なぜか空回りしてしまうという愛すべきキャラクターに。「大ちゃん」という呼び名でも親しまれ、親方が来ているパイロットふうの青いシャツは、あまりのファッショナブルさに問い合わせが殺到しているという。

医療関係者

■平石貴久医師
第1の医師。朝青龍の主治医で、スポーツ医学などが専門。日本相撲協会から厳しい処分が下り、精神的不安定に陥った朝青龍に対し、いち早く「モンゴルで治療したほうがいい」という見解を出した。

■本田昌毅医師
第2の医師。精神的不安定に陥った朝青龍を最初に診察した"精神科医"で、「うつ病の一歩手前」という見解を出した。のちに、包茎治療の専門医であることが発覚したが、本人は「私の中では（精神科も包茎治療も）一緒」という名言を残している。

■吉田博之医師
第3の医師。日本相撲協会・医務委員会の委員長。その後、朝青龍を診察する今坂康志医師を紹介するなど、朝青龍の診断に携わる。

■今坂康志医師
第4の医師。吉田医師の紹介により、朝青龍を診察、「急性ストレス障害」という見解を出す。高砂親方の"医師一本化"宣言により、朝青龍の診察を一任されかかるが、これをアッサリ断ったことで有名。

■高木洲一郎医師
第5の医師。今坂医師が朝青龍の診察を断った関係で、その後の診察を請け負うことになった前国立病院機構東京医療センター精神科医長。当初は「急性ストレス障害」という見解を出すが、その後、悪化する病状を診て「解離性障害」と深刻な診断を下す。

師がようやく帰国したと思いきや、今度は「自分は主治医じゃないから、今後は診るつもりはない」とさじを投げた！ 今坂医師のこの発言に、協会医務委員会の吉田博之医師は「診てもらえるよう、説得します！」と苦しいコメント。いったい何人の人間を説得したらこの問題は前に進むのか。

8/20（月）
"第5の医師"が「モンゴルに帰国」を再提示！国内治療派の高砂親方、ピンチ!!

お盆休みという"大敵"が現われ、"主役不在"となっていた朝青龍問題にようやく動きが！ 今坂医師にキッパリと診察を断られた協会医務委員会・吉田医師は、なんとか"第5の医師"、前国立病院機構東京医療センター精神科医長・高木洲一郎医師をつかまえ、20日、診察してもらえることに！ その結果、意識と感情と行動の各機能をまとめる自己同一性を失なう神経症「解離性障害」と診断され、高木医師が治療、国内で入院、モンゴルに帰国、という3つの選択肢が提示されることとなった。一方、一連のドタバタ劇を遠くから"見守っていた"北の湖理事長も、ようやく高砂親方に助け舟!? 高木医師の診断に対し「治療に関しては医師の意見を聞き、指示に従って適切に対応していきたい」と、なんとなく帰国を"容認"。ただ一人、高砂親方のみが「国内でも治療できる！」と頑なな態度。ここに至るまでコンセンサスを得ないで発言を続ける相撲協会のズンドコぶりは今後も楽しませてくれそうだ。

8/21（火）
モンゴル大統領が朝青龍にコメント！「帰ってこい」と親心!?

朝青龍問題が勃発して約1ヵ月。これまで数々の関係者および"野次馬"が朝青龍にコメントを寄せていたが、とうとうモンゴル大統領まで"参戦"！ エンフバヤル大統領は21日、ウランバートルで開かれたパーティの席上で、朝青龍に対し「生まれたモンゴルの地で療養するのが一番だと思う」と、なんとも心温まる言葉を寄せ、横綱の帰国を願った。また、朝青龍に対する処分にも言及した大統領。処分の重さに心を痛めながらも、「日本には日本のやり方があるから」と、とっても大人な発言。

8/22（水）
朝青龍、23日ぶりの外出!! 高砂親方「治療に前向きになった」

2場所出場停止処分などを科されていた朝青龍が、30日以来、初めて外出！ 高砂親方によると、高木医師の治療を受けることが目的で、自宅外に宿泊することになったそうだ。もちろん、報道陣の前にも姿を現わした朝青龍。無精ひげをはやし、生気のない表情で車に乗り込む姿がキャッチされた。高砂親方も「治療に前向きになったのは望ましい」と満足げな表情。しかし、通院治療でモンゴル帰国がベストと判断されれば、早い段階でモンゴルへ帰国することも考えられる状態に。あくまで国内治療を望む高砂親方、北の湖理事長だが、その行方は!?

8/22（水）
高田川親方が高砂親方をバッサリ！「一番悪いのは、師匠の高砂だ」

これまで、数多くの"叱咤・激励"を受けてきた高砂親方に、またしても厳しい一言が浴びせられた。高砂部屋出身の高田川親方が、"高砂部屋の恥"として「高砂を返上して、一門を抜けろ！」と高砂親方にキツーい一言。また、「一番悪いのは、高砂だ！」と痛烈な批判を向けたことも発覚した。高砂親方にしてみたら、「一生懸命やったのに！」と千秋ばりにふくれたいところだが、約5分にわたり責め続けられたという高砂親方。あくまで想像だが、叱られる姿はきっとキュートすぎてたまらないだろう。

8/24（金）
横綱・白鵬は朝青龍の外出に「いいんじゃないですか」

モンゴル出身の"もう一人の横綱"白鵬が、一向に収拾がつかない朝青龍問題に複雑な表情でコメント。すったもんだの末に、ようやく外出するまでに至った朝青龍に「いいんじゃないですか（アッサリ）」と、"遠くから"エールを贈った。また、モンゴル帰国については「自分の場合は周りに仲間がいっぱいいるから、ホームシックにはならない」と、なんとも朝青龍周辺の環境を暗に露呈させる発言も！ 朝青龍にだって、高砂親方がついてるのに……。

8/24（金）
モンゴル帰国を望む医師らに北の湖理事長が"待った"!?

高砂親方が痛烈な批判を浴びる中、朝青龍の容態は刻一刻と悪化！「横綱は混迷状態である！」という緊急事態に、高木医師らはモンゴル帰国をこれまで以上に強く要請。一貫して帰国に反対していた高砂親方も「北の湖理事長や親方衆がうなずいた場合、私も考える」と態度を軟化させた。ところが、どっこい！ こんどは北の湖理事長が帰国に"待った"！ 理事長は帰国容認派だったのに、なんでそーなるの？ と思いきや、理事長は「帰国は、モンゴルの医療態勢をチェックしてから」と指示。「帰国する場合、高砂親方も同行して環境を確認せよ」という理事会の声もあるが、日本中の誰もが、同行人の高砂親方に不安を覚えたことは言うまでもない。そしてその不安があっさり的中したこともいうまでもないのであった。

8/24（金）
高砂部屋後援会、親方をバックアップ！「大ちゃんは悪くない」!!

高砂親方にようやく味方が出現！ やったね、親方!! 24日夜に開催された高砂部屋後援会主催のパーティの席で、「大ちゃん（高砂親方）は悪くない！」と擁護される声が多数。まあ、高砂部屋後援会主催でも罵倒されたら立つ瀬はないのだが。さらには、「（朝青龍は）もういらない。早くモンゴルに帰ればいい」や「誰、横綱って？」という過激な発言も飛び出したというからとんでもない！ "大ちゃん"も、「お騒がせして申し訳ない……」と神妙な表情で後援会に謝罪したそうだが、きっと、ここ1ヵ月で一番ホッとしたひとときだったのではないだろうか。

8/25（土）
北の湖理事長、高砂親方に苦言「師匠が気配りしてあげないといけない」

後援会に後押しされ、すっかり"浮かれ気分"だった高砂親方に、またもや厳しい声が！ 今度は誰かと思ったら、なんと北の湖理事長だ!! 理事長は「師匠が気配りしてあげないと」と弱った朝青龍をかばうと同時に、めったに対面できない高砂親方と朝青龍の異常な師弟関係をあらためて問題視。

8/27（月）
またも横道!? 朝青龍にまさかの申告漏れが発覚!!

これまた、とんでもないところから横やりが！ なんと、東京国税局の税務調査を受け、朝青龍に約1億円の申告漏れが指摘されていたことが発覚!! 報道によると、平成16年8月に都内で結婚披露宴を開催した際、朝青龍はテレビ中継を容認していたのだが、その契約料の税務申告が一部適切でなかったことが指摘されていたという。そのほか、テレビ番組など同類の指摘があったというが……。ついでに親方も申告漏れしていれば完璧だったのだが、なかなか神は降りてこないもんである。

8/28（火）
協会がついにモンゴル帰国を容認！高砂親方はやっぱりモンゴルに同行〜ッ!!

やっと結論が出た！ 28日に開催された緊急理事会で、朝青龍および医師らが強く望む「帰国療養」にGOサイン。理事会の決定事項として、高砂親方がモンゴルに同行して治療環境を確認、今後の行動にも責任を負え、という指示が出た。これを受けた高砂親方、「今後については、師匠である私が全責任を持ってやる」とあらためて覚悟。それはそれで心配な部分もあるが……。とりあえず、翌29日にはモンゴル行きの飛行機に乗るということで、事態はようやくクライマックスへ。

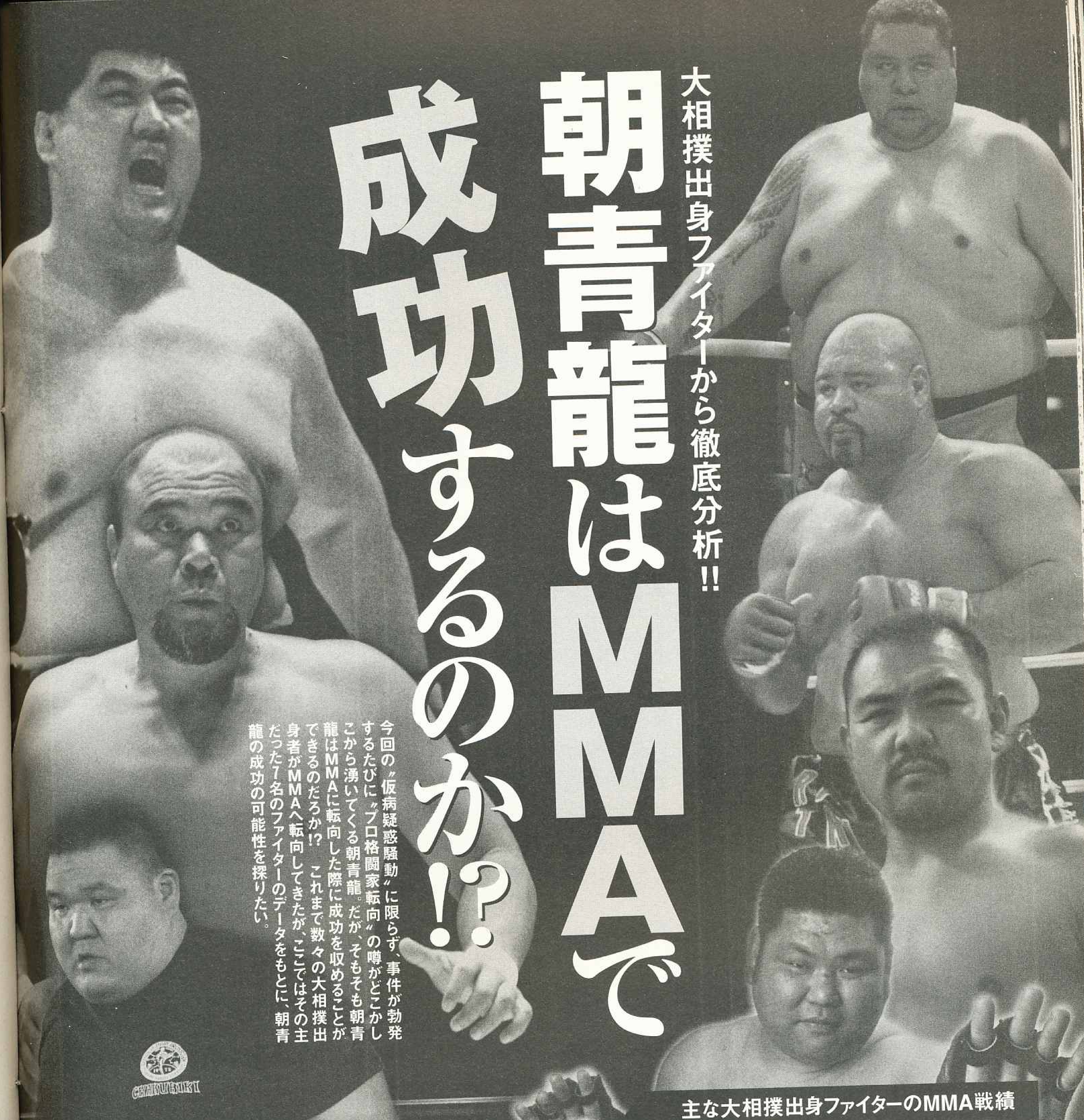
8/28（火）
メキシコ帰りの亀田興毅が一喝！「いい大人がイジメをしている」

合宿先のメキシコから帰国した亀田興毅が、騒動に揺れる朝青龍問題に同情……。かつて、WBAライトフライ級タイトルマッチ、ファン・ランダエタ戦で"僅差の判定勝利"という判定を下され、図らずもファンから"八百長疑惑"をかけられた亀田。試合を放映したTBSには、なんと5万5000件もの抗議電話が寄せられたという一大事態となってしまったが、その経験があっただけに、「オレは親父が守ってくれたけど、アニキは一人やからつらいと思う」と肩を持つコメント。っていうか、親父は火にガソリン注いで問題を複雑にしていたはずだが……。それにしても、どいつもこいつも被害者意識の強さだけはさすがなのであった。

8/29（水）
朝青龍、ついにモンゴルへ！高砂親方も同伴!!

日本を揺るがす朝青龍問題も、いよいよ終幕か!? 29日、横綱がついにモンゴルへ！ もちろん「全責任を持つ！」と胸を張った高砂親方も一緒だ！ 心強いぞ!! しかし……なぜか成田空港には別々に姿を現わした両者。さらに、現地チンギスハン国際空港に到着してからも別行動だったという。極めつけは高砂親方。朝青龍が治療を行なう温泉施設でちゃっかり温泉に入ったのち、なんと現地滞在時間35時間で早々と日本に帰国。早すぎるよ、大ちゃん！ 31日の記者会見では「いや〜、手つかずの自然がいっぱいだった！」と、なぜかモンゴルの自然をほめまくる迂闊な発言を連発。「温泉でお肌もすべすべ！」とOL温泉夢気分。もうどうにでもしてくれ！

たぶん、本誌発売日ごろも騒動は続いているだろうが、とりあえず、本誌は高砂親方を全面支持する方向でいきたいと思います。大ちゃん、バンザ〜イ！



大相撲出身ファイターから徹底分析!!

朝青龍はMMAで成功するのか!?

今回の〝仮病疑惑騒動〟に限らず、事件が勃発するたびに〝プロ格闘家転向〟の噂がどこかしこから湧いてくる朝青龍。だが、そもそも朝青龍はMMAに転向した際に成功を収めることができるのだろか!? これまで数々の大相撲出身者がMMAへ転向してきたが、ここではその主だった7名のファイターのデータをもとに、朝青龍の成功の可能性を探りたい。

主な大相撲出身ファイターのMMA戦績

大相撲出身ファイターのカリスマ
曙
最高位＝横綱　戦績＝4戦0勝4敗
×ホイス・グレイシー（04・12・31『Dynamite!!』）1R 2分13秒 リストロック
×ボビー・オロゴン（05・12・31『Dynamite!!』）3R 判定0－3
×ドン・フライ（06・05・03『HERO'S』）2R 3分50秒 フロントチョーク
×ジャイアント・シルバ（06・12・31『Dynamite!!』）1R 1分02秒 アームロック

元スポーツ冒険家
北尾光司（光覇）
最高位＝横綱　戦績＝3戦1勝2敗
×ペドロ・オタービオ（96・4・5『UVF』）1R 5分49秒 TKO
×マーク・ホール（96・5・17『UFC』）1R 44秒 TKO
○ネイサン・ジョーンズ（97・10・11『PRIDE・1』）1R 2分14秒 チキンウイングアームロック

スモウは強いんだよォ!!
戦闘竜
最高位＝前頭十二枚目　戦績＝10戦3勝7敗
×ジャイアント・シルバ（04・4・25『PRIDE GP 2004開幕戦』）1R 4分04秒 チキンウイングアームロック
○アル・ザ・ツイン・タイガー（04・10・14『PRIDE武士道・其の伍』）1R 21秒 KO
×瀧本誠（04・12・31『PRIDE男祭り』）3R判定0－3
×ジェームス・トンプソン（05・7・17『PRIDE武士道・其の八』）1R 1分31秒 KO
×ズール（05・10・23『PRIDE・30』）1R 1分31秒 TKO
×ロバート・ベリー（06・7・1『CAGE RAGE17』）1R 1分06秒 TKO
○小椋誠志（06・8・27パンクラス）1R 1分37秒 チョークスリーパー
×ムスタファ・アルターク（06・9・30『CAGE RAGE』）1R 56秒 TKO
○キム・ジフン（07・3・23『HEAT3』）1R 4分58秒 TKO
×クリスチアーノ上西（07・4・13『DEEP 29』）1R 4分0秒 KO

きっかけはスモーノブ
大刀光
最高位＝前頭十五枚目　戦績＝3戦0勝3敗
×ゲーリー・グッドリッジ（00・01・30『PRIDEGP2000開幕戦』）1R 51秒 ギロチンチョーク
×謙吾（01・1・8『DEEP』愛知県体育館）1R 22秒 KO
×エル・カネック（01・12・23『DEEP』）1R 4分55秒 TKO

〝ちゃんこ〟を作らせたら世界一
玉海力
最高位＝前頭八枚目　戦績＝3戦0勝3敗
×小路晃（04・05・23『PRIDE武士道・其の参』）1R 18秒 TKO
×三浦康彰（06・05・02パンクラス）1R 1分43秒 腕ひしぎ十字固め
×河野真幸（07・07・10パンクラス）1R 1分10秒 アームロック

借金王
安田忠夫
最高位＝小結　戦績＝4戦2勝2敗
○佐竹雅昭（01・3・25『PRIDE・13』）3R 判定1－2
×レネ・ローゼ（01・8・19『K-1 JAPAN』）3R9秒 TKO
○ジェロム・レ・バンナ（01・12・31『INOKI BOM-BA-YE 2001』）2R 2分10秒 ギロチンチョーク
×ヤン・ザ・ジャイアント・ノルキヤ（02・12・31『INOKI BOM-BA-YE 2002』）2R 57秒 TKO

〝ロック〟なハートが止まらない！
WAKASHOYO（若翔洋）
最高位＝関脇　戦績＝4戦0勝3敗1分
×ピーター・アーツ（05・7・6『HERO'S』）1R 1分36秒 TKO
△西田操一（05・12・11『D・O・G』）2R ドロー
×浜中和宏（03・5・3『HERO'S』）1R 1分22秒 アームロック
×謙吾（07・2・17『CAGE FORCE』）1R 20秒 TKO

平均試合時間

4分22秒

・玉海力	1分03秒
・大刀光	2分02秒
・北尾光司(光覇)	2分55秒

さすが、大相撲出身ファイターは試合時間が早い！　平均試合時間にも関わらず、1ラウンドにも満たないこのタイム。玉海力なんて、1分ちょっとですよ。しかし、短期決戦が有利というわけでもないようだ。なんたって要するに単に早く負けているだけなのだから。ちなみに最も勝率の高い安田忠夫は平均試合時間も7選手の中で一番長く、9分19秒である。

KOまたは一本での勝率&負け率

勝率 83%

負け率 92%

勝率、負け率ともにかなりのハイスコア。判定決着の合計試合数は全31試合中、じつに3試合のみである。勝つときは豪快に、負けるにしてもファンに決して損をさせない、素晴らしきプロ意識の持ち主だと解釈するしかない。"旺盛なサービス精神"でサッカーに興じた朝青龍なら、きっとファンを魅了する闘いを繰り広げるに違いないが、負けたらうつ病の一歩手前になる可能性があることを忘れちゃいけない。

MMAでの勝率

19%（31戦6勝）

・安田忠夫	50%
・北尾光司(光覇)	33%
・戦闘竜	30%

まずは勝率。ご覧のとおり、正直言って、かなり厳しい数字となっている。最上位の安田忠夫でやっとトントン。これまでの大相撲出身組の中では一番MMAに対応できているといわれる戦闘竜でさえ33パーセントと、かなりの苦戦を強いられているのが現状だ。これではいくら朝青龍いえども相当の鍛錬が求められるだろう。

このほか、こんな相撲経験ファイターが！

田村潔司



"U"のイメージが強い田村だが、第二次UWF入門前の学生時代は相撲部として活躍。U-FILE CAMPのプロフィール欄の過去のスポーツ歴にも、しっかり「相撲」と書かれている。その後の活躍を見ればわかるとおり、相撲出身でも人によってはMMAで通用するんです。

村上和成



現在は"平成のテロリスト"としてプロレスのリングで活躍する村上だが、もとはといえば96年には金網の大会や『PRIDE.1』に出場している総合格闘家。そんな村上も中学生時代には柔道部と兼業ながらも相撲部で活躍。高校進学後は母の進言もあり柔道に専念。

松永弘光



"ミスター・デンジャー"松永光弘といえば、寛水流空手や誠心会館など空手のイメージが強いが、格闘技人生のスタートは中学の相撲部。大学1年まで相撲を続けた松永、中学時代には東海地方で3位の成績を残している。現在も大相撲事情にはかなり精通している。

これまで取り上げた選手以外にも相撲経験者でMMAにチャレンジした人は数多い。ぶっちゃけ、戦績は芳しくないが、主だった相撲出身のMMA経験ファイターは以下のとおり（順不同）。ケンドー・ナガサキ（大相撲・立浪部屋出身）、一宮章一（大相撲経験はないが父は先代・高砂親方）、入江秀忠（大相撲・佐渡ヶ嶽部屋出身）、マンモス佐々木（大相撲・東関部屋出身。最高位三段目）、小椋誠志（大相撲・旭山部屋出身。最高位前頭10枚目）、ジミー明成（大相撲・四股名不明。最高位 三段目）、太子郎（大相撲・間垣部屋出身。最高位 十両）柔圭（大相撲・井筒部屋出身）、エマニュエル・ヤーブロー（アマ相撲世界選手権王者）。

対日本人のMMA戦績

10戦2勝17敗1分

勝率20%

相撲といえば、巨体を活かした怪力である。日本人MMA界にはパワー主体のファイターの層が薄いため、相撲出身組に日本人選手は弱いのではないか？　と、いいかげんな仮説を立ててデータを検証してみたが、結果は全体の勝率とそんなに大差は見られなかった。♪力さえあればいいんだ〜という『みなし児のバラード』がむなしく響くのであった。

敗戦時の決まり手

・KO(TKO含む)	58%
・アームロック	13%
・判定	8%

突っ張りに張り手。怒濤の突き出し！　大相撲は打撃に強いイメージがボンヤリあったが、なんと敗戦時の決まり手はKOが約6割も占めている。どうすればいいんだ！しかも寝技になれば、素人同然だけにあっさり極められてしまう。アームロックをはじめ、リストロック、フロントチョークなど、極められる技はバラエティに富んでいる。ある意味で千の技をかけられる男たちである。

力士時代からの体重変化

平均 -19.4キロ

・北尾光司(光覇)	+3kg	(157kg→160kg)
・安田忠夫	+2kg	(138kg→140kg)
・大刀光	-13kg	(148kg→135kg)
・曙	-33kg	(233kg→200kg)


大相撲の力士はMMAに転向する際、最も気になるのがやはり体重。サダハルンバが「んあ〜！ 50キロ痩せないとK-1には出さないぞぉ！」と曙さんを叱咤したように、やはり体重が闘いのネックになってくるのだが、このデータはどうだろうか。体重をまったく気にしてない、大相撲出身組の男らしさが炸裂している。現に、戦績1位の安田は138キロから140キロへと増えている節さえある。

力士時代の戦績

曙	566勝198敗 通算63場所出場181休	(勝率74%)
安田忠夫	212勝281敗 通算33場所2休	(勝率43%)
北尾光司(光覇)	197勝87敗 通算21場所16休	(勝率69%)

※朝青龍　466勝117敗　通算場所出場17休（勝率80%）

今回データ検証している7名のうち、横綱は曙さんと北尾。大相撲時代の戦績はもちろん勝ち星、勝率ともに"我らが"曙がトップであるが、ことMMA戦績と照らし合わせてみると、相撲が強いからMMAの戦績も優秀だという考えは、年齢的な問題があったとはいえ曙さんの活躍によって完全に否定されている。たとえ現役横綱いえども簡単に通用するジャンルではないのは言うまでもない。



結論 朝青龍の格闘家転向に期待！

〃仮病疑惑騒動〃でいよいよMMA転向説が現実味を帯びつつある（適当）朝青龍であるが、大相撲出身ファイターの置かれる状況は深刻だ。

一番成績優秀の安田でさえ勝率5割と、逆風状態。曙にしても、WAKASHOYOにしても、『kamipro』編集部内でのゲノムな人気は相当に高いのだが、この戦績では、純粋な格闘技ファンや一般層は目を背ける存在でしかないだろう。

でも、簡単に通用しないことなんて、充分に理解しているんだよ!!　そんなつまらない正論に酔いしれる前に、我々はまずロマンを求めるべきだ。なぜなら無駄でデタラメな電車道パワーに我々は熱狂してきたのだから。たとえば……。

本誌インタビューでさんざん〃相撲最強説〃を吠えまくったことが『PRIDE』出場のきっかけとなった大刀光。いいのかよ、そんな基準で。

曙さんは佐山サトルに催眠術をかけられて臨んだドン・フライ戦がベストバウトと誇らしげに熱弁。その曙さんをスカウトするため、谷川氏は電信柱の陰に隠れて待っていたという。想像してくれ、電信柱に隠れるサダハルンバの姿を。んあ〜！

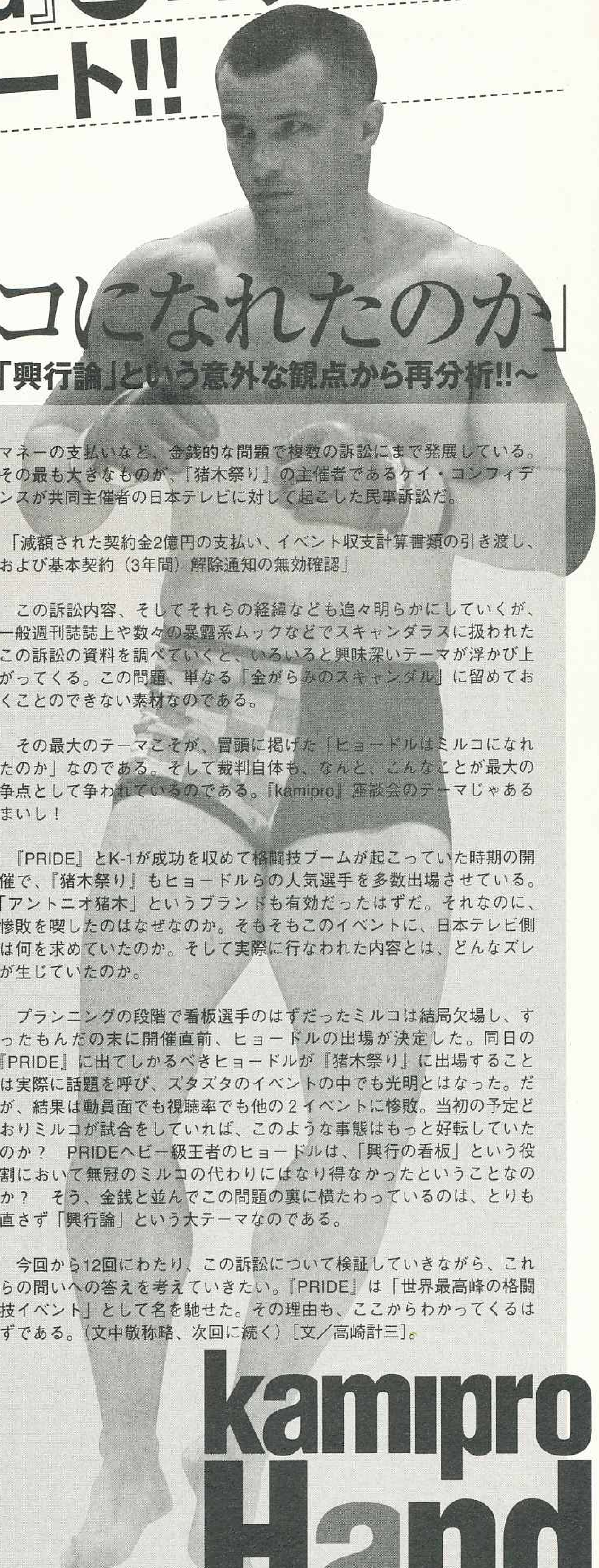
そうそう。忘れちゃいけないのは『HERO,S』でGUNS N' ROSESをテーマ曲に、どこを切ってもロックな入場をやってのけたWAKASHOYOだ。巨大ビジョンには「WAKASHOYO! WAKASHOYO!」と煽り文字がロックに飛んだ！　カ、カッコイイ。

どーですか、この人間としての厚み!!　北岡悟の「大それたことを言ってこのザマです。笑ってください！」という微妙なマイクも、曙が、WAKASHOYOが、玉海力がそう叫べば、なんだが本当に笑い転げてしまう包容力を持っている。それが相撲取りの懐の深さ。人間の深みだ。

確かに大相撲の強さをいまだに目のあたりはしていないのは事実。しかし、その無念、怨念が蓄積されたからこそ、戦闘竜の「相撲は強いんだよぉ!!」という雄叫びは心を揺さぶった。

というわけで、この検証ページの結論としては、データが「朝青龍不利」を示すからこそ、鳥肌が立つドラマが待っている。つまり「朝青龍の格闘家転向に期待せよ！」ということである。

『kamipro Hand』㊏コラムで、超大型連載スタート!!



新連載 kamipro事件簿

「ヒョードルはミルコになれたのか」

～世紀の“ズンドコ興行”『猪木祭り2003』を「興行論」という意外な観点から再分析!!～

第1回『猪木祭り』裁判の真の焦点とは!? (9月1日掲載文を紹介)

「ヒョードルはミルコになれたのか？」

この問いには、一瞬不思議な印象を抱く読者も少なくないだろう。“世界最強”といわれ、いまや１試合のファイトマネーが1億円とも2億円とも言われるPRIDEヘビー級王者、エメリヤーエンコ・ヒョードル。

2006年に『PRIDE無差別級ＧＰ』で初のタイトルを獲得したが、それまでは“無冠の帝王”という不名誉な称号がついてまわったミルコ・クロコップ。

実力至上主義のもとでは、上位に来るのは明らかにヒョードルだ。そのヒョードルが、いったいどうして「ミルコになれたのか」という言い方をされなければならないのか。

しかし、このフレーズこそがこの新連載の最も重要なテーマである。

2003年から翌2004年にかけて、この同じテーマが焦点となった裁判が存在するのだ。

それこそが、あの『PRIDE』にも多大な影響を与えた、世紀のズンドコ興行『INOKI BOM-BA-YE 2003』（以下、『猪木祭り』）に関わる裁判なのである。

★　★　★

現在、『PRIDE』の沈黙が続いている。今年4月8日に開催された『PRIDE.34』以降、すでに5ヵ月にわたって音沙汰がないばかりか、今後のスケジュールも空白のままだ。無差別級GPに沸いていた昨年を思うと、わずか1年とは思えないほどの変化である。

このような事態となった直接の原因としてはロレンゾ・フェティータの『PRIDE』買収に伴なう新会社への移行問題が取り沙汰されているが、DSEが『PRIDE』を売却せざるを得なくなった契機は、やはり昨年6月のフジテレビによる地上波放送打ち切りだった。そして、その発端となったのが一般週刊誌誌上での一連のバッシング報道だったと言われている。

2006年4月から一般週刊誌で行なわれた『PRIDE』およびフジテレビと“反社会勢力”の関与についてのネガティブキャンペーンの発端こそが、2003年12月31日に神戸ウィングスタジアム（現・ホームズスタジアム神戸）で行なわれた史上まれに見るドタバタ興行『猪木祭り』だった。誌上にはこのイベントのプロデューサーだった川又誠矢氏（株式会社ケイ・コンフィデンス代表取締役）がインタビューに応え、「格闘技界と闇社会」のつながりについて語っている一節もある。

『猪木祭り』の詳細については回を改めて述べるが、この年、2003年の大晦日はじつに民放3局がそれぞれに格闘技イベントを開催・放送するという異常事態が起こった日として、格闘技史上に残ることだろう。フジテレビの『PRIDE男祭り2003』、TBSの『K-1 PREMIUM Dynamite!! 2003』、そして日本テレビの『猪木祭り』だ。この狭い島国で同日にスタジアム級の格闘技イベントが3つ開催されるというのは明らかに正気の沙汰ではなく、そこにトラブルが起きたのも当然に思える。

現に、『PRIDE』、K-1という既存の２大勢力に割って入るかたちとなった『猪木祭り』は開催前もあとも当日まで全カードが発表されず、決定カードも二転三転するなどトラブルの連続。そしてついにはファイトマネーの支払いなど、金銭的な問題で複数の訴訟にまで発展している。その最も大きなものが、『猪木祭り』の主催者であるケイ・コンフィデンスが共同主催者の日本テレビに対して起こした民事訴訟だ。

「減額された契約金2億円の支払い、イベント収支計算書類の引き渡し、および基本契約（3年間）解除通知の無効確認」

この訴訟内容、そしてそれらの経緯なども追々明らかにしていくが、一般週刊誌誌上や数々の暴露系ムックなどでスキャンダラスに扱われたこの訴訟の資料を調べていくと、いろいろと興味深いテーマが浮かび上がってくる。この問題、単なる「金がらみのスキャンダル」に留めておくことのできない素材なのである。

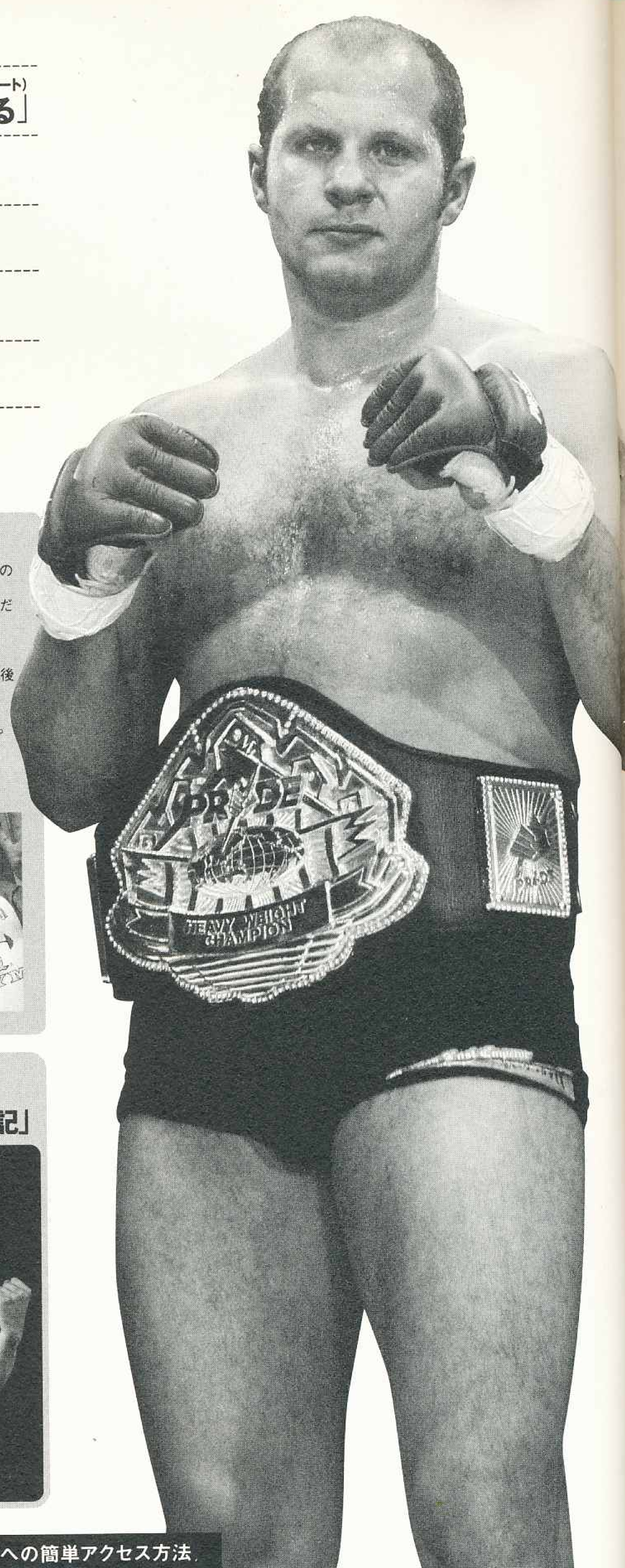
その最大のテーマこそが、冒頭に掲げた「ヒョードルはミルコになれたのか」なのである。そして裁判自体も、なんと、こんなことが最大の争点として争われているのである。『kamipro』座談会のテーマじゃあるまいし！

『PRIDE』とK-1が成功を収めて格闘技ブームが起こっていた時期の開催で、『猪木祭り』もヒョードルらの人気選手を多数出場させている。「アントニオ猪木」というブランドも有効だったはずだ。それなのに、惨敗を喫したのはなぜなのか。そもそもこのイベントに、日本テレビ側は何を求めていたのか。そして実際に行なわれた内容とは、どんなズレが生じていたのか。

プランニングの段階で看板選手のはずだったミルコは結局欠場し、すったもんだの末に開催直前、ヒョードルの出場が決定した。同日の『PRIDE』に出てしかるべきヒョードルが『猪木祭り』に出場することは実際に話題を呼び、ズタズタのイベントの中でも光明とはなった。だが、結果は動員面でも視聴率でも他の２イベントに惨敗。当初の予定どおりミルコが試合をしていれば、このような事態はもっと好転していたのか？　PRIDEヘビー級王者のヒョードルは、「興行の看板」という役割において無冠のミルコの代わりにはなり得なかったということなのか？　そう、金銭と並んでこの問題の裏に横たわっているのは、とりも直さず「興行論」という大テーマなのである。

今回から12回にわたり、この訴訟について検証していきながら、これらの問いへの答えを考えていきたい。『PRIDE』は「世界最高峰の格闘技イベント」として名を馳せた。その理由も、ここからわかってくるはずである。（文中敬称略、次回に続く）［文／高崎計三］

kamipro Hand



日 月替わりのスペシャルインタビュー
kamipro日曜劇場「西村修 カール・ゴッチを語る」（9月16日スタート）

月 インディー界を網羅せよ!
三田佐代子の「あなたの知らない世界」

水 PRIDE、K-1、総合、キック……格闘技の真髄を読め!
橋本宗洋の「格闘裏グルメ」

木 アメリカMMA事情を週イチでお届けする
デューク東郷の「Cool宅急便モバイル」

金 "プロレス冒険家"がマット界を斬る!
金沢克彦の「プロレス村から愛を込めて」

火 金村キンタロー&黒田哲広の
「こんな答えで"恐縮です"」

第1回は「遅刻グセが直りません!」（8月28日掲載文を紹介）

——（予定時刻より1時間ほど遅れて）さぁ、ようやく金村さんが到着したところで、第1回の人生相談を始めようと思うんですが……。

黒田 やっぱりこの企画、人選ミスですよ！　相談を受ける人がいきなり大遅刻してくるんだから（笑）。（金村に）おまえ、みんなに謝れや！

金村 なんでや!?　こっちは大急ぎでタクシーで来たんやぞ！（怒）。

黒田 ホラ、この調子ですから（笑）。

——いやいや、ちゃんとお悩みを解決していただければOKです（笑）。ちなみに、お二人は後輩の方から人生相談を受けたりされますか？

黒田 どちらかというと相談するほうですからねぇ。この人は（笑）。

金村 そう！　俺はよく黒田に相談しますけど、黒田は基本的に弱音を吐かない人間なんで。

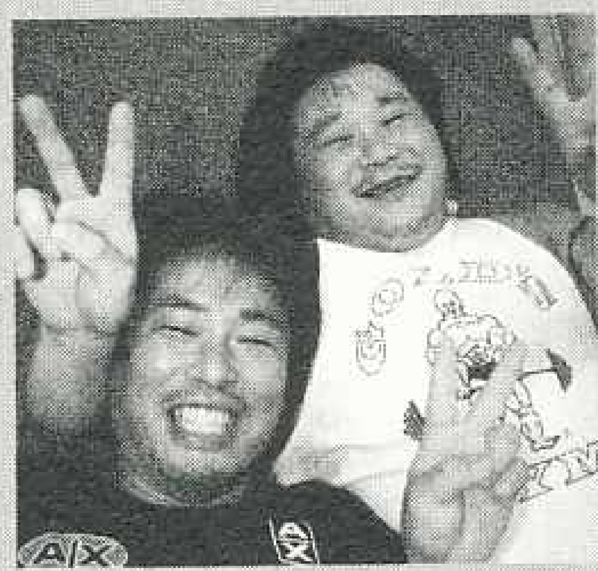
黒田 ええ。弱音はカミさんに言いますから（笑）。

金村 ああ、あのスケベ女か。

黒田 オイ！　人の嫁つかまえてスケベ女はないやろ！

——まあ、そのコンビネーションでお願いします（笑）。ではさっそく、今週の相談です！

「どうしても遅刻グセが直りません！　学校の出席はもちろん、友人との待ち合わせやバイト先でもしょっちゅう30分程度の遅刻をしてしまいます。このままでは社会人になったときが思いやられます。プロレスラーの方にも遅刻の多い人はいそうですが、何か特効薬はないでしょうか？（23歳・専門学校生・女性）」



——と、いきなりピッタリの質問なんですけども。

金村 （即座に）時間に遅れるなんて、言語道断！（怒）。

黒田 アンタのことや！　（……つづく）。

マッスル坂井の「ゴー・フォー・ブログ!」



毎日更新ブログもチェックせよ！

青木真也の「やる気! ○起! 青木日記」



大好評連載中!!

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

DoCoMo	iMenu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲
※もしくは「kamipro」で一発検索!!				
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技
Soft bank	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技
WILLCOM	趣味&スポーツ	スポーツ	総合	
	エンターティメント	TV・メディア・本	本	

kamipro Hand

［QRコード］

［お問い合わせ］（株）ダブルクロス TEL.03-5368-1795

<RADICAL特選劇場>

小池栄子、5年前の本誌初登場インタビューを発掘!



no.51 小池栄子インタビュー



no.53 坂田の恋愛相談

●一生、一緒にいてくれや♪　とついに結婚表明！　じつは小池さんは5年前の本誌No.51に登場。その時点で坂田に熱烈なラブコールを送っていた。とくにこの取材はZERO-ONEで坂田の試合を初観戦した直後とあって、「坂田選手はカッコイイ〜」と大絶賛。破壊王に紹介を頼んだことも告白しているのだから、きっかけは破壊王と本誌だった!?

●また『FRIDAY』で二人の交際が発覚した直後のNo.55では、『ガチンコ恋愛相談』という取材にかこつけて（？）坂田に真相を直撃！　なんとデートがスクープされた下北沢の街に連れ出して撮影もしているのだからムチャな企画である。

だが本文では「今回の件はホントいい出会いですよ」と本音もポロリとこぼしているから必見だ。

なんと小池栄子が坂田にラブコールしていた?

本誌インタビューはRADICALで読める!!



注 NO.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。
http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!

03-5368-1797

販売元（株）ダブルクロス　平日 13:00〜19:00

元祖！紙のプロレス BACK NUMBERはすべて50%OFF

特集 神秘とは何か?
no.14　780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15　780yen⇒390yen
あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－1とは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17　780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL no.16〜87

格闘ノストラダムス!
no.16　780yen　'99.03
[表紙：エンセン井上] アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初!前田日明インタビュー／石川孝司

"新"プロレスとは何か?
no.32　840yen　'00.10
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no.34　840yen　'01.01
[表紙：小川直也] 田村潔司に快勝！ ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10　藤波語録／ボブ＆オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no.35　840yen　'01.02
[表紙：サクマシン（イラスト）] ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36　840yen　'01.02
[表紙：橋本真也（イラスト）] ノアから独立！　高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン──ノゲイラに狼の伝言

小川直也は是か非か?
no.38　840yen　'01.05
[表紙：髙田延彦（イラスト）] 忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no.39　840yen　'01.06
[表紙：前田日明] 前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40　880yen　'01.07
[表紙：アントニオ猪木] 蘇れ！ Uインター＆キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎

"最後の黒船"WWF来襲!!
no.41　880yen　'01.08
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42　880yen　'01.09
[表紙：アントニオ猪木] ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャッホーの真実"辻よしなり／高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43　880yen　'01.10
[表紙：桜庭和志] ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44　880yen　'01.11
[表紙：桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ] その修羅場の数々！ シーザー武志／怪物伝承対談！ 高山善廣＆杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45　880yen　'01.12
[表紙：アントニオ猪木（ホームレス姿）] 悪魔の書、現る！ ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46　880yen　'02.01
[表紙：田村潔司] さらばリングス！ 金原×和田、浅草キッド／ならず者DEEPで勝利！エル・カネック／キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47　880yen　'02.02
[表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア] "天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！／噂の馳浩がミスター高橋本を語る！

桜庭、満開の日は近い!
no.48　880yen　'02.03
[表紙：桜庭和志] 奇跡のメガトン対談！ 小川直也 vs ノゲイラ＆スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に！ 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49　880yen　'02.04
[表紙：ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭] 和田さん快勝記念鼎談！ 高山＆金原＆和田／菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50　880yen　'02.05
[表紙：桜庭和志]「地方発世界」開始！ 小川＆橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁！

揺るぎなきプロレスの確立
no.51　880yen　'02.06
[表紙：橋本真也] 両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子／武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52　880yen　'02.07
[表紙：橋本真也、小川直也] 全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53　880yen　'02.08
[表紙：桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54　880yen　'02.08
[表紙：アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ] "首の皮一枚" ホイス＆エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55　880yen　'02.10
[表紙：髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白！／金原が『PRIDE』参戦！／メガトン級の男、ボブ・サップ！

驚ガクの6周年記念号
no.57　840yen　'02.11
[表紙：高山善廣] サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる"U"が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58　880yen　'03.01
[表紙：武藤敬司＆船木誠勝] 夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×髙阪／宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59　880yen　'03.02
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60　880yen　'03.03
[表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル] ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61　880yen　'03.04
[表紙：橋本真也＆小川直也] 裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62　880yen　'03.05
[表紙：ミルコ・クロコップ] ヴァーと登場！ 佐々木健介／現役復帰？ 船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断！

マット界、超絶リボーン!!
no.63　880yen　'03.06
[表紙：橋本真也＆小川直也（イラスト）]「お前は男だ」劇場炸裂！ 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64　900yen　'03.07
[表紙：桜庭和志] "異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65　880yen　'03.08
[表紙：ミルコ・クロコップ] 最後の皇帝大炎上！ ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66　880yen　'03.09
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場！／『東スポとは何か？』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67　880yen　'03.10
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] ノゲイラ戦緊急インタビュー！ ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68　880yen　'03.11
[表紙：髙田延彦PRIDE統括本部長] 大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69　900yen　'03.12
[表紙：橋本＆小川] 出てこい！ 泣き虫！ 橋本＆小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場！／田村潔司／美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no.70　880yen　'04.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] シウバに近藤有己が宣戦布告！／健介＆北斗WJの真実を語る！／紙プロ大賞＆語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71　880yen　'04.02
[表紙：ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ＆ノゲイラ／川田利明初登場！／猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72　840yen　'04.03
[表紙：ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ] GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73　880yen　'04.04
[表紙：小川直也] GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74　880yen　'04.05
[表紙：小川直也] PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75　880yen　'04.06
[表紙：小川直也、桜庭和志、吉田秀彦] シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也／奇蹟の独占インタビュー！ 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76　880yen　'04.07
[表紙：桜庭和志] 小川の"盟友"と"宿敵"が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77　880yen　'04.08
[表紙：小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78　840yen　'04.09
[表紙：小川直也] 衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79　840yen　'04.09
[表紙：髙田総統] キャプテンに休息無し！ 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か？』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80　880yen　'04.10
[表紙：ミルコ・クロコップ] ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81　880yen　'04.10
[表紙：桜庭和志] ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ＆ノゲイラママ／新日本でハッスル成功！ 小川直也／草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82　890yen　'04.12
[表紙：桜庭和志] "道場破り"の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露！ 永島勝司×ターザン山本！×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no.83　880yen　'05.01
[表紙：ミルコ・クロコップ] 04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表！ 小川直也／橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84　880yen　'05.02
[表紙：セルゲイ・ハリトーノフ] "殺人落下傘"が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85　860yen　'05.04
[表紙：前田日明＆髙田総統] PRIDE GP2005特集　桜庭、田村、髙田／パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no.86　860yen　'05.04
[表紙：ヴァンダレイ・シウバ] 大物再会！ 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87　860yen　'05.05
[表紙：吉田秀彦] 敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamipro Hand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。



大反響!! ロングインタビュー **後編**

米国刑務所生活秘話から
"巌流島の決闘"の真実まで
マサさんの過激な人生大放出!

GO FOR BROKE!!

～男が憧れる男の生き様～

マサ斎藤

前号でインタビュー前編を掲載後に大反響。超絶エピソードの数々に打ちのめされた人が続出、またしても「男の憧れ」度が上昇したマサさん。後編となる今回は、さらなる男っぷり全開エピソードを大放出。刑務所服役中の秘話から"巌流島の決闘"の真実まで、たっぷりとお届けします!

聞き手&撮影／堀江ガンツ　写真提供／マサ斎藤&ミチ斎藤

マサさん秘蔵写真も
たっぷり掲載!

—マサさんは1968年に渡米するわけですけど、あの時代にほとんどツテもなしにアメリカへ行くのは、かなり不安だったんじゃないですか？

マサ　全然、平気だったよ。だってロサンジェルスでプロモーターやってたミスター・モトさんが俺を受け入れてくれたからね。

—でも、当時は英語もほとんどしゃべれなかったわけですよね。かなり苦労されたと思うんですけど。

マサ　苦労なんかしてないさ。「一人でアメリカに行ったら大変だろうな……」とか思っちゃうから苦労しちゃうんだよ。言葉が通じないなんて最初からわかってることだし。こっちは一匹狼でアメリカに乗り込んで、一旗上げてやろう！　って夢いっぱいの思いで来てるんだから。苦労を苦労と思わない。それが大事よ。

—なるほど。アメリカで稼ぐぞ！　という思いだけだったわけですか。

マサ　そうやってポジティブに考えてたら、自然にいいほうにいいほうに物事は進むのよ。まぁ、「稼ぐぞ！」なんて、そこまで強く思ってなかったけど、アメリカ行ってすぐに稼げちゃったんだよね。

—いきなり売れちゃったんですか？

マサ　俺はラッキーだったんだよな。アメリカに行って1ヵ月半でサンフランシスコのトップよ。1週間で2000ドル稼いでたから。

—1週間で2000ドルというと、1ドル360円の時代ですから、72万円。単純計算で月に約300万円ですか。当時の価値からしたら、凄い金額ですね！

マサ　うん。なぜすぐにトップになったかといえば、ちょうどサンフランシスコのプロモーターが、ホントの日本人レスラーをほしがってたのよ。

—ああ、日系アメリカ人のヒールじゃなくて、本物の日本人レスラーの存在は貴重だったんですね。



68年の初渡米直後、ロサンゼルスマットで闘っていた当時の貴重な写真。まだパーマをかけていない短髪姿が初々しい。この1カ月後、日本人ヒールとしてサンフランシスコに転戦。トップレスラーとして暴れていくことになる。

マサ　サンフランシスコは最初に行ったロサンジェルスと違って、白人が多くて、まだ反日感情が強く残ってたんだよ。そこにプロモーターのロイ・シャイアーが目をつけて、リアル・ジャパニ〜ズの俺が呼ばれたわけ。

—本当の日本人だったからこそ、ヒールのトップとして呼ばれた、と。

マサ　でも、日本人ヒールとしての闘い方がわからなかったから、それを覚えるのはちょっと苦労したね。

—ヒールとして観客を煽るテクニックを、闘いながら覚えていかなきゃいけなかったわけですね。

マサ　そうそう。俺はそういうの全然知らねぇんだもん。だから、タッグパートナーになってくれたキンジ・シブヤさんが全部教えてくれたのさ。アメリカにおける日本人の〝ズルい闘い方〟っていうものをね。

—では、プロとしての広い意味での〝テクニック〟というものを、すべてアメリカで学んだわけですか？

マサ　そうだね。俺はアメリカでできあがったレスラーだから。

—日本ではホントにベーシックなことしか教わってなかったわけですね。

マサ　日本プロレス時代、若手の試合っていうのは、身体をぶつけて、紋めて、組んでだけの試合だったからね。だから、ホントのプロレスのテクニックを覚えたのもアメリカだし、プロレスのおもしろさを知ったのもアメリカだったな。

—日本プロレス時代は、あまりいい思い出もなかったみたいですね？

マサ　そうね。会社自体がゴタゴタしてたからさ、俺は夢を持ってプロレス入りしたのに、夢が持てなかったなんだよな。

—オリンピック・レスラーからプロレスに転向したってことで、違和感はありませんでしたか？

マサ　そりゃあったさ。でもオリンピック選手というより、〝大学出〟っていうのがよくなかった。あの頃は相撲出身ばっかりで、大学出てるのはほとんどいなかったからね。

—確かに、周りは中学卒業して相撲入りしてる人ばかりですよね。

マサ　やっぱり、そういうやっかみみたいなのはあったよ。

—じゃあ、リング上というより、プロレス界の人間関係に違和感があった、と。

マサ　あったね。だって、あの頃の合宿所なんて、相撲部屋みたいなもんだよ。日本プロレス自体が日本相撲協会の亜流みたいなもんだったからね。

—だからこそ、夢と自由を求めて単身アメリカに旅立ったわけですね。

マサ　うん。

—でも、自由すぎて悪いこともけっこうやってたって聞きましたけど（笑）。

マサ　そんなことないよ（笑）。

—でも、マサさんのアメリカ時代といえば、「セックス、ドラッグ、シュートファイティング」というのが、自伝の章題にもなっていたぐらい有名じゃないですか（笑）。そういったイリーガルなことは、たいていは経験済みですよね？

マサ　うふふふ。まあね（笑）。だってさ、当時のアメリカじゃあ、マリファナなんて、タバコと同じようなもんだったからな。

マサを知るための注釈

■ミスター・モト
ハワイ出身の日系二世プロレスラー。現役レスラーとして、日本プロレスにたびたび来日するかたわら、ロサンゼルスではプロモーターとしても活躍。引退後は日本プロレスの外人招聘係（ブッカー）も務めた。

■キンジ・シブヤ
「神風親分」の異名で知られる日系プロレスラーの大御所。マサさんが渡米後、サンフランシスコでアメリカンプロレスのイロハを教えた師匠的存在。72年にはマサさんとのタッグで、ロサンゼルスでアメリカス・タッグ王座も獲得している。

■ハーリー・レイス
70年代から80年代前半にかけて、世界最高峰と呼ばれた時代のNWA世界ヘビー級王座に通算7度も就いた、伝説のプロレスラー。そのリング内外の実力から、〝ミスター・プロレス〟、〝ザ・キング〟の名をほしいままにした、プロレスラーの中のプロレスラーにして、男の中の男。95年に引退後、ミズーリ州エルドンでレスリングスクール「WLW」を設立。WLWと友好関係にあるノアのタイトル、GHCの管理委員も務めている。

■ケイジ中山
『週刊プロレス』のアメリカ通信員。自らも明治大学レスリング部出身であることから、マサ斎藤、タイガー服部、ケンドー・カシンらとの親交も深い。

■ケン・パテラ
72年、ミュンヘン・オリンピックに出場、ウエイトリフティングで銅メダルを獲得。その後、バーン・ガニアにスカウトされてプロレス入り。日本には国際プロレス、全日本プロレス、新日本プロレスの3団体に登場した。84年にマサさんを巻き込んだ警官暴行事件を起こし、2年間服役。その後、フェードアウトするように表舞台から姿を消すようになった。

■猪木さんと鳥取でやったワールドリーグ戦の試合
74年に旗揚げから1年をすぎた新日本プロレスで開催された、「第1回ワールド・リーグ戦」。それまで日本人同士の対決が避けられていた日本プロレス界において、日本人外国人問わず、総当たりのリーグ戦ということで話題を集めた。この大会に当時、アメリカを主戦場にしていたマサ斎藤も特別参戦。鳥取でアントニオ猪木と対戦し、敗れたものの名勝負を展開した。なお、大会はキラー・カール・クラップを破った猪木の優勝となった。

■ジャック・ブリスコ
アマレスNCAA全米学生選手権優勝の実績を引っさげプロレス入り。73年にハーリー・レイスを破りNWA世界ヘビー級王座を獲得。日本では74年にジャイアント馬場が日本人初のNWA世界王者となったときの対戦相手として有名。

レスラーは大酒飲みばっかりよ。でも、アンドレは人間じゃねぇな（笑）

——そんな気軽なものでしたか！　あと、自伝を読むと、明らかに飲酒運転と思われる記述が多数見られるんですけど（笑）。
マサ　向こうは車社会だからさ、運転しなきゃ飲みに行けないじゃん。
——ま、そうなんですけどね（笑）。
マサ　それに酒飲んで運転するってことが、いまみたいに厳しくない時代だったから。おまわりにつかまっても、俺たちがプロレスラーだってわかると、「腕相撲で勝ったらチャラにしてやる」とか言ってたからね。
——ダハハハ！　飲酒運転の罰金が腕相撲でチャラ！（笑）。
マサ　そんな時代よ。俺も何度も捕まったけど、酒の匂いをぷんぷんさせて運転してたらさすがにまずいからさ。チリソースにタマネギをたくさん入れてそれ食って、おまわりに捕まったら、「ハーッ」って息嗅がして、「タマネギの臭いしかしないだろ？」「じゃあ、オッケー」ってなもんだよ。
——タマネギで臭いを消しただけで、オッケーじゃないですよ（笑）。
マサ　オッケーだよ（笑）。
——いまみたいに、機械でアルコール度を計るわけじゃないから、とりあえず酒臭くなければ、ＯＫなわけですか。でも、そんなふうに飲酒運転ばかりしてたら、長い現役生活の中で、大事故を起こしそうになったりしたことはなかったんですか？
マサ　全然ない。俺の運転は慎重だし、俺は酔っぱらわないから。酔っぱらっちゃうヤツは飲んじゃダメよ。
——ビールを12ダース飲んでも酔いませんか！　さすがですね。
マサ　俺はビールは強いよ。
——毎日かなり飲んでたんですか？
マサ　だって毎日試合があるんだもん。毎日試合があるから、毎日大酒飲む（笑）。
マサ　レスラーは大酒飲みばっかりだからね。とくにミネアポリスなんて、飲んべえばっかりよ。
——一番たくさん飲むのは誰でしたか？
マサ　みんな飲むけど、アンドレ（・ザ・ジャイアント）はありゃ人間じゃねぇな。
——人間じゃない（笑）。
マサ　ビールでもワインでも、あればあるだけ飲んじゃうからな。あとはハーリー・レイスね。
——また、いかにも酒が強そうな名前が出てきましたね（笑）。
マサ　あれは強いよ。ある日、レイスが風邪ひいて40度ぐらいの熱を出して、試合前に控室でガタガタ震えてたのよ。それが試合直前にウィスキーのボトルを一気飲みしたら、みるみるうちにパワーがみなぎってきて、3本勝負の大流血戦をやってきちゃうんだからさ。
——うわぁ～、さすが〝ミスター・プロレス〟ですね！
マサ　ただもんじゃないよ。
——そしてレスラーは、試合やって、バーでお酒を飲んだあと、女性との〝もう一試合〟が待ってるわけですよね？（笑）。
マサ　まあね（笑）。レスラーは女には事欠かないよ。
——いわゆるアリーナラッツと呼ばれる女性ファンがいるとか？
マサ　そう。女の追っかけさ。試合が終わったあと、このバーに行けばレスラー会えるってわかってて来てる女がいっぱいいるのよ。だから、試合が終わったあとは、このバーは女でいっぱいよ。



——へぇ～、凄いバーですね。そういうバーはアメリカ各地にあるわけですか？
マサ　だいたい決まってるんだよ。ニューヨークに行きゃホテルのバーがそこだし、ミネアポリスにもレスラー行きつけのバーがあるし。レスラー目当ての女がそこに来るんだよ。
——それは需要と供給の関係がバッチリ合ってますね（笑）。
マサ　まぁ、レスラーはサーキットが長いから息抜きが必要だからさ。ストレス溜まっちゃダメだから。
——そのほうがいい仕事ができる、と。
マサ　そういう店に行ったことないでしょ？　ケイジ中山に聞きゃ連れてってくれるよ（笑）。
——ケイジ中山さんはそっち方面が詳しいんですか（笑）。
マサ　あいつも明治（大学）でレスリングやってたからさ。マスコミなのにレスラーと一緒に遊んでんだよ。だからケイジはよく知ってるよ。そういう世界を。
——そしてマサさんは、英語を女性とのベッドの中で覚えたんですよね？（笑）。
マサ　まあね。俺の英会話はベッド・イングリッシュとプリズン・イングリッシュだから（笑）。
——ベッドの中と刑務所の中が英会話学校（笑）。ちょうどその話が出ましたけど、やはり刑務所に入ったことは、マサさんの人生の中でも凄い大きな経験だったんじゃないですか？
マサ　あれは最悪よ（笑）。
——最悪ですか（笑）。
マサ　あれはホント、俺は運がないというか、ついてないというか……、ケン・パテラ。あのバカ！
——あのバカ（笑）。ケン・パテラのせいで、何も悪くないはずのマサさんが1年半も刑務所に入るハメになったんですよね？
マサ　そうよ。あのときはさぁ、たまたまパテラとホテルの部屋をシェアしてたんだよ。それで試合が終わって、ホリデイ・インにチェックインして、バーで一杯やって部屋に戻ったのが夜11時頃。あいつが「腹減ったなぁ」って言いだしたんだけど、田舎だからもうレストランは閉まってる。しょうがないから、近くのマクドナルドにハンバーガー買いに行ったんだよ。俺は部屋で待ってたんだけど、そこであいつがトラブル起こしてさ。
——そのマクドナルドも閉まってて、腹いせに店の窓に岩を投げ込んだんですよね（笑）。
マサ　うん。あいつはウエートリフティングのチャンピオンだけど、砲丸投げもやってたらしいんだよ。だからって、岩投げることないよな。
——砲丸の代わりに岩を投げてましたか（笑）。
マサ　しかもあいつ、そんなこと一言も言わないんだよ。手ぶらで部屋に帰ってきて、さっさとベッドに入っちまってさ。そした



ど〜ですか、この素晴らしいメンツ! カラーでお見せできないのが惜しい、できればポスターにしたいほどの素晴らしい写真。80年代初頭、AWA最後の黄金期のスーパースター全員集合。マサさんをはじめ、バーン・ガニア、ビル・ロビンソン、オットー・ワンツ、ハルク・ホーガン、リック・マーテル、マッドドッグ・バション、ブラックジャック・ランザ、クラッシャー・ブラックウェル、ケン・パテラ、そしてアンドレ・ザ・ジャイアントらが勢揃い。うわ〜ん、うわ〜ん、最高のメンバーだよ〜〜!(プロスタ調)

ら、しばらくして部屋に女のポリスがやってきて、犯人は俺ってことになってるんだよ。

——マサさんとしてはわけがわからないですよね。

マサ それで俺とおまわりが押し問答してたら、ケン・パテラのバカが突然すっ飛んできて、女のポリスを廊下の壁に叩きつけて失神させせやがったんだよ。

——ダハハハ! なぜだ(笑)。

マサ そしたら、もう一人のポリスが拳銃を抜こうとしてて、瞬間的に「殺られる!」と思った俺は、タックルで吹っ飛ばして、足首を捻って折ったのよ。そのあと、無線で呼ばれたおまわりがたくさん来て、大立ち回りの挙げ句、取り押さえられたんだけど、おかげで1年半の刑務所暮らしだよ。

——警官ぶっ飛ばしたら捕まってもしょうがないですけど、本来だったら無罪だし、正当防衛ですよね?

マサ 俺も裁判でそう言ったんだけど、そんな話は通用しねぇんだよ。ちっちゃな町だからさ。(ウィスコンシン州)ワカシャって町なんだけど、おまわりも検事も知り合いばっかりなんだよ。

——仲間というかみんなグルなわけですね。

マサ 俺、(裁判で)負けるに決まってるよな。向こうとしたら、おまわりがやられたら面目ないわけよ。裁判では俺のこと「空手の使い手に殴られた」とか証言してさ。俺、空手なんかやったことないのに。

——学生時代からアマもプロもレスリング一筋ですよね(笑)。

マサ それで1年半ぶちこまれたからね。でも、ちょうど生活が荒れてるときで、心身ともに疲れてたからさ、規則正しい生活して、3食ちゃんと食って、いい休息になるじゃないかって。刑務所の中にはジムだってあるんだから、リフレッシュするいい機会だって頭を切り替えて刑務所に入ったんだよ。

——刑務所でリフレッシュというのも凄い



リフレッシュするいい機会だって
頭を切り替えて刑務所に入ったよ

話ですけど（笑）、まぁそうでも考えないと、やってられないですよね。

マサ　やってらんないよ！　でも、ガード（看守）と仲良くなってさ、ドライブに連れていってもらったり、釣りやったりして、つまらない生活の中でもそこそこエンジョイはしたよ。

――けっこう自由もあったんですね。

マサ　刑務所の範囲内だけどね。一度行ってみたらいいよ。おもしろいぞ〜。

――遠慮しておきます（笑）。

マサ　でも、いま考えれば刑務所に入って、ムリヤリにでも規則正しい生活をする必要があったんだよな。ケガを治す時間も必要だったし、1年半、アルコールもやめたから身体もキレイになったし。レスラー続けたままだったら、絶対にアルコールやめるなんてことはないし、身体を休めたりもしなかっただろうからね。そう考えれば、刑務所生活もタメになったよ。

――山寺で修行するようなもんですよね。

マサ　それに俺はキッチン担当だったから、メシも好きなだけ食えたしね（笑）。

――そうなんですか（笑）。

マサ　冷蔵庫を開ければ食材はいくらでもあるんだもん。だから玉子の白身だけたくさん集めて、全部俺が食ったりね。

――そんな身体を作るためのメニューちゃんと作ってましたか。それはバレなかったんですか？

マサ　ガードが見て見ぬふりをしてくれたんだよ。俺はガードと仲良くやってたからね。だから出所したあとね、近くで試合があったとき、刑務所に遊びに行ったんだよ。そしたらガードとかみんな歓迎してくれたよ。「よく来たな！」ってね。

――「よく来たな！」って言われる場所じゃないですけどね（笑）。

マサ　俺は早く出所したかったから真面目だったし、模範囚だったからね。刑務所ってさ、3段階に分かれていて、一番刑が重いヤツと次の（段階の）ヤツが鉄格子の中に入れられるのさ。まぁ、どんな罪でも最初の2週間は〝中〟に入れられて、頭のてっぺんからつま先までの身体検査と学力テストが行なわれるんだけど。それで俺は本質は真面目だったし、自分で言うのもなんだけどIQ（知能指数）が高かったのよ。それで、塀のない一番軽いところへ入れられてたんだよ。

――鉄格子なしでも大丈夫と判断されたわけですね。

マサ　だから（冬は寒いけど）夏になると、よく脱走するのが出てくるのよ。脱走者が出ると、すぐにローカルのテレビでニュースになるから、テレビをつけると川に沿って必死に逃げてるのが見れるんだよな。でも、すぐに捕まって「アァ、捕まった」なんて盛り上がっていると、そいつが手錠と足かせつけられてアヒルみたいにヨチヨチ、ぶざまな格好で戻ってくる。「バカだなぁ」と思って見てたよ。それに、ああいうところ入ってくるヤツは、アル中、ヤク中が多いんだよ。クスリで事件起こしたり、酒飲んで事件起こしたりした連中ばっかりだから。ガードに言われたよ。多くが出たり入ったりしてるけど、俺はここに来る人間じゃないって。

――囚人のあいだでも警官ぶっとばしたマサさんは〝位〟が高かったらしいですね？

マサ　だって周りはコソ泥ばっかりだもん。

――ダハハハ！　周りはアメリカのコソ泥ですか（笑）。

マサ　あとは女房を殺したり、娘を犯しちゃったりしたヤツもいたけど、そういう罪のヤツは周りからも相手にされないね。バカにされるんだよ。

――犯罪の種類でバカにされたり、敬われたりしたんですね。そして1年半の刑期を終えて出所するときって、どんな気持ちでしたか？

マサ　嬉しかったねぇ（しみじみ）。

――よく「シャバの空気は違う」って言いますけど、そういう感じはありましたか？

マサ　あったね。ホント、全然違うよ。刑務所に入ってるあいだは好きなビールが一滴も飲めなかったからね。だから迎えの車の中で、まずビール。一気に流し込んだビールはうまかったねぇ（しみじみ）。

――まずはビール（笑）。あと、刑務所に入ってるあいだで一番つらかったのは女性がいないことだったみたいですね？

マサ　そうよ（即答）。

――当時の日記には「女がほしい」ばっかり書いてあるんですよね（笑）。

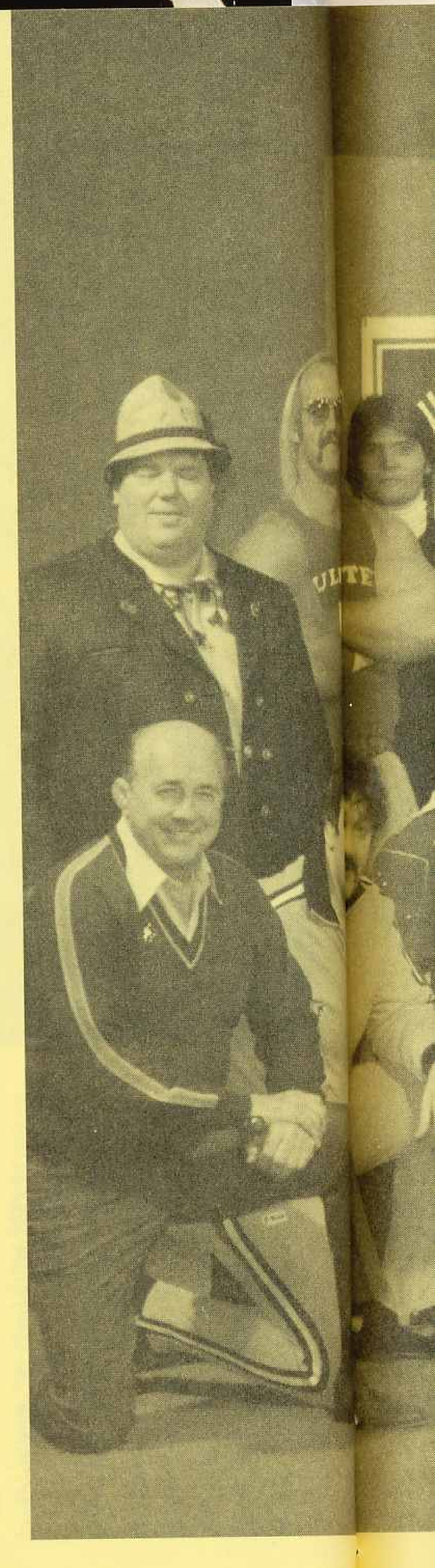
マサ　誰でもそうなるよ。刑務所の中で英語を教えてくれる、おばさんの先生がいたんだけどさ、そんな色気のかけらもないようなおばさんにまで欲情してたからね（笑）。

――でも、それだけお酒や女性をガマンしていたら、出所後、その反動でそっち方面





（写真上）刑務所服役時代の貴重な写真。模範囚のマサさんは、囚人服ではなく私服なので、とても刑務所には見えない。それにしてもマサさんの上半身、たくましすぎる！
（写真下）刑務所には維新軍の弟分だった長州力や、盟友ニック・ボックウィンクルらが面会に訪れた。これはラリー・ズビスコが来たときのショット。のちに東京ドームでAWA世界タイトル戦を争う両者は友情でも結ばれていたのだ。



kamipro SHOPPING Back Number

<RADICAL特選劇場>
小池栄子、5年前の本誌初登場インタビューを発掘!

●一生、一緒にいてくれや♪　とついに結婚表明し、じつは小池さんは

なんと小池栄子が坂田にラブコールしていた?
本誌インタビューは

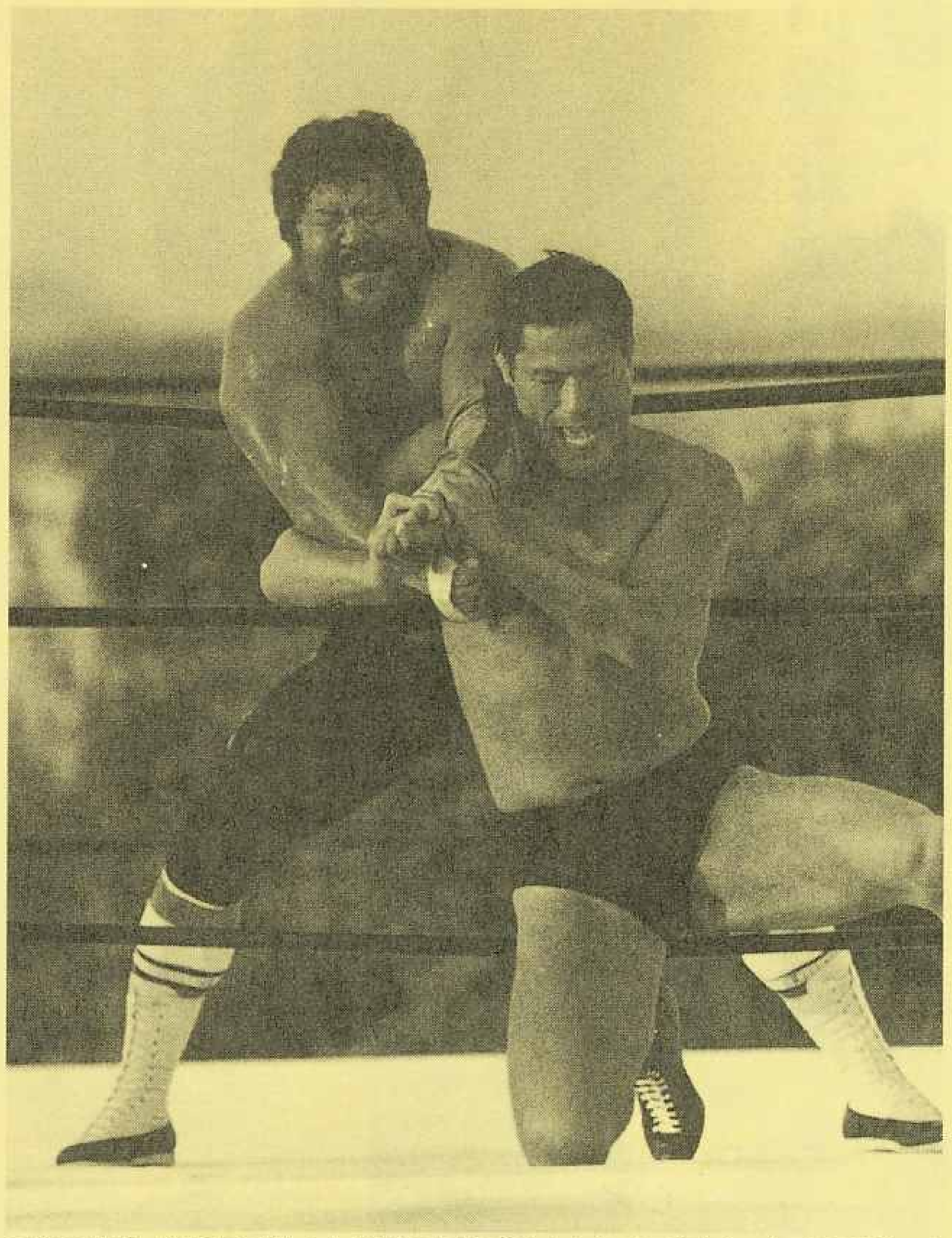
破壊『ka

『じつは

き

若い連中は失敗を恐れず頑張ってほしい「当たって砕けろ」の気持ちで死ぬ気でやれば、なんだってできるさ!

に狂っちゃったりしなかったんですか?
マサ　それはなかったね。俺はとにかくリングに上がって試合をしたかった。だから出所してからすぐにガンガン、トレーニングしたし、日焼けもして、いつでもリングに上がれるようにしたんだよ。というのも、刑務所を出る前に日本から手紙が来たんだ。アントニオ猪木からね。
——あ、猪木さん直々の手紙で日本復帰を誘われたんですか。
マサ　嬉しかったね。たぶん、刑務所に入ってた俺の経歴が使えるって思ったんじゃないの?(笑)。
——ギミックとしては最高だ、と(笑)。
マサ　だからAWAで身体を慣らしたあと、日本でいろんな抗争をやったよ。
——とくに猪木さんとのビッグマッチが続きましたよね。
マサ　ずいぶんやったよ。
——巌流島の決闘もやって。やはり巌流島というのは、マサさんのプロレスラー人生でも最も思い入れ深い試合の一つですか?
マサ　もちろんそうさ。でも、最初に巌流島の話をもらったときは、お客もいない中、どうやって闘ったらいいんだと思ったよ。でも、やればできるもんだよな。いまはああいうアイデアを考えるヤツがいないね。それがプロレス(の人気)が下がってきちゃった原因でもあるよ。健介でも武藤でも蝶野でも、アイデアを出さなきゃ。3人なら、なんか出せそうなもんだけどな。あいつらああ見えて頭いいし。
——やっぱりプロは話題になってナンボですもんね。
マサ　そういった斬新なアイデアを考えて、それが当たればプロレスも盛り上がるのよ。
——あの巌流島の試合というのは、ノーピープルマッチだったわけですけど、お客を沸かせる必要がない中で、どういう試合にしようと思いましたか?
マサ　俺もわからなかったんだよ。試合が始まるまで、どうしたらいいかわからない。だって、いつ始まるかもわかんないんだもん。
——試合開始時間すら決まってなかったんですか!?
マサ　そうよ。いつ始まるかも、どのぐらいの時間やるのかも、どうやったら終わるのかもわからない。
——それは究極のアドリブですね。凄いなぁ。いま、普通のファンも〝ブック〟だとか、なんだとかいいますけど、それがなんにもないのが巌流島だった、と。
マサ　だから最初はそんなことできるのかな?　と思ったよね。でも、おもしろそうだなって。
——猪木さんはどんな試合にしたかったんですかね?
マサ　猪木さんもわかってなかったんじゃないかな。巌流島でやるってアイデアだけで、あとどうするか考えてないから(笑)。
——どんな試合になるかは、猪木さんすらわかってない(笑)。
マサ　全部、その場よ。俺たちレスラーっていうのは、観客を沸かせるってことが一番の仕事なのよ。でも、巌流島はその必要がないわけ。じゃあ、その中でどんな試合ができるのかっていうのを試されたんだよな。
——じゃあ、あの試合はホントに、マササんと猪木さんが培ってきたものをそのままぶつけて、何が生まれるのか?　という試合だったんですね。
マサ　それはいまだからわかったことで、そんときはなんにもわからなかったけどね(笑)。
——誰も何もわからないものをゴールデンタイムで流していたんですね(笑)。
マサ　ホントよ。試合時間が2時間を超えてたなんて、試合やってるこっちとしたらわかってなかった。気がついたら日が暮れてて、どうやったら試合が終わるかも決まってないんだから。あんなバカな試合は俺とアントニオ猪木にしかできなかっただろうな。
——その巌流島も含めて、マサさんが一番思い入れ深い試合ってなんですか?
マサ　う～ん、昔の試合だけど、猪木さんと鳥取でやったワールドリーグ戦の試合。それから(ハルク・)ホーガンとやったミネアポリスでの試合だな。
——鳥取の試合から猪木さんとの試合は特別でしたか。
マサ　それまで、自分が考えてたプロレスができる相手っていなかったんだよ。大木(金太郎)さんとやってもしっくりいかないし、長州とやってもしっくりいかない。でも、猪木さんと闘って、初めて自分がやりたいプロレスができたんだよ。それが一番かな。
——ホーガンとの試合はどういった意味で印象深いんですか?
マサ　ホーガンの場合は、とにかくお客を沸かせたってことだよね。何度もでかいアリーナをフルハウスにしたよ。ミネアポリス、サンフランシスコ、シカゴ……。俺との抗争のあと、ホーガンはニューヨーク(WWE)に行って、スーパースターになったんだから。
——では、長いレスラー生活の中で、一番タフだった相手は誰ですか?
マサ　誰だろうなぁ……、みんなタフだし



87年10月4日、宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘が行なわれたことで有名な、山口県下関市にある無人島「巌流島」で、猪木とマサ斉藤が対戦。ノーピープル、ノールール、時間無制限で行なわれた試合は、2時間5分14秒におよぶ死闘の末、猪木の勝利となった。

BROKE!!



新日本プロレス時代後期は、ガイジンレスラー担当でもあったマサさん。これは札幌遠征時の恒例、札幌ビール園でのショット。こんな“猛獣”たちを手なずけられるのも、マサさんの凄さだろう。

な。でも、あえて言えば、カール・ゴッチかな。サンフランシスコで一度テレビマッチをやっただけだけど、さすが「プロレスの神様」って言われるだけあって、タフだしテクニシャンだったね。

――へぇ～、マサ斎藤vsカール・ゴッチが実現してましたか!

マサ　あとは、あいつよ。ジャック・ブリスコ。

――往年のNWA世界ヘビー級名王者、ブリスコですか。でも、スマートなイメージで、タフって感じには見えませんけどね。

マサ　いや、あいつはインディアン（ネイティブ・アメリカン）の血を引いててね、レスリングも強い。そして、どんなにハードなスケジュールでもグッドコンディション。タフっていうのは、ああいうヤツのことを言うんだよ。

――なるほど。聞いてみないとわからないもんですね。マサさんは、いまのプロレスとか観てますか?

マサ　観てないね。テレビであんまりやってないからね。

――では、ここ何年かでいいですけど、「いい選手だな」と思ったのは誰ですか?

マサ　あんまり観てないけど、ブロック（・レスナー）はいいね。あれはプロレスうまいよ。前に中邑（真輔）とやった試合とかも良かったよ。でも、彼はもうプロレスはやらないのかな?

――やらなくはないんでしょうけど、WWEのツアーがキツいんでしょうね。MMAをやりながら、単発でやりたいんじゃないですか。

マサ　そうだな。世界中を回るストレスは凄いだろうな。クリス（・ベノワ）みたいなあんなに真面目な人間があぁなっちゃうんだから、相当なストレスだったんだろうな。やっぱり、レスラーってのは大変な仕事よ。

――では最後に、いまの若いプロレスラーにメッセージをお願いしたいんですけど。

マサ　いまさら俺が言うことなんて何もないよ（笑）。でも、もう一回プロレスがゴールデンタイムに戻れるように、頑張ってほしい。業界を引っぱっていける人間が出てくることを望んでるよ。このままじゃ、日本のプロレスはキャバレーでやるようになっちゃうよ。

――どんどん規模が小さくなってきてますもんね。

マサ　だから、もう一回プロレスを盛り上げるためには、猪木さんみたいな斬新なアイデアを武藤、蝶野、健介あたりには出してほしいね。みんないいもの持ってるんだから、失敗を恐れずに頑張ってほしいね。

――それこそ、「ゴー・フォー・ブローク!」ですよね。

マサ　そうよ。「当たって砕けろ」の気持ちで死ぬ気でやれば、なんだってできるんだからさ!

【07年8月10日／埼玉県・健介オフィスにて収録】



まさ・さいとう■本名・斎藤昌典。1942年、東京都出身。高校時代にレスリングを始め、64年東京オリンピック代表にも選ばれる。大学卒業後、日本プロレスに入団。68年に渡米し「ミスター・サイトー」のリングネームで全米を股にかけて、トップレスラーとして大活躍した。87年から新日本プロレスに定着し、アントニオ猪木らと名勝負を展開。とくに87年の「巌流島の決闘」はプロレス史上に残る死闘となる。90年にはラリー・ズビスコを破りAWA世界ヘビー級王座を奪取。99年に現役を引退。第一線を退いてからは、『ワールドプロレスリング』の解説者としても人気を博した。現在は健介オフィスの選手アドバイザーとして後進の指導にあたる。180cm、120kg（現役時代）。

<RADICAL特選劇場>
小池栄子、5年前の本誌初登場インタビューを発掘!
no.51
●一生、一緒にいてくれや♪　とついに結婚表明し…

なんと小池栄子が坂田にラブコールしていた?
本誌インタビューは



風呂にフタして乗っかったのはライガーさんですよ（船木）

古きよき新日本プロレスの“危険な”バカネタ大放出!

狂気のヤングライオン青春伝説

獣神サンダー・ライガー【前編】×船木誠勝

JUSHIN THUNDER LIGER
MASAKATSU FUNAKI

聞き手／井上崇宏
撮影／福島俊彦
試合写真／平工幸雄
構成／松下ミワ

ライガー、本誌初登場でOh! モーレツ大暴走!!





新弟子を落として風呂場に沈めたのは俺じゃないんだよ！（ライガー）

〝狂気の青春コンビ〟が危険な再会!? 80年代、新日本プロレスの激動の時代に、若手時代をともに過ごした両者。かつて、まだあまり知られていなかった格闘術「骨法」に傾倒するなど、多くの時間をともにした二人に、当時のことを語ってもらう対談を敢行したのだが……、話は、二人でしでかした数々の〝武勇伝〟を暴露しまくる方向に!! マッドネスな〝新人教育〟談義など、とにかく幻想が高まってしょうがない二人の対談を読め！

——もう少しでライガーさん、到着だと思いますけど。

船木 しかし、俺とライガーさんの対談に掲載可能な話なんてあるんですかね？（笑）。

ライガー （大声で）お待たせしましたぁ!! おっ、船木！ あいかわらずかっこいいなぁ！

船木 おひさしぶりです（微笑）。ライガーさんも全然変わらないですね。

ライガー 俺なんかもうオッサンだよぉ！ 子どもは元気？

船木 はい、元気です。

ライガー かっこいい親父だよなぁ。俺なんかさ、いまや自宅近所で変質者扱いだもん!!

船木 変質者ですか？（笑）。

ライガー そうだよぉ！ 俺さ、食虫植物を育てるのが趣味なんだけど、あれってエサをやんなくても勝手に捕るんだけどさ、俺、ハエとかを捕まえて植物にやってるのさ。で、パンツにTシャツとか上半身裸で網持って近所を走り回ったりしてるわけやんか！

船木 へえ～（笑）。

ライガー でさ、俺って近所を通りがかるボウズたちにすぐ声をかけんだよね。「おう、学校の帰りか？」とか、朝だったら「おう、行ってこいよ～」みたいなさ。その姿を誰が見たのか知んないけどさ。

船木 なんかへんな人がいる、と（笑）。

ライガー 「変質者がいる」と！ で、〝特徴30代から40代で小太り。身長が170センチぐらいで長髪でヒゲ面〟って情報が回ってきたんだけど……、「これ、俺じゃんか!!」ってよ！

船木 アハハハハハ!!

ライガー カミさんからも「これ、アンタのことじゃないの!!」って怒られてさぁ！

船木 でも、変質者に間違えられる可能性はありますよね（真顔で）。

ライガー はいっ！（と、なぜか元気よく）。

——マスクマンが素顔のときに変質者扱いされると、もはや心が休まることがないですね（笑）。

ライガー そっちは絶対かっこいいじゃんか！（まじまじと見つめ）あぁ、いい男だもんなぁ！

船木 そんなことないですよ（笑）。

ライガー いや、いい男だって!! トシ相応じゃん！ っていうか、それ以上に落ち着いて見えるけど、なんでだろうねえ？

船木 ということは、もう45ぐらいに見えるってことですか？

ライガー ちゃう、ちゃう!! 貫禄があんのさ！ 落ち着いて見えるさ！ いま、いくつだっけ？

船木 38です。

ライガー そうやろう？ 俺、このトシでまだこんな感じなんだよ!? ヤバいよぉ！



JUSHIN THUNDER LIGER × MASAKATSU FUNAKI

船木 俺が落ち着いて見えるのはあれですよ、新日本時代に大変なことがありすぎたからじゃないですかね？（笑）。15歳で入っていきなり暴動じゃないですか。

ライガー そうだねえ……。

——入門後2ヵ月でIWGPの蔵前暴動ですよね。

船木 暴動、暴動、そしてまた暴動ですよ（笑）。

ライガー あの頃はバタバタしてたもんなぁ（笑）。

船木 選手の大量離脱とかもありましたし。

ライガー でも俺もある程度、その渦中にいたじゃんか？ でも、ボーっとしてるからダメなんだろうなぁ……。

船木 そうですね（笑）。ライガーさんってとにかくマイペースで、一番最初の蔵前で暴動が起きたときも、若手も道場生もみんな合宿所に帰されたんですけど「じゃあ今日はステーキ食いに行くかあ」って、みんなを連れて行きましたよね（笑）。

ライガー あっ、そう!? 暴動起きてんのに？ 俺、そんなの知らん！（笑）。

船木 いや、俺は覚えてますよ。

ライガー 知らん！ そもそも船木はね、素質が凄かったもんな！

——入門当初からですか？

ライガー うん。ま、骨法に通ってたときもそうだけどさ、全然違うんだもん。俺とはモノが！

——お二人とも骨法の道場に通われてましたよね。

ライガー うん。あれは確か最初に猪木さんで次が船木かな。で、船木から俺らにっていう順番だよな？

船木 いや、俺より先に武藤（敬司）さんが最初に行ったんですけど、武藤さんは3日で辞めたんですよ。

ライガー ワハハハハ！ 武藤は骨法の道場の鏡の前で「俺、天才かなぁ？」って言ってたらしいよ（笑）。ちょっと習ったら「俺、全部できるわ」って。

船木 で、俺が次に行かされて。そういえば当時、レガースを隠されましたよね。

ライガー ああ、あったあった。

——新日本の合宿所に置いてたら、ですか？

ライガー そう。なんか打撃とかそういうのはやっちゃいけないみたいなアレルギーを持った人もいてね。レガース隠されたなぁ。

——それは打撃の練習ができないようにって？

船木 いや、試合で着用しないように。だから俺らは練習用のレガースを着けて試合に出てたんですよ。そうしたら隠した人もあきらめたのか、そのシリーズが終わったらちゃんと袋に入ったレガースが戻ってきてましたよ。

ライガー でも考えてみたらさ、デビューして1年とか2～3年の小僧がさ、会社の意向に反して好き勝手にやってさ、よくクビになんなかったよな！ 会社に楯突いてるわけだからさ。新日本プロレス、たいしたもんだわ！（笑）。

——楯突くといえば、1988年4月に大阪府立体育会館で行なわれた猪木vs山田&船木組の試合も衝撃的ですよね（笑）。



船木優治（当時）とともに「骨法」を学んでいた当時の山田恵一。その後、山田は1989年1月のヨーロッパ遠征中に消息不明になったと言われており、ライガー自身によると山田は「リバプールの風になった」と、なんとも幻想あふれる発言がなされている。

船木　ああ。あれはナメてますよね。若手が社長を相手に（笑）。

——ナメてますよ（笑）。あれ、いまでもネットで動画が見られたりするんですけど、猪木さんが本気になってリング内外を追っかけ回すんですけど、二人とも全力で逃げて絶対に捕まらないんですよ（笑）。僕の記憶では、そんなことはいまも昔も許されなかったように思うんですけど……（笑）。

船木　いやぁ、あとで星野さんに怒られましたけどね（笑）。

ライガー　許す、許さないじゃないよ。俺たちが勝手にやってただけだよな。

船木　よくやってましたよね。

ライガー　ホント、よくやってたよな……。

船木　よくやってたし、よくあんなマッチメイクが組まれましたよね（笑）。

——だけど、船木さんは格闘技経験なしで新日本に入門したわけですが、ライガーさんにはアマレスというバックボーンがあったじゃないですか？ それでも船木さんはやっぱり凄いと感じましたか？

ライガー　いやいや、道場で練習したりスパーリングをしたりしても、もう全然違う！ そのときは俺も「くそったれ！ 負けるか！」っていう先輩の意地があるから言わなかったけどさ。いまはもう素直に認めるよ。

——具体的に、どこがどう凄かったですか？

ライガー　なんかねえ、ヒザがへんに動くんだよねぇ！

——ヒザがへんに動きますか！（笑）。

ライガー　こう蹴って、上から脚が縦に落ちてくるんだよね！ 俺ら、そんなの絶対できないのさ！ だってブロックできないんだもん。見えない！

——アハハハハ。さっき、暴動の話が出ましたけど、振り返ってみるとお二人が若手だった頃の新日本って、一番事件が満載な時期でしたよね。3度の暴動あり、大量離脱あり、顔面蹴撃事件ありで（笑）。

船木　俺が入門してまず暴動が起きたじゃないですか。で、その2ヵ月ぐらい前には旧UWF旗揚げですよね。

ライガー　ユニバーサルね。

船木　はい。4月11日なんですけど、ちょうどその日が自分が新日本に入門した日なんですよ。

ライガー　あ、そうなの!?

船木はもう出だしから違うよぉ！ 俺、人生が一回も二回も関係ねえもん！（ライガー）

船木　そうなんですよ。それが旗揚げの日なんですよね。そこからまた9月には、長州さんたちが大量離脱をして。

——その直後に新日本は箱根で5日間の強化合宿をやりましたよね。

船木　はい、ありましたね。

ライガー　あれって、選手が逃げないように隔離されたようなもんだよな？

——あっ、あの合宿にはそんな意味合いがあったんですか？

ライガー　そうそう。あれは隔離なんですよ。

船木　でも、あの合宿のときもライガーさん、余裕でしたよね（笑）。

ライガー　え？ 俺、また余裕だったぁ？（笑）。

船木　そうですよ。「みんなで一致団結だ！」って集合写真を撮ったときも、笹崎（伸司）さんのうしろでピースサインやってましたよ（笑）。

ライガー　ピース……。でもそんなのしゃあないやん!? 「もう、俺たちはやることやってりゃいいやん」みたいな感じだったんよ。

船木　でもライガーさんが一応ちゃんと考えたのは、ライガーに変身するかしないかっていうときじゃないですか？

ライガー　いや、あのときも考えなかった！ 即「やる！」って言ったよ！

船木　いや、じゃあ「全日本に行こうかなぁ？」っていうのもあったじゃないですか。

ライガー　ああ、なんかあったねぇ。

——えっ、ライガーさんが全日本に行くっていうプランがあったんですか？

ライガー　いや、自分の頭の中だけでね。「新日本はこんなゴタゴタばっかりやってるし、どうしようかなぁ？」みたいなね。

船木　だから、そんときぐらいじゃないですかね。

ライガー　いや！ ほかにもちゃんと考えたときあるよ！ ほら、やっぱり藤原（喜明）さんから直接UWFに誘われたときは……。

船木　ああ、あのときですね。あれはもう俺も考えましたからね。

ライガー　そうでしょ!? あのときはちゃんと考えたね。あとはあんまり考えてないけど（笑）。

船木　俺たちだけが藤原さんに呼ばれたんですよね。

ライガー　でも船木はハッキリしてんだよ！ 「行く」って言ったら行くんだよ！

——ライガーさんの感覚だとありえないですか（笑）。

ライガー　「えっ、ホントに行くの!? ホントに!?」みたいなさぁ！ 「いや、僕行きますよ」ってさ。

船木　っていうか、海外遠征に行く前にもう高田（延彦）さんとかに呼ばれて「来てくれ」って言われてたんですよね。

ライガー　あ、ホントに？

船木　でも一応海外との契約もあるんで、「1年だけ行ってきます」と。

——海外遠征はちょうど1年ですよね。現地に前田（日明）さんも来られたみたいで。

船木　来ましたね。

ライガー　で、イギリスで俺と船木は一緒に住んでたんですけど、もう、ウチの会社から電話がガンガンかかってくんのよ！

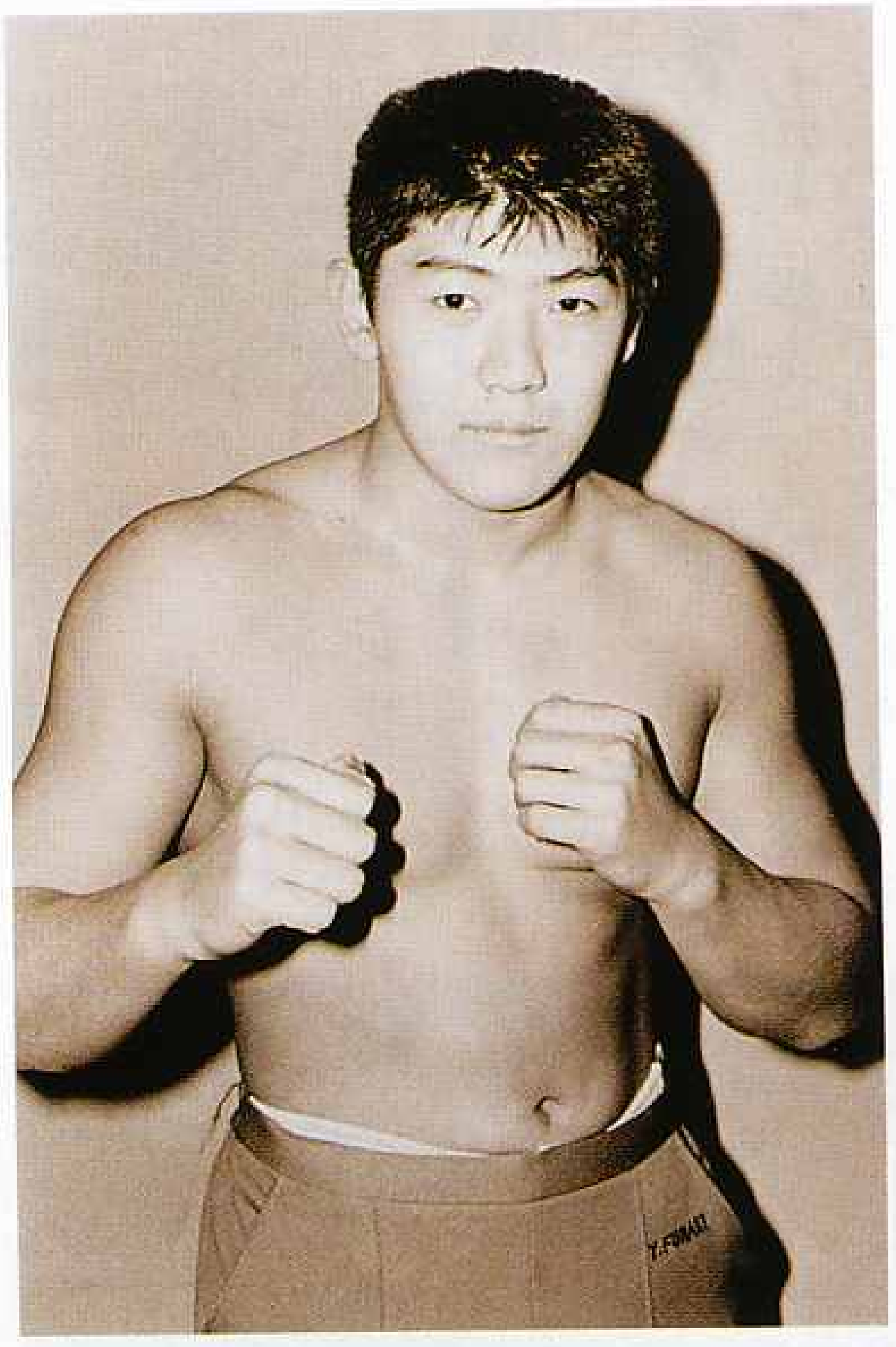
船木　リバプールですよね。あの頃、女子プロレスラーも一緒に住んでましたよね（笑）。

ライガー　「また会社から電話だよ」って。で、船木は「いや、僕はもう戻



1987年12月27日の両国国技館で実現した山田恵一vs船木優治（当時）戦。"骨法コンビ"と呼ばれていた両者の対決は、開始早々、激しい骨法流蹴りの応酬になり、観客はすぐさまヒートアップ！ この様子はゴールデンタイムの特番でも放映され、二人の対決はかなりの注目を集めた。

りません」とか言ってんの。
――それは新日本からの引き止めの電話なんですね。
船木 そうですね。で、現地に俺の母親も来ましたよ。覚えてます？
ライガー あ、おふくろさん来たねえ。
――それは新日本がお母さんも巻き込んで説得にあたった。
船木 そうです。でも、説得されなかったですね。母親も「なんで連れて来られたのかわかんない」って言ってました。
――そうですよね。お母さん個人が「Uには行っちゃダメ！」って思わないですよね（笑）。
ライガー ガハハハハ!! そんな業界に精通した母ちゃん、いねえよなぁ！
船木 そうですよ（笑）。でもなんか「会社に凄く迷惑をかけてるんだったら、おまえダメだよ」って感じで言われましたね。
ライガー でもさ、ぶっちゃけて話すけどさぁ、船木が偉いなと思ったのはプロレスラーになるって決めたときに「僕に人生が二回あったら、お母さんの言うことを聞くけど、一回しかないので僕はプロレスラーになります」って言ったんでしょ？ それを中学生が言うんだよ!? 俺、もう43になるけど、いまだって言えねえよ、そんな言葉！
――ライガーさんの感覚だとやっぱりあり得ない（笑）。
ライガー ああ、もう出だしから違うよぉ！ 俺、人生が一回も二回も関係ねえもん！「あ、今日も生きてるぅ！」ってそれだけだもん!!
――今日も生きてるぅ！（笑）。
ライガー いつも「俺、いま生きてるぅ！」って思いながら歩いてんだもん（笑）。おまえはそこが違うんだよ！ いや、ここで船木をヨイショしてどうのこうのなんか考えてねえよ？ でもその言葉はね、ホントッ……ねぇ。
――船木さん、ライガー先輩ってこんなにおもしろい人だったんですね（笑）。
船木 はい（笑）。
ライガー 俺、ホントにあれこれ考えない！ 好きなことしてりゃいいからさ！
――で、その際に新日本が慰留のために用意していたプランが……。
船木 ジャッキー・チェンのことですか？ あれはちょっとぐらつきましたよね（笑）。で、ライガーさんに「ジャッキー・チェンとやらせてくれるって言うんですけど」って言ったら「だけど、ジャッキー・チェンって俳優だよ？ その先に何があるの？ 勝ってあたりまえじゃん」って言われて。「ああ、そうだなぁ」って。
――このやりとりはライガーさんは覚えてますか？
ライガー あれは猪木さんが船木を売り出そうとしてたからで、猪木さんが「俺にまかせろ。こういう構想がある」って言ってたのは覚えてますよ。
船木 あれもわざわざ猪木さんに近い人間が、イギリスまで話をしに来ましたからね。
ライガー そう！ だって船木引き止め作戦、凄いんだもん!!
船木 いや、あれは自分もビックリしましたよ。
ライガー ねえ!? いろんな人が来たし、電話はくるしさ！
船木 ホントに焦りましたよ。
ライガー あ！ 俺、船木に言われたこと一つ覚えててさ！「30になったときのカラダが、一生のカラダですよ」って。
船木 ……俺、そんなこと言いましたか？
ライガー 言ったさ！「だからあんまり太りすぎるのもよくないですよ」って言われたもん。俺、それ聞いて「ヤベえ！」と思って慌てて減量したもん！
船木 それは覚えてないですけど、いま聞いて「なるほどな」と思いました。
ライガー おい！ 俺、直接言われたよ!?
――それは、30歳の時点で体質的なものが決定しちゃうっていう理論なんですか？
船木 いや、わかんないです。たぶん自分の頭の中でいま思い浮かぶのは、還暦が60じゃないですか？ その半分が30なんでちょうど真ん中だからかなって（笑）。
ライガー エエッ、それだけの理由だったのぉ!? なんだ、そりゃあ!? いや、船木ってカラダのことでもなんでも突き詰めるタイプじゃんか。だから「そうなんだぁ」って思って絞ったよ、俺！ そういえば俺、こないだ大腸検査をやったのさ！
船木 大腸ですか。
ライガー おう！ 近所の病院に行って検査してもらったんだけど、なんともなかった！
船木 だけど、45歳になったら一回全部検査してもらったほうがいいですよ。
ライガー あ、マジぃ!? ちょっと、それ忘れないように誌面に書いといて！ 45ね、オッケー!! 俺はあと2年後な！
船木 45になったら人間ドックをやったほうがいいらしいです。そこで、たとえばガンとかが見つかってもその年齢で見つかれば治る確率も高いらしいんですよ。
ライガー なるほどな！ オッケー!!
――今回はなんで大腸だけ検査したんですか？
ライガー いや、お尻を拭いたら血がついてたのさ！
船木 痔じゃないですか、それ？
ライガー うん！ おっきいウ●コが出たのさ！
――それ、すでに原因が明白じゃないですか（笑）。
ライガー でもなんともないって言われたら、ホッとするね！
――ライガーさん、ホントおもしろいですねぇ（笑）。お尻の話で思い出したんですけど、昔、腕立て伏せが3回くらいしかできない120キロの巨漢新弟子がいたらしいですね？ その人にいつも下剤を飲ませてたって聞きましたけど（笑）。
船木 いましたね。Yですよ。
ライガー ああ、いたいた！
――で、当時新弟子の教育係を自任していたライガーさんとしては、「弱くて体力のないヤツがプロレスラーを志すのは許せない！」って、辞めさせるためにいろいろ作戦を立てたと聞いてますが。
船木 ええ。会社の上層部のコネで入ってきたヤツだったんで、追い出すわ


デビュー当時の15歳の船木。当時は本名の「船木優治」の名でリングに上がっていた。「人生が二回あったら、お母さんの言うことを聞きます。だけど……」という名セリフでライガーを感心させたのは、まさにこの当時のことだろう。

JUSHIN THUNDER LIGER × MASAKATSU FUNAKI

ライガーさんが一応ちゃんと考えてたのは変身するかしないかってときですよね？（船木）

けにもいかないから自分から辞めるのを待つしかないんですよ。

ライガー　間違って入っちゃった以上はな、それなりの……、いや、新弟子といえばまず俺は船木に文句を言いたいんだけどね！　新弟子を落として風呂場に沈めたの俺のせいになってるけどさ！

船木　それ、俺です（笑）。

ライガー　そうでしょ⁉　あれ、俺がやったことになってるんだよ‼

――変質者に間違えられたり、常に冤罪を被りますね（笑）。

ライガー　俺、しないよ‼　船木はうまいのさ、落とすの！

船木　でもそこにフタをして乗っかったのはライガーさんですよ。

ライガー　確かに乗っかったのは俺だけど！

船木　アッハハハハハ！

ライガー　でも落として沈めたのは船木‼　これ、書いといてよ！　俺じゃないって！　船木、すっごい落とすのうまいんだよ！　ちょっとやってもらってみない～？

――絶対にイヤですよ‼（笑）。

ライガー　イギリスでさ、〝オリエンタル・マジック〟だっつってね、会場のファン10人くらい希望者を集めてリング上に並べるわけさ！

船木　ああ、ありましたね（笑）。

ライガー　で、船木が両手の親指で一人ずつ首を「ピッ、ピッ」ってやって落とすわけさ！　ものの5秒も経たないうちにストーンって落とすんだよ！

――あ、頸動脈部分を「ピッ」ですか。

ライガー　うん。なかには意識戻したあとに怒ってくるヤツいたよな？



8月11日G1クライマックス・両国国技館大会で、蝶野の呼びかけにより、ライガー、越中、ストロングマシン、長州の5名で新ユニット「レジェンド軍」が結成された。今後プロレス界に及ぼす影響とともに、さらなるレジェンドの加入も見逃せないところだ！　……たぶん。



8月28日に行なわれた『HERO'S』カード発表記者会見で、復帰戦の相手として桜庭和志を指名した船木。9月17日『HERO'S』で桜庭と対戦する柴田には「自分の気持ちは無視してもらってかまわない」と伝えているそうだが……、普通に考えて気にならないはずはないでしょ！

船木　いました。なんか髪の毛立てたパンクみたいな人が。「なんだよ、おまえが希望したからやったんだろう」みたいな（笑）。

――それは大会のアトラクションみたいな形式でやるんですか？

船木　いや、試合開始前ですよ。俺たち二人のタッグでリングに上がったら、リングアナが「コイツらは〝オリエンタル・マジック〟を使う。誰かかかりたいヤツはいるか？」ってアナウンスをして、希望した客をリングに上げるんですよ。で、それを俺がポンポンと落として、それが終わったらすぐ試合開始（笑）。

ライガー　だから、俺それを横で見て待ってんだよ（笑）。「わ～、落ちた落ちた！　すげえ！」って。もう芸術的だよ⁉「ピッ、クテーン！　ピッ、クテーン！」ってさぁ。で、落ちてみんな痙攣してんの！

船木　そんな興行が許されるっていうのが凄いですよね。

ライガー　イギリスな！　だから風呂場事件はね、確かにフタをして乗ったのは俺だけど、落として風呂の湯船に落としたのは船木だもん！

船木　でも、実際乗ってんじゃないですか（笑）。

ライガー　だけどフタの上に乗っかってたらさ、すぐYが下から凄い勢いで突き上がってきてな‼

船木　ザバァーって（笑）。怪獣映画のワンシーンみたいでしたよね。

ライガー　やっぱり「必死になった人間の力は凄いな……」ってのがわかりましたね。

――どんな教訓ですか、それ（笑）。

船木　でも、そんなことをしても意外とアイツは辞めなかったんですよ。最終的に辞めたのは凄く単純なことで辞めたんですよ。ライガーさんのね。

ライガー　へ？

船木　これは書かないでくださいね。●●を●●ただけで辞めたんですよ。そんなどうでもいいことで。だから最初っから●●●を●●とけばよかったんですよ（笑）。

――普段は痩せさせるために日常的に下剤を飲ませてたんですよね？　船木さんが薬局まで買いに走って。

船木　ですね。「下剤を飲んでとにかく痩せろ！」と。いつも下痢でゲッソリしてましたね。

ライガー　もう人体実験だよね。恐ろしいわぁ……。

船木　2週間飲んで、20キロ痩せましたからね。

ライガー　そんなに痩せたっけ⁉

――そのおかげで、腕立てができるようになっちゃったっていう（笑）。

船木　ある程度できるようになっちゃったんですよ（笑）。

ライガー　でも、弱いんだよねぇ。もの凄く、フニャフニャなのさぁ！

船木　ハハハッ！　フニャフニャでしたね（笑）。

ライガー　「高校のアマレスで全国で2位でした」って言うんだけど、ソイツの階級、日本で二人しかいなくてさ！「じゃあドベじゃねえか！」ってね。

船木　だから、プロレスに入っちゃいけないヤツだったんですよ。でも、俺らだけじゃなくて、みんなでやりましたからね。蝶野（正洋）さんはいつも近所の食堂に連れていって、必ず大盛りを二品食わせるんですよ。それで帰ってきたら今度はこっち側でまた下剤じゃないですか。

ライガー　「デカくすんのか痩せさせるのか、どっちなんだ‼」っていうね。

船木　さらに、そこに橋本真也が2リットルのコーラをいつもイッキ飲みさせてて。

ライガー　そう！　もうワケわかんないでしょ？

――でも、それにも全部耐えきったんですよね。

船木　いるんですよ。でも最後に●●●を●●ただけでいなくなっちゃったんですよ。

ライガー　単純だよなぁ？　だから「人間って不思議だなぁ……」と思ってさぁ。

――そこでまた、まるで深みのない教訓を得ましたか（笑）。

船木　那須の慰安旅行でですよね。たまたま俺とライガーさんとソイツの3人が一緒になって……。

――最悪の部屋割りですね（笑）。

船木　その部屋でソイツがなんかライガーさんに口ごたえをしたんですよね。

ライガー　あ、そう？

船木　ええ。それでライガーさんが怒ってボコボコにして、「おまえ、今回の罰だ！　●●●を●る！」って言ったら「それだけはやめてください‼」って。

ライガー　そうそうそう！　やけに「やめてくれ！　やめてくれ！」って言うんだよな！

船木　で、ライガーさんが「じゃあ、

JUSHIN THUNDER LIGER
×
MASAKATSU FUNAKI

●●●じゃなかったら「△△△！」って言ったら「△△△もイヤだ！」って（笑）。で、俺は見ててちょっとかわいそうだったんで「さすがに、ちょっとこれはかわいそうじゃないですか？」って言ったら、「もういいんだよ、コイツは！」って言ってやっちゃって。で、次の日起きたらいないんですよ。

――はあ～……。

ライガー　ちょっと！　そんな目で俺を見るのやめてっ！（笑）。その頃は俺も若かったし、血気盛んな頃だったしね。そんな体力もない人間がね、新日本にいちゃダメだよっていうね。

船木　あれは会社側がちゃんと判断するべきですよね。

ライガー　（なぜか敬語で）べきですよね!?　いくら人の紹介だからっていったってなぁ。

船木　入門テストがナシですよ？

ライガー　それで我慢できりゃあいいよ？　でも腕立てができないんだよ？（笑）。「うぅ……ペチャ！」ってさ。

船木　だから「じゃあスクワットをやれ！」って言ったら、「いや、ちょっとヒザが悪いんで……」。「なんでっ！」って（笑）。

――入門当初からヒザに爆弾抱えてるんですか（笑）。

ライガー　いや、でもいまでもアイツとは交流があるんでね。

船木　えっ!?

ライガー　交流あるんだよ。俺、いまでもアイツの地元に試合で行ったら、一緒にメシ食うよ？

船木　あ、まだいるんですか？

ライガー　いるんですかって……、まだ生きてるさ、そりゃあ!!　何を言ってるんだ、おまえ！（笑）。

船木　いやいや（笑）、どういう関係でまだつながってるんですか？

ライガー　いや、一回会場にYが差し入れでスポーツドリンクを持ってきたのさ。それで「あの当時は凄くご迷惑をおかけしました！」ってワケわかんねえこと言って。俺が迷惑かけたのによ！（笑）。それで連絡先を教え合ってさ。だからいまでもアイツの地元に行ったときは一緒にメシ食ったりとかチケットを用意してあげたりとか、付き合いあるよ。

船木　あ、そうなんですか。へえ～。意外ですね（笑）。

――そこまでかわいがられといて挨拶に来られるなんて、意外すぎるというか、凄くいい人じゃないですか。

船木　いや、確かに人はよかったです。人間的には最高でしたよね。

ライガー　そうそう、すっげえいいヤツ！　ただ、レスラーにはなっちゃいけないっていうかね。

【07年9月8日／都内・二子玉川にて収録】

“あの”新弟子は、最終的には凄く単純なことで辞めたんですよね（船木）

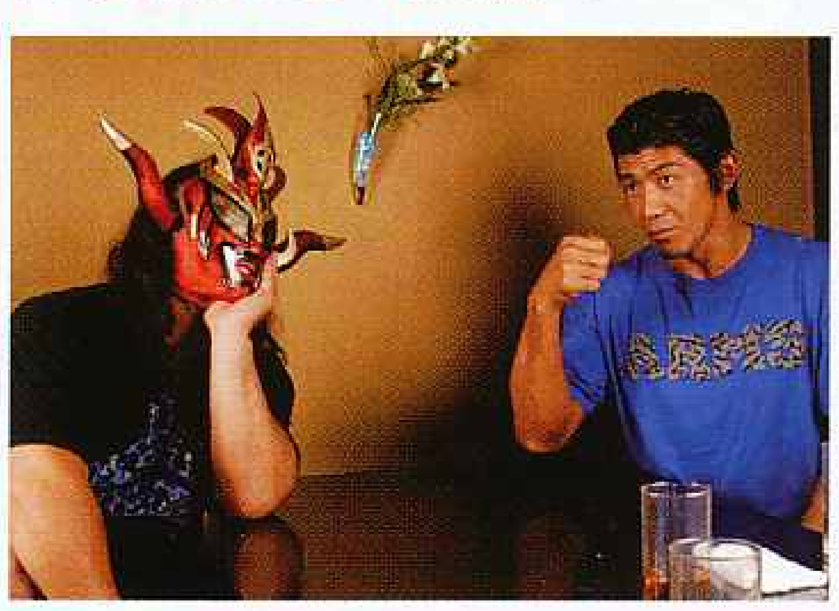
そう！　だから俺「人間って不思議だなあ」って思ったよねぇ（ライガー）



じゅうしんさんだー・らいがー■1989年4月24日、小林邦昭戦でデビュー。翌年5月には馳浩を破りIWGPジュニア・ヘビー級王座を獲得。その後、ジュニア界の中心人物として活躍し、91年12月にはアメリカへ渡り、WCW世界ライト・ヘビー級王座に君臨。また、04年にジュニア・ヘビー級のヒール軍団「C.T.U」を結成、その後は蝶野正洋の率いる「BNJ（ブラックニュージャパン）」に合流し、現在は蝶野の呼びかけにより結成された「レジェンド軍」に所属している。170cm、95kg。

ふなき・まさかつ■1969年3月13日、青森県出身。84年、新日本プロレスに入門。第二次UWF、藤原組を経て、93年にパンクラスを旗揚げする。第4、6代「キング・オブ・パンクラシスト」に輝くも、2000年5月、ヒクソン・グレイシーに敗れ、現役を引退する。その後、『Dr.コトー診療所』に出演するなど俳優として活躍していたが、今年7月の『HERO'S』で現役復帰を宣言。8月28日の会見で、桜庭和志を12月31日『Dynamite!!』での復帰戦の相手に指名した。182cm、85kg。

二人の“武勇伝”はまだまだ炸裂!!
プロレス史に残る衝撃の暴露話は
次号掲載予定の【後編】で！



PANCRASE HYBRID WRESTLING

稲垣組の特攻隊長。



小三までいじめられっ子。しかし相手のトップを倒した日から、一人で全員をシメる立場に大逆転。以降、本人以外誰もが認める不良少年に。しかし、その才は格闘技との出会いで生きた。藤原大地。ブレイク必至の注目株がメインを締める！

PANCRASE 2007 RISING TOUR

9.30(日)梅田ステラホール

OPEN 15:00 START 16:00 当日券14:30から発売

メインイベント フェザー級戦
(パンクラス稲垣組) 藤原大地 [3R] エマニュエル・フェルナンデス (フレンチ・トップチーム／初参戦)

セミファイナル フェザー級戦
(パンクラス稲垣組／5位) 藤本直治 [2R] パンチィー山内 (総合格闘技道場コブラ会)

第5試合 ウェルター級戦
(格闘技吉田道場) 高田谷悟 [2R] 枝折優士 (TEAM VAMOS／初参戦)

第4試合 ミドル級戦
(パンクラスism) 鳥生将大 [2R] 北浦徳之 (和術慧舟會兵庫支部／初参戦)

第3試合 ミドル級戦
(和術慧舟會福岡支部) 中村勇太 [2R] 国本起一 (総合格闘技道場コブラ会)

第2試合 フェザー級戦
(パンクラス稲垣組) 長谷川孝司 [2R] 中村健太 (禅道会広島支部)

第1試合 パンクラス・アテナ 58kg未満契約
(パンクラス稲垣組) 伊藤あすか [3R] 佐々木絹加 (ALIVE／初参戦)

●チケット料金（当日券は一律500円増しとなります） ●お問い合せ：パンクラス (03)5792-0815
後楽園ホール：SS･¥12,000 A･¥8,000 B･¥6,500 C･¥5,000 D･¥4,000
ディファ有明：SS･¥12,000 A･¥8,000 B･¥6,000 C･¥4,500
梅田ステラホール：SS･¥8,500 A･¥6,500 B･¥5,000

パンクラス アマチュアジム「ピーズ・ラボ」東京／横浜／大阪で会員募集中！
お問い合わせ：(03)5792-7079

10.14(日)ディファ有明

NOW ON SALE OPEN 15:00 START 16:00

ヘビー級キング・オブ・パンクラス タイトルマッチ
(トータル・パンチMMA／bodog／第3代王者) アスエリオ・シウバ [3R] アルボーシャス・タイガー (ラトビア士道館／1位)

ライトヘビー級戦
(パンクラスism／第3代王者) 近藤有己 [3R] 桜木裕司 (掣圏会館)

フェザー級戦
(U.W.F.スネークピットジャパン／3位) 井上学 [3R] ジョン・ジンソク (ウルフ・チーム・マックス)

ウェルター級戦
(SKアブソリュート) 和田拓也 [3R] キム・ヒュンクワン (チーム タックル／初参戦)

ライト級戦
(パンクラスism) アライケンジ [2R] 平山貴一 (和術慧舟會RJW)

ウェルター級戦
(パンクラスP'sLAB横浜) 本田朝樹 [2R] 坂口征夫 (TEAM坂口道場)

フェザー級戦
(闘心) 曹竜也 [2R] 裕希斗 (U-FILE CAMP.com)

ミドル級戦
(パンクラスism) 佐藤光留 [2R] 阿部健太郎 (ハイブリッドレスリング山田道場)

11.28(水)後楽園ホール

9.29 ON SALE

ミドル級キング・オブ・パンクラス タイトルマッチ開催！
(フリー／第6代王者) 中西裕一 [3R] 竹内出 (SKアブソリュート／1位)

●主催：(株)ワールドパンクラスクリエイト ●後援：インデックス、スカイ・A、ドン・キホーテ、STC GROUP ●特別協賛：bodogFIGHT ●お問い合せ：パンクラス 03-5792-0815 http://www.pancrase.co.jp/

パンクラス、テレビ観戦は スカイ・A sports+ で！ 全大会をどこよりも早く！

※都合により、放送日時は変更となる場合があります。

New **07.09.30 梅田ステラホール大会**
10月10日(水)20:00～22:00
10月13日(土)22:00～24:00(再)／10月28日(日)24:30～26:30(再)

10月 2日(火)22:50～24:50 ▶ 03.04.12 後楽園ホール大会
10月 7日(日)24:30～26:30 ▶ 03.05.18 横浜文化体育館大会
10月27日(土)21:30～23:30 ▶ 07.07.27 後楽園ホール大会

スカイ・A sports+をご覧いただくには

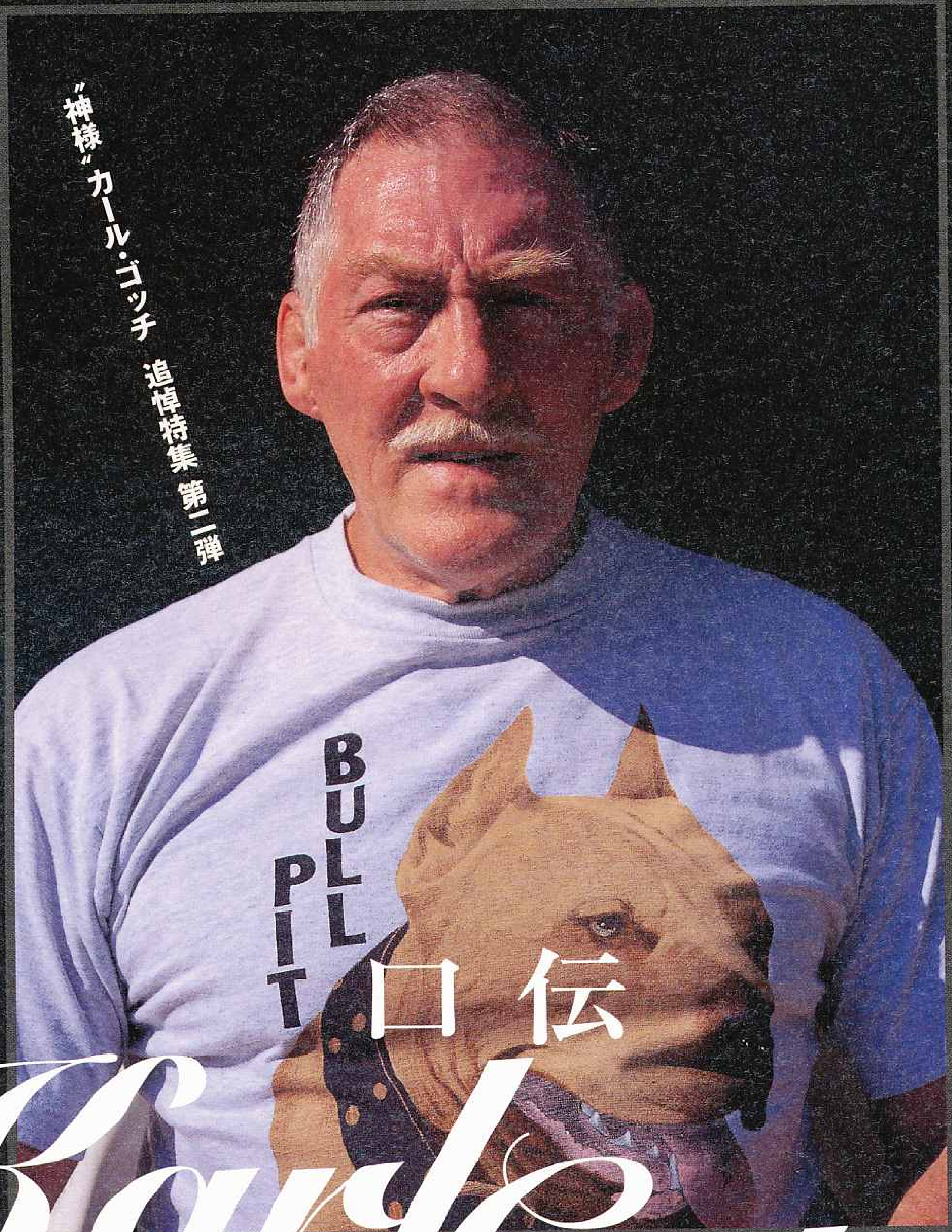
お近くのケーブルテレビ

e2 by スカパー！

スカパー！ スカパー！ えらべる 15
「よくばりパック」(3500円)から15ch選べる「えらべる15」(2800円)がお得です！

A+ sky・A sports+
最新情報は www.sky-a.co.jp

“神様”カール・ゴッチ 追悼特集 第二弾



口伝

Karl Gotch カール・ゴッチ

3人の弟子たちが語る神様の教え







イエス・キリストやブッダが著書を残していないのと同じように、プロレス界の神様、
ゴッチさんもまた技術書や秘伝書、そして自伝の類は一切残していない。
つまり神様の教え、神様の真の姿を伝えられるのは、その弟子たちだけということだ。
そこで本誌は、日本マット界にゴッチイズムを残すべく、3人の愛弟子たちにインタビュー。
“神様”のロングインタビュー再録とともに、ここにお届けしよう。

無冠の帝王、実力世界一、永遠の格闘王——〝プロレスの神様〟という称号以外にも数々の異名をとったカール・ゴッチ。

彼が日本プロレス界に与えた影響は計り知れない。

ストロングスタイルを旗印にした新日本プロレス、格闘プロレスを旗印にした第一次UWFの勃興期など、日本マット界の重要なターニングポイントには必ず神様が降臨した。

「日本を含めて、いまや世界中のマット界がアメリカンプロレスに犯されている!!」

「相手の関節をフック（極める）できない男に、プロレスラーを名乗る資格はない!!」

「レスラーとは、格闘技を職業としている人間のことであって、ロックンロールや見世物で生活している人間のことではない!!」

ショーマンシップを拒否し、あまりにも強すぎるためにプロモーターに敬遠され続けた不遇の実力者は、数々の警笛をマット界に鳴らし続けた。

しかし、そのゴッチはもうすでにこの世にはいない。されど彼が残した〝ゴッチイズム〟こそ、日本マット界を形成する核であり礎であることは、これからも変わることはないだろう。

そこで本誌は、いまこそあらためてゴッチの言葉に耳を傾けるべきと考え、97年3月にフロリダのゴッチ邸で収録、本誌NO・2、3と二号に渡って掲載されたカール・ゴッチの貴重なロングインタビューをここに再録することにした。

過激なる〝神の啓示〟をじっくりと読み込んでいただきたい。

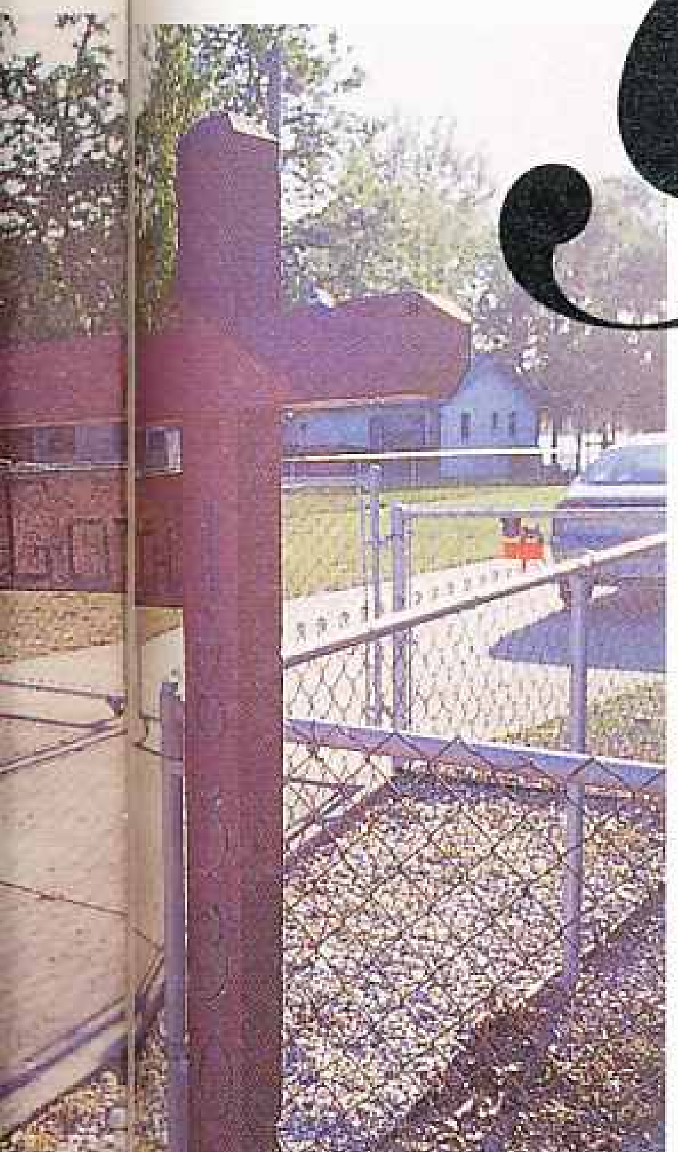
カール Carl ゴッチ Gotch

神様の啓示

1997年3月、フロリダ州オデッサ

聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

再録インタビュー



——今日はお目にかかれて光栄です。もう、神様に会えてドキドキしています。

ゴッチ　YA!

——先ほど見せていただいたガレージには、アメリカのレスラーたちがよく使うウエートトレーニング用の器具は置いてなかったんですけど、コシティの「ヤリ」とかを指さして「これでも人を殺すには充分の練習ができる」と言ってましたね。

ゴッチ　YA!　私は日本に初めて行ったとき、ニュース・リポーターにこう聞かれたよ。「あなたのフィニッシュホールドはなんですか?」と。そのときに私はこう答えたんだ。「コンディショニング!」とね。そうしたらリポーターはこう尋ねてきたよ。「あなたは必殺技を秘密にして言いたくないのか?」とね。私としては正直に答えたつもりだったんだがね（笑）。たとえば世界一のロールスロイスでもガソリンがなければ走れないだろう。それと同じことで、レスラーは、頭や筋肉だけ育っても、ハートとかコンディショニングがなかったら何もないのと一緒なんだ。ウエートトレーニングではレスラーとしてのナチュラルなコンディションはつくれない。

——しかし、コンディションが大切なことはわかりますけど、並のレスラーは、人をどうやって殺せるかまでは考えてないと思うんですけど（笑）

ゴッチ　いや、レスラーたるもの、それくらいの考え方を持たないとダメなんだ。6週間くらい前に、ジャンゴ（ゴッチさんの愛犬）を病院に連れていくためにダウンタウンまで車で行ったときのことさ。ヤングボーイが運転する車が私の車をうしろからアオってきたんだ。むこうが車を停めて出てきたから、私も停めたよ。私は話をしてやろうと車の外へと出ていった。相手はポニーテールのように髪の毛をうしろで結んだヤングボーイだったよ。私より背が高かったが、コークとフライドチキンとディスコしか頭にないような顔をしていた。そのヤングボーイは「くるならこい、このジジイ!」と精一杯粋がりながら私を挑発してきたんだ。だから私は彼を見上げながらこう言ったよ。「私は喧嘩などしない、おまえを殺すだけだ!」とね。ヤングボーイはそれでフィニッシュ。終わりだよ。私は闘いを挑まれれば、いまでも本気になるよ。

——いまだ現役なのかァ!

ゴッチ　私は73歳になるよ。私も寄る年波には勝てない。頭も白くなった。だけど私は常々こう思っている。「歳には勝てなくても、必ずしも年寄りになる必要はないんだ」とね。だから喧嘩を売ってきたヤングボーイにもこう言ってやったんだ。「頭に雪は積もっているが、私の心はまだ燃え盛っているぞ」とね。そのヤングボーイは、とんでもない年寄りだというおびえた目つきをしていたよ。こんなお爺ちゃんがいるのが信じられなかったんじゃないか。ハッハッハ。

——歳には勝てないが、必ずしも年寄りになる必要はない、ですか。

ゴッチ　YA!　人間も自然の法則に逆らってはいけないんだ。ベストコンディションをキープするためにトレーニングするということは、いつでも自然に帰れるということなんだよ。ライオンだろうが、ゴリラだろうが、彼らは生きるための闘いの資質を備えている。そうだろう?　だが彼らがバーベルやダンベルを持ち上げているところを見たことはないだろう。それでも闘いのときになれば、自分の体重を、どんなアングルからでも使えるようにしているんだよ、彼らは。

——ライオンがバーベルを持ち上げているところをぜひ見てみたいですね（笑）。

ゴッチ　たとえば動物が獲物を捕るときは直線的に動くわけじゃない。前後左右、上下と自由自在にすべて動けるようにしなければ闘いに敗れてしまう。私はいつも動物が何を思っているかに興味があって、研究しているんだ。

——でもゴッチさんはプロのリングから引退して何年も経つのに、なぜそこまで考える必要があるんですか?

ゴッチ　ハッハッハッハッハ。イッツ・イージー!　大和魂だ!　ユーは日本人で、私はドイツ人だ。日本は東にあって、ドイツは西にある。でも考え方は非常に共通点がある。「大和魂」という言葉をイングリッシュで訳すことができるかい?

——まったくわかりません!

ゴッチ　YA!　イングリッシュでは大和魂という言葉を訳す機能は果たせないんだ。しかし、ドイツ語にはある。それがEHRGEIZ（エアガイツ）だ。この言葉は大和魂そのものと言ってもいい言葉なんだよ。というのは私たちドイツ人は軍隊や戦士として、魂を鼓舞するときには、EHRGEIZ（エアガイツ）という言葉だけで充分なんだ。

——大和魂とゲルマン魂の融合を見ましたね。

ゴッチ　私にとってのアイドルが誰だか知ってるかい?　私のアイドルはミヤモト・ムサシだよ!　宮本武蔵は60歳で死んだが、死ぬまで鍛錬と勉強を怠らなかった。若い頃から闘いの場に直面している人たちは完全主義が多いが、誰もが結局は完全にはならないんだよ。いつでも必ず向上させるスペースがあって、それを埋めようとしても、まだスペースがある。そん

頭に雪は積もっているが、私の心は燃え盛っているぞ

なものなんだ。そのスペースに気がつかない人間は結局はそこで終わりなんだよ。つまり、結局は自分が棺桶に入るまでは、ずっと鍛錬と勉強を怠ってはいけないということだよ。

——大和魂に宮本武蔵。ゴッチさんは本当に日本が好きなんですね。

ゴッチ　ＹＡ！　ウエートトレーニングやマシンを使ってするトレーニングは見かけをよくするためのトレーニングだろう。そんなものは、「見た目のいい羽根は、ベッドをつくるにはちょうどいい。だけどその羽根は鳥そのものを作らない」といった意味のドイツのことわざそのものなんだよ。

——日本にはゴッチさんの伝説がたくさん伝わっていて、日本のレスラーからもいろいろ話を聞いてます。で、いま思い出したんですけど、ゴッチさんとトーイ（石川雄規）が浅草に行ったらしいんですよ。

ゴッチ　オー、アサクサ、アイ・ライク。懐かしいな……それで？

——で、ゴッチさんが神社で大きな大きな石をジーッとジーッと見ていたらしいんですね。それを見たトーイは、ゴッチさんは日本の石にも興味があるんだと思って、「この石は日本のトラディショナルな石で……」とか説明しても、ゴッチさんはなんの反応も示さないらしいんですよ。心配したトーイが「どうしたんですか？」と聞いたら、我に返ったゴッチさんが「トーイ！　この石はトレーニングに使えるぞ。持ち上げてもいいし、転がしてもいい……」と言ったらしいんですよ（笑）。ゴッチさんはホントに四六時中トレーニングのことばかり考えてる、とトーイは思ったらしいんですよ。

ゴッチ　ハッハッハ。そんなことがあったかな。私は裕福な家庭に育ったわけじゃない。父はセーラーで、母は昼間はエビを売り歩いて、夜はクリーニング屋で働いてたよ。そういう家庭で育ってるからものがなかったんだ。だから、いつも何か工夫して使えないかと常々考えるクセがついてるんだ。石といえば、あるとき……戦争が終わったあとの、確か21歳の頃だった。街に出ると大きな石がいっぱい転がっていたんだ。その石を持って丘を登り下りしていたことがあるよ。だから、石を見た途端にそういうことを考えるようになってしまったんだよ。すまない、ちょっと待っててくれたまえ。

（ここでゴッチさんは洗濯に行ってしまった）

——あ、ゴッチさんが洗剤を持って歩いてる。神様と洗剤！　幸せだなあ、こんな贅沢な場面が見られて。

通訳さん　ゴッチさんは事前に決めたことをキチッとやらないと気が済まない人なのよ、きっと。

（しばらくして洗濯ものを抱えたゴッチさんは、椅子に座る間もなくエネルギッシュにしゃべりだした）

ゴッチ　石の話だったな。その大きな石を持ち上げながらヒル・トップまで行くトレーニングは、仕事のない日曜日にやってたよ。そのとき、散歩してる老人が私を見て、「キミはいったい何をやってるんだ？」って聞いてきたんだ。「下にあったこんな大きな石を上に持ってきてどうするんだ？　丘の上にこんな大きな石を持ってきてナニするんだ？」とね。私は「この石ですか？　これはこのままもう一度街まで持って帰るんです」と言ったよ。そうしたら、その老人にこう言われたさ。「キミがクレイジーだってことがよーくわかった」とね。ハッハッハ。

——ゴッチさんはいままで生きてきて、何回ぐらいクレージーって言われたんでしょうね（笑）。

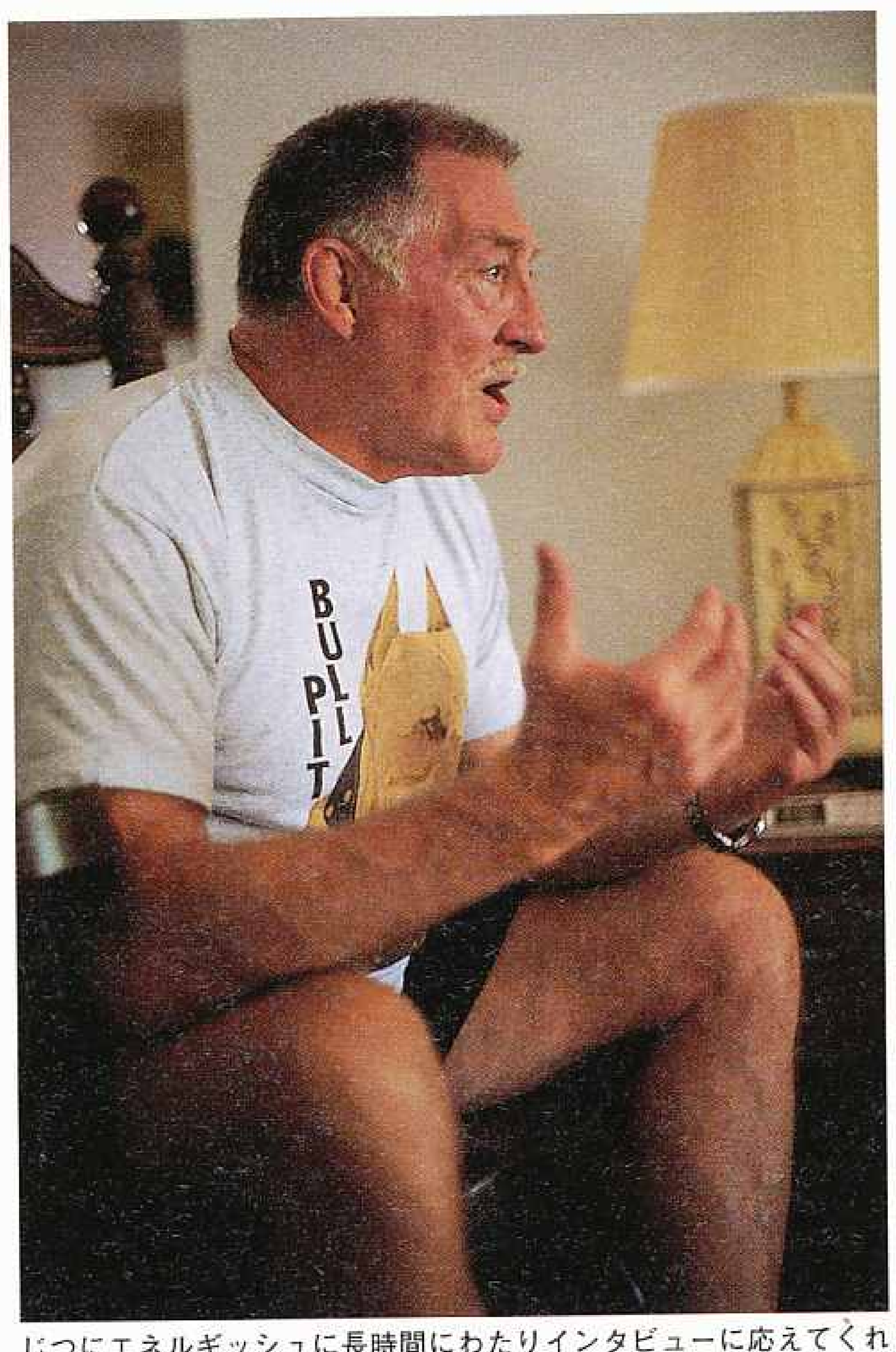
ゴッチ　幼い頃から言われ続けてるから、それこそ星の数でもきかないだろうな。

——ガハハハハハ。星の数でもきかないですか。

ゴッチ　確かにトレーニングというのは試合があってのものだ！　でも本当は自分自身のためににトレーニングをするんだ。誰かに勝つ前に、まず、自分に勝つ！　それをくぐり抜けなければ、永久にその人の頭上には栄光は輝かない。神様は見ているんだよ。

——じゃあ、ゴッチさんはいまも自分自身に向けてトレーニングをしてると。

ゴッチ　イエス。真の敵は自分の中にいるんだよ。口数が多いヤツはいくらでもいる。だが、私はよくこう言うんだ。人間は耳が二つある。でも口は一つだと。だから二回聞いて話しなさい、とね。たとえば、よくここ人が来て、レスリングのレッスンをやってくれと言ってくる。要するにそれをビデオテープに撮って儲けようというのが目的なんだよ。しかし、どうしてそんなことができるんだ。レスリングっていうのはそんな簡単に受け継げるものじゃない。



じつにエネルギッシュに長時間にわたりインタビューに応えてくれた神様。残された言葉の一つ一つがまさしく“神の啓示”であった。

——そういえば、ゴッチさんの技術書は出ていませんよね。

ゴッチ　私にはいまでも理解できないことがあるんだ。私は日本でトップと呼ばれてるプロモーターたちを何人か知っている。でも日本のプロモーターはとにかくマネーのことばかり考えている。（顔を真っ赤にしながら）マネー・オンリーさ！　日本のヤングボーイたちは一生懸命やってるけど、プロモーターはマネーのためにどこからか白人を連れてくるだろう。そういう欲を持ったプロモーターたちがいるからレスリングはどんどん駄目になっていく。スポーツとマネーを一緒にさせることは危険なことなんだ。私は一回だけじゃなく、何度も何度もそういうことが繰り返されるところを見てきたからね。

——いや、昔から、ゴッチさんの言うことは一貫してますね。

ゴッチ　人々は私の言葉に対してこう言うことがあるよ。「あなたはもう年寄りでしょ」とね。「あなたの言うことは過去のことなんだ」ともね。しかし、未来のことを準備するためには過去を見なきゃいけないこともある！　古いことは新しいことであり、新しいことは古いことでもあるんだ。

——なるほど。

ゴッチ　私は日本のボーイたちに、一生懸命コーチをしたよ。どんなにハードにトレーニングしたとしても、そんなに嫌われてはいないはずだしな（笑）。そうすることによって彼らにチャンスを与えてやってきたんだ。だけど、日本にいるプロモーターたちは、彼らをその気にさせるだけで、強くさせようという気はない。強くさせるための何かをしてあげてはいない！　だから、たとえばスズキ（鈴木みのる）のいるパンクラスは日本から出てきたスタイルだろう。日本から出てきたんだから日本人だけでできるはずだ。スモーも最



初は日本人だけでやっていって大きくなったじゃないか。他国の人々を呼ぶことで、自分たちのスタイルを低下させていることもあるかもしれない、ということに気づくべきなんだよ。

——それはシャムロック・ブラザーズのことですか？

ゴッチ シャムロック!? シーッット!!（と言いながら鼻をつまむ）あいつの筋肉は見せるだけのものだから、確かにいい鳥に見えるかもしれない。だけど、ステロイドを打った鳥は臭い！ 誰かに勝つ前に自分自身に勝たなければいけない、と私はさっき言ったと思うが、ステロイドの魅力にも勝てないヤツがどうやって相手に勝てると思う？

（興奮しながら立ち上がったゴッチさんは、そのまま洗濯場へと消えてしまった。しばらくするとゴッチさんは戻ってきて、また椅子に座る間もなく堰を切ったようにしゃべりだした）

ゴッチ シャムロックはもうパンクラスのスタイルについていけなかったんだ。もともと、そんなにテクニックはなかった。やることって言ったらバカの一つ覚えで足をロックすることだけだ。本当にタイミングよくそれが極まったら、あとは相手にしがみついているだけだろう。だから、あのスタイルについていけなくなったからWWF（現WWE）に行くしかなかったんだよ。

——元アルティメット王者をそこまで言いますか！

ゴッチ そういえば、2年前にこんなことがあった。ジムでシャムロックみたいな身体のヤツに「おまえの歳にしてはいい身体してるな」って言われてしまってね。次に「特別なことをしているのか？」と聞かれたから、私は「何もしていやしない。俺の父親はバカを作ったわけじゃないからね。おまえと違ってね」と言ってやったよ（笑）。私は若い頃からこう思ってたよ。「私はミスター・ビューティフルになりたいわけじゃない、ミスターになりたいんだ」と。

——じつにいい言葉です。

ゴッチ シャムロックはマネーを作る筋肉は持ってるかもしれないが、レッスルする筋肉は持っていないんだ。

——ゴッチさんはいま一人暮らしですけど、ヒマなときにWWFの試合とか観ないんですか？

ゴッチ ホワイ？ そんなヒマがあったらトレーニングをしてるさ。

ルールがないということはゴールもないということなんだよ

——ガハハハハハハハハ。トレーニングしてますか！

ゴッチ ワラウーナヨ！（日本語で）WWFをバカにしてると、天罰が下るぞ。ハーッハッハ。

——ゴッチさんはアルティメット・ファイティングは観たことありますか？

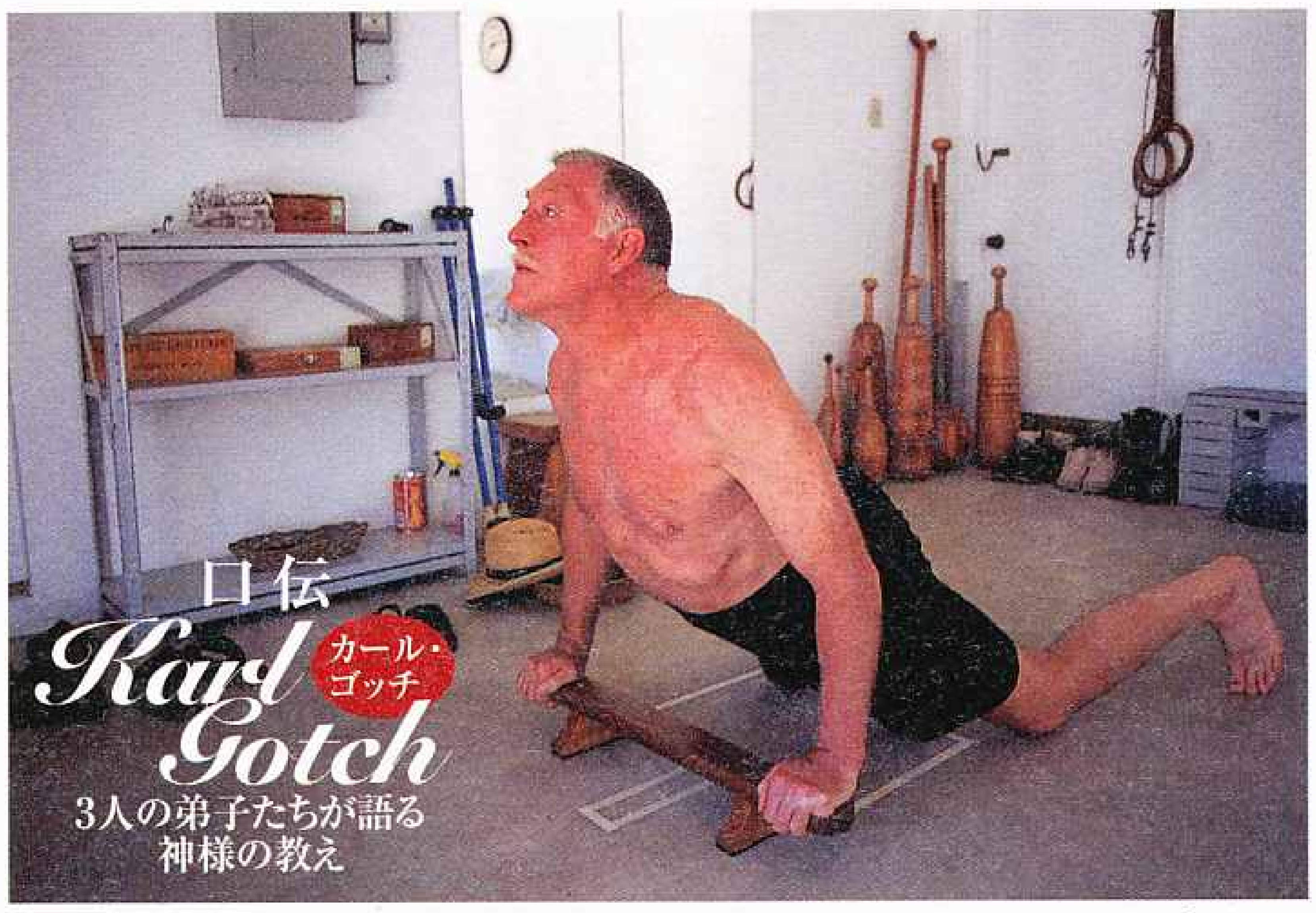
ゴッチ （渋い表情で）最初の頃は観ていたんだが、観ているうちに、もうこいつらは何もできないってわかってね。つまらなくていまは観ていないよ。ヤツらは、なんにも持ってない！ 何も持ってないヤツらがやってるのを観ていたっておもしろくないだろう。ところで先週の月曜日、ビル・ミラーが死んだんだ。

——エエッ！

ゴッチ 私も驚いたよ。ジムでトレーニングしていて、駐車場に出た途端、心臓発作で死んだんだよ（62年にショーマン派の極みともいわれた、時のNWA世界王者、バディ・ロジャースをビル・ミラーとゴッチは、控室で袋叩きにするという、〝事件〟を起こした仲である。ビル・ミラーもまた、その「強さ」については伝説を残したレスラーだ）。

——いくつだったんですか？

ゴッチ この6月で70歳になるところだった。私もこの8月で73歳になる。



このインタビューの時点でゆうに70歳を超えていたが、ゴッチさんはあたりまえのようにプッシュアップをはじめとした、トレーニングを続けていた。死ぬまで「素手でいかに効率的に人間を殺すことができるか」を考え続けてきたというから恐れ入る。

ちなみに私は獅子座だよ。

——あ、僕も獅子座です！

ゴッチ そうか。一つキミに言っておくが、獅子座はアスホールだ（笑）頑固で困る。

——獅子座は一生金に恵まれないんですかね（笑）。

ゴッチ ハッハッハッハ。アイ・ドント・ノー（笑）。しかしマネーがすべてじゃないさ。自分がいかに幸せに暮らせるかが第一だ。

——それでアルティメットの話なんですが（笑）

ゴッチ ハッハッハ、そうだった。いま、アルティメットでは盛んにレスリングのバックグラウンドを持ったヤツをタレントとして上げているらしいが、アマチュアのレスリングとプロのレスリングは別ものだよ。知ってのとおり、アマチュアはピンフォールを狙うものだが、プロフェッショナルレスリングのフィニッシュはサブミッションなんだ。その秘密は……。

——テコの原理！

ゴッチ YA！ そのとおり。テコの原理を応用する。アルキメデスをはじめ、古代ギリシャ時代の数学者や哲学者は、みんなレスリングをやっていたそうだが、アルキメデスは、こう言ったらしい。「レスリングで必要なのは操縦桿だ」とね。「操縦桿をくれれば世界を動かしてやる」とね。

——操縦桿という魔法があれば、どんなヤツでもコントロールできる、と。

ゴッチ そういうことだ！ ハッキリ言って、アルティメットファイターと呼ばれる輩は、誰もその操縦桿を持っていない！ おまけにキックの仕方も、パンチの打ち方も知らないんだよ。ボクシングやキックボクシングはダウンしたら離れるが、レスリングはダウンしてからが始まりなんだ。ドイツにはこんな意味のことわざがあるよ「牛は立っているときに殺すのではなく、寝かせてから殺す」とね。レスリングもそうなんだ。

——「なんでもあり」についてはどう思ってますか？

ゴッチ 彼らは客寄せのために「ルールがない」と言っているけど、見せているものは、凄くつまらんものだよ！ ルールというのはなきゃいけないんだ。なぜかというと、おもしろくするためにはルールがなければならないからだ！ ルールがないということはゴールもないということなんだよ。

——素晴らしい言葉です。

ゴッチ YA！ いまはアルティメットもルールを少しずつ積み上げてプロモーションを成功させるようにしているらしいが、以前は下になった人間は何もできなくておもしろくなかっただろう。闘いはルールがあって、初めてできるんだ。たとえば寝たままになっていたらカウントされたりとか、そういうルールになれば必然的に闘わなければならなくなるだろう。

——初期の頃のアルティメットは観ているわけだから、もちろんグレイシー柔術については知ってますよね。

ゴッチ あれはジュージュツではないジュードーだ！ 昔、柔道のキムラ（木村政彦）がブラジルに行ったとき、ジュージュツの人間を倒している。

——エリオ・グレイシーですね。

ゴッチ YA！ とにかくグレイシー柔術は糞みたいなもんだ！ だが、いまはキムラは生きていないから、ジュージュツのヤツは、いくらでも好きなことが言えるだろう！ ちょっと待ってくれ。キムラはマイ・フレンドだよ。

※そう言うと、ゴッチさんは古いアルバムを持ってきて、木村政彦と写っている写真を見せてくれた。

——ゴッチさんから見て、グレイシーには何が欠けてるんですか？

ゴッチ　簡単なことだよ。彼らの寝技は文字どおり、ただ寝てるだけだからさ。（ガードポジションは）レディのいる前で失礼だが、あれは売春婦が男を迎える格好だよ。ハッハッハ。私だったらあの体勢からすぐに片づけられるのに、なぜあんなにフィニッシュまで時間がかかるのか理解できんよ。

——ヒクソン・グレイシーとホイス・グレイシーについては、どう思いますか？

ゴッチ　彼らは一流のビジネスマンだ!!

——ゲッ！　一流のビジネスマン！

ゴッチ　YA！　彼らは、盲目の人たちをリードしてるだけだ。

——でも、そのヒクソンに日本のプロレスラーや格闘家が次々と敗れてるんですよ。なぜ勝てないんですかね？

ゴッチ　誰がやられたんだ？

——前田日明の弟子や、佐山聡の弟子たちです。

ゴッチ　グレイシーは自分が勝てる相手としかやらないのさ。でも、いまの日本人にはハングリー精神がないというのも関係あるかもしれないな。EHRGEIZ（エアガイツ）を忘れるな、だ。たとえば、戦前はジュードーでもキチンとトレーニングしていたもんだが、いまは黒帯がマネーで買えるそうじゃないか？　笑い話にもならんよ。私が日本のヤングボーイをトレーニングしたら、こんなジュージュツなんて簡単にやっつけられるさ。まあ、とにかく、ブラジルから、どんなにいいものが出てきたのか逆に教えてほしいくらいだ。

——ブラジルというかグレイシーには日本人が失なった武道精神があるという見方があるんですよ。

ゴッチ　そうだ！　ブラジルにもいいものがあることを忘れていたよ。確かにサッカーとコーヒーはグッドだ。ハッハッハッハ。だがコンバットではまったくといっていいほどダメだ。彼らは頭がキレるから、いい「広告」は出すがね。

——ガハハハハハ。いい広告ですか！

ゴッチ　YA！　いつも代わりのグレイシーが必ずいて、いつも埋め合わせができる。グレイシー1、グレイシー2とね。まるでアーミーみたいだよ。武道魂があるというが、それは狡賢いから、そういったいい言葉を見つけるだけなんだ。私の場合は日本では「神様」と呼ばれていることを知っているが、デストロイヤーほど稼げなかったよ（笑）。私はトレーニングのコーチばかりだ。やっぱりキミが言ったように獅子座の男は一生貧乏なのかもしれないな（笑）イノキも自分が助けてほしいときだけ私を呼んだよ。サヤマも同じだ（シューティングの勃興期にゴッチはコーチとして来日していた）。変わらないのはフジワラ（藤原喜明）だ。フジワラ・イズ・ナンバーワンだ！　オサム・キド（木戸修）もグッドだ。

——マイ・サン、ですね。

ゴッチ　YA！　マイ・サン！　いまはミノル・スズキだ。靴をくれたから言うわけじゃないがハートがある。いいかい、欲が人にウソをつかせるんだ。父親から言われたのは、「ウソをつくことが人を泥棒にさせ、泥棒になることが人を人殺しにさせる」ということだ。

——では前田日明のことはどう思ってますか？

ゴッチ　HE IS OK！

——オォー。

通訳の羽根石さん　でも、ゴッチさんの「OK」って「まあまあ」ってことですからね（笑）。

——ま、まあまあなんですか？（笑）。

ゴッチ　いや、彼はガッツがある。マエダはグッドだ。

——髙田延彦はどうなんですか？

ゴッチ　（そっけなく）ノー。タカダは、この私に向かって「あなたにいったい何ができるのか教えてくれ」という態度だ。これだけで、どんな人間かわかるだろう。モウ、サヨナラ（日本語で）。パンクラスもおかしい！「パンクラス」という言葉の中にはオールド・インド・レスリングも含めてすべてのレスリングが入っているはずだ。それなのに、「ハイブリッド・レスリング」とつけ足してプロモーションするのは、まったくおかしな話だよ。

フジワラ・イズ・ナンバーワンだ！オサム・キドもグッドだ

——いままでの話を聞いてると、ゴッチさんが日本のレスラーに最終的に求めるものはハートなんですね？

ゴッチ　私はいままでグレートなスポーツマンを大勢見てきたが、グレートなハートを持っていたヤツはほとんどいない！　私はグレートなスポーツマンであると同時に、ハートも磨いてきたつもりだ。筋肉を作るよりもハートとコンディショニング、まずそれが先決だよ。

——ゴッチさんの考え方の中にはトータルファイトの概念があるんですか、それともあくまで「レスリング」にこだわっているんですか？

ゴッチ　もし、トップになりたかったらレスリングを習得するべきだ。私はもちろん、キックやパンチの危険さは知っている。だが、レスリングを充分に知っておけば怖いものはないよ。パンチやキックは、その防御法さえ知っておけば充分さ。防御して、それからタックルに入ればフィニッシュだ。レスリングさえ知っていれば最強になれるのさ。もちろんプロのレスリングだがね。

——ゴッチさんが言うところの「レスリング」というのは、いまや日本にしかないものなんですか？

ゴッチ　ノー。もうどこにもない！　キャッチ・アズ・キャッチ・キャンが私の言うレスリングなんだ。昔はどこにでもあったんだが、いまはもうどこにもない。アマチュアレスリングのようにポイントだけを競い合っているものだと隙だらけで、とてもグラップリング、闘いとは言えないだろう。ちょっと来てみなさい。これがテコの原理というものだよ。

※ゴッチさんは、テコの原理の説明を聞き手の山口を実験台にして開始した。フェースロック、スリーパーホールド、リストロックなどをゆっくりと解説したあと、ゴッチさんの手首をつかんでみろと言われ、つかむと一瞬にして親指を極められた！

ゴッチ　そうだ、危険すぎてまだスズキにも教えていない技を教えてあげよう（笑）。

——アッアッアッ、痛テテテテ！

ゴッチ　ギブアップ？（笑）。

——イテテテテテテテテ！

ゴッチ　ハッハッハ。楽しいか？　優しくしたんだがね（笑）。

——とんでもない（笑）。

※ゴッチさんはフロントネックロックのような体勢で実験台の首を抱えた。力を入れた様子もないのに、ゴッチさんは電光石火の速さで実験台の首の左側に電流を走らせたのである！「あの痛みはいまでも忘れようにも忘れられない」（実験台・山口談）

——あぁぁ、痛ってぇ……。ところで話を戻すと、いまやアルティメットが格闘技界を席巻していて、グレイシーが世界最強だとも言われてるんですが。

ゴッチ　ノー！　ともかくヤツらは臭い！　そんな臭いものは観る必要もない！　観ないから意見もない。ドイツのことわざに「クソからホイップクリームは作れない」というのがあるが、まさにこのことだよ。

——アルティメットは確かに最初は刺激的でしたね。

ゴッチ　私が16歳のとき、友人が喧嘩でやられたんだ。その仇を討つため、街中の不良どもを全員ストリートで叩きのめしてやったよ（笑）。だが、ストリートでやるのはレスリングじゃないんだよ。もし私が、いまのように頭に雪が積もっていない若い頃で、法律でどんなこともやっていいような国があったら、アルティメットに出たヤツら全員を呼んできて、皆殺しにしてしまうよ！　もともと私が生まれ育った場所はみんなそんな闘いばかりだったんだ。

——なんでこの現代にアルティメットがはやったんですかね？

ゴッチ　人間は2000年経ってもなんら変わりはしないんだよ。2000年前にパンクラチオンがあったように、いまでも人間はそういった死を懸けた残酷な闘いを観たいんだ。

——アルティメット＝パンクラチオンと考えていいんですか？

ゴッチ　ノーだ！　その頃のパンクラチオンの選手たちは自分が何をしているかわかっていたと思う。だが、アルティメットのヤツらは何をしているか、

自分でもわかっていない。ヤツらは闘い方すら知らないよ。

——グレイシーが台頭したことで、ゴッチさんが常々言っていたキックは必要ないということが証明されたと考えていいんですか？

ゴッチ　私はキックが必要ないと言ったわけじゃないんだよ。何が起こるか予想できないんだから、それに備えることが大切だと言ってるんだ。相手がキックを知らないときにキックが有効なのは当然だろう。相手が知らない技はどんなものでも有効なんだ。

※ここでパンクラスの高橋和生が日本にアルティメット初勝利をもたらした大会をビデオで観ることにした。

——ゴッチさんは高橋のことを覚えてますか？　藤原組のときに会ってるはずですよ。

ゴッチ　YA！　彼はアマレスのチャンピオンだったかな？　こういうのを観てると私は人を育てるのが好きなんだとよくわかる。タカハシはクレージーだけどグッドハートなヤツだよ。

——クレージーですか（笑）。

ゴッチ　とにかく新しいジェネレーションを作ることだ。いま、スズキがケガしてるんだったら、彼が指導して次の若者を育てるべきだ。スズキはそういう若者を育てることができるだろう。今回、タカハシが勝ったことは素晴らしい。だが、それにしても、新たなドアを開けただけにすぎない。新しいジェネレーションこそ大切なんだ。とにかく金に目がくらんだプロモーターとビジネスを排除しなければならない。いまのプロレス界は、そんな雑草ばかりがはびこっている。それをまず一掃することが先決だ。ちょっとビデオを止めて、来てくれ。

※神様は我々を別室に連れていくと、マウントポジションを取られたときの反撃の仕方など、同行した大谷泰顕氏を実験台に、約30分間の即席ゴッチ教室を開いた。とにかく元気だ！

ゴッチ（息も切らさず元の場所に戻り）みんな口ではデカイことを言うが、実際に見せるものはたいしたことない。ちょっと待ってくれ。洗濯ものを見に行ってくるよ。

※しばらくして「洗濯場でコインを見つけた」と上機嫌でゴッチさんは戻ってきた。

——じゃあゴッチさんからすると、WWFのようなショーマンスタイルであろうが、アルティメットであろうが、パンクラスであろうが、ゴッチさんが言うところのレスリングができる選手がチャンピオンになればいいと？

ゴッチ　確かにレスリングにはたくさんのスタイルがある。どの国のどんな形であろうが、サンボだろうがなんだろうが、レスリングはレスリングだよ。だがWCWとかWWFみたいなヤツらをレスラーというなら、私は中国の皇帝になってもおかしくない。WWFみたいなものは観る気もしないということだ。私の範疇にはないし、興味もない。彼らのレスリングは象がバレエを踊ってるのと同じだよ。あれはレスリングのようでレスリングじゃない。

——ゴッチさんの言うレスリングの試合と、WWFみたいな試合を一つの興行の中に詰め込んで結果的にお客さんが入ったとしたら、そのプロモーターは悪なんですか？

ゴッチ（さえぎるように）銅と金が違うのと同じで、そんな興行はまずできない。おとぎ話だ。コウベ・ビーフとアメリカン・ビーフは同じビーフでも違うものだろう？　同じレベルで語るものではないはずだ。

——でも、日本ではそんな興行がもう行なわれているんですよ。2年前、東京ドームに6万人が集まったんです。

ゴッチ　いったい、6万人がどうしたというんだ。まずはレスリングを確立することだけを考えるんだ。何人客を入れたかどうかなど気にする必要はない。いまはレスリングの基盤を作ることが大切なんだ。



Karl Gotch■1924年8月3日、ベルギー出身。本名カール・イスタス。レスリングで48年、ロンドンオリンピックに出場。1950年にプロレスデビュー。51年より“蛇の穴”ビリー・ライレージムでキャッチ・アズ・キャッチキャン（ランカシャーレスリング）を学ぶ。61年に初来日。ジャーマン・スープレックスの元祖であり、プロレスの神様と呼ばれる。新日本プロレスには旗揚げから協力。藤原、木戸、佐山、前田ら多くのレスラーに影響を与える。07年7月28日、米国フロリダ州タンパの病院で死去。享年82。188cm、110kg（現役時代）。

——ゴッチさんは昔、「バック・トゥ・レスリング」を旗印に日本に本物のレスリングを持ってきましたよね。それにアントニオ猪木が共鳴して、その後、UWFができてパンクラスやリングスができました。だけど、いま日本で人気があるのはアメリカンプロレスなんですよ（この当時、新日本プロレスがnWoブームでおおいに盛り上がっていた）。どうして歴史は繰り返してしまうんですかね？

ゴッチ（顔を真っ赤にして）才能ある若い選手を育て、観客を育てるんだ！　そうすれば、人々は何を見ればいいかがわかってくる。キミたちはベースボールを知ってるだろう。だが、私はヨーロッパの人間だ。ヨーロッパではベースボールはやらない。だから、何を見ていいか私にはわからない。それと同じだ。わかるか？　何を見るべきかを観客に教えることが重要なんだ。いまはステロイドを打って身体だけデカイ金髪のヤツが「オオキイネ（日本語で）」と言われてレスラー面してるが、そんなものは中身のないシットだ。

通訳さん　ちょっとゴッチさん、確かめたいんですけど。ゴッチさんのいうレスリングを理解して、しかも観客が呼べるレスラーが……。

ゴッチ（大興奮状態）ちょっと待て！　いいか。たぶん、そいつが世界一強かったとしてもカリスマ性がなければ、客は呼べない。だが、団体内で2番目に強いレスラーにカリスマ性があったとしたら、そのレスラーをトップにすべきなんだ！　それがビジネスだ。たとえばの話、私が強さではナンバーワンだが、カリスマ性がなかったとしよう。だがナンバー2の人間はカリスマ性を持っている。そうなったら、私はそいつにトップを譲るよ。それでいいんだ。もしほかから強いヤツがやってきたら、私が出ていってそいつを倒す！　わかるか、それが「ポリスマン」だ！　それがビジネスだ。

通訳さん　だけどそれって正しいことなんですか？

ゴッチ（大興奮状態）客を呼ぶためにほかにどんな方法があるんだ!?　ナンバー2の人間にカリスマ性があれば、彼に客を呼ばせればいい。ベルトもそいつにくれてやれ！　ベルトの代わりに相当のマネーを手にすればいい。

——でも、やっぱり実力もあってカリスマ性もあれば一番の理想ですよね

ゴッチ（大興奮状態）そんなヤツがいたら世話はない！　それができた人間はただ一人、フランク・ゴッチしかいなかった。さっきも言ったが、才能ある若者を育て、観客にレスリングのなんたるかを教え込む以外にないんだ！　2万人入るとか——そんなレベルのことを考えてたらいかん！　スタン・ハンセンはババのところで金儲けしてるんだろう。あれじゃダメだ（首を振る）。ところで、ババはまだリングに上がってるのか？

——やってます。来年還暦を迎えます。

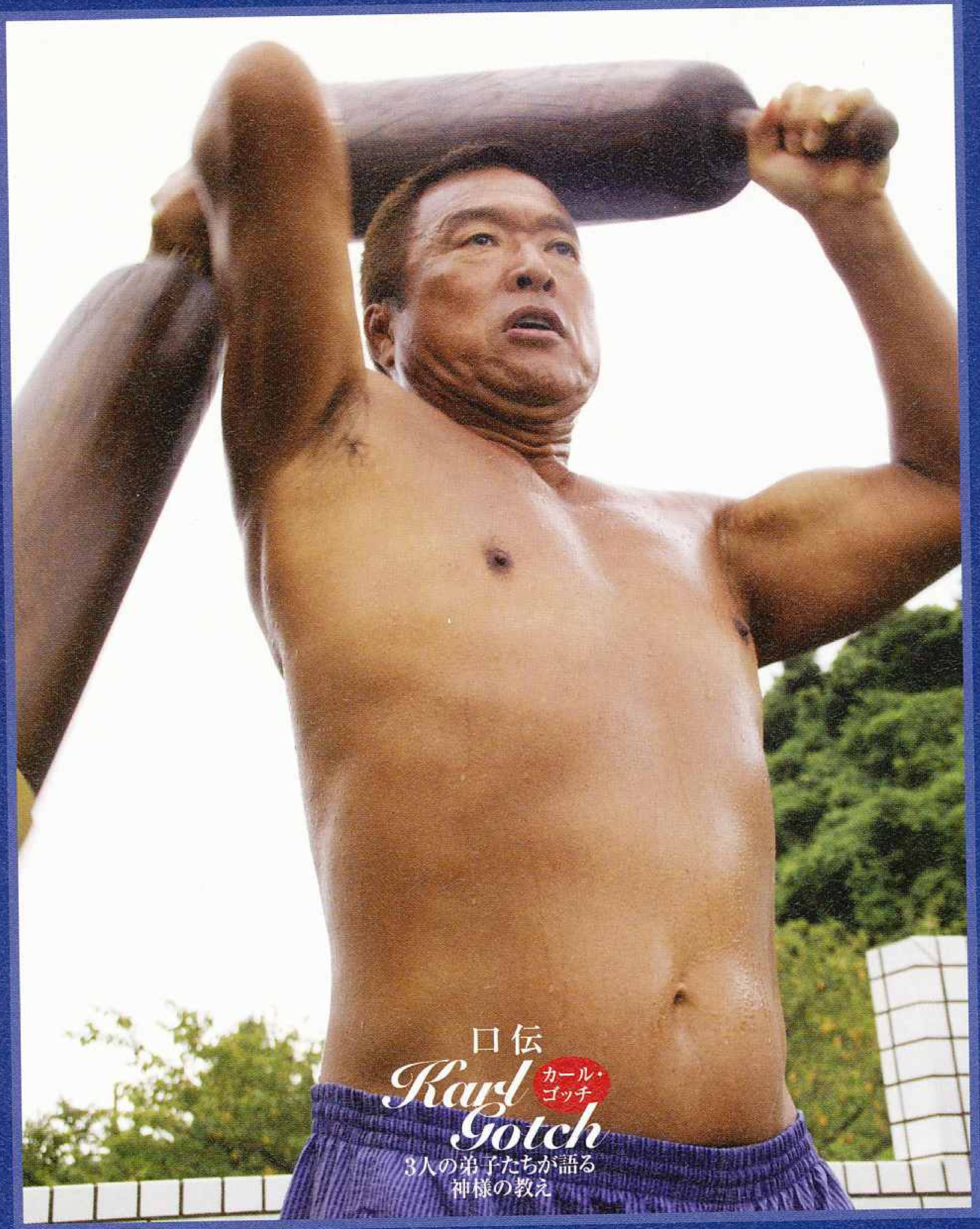
ゴッチ　オー！　ジーザス・クライスト！　ババは、リングに上がるにもステロイドが必要じゃないのか。ヤツの身体は3000年前のミイラだ。いや、ちょっと興奮しすぎて、言葉が汚くなってしまったかな。ハッハッハ。

このあともゴッチさんは、実演を交えながらエネルギッシュに話し続けた。神様にかかっては、日本のトップレスラーも、アメリカの大手団体もすべてボロクソだった。

「未来のことを準備するためには過去を見なければならないこともある」「古いことは新しいことであり、新しいことは古いことでもある」

神様のこの言葉は日本マット界の現状に何を投げかけているのか——。いま一度考えてみる価値はおおいにあるはずである。

【97年3月30日現地時間／米国フロリダ州タンパのカール・ゴッチ邸にて収録】



“ゴッチの息子”が語る、神様の真の姿

木戸修

Osamu Kido

「『練習はいつもしろ』がゴッチさんの教え 俺はいまでもそれを守っているよ」

カール・ゴッチの直弟子は数いれど、ゴッチが「息子」と呼ぶのはこの男しかいない。
まさに“神の子”KIDならぬ、“神の子”木戸、それが木戸修だ。
フロリダのゴッチ道場で半年間にわたりトレーニングして身につけた確かな技術。
とくに“いぶし銀”と称されるグラウンドテクニックは、まさにゴッチ直伝の鮮やかさ。
そんな“息子”から見た、ゴッチの姿とはいったいどんなものだったのか？

聞き手・撮影／堀江ガンツ

来日した外国人選手からも「おまえがゴッチの〝息子〟か」と言われた

――木戸さんはゴッチさんから「息子」と呼ばれるほど関係が近かったわけですけど、一番最初にお会いしたのはいつだったんですか？

木戸　俺が日本プロレスに入ったときだよ。昭和42年か43年だったかな。その頃はゴッチさんが、日本プロレスのコーチに就いていて、会社が借りた目黒のマンションに住んでたんだよ。

――奥さんと一緒に日本に住んでたんですよね。

木戸　で、俺が入った頃の日本プロレスは合宿所がなかったから、川崎にある実家から通ってたんだけど、川崎と目黒だと途中までゴッチさんと帰り道が一緒なんだよ。それでいつも練習が終わると、道玄坂を下って、途中でおそばを食べたり、いつも二人で帰ってたんだよね。で、目黒で別れて、俺は品川で降りて京浜急行で帰って。その繰り返しだったよ。いつも一緒だった。

――それで親しくなったみたいなところがあるわけですか？

木戸　それもあるし、俺は一生懸命練習してたからさ、凄くかわいがってもらってたんだよね。

――そして、ゴッチさんが木戸さんを「息子」と呼ぶようになった、と。

木戸　うん。呼んでくれたよね。俺がプロレスに入ってから、ずっと練習もそのあとも一緒で、家族ぐるみの付き合いだったからさ。俺の家にも来てくれたし、亡くなった兄貴が入院してるときは、お見舞いにも一緒に行ってくれたりしたからね。うちの家族みんなによくしてくれて。

――じゃあ、「息子」と呼んでいたのは、〝一番弟子〟という意味だけじゃなく、ホントに日本の息子みたいな感じだったわけですね。

木戸　そうだね、そんな感じだよね。だから俺は恵まれてたよ。入ってすぐにそういう人に巡り会えて。ゴッチさんがいつも俺を「息子」って呼んでたから、来日した外国人選手もみんな俺のこと知っててさ、そういう面でも得してた。

――外国人選手からも一目置かれていた、と。

木戸　新日本プロレスの旗揚げ当時の外国人選手って、みんなゴッチさんがブッキングした選手だったからね。だから、みんな「おまえがゴッチの〝息子〟か」って言ってきたよ。

――ほう、それは鼻が高いというか。

木戸　まあ、幸せだったね。

――ゴッチさんの練習はどんな練習だったんですか？

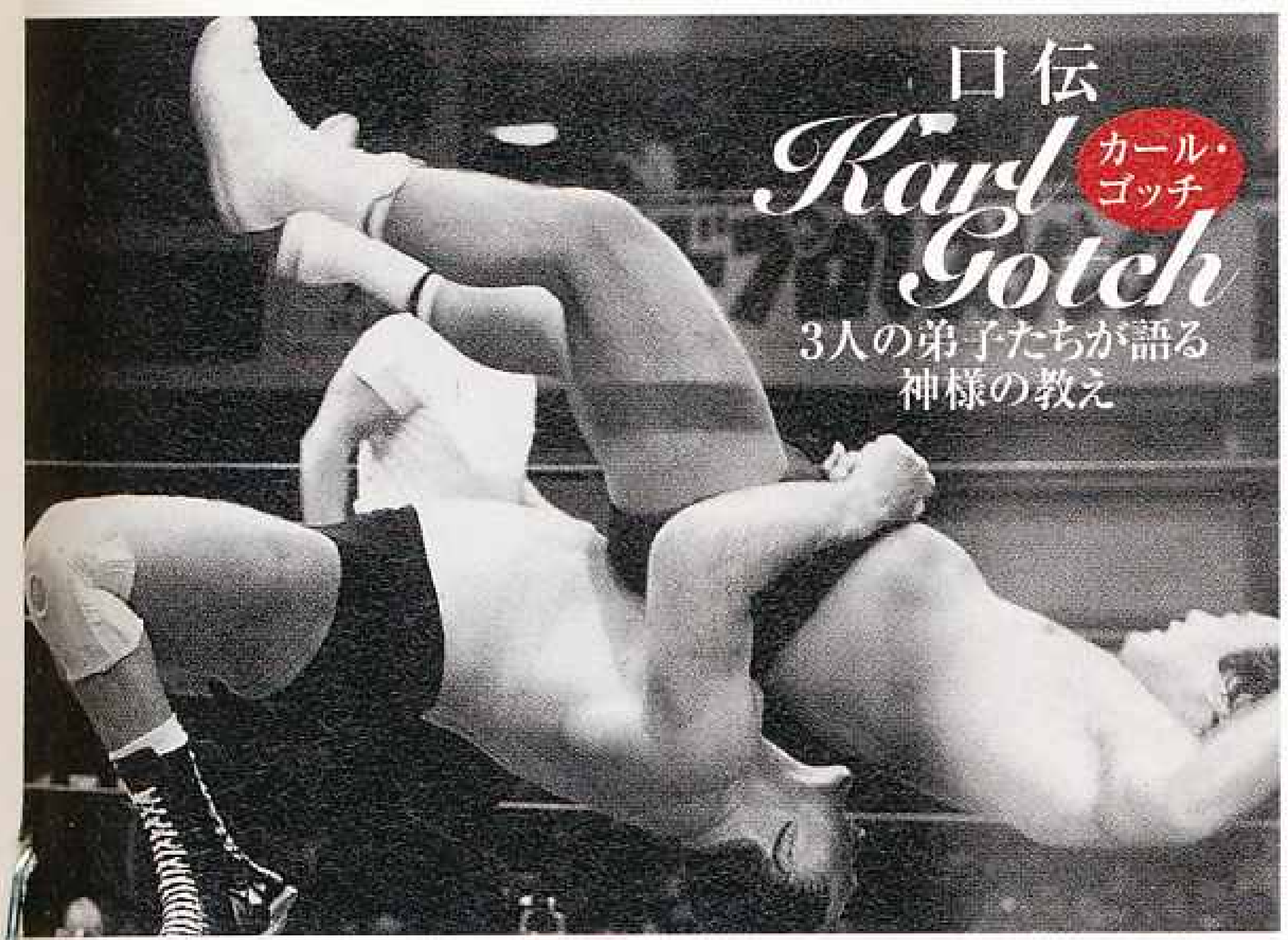
木戸　やっぱり徹底的に基礎体力を鍛える練習だよね。スクワット、あと腕立てね。ストレッチ、器具はあまり使わずに、せいぜいブリッジしたままバーベルを挙げるぐらいで。あとはコシティね、あれは俺が一番うまかったよ。

――ゴッチさんの練習って、相当にキツい練習なんでしょうね。

木戸　うん、キツかったけど、よく教えてくれたから、キツくても楽しかったよね。

――ゴッチさんって、なかなか技術的なことは詳しくは教えてくれないっていうような話を聞いたことがあるんですけど。

木戸　いや、教えてくれたよ(アッサリ)。なかなか覚えられなかったけどな。よく教えてくれた。





（写真・上）82年1月8日、後楽園ホールで行なわれたゴッチvs木戸のエキシビションマッチ。じつはこの試合こそがゴッチのプロレスラーとしての最後の試合であり、木戸はゴッチの事実上の引退試合の相手を務めたのだ。それにしても57歳とは思えぬ見事なブリッジだ！　（写真・下）木戸が第一次ＵＷＦに移籍を発表したときのショット。当時UWFの顧問を務めていたゴッチ直々の誘いで、木戸は新日本を離れUWFに移ったのだ。

――繰り返し、繰り返しやって。

木戸　そうだね、昨日やったことをまた今日やってさ。

――あ、そうだったんですか。いや、前田（日明）さんがあるインタビューで、「ゴッチさんは技に関しては完成形は示してくれるけど、途中経過は教えてくれないから、自分で見よう見まねでやらなければいけなかった」というようなニュアンスのことを言ってたもので。

木戸　だって、前田とは世代が違うもん。前田がゴッチさんに習ったのって、ずっとあとでしょ？　俺が日本プロレスでゴッチさんに習ってた頃は、藤波（辰巳、現・辰爾）も藤原（喜明）もまだ入ってきてない頃だからね。

――そういえば、そうですよね。前田さんは「ゴッチさんに一番長く教わったのは、藤原さんが（フロリダ）に半年行っただけなんだよ」とも言ってましたけど、木戸さんの時代はゴッチさんが日本に住んでたんですもんね（笑）。

木戸　そうだよ。フロリダには俺も4カ月ぐらいいたのかな。藤波も半年ぐらい行ってるよ。まぁ、そのあとっていうのは、ちょっと行って、練習してしゃべっただけで、「行ってきた」って言うヤツいっぱいいるけどな（笑）。それで「ゴッチ道場に行った」なんて、笑っちゃうけど。

――じゃあ、木戸さんのグラウンドテクニックというのは、文字どおり、ゴッチ直伝のものが多いわけですか。

木戸　やっぱりそうなるよな。

――ゴッチさんは、あまりスパーリングはしなかったとも聞いてるんですが、木戸さんの時代は？

木戸　俺の時代は毎日だったよ。

――あ、毎日（笑）。

木戸　ゴッチさんとも必ずスパーリングやってたからね。ゴッチさんが歳とって、ヒザを悪くしてからは知らないけど。昔は毎日だったよ。

――ゴッチさんは当時でもかなりの高齢ですよね。

木戸　50代かな。でも、ゴッチさんの50代なんて、まだまだバリバリだよ。あれだけの身体でさ、〝悪い攻め方〟も知ってるから。

――悪い攻め方（笑）。それは、ケツの穴に指を入れたりとか、そういう裏技ですか？

木戸　そうそう。だから寝技が強いヤツでも、そういう悪い攻め方されるとビビッちゃうんだよ。それで「もう極められてもいいや」ってなっちゃうわけだろ。

――ガハハハハ！　戦意喪失させるわけですか。

木戸　極めるっていうのは、ある程度、技術の差がないとなかなかできないんだよ。強い者同士でやると、なかなか極まらない。そうなったとき、悪いテクニックを使うと、相手がビビッて怯むから極められるんだよ。

俺はゴッチさんが誘ってくれたから第一次ＵＷＦに行ったんだよ

——逆に言うと、ゴッチさんはビビらない人だったわけですか。

木戸　あの人はガッツもあるし、悪いテクニックもたくさん知ってから。そういうのが全部備わってるから強いんだよね。ただでさえ強いのに、いざとなったら、なんだってやってくるわけだから、相手は怖いと思うよ。

——いざとなったら、目をくり抜くぐらいのことはやりかねない、と。

木戸　そう、それぐらいのものはあったよね。相手としたら、目を潰されるよりは、極められてまいったしたほうがいいって思うじゃん。

——そうなりますよね（笑）。

木戸　ゴッチさんは、そういう悪いテクニックも知ってるから、誰とやっても自信があるんだよね。

——表と裏のテクニックを両方持っているから強いわけですね。

木戸　全部が備わってるんだよ。気持ちも強い、身体も強い、極める技術も悪い技術も持っている、だから自信があるというね。

——それこそ、ある意味で理想のプロレスラーですよね。

木戸　うん。そこがアマチュアとの違いだよね。アマチュアはきれいな試合だけじゃん。アマチュアの強い選手がプロレスに入って、最初にプロとスパーリングすると、それが怖いからビビッちゃうんだよな。

——ああ、だからアマチュアのトップ選手が入門しても、最初は道場でやられちゃうわけですね。

木戸　うん。でも、それが慣れてくると、もともとアマチュアで実績ある人っていうのは強いからね。プロの技術を覚えていったら、やっぱりオリンピックでメダル獲ってるヤツのほうが強いよ。それはいまの総合なんかでも一緒じゃない？

——確かにそうですね。柔道やレスリングのメダリストでも、最初は総合格闘家に勝てませんけど、総合の技術を覚えていったら、手がつけられなくなりますよね。

木戸　だろ？　だから、俺たちの時代は、アマチュアが強くなる前に潰しちゃうんだよ（笑）。

——ダハハハ！　プロの技術を覚える前に、怖さを植えつけておく。

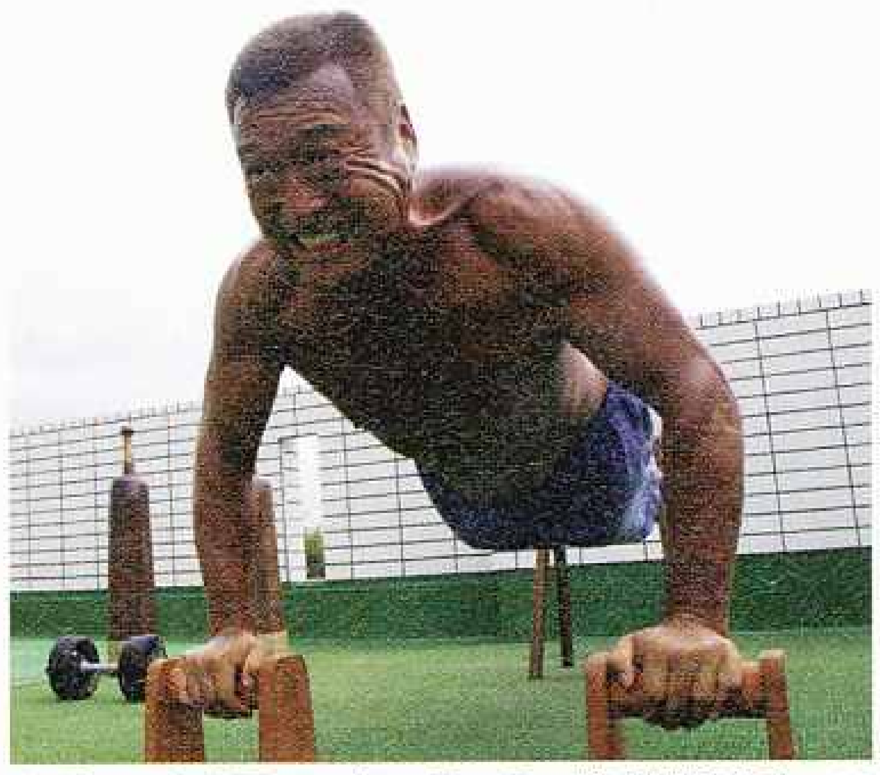
木戸　たとえば（ウイリエム・）ルスカなんか強いもんな。だから俺たちは道場でルスカの知らない技で対抗してたわけ。あれがプロの技を覚えたら大変だよ。でもゴッチさんはレスリングでオリンピックに出てて、かつプロの悪いテクニックを全部知ってるんだから、強いはずだよ（笑）。

——なるほど（笑）。木戸さんが84年に新日本から第一次ＵＷＦに移籍されたのも、やはり当時ＵＷＦの顧問になっていたゴッチさんの存在が大きかったわけですか？

木戸　そうだよ。俺はゴッチさんが誘ってくれたから行ったんだから。

——ゴッチさん直々のお誘いだったんですか。

木戸　そう。俺はべつに新日本を辞める必要もなかったし、新日本でやってたほうが生活だって安定してたんだよ。あの頃、離脱者がたくさん出たから、ポジション的にもいい位置にいたしね。それでも俺がＵＷＦに行ったのは、ゴッチさんが直々に「来てくれ」って言ってきたからだよ。じゃあ、俺にできることがあるんだったら行こうって。これでもしＵＷＦが失敗して、プロレスを辞めることになってもいいぐらいの気持ちだったな。



きど・おさむ■1950年２月２日、神奈川県出身。68年に日本プロレス入門。72年、新日本プロレス旗揚げ戦に参加。75年にアメリカに渡り、フロリダのゴッチ道場に入門。ゴッチ式のテクニックをマスターし、その後、いぶし銀のファイトで人気を得る。01年11月に現役を引退。現在、ゲストとしてUWAI STATIONなどで試合も行なっている。180cm、105kg。

——それぐらい、ゴッチさん直々の誘いというのは大きかった、と。

木戸　だって俺は日本プロレスに入ったときから、ゴッチさんにいろいろ教えてもらったからこそ、俺があるわけだからさ。感謝してるよね。そのゴッチさんが亡くなっちゃって、寂しいけど……タンパまでは遠いからなあ。散骨はちょっと行けなかったけど、（ジョー・）マレンコがちゃんとやってくれたって聞いて、よかったなと思ったけど。

——内々だけでやったみたいですね。

木戸　亡くなる2週間前ぐらいに西村（修）とは、電話で話してたらしくて、そのときは元気だったらしいんだけど、急だったよね。動脈が破裂しちゃう病気だったみたいだから。それもあって、俺の引退式にも「行きたい」って言ってたんだけど、飛行機に乗るのは怖かったんだろうな。

——いま思い出してみてゴッチさんに言われたことで印象的なことってありますか？

木戸　やっぱり練習だろうな。「練習はいつもしろ」ってね。

——それは会うたびに言われてたわけですか？

木戸　うん。それが生きるためにも一番必要だからな。だからいまも俺は練習だけは欠かしてないからね。やっぱりプロレスラーは練習しなくなったら終わりだから。

——木戸さんは全然、身体のラインが崩れてないですけど、いまだにジムとか行かれてるんですか？

木戸　ジムは行かないけど、毎日走ってるし、プッシュアップしたり、あとはコシティやったりね。

——いまだにコシティを⁉

木戸　家でやってるよ。自宅のベランダが広いから、そこでね。

——自宅にコシティがあるって、さすが〝ゴッチの息子〟ですね（笑）。

木戸　いまの若い連中は（コシティが）できないけど、俺はいまでもできるよ。テレビなんかでたまに映ると、若いヤツもコシティを振ってるふりしてるけど、できねえじゃん。

——いま新日本道場で管理人をしている小林邦昭さんが、「この道場で、ちゃんとコシティを振れるのは俺だけだ」って言ってましたよ（笑）。

木戸　あいつもいまだに練習してるでしょ？　やっぱりリングを降りても、身体が衰えるのはイヤだもんね。だから、現役時代より体重は20キロ落としたけど、筋肉は落ちてないつもりだよ。いま、娘が二人ともゴルフやってて、俺もいろんな練習場やゴルフ場に娘を連れていくんだけど、けっこう俺のこと知ってる人がいるんだよね。

——ああ、同じように娘をゴルフの練習に連れていってるお父さんとかは、「あ、木戸修だ」ってわかるでしょうね。

木戸　でも、そのとき「木戸さん、あんなに痩せちゃって……」って言われるより、やっぱり「現役時代とお変わりないですね」って言われたほうがいいじゃん。そう言われると、子どもも喜ぶしね。だから俺は練習だけは欠かしてないんだよ。

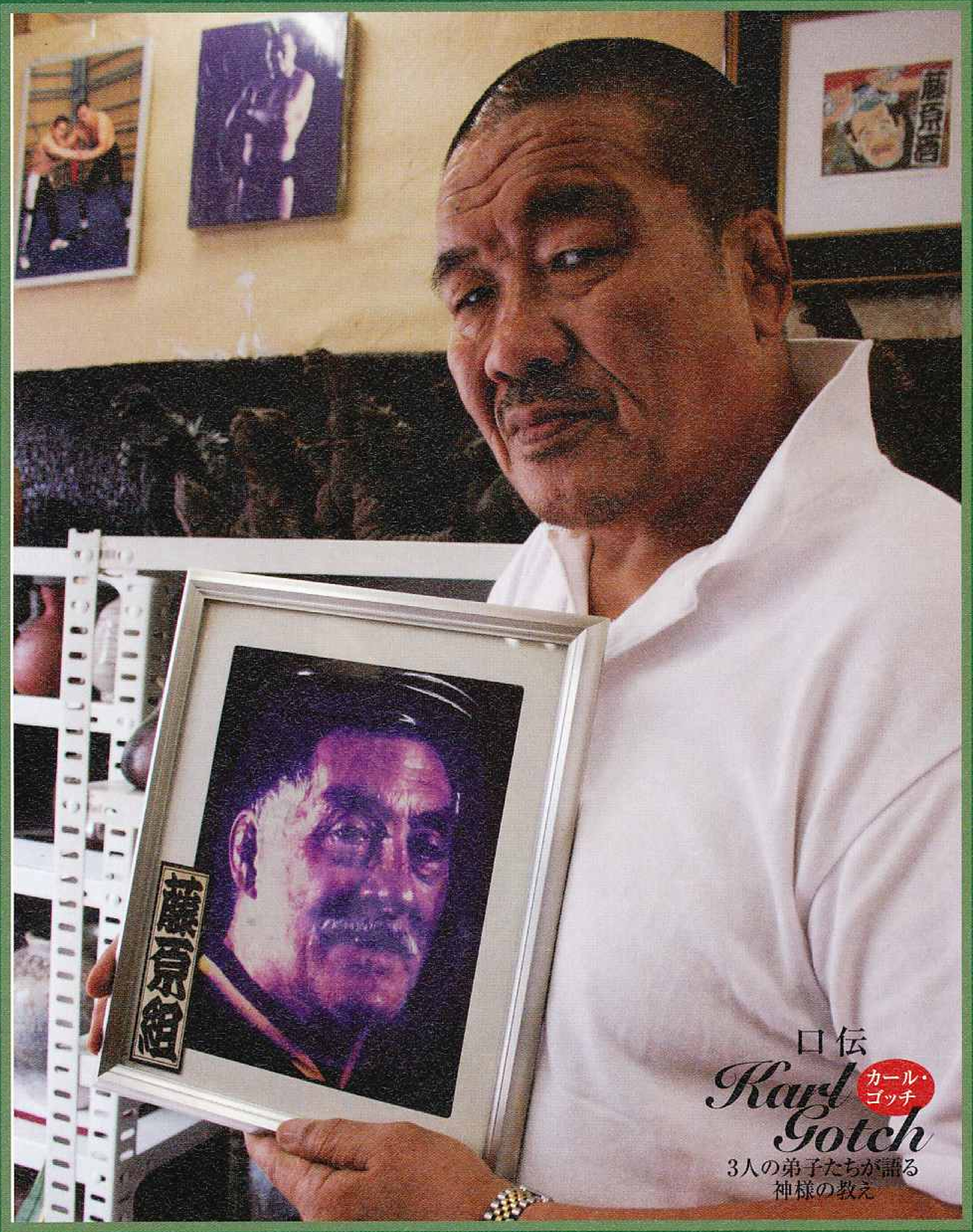
——現役時代同様、いい身体で、バッチリ日焼けしてますよね（笑）。

木戸　おう。ベランダでコシティ振ったあとは、日焼けもしてるから。それは現役時代から変わらないよね。

——木戸さんはいまもゴッチさんの教えを守って練習を続けてる、と。

木戸　そうだね。ゴッチさんの教えをずっと守って、死ぬまで練習して、死ぬまで健康で暮らせたらいいと思ってるよ。

【07年8月24日／静岡・東名カントリークラブにて収録】



"一番弟子"が語る、神様の本当の凄さ

藤原喜明

Yoshiaki Fujiwara

「66歳でスクワット2000回！やっぱり神様であり怪物だよ」

"ゴッチの愛弟子"として真っ先に名前が挙がるレスラーといえば、
やはり"関節技の鬼"藤原組長をおいてほかにいないだろう。自ら志願してフロリダのゴッチ教室に入門し、
ゴッチ秘伝の技術を得意のイラストを駆使して記録した「ゴッチノート」の逸話はあまりにも有名だ。
後年は自らの団体『藤原組』の顧問としてもゴッチさんを招聘、
晩年まで手紙のやりとりを続けた愛弟子が、万感の思いで"神様"の真の姿を語る。

聞き手＆撮影／堀江ガンツ

あの人が弱音なんか吐くかよ！
弱音から一番遠いところにいる人だよ！

—今日は藤原さんの師匠である、ゴッチさんの思い出を語っていただきたくうかがったんですよ。

藤原　死んだ人のことを勝手にあだこうだ言うのもなんだから、あんまり言いたかないんだけどね。

—ま、亡くなったからこそ言えることもあると思いますので（笑）。

藤原　無責任なこと言ってんじゃないよ！（笑）。

—すいません（笑）。藤原さんはゴッチさんから直接、関節技の手ほどきを受けられたわけですけど、かつてのプロレス界って「技術は見て盗むものだ」っていう考えがあったじゃないですか。

藤原　（関節技の技術を）知らないんだもん、だ～れも。

—ダハハハ！　教えないんじゃなくて、知らない（笑）。

藤原　「あの……どうやって極めたらいいんですか?」って聞いたら、「根性で極めろ！」とか「捕まえたら離すな！」とか言われたからな。

—根性じゃ極まりませんよね（笑）。では、ゴッチさんは唯一、理論的に技術を教えてくれたわけですか。

藤原　そうです。「こうすれば相手はこうするから、そしたらこう極める」とかね。

—ゴッチさんと関節技の練習をしていたのは、藤原さん以外にはどんな方がいたんですか?

藤原　ほぼ全員だよ。ただ、最初はみんなやってたけど、一人抜け、二人抜け……（笑）。

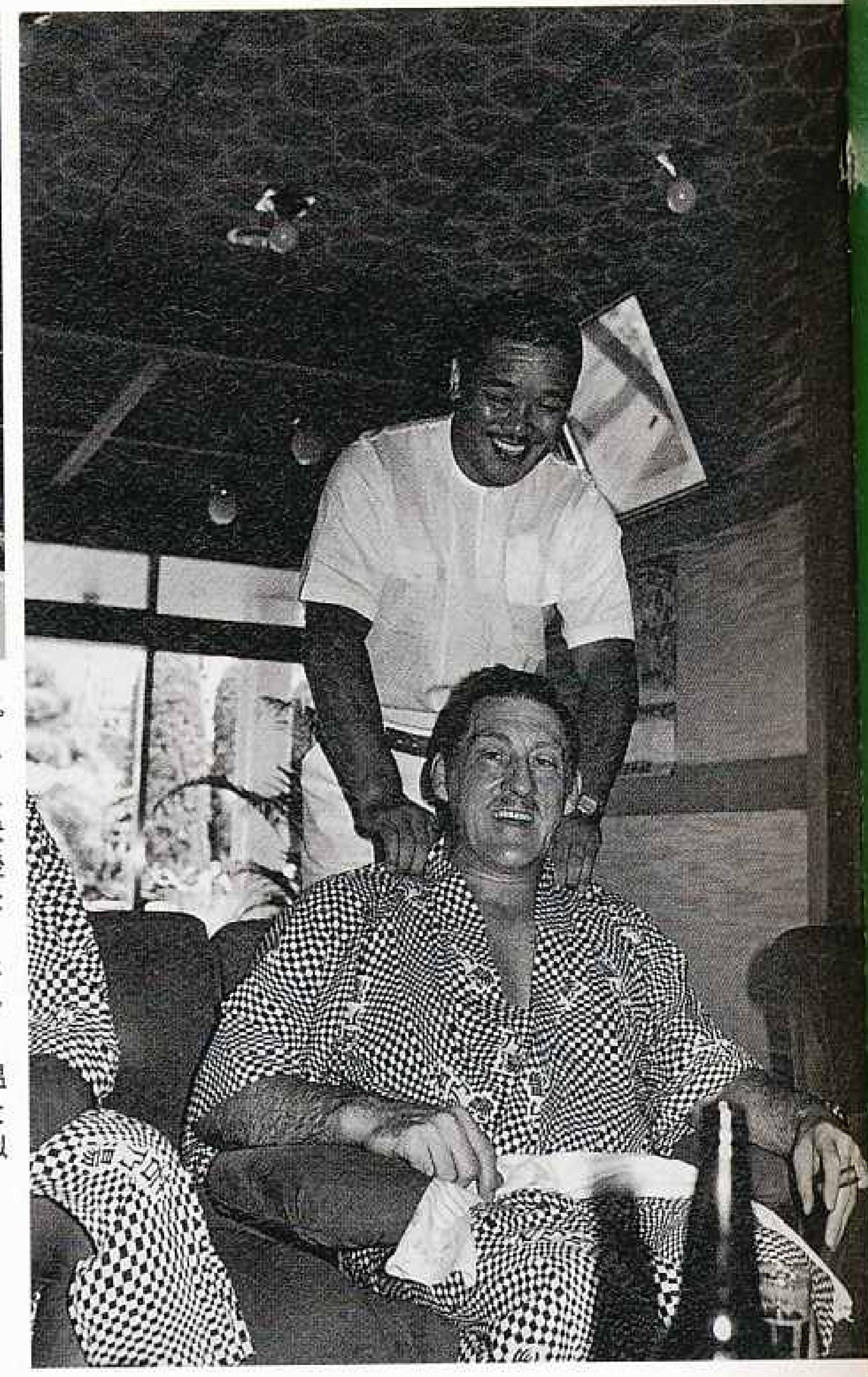
—ガハハハハ！

藤原　まあ、ズル休みかどうかはわかんないけどね。

—抜けられた方っていうのは、当時のメンバーで想像するに○○さんとか○○さんとかですか?

藤原　いや、名前は……もう昔のことだからね、覚えてないですけど。





（写真・左）82年1月1日、後楽園ホール。新日本プロレスのリングでエキシビションマッチとして、ゴッチvs藤原の師弟対決も実現していた。試合後のゴッチさんの満足げな顔が印象的だ。（写真・右）藤原組長とゴッチさんのある日のオフショットから。日本をこよなく愛したゴッチさんは、温泉や銭湯も好んでいたという。浴衣姿もじつに似合っている。

ずいぶんよく知ってんじゃん！（笑）。

—ガハハハハ！　でも藤原さんだけはどんどんゴッチさんとの練習にのめり込んでいった、と。

藤原　うん、おもしろかったからね。俺はおもしろければ一生懸命やる。焼きものだっておもしろいから十何年、コツコツとやってるからね。

—では、ゴッチさんがプロレスや関節技のおもしろさを気づかせてくれたわけですね。

藤原　だから関節技はいいけど、スクワットだとかプッシュアップとか、もう嫌いでな。スクワットなんてぶっ倒れるまでやらされたからね。だからこっちは、本当にぶっ倒れる10分手前ぐらいにぶっ倒れとくんだよ。そういう〝演技〟はうまくなったよ。おかげで、いまはVシネマでいろいろな役をやらせてもらってますから（笑）。

—それもゴッチさんのおかげだ、と（笑）。そのあと、藤原さん自ら志願してフロリダのゴッチさんのところに修行に行かれたんですよね?

藤原　ああ。猪木さんが「藤原、おまえは頑張ってるから褒美をやろう。何がほしい?」って言うから、「ゴッチさんのところに行かせてください」って言ったんだけどさ、「社長が乗ってるデカい車ください」とか言やあよかったかな（笑）。

—でも、当時はとにかくゴッチさんのところで練習したかった、と。

藤原　うん。ただ、練習が長いんだよ！　しかも、スクワットとかプッシュアップが長い！

—関節技を身につけたかったけど、とにかくその前段階が長い、と。

藤原　ゴッチさんが一緒にやってるからさ、こっちはやめるわけにいかないんだよ。俺が当時31歳だから、ゴッチさんは56歳か。56歳で一緒にやるわけだからさ、「疲れた」なんて言えねえじゃん。恥ずかしくて。しかも、ゴッチさんはヒザとかヒジがいかれてるのに、バキバキ鳴らしながらやってるんだから。たいしたもんだよ。

—ゴッチさんは身体にガタがきても、弱音はまったく吐かなかったわけですか。

藤原　弱音なんか吐くかよ！　弱音から一番遠いところにいる人だよ！

—「疲れた」とか「痛い」とか死んでも言わない（笑）。

藤原　どんなに痛くても絶対に言わないよ！　怪物だよな。あの頃も56～57歳なのにさ、ガチッと組まれると「あ、これもうダメだ」って思ったもんな。

—藤原さんはひたすら極められながら覚えていったわけですか?

藤原　いや、スパーリングはしないから。俺がフロリダに行って3カ月ぐらいで佐山が来て、一回スパーリングしたんだけど、足首をガッと押さえて、バキッとやっちゃったんだよ。そしたらゴッチさんが「やめやめ！　おまえらピットブルみたいなヤツらだな」って言って、その一回だけしかやらせてもらえなかった。

—あとはどうやって教わるんですか?

藤原　だから、「こうやって投げる」とか「こう極める」とか、反復練習ね。とにかく、いろんな体勢から極め方、押さえ方があるんだよ。凄いなって思うんだけどさ、練習が終わったあと、「あれ、今日習ったのなんだっけ?　覚えてねえや、こりゃダメだわ」って思ってさ。それで家に帰ってから、教わった技をノートに書いていったんだよ。

—それがいわゆる「ゴッチノート」になったわけですね。

藤原　ところがさ、「じつは私はこうやって一生懸命、あなたに習ったことを記録してます」ってノート見せたのよ。

—ああ、自分がいかに真剣に練習してるかを報告したわけですね。

藤原　そしたら顔色がみるみる変わってさ、次の日からスクワットやプッシュアップばっかりで、関節技なんか全然教えてくれなくなったんだよ（笑）。「こいつはヤバい！　全部

やっぱりゴッチさんは神様だよ でもそんな神様でも……死ぬんだよな

盗られる」って思ったんだろうな。

——それぐらいゴッチさんにとっても技術は財産だったんでしょうね。それで日本に帰ってから、教わったものをもとに、藤原流の関節技を作り上げていったわけですか？

藤原　うん。ゴッチさんが言ってたのよ。「俺が教えたヤツ、そのまんまやってるうちはダメだよ」って。というのは、俺とゴッチさんでは力だとか、腕の長さも全然違うからね。自分流にアレンジしなきゃ、本物の技にはならないんだよ。

——そのとき藤原さんのスパーリングの相手をしていたのが……。

藤原　前田とか佐山とかね、いっぱいいたよ。

——そして、ゴッチ流の関節技の練習してたメンバーがのちに〝藤原組〟と呼ばれるようになり、第一次UWFになっていくわけですね。

藤原　そうだな。みんな俺の実験台から始まったんだよ（笑）。

——ガハハハハ！　実験台になった若い選手たちは、最初に藤原さんがゴッチさんに感じたように、「おっ、これは凄い！」ってことで学びたくなっていったっていう連鎖なんでしょうね。

藤原　だと思うけどね。

——その頃、ドン荒川さんは藤原さんが苦労して書き留めた「ゴッチノート」をこっそり盗み見してたらしいですね（笑）。

藤原　あの野郎〜〜！（笑）。でも、あんなの見ただけでわかるわけねぇんだから。

——でも、荒川さんもスパーリングは強かったんですよね？

藤原　うん。防御が強かったんだよ。腕は短い、脚は短い、骨が太い、力が強いだから、勝てないけど負けない（笑）。

——そういうことでしたか（笑）。ゴッチさんってファンのイメージではトレーニングの鬼っていうの一辺倒なんですけど、素顔のゴッチさんってどんな方だったんですか？

藤原　トレーニングは厳しかったけど、普段しゃべると冗談が好きだったね。

——しゃべること自体がお好きなんですよね。

藤原　しゃべるの好きだし、いいこと言うんだよ。いろんな本を読んでるからね。ただ、いいことも言うけど、悪いことも言うんだよ（笑）。

——悪口も大好きだった、と（笑）。

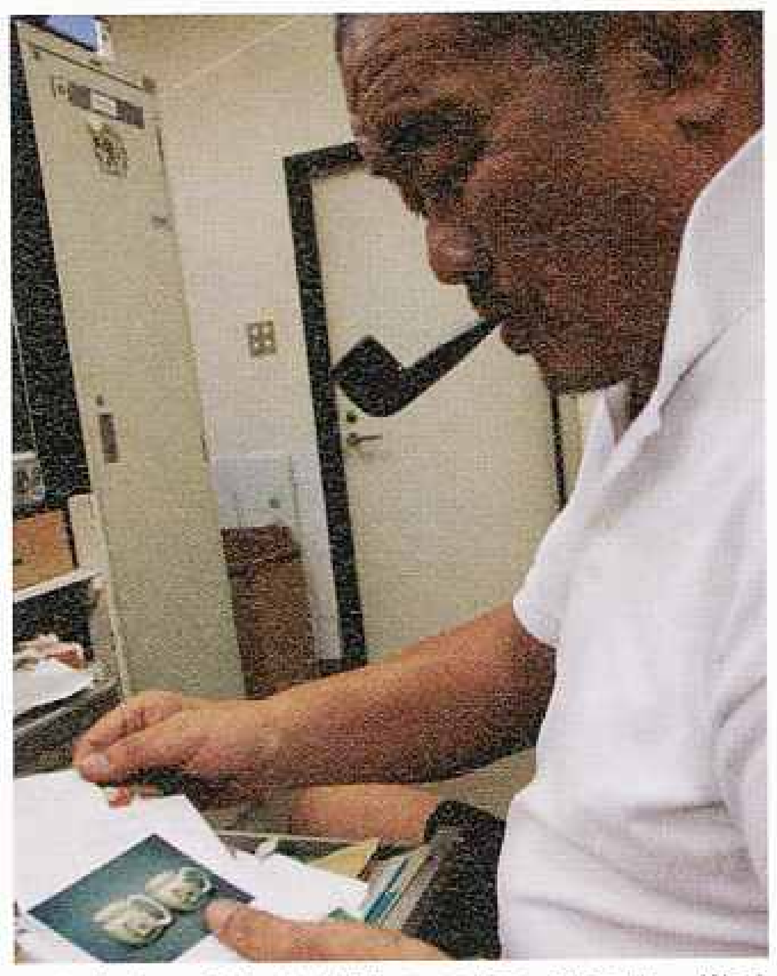
藤原　ああ、大好きだったね。とにかく話が好きだったよね。長いからさあ、だからこっちは「イエッサー、イエッサー」ってずっと言ってるとさ、「おまえ、俺の話を聞いてんのか！」ってさ（笑）。でも楽しかったよ。

——そういえば、藤原さんとスパーリングしていた方々は、自慢と悪口が好きな方が多いような気がするんですけど、これもゴッチイズムなんですかね（笑）。

藤原　……そうかもな。悪いとこばっかりマネするからな（笑）。

——そのあと、UWFを経て、藤原さんが藤原組を旗揚げして、一国一城の主になったとき、ゴッチさんを顧問に迎え入れましたけど、あれは藤原さんが頼んだわけですか？

藤原　もちろん。日本に3カ月ぐらい滞在してもらったんだよ。日本に来たのはあれが最後じゃない？



ふじわら・よしあき■1949年４月27日、岩手県出身。72年に新日本プロレスに入門。新人時代からカール・ゴッチに師事し、ゴッチ式のテクニックを身につける。その実力は猪木にも高く買われ、前座レスラー時代から猪木の影武者と呼ばれた。84年に長州力を襲撃し、“テロリスト”としてブレイク。同年、UWFに移籍し、持ち前の関節技でその存在感を確固たるものとする。91年には『藤原組』を旗揚げ。現在はタレント、陶芸家としても活躍している。186cm、102kg。

あの頃もスクワットとかガンガンやってたけどな。

——え!?　あの当時もゴッチさんはスクワットやったんですか？

藤原　２０００回やったよ！

——ガハハハハ！　２０００回！

藤原　それもペースが速いんだよ。２０００回を58分30何秒だったかな？　当時66歳だぜ。怪物だよ、ホントに。

——晩年は手紙のやりとりを続けられてたらしいですね？

藤原　うん、ゴッチさんからの手紙はいっぱいあるよ。几帳面にさ、ビッチリ書いてくるんだけど、「新しいトレーニングの方法を編み出した」とか、そんなのばっかりなんだよ（笑）。

——ダハハハ！　死ぬまでそれが一番の関心事だったんでしょうね。

藤原　こっちは、もうその歳でこれ以上強くならねぇだろ、って思うんだけど、違うんだよな。

——なんか、格闘家というより、画家とか陶芸家が死ぬまで理想を求めていくような感じですね。

藤原　そう。アーティストだな。いいこと言うねえ！　芸術は突き詰めていくから、終わりがないし、やればやるほどおもしろいんだよ。「トレーニングやらなくなったら、自分が自分じゃなくなる」って言ってたもんな。やっぱり神様だよ。でも、そんな神様でも……死ぬんだよな。

——絶対に死にそうにないゴッチさんが亡くなってしまった、と。

藤原　うん……死んだのが７月の29日かなんかだろ？　あと５日生きてりゃ83歳だったんだよな。俺、ゴッチさんの誕生日には毎年バースデーカードを送ってたんだけど、今年は送ってなかったんだよ。で、「しまった！　書かなきゃ」と思ってたら死んじゃった。

——……。

藤原　なんかの知らせだったのかな……。フロリダに行ってから27年間で初めてだからね、バースデーカード書かなかったの。

——結局、83回目の誕生日が来なかったわけですからね。

藤原　……もっと電話してやりゃよかったな。頑固だからさ、電話だと疲れるんだよ。あと話し始めると止まらないでしょ。２時間だよ！

——電話も話が長いんですか（笑）。

藤原　確か去年の３月26日に電話したのが最後だったな。ゴッチさんがアメリカの関節技セミナーの講師として、俺を推薦してくれたからさ、「ありがとうございます。あなたから盗んだ技術を……」とか話したら、「『盗んだ』ってどういうことだ！」って急に怒りだしてさ（笑）。

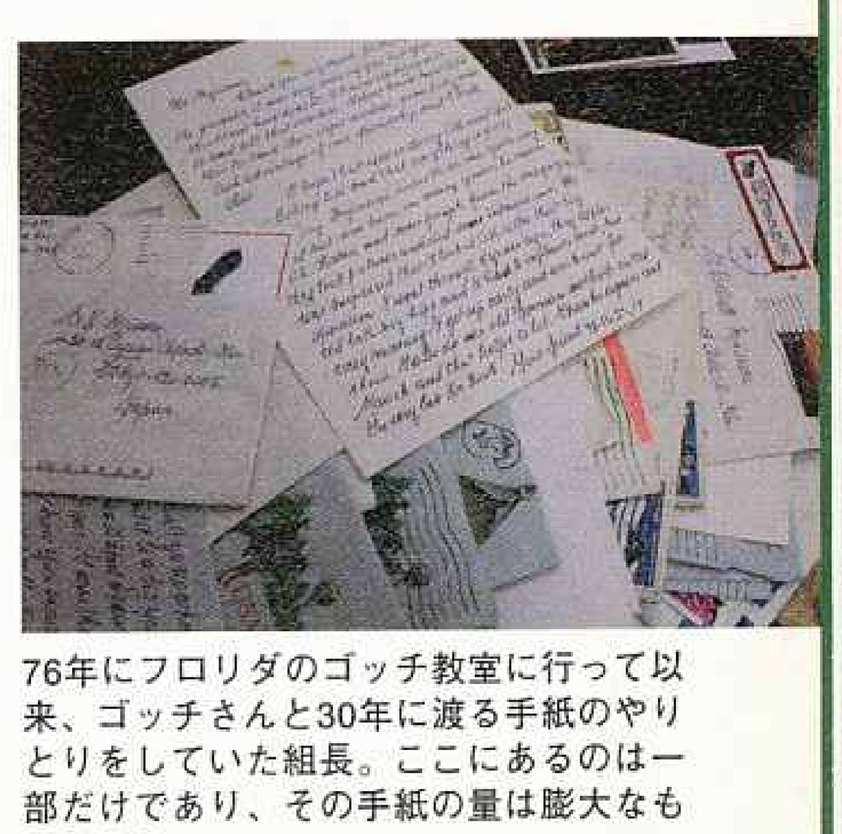
——なぜだ（笑）。

藤原　そこは怒るところじゃねえだろって（笑）。最後まで怒られっぱなしだったよ。でも、最後まで自分の好きなように生きられたから、いい人生だったんじゃない？　最後まで強さを求めてさ、やっぱ神様だよ。

——ほかのレスラーにはマネのできない生き方ですよね。

藤原　そりゃ、できるヤツなんていないよ。神様と同じ生き方なんてね。

【07年８月28日／都内・藤原ファミリー事務所にて収録】



76年にフロリダのゴッチ教室に行って以来、ゴッチさんと30年に渡る手紙のやりとりをしていた組長。ここにあるのは一部だけであり、その手紙の量は膨大なものとなる。



“最後の直弟子”が語る、神様との9ヵ月間

石川雄規

Yuki Ishikawa

「日本にいたときは、朝から晩まで一緒！『水戸黄門』も一緒に観てました（笑）」

ナーシャッ！　格闘探偵団バトラーツを率いる石川雄規社長は、“神様”ゴッチさんのところへ、いきなり押し掛け入門したことで知られる“最後の直弟子”である。また91年3月の藤原組旗揚げ時に、トレーニングコーチとして来日したゴッチさんの付き人を務め、約9ヵ月間みっちりとゴッチイズムを学んだ男である。ゴッチさんとは晩年も交流を続けていたそんな石川社長に、日本を愛した神様の知られざるエピソードを直撃！

聞き手&撮影／堀江ガンツ

――今回はゴッチさんの〝最後の直弟子〟といってもいい、石川さんにお話をうかがいたいと思いますが、ゴッチさんがいなかったら、プロレスラー・石川雄規は……。

石川　もちろんないでしょう！（キッパリ）。

――石川さんはプロレスラーになるために、フロリダのゴッチさんのお家を訪問された人ですからね。

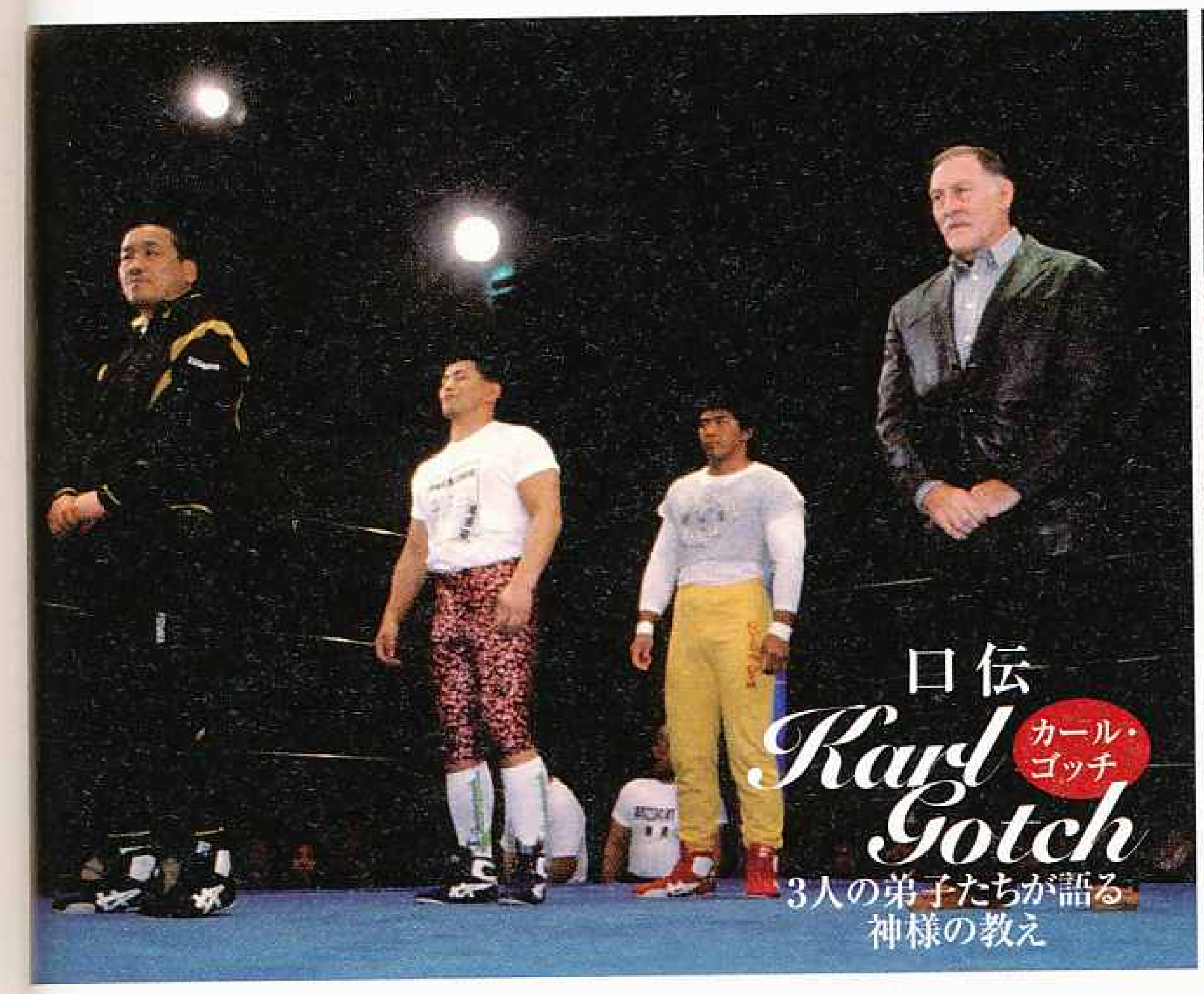
石川　もう半分、押し掛け入門みたいな感じでね（笑）。

――でも、言ってみればただのレスラー志望の若者だった石川さんが、どうして単身フロリダまで？

石川　それは、あの頃はプロレスラーになるのが凄く難しかったうえに、僕はプロレス入りを親に反対されてて、大学を行かざるを得なかったんです。で、たとえば大学卒業後にプロレス界に入ったとしても、18歳でプロレス入りして6年間キャリアを積んだプロレスラーと同じ強さが必要でしたから、「そこまで自分を引き上げてくれる人のところで鍛えたい」と思って、それでゴッチさんのところへ行ったんですよ。

――そのゴッチさんと出会うきっかけは、佐山サトルさんがいらっしゃった頃のシューティングだったんですよね？

石川　ええ。大学生のときにシューティングジムに通ってたんですけど、佐山さんがゴッチさんを日本に招致したときに初めてお会いしたんです。そのときはゴッチさんから関節技や基礎体力、コンディショントレーニングを教わったんですけど、どれもが理論的で本当に驚かされましたね。それにゴッチさんの目に止まったのか、「ヘイ、ユーはなかなかいい筋肉をしているな。でもニセモノだ。ウエートトレーニングばっかりじゃレスリングには使えないぞ！」と話しかけられたんですよ。





（写真上）90年6月、ラリー・マレンコ道場で“新ゴッチ道場”を開いていた時期のショット。第二次UWFの常連外人レスラーらに無償でトレーニングを施していた。まさに“神様の下山”だ。（写真左）91年3月4日、『プロフェッショナルレスリング藤原組』（当初は『新生UWF・藤原組』）の旗揚げに来日、挨拶を行なったゴッチさんの勇姿。開場前には石川らをコーチする神様の姿があった。

――神様から直接、声をかけられたんですね。

石川　そういうこともあったし、二人になったときに「大学を出たらアメリカに行きますんで弟子にしてください!!」とお願いしたら、ゴッチさんは軽い感じで「イエス！」と。

――おそらく社交辞令的な感じで言ったんでしょうけど……。

石川　でもこっちは完全に本気ですからね!!　それでお金を貯めてゴッチさんの家の住所もわからずにフロリダに行ったんです。じつは佐山先生は住所を知ってたんですが、先生は当時、大のプロレス嫌いだったから「プロレスラーになるためにゴッチさんのところへ行きたいから、住所を教えてください」なんてとても言えなかった（笑）。

――確かに言えませんね（笑）。

石川　それで困って、当時『週刊プロレス』編集長だったターザン山本さんに相談したら、「フロリダ州のオデッサに住んでるから、行けばわかる！」と言われて。

――さすがターザン、適当ですね（笑）。

ゴッチさん宅に押しかけたら、「よく家がわかったな。日本人はニンジャだ！」って

石川　雑誌に載っていたゴッチさんの自宅写真にも湖が写っていたから、ボクも「オデッサで湖を探せばゴッチさんに会える！」と思い込んじゃった。それでフロリダからタクシーでオデッサまで行ったんですけど、そしたら、オデッサって街はどっちを見ても湖だらけなんです！

――それじゃ探しようがない（笑）。

石川　でもタクシーの運転手さんが凄くいい人で探すのに協力してくれて、コンビニで「この人を知りませんか？」って聞いていたら、「あ、私の家の隣のおじいさんだ」って人がいたんです。

――それはまた凄い偶然ですね。

石川　それでゴッチさんの家には着いたんですが、今度は「僕のことを覚えてるはずない」って不安になってきた。案の定ゴッチさんが「……誰だ、このボーイは？」って目が点になってて。でも「ニセモノじゃなくホンモノの筋肉に変身してきました！」って言ったら、一瞬間をおいて「……あのときのボーイか！」って思い出してくれました。「本当に来たのか！　よく家がわかったな。日本人はニンジャだ！」って（笑）。

――ハハハハ！　そこで弟子入りを再志願されたんですね。

石川　ただ、ゴッチさんは「いまは日本のプロレスのほうがいい。アメリカはマッチョマンの筋肉ショーばかりだ」という理由でコーチを辞退されたんです。でも僕は「雑音のないこの場所でプロレスを勉強したい」と頼み込んだ。そしたら親友のラリー・マレンコさんのプロレス道場を薦めてくれて「そこにホームステイすればいい。私もコーチに行ってやる」と言ってくれたんです。

――万事がうまくいって、神様の手ほどきを受けられるようになった。

石川　ええ。その時期、マレンコ道場では（ミスター）空中さんが第二次ＵＷＦに送り込むために外人選手をコーチしてたんです。

――ゴッチさんの娘婿で、旧ＵＷＦのレフェリーだった空中さんですね。

石川　ゴッチさんがプロレスのコーチをやるのはひさしぶりだったし、まさに〝神様の下山〟ですよ（笑）。

――そのきっかけが石川さんだった。

石川　そうですね。それでフロリダには3カ月間いて、帰国して数ヵ月したらＵＷＦが崩壊して藤原組が立ち上がったんです。藤原組には空中さんも合流したから、「おまえも来いよ！」と声をかけてくださったんですよ。それで今度は藤原組の旗揚げ（91年3月11日、後楽園ホール）前にトレーニングコーチとしてゴッチさんを日本にお呼びすることになって。

――来日したゴッチさんのお世話をされたのは石川さんだったんですよね。

石川　ええ。ゴッチさんが日本に6

ゴッチさんからの最後の言葉は「アームロックの取り方わかるか？」

カ月（最初の3カ月間は藤原組の合宿所、一度帰国して再来日したあとは、上野毛の友人宅に滞在）いたあいだ、ず～っと付き人をやりました。つまり、フロリダと合わせて、正味9カ月間近くゴッチさんに習ったんです。3日間くらいで〝ゴッチイズム〟伝承とか言ってる人とは違うよ、と（笑）。

――正味30分の選手もいますから（笑）。じゃあ、ゴッチさんとは話もたくさんしたでしょうね。

石川　また話が長いですからねぇ（笑）。でもいろんな話を聞きましたし、レスリング以外にも人生哲学の話も話してくれましたから。

――リアル〝神様の説法〟ですね。

石川　もう毎日が説法ですよ（笑）。藤原組の合宿所は浅草にあったんです。そのワンルームマンションの一室をゴッチさんが使われていて、僕たち練習生はその隣の部屋に住んでいた。道場の練習が終わったら、ゴッチさんと一緒に銭湯に行って、そのあとゴッチさんの部屋で飲んだり、ゴッチさんの説法を聞いたり、一緒に『水戸黄門』を観たり……。

――えっ！　『水戸黄門』を？

石川　ゴッチさんは『水戸黄門』大好きですから。とくにお銀ちゃん（くの一の〝かげろうお銀〟。演じるのは由美かおる）が好きでね（笑）。

――神様のお気に入りはお銀ちゃん（笑）。

石川　「好きなんですよね？」って何回も聞くと顔を真っ赤にして怒りました（笑）。あとゴッチさんは銭湯も好きだったから、箱根温泉にもお連れしました。そのとき俺の小田原の実家にも寄ってもらったんです。両親は巨大なおじいさんがきてビックリしてましたけどね。

――ゴッチさんは藤原組に来日されたあと、プライベートで立て続けに周囲に不幸があったんですよね。

石川　奥様も亡くされて、その前には空中さんやラリー・マレンコさんも亡くなってしまったし……。あのときが最後の来日じゃないかな。ただ、ゴッチさんに関して言えば、80歳越えてるんですから、（亡くなることは）ありえますよ。

――最後に会われたのは？

石川　僕は3年前にゴッチさんに会いにフロリダに行ったんです。僕が信頼を置ける友人や仲間、ファンたちの5人で。ゴッチさんも喜んで迎えてくださって、ゴッチさんが「朝飯を一緒に食おう。なじみのレストランがあるんだ」って連れだって行ったんです。そしたら、日本でいうおばあちゃんがやってる定食屋みたいな感じのお店で、オーダーは「ハムトーストとコーヒー」。たったそれだけ（笑）。

――非常にシンプルな食事で（笑）。

石川　それで食事のお金を払おうとしたら、「絶対に出すな！　俺が出す！」ってゴッチさんが僕らのぶんも払ってくださったんですよ。あとでその話を聞いた藤原さんが「よっぽど嬉しかったんだな。あのケチなゴッチさんがおごるなんて」って驚いてました（笑）。

――へぇ～（笑）。よっぽど機嫌がよかったんでしょうね。

石川　そのあとフロリダの青い空の下、白いテラスでロッキングチェアみたいなイスにゴッチさんが座って、僕たちが囲んで、ゴッチさんが葉巻を吸いながらいろんな話をしてくれた。あれは美しいシーンでしたねぇ……（遠い目で）。



いしかわ・ゆうき■1967年2月8日。神奈川県小田原市出身。本名は石川豊彦。大学卒業後に単身、フロリダのカール・ゴッチ邸を訪れたことがきっかけで、プロレスラーに。藤原組の入団を経て、96年に格闘探偵団バトラーツを旗揚げ。社長であり、看板レスラーとして活躍中。現在は、炭火串焼き石川屋も営む。178cm、95kg。

――まるで黒澤明監督の映画『夢』のワンシーンみたいですね。

石川　それで僕はその日に現地のレスラーに誘われて、フロリダのインディー団体に出ることになってたんです。それを話したら、あのゴッチさんが「（会場に）観に行きたい」と言いだしてね。

――アメリカのプロレスをあれだけ否定していたゴッチさんがですか。

石川　だから僕も「ゴッチさん、〝あの〟プロレスですよ」って確認したんだけど、どうしても「観に行きたい」って。きっと僕が試合に出るからそう言ってくれたんだろうけどね。そのとき僕は会場の場所を知らなかったから、あとから電話でゴッチさんに場所を連絡したんです。そしたら「そうか。遠いわけじゃないけど、会場までの運転手がいないなあ……」って残念そうに言ってね。最後は「頑張ってくれ！」って元気づけられたんだけど、ゴッチさんがあんなことを言い出すなんて、凄く不思議でしたね……。

――石川さんの試合を観るのも最後かもしれない、と思ったのかもしれない。

石川　そうですね。ただ、その前にフロリダで行ったときは元気がなかったけど、本当に凄くお元気だったから安心したんですよ。最後に会って話したときも「オイ！　アームロックの取り方わかるか？」って言われましたから。「いまからやるか？」って（笑）。

――ハハハハ！　さすがですね（笑）。でも、フロリダで最後に別れるときは「これで最後かな」って気持ちは？

石川　ありましたね……（しばらく沈黙して）。亡くなったことを聞いたときも「ああ……そっか。仕方がないのかな」って。必要以上に悲しむことはなかったし、わかり合っている関係って逆にオイオイ泣いたりしないんじゃないかな。だって大往生じゃないですか？

――本当にそうですね。

石川　だから「お疲れさまです！」という気持ちと「会っておいてよかった」って。それに僕も何年後かにあの世に逝くんですよ。「そのときに会えるじゃねぇか」ってね。天界からすれば何十年のこともほんの2～3日ぐらいだろうし。

――しばしのお別れって感じですか。

石川　それにゴッチさんはこれだけの素晴らしい功績を残されて〝伝説〟になって〝神話〟になったんだから、嘆くことなんてない！

――プロレス界に確固たるものを残した人ですからね。

石川　でも……。ゴッチさんの遺体を見たりしたら泣いちゃうんだろうけどね。うん。どこか彼方でまだ生きている気もするし。

――それはゴッチさんがいるのが、遠いフロリダなのか遠い天国なのか？　って違いなんですかね。

石川　そうですね。遠いフロリダで会えないのと、天国で会えないのと同じだよね。どっちにしても会えないんだもん。

――いや、今日は素晴らしいお話、ありがとうございました。

石川　こちらこそ。でも、僕のゴッチさんへの気持ちはそんな感じなんだよね（ニッコリ笑って）。

【07年8月28日／埼玉・越谷バトラーツ道場にて収録】



ゴッチい散歩



“神様”が愛した下町・浅草

前ページまでの石川雄規インタビューにもあるように、91年に約3ヵ月間、藤原組のコーチとして浅草に滞在した“神様”ゴッチさん。下町情緒あふれる浅草の銭湯や日本食を愛したゴッチさんの足跡を辿ってみよう!

構成／真下義之

東部鉄道の浅草駅を下りて、隅田川沿いを歩く。15分ほどすると浅草らしい喧噪から離れた、静かな下町に辿り着く。そこが、91年3月4日に藤原喜明を中心にメガネスーパーのスポンサードで旗揚げされた『プロフェッショナルレスリング藤原組』（旗揚げ時は『新生UWF・藤原組』）の合宿所のあった場所、浅草の今戸町である。

この今戸の一角にあるワンルームマンションで、91年当時にコーチとして招かれていたカール・ゴッチさんが石川雄規、高橋和生、臼田勝美、柳澤龍志ら練習生と約3ヵ月間、住み暮らしていた。

練習が終わったあと練習生たちがボロボロになって帰ったこの合宿寮。ゴッチさんは練習生の隣の部屋に住んでおり、練習生たちは毎日、ゴッチさんの部屋に集っては焼酎を飲みかわし、“神様の説法”を聞いて、テレビで相撲中継を一緒に観たりしていたという。

そして温泉好きのゴッチさんが足しげく通った銭湯・今戸温泉はこの寮から歩いて数分の場所にある。この今戸温泉、はとバスのツアーに組み込まれたことのある伝統的な銭湯であり、当時はゴッチさんの写真も飾られていたという、ゆかりの場所だった。この銭湯では年配のプロレスファンに声をかけられることもあった模様。しかし下町の湯船で“神様”に出会うとはさぞかし驚いたことだろう。

この今戸温泉は残念ながら廃業。その跡地にはマンションがそびえ立っていた。

またこの付近には、招き猫の発祥の地としても知られ、石川が「よくゴッチさんと散歩をした」という今戸神社もある。そして、ときには浅草・雷門まで足を延ばしたという。

神様が愛した浅草、そして今戸。プロレスファンなら一度は足を運んで、神様の足跡を探してみるのもいいかもしれない。

神様の下町MAP



エアガイツ！　ゴッチさんの散歩コースだったこの今戸神社は、境内の石碑によると新撰組の沖田総司の終焉の地！　武士道精神を重んじ、宮本武蔵の『五輪書』まで読破していたゴッチさんだけに感じる部分があったのか？　こちらは今戸温泉から数分の距離。夕暮れ時に風呂上がりのゴッチさんと石川らが歩く幻影が浮かぶようだ。



“神様”の散歩道01 今戸神社

頭のかたちがよかった高橋を“アップルヘッド”、そして柳澤をなぜか“アジ”と命名するなど、非常に仲むつまじい師弟関係を築いていたゴッチさんと藤原組の練習生たち。その寮がこちらの5階建てマンションのジョルジュ浅草。じつは当時、藤原組のスポンサーだったメガネスーパーの持ちものであった。



“神様”が暮らした合宿所 元・藤原組合宿所マンション





“神様”が通った銭湯 元・今戸温泉があった場所

オー・マイ・ゴッチ！　ゴッチさんがこよなく愛した銭湯、今戸温泉はすでに廃業していた!　銭湯なのに露天風呂もついており、銭湯好きにも有名だったこの温泉に神様は毎日のように通い2時間ほど汗を流していた。石川曰くゴッチさんが「裸にタオルでチ○コを隠してる写真」も飾られていた。現在はマンションが建っている。

“神様”が愛したうなぎ

生涯を通して、魚を主食としていたゴッチさん。本誌前号（No.114）に登場した山本小鉄も「ゴッチは日本食大好き。とくに寿司なんてもう好き！　好き！」と証言していたが、寿司と並らんで大好物のジャパニーズ・フードといえば“うなぎ”！　石川曰く「あまり外食は好まなかった」というゴッチさんが、滞在中に唯一、足しげく通っていたうなぎ屋さん。その伝説のうな重をついに突きとめた！（写真）。ところが今回はお店側の意向により、お店の名前や場所はシークレット。神様の愛した味を吟味したいゴッチ・マニアは、今戸の街を各自調査〜！



“神様”の散歩道02 浅草雷門



アイ・ライク・アサクサ！　日本を象徴する風景として、あまりにも有名な浅草寺・雷門もゴッチさんと石川の散歩コースだった。いつ何時もトレーニングのことが頭から離れないゴッチさんだけに、雷門の両側に控える風神&雷神像の筋肉を「ビッグマン・イズ・ビッグシット！」とクールに断罪していた可能性すらあるから恐ろしい。

プロレス界の未来を左右する
大問題を解決せよ!!



プロレス界 No.1ダンスは どっちだ!?

ダンスについて考えることは喜びである

UWAI STATION――日本語に訳すと上井駅。そこは、プロレスの終着駅なのか？　それとも未来への始発駅なのか？　快速は停まるのか？　複線なのか？　単線なのか？　とにかく日本一謎の多い駅である。しかし、そんな上井駅でとてつもない大事件が勃発した。ラッキィ池田のプチシルマ体操と長州小力のパラパラがリング上で真っ向勝負することになったのだ。ダンスといえば、前々回の探検で武富士ダンサーズからダンスを習ったGK隊長と小松隊員も黙ってはいられない。さっそく二人に探検を申し込んだのだが……!?

本文構成／小松伸太郎　撮影／平工幸雄

GK隊長

かなざわ・かつひこ■元『週刊ゴング』編集長。現『Gリング』統括プロデューサー。テレビ朝日『ワールドプロレスリング』の解説も務める。プロレスマスコミの重鎮として幅広い取材活動を行なうが、このたび探検隊を結成。体当たりで取材に挑む!



小松隊員

こまつ・しんたろう■元『SRS・DX』編集部。以前からGKと親交があり、『週刊ゴング』で座談会も担当していた。元相撲部でもあり非常にグッドルッキンなボディを持つ。“受け”の美学は今回も全開だ!! 通称「モグラ」。



GK探検ファイル
No.006

探検隊



ダンス対決
ラッキィ池田 VS 長州小力
プチシルマ体操　パラパラ

プチプチvsパラパラ ダンス対決実現の経緯
昨年、プチシルマの株式会社レダを冠スポンサーに旗揚げされた『UWAI STATION』は、１年間の集大成として、10月６日に『プチシルマSPECIAL DREAM』という大会を、ディファ有明で開催することになった。ところが、その象徴であるプチシルマ体操に、あの長州小力が「リング上で踊るのはパラパラだけで充分」と挑戦状を叩きつけてきたのだ。小力は8月28日の会見にも乱入。その場で、振り付け担当のラッキィ池田をあらためて挑発した。これを受けてレダの加畑雅之社長が、プチシルマ体操vsパラパラにゴーサイン！　同大会で、両者が集めたメンバーが試合を行ない、勝ったほうが各々のダンスを披露することになったのだ。



プチシルマの株式会社レダ加畑社長も大鼓判!

GKスペシャル プロレス

プロレス業界で話題騒然！おなじみのプチシルマ体操にあの〝大物〟が関与!?



ラッキィ池田

記者会見でいきなり長州小力との激突が決定したラッキィ池田。興奮冷めやらぬままインタビューに突入だ！探検隊の二人も最初は半信半疑だったが、ラッキィさんの話を聞くうちに巨大な謎にその行く手を阻まれることになる……。プロレス界ナンバーワン・ダンスはプロレス探検隊が決める！

GK よくぞ集まった、わが精鋭たちよ！（『風雲！ たけし城』谷隼人調で）。

小松 隊長。いつもどおり、私一人だけであります！（敬礼）。

GK 黙らんか、小松隊員！ いま、この場で電撃決定したプチシルマ体操vsパラパラのダンスバトル！ この勝敗の行方を探れるのは、武富士ダンスをマスターしたこの金沢をおいてほかにはいな〜い！

小松 （小声で） はぁ？ 腰使いがうまいとほめられたのは僕なのに……。

GK シャラ〜ップ！ まずはさっさとラッキィさんに突撃インタビューだ！ 行くぞっ！ 私についてこい！

小松 隊長、じつはもうお連れしております！

GK おお、用意がいいな！

ラッキィ は〜い、ラッキィ池田で〜す！

GK 初めまして、ラッキィさん！（ガッチリと握手）。私が何を隠そう、プロレス界ナンバーワン・ダンサーの金沢です。さあ、小松隊員よ、調査を始めよう。

小松 （軽くステップを踏みながら）ラジャーです、隊長。では、ラッキィさん、まずはプチシルマ体操ができた経緯を教えてください。

ラッキィ はい！ じつは、ドン荒川さんがプチシルマのCMの音楽に合わせながら、いつも自分がやっているストレッチを、いろんな方と一緒に踊ってたのが始まりなんです。

GK え？ あの「♪プチプチ……」って歌に合わせてストレッチを？

ラッキィ そうです。それが凄く楽しいストレッチだったんで「キッチリとしたかたちにまとめよう」という話になり、僕が振り付けしてプチシルマ体操を作り上げたんですよ。ところが！

小松 （興奮しながら） と、ところがどうしました、ラッキィさん!?

ラッキィ 困ったことに考案者のドンさんが一番物覚えが悪い！

GK （真剣な眼差しで） そ、それはどういうことなんですか!?

小松 （小声で） もともと荒川さんが考案したはずなのに、なかなか踊りを覚えない……、隊長！ これは巨大なミステリーにブチあたりましたね。

GK （小声で） 落ち着くんだ小松隊員。ひょっとしたら荒川さんはプチシルマ体操に関わってなかったんじゃないかという都市伝説がプロレスファンのあいだでもささやかれているからな……。ラッキィさん、これはどういうことなんですか？ 我々には真相を知る権利がある。

ラッキィ （あっさりと）曲に合わせるのが大変だったらしいんですよね。

小松 （驚愕の表情で）な、な、なるほどぉ。

ラッキィ おかげでプロレスファンからは「なんで考案者があんなにたどたどしいんだ？」なんて疑問を持たれてしまって……。でも、本当にドンさんが始めた体操なんですッ！

小松 （小声で） 隊長、やりましたね。

GK うむ。これで我々はまた新たな真実の扉を開いた、と言えるだろう。ラッキィさんご本人からの証言で、本当にプチシルマ体操の開発に荒川さんが関わっていたという事実がわかったんだ。

ラッキィ ほ、本当にわかってくれてます？

小松 （涙を流してうなずきながら）はい……。

ラッキィ な、ならいいですけど……。とにかくプチシルマ体操は、プロレスのトレーニングを元にした、由緒正しい体操なんです！ それなのに小力さんは、「チャラチャラとやっている」なんて言ってくるわけですよぉ！ さっきの会見でも言ったように、僕らは「チャラチャラ」ではなく、「プチプチ」やっているんですッ！ 僕らは理念があってやっているわけですから、小力さんに因縁をつけられる筋合いはありませんよぉ！

GK 荒川さんがあれだけお元気なわけですから、ラッキィさんのお言葉には重みがありますよ。

小松 しかし、隊長！ 荒川さんはもちろんですが、上井（二三彦）駅長もすこぶる元気ですよ？ その源はなんなんですかね？

GK ふむ、上井駅長のここ最近の人生を考えてみると、元気なほうがおかしい。（腕組みをして熟考しながら）これまた大きな謎が出現したな。ラッキィさん、どうなんです？

ラッキィ 僕は振り付け師という仕事柄、現場では真っ先にその場の空気を読むんですね。

小松 ほほう、空気を読む！

ラッキィ そうです。「これはクライアントが望んでいるのか？」とか現場の空気を察して、作品をまとめていくんです。ところが、上井駅長とドンさんは、ま〜ったく空気を読まない！

GK （真剣な表情で）確かに読まなそうだな、あの二人は。

小松 （うなずきながら）そのとおりです、隊長。

ラッキィ ただ、そういう空気の読まなさ加減が、逆にプロレスを作ってきたのかなとも思うんですよね。

小松 なるほど！ おおらかさやアバウトな部分のことですね！

ラッキィ そうです！ たとえ昨日いざこざがあった場所でも、明日には平気な顔で行けてしまうおおらかさ！ これは大きな原動力になりますよぉ！ だから、空気は読むべきじゃない！

GK （興奮して立ち上がり）ラッキィさん！ それこそ我々が追い求めている真理ですよぉ！ プチシルマ体操を踊りながら、いつ何時でも空気を読まない！ これが元気になる秘訣ですね!?

小松 （小声で） 隊長！ 我々は真理に到達したんですね!?

GK おおよ！ それには実践あるのみだ！ さあ、プチプチするぞぉ！

小松 ラジャーです、隊長！

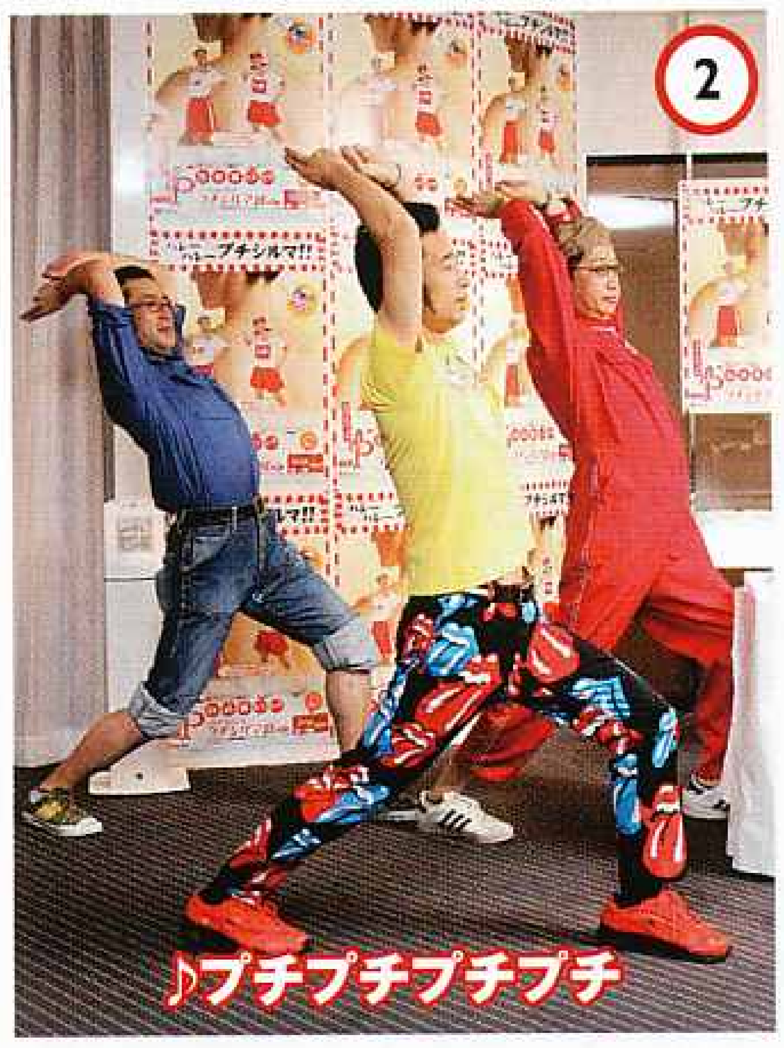


プチシルマ体操をやって空気を読まないことが健康の秘訣（ラッキィ）





まずは指を二本立てて腕をまっすぐに伸ばす！ この手のかたちは最後まで崩さずにキープするすべての基本となる。



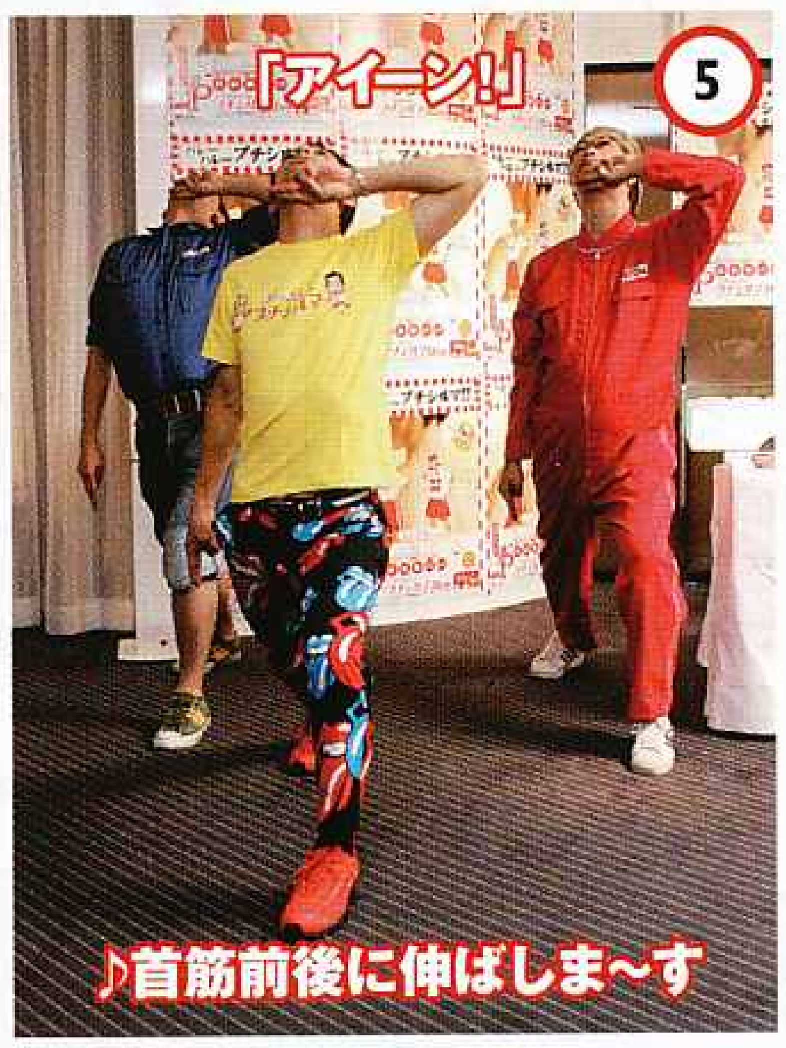
両手を忍者のように組み腕をぐるっと回しながら背中の筋を伸ばす。周囲を見渡してほかの人にぶつからないように！



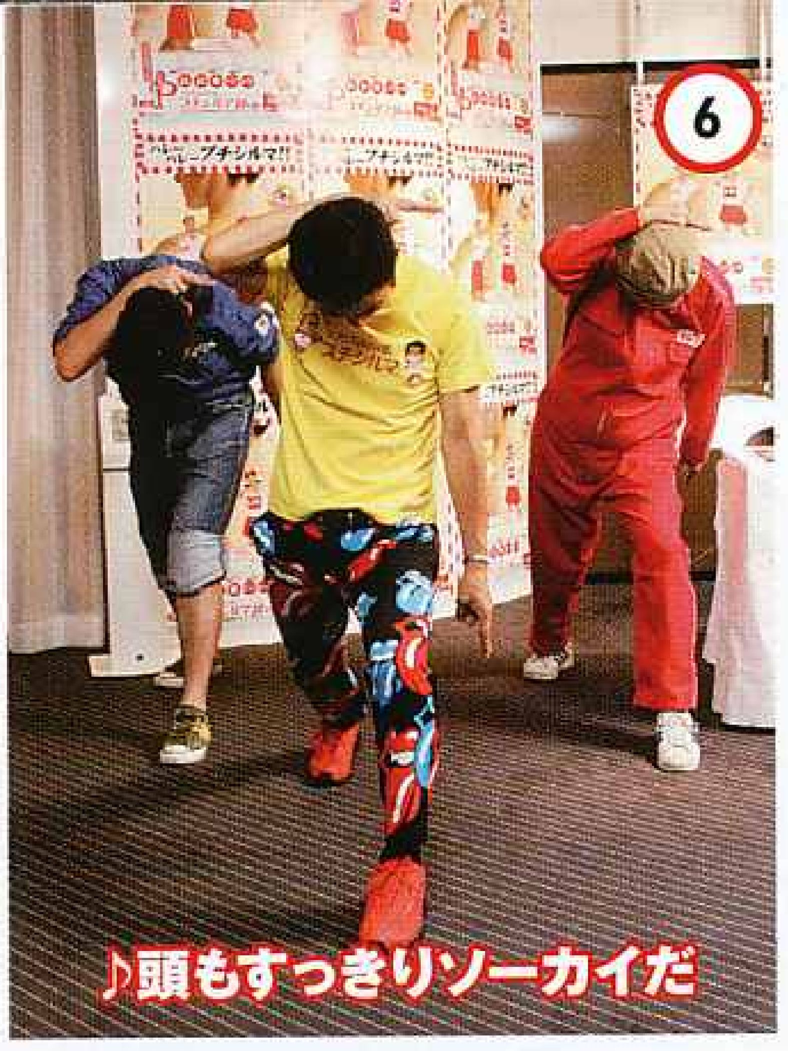
同じように両手を忍者のように組んだ状態で反対側に反り返って背筋を伸ばそう。小松隊員、ナイス反り具合。



両手を肩の上に置いて首をぐるっと回そう。『Gリング』の入稿作業でお疲れのGK隊長もこれでリラックス！



お次は志村けんさんの「アイーン」のポーズ！ 指をアゴの下に置いて頭をうしろに反る！ 恥ずかしがらずにやろう！



首から肩にかけての筋肉を気持ちよくストレッチ。これをやれば肩こりも解消、スッキリと爽快になっていくようだ。



ヒザを曲げながら上から下へ「プチプチプチプチ」と声を出しつつ4回プチシルマを貼るポーズ。ヒザの屈伸運動だ。



最後は左手を腰に当てて、右手は左肩に。脚を伸ばしてストレッチ！ 歌は腹から声を出して大声で歌おう！ 小松隊員、いいぞ！ その調子だ！

だ！　行くぞっ！　私についてこい！
小松　隊長、じつはもうお連れしてお
ります！

トレッチを
てたのが始まりなんです。
GK　え？　あの「♪プチプチ……」

ミステリーにプチあたりましたね。
GK　（小声で）落ち着くんだ小松隊

けですから
は重みがありますよ。

小松　ラジャーです、隊長！

長州番・GK隊長とついに遭遇！
長州小力にパラパラを教わろう！



長州小力

ラッキィ池田にプチシルマ体操を習い、すっかり健康になったプロレス探検隊。そしてお次はラッキィ池田に喧嘩を売った長州小力のパラパラに鋭くメスを入れる！　金沢隊長といえば長州力とは浅からぬ因縁があるのはプロレスファンなら周知の事実。禁断のご対面がついに実現だ！

GK　さあ、小松隊員！　プチシルマ体操に続いては長州小力のパラパラを徹底的に調査する！　さっそく、小力さんをこの場にお連れするのだ！

小力　おい、金沢！（長州口調）。

GK　うん？　いま、御大の声がしなかったか……？

小松　た、隊長！　すでに長州小力さんがお見えです！

小力　（『ｋａｍｉｐｒｏ』プロレス探検隊のページを見ながら）誌面、か〜ざるなって言ってんだ、タココラッ！（なおも長州口調）。

GK　これはこれは小力さん！　私は長州力さんと20年のお付き合いがあるプロレス探検隊隊長の金沢です！　じつはこの金沢、小力さんには同じ長州力に魅入られた者として親近感を感じておりました。

小力　（素に戻って）は、はぁ？（笑）。

GK　（興奮して）だからこそ、今日はこの金沢がパラパラの優位性を徹底的に証明してみせますぞぉ！

小松　た、隊長！　さっき、ラッキィさんに言ったお言葉は……!?

GK　黙らっしゃい！　〝長州〟と名のつく人間に敗北など許されん！　ねえ、小力さん？

小力　ありがとうございます！　僕は命を懸けてパラパラをやってるんです。プチシルマ体操みたいなチャラチャラした踊りではなく、本物の踊りを見せてやりますよ！

GK　頼もしいなぁ。なんせ、この小力さんはあのテレビに出たがらない長州力が、唯一共演を許すお人なんだから。

小力　それはありがたいんですけど、僕がモノマネすることによって、会場で長州さんがしゃべると笑いが起きるっていうのを聞いたんですよ。だから、もの凄く迷惑かけてるんじゃないかなって思ってるんですけどね。

GK　確かに長州さんは小力さんと会うまではかなりムカついてたと思うし、同じモノマネの神奈月さんにもムカついていたと思います。ただ、くりぃむしちゅーの有田（哲平）君の「キレてないですよ」には本人もかなり驚いたらしいですね。

小力　本当ですか？　そのフレーズは僕もライブではやってたんですけど、有田さんが最初ですね。で、誰かにテレビで「キレてるんですか？」って振られたんですよ。それで、僕が「キレてないですよ」って言ったら、それが一つのパッケージになっちゃって（笑）。だから、偶然が全部いい方向に向いて、いまの自分ができあがっているような感じがするんですよ。

GK　（腕を組み熟考しながら）やはり、風向きは小力さんに向いているな。

小松　（小声で）隊長、そんな早急に結論を出してしまってもよろしいんでしょうか？　この対決、パラパラの勝利だと!?

GK　（小声で）焦るな、小松隊員！　結論を出す前に小力さんと長州力の関係も調査しなければ。私と長州力以上の関係を築いていなければ、認めるわけにはいかないんだよ。

小松　（小声で）厳しいですね、隊長。

GK　ところで小力さんは長州力にムッとされたことはありませんか？

小力　ロケのときに、ディレクターのカンペが出たんですよ、「長州さんに『キレてるんですか？』と聞いてください」って。まあ、僕も仕事ですから聞いたんですね。そうしたら、長州さんは笑って「な〜んだ、おまえ（笑）」って言われたんですよ。

小松　で、では、や、やってくれなかったと!?

小力　ほかの番組なんかではやってくれたんですけど、僕にはガンとして「キレてないですよ」って言ってくれないですね（笑）。そこがまた僕にはホッとする部分というか、逆にありがたく思ってるんですけどね。

GK　（小声で）うぅむ、私の推理が正しければ、長州さんが小力さんに特別な感情を抱いているのは間違いないな。

小松　（小声で）どうやらそうみたいですね、隊長。

GK　ならば、私もとっておきの長州エピソードを披露しないとな。（小力のほうを向き）小力さん、長州さんは私には、お酒を飲むと1時間ぐらい仕事からプライベートからすべての怒りをぶつけてくることもあるんですよ！

小松　隊長は長州さんの怒りのはけ口にされているわけですねぇ！

小力　いいなぁ、そういう関係（笑）。

GK　（得意げに）あと、長州さんがなぜか銀杏が大嫌いだってこと知ってます？

小力　あ、それ、ロケバスで聞きました！　長州さんは教えてくれなかったんですけど、マネージャーさんがポロッと「銀杏です」って（笑）。

GK　焼鳥屋で（レッドシューズ）海野レフェリーが銀杏を注文したら、「おまえ、銀杏頼んだってことは、俺にケンカ売ってるのと同然だぞ！」って凄んでましたからね（笑）。いやぁ、すっかり意気投合しちゃったなぁ。

小松　（小声で）隊長、パラパラの秘密にはまったく迫っていないような気がするんですが……。

GK　それは気のせいだ。君もパラパラを踊ってみれば長州力の凄さがわかるはずだよ、小松隊員（とそっと肩に手を置く）。

小松　ぼ、僕も踊るんですか？

小力　うまくできなければサソリ固めを食らうというのはどうだ？　なあ、金沢（長州口調で）。

GK　素晴らしいアイデアですね。さすが長州さん！

小松　え〜っ!?　僕がやるんですか？

小力　なぁ〜にがやりたいんだ、コラッ！（長州口調で）。

小松　ひえ〜っ！



おい、金沢！　誌面か～ざるなって言ってんだ、タココラッ！（小力）





プチシルマ体操が指二本なのに対して長州小力のパラパラは指一本。両手を伸ばしてクロスさせて、クルリと回してダンスが始まる！



軽快にステップを踏みながら両手を左右に動かしていく。いくらダンスでもここでは笑顔は禁物だ。一定の緊張感を漂わせながら粛々と踊れ！



長州力おなじみの動きを忠実に再現せよ！　ん～？　ちょっとGK隊長の顔が曇ってきたような気もするが……。はたして何が？



ここで一気に笑顔を爆発させて大笑い！　「ハッハッハッハッ！」と腹から声を出そう。右手と左手を交互に挙げる動作もお忘れなく！



「蜘蛛の糸」がない場合はラリアットでフィニッシュ。だが、浮かない表情のGK隊長。曰く「このページを長州力が読んだら怒るだろうなぁ」とのこと。ドンマイ、GK隊長!!



「このクソタワケがっ！」という小力の怒号とともにサソリ固めの体勢に。頑張れ！　頑張るんだ、小松隊員！

どうする!? どうなる!? ダンス問題

上井駅長&体操のお姉さん ともちゃん



プチシルマ体操vsパラパラという異次元対決が実現する10.6『プチシルマSPECIAL DREAM』。通常のUWAI STATIONよりも世間に間口を広げたイベントになるため上井駅長と体操のお姉さん・ともちゃんも気合いが入っているぞ。そんなお二人のモチベーションに、探検隊が調査を敢行！　シュポーッ！

駅長の衣装もさらにバージョンアップ！ 私もプロレス探検隊に入りたい（上井駅長）

GK　さあ、小松隊員！　最後は上井二三彦駅長と体操のお姉さんのともちゃんにお話を聞くぞ！　ついに今回の探検もクライマックスだ。気を引き締めていくんだ。

小松　（軽くステップを踏みながら）ラジャーです、隊長。

GK　さっそくですが駅長、今大会はかなり自信ありですか？

上井　自信ありというか、今回はプチシルマさんから、プロレス初心者の方たちがたくさん観にいらっしゃいます。だから、誰でも知っているような人を出さなきゃいけないんです！

GK　というと、かなりの大物が出るわけですね？

上井　これは僕の希望ですけど、ジャガー横田夫妻を上げたいんです！

小松　（必要以上に驚きながら）ええ～っ!?　あの大物に!?　しかも夫妻で、ですか!?

GK　（小声で）落ち着くんだ、小松隊員。

上井　夫妻です！　負債じゃありません！（キッパリ）。それで、「プロレスっていいね」って帰ってもらいたいんですよ！　そのためなら、このともちゃんもリングに上がるかもしれない！

小松　（さらに驚きながら）こ、こんな華奢でかわいらしい女性がそのためにリングに!?

GK　（小声で）落ち着けと言ってるだろ、小松隊員！

上井　ともちゃんはね、あのラム会長に刺激を受けてるんですよ（真顔）。

ともちゃん　スクワット150回できますよ！（ニッコリ）。

上井　そうだ、ラム会長vsともちゃん！　このカードはどう？　ガッハッハッ！

GK　う～む、駅長はあいかわらず熱い！　いや、この金沢、心より成功を祈っておりますぞ！

上井　ありがとうございます！　僕は今回が上井駅第1章の完結だと思っているんです。だから、駅長のコスチュームも脱いで、新たにバージョンアップして、さらに大きなことをやりたいんですよ。

小松　で、では新キャラに変身すると!?

上井　じつは金沢さんの着ている赤いツナギ、さっきから私も気に入っているんですよ（笑）。僕も探検隊に入れてくれないかな？

ともちゃん　私も着たいかも（ニッコリ）。

小松　（興奮しながら）ヒャッホー！　駅長と隊長の合体だぁ！

GK　（立ち上がって）やりましょう、上井駅長！　ともちゃん！　みんなでプロレスの未来を探す旅に出ようじゃありませんか！

上井　よ～し、プロレスの明るい未来を探しに出発進行～っ！　シュポーッ！



上井駅長はとにかく熱い！　ともちゃんも元気いっぱい！　この二人の元気の源はもちろんプチシルマ体操だ。本当にプロレス探検隊入りは実現するのか？

プチシルマSPECIAL DREAM

[日時]10月6日（土）12:00開場　13:00開始
[場所]東京・ディファ有明
[主催]UWAI STATION
[特別協賛]株式会社レダ
[チケット料金]ロイヤルシート　￥15,000円／リングサイドAシート　￥10,000円／リングサイドBシート　￥5,000円
[参戦予定選手]高瀬大樹　浜中和宏
※西口プロレス提供試合決定
[お問い合わせ]上井オフィス
TEL.03-5766-0079

金沢"GK"克彦隊長の探検レポート



いやあ、凄まじいばかりの長丁場であった。空気を読むことが仕事のスタートだというラッキィさんの「プロレス関係者は空気を読まない」は、けだし名言。また、控室でうかがった小力さんの「初めてリキプロ道場で長州さんと仕事で共演したあと、涙が止まらなかった」の言葉には思わずホロリ。探検とはそういうことなのだ。謎に迫るとはこのことをいうのだよ。我々が追っているものは、じつは人間の内面に潜む感情そのものなのだ。小松隊員よ、人生を学べ！

小松伸太郎隊員の探検レポート



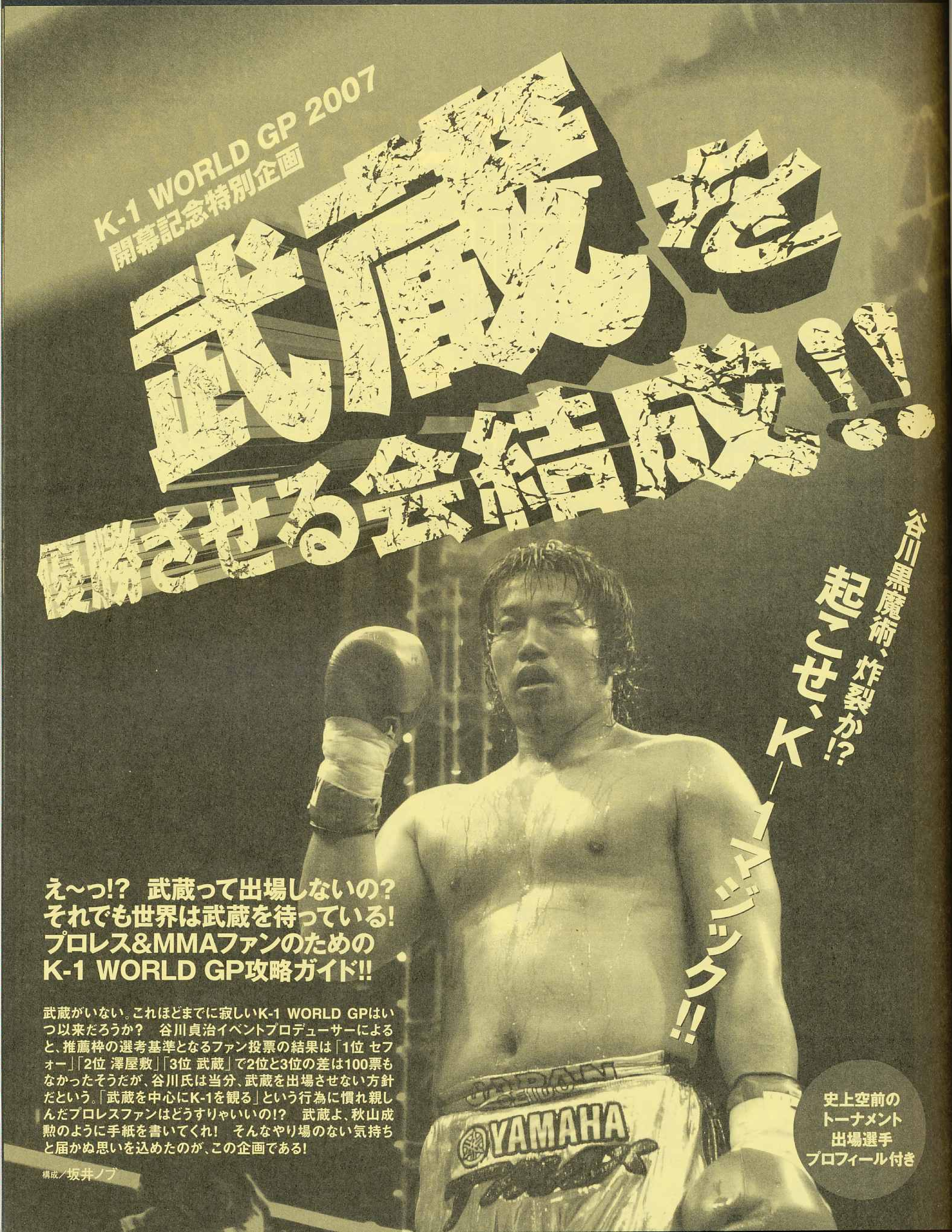
我々探検隊が今回足を踏み入れてしまった、マット界の秘境中の秘境『UWAI STATION』。今回紹介しきれなかったが、この秘境の主である上井駅長が披露してくれた各種のプランは、我々の想像を絶するものばかりだった。たとえば、今度の大会で高瀬大樹に得意のクラシックピアノの演奏をさせるとか……。このバイタリティあふれる頭脳を持った駅長が我々探検隊に加わってくれれば鬼に金棒である。心よりお待ちしておりますぞ！

『ゴング』休刊から約半年——。

K-1 WORLD GP 2007
開幕記念特別企画

武蔵を優勝させる会結成!!

谷川黒魔術、炸裂か!?
起こせ、K—1マジック!!



え〜っ!?　武蔵って出場しないの?
それでも世界は武蔵を待っている!
プロレス&MMAファンのための
K-1 WORLD GP攻略ガイド!!

武蔵がいない。これほどまでに寂しいK-1 WORLD GPはいつ以来だろうか?　谷川貞治イベントプロデューサーによると、推薦枠の選考基準となるファン投票の結果は「1位 セフォー」「2位 澤屋敷」「3位 武蔵」で2位と3位の差は100票もなかったそうだが、谷川氏は当分、武蔵を出場させない方針だという。「武蔵を中心にK-1を観る」という行為に慣れ親しんだプロレスファンはどうすりゃいいの!?　武蔵よ、秋山成勲のように手紙を書いてくれ!　そんなやり場のない気持ちと届かぬ思いを込めたのが、この企画である!

構成／坂井ノブ

史上空前のトーナメント出場選手プロフィール付き



い! と、あえて予想!! プロレス&MMAファンよ、いまこそ武蔵に注目せよ!!

手の"対武蔵"プロフィールだ!!

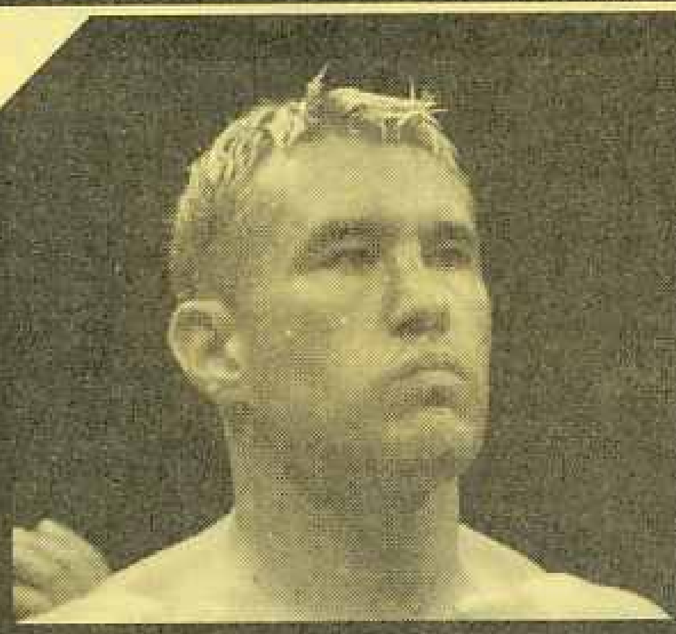


©FEG Inc.

ルスラン・カラエフ

①ロシア ②1983.5.19 ③188cm、95.0kg ④172戦161勝11敗125KO(対武蔵=1戦1勝) ⑤前年ベスト8

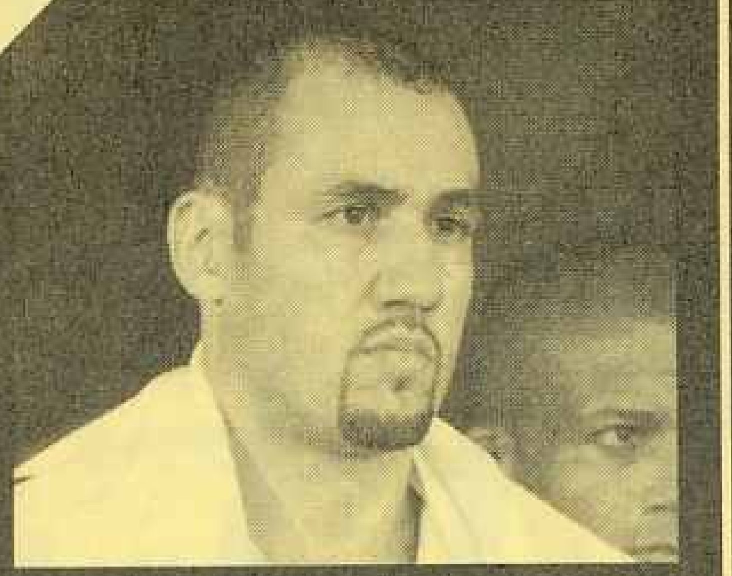
スピーディな連打とバックスピンキックを武器に評価を上げ続けるK-1新世代の旗手。武蔵は一昨年のGP準々決勝で対戦、判定勝利を収めているが、延長の末の辛勝だった。でかい選手に対抗すべく技術を磨いてきた武蔵にとって、カラエフのような小回りがきくタイプこそが鬼門。対戦すれば、復活のバロメーターになるはずだ。



ジェロム・レ・バンナ

①フランス ②1972.12.26 ③190cm、119.5kg ④66戦51勝12敗2分1無効試合39KO(対武蔵=1戦1勝1KO) ⑤前年ベスト8

02年のGP準々決勝で武蔵と対戦。タオル投入によるTKO勝ちを果たしている。ボコボコにされた武蔵だが、それでも試合後には不満そうに「まだやれるって!」と絶叫。いま思えばケンコバよりも早い"やるって節"リスペクトだったのか。越中が大ブレイクした今年なら、時の勢いは武蔵にあり。間違いなく勝てるって!



グラウベ・フェイトーザ

①ブラジル ②1973.4.9 ③193cm、100.0kg ④25戦12勝12敗1分8KO(対武蔵=3戦2勝1分1KO) ⑤前年ベスト8

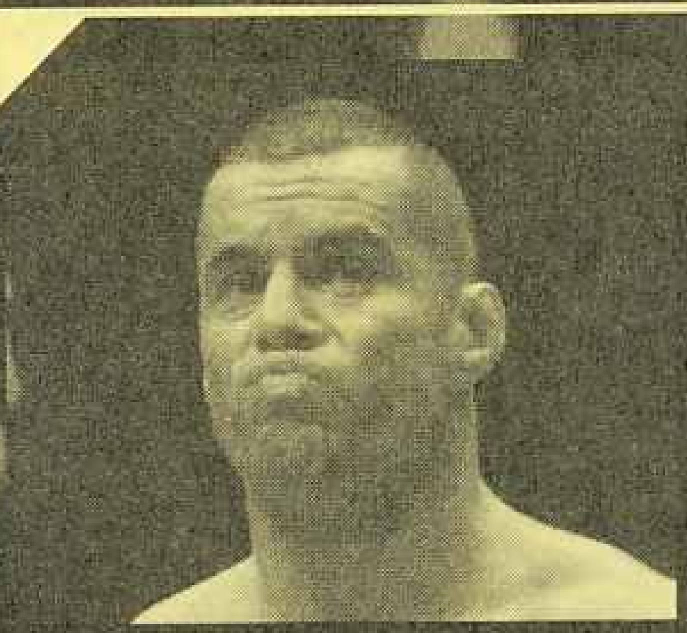
一昨年の準決勝で無残なKO負けを喫し、昨年7月、札幌大会でのワンマッチでもダウンを喫しての判定負けと、長く続いた武蔵大スランプの元凶ともいえる選手。武蔵にしてみれば苦手意識はあるだろうが、リベンジへの思いも強いはず。早い段階でこの男に勝って優勝へ弾みをつける、というのが最高のシナリオだ。



セーム・シュルト

①オランダ ②1973.10.27 ③212cm、130.4kg ④24戦22勝2敗1分6KO(対武蔵=2戦2勝) ⑤前年優勝、K-1スーパーヘビー級王者

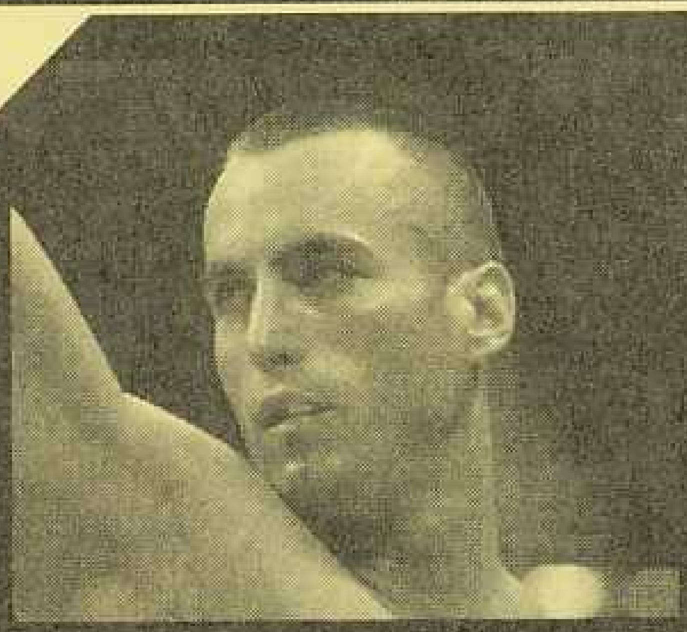
05年、06年とGPを連覇、さらに今年は新設されたスーパーヘビー級タイトルも獲得するなど「K-1史上最強の王者」(by谷川P)はますます磐石。武蔵も過去2戦して2敗だが、そのうち一回は判定2-1の大接戦を演じているだけに、けっしてかなわない相手ではない。むしろシュルトの3連覇を阻む有力候補が武蔵なのだ。



ハリッド・"ディ・ファウスト"

①ドイツ ②1975.5.28 ③179cm、93.3kg ④10戦7勝3敗3KO(対武蔵=1戦1勝) ⑤前年ベスト8

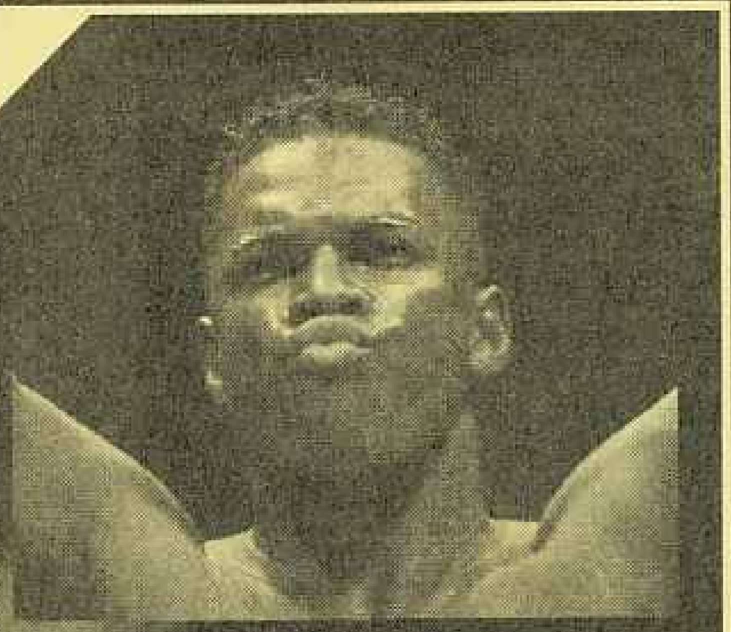
昨年のGP開幕戦で武蔵を破った、いわばグラウベと並ぶ仇敵である。決勝大会ではアーネスト・ホーストを相手に延長戦にもつれ込む接戦を演じているだけに、実力は間違いなくトップクラス。だが8月のラスベガス大会を欠場するなど、気がかりなのはブランク。誰に勝ってもおかしくないが、誰に負けてもおかしくはないだろう。



ステファン・"ブリッツ"・レコ

①ドイツ ②1974.6.3 ③187cm、98.0kg ④71戦54勝15敗1分1無効試合30KO(対武蔵=対戦なし) ⑤前年ベスト8

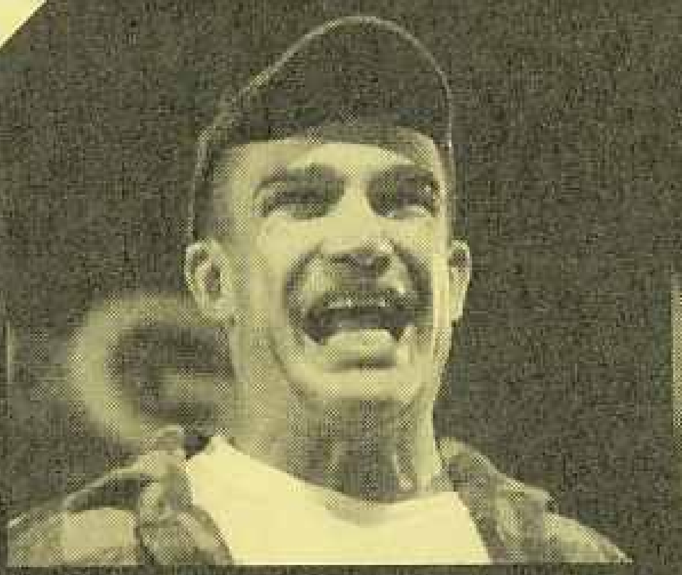
レコ、武蔵ともに長いキャリアを誇るが、意外にも対戦歴なし。とはいえ実力的に見て、武蔵がレコに劣っている要素はないといっていいだろう。普通に実力を出せば勝てるはず。ただし、昨年のGPでボンヤスキーを二度までも金的地獄に追い込んだドSっぷりだけは要注意だ。武蔵は顔面以上に古傷(?)の金的を守るべし。



レミー・ボンヤスキー

①オランダ ②1976.1.10 ③192cm、103.2kg ④72戦59勝13敗32KO(対武蔵=2戦2勝) ⑤前年ベスト8

過去、武蔵は二度GP決勝に駒を進め、二度ともボンヤスキーに敗れている。パンチ、蹴り、飛び技とオールラウンドなテクニックはまさにスキがない。だが、昨年のGPにおける金的負傷棄権、バンナ戦では勝敗が覆るなど、王座陥落後は武蔵にも似た"被トラブル率"の高さが目立つ。"K-1の魔物"の餌食候補ナンバーワンか……。



ピーター・アーツ

①オランダ ②1970.10.25 ③192cm、108.0kg ④114戦89勝24敗1分63KO(対武蔵=3戦2勝1敗1KO) ⑤前年ベスト8

昨年のリザーブマッチで武蔵がKO負けを喫した相手。今年37歳とはいえ、香港大会でニコラス・ペタスをハイキックで倒したように、その底力はまだまだ健在。ただし昨年の開幕戦"病欠"やスネの古傷など、実力以外の要素に不安アリ。武蔵のディフェンス能力をもってすれば、勝手にコケてくれるかもしれない。

最後の一枠に武蔵落選!! だがこれで終わりじゃない!! それでもGP優勝は可能だ!!

今年のK―1 GPはなんか寂しい。そう思っている人は案外多いんじゃないだろうか。そしてその理由は、おそらく武蔵の不在だろう。強豪ばかりが名を連ねた今年のGPだが、巧さだけでなく弱さやもろさや情けなささえも体現してしまう武蔵こそ、我々が気持ちを込めて観られる選手だったのに。最後の希望だった推薦枠も澤屋敷純一に決まっちゃって、いまや武蔵は日本でも三番手の存在でしかないのか……。

しかし! なにも開幕戦に出場しなければ優勝できないというわけではないのである、K―1は。むしろ、開幕戦出場を逃した今年こそ、武蔵にとって初優勝の大チャンスといっていい。そう、ベスト8が揃う決勝大会にはリザーブマッチがあるじゃないか。

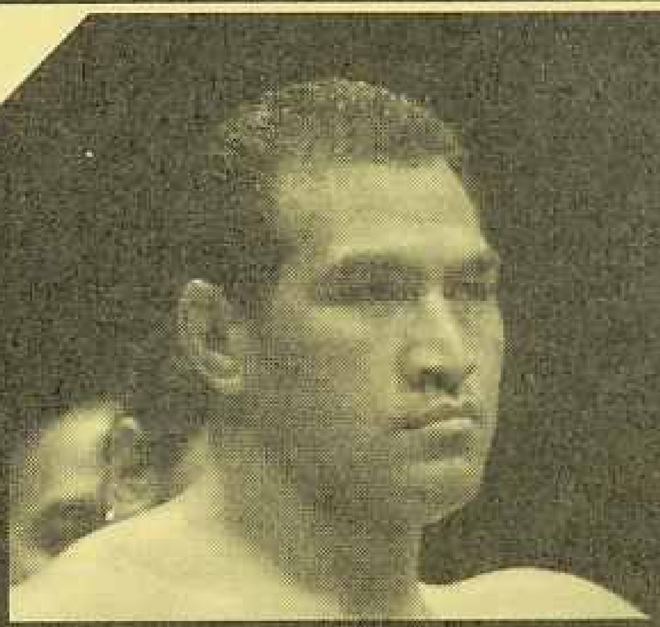
昨年、開幕戦を病気で欠場したピーター・アーツが決勝大会のリザーブマッチに出場したように、武蔵もこれまでの実績と香港大会における金的攻撃→負傷棄権という"落選理由"を考慮すれば、リザーブマッチに出られる確率は高い。

で、だ。リザーブマッチということは、開幕戦を勝ち抜いたベスト8ファイターと闘うよりは、実際のところ勝つのが難しくないはずである。と同時に、レベルの高いベスト8ファイターたちの潰し合いは、ほぼ確実にケガ人を出す。なにしろここ2年、連続してリザーバーが決勝戦に進出しているのだ。

負傷棄権者が出て、武蔵が準決勝のリングに上がれば、もうこっちのものである。一回戦の潰し合いで疲弊した選手が相手なら、誰と闘っても武蔵が有利。"リザーバーから奇跡の優勝へ"というドラマチックな展開見たさに、武蔵にはその場の観客の

“最後の一枠”は澤屋敷純一に決定！ それでも本誌は、今年の優勝は武蔵しかいない！

これが武蔵以外の出場全16選手



レイ・セフォー

①ニュージーランド ②1971.2.15 ③180㎝、103.1 ④79戦62勝16敗1分48KO（対武蔵＝3戦1勝2敗1KO）⑤推薦選手

過去3戦して2勝1敗、しかも勝ったときはGP決勝進出をはたしている、武蔵にとってゲンのいい相手。3月のシュルト戦でダウンを奪い“さすが”と思わせたが、昨年の開幕戦ではレコに覇気のない闘いで判定負けするなど、とにかくムラッ気がある。つまり、やる気を削げばいいわけで、武蔵なら簡単にそれをやってのけるはずだ。



ダグ・ヴィニー

①ニュージーランド ②1976.11.20 ③189㎝、100.0kg ④23戦18勝5敗10KO（対武蔵＝対戦なし）⑤世界最終予選2007優勝

8月のラスベガス大会でリザーバーからの優勝をはたし脚光を浴びた新鋭。アテネオリンピックのボクシング代表にもなったパンチのテクニックなど本格派の雰囲気を漂わせるが、プロでは大舞台での経験に乏しい。蹴りを主体にした“武蔵流”ファイトスタイルが有効な相手だけに、武蔵がそれを取り戻せるかがカギ。



ポール・スロウィンスキー

①オーストラリア ②1980.9.24 ③190㎝、105.0kg ④60戦50勝9敗1分5KO（対武蔵＝対戦なし）⑤EUROPE GP 2007優勝

昨年はオセアニアGPを制して開幕戦出場をはたし、今年はヨーロッパGPで優勝。もともとパンチだけでなく蹴りを使いこなす上、現在はホーストに師事して実力アップ中。だが、テクニック勝負となれば武蔵とは手が合うだけに、キャリアの差が出そうな気配もある。ここでも武蔵にとって重要なのは、名勝負をしないこと、だ。



バダ・ハリ

①モロッコ ②1984.12.8 ③197㎝、94.0kg ④67戦61勝5敗1分50KO（対武蔵＝対戦なし）⑤K-1ヘビー級王者

今年に入ってカラエフ、藤本を連続KOに下してヘビー級初代王座に就き、さらに因縁の敵ピーター・グラハムにもリベンジ成功と波に乗りまくる。破格の攻撃力が持ち味だが、蹴りで距離を取り判定勝ちする冷静さもあるだけに厄介な相手だ。もし対戦すれば、武蔵の“地力”そのものが問われる試合になるだろう。



澤屋敷純一

①日本 ②1984.9.13 ③184㎝、100.0kg ④15戦12勝3敗1KO（対武蔵＝対戦なし）⑤推薦選手

大抜擢を受けた3月のバンナ戦でダウンを奪い快勝。一躍、日本の希望の星となったシンデレラボーイ。かつて名選手、いまや名伯楽の前田憲作会長が練り上げる緻密な作戦と抜群のカウンター能力が武器だが、パワー型のバンナにはそれが通じても、武蔵のような世界レベルの“巧さ”の前では……？ ここはキャリアの差を見せたい。



チェ・ホンマン

①韓国 ②1980.10.30 ③218㎝、160.0kg ④14戦11勝3敗5KO（対武蔵＝対戦なし）⑤開催国推薦選手

マウントパンチを浴びたモンターニャ・シウバ戦、転倒後の攻撃で大騒動となった曙戦など、武蔵はなぜかモンスター系選手の暴走を呼び込む性質がある。が、初のKO負けで気を引き締め、技術を身につけたぶんだけ怖さも知ったホンマンに暴走はないだろう。だったら武蔵は普通に闘えばOK。ロー連打で確実に止められる。



藤本祐介

①日本 ②1975.7.22 ③178㎝、97.8kg ④39戦25勝13敗1無効試合11KO（対武蔵＝2戦1勝1KO）⑤ASIA GP 2007優勝

今年3月、角田信朗氏による“両者失格予告”からのハイキックKOで日本人として初めて武蔵に土をつけた。その後、香港でのアジアGPでは“繰り上がり”決勝進出で優勝しているが、金泰泳に完敗を喫したことからも穴の多さがわかる。武蔵が本来の実力を出しさえすれば、まだまだ負ける相手ではないはずだ。



マイティ・モー

①アメリカ ②1973.10.8 ③185㎝、127.0kg ④39戦32勝7敗25KO（対武蔵＝対戦なし）⑤USA GP 2007優勝

3月にチェ・ホンマンをKOし、ハワイ大会ではトーナメント優勝。さらに『HERO'S』、『Dynamite!! USA』と総合マッチでも連勝と今年上半期は絶好調。しかし7月のシュルト戦、8月のレコ戦と最近は連敗を喫してもいる。“ツボにハマると強い”タイプゆえ、武蔵らしく相手の光を消せば難しい相手ではない。

※プロフィール ①＝出身 ②＝生年月日 ③＝身長、体重 ④＝戦績 ⑤＝備考

K-1 GPトーナメント

武蔵のおそるべき全戦績

準優勝2回の実績はダテじゃない！「今年こそは！」と言われ続けて11年目、それでも武蔵から目が離せない！

●『K-1 GRAND PRIX '96』 成績＝ベスト4
トーナメント初出場。サム・グレコに勝って準決勝まで進んだがマイク・ベルナルドに判定負け。

●『K-1 GRAND PRIX '99』 成績＝ベスト8
物議を醸した佐竹雅昭との一戦は判定勝利。準々決勝ではミルコ・クロコップにKO負け。

●『K-1 WORLD GP 2002』 成績＝ベスト16
バンナにTKO負け（タオル投入）。

●『K-1 WORLD GP 2003』 成績＝準優勝
準々決勝でセフォー、準決勝でアーツに判定勝ち。決勝戦はレミーに判定負け。

●『K-1 WORLD GP 2004』 成績＝準優勝
一回戦はシリル・アビディ、準々決勝はセフォー、準決勝はガオグライ・ゲーンノラシンにいずれも判定勝利。決勝戦ではレミーに判定負け。

●『K-1 WORLD GP 2005』 成績＝ベスト4
グラウベの飛びヒザ蹴りで壮絶KO負け。

●『K-1 WORLD GP 2006』 成績＝ベスト16
ハリッド・“ディ・ファウスト”にスプリット判定負け。決勝戦のリザーブマッチでもアーツにKO負け。

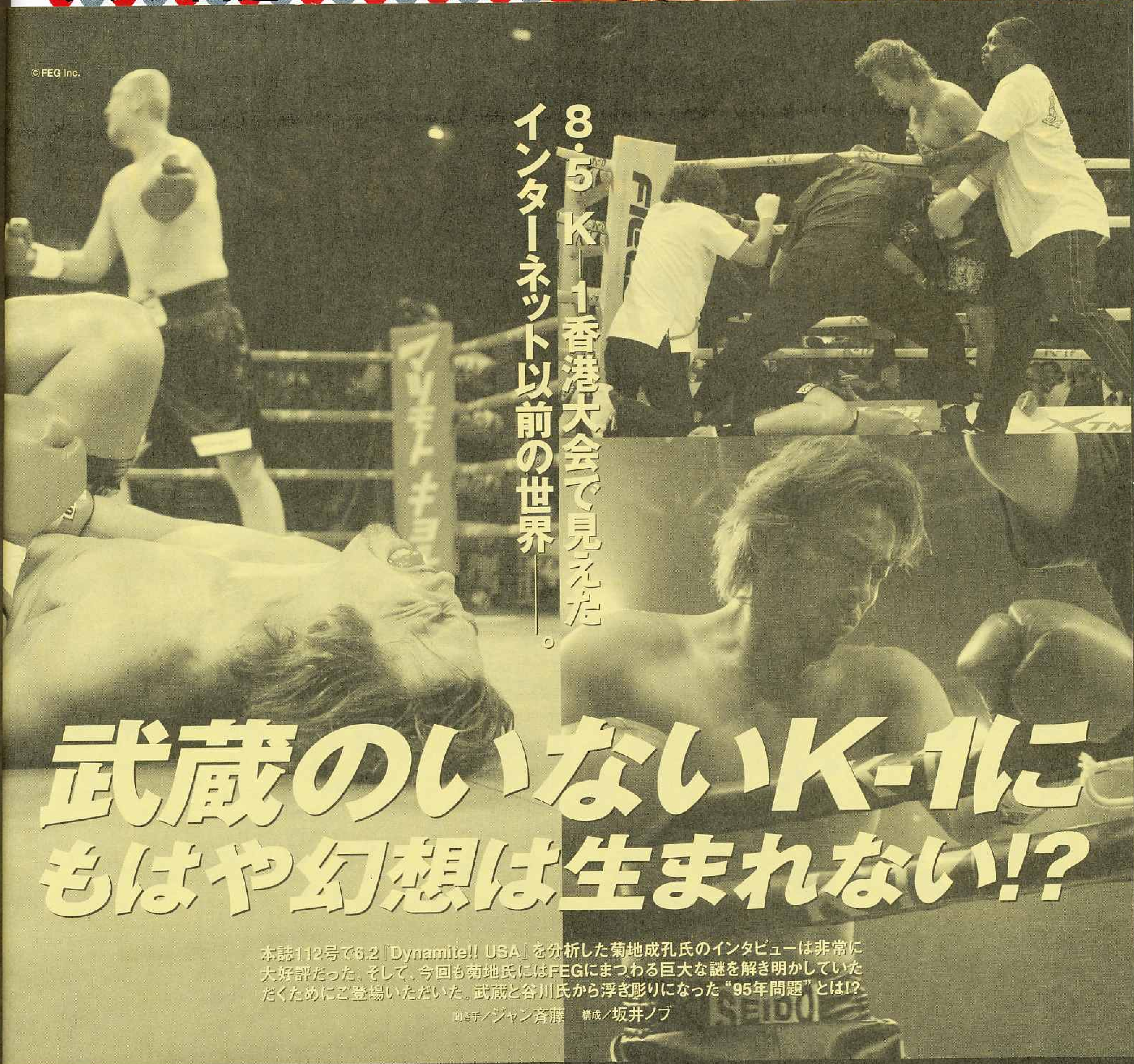
※JAPANや各大陸予選トーナメントは除く

声援という追い風も吹く。
そして決勝戦。セーム・シュルトが途中で負けているのを願うばかりだが、万が一シュルトが相手でも心配無用。かつて誰もなしえなかった3連覇への重圧は、シュルトでさえも押し潰すんじゃないか。
よって今年は武蔵が優勝！ デビューから10年あまり、期待され続けながら結果を出せなかった武蔵が、最も期待されなかった年に結果を出す。そんな、観る者をア然とさせるようなドラマこそ、K−1にはふさわしい。

（文／橋本宗洋）

どうする!? どうなる!?
ダンス問題





© FEG Inc.

8・5 K－1香港大会で見えた
インターネット以前の世界――。

武蔵のいないK-1に もはや幻想は生まれない!?

本誌112号で6.2『Dynamite!! USA』を分析した菊地成孔氏のインタビューは非常に大好評だった。そして、今回も菊地氏にはFEGにまつわる巨大な謎を解き明かしていただくためにご登場いただいた。武蔵と谷川氏から浮き彫りになった“95年問題”とは!?

聞き手／ジャン斉藤　構成／坂井ノブ

音楽家にして文筆家

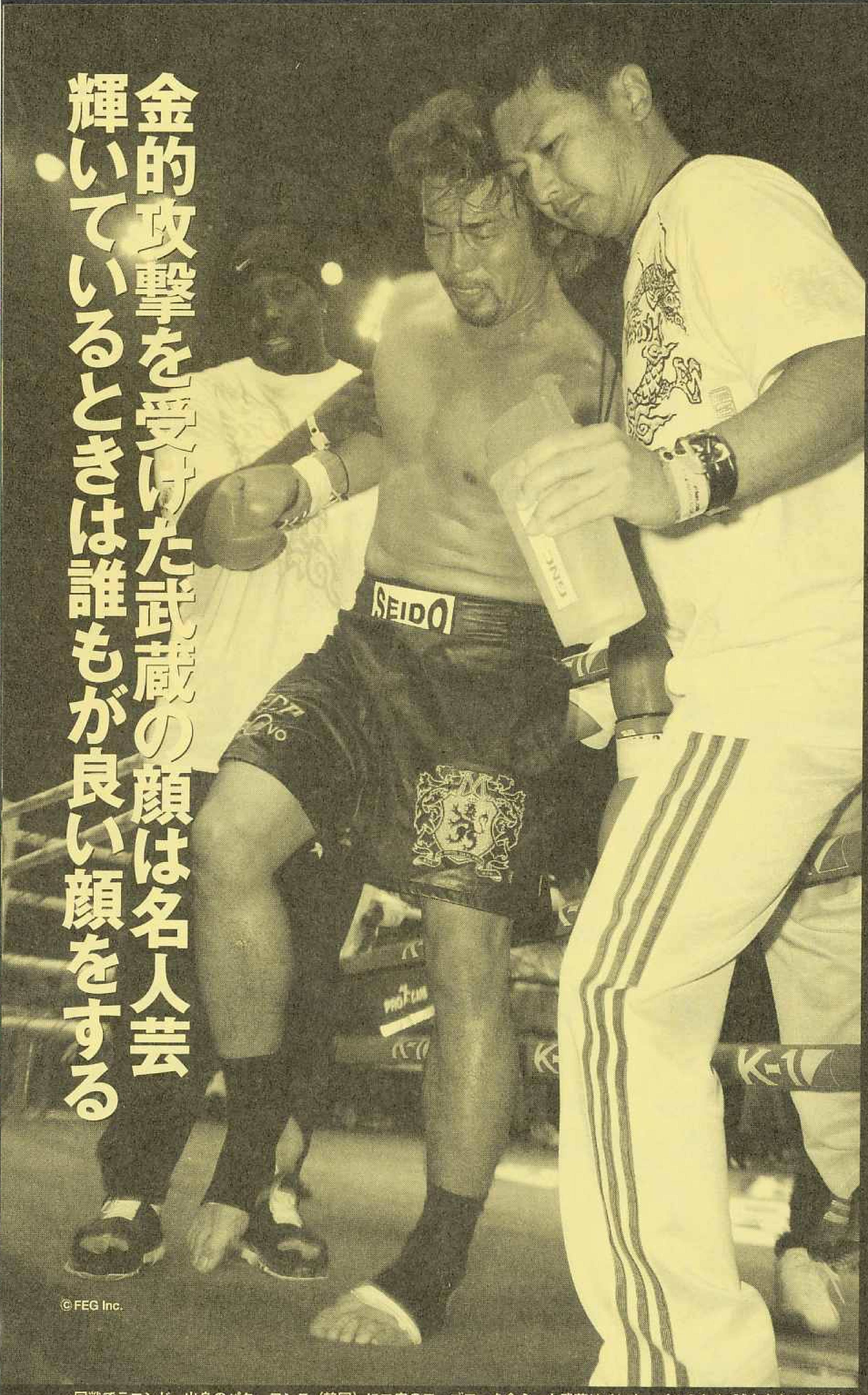
菊地成孔 Interview



きくち・なるよし■1963年生まれ。音楽家／文筆家。先鋭的なジャズ・ミュージシャンとして活動する一方、膨大な知識を駆使した批評家として音楽、映画、料理、ファッション等の著作多数。昨年、格闘技批評『サイコロジカルボディブルース解凍～僕は生まれてから5年間だけ格闘技を見なかった～』（白夜書房）を出版。

『ゴング』休刊から約半年――。

金的攻撃を受けた武蔵の顔は名人芸
輝いているときは誰もが良い顔をする



一回戦でテコンドー出身のパク・ヨンス（韓国）に二度のローブローを食らった武蔵はインターバルのため3試合をあいだに挟んで再試合へ挑む。再開後はあっさりKO勝ちした武蔵だったが、KOしてもなお殴りかかろうとするほどエキサイトしていた。

――『kamipro』NO・112で菊地さんが展開された「武蔵は谷川黒魔術によって永遠の命を手に入れた」というお話に、読者や関係者から大きな反響があったんです。

菊地　えー、そうなんですか？　誰もが思っていたことを言っただけのつもりだったんですが。

――そこはこれまで言語化された方はいなかったので、喉に小骨が刺さっていた人が多かったみたいなんです（笑）。そこで今日はあらためて、いまのK―1や武蔵の話をお聞かせください。

菊地　はい。えーまず、この取材のために8・5K―1香港大会の完全版（CS放送）の映像を拝見したんですが……。

――武蔵の金的悶絶が話題を呼んだ香港大会。CS放送はノーカットですから放送時間はかなり……。

菊地　ざっと4時間ぐらい。まあ、自分で言うのもなんですが、このクソ忙しい最中に（笑）。

――ダハハハハハ！　本当にすいません（笑）。

菊地　1・5回観ました。通しで観たあとに、武蔵関連の試合を観直したんですけども、まあ結論としては、これは自分には無理なんじゃないかと（笑）。

――あ、菊地さんでも無理。

菊地　ええ。K―1は将来的にはせきしろさんの知性でしか語り得ないんじゃないかな、と……。武蔵と越中を同じだと言っているのではないですよ、決して。

――せきしろさんしか論じられないジャンルになりますか（笑）。

菊地　まあそうですね。もし、そうじゃない方法でキチッとやるとすれば、相当な知性を集めないことには……。たとえばそう、不条理文学の研究家とか。

――不条理文学の研究家が必要だなんて、いったいどんなスポーツなんでしょうか（笑）。

菊地　まあ、簡単に言うと、できの悪いATG映画というか、ダメな不条理ものの大長編をムリヤリ4時間にわたって観せられたという感じなんですね。たとえばその、眼窩底骨折の疑いがある選手が眼帯もせずにニコニコ笑っているといのは、あれは死んだ人が説明もなくいつの間にかよみがえってる映画みたいなモンです。

――ダハハハハ！　ケガで決勝を棄権した金泰泳ですね。

菊地　あと優勝した藤本（祐介）が無邪気に喜んでいる「異様さ」にも、まったく気がつかないんですよ。前衛演劇というか、もう最後のほうはどんな不条理が起こっても、それはそういう作品なんだから。前衛じゃなかったらですね、藤本は「こんなかたちで私が優勝したことは不本意です！」って言いますね。

――本来ならば藤本は金泰泳にTKO負けして準決勝で敗退した身ですからね。武蔵や金泰泳が棄権したことで決勝戦に復活エントリーして、逆転優勝を飾りましたけど。

菊地　そんな藤本を「うそお」と思って観ているんですが、まあ、いつものように説得されちゃうんですよね。

――〝バカ負け〟ならぬ〝バカ勝ち〟の世界ですね。

菊地　まさに〝谷川黒魔術〟というか……。で、前に申し上げたとおり、谷川氏は武蔵に〝永遠の命〟を保証していると思います。その代わりに武蔵の時間や空間も止まったままというね。

――本当に武蔵を取り巻く環境は、いつになっても変わり映えしません。

菊地　失礼な話ながら、世間一般からすれば、「また武蔵かよ！」ってチャンネルを替える人は多いと思うんですよね。武蔵をスターとしては観られないし、逆にヒールとも思えない。じゃあ、何かといえば、単に〝重いもの〟と言うか。

――武蔵は単に重いもの！

菊地　ズシッとした苦さの塊というか。それを形成しているものの一つは、「永遠は怖い」という……、この悪夢は永遠なんじゃないかなっていう恐怖感ですよね。たとえば『エルム街の悪夢』のように、寝た、起きた、夢だった。寝た、起きた、これは夢なのか。寝た、起きた、襲われた。でも、これは夢だった……と、



谷川氏の根本にあるのは分析や批評を あんまり恐れていないということです

最後まで恐怖は続いていく。

――この『K―1街の武蔵』はいつまで続くのか、と。

菊地　『シベリア超特急』のラストシーンとかね。いわゆる「引っぱってる」というレヴェルを遥かに超えているわけですから。我々人類は21世紀になっても「いよいよ武蔵の捲土重来！」という煽りを毎年見せられ続ける。という世界をともに生きているわけです。須藤元気も一緒にです。まさにWE ARE ALL ONEというか。

――香港大会の「武蔵、復活!!」的な煽り映像なんて、去年に流れていたものを使い回したとしても、まったく不思議じゃないですね。

菊地　そう。でも、香港大会の武蔵には、じつはちょっと感動しちゃったんですね。

――それは金的攻撃を受けながらも、なんとか立ち上がろうとする姿に……ですか？

菊地　いや、金玉を打たれて苦悶する顔にです。あれは良い顔です。

――あ、姿じゃなくて顔に（笑）。

菊地　もう名人芸ですね、あの顔は。まあその、失礼極まりない上に「おまえはどうなんだ？」って言われたら終わりな話ですけれどもね。でも、あえてわかりやすくするために図式的に言ってしまえば、まあ、武蔵はブサイクですよ。

――ダハハハハハ！　図式的に言ってしまえば。

菊地　ただ、男の顔というのは原理的にブサイクとイケメンはありません。輝いているときというのは、誰もが良い顔をしているわけですね。初めて刮目して見つめましたが、金玉を打たれているときの苦悶の表情には、ノリにノッている感がビンビン伝わってきました。

――いや、その局面でノリにノッているとほめられても……（笑）。

菊地　何度も金的場面をスローで再生したわけですよ。自分で「何をやってんだろう？」と思いながら（笑）。で、繰り返し観てみると、相手が当てているとも言えるし、武蔵がちょっと突き出してるような感じもあるんですね。気がつくと、武蔵の金玉の位置や大きさだとかについてまで考えさせられてた。〝谷川黒魔術〟の効力としか言いようがないですねこれは。

――そんな効力がありましたか（笑）。

菊地　とにかくスルーしないで、誰もがじっくり観るべきです。あんな良い顔が反射的にスルーされるのは、電力の消費とか、地球規模のエネルギー問題について考えさせられます。でですね、武蔵の顔というのは、これもあんまり指摘されないですけど、ピチカート・ファイヴの小西（康陽）さんにちょっと似てるんですよ。

――そ、そうなんですか!?

菊地　小西さんはブサイクじゃないけど。まあ、とんでもない人同士が似てる。っていうのはあるじゃないですか。何が言いたいかというと、武蔵は95年デビューなんですよね。だから渋谷系選手なわけですよ。

――武蔵は渋谷系！

菊地　そして95年というのは、どなたもご存知のとおり、オウム真理教事件と阪神大震災があった年。バブルが崩壊した年でもありますから、95年を境に日本はとても暗い時代に移っていく。その95年までは、「95年まで」としか言いようがないムードがあって、つまりバブル崩壊に向かっているけどまだバブルだという。80年代を引きずっているんですよね。音楽もメイクもテレビも80年代的。で、武蔵は顔が小西さんに似ているのにもかかわらず、というか、だからこそというか、「95年で時が止まるべき人」なのかもしれないです。

――でも、菊地さんは武蔵を〝やればできる子〟と評価されていました。

菊地　凄いタレント性があるんですよ。前にもお話ししましたけど、深夜の通販番組に須藤元気、亀田興毅ら名だたるスターが出てきて、サウナスーツの紹介をしていたんですが、最後に武蔵が出てきて、ホントにうまく締めた。あの須藤元気や亀田を封じ込める才覚があったんです。なのにあんな。悪魔と契約しているとしか思えないです。もう「武蔵はなんとかすべきだ！」という論調すらない。

――あったとしても煽りとしての批判ですよね。

菊地　でも、武蔵はリングネームの付け方にしても、時代を背負ってますね。べつに小次郎という選手と一緒に出てきたわけでもない。

――最初はカタカナの「ムサシ」だったんです。あと武蔵に似た名前の選手もいましたけど……。

菊地　タケルというのがいましたね。

――あ、タケルだ。記憶の奥底に封印されてました（笑）。

菊地　ええとあの、こういうことは吉田豪さんのほうがお詳しいと思いますが、ジャニーズの「和モノ返り」というのは、だいたい90年代までに終わっているんですね。あれの「格闘技界5年遅れ」というタイミングなんじゃないでしょうか。佐竹雅昭は本名だったし、フィギュアと空手っていうキャラができていたけど、とくにキャラが立たない次の選手に、これからは和モノ返りでいくんだっていう石井和義マナーはあったと思うんです。その反省はK―1MAXに活かされていると思いますが。ただ、武蔵は消えていかない。「消えろ！」って言ってるわけじゃないですよ（笑）。

――ええ（笑）。

菊地　是か非かっていう二元論で言ってしまうと、あきらかに武蔵は〝是〟なわけですよ。だって武蔵がいないK―1なんて、単なるK―1MAXでしょう。

――MAXはMAXで存在すべきですけど、圧倒的に物足りないですよね、武蔵不在のK―1は。

菊地　谷川氏にも言えることだけど、武蔵がいなくなるとK―1はまったく幻想性のない団体、つまり普通の格闘技団体になっちゃう。そういうものこそ本来「象徴」と呼ぶべきですね。

――そう考えると、あの二人は格闘技やプロレスが持っていてしかるべきいかがわしさの象徴みたいなもんですね。

菊地　谷川氏の根本にあるのは、分析や批評をあんまり恐れてないということなんですね。昔だったら「面の皮が厚い」とか言われたものですが、そういう規模じゃない。つまりこういうことをやったらこういうふうに言われて、自分のやったことはこうなんだから、ここの部分を突かれたら終わりなんだ！　っていう怯えがまったく見えないんですよ。

――良くも悪くも隙がありすぎるところが谷川さんの長所ですね。

菊地　ある種、育ちがいいんでしょう。この人の一挙手一投足を見ると、何から何までが「黙ってりゃわかんない」って思ってるんだろうなあ、と（笑）。

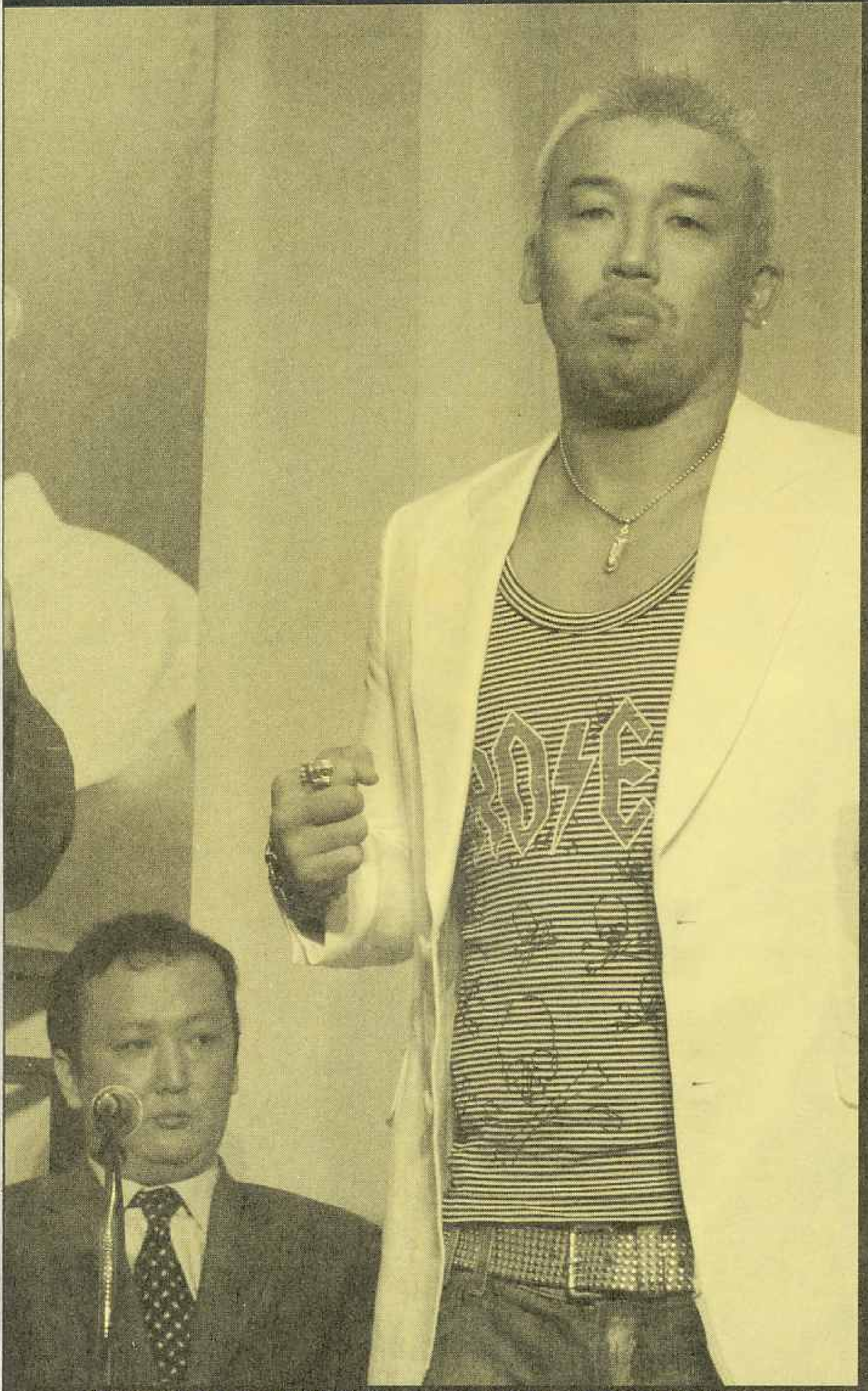
――ダハハハハ！　すっとぼけてるんじゃないか、と。

菊地　これは明らかにインターネッ



一連の秋山復帰までの流れなどを追っていくと、ふと気がついたときには「黙ってりゃわかんない」の世界がそこにはしっかり構築されているのだった。恐るべきは黒魔術の谷川ワールド。

『ゴング』休刊から約半年——。



谷川氏は今年のGPに武蔵を出さないという決定を下した。「永遠の命」はどうなってしまうのか？　藤本祐介、澤屋敷純一といった日本人選手の台頭は著しいが……、武蔵への路は険しい。

ト以前の発想です。さっき95年の話をしましたけど、インターネットが爆発的に定着するのは「ウインドウズ」95が登場した95年なんですよ。谷川氏の時間の止まり方というのは、〝インターネット以前〟の感じはちょっとありますよね。要するに、ブログとかやってないですよね、この人？

——やってないですね。好奇心を持ってネットの世界を覗こうとしようとする雰囲気もないですし。

菊地　いまだにネットをまったく気にしてないと思いますね。そういう意味ではね、武蔵も「インターネットのない世界の住人」だと思うんですよ。だって、武蔵スレッドみたいのがあったとすれば、ほぼ何を書かれるかわかりますよね。だけど、そんなこと気にしてたらあれはやってられないです。

——でも、武蔵は95年デビューだから、〝ネット後〟の発想があってもおかしくないはずですよね。

菊地　うん。でも、谷川氏と〝契約〟しちゃったから（笑）。

——95年で時間は止まったままだ、と（笑）。

菊地　これは妄想になっちゃいますけど……、っていうかそもそも全部妄想ですが（笑）、佐竹とか角田とか、武蔵とは仲がよろしくなかった彼らは、たぶん95年より前からパソコンをやっていたと思います。で、武蔵の前で「パソコン、パソコン」と言ってたと思う。で、武蔵は「何がパソコンだ！」って思った可能性はありますね。

——ああ、なるほど！

菊地　佐山と前田（日明）などもそうですが、「ウインドウズ95」より前からパソコンやってるのが自慢だった人たちというのがいます。嫌いな人間に自慢されたらイヤにもなりますよね。しつこいようですが全部妄想ですよ。とはいえ、そういう意味で谷川氏と武蔵はとても貴重な感じがするんですよね。ところで、2ちゃんねるに武蔵スレッドはあるんですか？

——あると思います。

菊地　なるほど。mixiに武蔵コミュはあるんですか？

——もしかしたらあるのかもしれないですけど、武蔵コミュを立ち上げるくらいの熱狂的な武蔵ファンっているのかなっていう。

菊地　いたっておかしくないよね。でも、その人はたぶんパソコンやってないですよ。いまのところは、としますが。

——武蔵のファンも〝95年以前〟の人間（笑）。

菊地　調べておいてください（笑）。しかし、もし谷川コミュみたいなものもあって、この二人の所業についていろいろ書くっていう行為を何千人という人がやっているっていう事実はちょっと考えられないです。あいうのは、書かれている方もパソコンとコミットしている感じがする、というグルーヴが大きいと思うので。

——最近の秋山問題もそうですけど、なんか言っても無駄だなという雰囲気がつくられてしまう。

菊地　「おまえ、パソコンやってるだろ」「自分の評判を気にしてるだろ」と思わせるか思わせないか。というのは重要です。武蔵や谷川氏のパソコン感やインターネット感のなさっていうのが、ひょっとしたら〝黒魔術〟の一つのキーポイントかもしれないですね（笑）。

——わかりました。編集部に帰ったらとりあえず谷川コミュを検索してみます（笑）。

【07年9月3日／新宿区・歌舞伎町・菊地氏の仕事場にて収録】

武蔵の〝永遠の命〟は終わったのか!?

いやいや、これからが始まりです！

9月6日、谷川貞治K—1イベントプロデューサーから非情なる宣告が下された。毎年16名のファイターが覇を競うK—1GPは、前年ベスト8の選手は自動的にエントリーされるため、残りは8枠。そのうち各大陸予選を勝ち上がった選手と開催国推薦枠で埋めると残り2枠。セフォー、澤屋敷、武蔵の3人が熾烈な闘いを繰り広げた結果、武蔵落選！　これに優勝すればGP出場が決まるアジア予選で、武蔵は不運なアクシデントによって「金的が5倍に腫れていた」（by谷川P）という事態に。K—1に寄せられたファン投票でも澤屋敷を下回ったという。谷川氏は藤本を「この階級で日本一」と語り、金泰泳にKO負けを喫しながらも結果的にアジア予選で優勝した藤本は、なぜか「武蔵時代は終わった」と豪語！　谷川氏はさらに「（武蔵の）再起とかはまったく考えていない。ちょっとタメ（を作り）たいという考えもある」とのこと。悪魔と交わした契約書は無効になってしまうのか？　〝永遠の命〟の中で武蔵は何を思う!?　なお、開幕戦の対戦カードも併せて発表された。

K-1 WORLD GP 2007 IN SEOUL FINAL16

9月29日（土・現地時間）
韓国ソウル・オリンピック体育館／15:30開場　17:00開始（予定）

FINAL16
※K-1ルール／3分3R延長2R

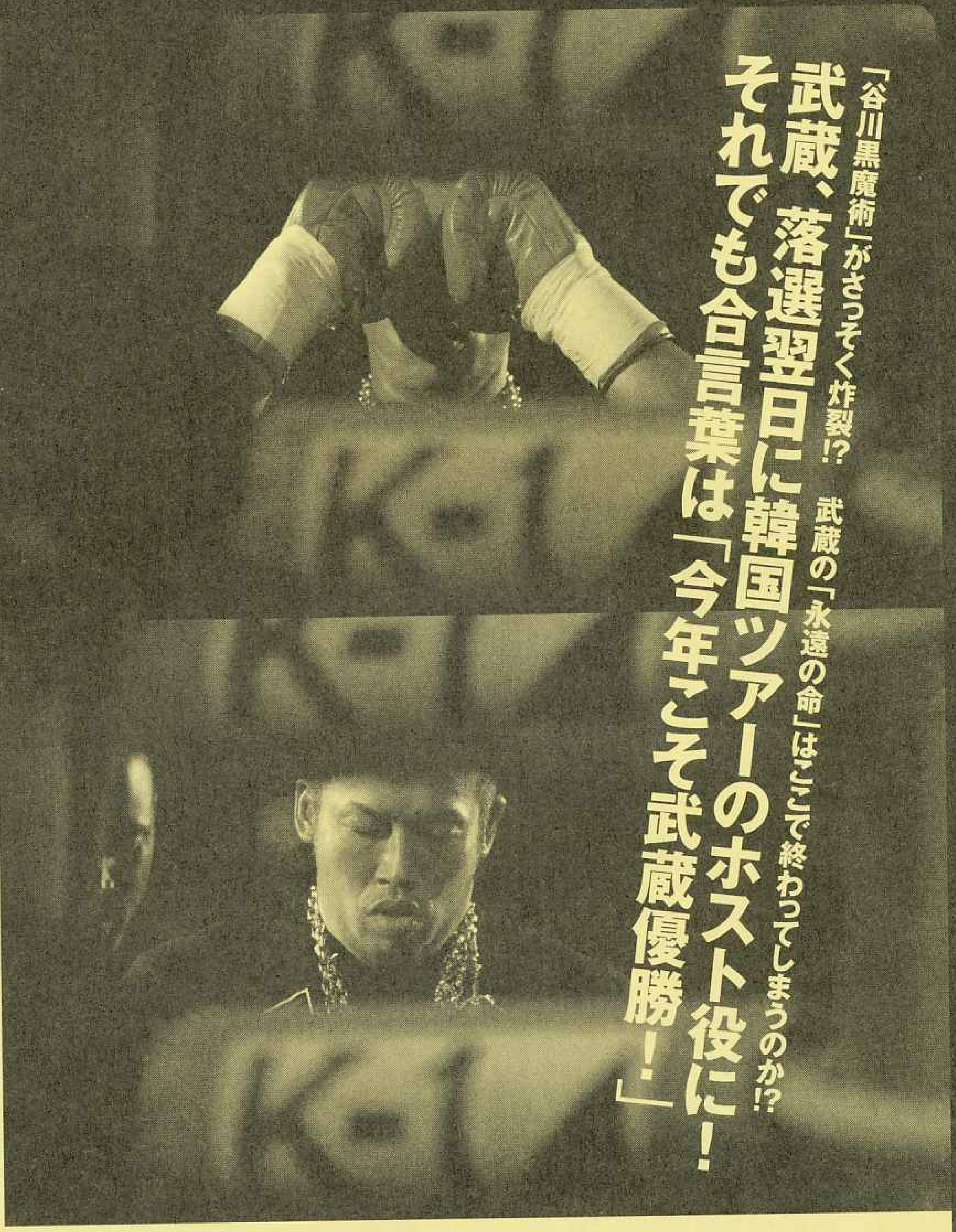
チェ・ホンマン vs マイティ・モー
藤本祐介 vs 澤屋敷純一
ピーター・アーツ vs レイ・セフォー
ジェロム・レ・バンナ vs ルスラン・カラエフ
レミー・ボンヤスキー vs ステファン・“ブリッツ”・レコ
セーム・シュルト vs ポール・スロウィンスキー
グラウベ・フェイトーザ vs ハリッド・“ディ・ファウスト”
バダ・ハリ vs ダグ・ヴィニー

オープニングファイト
※K-1ルール／3分3R延長1R

ランディ・キムvsパク・ヨンス

お問い合わせ
FEG宣伝部／TEL.03-3219-8870





「谷川黒魔術」がさっそく炸裂!?　武蔵の「永遠の命」はここで終わってしまうのか!?

武蔵、落選翌日に韓国ツアーのホスト役に!
それでも合言葉は「今年こそ武蔵優勝!」

9月29日に開幕するK—1 WORLD GPをここまで7ページに渡って特集してきたわけだが、ふと立ち止まって考えてみると、いわゆるまじめな格闘技雑誌が真正面から取り組んでいるK—1特集とはずいぶんかけ離れてしまったような気がする。

とはいえ、あくまでも気がするだけで、もちろん本誌だってまじめに取り組んでいることはこの場で断言しておきたい。

そもそも、K—1という立ち技の競技をプロレス&MMAの雑誌である『kamipro』で特集する時点でミスマッチなのだ。K—1初期のファイターもかなり引退しており、なじみのない実力者ばかりが顔を揃えた今年のようなラインナップだと、その傾向はさらに強くなる。ましてや近年のK—1は海外大会が増えて、テレビの視聴率でも苦戦している状況だ。K—1が日本のファンの手から離れつつある状況にあるんじゃないか？　大半のファンがそんな印象を抱いているのではないだろうかと思う。

そこでK—1をグッと引き寄せたいと考えて出した結論が「K—1と我々のギャップを埋める存在は武蔵しかいない!」というものだった。ちょうど本誌112号で菊地成孔氏が「悪魔と契約を交わして永遠の命を手に入れた」と武蔵を評したインタビューが大反響を呼んだこともあり、武蔵を通じてK—1とFEG、そして谷川貞治K—1イベントプロデューサーを考えるいいきっかけになると思っていた。そんな矢先に、とんでもない事態が発生してしまう。なんと9月6日に武蔵が今年はGPに出場しないことが発表されたのだ。

もちろん、なんとなくそんな予感はしていたので、本誌の予想は「今年こそ武蔵の優勝!」で変わらない。きっとリザーバーとして決勝大会に登場して、いつもどおりの巧みなディフェンス技術を駆使した闘いで魅了してくれるだろう、そして今年こそ悲願の優勝を成し遂げてくれるだろうと期待していた。

すると、翌7日にFEGホームページでさらなる衝撃の発表が行なわれた。「9・29韓国大会観戦ツアー、ホスト役は武蔵に決定」とあるではないか!?

6日の記者会見では谷川氏から「藤本祐介こそが日本人トップ」というような発言もあったばかりだが、このホームページには「ファンへの愛情はナンバーワン!!　ホスト・武蔵に会いに来てね☆」とある。実力ナンバーワンは藤本、愛情ナンバーワンは武蔵というのがFEGの規定路線なのか。「会いに来てね☆」の「☆」が寂しさを誘う。嗚呼、武蔵！　これも112号で菊地氏が指摘していたことだが「(K—1は) バカ勝ちの世界」。この「☆」こそバカ勝ちの象徴だろう。

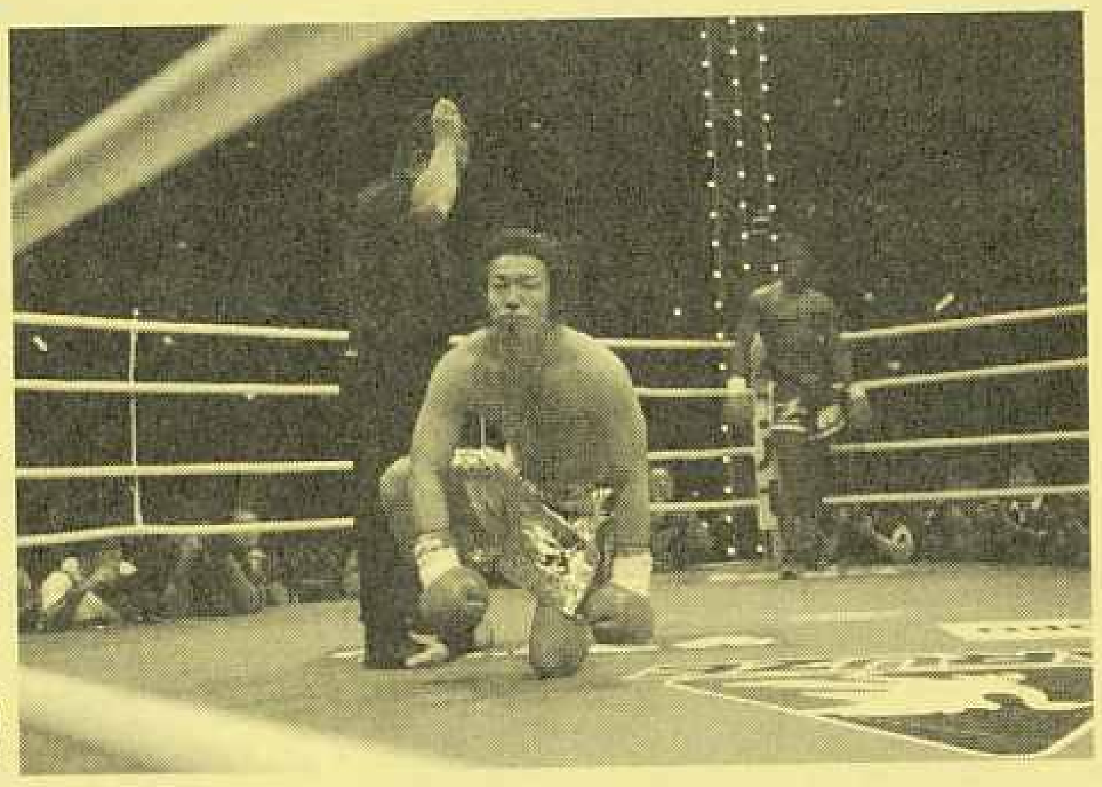
とにかく「武蔵と一緒に韓国を目いっぱい楽しもう」「武蔵が皆さんをお出迎え」「武蔵を囲んでワイワイ楽しいディナーパーティ」「武蔵選手同行のソウル半日観光」「武蔵選手のお見送り後、帰国の途へ」(いずれもFEGのホームページより) など、武蔵づくしのツアーで非常に楽しそうだ。仕事さえなければ武蔵と一緒にソウルで「永遠の時」を過ごしてみたい!!　と思わせる充実の内容だ。詳しくはFEGのホームページをご覧いただきたい。

谷川氏は武蔵の復帰については「考えていない。ちょっと溜めたい」と否定的な見解を示したばかりだったが、GP準優勝二回の武蔵に対して、直前までGPに出そうかと悩んでいた武蔵に対して、温情のかけらも感じさせないこの裁定。これも菊地氏が指摘した「谷川黒魔術」なのだろうか。

ファン投票3位からファンツアーのホスト役、そしてリザーバーへ。もし武蔵がリザーバーで決勝大会に出場することになれば、テレビ中継ではファンをお見送りする武蔵の表情なんかが使われたりするのだろうか。想像しただけで脱力しそうな映像だが、それこそが武蔵の真骨頂とも言えるだろう。そんな武蔵を観られないとなれば、我々は何を楽しみにK—1 GPを観ればいいのか？

とにかく、武蔵が決勝大会のリングに立つことを信じて、「今年こそ武蔵の優勝を!!」という目線で今年のK—1 GPを見守りたいと思う。

(文／坂井ノブ)


何度負けてもそのたびに立ち上がってきたのが武蔵だ。谷川氏も、武蔵の試合の視聴率には注目をしているようだが……。はたしていつ切り札を出してくるのか？　ぜひとも期待したいところ。

『ゴング』休刊から約半年──。





“G系(ゴング)”プロレス誌が一気に2冊も創刊!



『ゴング』“分裂”騒動の真実

まさにGショック!

3月の『週刊ゴング』休刊以来、プロレス専門誌は『週刊プロレス』だけとなってしまい、熱心なプロレスファンは寂しい思いをしていたことだろう。でも、もう安心だ! なぜって? それは9月5日に一挙に2冊のプロレス専門誌が発行されたからだ。一つはムタが表紙の『Gリング』、もう一つは小橋が表紙の『Gスピリッツ』。ん、どちらも“G”!? もしかして『ゴング』スタッフが分裂したの? 真相を解明すべく調査を開始しま〜す!!

構成/阿修羅チョロ

やはり原因は"アレ"なのか!?

『ゴング』休刊から『Gスピリッツ』、『Gリング』が誕生するまで

（※誌名はあいうえお順。一応、気をつかってみました）

うわ～ん、うわ～ん！　『ゴング』系のプロレス専門誌が一気に2冊も発売されたよ～！

『kamipro』読者の皆さんも、すでにご存知かもしれないが、今年3月14日発売の1168号を最後に"休刊"となっていた『週刊ゴング』（日本スポーツ出版社。以下『ゴング』）のスタッフが分裂するかたちで、9月5日、『Gスピリッツ』（辰巳出版。以下『Gスピ』）と『Gリング』（大都社。以下『Gリン』）という2冊のプロレス専門誌が発売されたのだ（※しつこいようですが、誌名はあいうえお順です。念のため）。

『Gスピ』は"ドクトル・ルチャ"として日本を代表するルチャ博士として知られる『ゴング』第2代編集長・清水勉氏が編集長として立ち上げた月刊誌である。一方の『Gリン』は『kamipro』で好評連載中の『GKスペシャル・プロレス探検隊』の隊長として活躍する金沢克彦氏が統括プロデューサーとしてスタートさせた隔月誌である（11月発売号から月刊になるとの話も）。

プロレスはあまり興味がないという人や、MMA情報目当てに『kamipro』を購入している読者にとっては「『ゴング』スタッフが分裂」と聞いても、まったくピンとこないか「分裂っていっても、どうせプロレス団体によくあるアレでしょ？」ぐらいにしか思わないかもしれない。

実際問題そのとおりで、ターザン山本！のひさびさの新刊『「週刊ゴング、ファイト」を殺したのは誰だ！』（東邦出版）での金沢氏の発言を読むかぎり、休刊前後の『ゴング』の内部事情というのは、よくあるプロレス団体のゴタゴタに非常に似ている気がする。元『ゴング』関係者からも、休刊前後の人間関係や金銭関係の生々しい話も耳に入ってくるのだが、『kamipro』的には、でも、そんなの関係ねえ！（他人事だけに、正直かなりおもしろいんですが）。

まあ、そういった生々しい話はターザンの新刊本に任せるとして、ここでは、どういった経緯で『Gスピ』と『Gリン』という"G系"雑誌が一気に2冊も創刊されたのかということについて簡単に説明しよう。

両誌が誕生するきっかけとなったのは、やはり今年3月の『ゴング』休刊が大きい。というか、それがすべてと言ってもいいだろう。何も問題がなく『ゴング』が継続して発行され続けていれば、両誌とも、この世には出ていなかったはずだ。

しかし、現実的には『ゴング』は休刊となった。その直接の原因としては、『ゴング』の母体である日本スポーツ出版社の前田大作社長が今年2月19日に民事再生法違反容疑で逮捕されたことが挙げられる。確かに、社長逮捕は休刊の大きな原因になったことは間違いないだろうが、それ以前から『ゴング』では売り上げ部数の低下などもあり、休刊の噂が絶えなかったのも事実だ。

経営不振から2004年の8月末に『ゴング』の母体である日本スポーツ出版社が前田社長に身売りし、経営権が変わってからは内部的なゴタゴタも、たびたび表面化するようになった。例のターザン本によると、部数低下に歯止めがかけられない中、『ゴング』内部では、士気を高めるためか、一部の社員の給料が2倍以上になったり（うらやましい！）、同様に一部フリーライターのギャラが、なぜか大幅アップしたりと、かなりの混迷状態が続いたんだという。

そんな中、2005年11月に日本スポーツ出版社を退社した金沢氏に続き、06年2月末には、『ゴング』第5代編集長の吉川義治氏も上層部と衝突し『ゴング』を去り、同年4月に、『ゴング』創立者の竹内宏介氏、吉川氏、長きにわたり『ゴング』で活躍したフリーの大川昇カメラマンの3名で編集プロダクション『Gプロダクト』を設立。この『Gプロダクト』では『別冊ゴング』を中心に計9冊の増刊本を出版している。竹内氏が『ゴング』の名物長寿連載「三者三様」に幕を引き、『ゴング』から撤退したのも、その頃だった。



その後も、上層部の一部から、すでに『ゴング』を離れていた金沢氏に編集長就任の話があったりと、あいかわらず内部的なゴタゴタは続き、売り上げ部数低下にも歯止めがかけられないまま、先の前田社長の逮捕もあり、『ゴング』は今年3月14日発売号をもって、約23年にわたる歴史にピリオドを打った。

『ゴング』休刊より前に、老舗のプロレス紙『週刊ファイト』も売り上げ低下などにより06年秋に休刊してしまったため、『ゴング』休刊後は、プロレス専門誌はベースボールマガジン社発行の『週刊プロレス』一誌のみという、業界的には前例のない異常事態になったのだった。

実質、休刊という名の廃刊状態となった『ゴング』では、休刊後も給料の未払いや、フリーへのギャラの遅配などゴタゴタが続き、『ゴング』に関わったスタッフたちは、当然のように次なる職場や仕事を見つけなければいけなくなる。

ライバル誌へ移籍する者、プロレス団体に入社する者、まったくの別業界に就職する者、さまざまな動きがある中、『ゴング』に思い入れの強い人間たちは、なんとかして"『ゴング』の魂"を注入した雑誌を復活させようと水面下で動き始めたのだった。その一人が現『Gリング』統括プロデューサーの"GK"金沢克彦氏であり、もう一人が現『Gスピリッツ』編集長の"ドクトル・ルチャ"清水勉氏というわけだ。

まさにGショック！ 『ゴング』分裂騒動の真実

まずは金沢氏率いる『Gリン』派の動きを説明しよう。

『ゴング』ラスト号をノーギャラ覚悟で制作した中心人物の大川カメラマン、『Gプロ』の吉川氏、『ゴング』社員だった杉本喜公氏らから、今年4月に新生『ゴング』を立ち上げるべく協力を求められたという金沢氏。資金調達に苦労し思うように事は運ばなかったというが、「もう一度、『ゴング』を復活させたい」という同志の思いに応えるべく、金沢氏は数社に新雑誌創刊の企画書を持ち込み営業を始めることになる。二転三転ありながらも7月に入り某社からゴーサインが。しかし、「創刊するなら8月下旬から9月上旬」とのタイムリミットを設けていた『Gリング』派は、「それまでに出せなければモチベーションを維持できない」と判断し、某社には断りを入れたという。

結局、金沢氏らは、『Gリン』より一足早く『レディース・ゴング』あらため『レディース・リング』を立ち上げていた泉井弘之介編集長（株式会社LGC代表）からの誘いもあり、『レディリン』と同じ大都社から『Gリング』を発売することを選択。『Gリン』では、『Gプロ』で竹内氏と一心同体で活動していた大川カメラマンに対し、竹内氏の夫人から協力の申し出があったこともあり、最高顧問として竹内氏が就任。その他、『週刊プロレス』元編集長・ターザン山本！氏（創刊号発売直後、金沢氏に絶縁宣言）、『週刊ファイト』元編集長・井上譲二ら名物編集長を執筆陣として迎え入れ、同時に金沢氏と親交の深い夏目ナナをイメージガールとして船出することになった（※このへんの経緯は『Gリン』の巻頭記事で金沢氏が必要以上に熱く執筆してます）。

一方、『ゴング』休刊後はショックで、しばらくのあいだプロレスのことは考えられない毎日が続いたという清水氏。食べていくために別業種への就職も考えたという清水氏に新生『ゴング』立ち上げのきっかけを作ったのは、ミル・マスカラスだった。「『ゴング』のマスカラスか、マスカラスの『ゴング』か」と言われるほど、マスカラスとの結びつきが強かった『ゴング』であるが、中でも〝ドクトル・ルチャ〟のキャッチフレーズを持つ清水氏と〝ルチャ界の大御所〟マスカラスの友好関係は深かった。

「タケ（竹内さん）をお見舞いしたい。病院に連れて行ってくれ」と今年の4月にマスカラスから連絡が入り、極秘来日したマスカラスとともに竹内氏を見舞ったという清水氏。その際、マスカラスから「これからどうするんだ？　理想は『ゴング』を復刊させることだろ。タケだってそれを望んでいるはずだ。私にできることがあるならば、なんでも協力するから言ってくれ」と背中を押され、新生『ゴング』立ち上げに向け動き出すことを決意したという。

それから数ヵ月後、『ゴング』休刊後、辰巳出版で働き始めた元『モバイルゴング』の斎野氏（ちなみに元『ｋａｍｉｐｒｏ』）とプロレス以外の仕事の話をしていた清水氏だったが、辰巳出版にはプロレス好きが多いということもあってか、何度か関係者と話し合いを進めるうちにプロレス雑誌創刊の話が具体化してきたという。そこから清水氏は『ゴング』時代の同志に連絡をとり協力を要請すると、大半のスタッフはこの申し出を快諾し、『Gスピ』は創刊に向けて本格的に動き出したのだった（※このへんの経緯は『Gスピ』の巻頭記事で清水氏がマスカラスとの素敵なエピソードを交え執筆してます）。

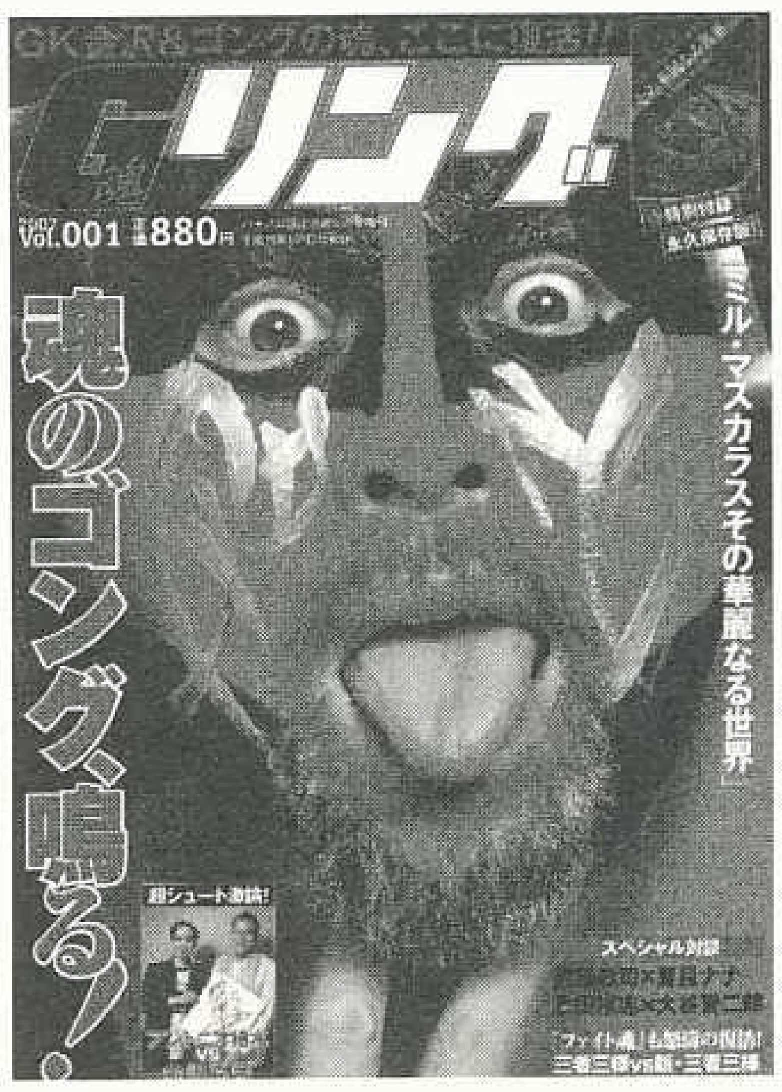
『Gリン』、『Gスピ』ともに、複雑な権利関係の問題で『ゴング』という誌名や、『ゴング』所有の膨大な写真&資料を使えないという苦しい事情を抱えてのスタートとなるが、そんな厳しい状況下にも関わらず創刊を決意したのは、両誌とも現在病気療養中の〝『ゴング』創立者〟竹内宏介氏に対して、「『ゴング』の魂を消してはならない」という想いからというのは間違いないところ。

そんなこんなで誕生した竹内ゲノムを受け継ぐ〝G系〟プロレス専門誌2誌。まあ、冷静に考えると、一応『ｋａｍｉｐｒｏ』にとって競合誌となる『Gリン』と『Gスピ』について、こんなにダイナミックな特集を組んでいいのだろうか？　との思いもあるが……、ま、いっか。

次のページからは両誌の仕掛人でもある金沢氏と清水氏に今回の分裂騒動、そして今後の展望などを赤裸々に語ってもらってます。「何がやりたいんだ、コラッ！」などと言わず、両者の言い分に耳を傾け、どっちが本物の〝ゴングの魂〟を持っているのか、みんなで考えよ〜!!

そんなこんなで誕生した〝G系〟2誌の内容はこんな感じ！

「コテコテのプロレス色を出したかった」という大川カメラマン撮影の『Gリング』の表紙は何年ぶりかのペイント版ムタ。頬にはしっかりと「GONG」の4文字が。巻頭はGKのアントンロングインタビュー。そのあとに元『ゴング』編集長のGK、元『週プロ』編集長のターザン、元『ファイト』編集長の井上譲二氏の「新三者三様」が続く（その後、ターザンは「たったの3ページなんてバカにしてるよぉ！」とGKに炎上）。ムタの代理人を務める武藤敬司には『Gリング』イメージガールの夏目ナナがインタビューを敢行。さらに特別付録として「その華麗なる世界」と題したミル・マスカラスのミニ写真集も付いている。このへんは、かなり『ゴング』っぽい。「復活！GK激場」はいろんな意味で必見！



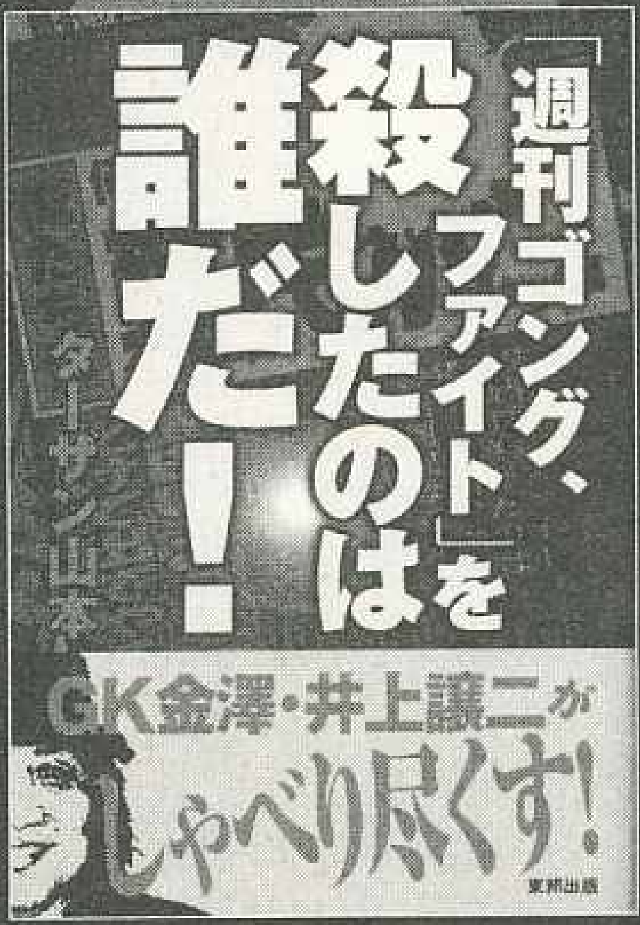
『Gリング』VOL.1（大都社）／880円（税込）



『Gスピリッツ』VOL.1（辰巳出版）／1050円（税込）

表紙&巻頭は長期欠場中のNOAHの小橋建太。プロローグとして“ドクトル・ルチャ”清水編集長がマスカラスからのメッセージを交え『ゴング』休刊から『Gスピリッツ』立ち上げまでの経緯を執筆。目玉企画としては、武藤敬司×ケンドー・ナガサキの師弟対談、天龍番・小佐野氏の天龍ロングインタビュー、長州力の人生相談、佐山聡が語るサミー・リー、『Gリング』と同じく菊池孝氏&門馬忠雄氏登場の三者三様（もう一人は吉澤幸一氏。ちなみに『Gリング』の三者三様メンバーは菊池氏&門馬氏十三田佐代子さん）。さらに、みのもけんじ先生の『プロレス・スターウォーズG〜グレート・ムタ編』もスタート。付録として「覆面剥ぎマッチPart1」と題した3試合収録のDVDも付いてくるぞ！

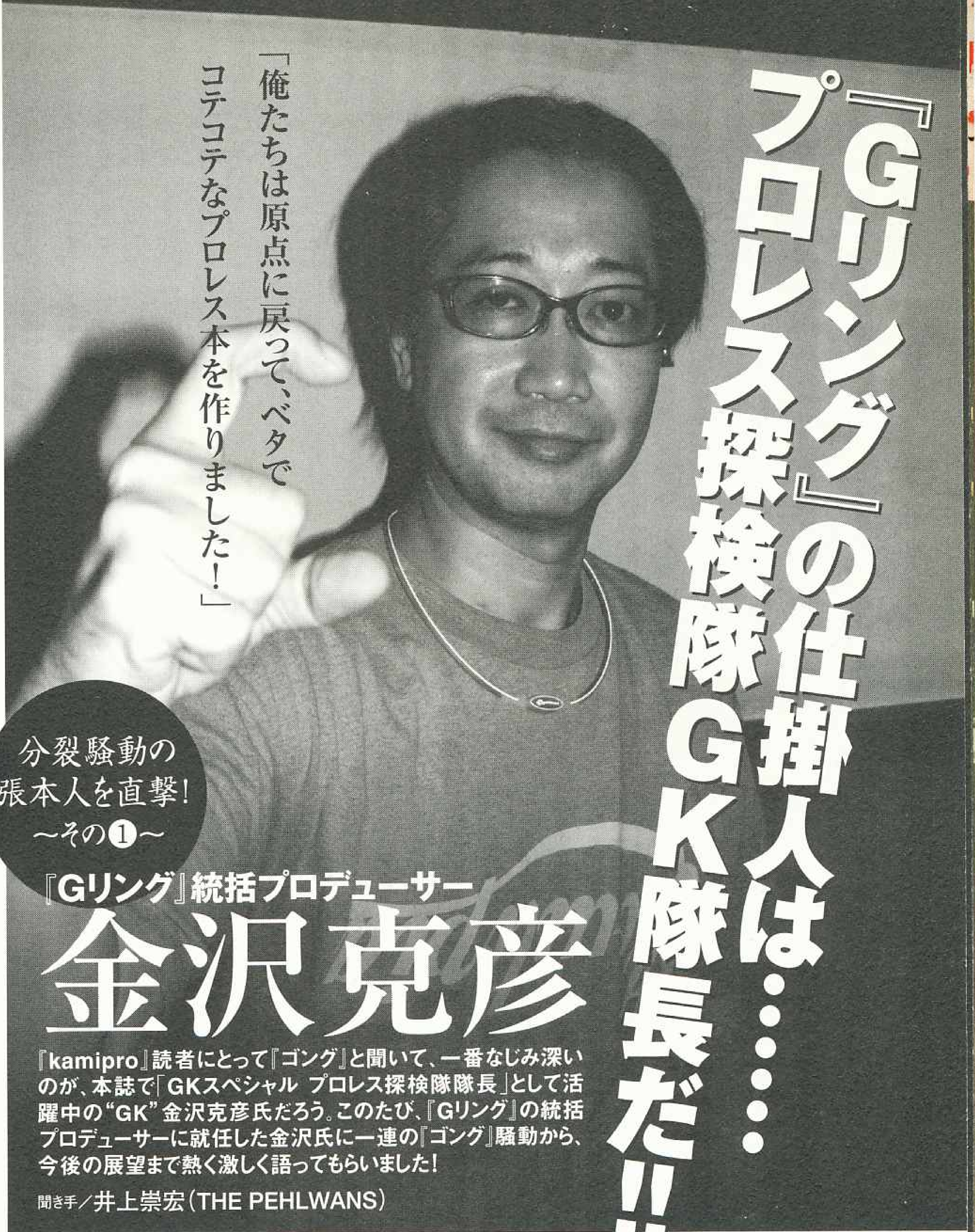
ターザンも復活!? こんな本まで登場！



ターザン山本！がひさびさに本を出版しましたよぉ！『「週刊ゴング、ファイト」を殺したのは誰だ！』（東邦出版）という物騒なタイトルが付けられたこの本では金沢克彦、井上譲二の両氏がターザンとともに『ゴング』と『ファイト』の休刊について、これでもかと語りまくっている。文字も大きいのですぐ読めるぞ！

『Gリング』の仕掛人は……プロレス探検隊GK隊長だ!!

「俺たちは原点に戻って、ベタでコテコテなプロレス本を作りました!」



分裂騒動の張本人を直撃!
〜その1〜

『Gリング』統括プロデューサー

金沢克彦

『kamipro』読者にとって『ゴング』と聞いて、一番なじみ深いのが、本誌で「GKスペシャル プロレス探検隊隊長」として活躍中の"GK"金沢克彦氏だろう。このたび、『Gリング』の統括プロデューサーに就任した金沢氏に一連の『ゴング』騒動から、今後の展望まで熱く激しく語ってもらいました!

聞き手／井上崇宏（THE PEHLWANS）

—金沢さん、痩せましたねえ!

GK　露骨に痩せたでしょ?（笑）。じつは8キロも痩せたんですよ。まあ、その話はおいおいね。

—はい。じゃあ今回はダイエットでお悩みの方必見のインタビューということで（笑）。まずは『Gリング』創刊、おめでとうございます。

GK　ありがとうございます。ただ、コンテンツには絶対の自信があるけど、現時点でまだ刷り上がってないから色の面でちょっと不安なんですけどね。

—今日は、『Gリング』創刊までの激動の流れをあらためておうかがいしたいんですけど、昨年の年末に金沢さんのほうに『週刊ゴング』編集長復帰の要請があったんですよね?

GK　はい。でもその前に、すべての始まりは竹内宏介さんが病気で倒れられたことですよね。昨年の11月12日なんですけど。

—現在のご容態はどんな感じなんですか?

GK　まだ入院中なんですけど、いまどんどん回復してますよ。

—快方に向かわれてますか!　あぁ、それはいいニュースですね。

GK　ええ。それで、そのあと昨年末ですよね、新しく日本スポーツ出版社の『ゴング』担当役員になった人から「編集長に復帰してもらえないか?」という話がきたわけですけど、当然お断りしました。しかし、その後も再三連絡があって「話をしたい。いま、どうにもいかない状況になってるんだ」と。

竹内（宏介）さんはまだ入院中ですけど いま、どんどん回復してますから

—『ゴング』の売り上げがどうにもいかない。

GK　売り上げがどうにもいかない、会社のお金が回らない状況になってきたっていうことで。そのことを倒れられる直前の竹内さんにも相談してたらしくて。そうしたら竹内さんからは「最後の手段は金沢君にやってもらうしかないよ。それ以外はあり得ないね」と言われたと言うんですよね。じゃあ、ちゃんと前向きに考えましょうということになったんですよ。やっぱり僕の中で竹内さんという存在は特別なものだから。それであくまでもフリーとしての参加を第一条件に契約を煮詰めて、ほぼ合意という段階になって例の〝前田社長逮捕〟という一報が出たんですよ。

—はいっ、オッパッピー!!　それですべてはチャラですか。

GK　あれは2月の中旬くらいですよね。で、これはもう状況的に話自体が僕のほうから白紙というか。これが『ゴング』復帰要請の顛末ですね。

—ただでさえ売り上げが低迷してる中、社長逮捕というダブルパンチで3月にとうとう『ゴング』が休刊となったわけですが、その頃の社内の状況や人間関係というのは金沢さんも把握されてたんですか?

GK　いや、社長が逮捕されてなくても早々に破綻したでしょうね。だって、雑誌の売り上げがそんな末期的な状況の中、スタッフの中には月に●万という給料を貰ってたりする人間がいたらしいから（笑）。

—おい、金沢さん!　嘘でしょ?

GK　知〜らない（笑）。こんな載せられない話がゴマンとありますが、載せられないことをしゃべってもしょうがないんで、本題に戻りましょう!

—んもう〜、いけずぅ（笑）。それじゃあ本題に戻りますけど、3月に『ゴング』がそんなかたちで休刊となりながら、早くも9月にゴング系の雑誌が復活する、と。しかも同時に2誌も創刊というある意味、異常事態なわけですが。『Gリング』に関していえば、どの時期からお話がスタートしていたんですか?

GK　最初に僕が話を聞いたのは4月の頭ですよね。『ゴング』の最終号を自分らはノーギャラ覚悟で実質仕切ったカメラマンの大川昇に吉川義治、杉本喜公ら中心になった人たちから。「話がしたい」ということで会ったら、そこで「じつはもう3月下旬から『ゴング』を再生したいってことでみんなで動いてるんで、一緒にやってもらえませんか?」っていう話を受けて。

—大川カメラマンは金沢さんとは『週刊ファイト』時代からの盟友であり、吉川さん、竹内さんと『別冊ゴング』の制作をしていたGプロダクトの方たちですね。

GK　もう、その要請に対しては「いいよ。やろうよ」って言いました。それはやっぱり彼らに対して凄い借り

隊長姿しか知らない読者のみんな、俺はお笑い芸人ではないよ、と！

があると思ったから。『ゴング』のラスト号や、それ以前の『別冊ゴング』のオファーも個人的事情ですべて断ってきてたんで。それに竹内さんからも「いつか合流して本当の『ゴング』をもう一回作りたいね」っていうふうに常々言われてたし。そういうのも含めて「はい、やりましょう」という即答でしたよね。

—要するにメンツ的には金沢さんの個人的事情をクリアできる人たちなわけですね？（笑）。

GK はい、信用ができる人たちです。それともう一つは正直、紙媒体が恋しくなってきたっていうのは凄くありましたね。紙のプレッシャーっていうのかな？ ハッキリ言って、ワリが合わないじゃないですか、紙って。やっぱりメディアでいえばテレビの仕事のほうがずっとワリもいいし、紙のほうは自分の中で納得がいかなきゃ作業に何時間だって、何十時間だってかかっちゃうのに、原稿料も安いじゃないですか（笑）。

—ドMじゃないとできません（笑）。

GK でも紙のプレッシャーっていうのは、やっぱり20年近くずっとやってきたことだから、どっかに「またやりたいな」っていうのがあった。そっちのシビアなほうの自分もまたやりたいなっていうのが出てきちゃいましたね。

—とはいえ、マイナスイメージがついた『ゴング』直系の新雑誌を作ろうとするわけですから、状況は厳しいですよね。

GK 厳しかった！ 雑誌って要はお金を集めて雑誌コードを取って、編集室を一つ用意すれば出せるわけじゃないですか？ でも、雑誌コードを取るっていうのは一番大変な作業だし、お金を集めるってことも大変なことですよね。で、実際に資金が集まらない。そうすると「じゃあ何ができる？」っていうと、やっぱり出版社に営業活動をするしかないわけですよ。

—金沢さん自身も出版社に営業をかけたりしたんですか？

GK それでこんなに痩せたんじゃない！（笑）。

—あ、その激ヤセの原因は営業のダメージでしたか（笑）。

GK 営業という僕が一番嫌いなめんどくさいことをやったわけだから（笑）。まる2ヵ月、交渉事をやって肉体的にも精神的にもボロボロですよね。だけど何社か行きましたけど、その中で大手といっていい某出版社が、非常に乗ってきてくれたんですよね。で、7月10日にトップ決裁でゴーサインが出た。

—金沢さん、営業の才もあったんですね（笑）。

GK だけど結局ね、最終的にそのゴーサインが我々の中であらかじめ設定していたリミットにちょっと間に合わなかったんですよ。そのリミットっていうのは創刊号を出したいタイミングから逆算した期日だったんですけどね。

—あらら。ゴーサインが出ただけによけいに残念ですね。

GK もちろん尽力いただいた担当の方にはちゃんと事情を説明して、「わかりました。とにかく頑張ってくださいね」というありがたい言葉もかけてもらいましたけど。それで、リミットぎりぎりに決定をみたのが、『LADY'sリング』を作ってる泉井（弘之介）君のほうからきた話で。やっぱり条件的にはかなり厳しいみたいだけど、出版社も協力してくれるみたいだし、最終的に7月の第一週の末に「やらせていただきます」ということで決定したんですよね。

—ちなみに『Gスピリッツ』のほうの動きは知ってたんですか？

GK 6月の中旬くらいかなあ？ 向こうサイドの人物から連絡があって、「辰巳出版から雑誌を出すことになったんで、参加してくれませんか？」という話をもらったんですよ。辰巳出版が社を挙げて支援するとか、月刊でやっていくからっていう話をしてたんで、それはいい話だと思いましたね。でも、そこは正直に言ったわけですよ。「大川、吉川、杉本たちと一緒に何かやろうということで動いてる部分があるんで、そこで僕がポンとそっちへ行きますというわけにはいかない」と。やっぱり一緒にはできないんですよ。最終的に『ゴング』が終わった時点で、ある意味、人間関係も割れちゃってるわけだから。誘っていただいたのはありがたいけども、それはできないんですよね。

—しかし、水面下でそんなさまざまな出来事が起きていた中で、『kamipro』でプロレス探検隊をやっていたかと思うと、目頭が熱くなりますよ（笑）。

GK 感慨深いでしょ？ そしらぬ顔をして真っ赤なツナギを着て武富士ダンサーズと踊ってましたよ（笑）。

—アハハハハ。真っ赤といえば創刊号の表紙はグレート・ムタですね。

GK うん。7年ぶりにペイントをしたムタですね。やっぱりムタが一番インパクトがあるんじゃないかって。僕はね、ベタなプロレス本こそ『ゴング』の原点だと思ってるから。最近の本ってみんな『Number』化してるじゃないですか？ オシャレな誌面作りというかね。「じゃあ逆に俺たちは原点にいっちゃおうじゃないか。ベタなプロレス本でいこうよ」っていうね。最近はどこも……ファッション誌かよって！

—まあ月刊化ということで、今後は『kamipro』とはライバル関係になると思うんですが（笑）。

GK 『kamipro』がライバル？ だって、ウチの雑誌にはダナ・ホワイトのインタビューなんか間違っても入ってないですよ？（笑）。

—あ、「ヘイ、金沢！」は未収録ですか（笑）。

GK やっぱり基本はプロレス。昔の『ゴング』的スタンスを押し通しますよ。魂のゴングはもう鳴ったわけだから。

—あの鐘を鳴らすのはアナタッ!! それでは最後に『Gリング』を『kamipro』読者にもPRしておきましょうか。

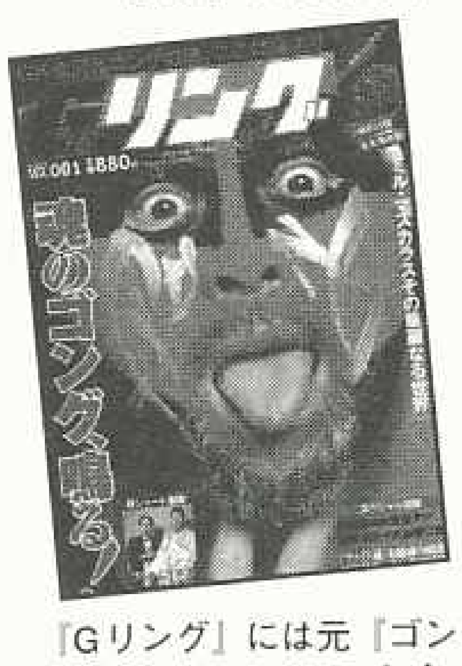
GK うん。まあ『Gリング』には『kamipro』イズムっていうのはないと思うんだけどよろしく、と（笑）。あと僕の隊長姿しか知らない『kamipro』読者のみんな、俺はお笑い芸人ではないよ、と！ これだけは言っておきます（笑）。でも、要請があるかぎりプロレス探検隊は続くでしょう！

【07年8月31日／都内・代々木『カフェバビル』にて収録】



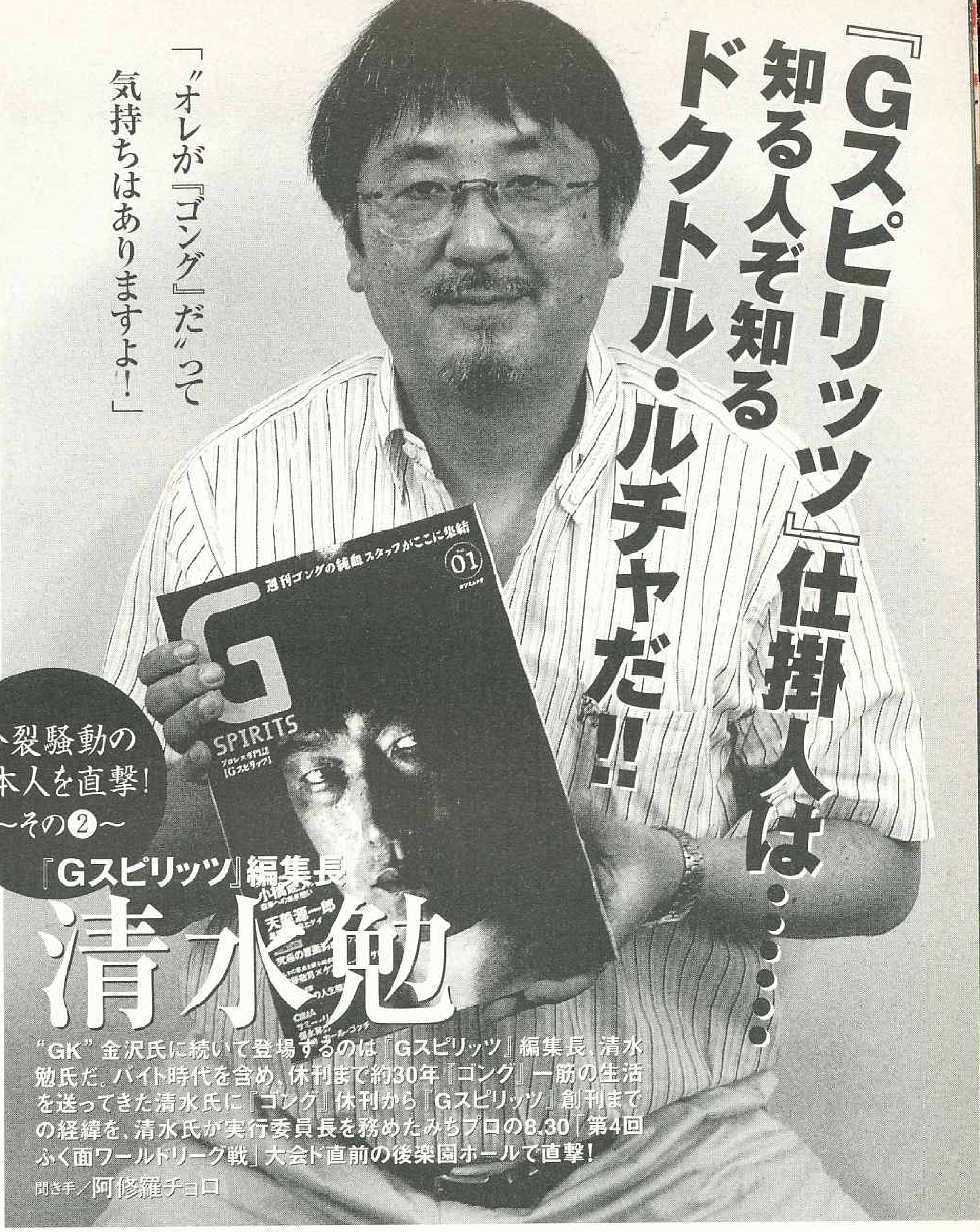
かなざわ・かつひこ■1961年、北海道出身。86年、『週刊ファイト』の母体の新大阪新聞社に入社。その後、日本スポーツ出版に入社。99年、小佐野景浩氏の跡を継ぎ、『週刊ゴング』編集長に就任。05年11月に同社を退社。現在はフリーとしてテレビ、雑誌など各種媒体で活躍。『Gリング』では統括プロデューサーを務める。

『ゴング』の魂を持った本気の執筆陣＆カメラマンが集結！



『Gリング』には元『ゴング』スタッフだけでなく、井上譲二氏やターザンら『ファイト』や『週プロ』系の大御所も参加している。

- ・金沢克彦（『週刊ゴング』第4代編集長）
- ・ターザン山本！（元『週刊プロレス』編集長）
- ・井上譲二（元『週刊ファイト』編集長）
- ・吉川義治（『週刊ゴング』第5代編集長）
- ・杉本喜公（元『週刊ゴング』U系ライター）
- ・山本浩二（元『週刊ゴング』ライター）
- ・大川昇（元『週刊ゴング』メインカメラマン）
- ・柳原裕介（元『週刊ゴング』カメラマン）
- ・出本剛志（元『週刊ゴング』メインデザイナー）ほか



『Gスピリッツ』仕掛人は……知る人ぞ知るドクトル・ルチャだ!!

「"オレが『ゴング』だ"って気持ちはありますよ!」

分裂騒動の張本人を直撃!
〜その2〜

『Gスピリッツ』編集長

清水勉

"GK"金沢氏に続いて登場するのは『Gスピリッツ』編集長、清水勉氏だ。バイト時代を含め、休刊まで約30年『ゴング』一筋の生活を送ってきた清水氏に『ゴング』休刊から『Gスピリッツ』創刊までの経緯を、清水氏が実行委員長を務めたみちプロの8.30「第4回ふく面ワールドリーグ戦」大会ド直前の後楽園ホールで直撃!

聞き手/阿修羅チョロ

―現時点では、まだ本ができていないので突っ込んだ話はできないんですが、『Gスピリッツ』を立ち上げた"ドクトル・ルチャ"こと元『週刊ゴング』編集人の清水さんにお話をうかがいに来ました。

清水 はいはい。

―プロレス専門誌は現状、『ゴング』は長い休刊に入り、『週刊プロレス』しかない状態。そんな中『Gスピリッツ』が登場するわけですが、まずは創刊に至るまでの経緯を簡単に教えていただけますか。

清水 『ゴング』が3月の頭で休刊になって、4月15日付けで社員全員が解雇。その後は放心状態というか……、何もしていなかったですね。

―『ナイスポ』のインタビューでも答えていましたけど、「プロレスのことは考えない日々が続いた」という。

清水 まったく考えない日もありましたね。『ゴング』という雑誌に携わる中で、『ゴング』の名前と資料に囲まれてやってきましたから……。

―『ゴング』には何年間、携わったんですか?

清水 社員になって26年。学生時代のバイトを入れると30年くらいですね。

―30年『ゴング』一筋!

清水 だから、いつも『ゴング』と一緒だったのにこれがなくなっちゃった。会社にもいられなくなっちゃった。ポッカリ風穴が開いた状態ですよね。フリーという選択肢もあるけども、それだけでは食っていけない。だから、「これから先、どうしようかな?」って考えて、「プロレス以外のこともやってみようかな?」とかも……。

―考えた時期がありましたか。

清水 正直、ありましたね。ただ、歳も歳だし、すぐに就職できるってわけではないですからね。本にも書いたんですけど、じつは4月に(ミル・)マスカラスが来てたんですよ。

―えっ、お忍びで!? 試合はしてないですよね?

清水 はい。休みを取って日本に来ていたんですよ。で、私をこの業界に入れてくれた人、師匠の竹内宏介さんが、いま病気で倒れて入院されているので、マスカラスが「お見舞いに行きたい」と。

―清水さんもそうですけど、竹内さんとマスカラスは友情と信頼関係で結ばれていましたからね。

清水 そうですね。で、私が病院に連れて行ったりしたんです。彼は私のこともいろいろと心配してくれて、「これからどうするんだ?」と。だから、プロレス以外に選択肢もあることを話したり。

―マスカラスにですか!?(笑)。

清水 ええ(笑)。彼も真剣に考えてくれて、メキシコの選手はみんな私のことを「トマス」って言うんだけど、「トマスだったら、日本中を巡業して回ったんだから、観光案内もできるよな!」って。

―アハハハハ!

清水 本当よ! マジな話よ! そんな話もしてたんです。『ゴング』を作れないならば、プロレスで何かできないかなぁ?」って話をしていて、そこでは最終的な結論は出なかったんですけど、凄く心配してくれたんですよ。メキシコに帰ってからも何回も電話をもらったし。で、そんなこんなしていたら、私、けっこう多趣味なんですけど、『モバイルゴング』にいた斎野君が辰巳出版にいて『時代劇マガジン』とかをやっていたんですけど、「多趣味ならそっちのほうで原稿書けるかもしれないね」って辰巳の編集長が私に興味を持ってくれたんです。

―プロレス以外の記事でってことですよね?

清水 そうそう。「で、(その話は)どうなった?」って感じで斎野君に電話したら、「いや、ここの会社はプロレスを好きな人がたくさんいて、"『ゴング』を復刊するんだったらやりたい"って言っているんですよ」って言うんですよ。

―また急な展開ですね(笑)。まあ、その斎野は元『kamipro』だったりするんですが。

清水 「だったらみんなに声をかけてみようか?」と。小佐野(景浩)君とか谷口(範夫)君、木幡(一樹)君とかに声をかけて。「清水さんがやるんだったらなんでも手伝いますよ!」って人がたくさんいてくれたんで、「じゃあやるか!」ってことなんです。

マスカラスが私のことを心配してくれて。「これからどうするんだ?」と。

ただ、名前もないし資料もない。正直、「こんなんでできるかなぁ……？」というのはありましたよ。

——正直、写真とか資料がないっていうのは痛いですよね。

清水　ただ、私らは30年近くこの業界にいて知らない人はいないし、どの団体の誰ともケンカをしたわけでもない。関係者の人たちも「協力しますよ」って言ってくれたので、資料はなくても、自分たちの持っている知識と人とのつながりでできるかなと。「無謀ですよ！」とか言う人もいたよ。だけど、やらないよりは、一度やったほうがいいんじゃないかなと思ったんです。辰巳の人たちも編集スタッフも、みんなオレ以上にやる気を見せてくれているし、「よし！じゃあやろうか！」って感じですね。

——『ゴング』の魂を持つ人たちが集ったわけですね。

清水　『ゴング』の財産というのは、名前でも資料でもなくて、人なんだなぁって、あらためて思いましたね。

——業界では、『Gスピリッツ』の発売日にもう一冊『ゴング』系の雑誌、『Gリング』が創刊されるということで話題になっていますけど、清水さん的には……。

清水　（さえぎって）全然気にしてないですよ。（ややいきり立った口調で）だって、オレらのスタイルで本を作れば「これが本当だ」っていうのは通じるはずだから。悪いけど、オレは『月刊ゴング』時代からやってるから、月刊誌の作り方もわかる。週刊の……若い子でもできるようなところにオレを置いておいた『ゴング』……ハッキリ言えば、いままで『ゴング』はオレのことを宝の持ち腐れしていたよなと思います、あぁ。

——宝の持ち腐れ状態でしたか！

清水　そう（苦笑）。オレは編集長を辞めて4年半くらい増刊を作ってたんですよ。小佐野君が編集長だった時期にね。で、金沢君が編集長になった時期に週刊に戻って、確かに週刊をやってモノ凄くプラスにもなったけど、「でも、オレはこれじゃねえよ」っていうのは常にあったんですよ！

——では、力を発揮できるのは週刊じゃなかったと？

清水　うん！　やっぱり自分の本当の力を見せるのは、増刊なり月刊。もう一度それができるっていう喜びがありますよぉ！

——わ、わかりました。清水さん的には、「『ゴング』の魂は我らにあり」という思いが……？

清水　もちろん！　いまは「『ゴング』はオレだ！」と思っているくらいですよ。いや……、ちょっと違うな。「『ゴング』は竹内さんの作ったものだけど、それはオレが引き継いでいかなければならない！」と思っています。ハッキリ言って、『ゴング』の精神は自分たちのほうにある！

——そ、そうですか！　でも、その竹内さんは『Gリング』に名誉顧問というかたちで就任されていますが？

清水　だってそれは消えないじゃない？　レスラーだって、「馬場さんが師匠だ」っていうならそれはずっとついて回ることだし、竹内さんに教えてもらったイズムは消えない。そういうことも本を読んでもらえればわかると思いますよ。

——内容的に言うと、わかりやすいウリとしては、『Gスピリッツ』はDVDが付いていますね。

清水　それは、週刊との差別化をしていかなくてはならないというのと、誌面では伝わらないものや動きとかは映像のほうが強いですからね。だけど、あくまで付録だから、これは。



しみず・つとむ■1956年、東京都渋谷区出身。81年1月に日本スポーツ出版社に入社。その後『月刊ゴング』、『別冊ゴング』の編集に携わり、89年1月から『週刊ゴング』編集長（第2代）に就任。現『Gスピリッツ』編集長。今年の夏に開催されたみちプロ主催の「第4回ふく面ワールドリーグ戦」では大会実行委員長を務めた。別名はドクトル・ルチャ。

『ゴング』の純血スタッフが集結！ これが『Gスピリッツ』主要メンバーだ!!



- ・清水勉（『週刊ゴング』第2代編集長）
- ・佐々木賢之（『週刊ゴング』主任）
- ・小佐野景浩（『週刊ゴング』第3代編集長）
- ・木幡一樹（『週刊ゴング』第6代編集長）
- ・渋澤恵介（『週刊ゴング』ライター／プロレス冒険家）
- ・谷口範夫（『週刊ゴング』新日本担当）ほか

見てみぃ、この『ゴング』っぷり！　歴代編集長が3人も！　このほかにも『ゴング』で活躍したカメラマンやデザイナー、元『モバイルゴング』の斎野氏＆村上氏もスタッフとして参加している。まさに『Gスピリッツ』！

ハッキリ言って、『ゴング』の精神は自分たちのほうにあると思ってます！

——よく言われますけど、速報性では携帯サイトにはかなわない、と。では、誌面の一番のウリというのはどこになるんでしょう？

清水　今回あらためて思ったのは、やっぱりプロレスって、ただ単に試合を観るだけのものじゃなくて、勉強なんだよね。

——プロレスは勉強？

清水　本の制作中に新しい発見や発見がたくさんあったんですよ。「えっ？　これ、スクープじゃん!?」ということが発掘できたんですね。小さなスクープだけど、昔からのファンにしてみれば「あぁ、これ凄いじゃん！」というのがたくさんあると思います。もちろん子どもも取り入れなくてはいけないんだけど、いまは子どもたちの遊びも高尚になってきてどんどんマニアっぽくなってきているんで、この本を読んで勉強してほしい。逆に、30代、40代、50代の人たちが読んでも「えっ!?」と思うことがたくさんある。一度プロレスから離れちゃったファンの人たちにももう一回、この本を手にとってもらって、「あっ、こうだったんだ！」ということを再発見してほしいと思いますね。それくらい自分たちで作っているあいだに発見があったし、勉強になった。プロレスはもう、一生勉強だなと思いましたよ。「子どもも大人も、プロレス大人になろう！」、そんな感じですね。

——わかりました。あと、清水さんの人脈でしょうけど、長州さんの人生相談がスタートするとのことですが、よくオッケーしてくれましたね？

清水　今回、「それはできません」って言われることがなかったんですよ。「いいよ、やりましょう」って言ってくれました。本当にありがたいと思いましたよ。まあ、ウチにはタマはたくさんありますから（ニヤリ）。

——自信満々ですね（笑）。そもそも、『Gスピリッツ』というタイトルは清水さんがつけたんですか？

清水　マスカラスがつけてくれたんですよ。マスカラスが一方的につけてくれて、「あっ、いいじゃん！　いただき！」って感じで（笑）。

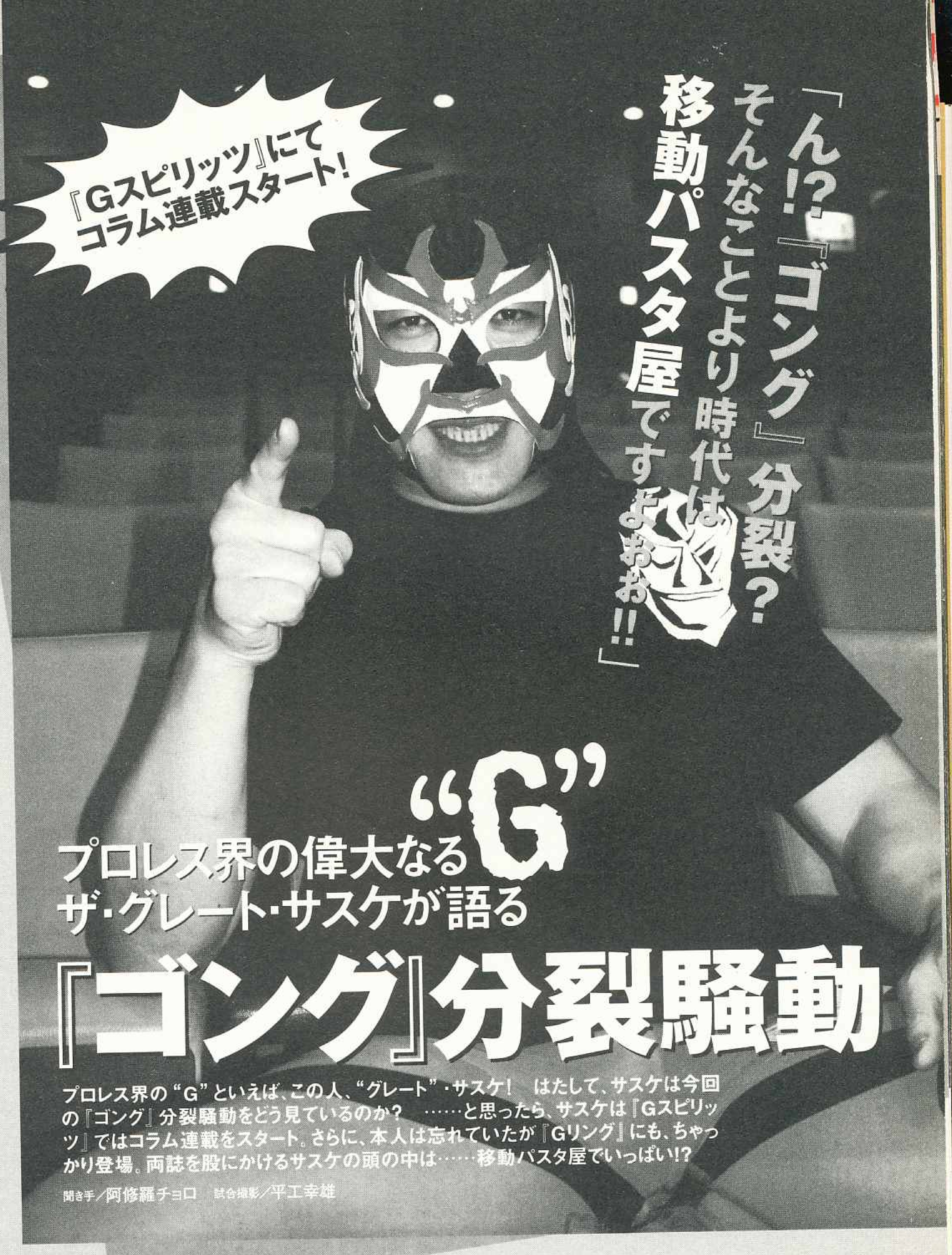
——さすがドクトル・ルチャ！（笑）。

清水　あとね、やっぱり、いままでの月刊誌とは作りを変えてますから。それがいまの時代に合っているのか、プロレスファンが望むものかはわからないけど、「進化するとこうなるよ」ってかたちにしています。装丁からデザインから、いままでのプロレス月刊誌や週刊誌とは違う雰囲気になっているはずです。

——ウチの雑誌は格闘技も扱っていますけど、ライバル誌というか競合誌になりますね。

清水　一緒に頑張っていきたいなと思います。私は紙媒体は多いほうがいいと思うし、みんなに頑張ってもらいたい。『kamipro』さんも『週プロ』さんも、みんなで一緒にね。

【07年8月30日／みちのくプロレス後楽園大会会場にて収録】



「ん!?『ゴング』分裂? そんなことより時代は移動パスタ屋ですよぉお!!」

『Gスピリッツ』にてコラム連載スタート!

プロレス界の偉大なる"G" ザ・グレート・サスケが語る

『ゴング』分裂騒動

プロレス界の"G"といえば、この人、"グレート"・サスケ! はたして、サスケは今回の『ゴング』分裂騒動をどう見ているのか? ……と思ったら、サスケは『Gスピリッツ』ではコラム連載をスタート。さらに、本人は忘れていたが『Gリング』にも、ちゃっかり登場。両誌を股にかけるサスケの頭の中は……移動パスタ屋でいっぱい!?

聞き手/阿修羅チョロ　試合撮影/平工幸雄

——今回は『週刊ゴング』のスタッフが分かれるかたちで『Gスピリッツ』と『Gリング』という"G"とつく雑誌が2冊創刊となりまして、プロレス界で"分裂"といえば、やはりサスケさんということで、お話をうかがいに来ました!

サスケ　そうだねぇ、分裂といえば、やっぱり、デルフィン、コノヤロー! ……って、べつに私は分裂事情は詳しくないですから(笑)。

——間違えました。"G"といえば、"グレート"・サスケということで話を聞きに来たんでした。

サスケ　よっ、待ってました! パチパチパチパチ!!(大げさに拍手)。

——お待ちでしたか(笑)。

サスケ　待ってたのはいいんだけどねぇ、ぶっちゃけ『Gスピリッツ』さんのほうは私の大型連載コラムがスタートするんで知ってるんだけども、『Gリング』さんのことはよくわからないんですよ(※と言いながらも『Gリング』にもロッシー小川のサスケインタビューが掲載されてました。さすがサスケ!)。

——『Gリング』はですね、"GK"こと金沢克彦統括プロデューサーのもと、イメージガールは夏目ナナさんという雑誌ですね。あと、サスケさんもよくご存知のターザン山本!さんもライターとして参加してるみたいです。

サスケ　へぇ~、そうなんだ。なんか"G"がつかめてきましたよぉ!

——いくらなんでも早すぎます(笑)。で、サスケさんのコラムが掲載されている『Gスピリッツ』は、編集長の"ドクトル・ルチャ"こと清水勉さんとの付き合いから連載が始まったんですよね?

サスケ　清水さんとは、もう長年の付き合いになりますからね。でもね、清水さんの狙いとしては、そういうのを抜きに、プロレスファン以外の一般層にも読者を拡げたいということで私を指名してくれたみたいですよ。

——サスケさんといえばプロレス界で1~2を争う知名度ですからね。

サスケ　いやいやいやいや(必要以上に恐縮)。それはいいとして、清水さんから言われたのは「プロレスについてはあえて書かないでくれ」と。なんなら「プロレスの"プ"の字も出さなくてけっこう」と。

——ほう。タイトルは「サスケの愛のミステリーサークル」ってことみたいですけど、やっぱりUFO関係の内容になるんですかね。

サスケ　もちろん、そういった内容がメインになってくるでしょうね。ほかにも「プロレスよりも超常現象関係を書いてくれ」と言われてますから。

——超常現象特集が恒例の『kamipro』12月号じゃないんですから(笑)。まあ、"UFO研究家"という肩書も持つサスケさん的にはお手のものですよね?

サスケ　そうですね。「任せてくれ!」って二つ返事でオッケーしましたから。

——サスケさんは『ゴング』の休刊のときには、「ただ単に疫病神がとりついてしまっただけなんだと信じています。私にはその疫病神が見えます」という素敵なコメントを発表してましたけども(笑)。休刊については大川興業の大川総裁から聞いたんですよね?

サスケ　そう! ネタでもなくて、ホントに大川総裁から聞いて驚いたんだけどね。でもね、確かに、その頃は見えてたんだよ、疫病神が。

——見えてましたか! 今回は、その疫病神が消えたので2誌が創刊されたんですかね?

サスケ　そういうことでしょう。まあでも、今回『ゴング』が分裂したってことだけど、もともと私はね、レスラー間でもマスコミさんなんかにしても"何々派"っていうのはないんでね。

——確かに、サスケさんは『週プロ』や『ゴング』、『ファイト』だけでなく、『kamipro』にも昔から頻繁に出ていただいてますしね。

まさにGショック！
『ゴング』分裂騒動の真実

サスケ　そうそう。だから、私はそういう意味では『週プロ』派でもあり、『ゴング』派でもあり、『kamipro』派でもあり、『東スポ』派でもあると。要は「無所属・新」みたいな感じなんでね。

――「無所属」はいいですけど、なんで「新」なんですか（笑）。

サスケ　気持ちはいつでも新人のようにフレッシュさが売りですから。それに、みちプロの場合は、ずっと地方でやってましたから、そういったマスコミさんのしがらみだったり、派閥っていうのはよくわからないというのが本音なんだよね。

――東北まで情報が届いてこないと？（笑）。

サスケ　そうそうそう（笑）。でもね、（急に小声になり）ここだけの話、私のコラムは、むしろ『kamipro』の読者層のほうに響いてくる内容だと思うんですよ。

――あ、そうなんですか（笑）。

サスケ　響くっていうのは、「心に響く」っていう意味でね。たぶんねぇ、従来の『ゴング』の読者の方は私のページを飛ばすと思います！（キッパリ）。

――そんなに断言しなくても（笑）。

サスケ　見ないで飛ばしますよ、絶対！　ホントにプロレスの"プ"の字も書いてないですから。

――"プ"の字も書いてないですか（笑）。

サスケ　一切書いてません。調べてもらってもかまわないです！

――遠慮なく調べさせてもらいます（※発売後に調べてみるとコラム内に"プ"の字は4回ほど出てきてました。さすがサスケ！）。

サスケ　ゴング分裂騒動もいいんですけど、そんなことより一つ言いたいことがありまして。よろしいですか？

――突然、なんでしょう？　もしかして、サスケさんが新たな事業として考えているという移動パスタ屋のことですか？

サスケ　（間髪入れず）そのとおり！　さすがやねぇ。

――なんで大阪弁なんだ（笑）。

サスケ　いやいや、私がやろうとしてる移動パスタ屋は大阪発なんでね。

――そういうことでしたか（笑）。たしか、『HANAサスケ』っていう店名になるんでしたっけ？

サスケ　あのね、正式には『スピードパスタHANA　ザ・グレート・サスケ』みたいな感じで。まあ、略して『HANAサスケ』でもいいんだけどね。

――それは、かなり具体的な話なんでしょうか？

サスケ　ホントはね、8月中にスタートする予定だったんですけど、ちょっと準備に手こずってまして。まあ、9月中には動きだすんじゃないかな、と。

――え、9月中に動きだすって、もうそんなに時間ないですよ？

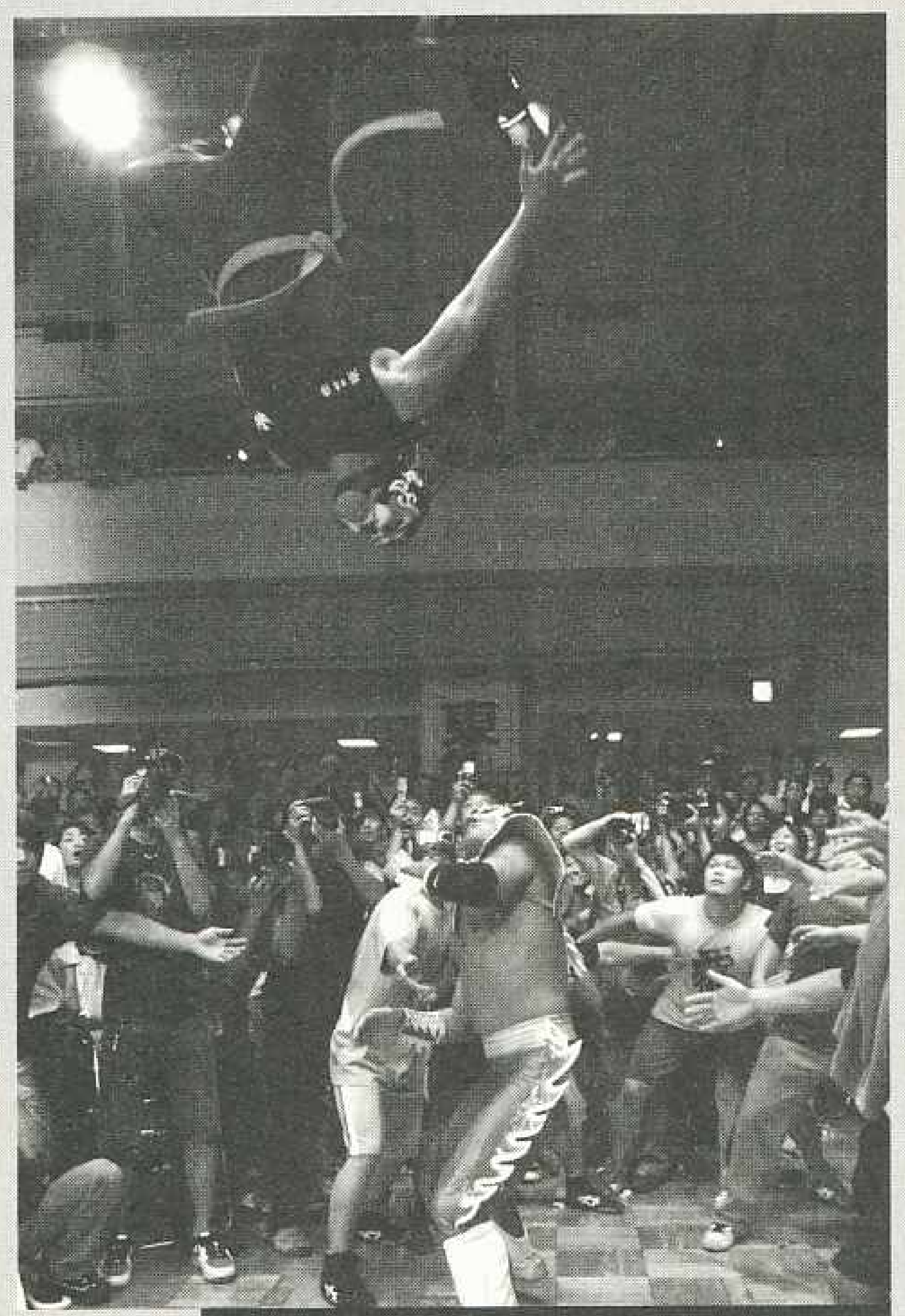
サスケ　全然ノー問題。近々、正式に発進できると思いますんで。

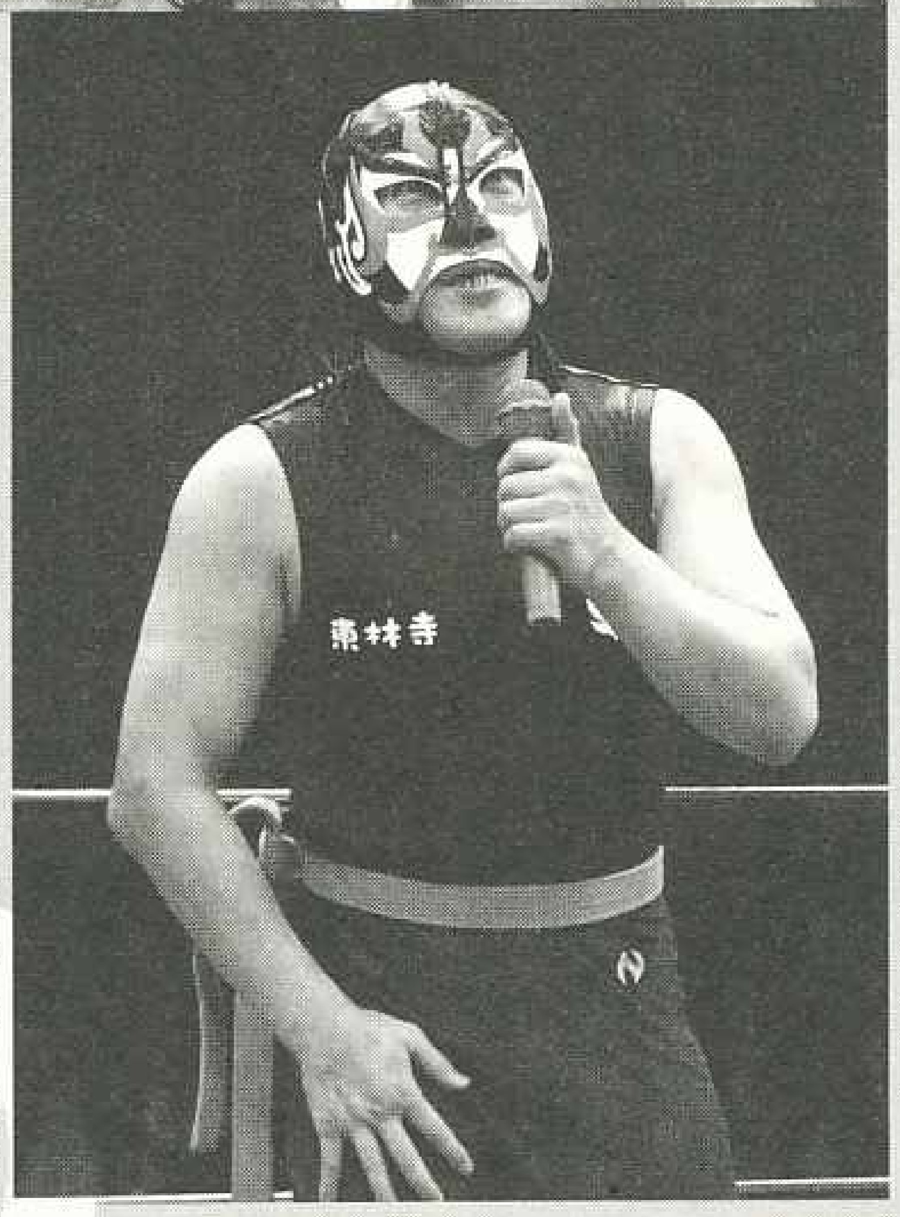
――当初の構想どおり、運転手は別にいて、サスケさんが接客をするかたちになるんですか？

サスケ　私はね、要所要所でマスコミ対応して、実際にはあんまり日々は動かないと思います。ただ、ポイントポイントでは接客したいと思ってますね。

――運がよければサスケさんのマクドナルドやリンガーハット仕込みの料理の腕前を味わえると？（笑）。

サスケ　そうそうそう（笑）。ハンバーガーはともかく、リンガーハットは長崎ちゃんぽんの店でパスタと同じ麺類なんでね。もう、任せてよ！（ドンと自らの胸を叩く）。





岩手知事選敗北のショックもあり、しばらくリングから離れていたサスケが8・30みちプロ「第4回ふく面ワールドリーグ戦」後楽園大会で復活。ウルティモ・ドラゴンと対戦したサスケは、ひさびさの試合とは思えないような動きでウルティモを追い込むも、最後はアサイDDT2連発で敗退。試合後は「死ぬまでやらせてください！」と観客にアピール。

従来の『ゴング』読者の方は私のコラムは見ないで飛ばすと思います！

――期待してます（笑）。

サスケ　まあでも、基本的には専門のスタッフがいて、若い女性が接客するというのが『HANA』のコンセプトなんで。私と会えた人はホントに運がいいかもしれない、うん。

――サスケファンの皆さんは東北中を頑張って探してみてください！

サスケ　そういうことです。私は神出鬼没ですから。でもね、都内だと佐山さんのブランドでやるんですよ。

――えっ!?　佐山さんも移動パスタ屋をやられるんですか？

サスケ　そうそう。

――『スピードパスタHANA・佐山サトル』ですか？

サスケ　いや、たぶん『スピードパスタHANA・初代タイガーマスク』になるんじゃないかな。まあ、詳しくはね、『スピードパスタHANA』のホームページを見てもらえば徐々に全貌が明らかになっていくと思いますんで。

――楽しみにしてます。強引に話を戻しますが、『Gリング』に載っているサスケさんのコラムは……。

サスケ　（さえぎって）いやいやいや、私のコラムが載ってるのは『Gスピリッツ』のほうですから！

――し、失礼しました！

サスケ　そこは間違えちゃいけない。たぶん私のコラムは『kamipro』読者も波長が合うと思いますんで。

――じゃあ、『Gスピリッツ』でサスケさんのコラムを読んでおもしろいと感じた人は『kamipro』も読んでも楽しめると？

サスケ　そういうこと！　『Gリング』のほうは現時点で私はわからないですけども、皆さん、思いきって全部買っちゃいましょう！

――え、全部買わなきゃいけないんですか？

サスケ　まあ、ご祝儀ということで。お金に余裕がないという方は、まずは『kamipro』からということでお願いします！　……という感じでよろしいですか？（真顔で）。

――よろしいかと思われます（笑）。ありがとうございました！

【07年8月30日／東京・水道橋・後楽園ホールにて収録】

『kamipro』編集部が勝手にジャッジ



どっちが"ゴング"ショー

「『ゴング』分裂騒動の真実」なんて、大げさなタイトルをつけてしまった、この特集。最後は前号でひっそり予告したとおり、どちらが真の"ゴングの魂"継承者なのか、『kamipro』編集部で勝手にジャッジしてみました。『Gスピリッツ』、『Gリング』の関係者の皆さま方、怒っちゃ、や〜よ！それでは、どっちが"ゴング"ショー、スタート!!

まさにGショック！
『ゴング』分裂騒動の真実

"変態"UWF研究家 堀江ガンツ



どっちが『ゴング』か？ といえば、あらゆる点で、いい意味でも悪い意味でも"ゴング"でしかない『Gリング』に軍配が挙がるだろう。対する『Gスピ』は小ぎれいでいい本だと思う。ただ、あれじゃ『ゴング』というより『ゴン格』であり、もっといえばDVD付きの『UPPER』ではないか！ ところで気になったのは、双方とも『三者三様』が載っていること。確かに『ゴング』の長寿企画であるが、これを本当におもしろいと思っている読者ははたしているのだろうか？ よけいなお世話だが、新しいものを作るなら、真っ先になくすべきものではないのかと思います。竹内宏介さんは大リスペクトしてますけど、あのコーナーだけは悪しき「爺リング」であり、「爺スピリッツ」だ。

NOAHヲタ 真下義之

ドロー

両誌を読んでいる最中、何か決定的な『ゴング』らしさが足りない気がしていた……。"それ"を発見したのは、同時期に出た『プロレス八百長伝説ケーフェイ2』（インフォレスト株式会社）を見たとき。そこにはなぜか『ゴング』連載陣だったあの河口仁氏のマンガが掲載されていたのだ。中西学vs関本大介戦に「すげえ。すげえ」と大感激！ 関本敗戦に「くやしい くやしいよォ」と詩の朗読。最後は「プロレスの神さま、どーもありがとー」でキメ！ この過剰なピュアネスさこそ"ゴングの魂"！ ライターの引っぱり合いよりも、一刻も早く河口仁を獲得しろって！

元・卓球少女似 松下ミワ



『PRIDE』から格闘技を観始めた自分には、たいへん申し訳ないのですが"『ゴング』っぽい"ということが何を指すのか、ちょっとよくわかりません。でも、『GONKAKU』ならわかるので、それで判断させていただくと、あきらかに『Gスピ』のほうが"スポーツグラフィック"的で『ゴング』っぽいのではないかと思います！ ただ、『Gスピ』のコラムページは、なんだか『kamipro』っぽいような気がしないこともないですが……。みのも先生の漫画はおもしろかったし、ま、いっか！

「バ〜カ!!」 上杉捨てゼリフ



ボクがプロレス週刊誌を読んでいたのは中学・高校生の頃のことですが、正直言って当時は『週プロ』派だったので、『ゴング』を読んだのは『週プロ』が売り切れてコンビニに置いてなかったときだけ。なので「どっちが『ゴング』か」と聞かれても、本当に申し訳ないのですが、よくわかりません。そんなことから、『ゴング』っぽさはさておき、「週刊ゴングの純血スタッフがここに集結！」と表紙にコピーを打っていながら、元『kamipro』のスタッフが混じっていたりもする『Gスピリッツ』の心意気に敬意を表して、『Gスピ』に一票入れさせていただきます。

プロレス探検隊添乗員 坂井ノブ



両誌を読み比べたときに、一際異彩を放っているのがプロレス探検隊・GK隊長……、ではなくて『Gリング』統括プロデューサー・金沢"GK"克彦氏によるギラギラした巻頭原稿だろう。そんなGKにターザン山本！氏が「なぜ俺が表紙じゃないのに、猪木さんとGKが表紙に出てるんだ」と『ターザンカフェ』で絶縁状を叩きつければ、GKも『kamipro Hand』のコラムで「山本錯乱」と四字熟語で応戦するなど、早くもお家騒動が勃発している。そんなわけでとにかくエネルギッシュな『Gリング』に一票！ というわけで、今月の四字熟語は「隊長活躍」。期待しております！（敬礼）。

ホームレス編集者 阿修羅チョロ



"どっちがゴングか"は、ひとまず置いといて、両誌のすべての企画の中で、一番熱かった記事は『Gリング』の巻頭の「復活！GK劇場」で間違いないと思う。しかも、4ページの原稿の最後のほぼ1ページがイメージガールの夏目ナナちゃんについてなのだ。原稿中に「昨年秋、雑誌の対談企画で私は彼女と知り合った」と書いているのだが、その企画とは『kamipro』の「3年G組・金沢先生」のこと。そのゲストに夏目ナナちゃんをリクエストしたのはボクなのだが（プチ自慢）、対談後のGKとナナちゃんの急接近ぶりを見るにつけ、うらやましくてしょうがない。ただそれだけの理由で『Gスピリッツ』にしておきます。

でも、やっぱりボクにとっての"ミスター・ゴング"原正英記者が『Gリング』、『Gスピリッツ』はもちろん、『レディース・リング』にも出てないのは寂しい話だよなぁ。

本誌編集長&永久電機博士 ジャン斉藤



多忙につきどちらもちゃんと読んでないからわからない。ただ、『Gスピ』のこの表紙イメージで「激論——革命とゲイ」というコピーはかなりショッキング。断然『Gスピ』の勝ち！……と言いたいところだが、金沢隊長にはたいへんお世話になっているし、俺のこの投票で対決結果はイーブンになるので『Gリング』だ。

さすが編集長ともなると、大人の判断が求められるということです。競合誌（そんな気はまるでしないのだが）の企画ページをこんなに割くわ、争いを丸く収めるわで、勝ったのは『kamipro』じゃないのか!?

kamipro books

驚ガク！ 衝ゲキ!!
kamipro booksシリーズ！
死闘インタビューの
歴史的目撃者になれ!!



吉田豪セメント
インタビュー11連発!!
プロレスインタビュー本の
最濃傑作！

★ストロング小林★田代まさし★猪木快守★イーデス・ハンソン★阿修羅原★鶴見五郎★サムソン・クツワダ★康芳夫★倉持隆夫★田中健一★小川宏

プロインタビュアーの吉田豪が『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビュー――数十本に及ぶその一部を完全徹底再録!! これは"下調べの鬼"が挑む、時間無制限オールセメントマッチだ！

B6変型判　344ページ
定価＝1,890円（本体1,800＋税）



夕焼けがよく似合う
人生のガチンコ勝負!!
プロレス狂がシビれる
凄玉たちの
壮絶インタビュー集！

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武志★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

プロレス狂の胸躍る詩が聞こえてくる――!! プロレスラーや格闘家はもちろん文化人、著名人まで、『kamipro』誌上にて掲載されてきた、濃厚インタビューから特別厳選収録！

B6変型判　304ページ
定価＝1,890円（本体1,800＋税）



"殺し"文句が
プロレス心を熱く打つ！
"活字プロレスの哲人"
井上義啓 追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★殺しのI語録★アントニオ猪木★水道橋博士★金沢克彦★井上義啓・姪★モンターニャ・シウバ

多くの"プロレス者"に影響を与えた"I編集長"こと井上義啓氏の追悼本!! 幻の喫茶店トークから、涙なくしては読めない病床のエピソードまで……。プロレスという"底が丸見えの底なし沼"に浸かり続いた男の凄味を感じろ!!

B6変型判　304ページ
定価＝1,680円（本体1,600円＋税）

enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/

新 卓球少女(似)松下ミワの ハガキ愛ランド

夏の暑さもやわらぎ、風情ある月見の季節になりましたが、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。でも、優雅に月なんか眺めている場合じゃありませんよ。だって、月の裏側には……宇宙人がウジャウジャいるんですから！（韮澤さん情報）。油断してると、アブダクションされちゃうぞ!!（爆笑）。というわけで、さっそく読者ページスタートしましょう。3、2、1、交信、交信、う～、大虐殺！（地球全滅）。

kamipro114号へのお便り紹介

ミルコの全権代理人・今井氏のインタビューがおもしろかったです。オクタゴンの値段や運搬費などがわかったし。また、武蔵選手や秋山選手のこと、今井氏が石井館長と会ったことなど、ほかの格闘技専門誌ではなかなか読めないことがわかってよかったです。

【kamipro Hand投稿】

↓『UFC75』チーク・コンゴ戦のために、“最高”の陣営をそろえたミルコでしたが、無念！　前号でみのも先生が描いたアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ戦の“夢”はおあずけに……。

武藤とインリンの対談がおもしろかった。なんだか、妙に今回の武藤は調子がいいように感じた。やっぱりインリンみたいな人が相手だと、さすがの“天才”もこうなっちゃうんだなと思った。ボクもインリンに会ったら、たぶん、こうなっちゃうんだろうな。

【青森県・ツルッツルさん・30歳】

↓武藤もだけど、今号でインタビューしている曙もインリン様のことを話すときは超ご機嫌。インリン様、さすがです～。

マウリシオ・ショーグンのインタビューがよかった。ひさしぶりにショーグンの写真を見ましたよ。髪も生えて、身体も大きくなって変わったなあ～。そして9月1日に結婚式!?　ビックリです!!

【福島県・紺野春樹さん・会社員・27歳】

↓『UFC76』で、オクタゴンの大スター、フォレスト・グリフィンといよいよ対決！　役者ぞろいのUFCライトヘビー級にも大注目ダー!!

やっぱり山本KIDはおもしろいなと思った。受け答えはあいかわらず荒々しいが、人を惹きつける言語センスは抜群！　プロレスラーの豪放な語録もいいが、KIDは自分のオーラを言葉にできる。それがKIDの魅力だと思う。

【kamipro Hand投稿】

↓「KIDクンには弱いんだよなあ～」とサダハルンバが語っていたとおり、とにかく凄い自信とオーラ！　一部で噂されていた他団体移籍の前に、やっぱり『HERO'S』への参戦が決まりましたが、本誌発売日には結果が出ているはず……。はたしてどっちに転んでいるでしょーか？

激変するUFCの記事は勉強になりました。UFCの歴史がわかっておもしろかったです。

【広島県・岡部怜央さん・学生・16歳】

↓だけど、テレビで観られません。関係者の方、せめて「YouTube」から削除するの、もうちょっと遅らせてください。

“世界一性格が悪い男”鈴木みのるをビビらせる「船木誠勝 狂気の座談会」がおもしろかったです。ジャッキー・チェンと中山美穂を用意できる川村龍夫さんはいまのマット界に必要ですよ！

【兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳】

↓「船木が子どものときに味わえなかった父性を探している」説にはジーンときますね！　大晦日『Dynamite!!』では桜庭和志戦が実現するのでしょうか？

カール・ゴッチ追悼特集の中の、アントニオ猪木インタビューがよかった。アントン総帥が一番夢が小さい！　そして金に目がくらんでいる!!　船木さんを「金のために復帰する」とか言える立場ではないだろう。しかし、エスペランサあふれるアントン語録は充分に楽しませていただきました。“ゴッチイズム最大の誤解者”、それがアントニオ猪木。

【茨城県・和田智裕さん・フリーター・24歳】

↓非常に厳しい意見をいただきました。でも、ダイヤモンド発掘は想像するだけでワクワクしますけどね！

一番はマサ斎藤インタビューだね！　日本でのMMAが低迷する一方、あんな話を聞けてよかったです。やはり『kamipro』の醍醐味としてはああいう 異人変人コーナーは 必要でしょう！

【kamipro Hand投稿】

↓「これぞ男の憧れ」という投稿多数！　目が見えなくても試合をしてたなんて……。まさにゴー・フォー・ブロック！　超人すぎます!!



やっぱりヴァンダレイの記事が一番おもしろかったかな？　でも「オレたちは『PRIDE』の孤児になった……」の発言は、悲しかったなぁ。

【kamipro Hand投稿】

↓『UFC79』でいよいよUFCデビュー！　今年の年末はアメリカも大変なことになりそうです。

秋山問題の座談会を興味深く読ませていただきました。秋山問題に絡んでネットのいろいろなところで『PRIDE』vsK―1が繰り広げられていて、盛り上がってるのはいいことなんですが……、俺は正直、“秋山ブッ潰せ側”なので、そうゆう意味では早く復帰させてほしいっすね。とゆーか、座談会、参加させて下さい。読者代表で。

【kamipro Hand投稿】

↓この投稿者に座談会の招待状が届くかどうかは不明ですが、秋山からはサダハルンバ宛に反省の手紙が届いたようです。いったい、いつ復帰するんでしょうか～？

ビル・ロビンソンの記事がよかったと思います。ロビンソンが思っていたカール・ゴッチの身近な話が読めてよかったです。『kamipro』ならではの貴重な記事ですね。

【kamipro Hand投稿】

↓「だから私はカール・ゴッチを極めることはしなかった」という発言から、ビル・ロビンソンの人格がうかがえますね！

114号・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	船木誠勝座談会
2位	マサ斎藤
3位	ミルコ・クロコップ特集
4位	ヴァンダレイ・シウバ
5位	カール・ゴッチ追悼企画

114号、1位に輝いたのは、電撃の復活宣言から興奮冷めやらぬ中で収録した“マッドネス”な船木誠勝座談会！　続いて、かなりの僅差で2位のマサ斎藤さんがランクイン。今号の後編もお楽しみくださ～い。現地クロアチアにまで潜入して取材を敢行したミルコ企画は堂々の3位に。ゴッチさんのことをほとんど語っていないアントンインタビュー含むゴッチ企画は5位に入選です！

プロレス探検隊にまさか蝶野が出てきてくれるとは思わなかった。GKはともかくとして、小松隊員が蝶野のコーディネイトでカッコよくなっているところに、ショップのオーナーとしてのプライドを感じた。下北に行く際にはぜひのぞいてみたい。

【埼玉県・ドリームランドさん・28歳】

↓確かに、小松隊員はかっこよくなっています！　そこのあなたもちょい不良オヤジ目指して、アリストトリストに行ってみましょー。



吉田のインタビューが意外とおもしろかった。吉田道場が秋山と一緒にやろうと思ったことがあったのは意外だった。ただ、「僕らが一緒だったら、絶対に違う結末になっていた」っていうのは、いったいどういう意味だったんだろう……？

【高知県・夢はパイロットさん・34歳】

↓言葉の真意はよくわかりませんが、とりあえず、今度から秋山成勲のことは“アッキー”と呼びましょ～。



東京都・サカモトカズヤさん
↓9月8日『UFC75』で対戦したダンヘン&ランペイジ。う～ん、やっぱりUFCもテレビで観たいよー。





埼玉県・棘蟹さん
↓またもや森嶋のイラスト登場！ なぜ『kamipro』に森嶋のイラストばかりが届くのか……。

スクープ！ ザ・目撃!!

●先日、土浦の某スーパー銭湯で石田光洋選手を発見！ 思わず声をかけてみたら、すっぽんぽんにもかかわらず、『男祭り』での煽りVと同様にさわやか～に対応してくれました。嬉しかったのと同時に、スーパー銭湯に来るんだ！ っていうことに驚きました。早く『PRIDE』が復活して活躍してほしい!!
【kamipro Hand投稿】

●先日、大阪の某高級ブランドショップで秋山成勲選手を見かけました。秋山選手は店が閉まってからお連れの方二人とともに店をぐるっと回り、何も買わずに出ていきました。……まぁ、なんつーか、元気そうでしたぁ。
【kamipro Hand投稿】

●この前、渋谷を歩いていると、アン・ジョー司令長官を発見しました。若い女性と一緒に歩いていましたが、彼女もモンスター軍の一派だったのでしょうか？
【東京都・109さん】



●いま、大井町の駅で後藤達俊と遭遇しました。黒い靴下に短パン姿で歩いていたのですが、あいかわらず素晴らしい迫力で感激しました。
【kamipro Hand投稿】

●8月5日のDEEPの会場で、中村和裕選手にお会いしました。外見とまったくかわらず、すっごくいい人で、ますます好きになりました。UFCに行ってもガンバレ!!
【神奈川県・大内和彦さん・会社員・33歳】

●今日、高田馬場付近を歩いていたら、バイクに乗っている青木真也選手を発見！ その日『kamipro Hand』の青木選手のブログを見たら、「大人の社交界」という題名になっていたので、きっと"大人"な場所に向かってたんだろうなと思いました。できればボクも一緒に連れて行ってほしかったです。
【kamipro Hand投稿】

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！ ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！ お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！

●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先＆メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「派閥」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

衝撃ショット!!

❶山笠Z"信介レスラー復活祈念!! なぜかS波氏が富士登山に同行！

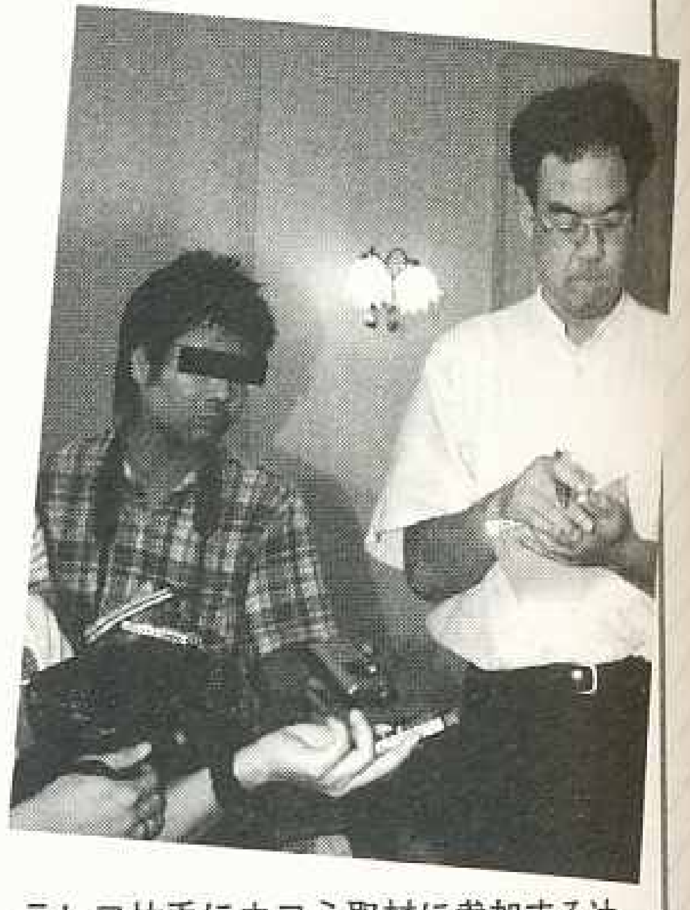
登ったどーッ!! というわけで、またまた本誌常連投稿者・S波氏から写真が到着～。今回は、昨年9月にZERO1-MAXを引退し、現在坂田亘経営の代官山「わたる」で人生修業中の山笠Z"信介（30）が8月15日、レスラー復活を祈念して富士登山に挑んだときの写真だ。その引率同行者として、なぜかS波氏も登場！ こう見えても、S波氏は過去に二度自転車を担いで山頂制覇し、登頂歴10回を超える実力者らしいぞ（仰天）。ちなみに、山笠Z"は通常6時間かかる富士吉田口5合目からの登山道を、遅れるS波氏の待ち時間（2時間）を除くと、計5時間ちょっとで登頂したらしい！ 過去に手術したことのある右ヒザを思わせない軽快な登りっぷりだったとS波氏!! 今後のリングでの活躍にもぜひ期待していま～す！



GMW・Tシャツを広げて登頂した喜びを表現するS波氏と山笠Z"信介。右は「わたる」の店員だ。

❷"あの"辻ちゃんが生きていた！ 『HERO'S』会見場でキャッチ!!

おなじみ、伝説の見習い編集者"辻ちゃん"を8月28日『HERO'S』カード発表記者会見の会見場で発見!! 辻ちゃんといえば、『kamipro』編集部でも歴史に残る辞め方をしたことで"有名"だが（『kamipro』No.118参照）、その後、『ナイタイスポーツ』の営業職に就いたとか、『PRIDE.34』を会場で黒いテンガロンハット姿で観戦していたとか、どこかの野球場で見かけたとか、そんな噂もチラホラ……。しかし！ 今回はこの目で見た!! 前から2番目の記者席を陣取り、カメラを構える辻ちゃん、そして、船木誠勝のカコミ取材に、あいかわらず死んだ魚のような表情で耳を傾ける辻ちゃんを！ 残念ながら、この日、辻ちゃんの声を聞くことはできなかったが、とりあえず、まだマット界に生息していることを確認。目撃写真を見た編集部一同は、そのあいかわらず具合に、爆笑の渦に包まれたのだった。



テレコ片手にカコミ取材に参加する辻ちゃん。この右側には船木がいる。



さあ、明るい未来への列車に乗ろう！ 上井駅長の人生相談

さあ、今号も人生経験豊富な上井駅長にお悩みを解決していただきましょう～。今月は……何やら深刻なお悩みのようです。それでは、どうぞ！

芸人プロレスがどうも許せない

お悩みごと

■プロレスに関する相談
（広島県・UWAIマニアさん・21歳・♂）

いつも上井さんの人生相談を参考にさせていただいています！ UWAI STATIONのことで気になることがあるので、質問したいと思います。この前、UWAI STATIONの記事を『kamipro Hand』で読んだところ、なんと、西口プロレスの長州小力との絡みがあるというではありませんか。僕は、プロレスのリングに芸能人やお笑い芸人が上がるのは前から許せないと思っていました。ストロングスタイル派の上井さんは、芸能人をリングに上げたりしないと思っていたのですが、今回の件はいったいどういう見解なのでしょうか？ 上井さんなら戦略的な何かがあるのだと思いますが、ぜひ教えてもらえませんか!?

上井駅長

「いやいやいや。10月6日に『プチシルマ SPECIAL DREAM』ということでUWAI STATIONをやるんだけども、今回は40～50歳のお客さんを楽しませないといけないということで、プロレスを初めて観るような方にも喜んでもらえるような大会にしないといけないわけですよ。だから、そのきっかけとして長州小力さんやアントニオ小猪木さんにリングに上がってもらうわけだけど、一つ言いたいのは、ボクは決して、今回、このプチシルマプレゼンツの大会があるから彼らにオファーしたわけじゃないからね！ そこは誤解してほしくない（念を押すように）。もう、アントニオ小猪木さんなんて、ビッグマウス・ラウドをやってるときからオファーしてたんだから。しかも、2回もね！ 長州小力さんにしても一緒。ボクは思うんだけど、彼らは本当に真剣にやってますよ。これも誤解されがちだけど、いま、『マッスル』や西口プロレスや、プロレスにもいろんなかたちがあるんだけど、ボクはどんなプロレスも否定したことはありませんよ！ どこのプロレスも本当に真剣にやってるんだから。それはあなたも理解すべき。ボクだって、彼らが真剣にやってることを知ってるからお願いするんであってね。ボクだって、いろんなものを背負って彼らにオファーしてるんだから。それが理解できないんだったら、やっぱり会場に足を運んで観たらいい。あなたもわかるから！（熱血）」

UWAIマニアさん、おわかりになりましたでしょうか？ もっと深く知りたいならば、会場で直接アタックしてみてください
※人生相談ドシドシ送ってください！ 宛先は左記までお願いします!!

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

Fight & Event September 9

21 FRI.

◆全日本／京都・KBSホール(16:00)
◆リアルジャパン／東京・後楽園ホール(18:30)

22 SAT.

イン珠から生まれたのは、まさかのボノ!!
一番槍を務めるRGの運命やいかに?



『ハッスル26』
大阪・大阪府立体育会館(17:00)

決定対戦カード
RG vs モンスター・ボノ
天龍源一郎 vs 大谷晋二郎
坂田亘 vs レネ・ボナパルト　ほか

チケット料金
ハッスルVIP=12,000円、RRS=8,000円、
スタンドS=6,000円、スタンドA=4,000円
◎問=ハッスルエンターテインメント 03-5464-1731

◆UFC／米国・カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンター
◆新日本／石川・石川県産業展示館(18:00)
◆DRAGON GATE／東京・大田区体育館(17:00)
◆K-DOJO／千葉・BlueField(17:30&19:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆修斗／東京・後楽園ホール(17:30)
◆SUN／東京・新宿FACE(18:00)

23 SUN.

◆全日本／兵庫・豊岡市民体育館(16:00)
◆無我ワールド／大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:00)
◆DDT／東京・後楽園ホール(12:00)
◆RIKI OFFICE／大阪・はびきのコロセアム(18:00)
◆IWAジャパン／東京・新宿FACE(18:30)
◆アパッチ／東京・後楽園ホール(18:30)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆club DEEP／山口・新南陽体育館(12:00&18:00)
◆SUN／千葉・君津アクアマリンスタジオ(17:00)
◆息吹／東京・新木場1stRING(12:30)
◆WAVE／大阪・デルフィンアリーナ(17:00)

24 MON.

◆新日本／広島・広島サンプラザ(16:00)
◆全日本／熊本・熊本市流通情報会館(15:00)
◆ZERO1・MAX／千葉・君津アクアマリンスタジオ(15:00)
◆大日本／東京・後楽園ホール(18:30)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
◆押忍闘夢／東京・西調布アリーナ(12:00)
◆覆面マニア／東京・新宿FACE(12:00)
◆JWP／東京・板橋グリーンホール(13:00)
◆NEO／東京・板橋グリーンホール(17:00)
◆OZアカデミー／長崎・西海楽園特設リング(15:00)
◆グラップリング・フェスティバル／東京・北沢タウンホール(13:00&18:30)

25 TUE.

◆全日本／大分・大分イベントホール(18:30)
◆ZERO1・MAX／静岡・キラメッセぬまず(19:00)
◆無我ワールド／福岡・アクロス福岡(18:30)
◆WAVE／東京・新木場1stRING(19:00)

26 WED.

◆ユニオン／東京・新木場1stRING(19:30)

27 THU.

◆全日本／長崎・長崎市平和会館(18:30)
◆DRAGON GATE／神奈川・相模市総合体育館(18:30)

28 FRI.

◆全日本／鹿児島・鹿児島市民体育館(18:30)
◆ZERO1・MAX／福島・会津アピオスペース(18:30)
◆DRAGON GATE／長野・長野市運動公園総合体育館(18:30)
◆シュートボクシング／東京・両国国技館(15:00)
◆R.I.S.E.／東京・新宿FACE(17:20)

29 SAT.

◆K-1／韓国・ソウル、オリンピック第1体育館
◆全日本／福岡・博多スターレーン(18:30)
◆NOAH／大阪・大阪府立体育会館(17:00)
◆DDT／東京・新木場1stRING(25:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆フーテンプロ／神奈川・ラゾーナ神奈川(18:00)
◆修斗／大阪・アゼリア大正(14:00)
◆全日本キック／東京・後楽園ホール(18:00)

30 SUN.

◆ZERO1・MAX／東京・後楽園ホール(12:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆K-DOJO／千葉・BlueField(13:30&15:00)
◆ターザン後藤一派／東京・浅草インディーズアリーナ(17:00)
◆パンクラス／大阪・梅田ステラホール(16:00)
◆キングダムエルガイツ／東京・新宿FACE(12:30)
◆シュートボクシング／東京・後楽園ホール(18:00)
◆WAVE／東京・新木場1stRING(18:30)
◆長与千種プロデュース興行／東京・ディファ有明(18:00)
◆風香祭／東京・新木場1stRING(12:30)

Fight & Event October 10

2 TUE.

◆DRAGON GATE／大分・大分イベントホール(18:30)

3 WED.

魔裟斗が前年度覇者・ブアカーオと一回戦で
いきなり激突!! トーナメントを制するのは誰だ?



『K-1 MAX～世界一決定トーナメント決勝戦～』
東京・日本武道館(17:00)

決定対戦カード
【世界一決定トーナメント】
魔裟斗 vs ブアカーオ・ポー.プラムック
マイク・ザンビディス vs アルトゥール・キシェンコ
アルバート・クラウス vs 佐藤嘉洋
アンディ・サワー vs ドラゴ
【トーナメントリザーブマッチ】
小比類巻貴之 vs ヴァージル・カラコダ
ダニエル・ドーソン vs ソフィアン・アローシェ
【スーパーファイト】
HIROYA vs クォン・オルチャン　ほか

チケット料金
SRS席=28,000円、魔裟斗応援シート=15,000円、
SS席=15,000円、S席=10,000円、A席=6,000円
◎問=FEG 03-3796-5060

20 SAT.

アンデウソンとフランクリンが激突!
ヘビー級の新鋭ベラが前王者シルビアに挑む!!



『UFC77 HOSTILE TERRITORY』
米国・オハイオ州シンシナティ、U.S.バンクアリーナ

決定対戦カード
【UFCミドル級タイトルマッチ】
アンデウソン・シウバ(王者) vs
リッチ・フランクリン(挑戦者)
ティム・シルビア vs ブランドン・ベラ　ほか

◆新日本／山口・柳井市体育館(18:00)
◆NOAH／福岡・久留米リサーチパーク(18:00)
◆DRAGON GATE／静岡・アクトシティ浜松(18:30)

21 SUN.

◆新日本／福岡・アクロス福岡(16:00)
◆DRAGON GATE／京都・KBSホール(17:00)
◆DDT／東京・後楽園ホール(12:00)
◆K-DOJO／千葉・BlueField(13:30&15:00)
◆新日本キック／東京・後楽園ホール(未定)
◆JWP／東京・新宿FACE(17:00)
◆OZアカデミー／東京・新宿FACE(13:00)

22 MON.

◆新日本／長崎・長崎県立総合体育館(18:30)
◆NOAH／福岡・博多スターレーン(18:30)
◆アパッチ／東京・後楽園ホール(19:00)
◆ソウルコネクション／東京・新宿FACE(19:00)

23 TUE.

◆新日本／宮崎・都城市体育館(18:30)
◆WAVE／東京・新木場1stRING(19:00)

24 WED.

◆新日本／福岡・小倉北体育館(19:00)
◆NOAH／静岡・キラメッセぬまづ(18:30)

25 THU.

◆NOAH／神奈川・横浜赤レンガ倉庫(18:30)
◆El Dorado／東京・新木場1stRING(19:30)
◆全日本キック／東京・国立代々木競技場第2体育館(18:00)

26 FRI.

◆新日本／愛媛・松山市総合コミュニティセンター(18:30)
◆DRAGON GATE／広島・広島グリーンアリーナ(18:30)

27 SAT.

◆新日本／鳥取・鳥取産業体育館(18:00)
◆NOAH／東京・日本武道館(18:00)
◆みちのく／東京・新宿FACE(19:00)

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

◆全日本／東京・後楽園ホール(12:00)
◆DRAGON GATE／静岡・ツインメッセ静岡(19:00)
◆DDT／福岡・小倉ミックスホール(13:00)
◆T-1／東京・新宿FACE(18:39)
◆大阪プロ／大阪・IMPホール(13:00)
◆修斗&MAキック合同興行／愛知・名古屋国際会議場イベントホール(15:00)
◆R.I.S.E.／福岡・博多スターレーン(17:00)
◆SUN／岐阜・岐阜商工会議所(17:00)
◆OZアカデミー／大阪・IMPホール(18:00)

9 TUE.

◆NOAH／三重・津市体育館(18:30)

10 WED.

◆ハッスル／東京・後楽園ホール(18:30)
◆LOCK UP／三重・四日市オーストラリア記念館(18:30)
◆全日本／青森・弘前市河西体育センター(18:30)
◆NOAH／愛知・豊田市運動公園体育館(18:30)

11 THU.

◆LOCK UP／愛知・豊橋市総合体育館(18:30)
◆全日本／青森・青森産業会館(18:30)
◆グレートプロ／東京・新宿FACE(19:30)

12 FRI.

◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール(18:30)
◆みちのく／岩手・滝沢村総合運動公園体育館(18:30)

13 SAT.

◆全日本／岡山・岡山県卸センターオレンジホール(18:30)
◆NOAH／東京・ディファ有明(18:00)
◆DRAGON GATE／埼玉・桂スタジオ(18:30)
◆みちのく／岩手・一関市総合体育館(18:30)
◆伊藤道場／東京・新宿FACE(12:00)
◆スマックガール／東京・新宿FACE(未定)

14 SUN.

◆NOAH／京都・KBSホール(17:00)
◆DRAGON GATE／新潟・新潟フェイズ(16:00)
◆大日本／東京・後楽園ホール(18:30)
◆K-DOJO／千葉・BlueField(未定)
◆パンクラス／東京・ディファ有明(16:00)
◆JWP／東京・板橋グリーンホール(17:00)
◆NEO／東京・板橋グリーンホール(13:00)

15 MON.

◆全日本／山口・新南陽体育館(18:30)

16 TUE.

◆ハッスル／東京・後楽園ホール(18:30)
◆全日本／和歌山・ガーデンホテルハナヨ(18:30)
◆NOAH／岡山・岡山県卸センターオレンジホール(18:30)
◆WAVE／東京・新木場1stRING(19:00)

17 WED.

◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE(19:00)
◆大日本／静岡・藤枝蓮華寺池広場特設リング(18:30)

18 THU.

◆新日本／長野・飯田市勤労者体育センター(18:30)
◆全日本／東京・国立代々木競技場第2体育館(19:00)
◆DRAGON GATE／富山・高岡テクノドーム(18:30)
◆SUN／東京・新木場1stRING(未定)

19 FRI.

◆NOAH／宮崎・宮崎ダイヤモンドホール(18:30)
◆DRAGON GATE／石川・七尾総合市民体育館(18:30)
◆SUN／東京・新木場1stRING(未定)

4 THU.

◆El Dorado／東京・新宿FACE(19:00)

5 FRI.

◆仙台女子／宮城・Zepp Sendai(19:00)

6 SAT.

上井駅発、ダンスの世界へ!?
メインはプチシルマ軍団vsパラパラ軍団!!



『UWAI STATION プチシルマSPECIAL DREAM』
東京・日本武道館(17:00)

出場予定選手
ラッキィ池田、長州力、高瀬大樹、浜中和宏
チケット料金
ロイヤルシート=15,000円、リングサイドAシート=10,000円、リングサイドBシート=5,000円
◎問=上井オフィス 03-5766-0079

◆DRAGON GATE／鳥取・米子コンベンションセンター(18:30)
◆DDT／熊本・熊本流通情報会館(18:00)
◆NEO／東京・板橋グリーンホール(18:00)

7 SUN.

◆NOAH／東京・後楽園ホール(18:30)
◆DRAGON GATE／愛知・テレピアホール(18:00)
◆DDT／福岡・博多スターレーン(15:30)
◆K-DOJO／福岡・博多スターレーン(19:00)
◆大日本／福岡・博多スターレーン(12:00)
◆ZST／東京・ディファ有明(17:30)
◆SUN／大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:00)

8 MON.

G1を制した棚橋がIWGPに挑戦!!
我らが永田さんの長期政権なるか!?



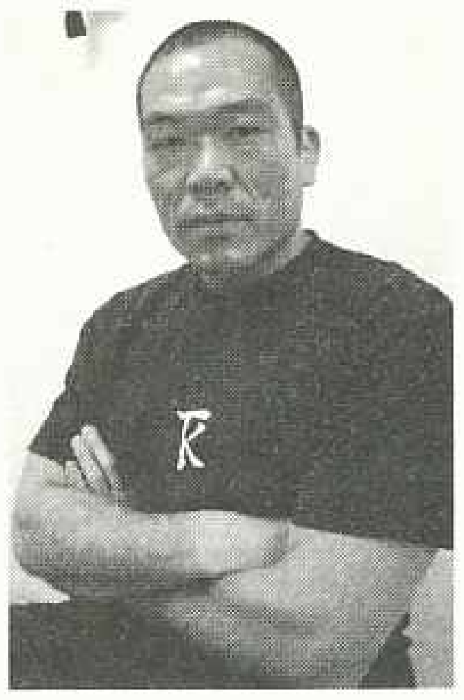
『新日本 EXPLOSION '07』
東京・両国国技館(17:00)

決定対戦カード
【IWGPヘビー級選手権】
(王者)永田裕志 vs (挑戦者)棚橋弘至　ほか
チケット料金
特別リングサイド(イス席)=10,000円、リングサイド(枡席)=7,000円、1F指定席(枡席)=5,000円、2F特別席=6,000円、2F指定席=4,000円、小中高生・シニア=2,000円
◎問=新日本プロレスリング 03-6407-3111

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

Gym

“世界のTK”の教えがさらに拡大!
ゴールドジム成田に髙阪剛のジムが併設!

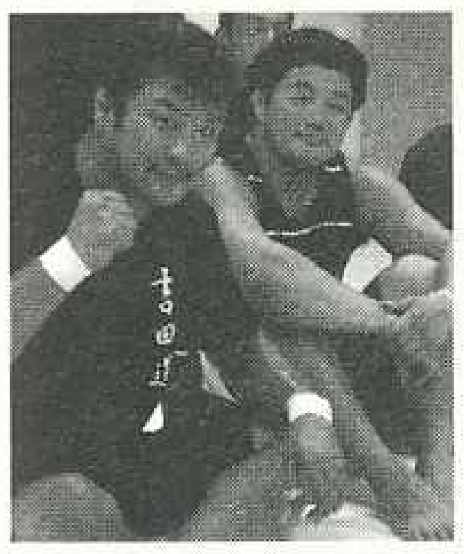


コーチとしても技術解説者としても定評のある“世界のTK”こと髙阪剛の格闘技スクールが拡大!『ALLIANCE-SQUARE』の支部が成田に開設。これはゴールドジム成田千葉内に併設されたもので、毎週火曜日と土曜日のクラスをTKが受け持ち徹底指導する。なお9月度は入会金無料。興味を持った方は急いでアクセス!

★HP http://www.alliance-square.jp/ ★問 0476-29-6622

Gym

総合のほうでもできるかな?
吉田道場、総合格闘技専門ジムをオープン!



総合ジムもできるかな? 吉田秀彦率いる吉田道場が東京・品川区に初の総合格闘技ジム『J-ROCK workout studio』をオープン! トレーニング機器や100平方メートルのマットスペースなど環境も充実。初心者からプロ志望まで道場所属選手が直接指導するクラスも開設して、現在会員募集中。詳細はホームページでチェック!

★HP http://www.yoshidadojo.com/ja/ ★問 03-5702-0009

Book

波乱の人生55年を語りまくる!
GK隊長、長州力と“最後”の対談集を発売!



「オイ! 金沢!!」(by長州力)のかけ声でおなじみの、あの二人が帰ってきた。本誌で“GK隊長”として活躍中の金沢克彦氏が、天下の長州力との“最後の”対談集を発売。長州が自身の生い立ちから現在まで波乱の55年間を語り尽くしたこの本は、長州が遭遇したミュンヘン五輪のテロ事件やゴッチ教室離脱の真相といった秘話や、暴露本に関しての意見など、GKだから聞けた本音が「タコ、コラァ!」と爆発する決定版だ。

★『力説 長州力という男』長州力、金沢克彦（著）1,890円（税込）（エンターブレイン）発売中

Book

荒ぶる落武者が怪気炎!
ターザン山本!の新刊が発売ですよォォ!



このままでは“プロレス難民”ですよォォ!『週刊プロレス』編集長時代には公称40万部に引き上げたターザン山本!氏（現在は実践文章講座などで活躍）がひさびさにプロレス本を刊行!『週刊ゴング』、『週刊ファイト』の二大専門誌はなぜ休刊になったのか? 両誌（紙）の元編集長である“GK”金沢克彦氏、井上譲二氏に直撃! 大きくて読みやすい文字級数の親切設計で発売中!

★『「週刊ゴング、ファイト」を殺したのは誰だ!』ターザン山本（著）（東邦出版）1,470円（税込）発売中

DVD

最強夫婦がゴーストバスターズ化?
健介&北斗がDVDで最凶“都市伝説”に挑む!



信じるか、信じないかはアナタ次第です……。昨今の都市伝説ブームを受けて、いまや日本一有名なプロレスラー夫妻である佐々木健介と北斗晶がなぜか都市伝説にヴァーッと挑むスピリチャルバラエティDVDがコレ。最強の夫婦が全国津々浦々の都市伝説の発祥地へおもむき、いまだかつて体験したことのないような数々の恐怖と直面! 謎の解明や伝説の真偽を検証する。正直、最凶ッ!

★『最強夫婦vs最凶都市伝説』（ジェネオンエンタテインメント）3,990円（税込）発売中

Book

みなさん、愛してま〜す!
“マッスル王子”こと棚橋が日記本を発売!



「愛してま〜す!」と今年G1初優勝をはたして絶好調の“マッスル王子”こと、棚橋弘至が06年夏から07年春にかけての日記を書きためたオフィシャルブログ本を発売! 最近も突然滝に打たれてみたり、突然DJに挑戦したりと突発的な行動も多い棚橋。そのめくるめく日常が赤裸裸になる。お蔵出しぶんの未公開日記も掲載されているから要チェックだ。

★『オレはプロレスラー 〜みなさん!愛してま〜す!!〜』（カンゼン）1,500円（税込） 棚橋弘至（著） 発売中

Movie

アチョー! 新世代の香港アクション
あの王拳聖も出演!『カンフー無敵』上映決定!



「『kamipro』のミナサン、ヒサシブリ!」。“酔拳の使い手”としてZERO1マットに参戦し、ジェット・リーの兄弟子でもある王拳聖さんがまたまた編集部を来訪! 今回は10月から公開の香港映画『カンフー無敵』をアピール! 主演に次世代のアクションスターであるヴィネス・ウーを迎えた新感覚カンフー映画だ。王さんは謎の占い師を熱演しているというから、必見アルヨ!

★『カンフー無敵』（配給／スカイウェイ）
10月よりシアター・イメージフォーラムでロードショー

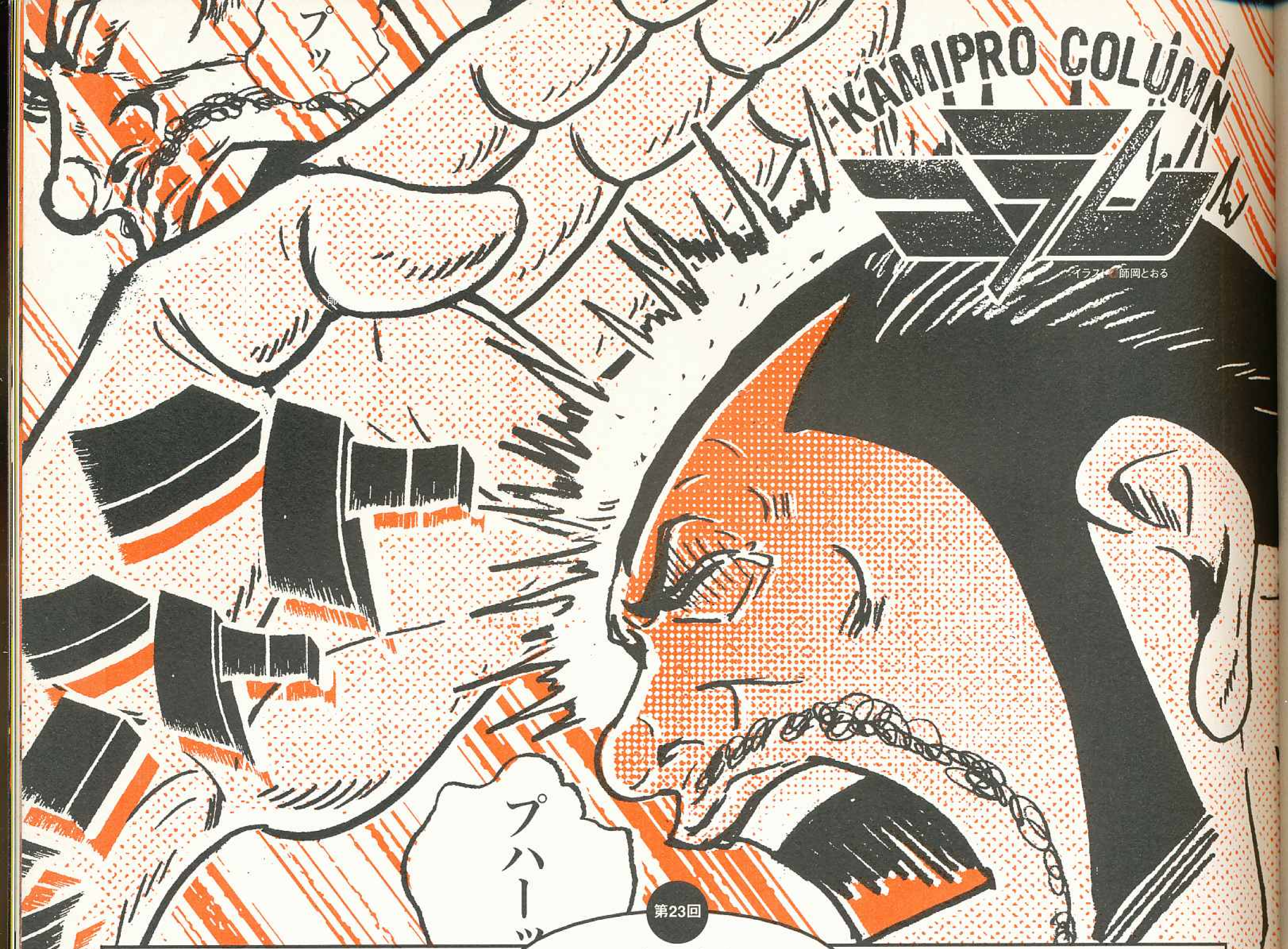
Movie

“闘うマスオさん”が映画界進出
ベルナール・アッカがロードムービーに出演!



『HERO'S』で活躍中のベルナール・アッカが映画『逃亡くそたわけ-21才の夏』に出演! この作品は芥川賞作家、絲山秋子の小説を映画化。精神病院から逃亡、さまざまな土地をおんぼろ車で旅をしながら心の交流を描くロードムービー。アッカは夢の中に出てくる殺し屋(?)という役どころ(写真左)。迫真の演技を劇場で確認せよ!

★『逃亡くそたわけ-21才の夏』（製作・配給／シネハウス）
10月より順次全国ロードショー



KAMIPRO COLUMN コラム

イラスト◎師岡とおる

第23回

いつになったらUFCは観れるのか？

花くまゆうさく

リングの汁

こないだの『DEEP』をサムライTVで観ると、下調べ充分で解説につく郷野選手のしゃべりが光っていておもしろい（とくに渡辺久江vsMIKU戦では、下調べして分析したとおりの展開で、独壇場であった）。しなし選手の他人事のような解説も“自分以外キョーミなし”なオーラを感じておもしろい放送でした（でも、『格闘ジャングル』や『キックの鬼』を終了させて、観る番組がますますなくなったサムライはなんとかしてほしい）。

かわいくて強いMIKU選手がテリトリーに入ってきたことで、しなし姫の意地が今後見れそうで、渡辺久江も加えたこの三つ巴の争いが俄然おもしろくなってきた（それにしても上の階級のフジメグvs辻ちゃんはどうなるんでしょうか）。

メインで、ジャーマンやって激勝したキム・ドンヒョン。体幹強そうなとこ、背が高くひょろっとして腕が長いとこ、腰が重そうなとこ、パウンド強そうなとこなど、“韓流の岡見勇信”でしょうか。佐伯代表も言ってたけどvs青木戦観たいなあ。



UFCでゴンザガ下した“鉄人”ランディ・クートゥアーですが、はやくvsヒョードル戦観たいね。頑丈な鉄人をヒョードルがどうブッ壊すのか？ それとも鉄人が押さえ込んじゃうのか？ じつに興味深い。さっさとヒョードルと契約してほしいよ、ダナには。あと日本での放送なんとかして。

WECでは、ユライヤ・フェイバーvsジョフ・カランが注目だが、ユライヤvs今成戦とかもやってほしいなあ。

『HERO'S』では、KID vsビビアーノ・フェルナンデス楽しみだね（KIDは宇野戦でバック取られそうになったら場外にすっ飛んで逃げたけど、あれは反則じゃないのかね、『HERO'S』では？）。

あとブラック・マンバの代わりがアンドレ・ジタになって楽しみだ。といっても『HERO'S』のその日は金沢へ映画祭を観に行っちゃうと思う。

だって『カナザワ映画祭2007』が凄いんです。オープニングで本当の一番星号がやってきて『トラック野郎』を野外上映！ そして、鈴木則文特集日、内田裕也映画特集日、石井聰亙特集日（それぞれ本人も来場）と、夢のプログラムの日々。当初はこれに『グラインドハウス』もやる案もあった、まさにファンタスティックな映画祭です。

映画といえば、こないだ『ナポレオン・ダイナマイト』（バス男）をスクリーンで観たらもの凄くよかった。この映画好きな菊田選手にも観せてあげたかった。



Hanakuma Yusaku

◎ルミナvs門脇戦も楽しみ。



リング上からプライベートまで！
“なんでもあり”の質問コーナー

第8回
所英男のトコロ天国

本コーナーは、読者が抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手がすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです（こじつけ）。

——今日は8月22日に30歳になったばかりの所さんに直撃したいと思います！（本インタビューは8月26日『SWAT！13』直前に収録）。

所　あっ、30歳の所と申します。よろしくお願いします！

——さて、本日は「ウソ」というお題をもとに質問を集めてまいりました。

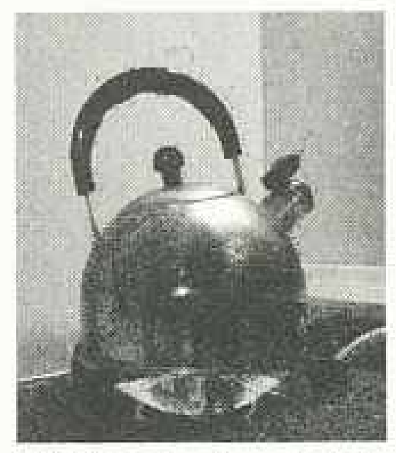
所　ウソ!?　……これはまた、難しくないですかね。

——いやいや、30年の経験と知恵を振り絞ってお願いしま～す。それでは、スタート！

テレビに関する質問

大阪府・ぬるま湯さん・32歳・会社員

『24時間テレビ』の熱湯コマーシャル事件（小島よしおが“熱湯”の中で「そんなの関係ねえ！」を普通どおり披露し、熱さを感じさせないパフォーマンスをやってしまったこと）が一部で波紋を呼んでいますが、所さんの見解を聞かせてください！



「熱湯コマーシャル」をYahoo! で検索すると、もはや第2検索ワードが「小島よしお」になっているこの事態。その“真相”とは?

所　ああ、なんか噂には聞きましたけど、詳しく知らないんですよねえ～。それって、どういうことだったんですか？

——要はですね……（中略）ってことなんですよ。だから熱湯コマーシャルはじつはあんまり熱くないんじゃ……。

所　そ、そんなわけないですよっ！（急に立ち上がって）。ウソですよね!?

——ワハハハハ！　どうしたんですか、そんなに必死になって（笑）。

所　（聞かずに）ウソでしょ!?　だって、ボク、『スーパーJOCKEY』かなり観てましたけど、絶対に熱いですよ、あれはっ!!

——そこまで興奮状態の所さん、初めて見ました（笑）。ま、まあ、かつての熱湯コマーシャルは本当に“熱湯”に入った芸人さんの身体が真っ赤っかになってたって聞きますし、実際に熱かったんでしょうけど、今回の『24時間テレビ』を見る限りでは……。

所　……でも、我慢強かったかもしれないじゃないですか。その、小島よしおさんが！

——所さんはそういう見解だ、と。

所　熱いはず！　っていうか、そう信じたいですよ、ボクは。

——じゃあ、信じましょう！

所　……でも、テレビってやっぱりそういう世界なんですかねえ（うつむいて）。

——どうして急に弱気になるんですか（笑）。テレビのことは、きっと所さんのほうが詳しいと思うんですけど。

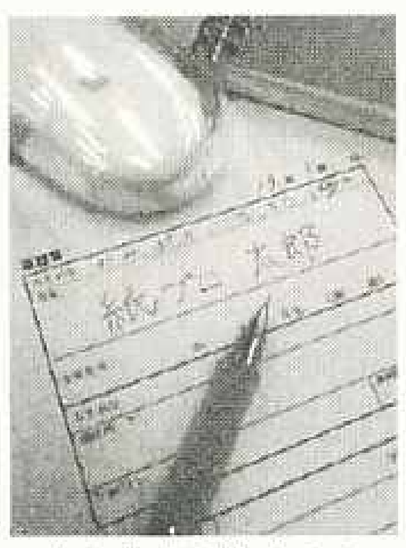
所　いやいや、ボクはぜんぜん。だけど、まさかあの熱湯コマーシャルがこんなことになるなんて……（ぶつぶつ）。

——えー、質問された所さん自身が混乱状態ですが、とりあえず、あれは「あくまでも熱湯だった」という見解みたいです。

生き方に関する質問

京都府・嘘八百さん・21歳・大学生

僕の友だちのY君はかなりバカ正直です。僕らはいま就職活動中の身ですが、Y君はまだ一つも内定がもらえておらず、かなり悩んでいました。心配になって話を聞いてみると、なんとY君、第一志望以外の会社では「ここは第一志望じゃないですが、履歴書を送らせていただきました」と正直に答えてしまっているというではありませんか！　これじゃ、相手が気分を悪くすることは目に見えています。でも「嘘は言えない」と言うY君。所さん、こんな頑固な彼に、人生をうまく生きる方法を伝授してあげてもらえませんか？



一向に内定が決まらない友人を心配する相談をよそに、非情にも所がとった行動とは？

所　これは正直者を通り越してますね。

——普通に考えて失礼ですよね。所さんはこの方みたいに、バカ正直で失敗したことってありますか？

所　う～ん、いまのところないかなあ。でも、バカ正直で失敗するって、逆にうらやましいですよ。

——それは完全にウソつきの発想です（笑）。でも、うらやましいっていうのはどういうところがですか？

所　だって、ウソをつけないって「不器用ですから」っていう感じなんでしょ？

——ああ、高倉健的な人物をイメージされてるわけですね！　でも、面接官は頭に来ますよね？

所　あのー、『怒りオヤジ～愛の説教対局～』（テレビ東京系）とかに出たらいいんじゃないですかね？（遠い目で）。

——『怒りオヤジ』といえば、ぐうたらな一般人を芸能人ゲストが叩き直そうっていう番組ですよね。

所　そうそう、それそれ。

——確かにその手はアリかもしれませんが、……しかし、所さんへの相談なのに、あっという間に他人任せになってますね！

所　あ！　ホントですねえ～（まったくうわの空で）。

——っていうか、所さん、この質問にあんまり興味ないでしょ？　そのやる気のない表情からして。

所　えっ!?　バ、バレました？

——ええ、ビンビン伝わってます（笑）。

所　えっと……、やっぱりボクも口ではごまかせても、顔ではウソがつけない人間ってことで、どうでしょう？

——そんなオチ、いりません！

男性論に関する質問

東京都・イブファインさん・18歳・高校生

いきなりですが、最近、増毛とかカツラのコマーシャルをよく目にすると思いませんか？　でも、私は男の人にはそんなことしてほしくありません！　カツラなんか被らなくても、カッコいい人はいくらでもいます。内面を磨けば、きっと外見もついてくるはず。カツラなんておかしい！　友人からは「あんたのほうがおかしいよ」とか言われることもありますが、それでも私はカツラ反対派です。所さん、こんな私の考え方をどう思いますか？

所　カツラねえ～。どうせハゲるんだったら、カツラつけなくていいような、カッコいいハゲ方をしたいですけどねえ。

——たとえば、ショーン・コネリーとか、ジャン・レノとかみたいな？

所　そういうハリウッドスター系ですね！　まあ、正直ハゲたくはないですけど、ハゲても隠さずにいたいなとは思いますけどね。でも、前の就職先にいましたよ、疑惑のある人が。

——そんな身近にいましたか。

所　ボクはあんまり見ないようにしてたんですけど、一回、強風が吹いたときに全体的にフワッと浮いてたのを見てしまったんですよねえ。

——決定的瞬間じゃないですか！

所　もっと身近なところで言えば、練習仲間に気持ちいいくらい毛がないヤツがいますね。今日、試合する太田（裕之）サンなんですけど、彼はもう逆に毛が生えてるほうが気持ち悪いですけどね！

——どうせなら、そのくらいまで到達したい、と。

所　でも、質問の「内面を磨けば、外面はついてくる」ってのはどういう意味なんですかねえ。

——う～ん。推測すると、ハートを美しくすれば、それが自然と外面ににじみ出るってことなんですかねえ。

所　ふーん。でも、この人こそ外見にこだわってるんじゃないですか？　そんなこといちいち気にしなきゃいいのに。内面を磨いたほうがいいのは、この人なんじゃないかなって。

——なるほど！　他人のことをつべこべ言うな、と。

所　そう！　たまにはボクもビシッと言いますよ!!

——さすが、30歳!!　というわけで、女子高生には厳しい意見になりましたが、これを機に内面を磨いてみましょう。

Hideo Tokoro◎ところ・ひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/【ZSTのHP】http://www.zst.jp/

※所選手に解決してほしいお悩みや質問は〒151-0051　東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F「kamipro編集部　トコロ天国」係まで

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

第18回

私だけが知っている カール・ゴッチの 真の愛弟子

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

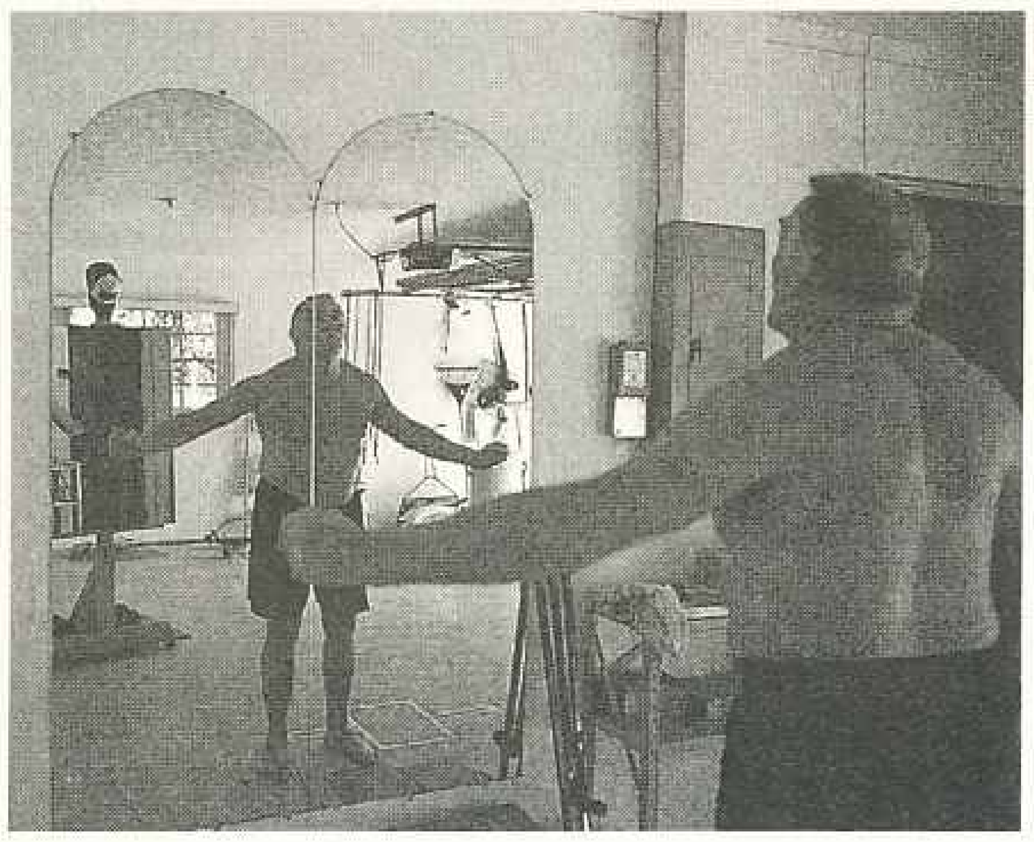
〝プロレスの神様〟こと、故カール・ゴッチさんに師事したレスラーは数え上げればキリがないですが、なかでもそのゴッチイズムを純粋に受け継いでいると言えるのは、ジョー・マレンコでしょう。ジョーは、ゴッチさんの数少ない友人ラリー・マレンコの長男です。すでに現役引退をして現在は薬剤師ですが、かつてはゴッチさんのもとでプロレス修行に励み、ゴッチさんを慕い続け、そしてゴッチさんの最期を看取った男なのです。

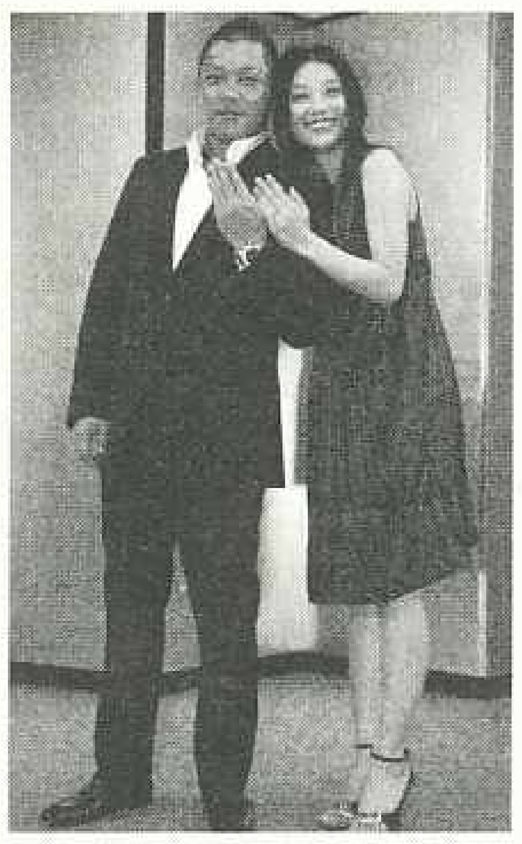
日本では、弟ディーンとのマレンコ・ブラザーズとして名が知られているジョー。兄弟のプロレスセンスはまったく異なるもので、アメプロの対応力を見せていたディーンとは逆に、ジョーはゴッチさんが信条とするガチガチのプロレススタイルを貫き通しました。そのためジョーはディーンほどプロレスで成功を収めることはできませんでしたが、鉄の信念を持ってゴッチイズムを体現し続けた道を選んだとも言えるのです。

これは他人から伝え聞いた話ですが、そんなジョーとゴッチさんのあいだにはこんなエピソードがあります。ある日、腕関節の練習をしているのときのこと——。ゴッチさんに腕を極められたジョーはギブアップの意思表示。ところがゴッチさんはホールドを解くどころか、「まだ大丈夫だ!!」とさらに力を込めてしまい、なんと、ジョーの腕の筋が切れてしまう大事に……。それ以降、ジョーの小指はたまに動かないこともあるそうですが、それでもジョーはゴッチさんとの練習を続けたそうですから、他人がうかがい知ることのできない師弟関係の絆を感じます。

しかし、ゴッチさんに教えを請うレスラーは、ジョーのように誠実な人間ばかりではありません。カール・ゴッチのブランドを利用してビジネスをしようする輩が後を絶ちませんでした。たとえば、ゴッチ邸の近所に引っ越してまで信用を得たあるレスラーは、勝手にゴッチさんの名前を使ってビジネスを始めました。そのあげく『PRIDE』への出場が決まりかけたときには、「ゴッチがセコンドに来る」などと吹聴していたようなのです。いずれその男はゴッチさんの前から姿を消しました。

ゴッチさんが亡くなられたことはプロレス界にとって大きな損失ですが、このような〝詐欺師〟ではなくジョーのような男が最期を看取ったことは、きっと神様から〝プロレスの神様〟への贈り物だったのかもしれません。





こんところ、何もネタがなくて、このコラムを書くのに苦労してるんだけどさ、今月はホントになんにも書くネタがないんだよね(苦笑)。

だって、俺が今月一番びっくりしたというか、一番印象に残ったことって、前号の『kamipro』読んで、96年の船木vsルッテン戦のあと、「船木やめるな!」って叫んで船木さんの引退を思いとどまらせたのが、堀江ガンツだって知ったことだからね(笑)。

あの有名な「明日また生きるぞ!」が、ガンツの一声によって生まれたとは、U系の選手にとってビックリ&大笑いだよ。でも、そんな『kamipro』で読んだネタが一番印象に残るくらいだから、いかに俺の周りで何もないかってことがよくわかるでしょ(笑)。

でもさぁ、田村さんがIGFの第2回大会でモンターニャ・シウバと闘ったっていうのは、残念だなぁ。だって、田村さんはUWFインター時代、一人だけ新日本との対抗戦を拒否するほど〝U〟にこだわってた人でしょ。それがさぁ、U-STYLEのルールでやるとはいえ、IGFのリングでモンターニャ・シウバとやるなんて、ファンもガックリじゃない? 俺と高山(善廣)くんは、田村さんが第1回のIGFに参加するって聞いた時点で、「残念だね」って話してたくらいだからね。田村さんには、ずっと〝頑固者〟のままでいてほしかったな〜。

その話とは逆に、今月、俺が「よかったな〜」って思ったのは、なんといっても坂田(亘)と小池栄子さんの結婚発表だよね。あれだけの売れっ子芸能人を射止めるなんて凄いよ。プロレス界では、アントニオ猪木&倍賞美津子以来じゃないの?

そういえば、ちょうど坂田と小池さんが結婚発表する2週間ぐらい前に、彼の店(『わたる』)に初めて食事に行ったんだよね。知り合いの人に連れられてさ、佐野(巧真)さんと杉浦(貴)選手と一緒に行ったんだけど、週末は予約でいっぱいだっていうから、たいしたもんだよね。

それでひさしぶりに坂田に会ったんだけど、「金原さんも早く何か商売やったほうがいいですよ」って言われちゃってさ(笑)。俺も「そうだよな〜」とか思っちゃったよ。

そのとき俺が「まだ結婚しないの?」って聞いたら、「子どもがほしいから、そろそろ結婚したいんですけどね」って言ってたんだよ。そしたら、しばらくしてホントに結婚したからね。坂田には誌面を借りて「おめでとう!」って言いたいよね。あれだけの有名芸能人とプロレスラーが結婚するっていうのは、プロレス界のためにもいいことだと思うから。

結局さ、リングス出身者で一番出世したのは、坂田なんじゃないの? その次は和田(良覚)さんだけどね。和田さんはついにでっかいマイホーム建てちゃったから。和田御殿だよ(笑)。ただ、大きくていい家らしいんだけど、その代わり駅からバスで20分もかかるっていうオチがあるのが、また和田さんらしくていいんだけどね(笑)。

でも、よく考えたら今年は元リングスの結婚ラッシュだよね。坂田に田村さん、滑川、そして前田さんまで結婚したからね。やっぱこういう幸せっていうのは連鎖するのかな? 俺も何かいいことあればいいな〜。というわけで、また来月!



金ちゃんのどこまでやるの?

イラスト◎中川画伯

第17回 リングス結婚ラッシュの巻

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

せき詩郎の

サムライ・シロー三昧

第18回

どうなるレジェンド軍

今月は発売日が早いらしい。そのため自動的に締め切りが早くなる。月が替わると毎回驚く。

「えっ、もう6月なの！」

「ちょっと待ってよ！　もう7月だというのか！」

「まさかすでに8月になっているなんてことは……本当に！　本当に8月だというのか！」

決まって毎月10日前後にそう思う。

毎日の時間が不規則となり、やがて曜日の感覚がなくなり、いまが何日なのか不明となり、ついには何月かさえもわからなくなる。自由業ならではの結果である。

それでも月が替わっていることに驚く10日前後になると「そういえば『kamipro』の原稿を書かなければ」と思う。かろうじて私の中に残っている体内時計かもしれない。

しかし今月はまだ「何言ってるんだよ。まだ8月だよ。思いっきり夏を楽しもうぜ……って、もう9月なの！」と驚いていないのだ。したがって『kamipro』の原稿のことを思い出してもいない。だが、発売日の都合でもう締め切りは過ぎているという。これは大変だ。

そういえば私の体内時計はもう一つあった。G1が始まると「ああ、8月なんだな」と感じることだ。G1といえば、今年は大事件があった。

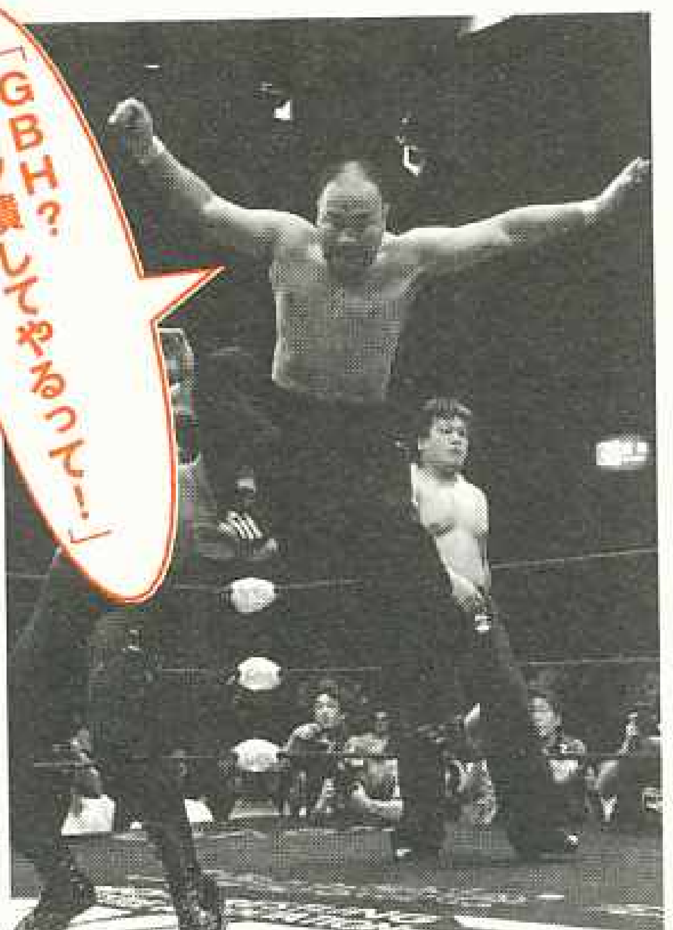
たまたま見たテレビ中継で蝶野がリング上で長州、ライガー、マシン、越中を呼び出し『レジェンド軍』なるものを結成していたのだ。これについて書かないわけにはいかない。

だがとうに締め切りは過ぎている。もう原稿を待てない状態らしい。ならばレジェンド軍の写真を並べてみようではないか。そしていまだ活動を始めたばかりで先行き不透明なレジェンド軍に対する解釈をキャプションをして書いてみようではないか。きっとレジェンド軍が持つさまざまな表情が浮かび上がることだろう。

ただいま、外は暴風雨だ。関東を台風が直撃したらしい。そのためか、広いファミレスの店内にいる客は私だけだ。

店員が掃除ばかりしている。厨房からは「そんなの関係ねえ」というひょうきんな男性店員のモノマネの声と女子店員の笑い声が聞こえる。じつに居づらい雰囲気満点だ。

早いとこ原稿を書いて、雨の中を帰るとしよう。

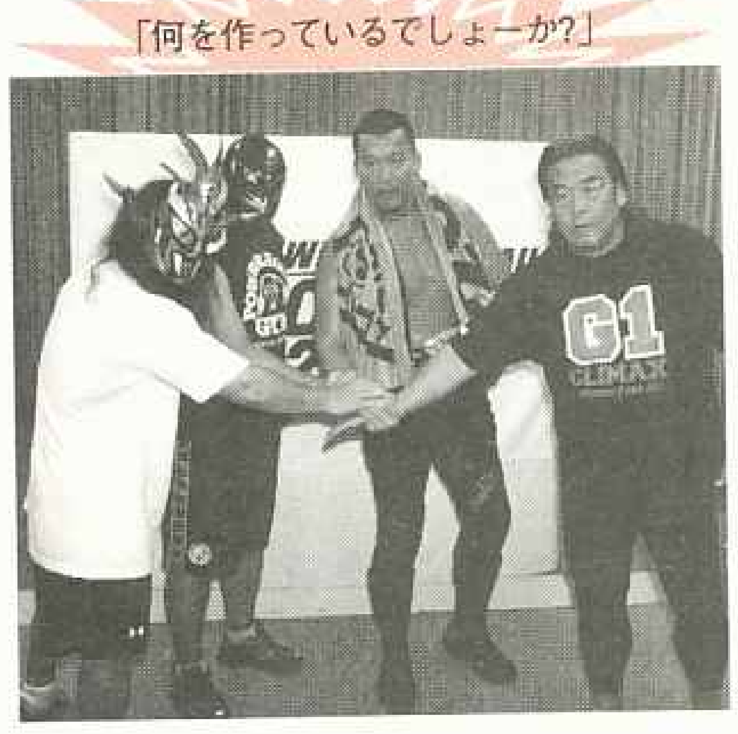


モデル＝「サムライ・シロー三昧」イメージキャラクターの越中詩郎さん

さあ、いよいよ800メートルリレーのスタートだ！



「何を作っているでしょーか？」



いいとも新レギュラー発表！



ユリアを守る南斗五車星たち



鷲宮神社に集まったファンたち



ポケモン新作映画で声優に初挑戦！



24時間テレビマラソンランナー決定！



再結成されたビアフラのいないデッドケネディーズ



レジェンド軍入会で楽天スーパーポイント3000ポイントプレゼントキャンペーン



藤子不二雄は4人で一つのペンネームだった！



7代目武装がここに誕生した！



なべおさみの言う「謎の紳士」が姿を現わした！



椎名基樹の サムライ三昧

第18回

カーンとの再会

私事でありますが、8月のはじめに大島に行ってきました。

その大島には、『かあちゃん』という屋号の食堂に「磯ラーメン」なるメニューがあり、それが行列ができるほど、観光客のあいだで人気になっていました。人間というのはよほど食い意地が張っているらしく、どこでどう聞きつけたか、昼時になると待飯の列ができます。

筆者もまたラーメンのとりこであり、磯ラーメンを征服すべく空腹に耐え、ただ黙って列に加わりました。

さて、この磯ラーメン、なるほど人気になるのもうなずける味で、「磯ラーメン」というべき新たなラーメンのジャンルを作り出しているように感じました。

ラーメン談義に話はそれましたが、本題となる出来事は、筆者が磯ラーメン待ちしている海沿いの道路でのこと。入口ドアガラスから覗いた店内で、ノロノロと食後の茶、爪楊枝での歯掃除に興じている家族などを恨んでドロリとした目線を送っていると、すぐ自分の脇を通り過ぎる4WD車の助手席の窓から太い腕を外に出して座っている、巨体の入道男が目に入りました。

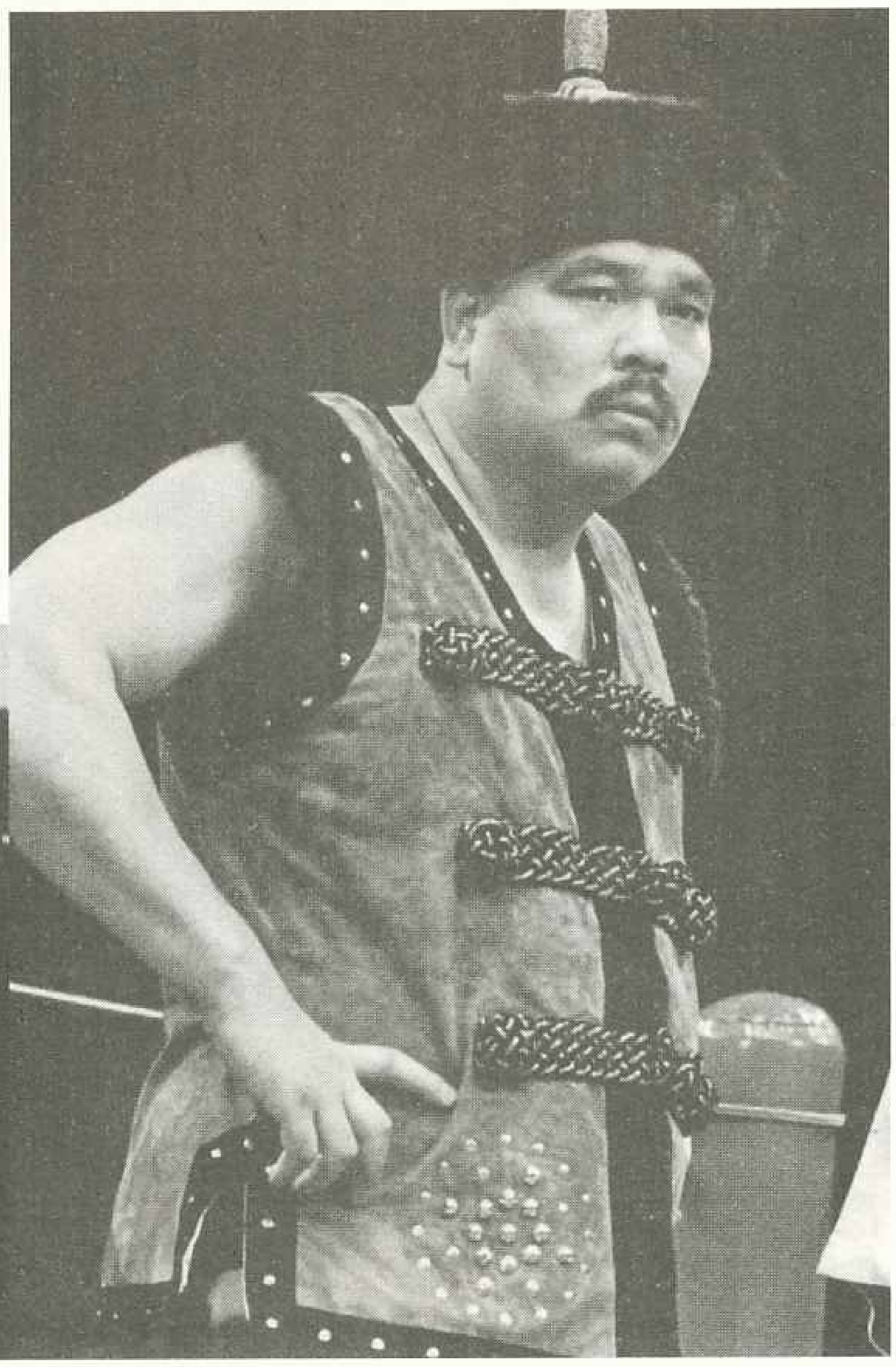
キラー・カーンだ！

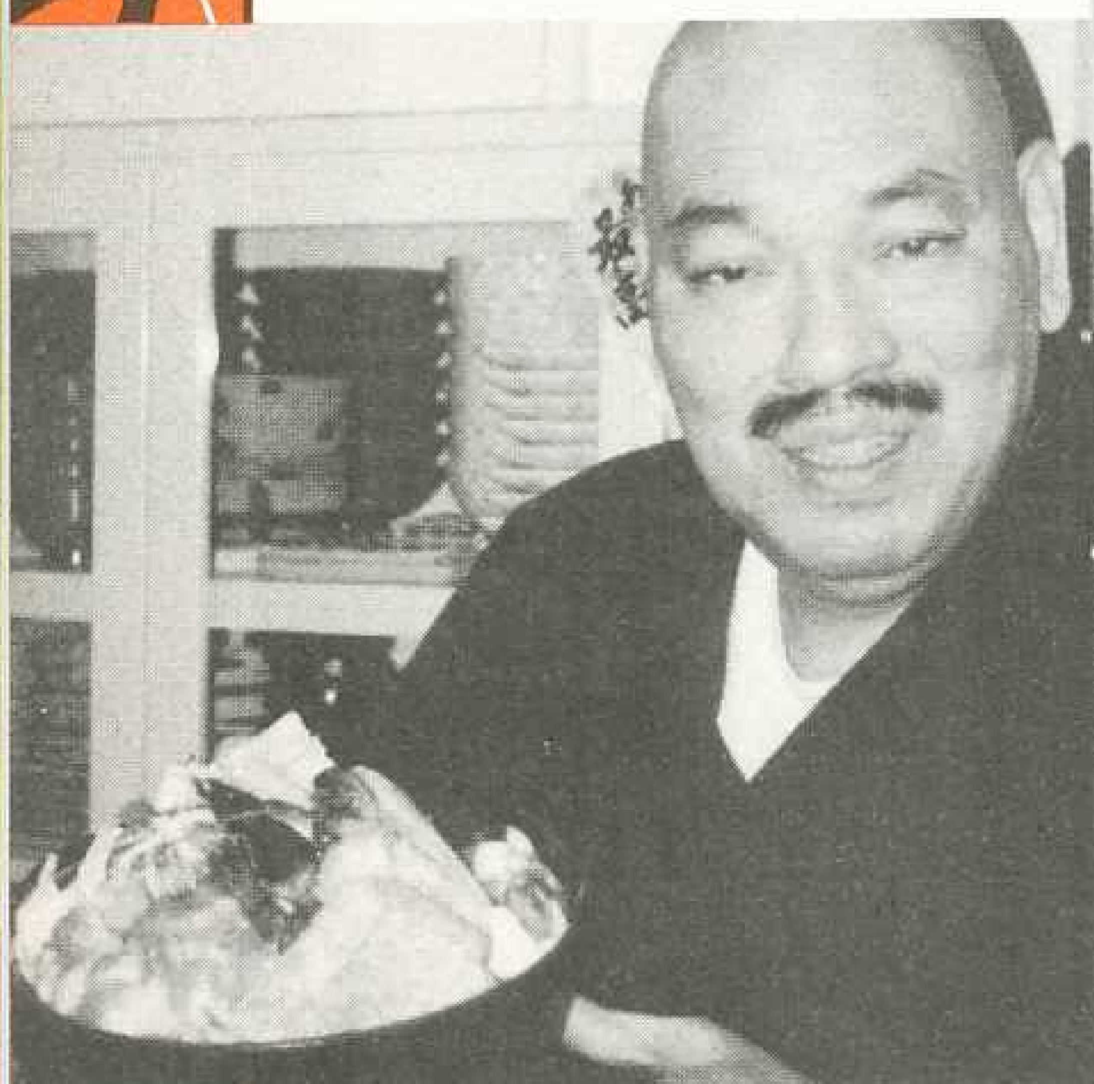
一目でわかりましたが、ラーメンの列から離れるわけにはいかず。カーンは、いやカーンを乗せた4WD車は、アルバトルスのごとく飛び去っていきました。結局、大島でそれ以降、カーンと出会うことはなく、3泊4日の旅を終え、竹芝埠頭に降り立つと、そこにスーツケースを引きずるカーンがいるではありませんか。どうやら同じフェリーに乗っていたようです。筆者は勇気を振り絞って2ショット写真をゲットすることに成功したのでした。そして、筆者の頭にカーンとの思い出が浮かび上がってきました。

じつはカーンと話すのはこれが初めてではありません。あれは20歳くらいのとき、カーンにアイスコーヒーをオゴってもらったことがあります。20歳のとき、初めての海外旅行でアメリカに行きました。そのとき、フロリダで知り合った福岡出身の男がいました。そいつはタンパで親戚のキラー・カーンの家にホームステイしていました。

そいつ……仮に「福岡」とします。その福岡は日本に戻った後、なんでも俳優になりたいとかで東京にいるカーンにコネをつけてもらうため挨拶しに行くと言うのです。しかし、一人で行く勇気がないから筆者に一緒に行ってくれと言います。そんな席に全然関係ない自分が同席するのも気が引けましたが、カーン会いたさで引き受けました。

カーンとご対面したのはたぶん高田馬場の喫茶店というか、昼間サ店営業しているスナックだったと思います。湿気ったビロードのえんじ色のソファに腰かけ、テーブル代わりのゲーム機を挟んでのご対面でした。カーンは、福岡に自分が現在出演している作品（たぶん、『ふぞろいな林檎たち3』）の自慢などをしたあと、タンパに残している奥さんと娘が肥満していることを気にかけているようで、その太り具合を福岡に訊ね、タンパの自宅に運動用にプールを作ってやったのに、妻娘の肥満は一向に改善される様子がないことを、じつに面倒臭そうに嘆いていらしゃったことを記憶しております。





どうですか、こちらが現役時代＆現在のカンちゃんの風貌だ。アントンが「100年に一度の顔」というのも、うなずけるインパクト大の顔である。現在は歌舞伎町で居酒屋カンちゃん経営のかたわら、美声を活かし、02年に『ふるさと真っ赤っか』でCDデビュー。

福岡とも、もちろんカーンとも、それっきりになってしまいましたが、福岡はその後、俳優になれただろうか？ そして、カーンのお嬢さん奥様は痩せることができただろうか？ そもそも当時から別居中だったわけであるが、まだその奥様はいまでもカーンの奥様なのだろうか？ まあそんなこと、筆者には無関係であるが、一度カーンの店に行って、そのときのことを話してみたい気持ちになりました。

カーンといえば猪木が「カーンの顔はそんじゃそこらにいる顔ではなく、100年に一度の顔というか」というような、じつに失礼なことを言っていたのを思い出しますが、実際のカーンはまさに猪木の言うとおりで、いまも昔もそれだけで金が取れる天然物の見事なルックスの持ち主でありました。

さて、今月観た「サムライ三昧」といえば、桜井マッハと青木真也の対談。微妙な空気ながらお互いの実力を認め合った、なかなか爽やかな対談でありました。その中で気になったのが、マッハが対談中に、缶コーヒーをたぶん3～4本くらい飲んだこと。筆者も缶コーヒーは好きで、しかし、周りに缶コーヒー飲む人はあまりおらず、というか缶コーヒーというのは、愛する者と無関心の者がきっぱりと分かれる飲み物だと感じていたので、またマッハに（ミーハーな）シンパシーを感じた次第であります。でも、飲みすぎ注意。マッハは、「いまMMAの選手はアメリカ人がブラジルなんかより強いのゴロゴロしててヤバイ」と言っていました。

その他、サムライTVで修斗の8月5日後楽園大会を観たけど、修斗の判定って納得できないことがけっこうあります。

2ラウンド制で1ラウンドを上になって大半を過ごし取り、2ラウンド目、たとえば、ついに下からめくられて、マウントを取られバウンドをくらい窮地に落ちたとして、判定はドロー。やっぱ筆者はシバいたほうが勝ちだと思う。1ラウンドずつ取ったという、じつにお堅い（？）修斗らしい判定の仕方だと思うけど、それをしたいなら2ラウンド制ってのが矛盾しているように感じます。

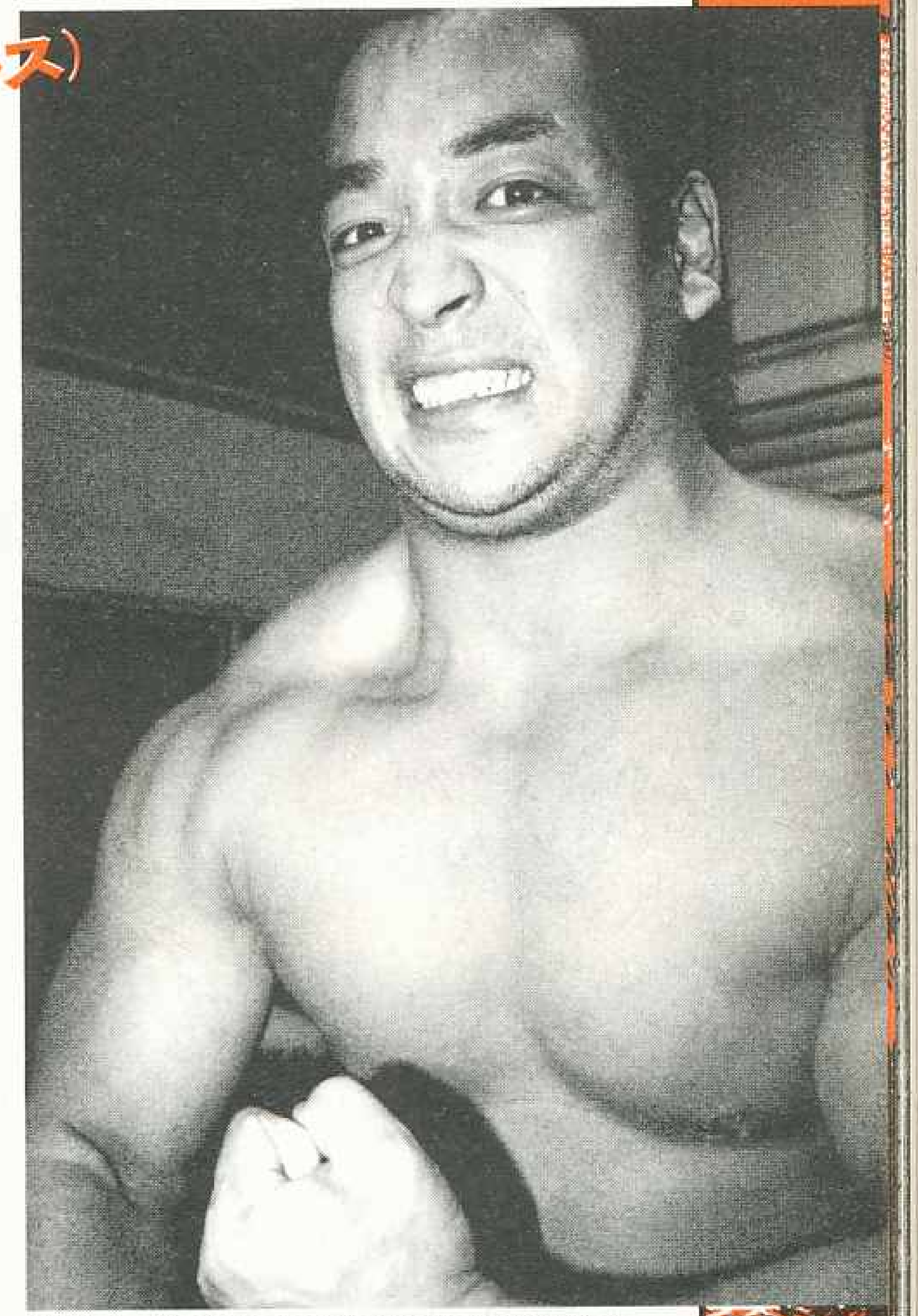
ところで、この修斗の大会、ラウンド間に流れる曲がニューオーダーの「ブルー・マンデー」とマイケル・ジャクソンの「ビート・イット」だったけど誰が選んでいるんだろ？ とりあえず、ナイス選！

あと、サムライTVのDDTの番組、ハンディカムでツアー中のバスの模様から試合まで撮る手法、大泉洋の「水曜どうでしょう」のプロレス版のようでおもしろいです。まだ一回しか観てないけど。

イナズマKの ハードコアドージョー Special

筋肉フリークは朝青龍と同級生!?

ウエート大好きな"肉体のハードコア野郎"！
関本大介（大日本プロレス）



せきもと・だいすけ■1981年2月9日、大阪府大阪市出身。名門・明徳義塾高校で野球部に所属。高校卒業後に大日本プロレス入門。99年8月10日、伊東竜二戦でデビュー。その鍛え上げた肉体のパワーファイトはデスマッチ路線の大日本でひときわ際立っている。また『LOCK UP』など他団体の出場も増えて、評価も急上昇中。今年は7月、8月に念願の中西学とのシングル連戦も実現した。175cm、体重110kg。

強烈にパンプアップされたボディや二人まとめてブン投げる豪快なジャーマンスープレックスで、見たもの誰もをうならせる大日本プロレスの関本大介。今回はプロレス界を席巻している〝肉体のハードコア戦士〟に直撃だ。

ハードコア列伝1 あの朝青龍とは筋肉仲間!?

おじいちゃんの影響でプロレスを観始めて、小さい頃からプロレスラーを目指していた関本は、「当時から、筋肉モリモリの選手に憧れてました」と筋肉フリークぶりを語る。その言葉どおり高校時代は、野球部に所属しながらも、「練習が終わればヒンズースクワット、ブリッジ、ウエートトレーニングで鍛えてました」と日々、肉体のビルドアップに努めていた。

関本が通っていた高知の明徳義塾高校は、いま話題の横綱・朝青龍が相撲留学していた学校だ。しかも「歳は一緒なんですけど、モンゴルの学校の制度の関係で、僕のほうが学年は上だったんです。ドルジ(朝青龍の本名）とはよく一緒にベンチプレスやってました。ドルジはプロレス好きで、よく一緒にプロレス話をしてたんです」と朝青龍のプロレス好きも告白。

さすがに相撲は取ったことはないが、腕相撲の対戦経験はあったという。「『ドルジ、腕相撲やろうぜ』ってたまに食堂でやりましたね。勝敗は買ったり負けたりだけど、当時から凄い力でしたよ」。

卒業以来、朝青龍とは再会していないが、以前、兄のブルー・ウルフ（元・新日本プロレス）に会ったときに、「『ドルジは、モンゴルにプロレスの団体を作りたい』と言っていた」という衝撃発言を聞いたこともあるというから驚き。

現在の報道の加熱ぶりに、「昔も気は強かったけど、そこまでひどいヤツじゃない」と語る関本。まったく届かないとは思うが、朝青龍へのメッセージを聞いてみた。「会って話がしたいです。あとモンゴルで新団体旗揚げしたら、呼んでください(笑)」

ハードコア列伝2 脳が腫れた状態で出場志願!?

さてプロレスラー志望だった関本は、高校の野球部の監督経由で大日本プロレスのグレート小鹿社長を紹介される。だが「憧れてたのは正統派プロレスなのにデスマッチ団体だったから『マジかよ！』って(笑)」と違和感もあったが「同じプロレスだしな……」と思い直して大日本入り。

厳しい練習を積み、もともとゴツかった身体をさらに強靭にしていった関本。ZERO-ONEの第1回『火祭り』の大谷晋二郎との好勝負や、「イヤだったけど、やったら楽しかった」というデスマッチ路線で注目を集めるが、「やっぱり目指してるものとは違う」と正統派路線へカムバック。そのあとは迷うことなくパワーファイターの道を突き進み、いまや長州力にも絶賛されるほど評価はうなぎ登り。

だが直線的なファイトが多い関本だけにアゴの骨折、背骨の骨折などケガも多い。念願だった中西学との試合直前にはなんと脳が腫れてしまう〝脳浮腫〟という病気でドクターストップがかかる。

「3日間くらい頭痛と眠気が止まらなくて、病院に行ったんです。あのまま試合をやったら『障害が出るかも』と言われた。僕は出るつもりだったけど、登坂（栄児）部長や金村（キンタロー）さんに大反対された」と語る。そんな重傷ながら、短期間で復帰できてしまうのも、彼が普段から鍛え抜いている証明である。

ハードコア列伝3 筋肉に〝禁断の薬〟は不要！

ではでは、関本大介とイコールで語られる〝筋肉話〟を聞いてみよう。「ウエートやってパンプアップする感覚が好きなんです。気持ちいいんですよ〜。パンパンに身体が張ってると満足（笑）。3日ウエートやらないと『もうヤバい』って強迫観念にかられます」。

また地方でも「いいジムを見つけると入りたくてたまらなくなる」というトレーニングフリークぶり。

筋肉といえば、海外では肉体を維持するため、禁断の〝ステロイド〟を使用するレスラーも少なくない。後遺症で亡くなり、事件との因果関係もささやかれたりとアメリカで社会問題にもなっているが、筋肉大好きの関本はどう考えているのか？

「すべてを否定するわけではないけど……やっぱり怖いですね。いろんな話を聞くと絶対やっちゃダメだなって。以前、来日していた（アブドーラ・ザ・）ブッチャーやテリー・ファンクにも控室で『ステロイドだけは絶対にやるなよ！』って言われました。もちろん僕は一切やってません」とナチュラルボディを強調。

さて、彼は以前に衝撃の全裸のバックショットを、『週刊プロレス』で披露。SNSサービスの『mixi』には関本のゲイコミュニティもあって、話題沸騰だった模様。「確かに、新宿2丁目のゲイバーにみんなで飲みに行くと、僕だけが異様にモテますね（笑）。でも僕はいたってノーマルですから！」と噂を完全否定！

金村キンタローには〝セクス本大スケベ〟と命名されている関本だけに、「女性に対してフェチなとこがあって……胸とケツは、デカくないとダメ。シリコンパイ？ 全然オッケーです！（超笑顔）」とエロなこだわりも披露。

これだけのマッスルボディを誇る関本だけに日本には敵なしかと思いきや、「大阪プロレスのゼウスの筋肉を見て、『あれは無理だな』と思いました（笑）。あと、DRAGON GATEのサイバー・コング。じつは二人ともボディビル界では有名な人だったんです。それに中西さんとリング上で対峙したときも心の底からビビりました（笑）」と野獣の肉体も絶賛。

「体重をキープしながら、まだまだ筋肉を増やしたいですね」とさらに肉体のバージョンアップも宣言する関本。まだまだ筋肉進化中の彼がもっと凄い試合を見せてくれることは間違いなさそうだ。



「わーい！ わーい！ プロレスの神さまありがとー！」と、マンガ家・河口仁氏も大絶賛しまくった7月29日『LOCK UP』後楽園大会での中西との一騎打ち。ゴツゴツした原始的なファイトで存分に怪力ぶりを披露してマッスル・フリークを狂喜させた。また8月20日大日本プロレスの再戦では、8分間にわたって記憶がぶっ飛ぶ壮絶ファイトを展開。

COLUMN!



イラスト◎ゴローちゃん

『レディースリング』ってなんか避妊具みたいな名前だなぁ……と素直に思う中学生脳の持ち主・掟ポルシェが送る萌えの暴走特急連載『萌え萌え女々苑』。今回のゲストはアイスリボンの希月あおい選手！　とにかく異常に元気！　この連載の本来の主旨に立ち返って萌え多めでお送りします！

掟　希月さんは異常な負けず嫌いみたいですね。一年ほど前、"元ひきこもり"の真琴選手ばかりに注目が集まってるのが悔しくて、夜道で号泣しながら歩いてたところを警察に呼び止められたことがあるとか。

希月　はい！（あきれるほど元気よく）。

掟　いくら悔しくても夜の路上で大声で泣くことはないだろうっていう（笑）。

希月　そのとき自分はユニオン（プロレス）さんでチェリーさんとシングルマッチだったんですけど、みんなが試合はそんなに観ないでセコンドの真琴ばっかり見てたんですよ。試合後も真琴はメカマミーさんに追っかけられたり……。

掟　確かに本気でメカマミーにおびえて逃げ惑う真琴選手は、あの頃から一気に注目を集めましたよね。

希月　ホントに悔しくて！　で、夜遅くなって高校の制服姿で泣いてるのを警察の方が見て話しかけてくれて。

掟　危険な夜道！　女子高生が泣いてる！　事件のニオイさえします！

希月　「私、プロレスをやっていて……」って言ったら「え〜っ、プロレス？」みたいな。

掟　事件のニオイ、消えました（笑）。

希月　そのとき『レディースゴング』の表紙に入ってる号を持ってたので、「ほら、ホントにやってるんです！」って見せて。

掟　身分証明書が『レディゴン』（笑）。

希月　はい！　で、事情を長々とお話ししたら、「君の気持ちはわかるよ。もっと練習して頑張って」って言われました。

掟　ほかのインタビューでも、「自分が一番目立たないと気に入らない」みたいな発言があったり、非常に負けず嫌いな感じがするんですよ。それは普段の生活でも？

希月　はい！　負けたくないです!!　エレベーターのボタンを誰かが押そうとするじゃないですか。自分がいたら絶対他人には押させないようにしてます！

掟　そこはどうでもいいような……。

希月　自分が押さないとダメなんです！

掟　じゃあ、バスに乗ったら降車ボタンは……。

希月　（さえぎって）当然一番に押します！　アイスボックス（アイスリボンの専用会場）も一番乗りじゃないと。



きづき・あおい■1989年3月26日、東京都葛飾区出身。本名は非公開。2005年5月1日、我闘姑娘・板橋大会でのなつみ知香戦でデビュー。同日に行なわれた春日萌花戦で初勝利をゲット。その後、ケガで欠場も続いたが、復帰後はアイスリボンだけではなく、さまざまな団体で必要以上に元気いっぱいに活躍中。162cm、60kg。

掟　べつにそこは頑張らなくても……。

希月　嫌です！　それで先輩一人一人に「おはようございます、よろしくお願いします！」って言うのが好きなんです！

掟　ま、初々しくていいですけどね。では、質問内容変わりますけど、好みのタイプの男性は？

希月　なんだろう？　……優しい人。ドラえもん！

掟　あ〜、のび太が泣きついたらなんでも出してくれますもんね。でもそれ、人じゃないです（笑）。

希月　見た目は玉置浩二さんが好きです。

掟　玉置浩二？　いまやDVで話題の。あんまり優しくないかもしれないですが……安全地帯聴いてる世代じゃないですよね？

希月　母が聴いていて。あと長渕剛さんとか。大人の男性がいいですね！

掟　で、プロレスはなぜやろうと？

希月　最初、兄の影響で男子プロレスを観ていて。プロレスのゲームをやっていたんです。

掟　『ファイプロ』とかですか？

希月　『ワールドプロレスリング』のゲームでした。それをやっていて、兄はプロレス好きなのでなんとなく一緒にテレビを観ていたら、蝶野正洋さんがカッコよくて！

掟　玉置浩二、長渕剛に続いて蝶野。キン肉超人でいうとラーメンマン系がお好きなようです。

希月　「ウィー・アー・チーム2000！」って言ってるのが凄くカッコよくて！　で、『週プロ』と『ゴング』を買うようになったのが中学校のときです！　選手名鑑が発売されたらソッコー買って、選手の名前を絶対全部覚えるって目標を作って。

掟　『ポケモンいえるかな』みたいですね（笑）。

希月　その中のさくらえみさんのコメントに「プロレス一緒にやりませんか」って連絡先が書いてあったんで連絡したら「何ヵ月か後に旗上げになったので」ってことで。それから練習に通うようになって。それが高1です。

掟　今後、どういうレスラーになっていきたいですか？

希月　今後は……怪我もなく頑張って、いつか武道館でアイスリボンを。

掟　武道館！　デカく出ましたねぇ。学校の1クラスぐらいの世界からいきなり。

希月　新日本さんの日本武道館に観に行ったときがあって、一番上の一番後ろの席だったのに、受け身の音までちゃんと響いてきて感動して！　「プロレスは凄い！」って思ったんですよ！

掟　受け身音がズーンと！　リング屋さんが頑張っただけではないですね、それは。

希月　アイスリボンもだんだん広いところに出て行って、会場に一体感を出せるようにしたいです！

掟　会場に一体感を持たせるためにはどうしたらいいんですかね？

希月　う〜ん……声を大きくハキハキと。

掟　佐川急便の新人研修ですよ、それ（笑）。

希月　お客さんと一緒にプロレスをするとかですかね？

掟　コスチュームも重要なんじゃないですかね。ウェディングドレス着てプロレスと結婚してみるとか（笑）。

希月　LLPWの風間さんですよね！　私それ観て「やられた！　チクショー！　私がやるはずだったのに！」ってずっと思ってて。

掟　そこに嫉妬する人あんまりいませんよ（笑）。じゃあ黒装束で出てきて「プロレスと離婚します！」とか。

希月　まだプロレスやめたくないです！

掟　「プロレスと同棲します」ぐらいで。

希月　それは素敵ですね！　同棲します！

掟　プロレス雑誌読んでるから、プロレス知識はあるんですよね。もしかして、大谷選手みたいにプロレスの教科書も持ってるんじゃないですか？

希月　あ、プロレスの教科書ありますよ、ホントに。

掟　エッ、持ってるんですか!?

希月　あります、ここに（自分のカバンをごそごそして）。

掟　ホントだ！　何が書いてあるんですか？

希月　練習日記です！

掟　教科書、現在製作中ってことで（笑）。


取材に訪れた8.31市ヶ谷大会では、部活に専念するためプロレスを卒業する中学生ファイター・きのこ相手に「ブッ潰す!」と大人げなくアピールし、見事勝利。9.8北沢大会では念願のCDデビューをはたした。

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）
■11・7（水）新宿ロフト（TEL.03−5272−0382）にて、ロマンポルシェ。10年記念隊コンサート『もう少しまじめにやっておくべきだった』開催！　チケットはローソン、ぴあロフト店頭などで9/22発売！　10・8（月・祝）には長野ジャンクボックス（TEL.026−267−9120）でのライブもアリ！　詳細は掟ポルシェブログを参照。
【http://blog.excite.co.jp/porsche】

ファイター関係者がこだわりの選出!

“俺だけの”なんでもランキング

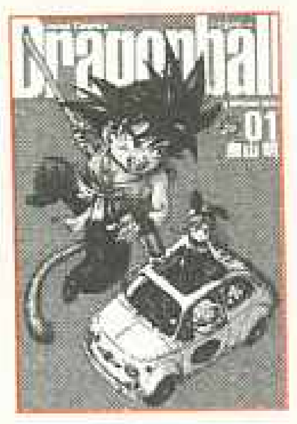
ベルナール・アッカの僕が愛するマンガベスト5

俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキングを選出! 第9回目は、お笑いコンビの塩コショーとしても『HERO'S』のファイターとしても活躍中のベルナール・アッカ。日本人以上に(!?)アニメ&マンガ大好きっ子のアッカを直撃!



BERNARD ACKAH■1972年4月9日、ドイツ出身のコートジボワール人。お笑いコンビ・塩コショーとして活動しつつ、07年3月には『HERO'S』で総合格闘家としてデビュー。186センチ、93キロ。

1



『ドラゴンボール 完全版』
鳥山明(集英社)

2



『北斗の拳 完全版』
原作/武論尊、作画/原哲夫(小学館)

3



『グラップラー刃牙』
板垣恵介(秋田書店)

4



『はじめの一歩』
森川ジョージ(講談社)

5



『DEATH NOTE』
原作/大場つぐみ、作画/小畑健(集英社)

ベジータ、そしてラオウ! 主人公よりサブキャラ主義

俺は携帯サイト『kamipro Hand』のインタビューは受けたんだけど、今回やっと『kamipro』本誌にも登場できて嬉しいよ! 先月号なんて自分で買ってるからね(笑)。

今回は僕の選んだベスト5。幼少の頃から日本に来てるから、アニメとかマンガとかは完全に主食です! 特撮ものも好きで話しだしたら止まらないけど、この企画を聞いた瞬間に思ったのは、僕が愛する「人生のお手本となったマンガ」のセレクトでいきたいなと。

とくに僕は主人公よりサブキャラが大好きなんです。主人公って熱血的で情熱的、ひたすら「正義、正義」って感じ。でも人間、正義だけじゃメシは食えないっしょ? 僕らみたいに夢の世界の中で生きている人間は「こいつに勝ちたい」って執念深さとか、野望のあるサブキャラのほうに共感しちゃう。

そういう意味で、1位は『DRAGONBALL』(鳥山明著)。とくに好きなのはサイヤ人の王子、ベジータ。こいつは誇り高きサイヤ人ってところをむき出しで悟空にしつこく挑んでいくでしょ。いつまで「カカロット~!」(悟空のサイヤ人名)って言ってるんだよって。カカロット一筋十何年。恋愛だってそんなに続かないよ(笑)。

『DRAGONBALL』は最初の頃は武道してたのに、途中から関係なくなって、手から玉がドンドン出るようになっちゃうんだから凄いよ。格闘マンガって、リアリティがないと共感できないけど、あそこまで突き抜けると「純粋に主人公を応援したい」って気になれた。そこが最高ですね。

それで第2位は『北斗の拳』(原作/武論尊、作画/原哲夫)。まさに『ジャンプ』世代ってセレクトだけど、これも突き抜けているこど山のごとしですよ(笑)。いったいあの馬(黒王)の大きさはなんなんだよ! って。

僕が好きなのは(ケンシロウの兄貴の)ラオウ。昔から「世界征服したい!」って吠えてるんだけど、「アンタ、有言実行すぎるよ!」と。凄い男なのにユリアを思い続けてる女々しさもあって、「人間臭いなぁ」ってつい感情移入しちゃう。とくに死に際のセリフ、「わが生涯に一片の悔いなし!!」なんて一生に一度は言いたくね?

『はじめの一歩』に深く共感 僕も元イジメられっ子だった

3位も格闘モノなんだけど、『グラップラー刃牙』(板垣恵介著)! 刃牙もいいけど好きなのがサブキャラの範馬勇次郎(刃牙の父親)。愛称が“史上最強の生物”ってどんだけ強いんだよ! と(笑)。

キックボクサーを指2本で倒すし、機関銃を持ったヤツに囲まれても眉毛一つ動かさずに皆殺しにしちゃう。いちいち“一撃必殺”なの。たぶん空手家が究極的に目指すのはああいうスタイル。僕もそういう気持ちがあってじつは殴られるのも殴るのも好きじゃない。ホント言うと暴力反対なんですよ!

この前、メルヴィン・マヌーフ選手と闘って負けた(7月11日『HERO'S』横浜大会)ときも殴り合ってますけど、ホントは「一撃で倒したい」って思ってるんです。殴るのもイヤだから、殴らないで勝てりゃあそれが一番いいの(笑)。

第4位は、ボクシングマンガの『はじめの一歩』(森川ジョージ著)。これだけは主人公の幕之内一歩が好きなんですね。イジメられっ子からボクサーになって日本チャンピオンになった。僕は背がだけがひょろ高くて目立ってて、元イジメられっ子だから凄く共感できるんですよ。

でも、小さい頃に目立つのってよくないよ。学校に転入生とかやってきて、そいつがイジメっ子だと強そうなヤツ相手に実力を見せつけるじゃないですか。僕は背だけはデカかったから、「コイツを倒しておけば一番になれる」って勘違いされてケンカを挑まれてた。「そういうキャラじゃないのに~!」って(笑)。

そこから柔道を始めて鍛えていたら、オーラが出たんでしょう。柔道を始めてからは平和になった。ま、売られた喧嘩は買いましたけど(笑)。

ジョシュには会ってみたい でも趣味がマニアックすぎ(笑)

格闘系が多いけど、ここでいきなり5位は『DEATH NOTE』(原作/大場つぐみ、作画/小畑健)。このマンガはどんだけ殺すねん? って。なんなの? あの夜神月(やがみ・らいと)のねじ曲がった正義感は(笑)。一日に10人くらい殺したいヤツの名前書いて、5年以上やってるから、2万人近く殺してるんじゃねえの? 大量殺人にもほどがあるよ! でも最近の中ではホントに夢中になりましたよ。でもキャラで好きなのはここでもサブキャラの死神リュークなんだけど。

僕はいつもこんな感じだから、もう自宅はマンガだらけ。置き場所に困ってる。ファイターの友だちでは最近、よく遊んでる所(英男)くんも、アニメやマンガは好きだけど、彼は詰めが甘いっすね。

だからジョシュ・バーネットとは一度会いたい!(ここで、『kamipro』No.100のジョシュのアニメ&マンガのベスト5記事を見て)うわぁ! そうだ。『銃夢』もいいんだよ。『ベルセルク』も入れるのも忘れてた!(と悔しそうに)。

しかし、ジョシュはちょっとマニアックすぎ(笑)。共感しづれぇなぁ。これは格闘技をすぐに始めた人のセレクトじゃないよ。『超時空要塞マクロス』映画版なんて格闘家でわかるヤツ、僕しかいない(笑)。

僕は広く浅い知識だけど、この人は異常に細かいでしょ。細かく間違いを指摘された日にゃ「リングに立て!」ってなっちゃうかも(笑)。

今後の目標はとりあえずメルヴィン・マヌーフ選手にリベンジしたいっす。悟空だってピッコロ大王に負けてるし、ケンシロウも一度はシンに負けてるんですよ。ここからドラマが盛り上がるんだから、期待してくださいよ。カメ・ハメ・ハ~!

『ハッスル』の地上波放映に大反響!



ヒマでモテない kamirpo読者の諸君、逆襲の狼煙が上がったわ♡

テレビ東京系列にて10月6日から毎週30分のレギュラー番組が決定した『ハッスル』。まずは地上波復活の狼煙第一弾として、『ハッスル・エイド2007』の特番が9月8日に放送されたが……「高田総統のしゃべりがうまい」「天龍や川田があんなことやるなんて!」「インリン様カッケー!」「しょっぱいのはおまえだ〜ぁ!」など、"ハッスル初体験者"から大反響!(最後のは関係ないな)。大きなきっかけをつかんだ『ハッスル』だが、今後の鍵を握る3人の男に迫ってみたYO!!(RG調)。

最近は総合格闘技系の



本誌だからできた独占インタビュー&特写

結婚しても攻めまくる二人に本音直撃インタビュー!!

「いずれおまえらは俺に感謝することになる」（坂田）

「その自信はどこから来るの？でもこんなふうに生きてみたい」（小池）

聞き手／坂井ノブ　撮影／タイコウクニヨシ♂　試合撮影／山口比佐夫、平工幸雄　写真提供／ハッスルエンターテインメント
スタイリスト／森千鶴子　ヘアメイク／板倉タクマ　衣裳協力／VERSUS NEW YORK［TEL.03-3478-0829］

ここ最近は総合格闘技系のファイターが表紙を飾る機会が圧倒的に多かった本誌において、今回の表紙は非常に画期的な挑戦だろう。おそらく一般誌からもオファーはあっただろうが、幸せの絶頂にいる二人にはあえて緊迫感の漂う設定での撮影をお願いしてみた。日本刀を構えた小池栄子さんの凛とした美しさはどうだ？　そしていつも以上に物騒な坂田亘はどうだ？　5年間という交際期間のあいだ、二人は芸能界のしきたりやルールを守ってきた。だが、晴れて結婚したことで、いよいよ二人は解放された。守りから攻めへ――。それは10月から地上波レギュラー放送が決定した『ハッスル』の現状とも重なり合って、写真からはノリにノってる人にしか出せない勢いのようなものが漂っているではないか。とくに坂田の攻めの姿勢は、以前よりも拍車がかかっている。「天下を取る」「俺が主役や！」といった言葉も単なる大言壮言ではなく、いよいよそのハッタリが背中に貼りついてきた。『ハッスル』旗揚げから3年9ヵ月。髙田総統も言っているように、『ハッスル』の本格的な反撃の狼煙は上がった。『ハッスル』、いや〝プロレス界〟を引っぱっていく男と、その妻が語る〝これから〟のこと。〝格闘技〟というフィルターを通さない〝プロレス〟が放つ矢が世間に突き刺さるかどうかは、ある意味、坂田亘にかかっているとも言えるのだ。本誌はそのおおいなる可能性に大々的に賭けてみたい。

素晴らしい奥さんをもらって世間の注目を浴びて
やっかみを言うやつもいるが気にしてられない(坂田)

―いや〜、今回は非常に画期的な表紙が撮れましたよ!

坂田　ホントに思っとんの?

―思ってますよ! 正直な話、まさかここまでOKいただけると思ってなかったぐらいなんで。

小池　ありがとうございます。

―撮影はいかがでした?

坂田　まあ、いいんじゃない? 今回だけは発行部数を増やせ。

―わかりました(笑)。通常の普通のツーショットにはしたくなかったんですよ。二人の攻めの姿勢を撮りたかったので、〝モノ〟を持っていただいたんですが。

小池　いままでもそうでしたもんね、隠さず攻めの姿勢でしたからね。

坂田　隠そうとするから脇が甘いのが目立つんだよ。堂々とやってりゃ脇が甘くたっていいんだよ。

―実際、堂々とした結婚発表でしたね。

坂田　あれはさ、ウチのカアちゃんが、俺なんかとは比べものにならないぐらい一般の人に知られてる人だからね。そういう人を嫁さんにもらうわけだし、「どうぞよろしくね」っていう世間様への挨拶だよ。

―小池さんはいかがでしたか?

小池　凄く楽しかったです、お祭りみたいで。二人で揃って発表をやるというのは、やっぱり……、いままで世間の皆さんが応援してくれてたからあたりまえだと思ってたし。いっぱいマスコミの方に来てもらったのも嬉しかったです。それがちょうど『ハッスル』のテレビ放送が開始されるのに近かったから、よりいいなって。いいときにはいろんないいことが重なるんだなって思いましたね。

坂田　みんながいろいろへんなこと考えたりとかさ、結果論でものを言うからさ、ああだこうだ言うかもしれないけど、俺らはべつに何も計算してないし。ね、カアちゃん?

小池　……カアちゃんって言わないでよ! 嫌なの、それ!

―いいなぁ、そういう会話(笑)。

※ここで、撮影に立ち会っていた山口日昇(ハッスルエンターテインメント代表取締役)がいきなり横から割り込んでくる。

山口　ノブ君、読者の声を代弁してガンガン突っ込んだほうがいいよ。「なんで坂田さんみたいな男が栄子ちゃんをつかまえられたんですか? 脅したんですか?」とか、「坂田、分不相応だ!」とか、聞くことや言いたいことがいろいろあるでしょ?

小池　よく田村(潔司)さんに同じこと言われました。

―さすが、坂田さんが「アニキ」と慕うだけあって、田村さんは得意の左ミドルみたいに強烈なことを言いますね。

小池　付き合ってすぐの頃に、よく言われたよね?(と坂田に振る)。

坂田　まあな。

小池　でも、田村さんは応援してくれてました。

―では、「坂田、分不相応だ!」という意見に対しては?

坂田　ああん?(と睨む)。

―す、すいません! いまの質問はなかったことに……。

坂田　おまえ、いつまでも俺と会って緊張してんじゃねえよ!

―いや、殴られるんじゃないかとドキドキしてるんですけど……。

小池　殴られたことがあるんですか?

―ありますよ! いきなり蹴飛ばされたりとか……。

坂田　まあ、俺にとっては挨拶みたいなもんだから。

―な、なるほど(苦笑)。でも、ホント痛いですからね、坂田さんの蹴りは。靴の先が尖ってたりするんで。

坂田　それは俺の気持ちの表われや。

―業界関係者のあいだでは怖そうというか、ホントに怖いっていうイメージなんですよね。8月に「小池栄子、結婚!」って『東スポ』の一面になったことがあったじゃないですか。そのとき山下康幸記者が書いた記事を覚えてますか? 「口は悪いが筋が通ってる、男の中の男だ」と……。

小池　でも、最後に「礼儀はない」みたいなことが書いてあって(笑)。

―そうです(笑)。あれがたぶん坂田さんのイメージの最大公約数だと思うんですけど、小池さんが最近出したエッセイの中で書かれてる坂田さんっていうのは凄く優しい人なんですよ。これはホントにそうなんですか?

小池　優しいですね。真っ直ぐな人だなって思いますし、たぶん怖いって受け取られるとは思うけど、真正面から正直にぶつかってってるところはいいなと思います。

―無愛想ということは、裏を返せば嘘がつけないというか、おべっかも使わないということでもありますよね。

小池　男の人はそれでいいんだと思うんです。私は男性でも女性も媚びる人って好き



『ハッスル』でもメキメキと頭角を現わしてきた坂田は、今年6月の『ハッスル・エイド2007』で“超竜”スコット・ノートンの圧倒的なパワーをはね返して勝利! 単なるビッグマウスではなくリング上でも結果を出しているのだ。

亘くんは「怖い」って受け取られると思うけど真正面からぶつかってるところがいい（小池）

じゃなくて。でも、自分は仕事柄、芸能人をやってて女の子だから、ある程度付き合いとしてニコニコすることは大切だけど、そんな自分に疑問を抱くこともあるんですね。そんなときに彼と一緒にいると気持ちが正されるというか。こんなふうに生きられたらいいなという憧れはありますね。

坂田　（黙ってうつむく）。

——なるほど。

小池　自分で自分を追い詰める生き方ただと思うし、言った手前やらなきゃいけないですからね。逃げも隠れもしない、真っ直ぐな生き方は人として尊敬してます。

——と、おっしゃってますが？

坂田　いい奥さんだよ。おまえらも俺を見た目とか雰囲気で判断してるからな。いつまで経ってもいい女がつかめないんだよ。

——なるほど、勉強になるなぁ。その言葉はホントに重みがありますね（笑）。

坂田　みんなそうだよ！

——媚びないから人を遠ざけるという部分はありますけど。

坂田　じゃあ、たとえばマスコミに媚びてるようなやつにページ数を割く雑誌なんか誰が喜ぶんだよ！　プロレス界でも格闘技界でも「俺がプロレスを伝えてる」「俺が格闘技を伝えてる」って言いながら媚びを売ってるやつが多すぎる！　本来だったら、どっちも腹を見せて、正面切ってケンカするぐらいの覚悟がないと盛り上がらんよ。

——確かにそうですね。

坂田　まあ、今回こうやって俺も素晴らしい奥さんをもらって、いい意味で世間の注目を浴びてさ、やっかみを言うやつもいると思うけど、そんなの気にしてられないから。どんどん攻めるしかないからさ……、まあ、わかるよ。いずれおまえらは俺に感謝することになるよ。

——す、凄い自信ですねぇ（笑）。

小池　亘くんらしい言葉が出てきましたね（笑）。その自信はどこから来るのかね？

坂田　ホントだよ！　俺はやるって言ったらやるもん。

——最近はずっと「俺が天下を取る」っておっしゃってますよね。

小池　そう、よく言ってます。

——プロレスラーだと「トップに立つ」とか「ベルトがほしい」とか、そういう言葉はよく聞くんですけど、「天下を取る」って言う人はなかなかいないですよね。

山口　（再び話に割り込み）あるとすれば、世の中を知らない高校生とか暴走族が「俺は天下を取る」って言うくらいだね（笑）。

——まず「天下ってなんだ？」っていうところをうかがいたいんですけど。

坂田　知るか、そんなもん。

——『ハッスル』で一番上に立つっていうことですか？

坂田　……………。

——すべてを支配するというか。

坂田　まあな……。

——それを坂田さんがやる、と？

坂田　……（長い沈黙）。

小池　インタビュアー泣かせだ（笑）。

Wataru Sakata & Eiko Koike

坂田　違うよ。「考えるな！　感じろ！」ってことだ。

——う〜ん……、たとえば知名度ナンバーワンとか、収入だったらナンバーワンとか。

坂田　そういう想像できるものすべてでだよ。

——従来のプロレスラーだと、プロレス業界内だったり団体内でトップを取るぜ！みたいな話が多いじゃないですか。坂田さんはそのスケールではないわけですね？

坂田　わかっとるやんけ！

——それがどんなスケールなのかっていうのが、ちょっとわからないんですけど（笑）。

坂田　そんなのは俺に聞くより、おまえが各団体のトップだと思えるヤツに聞いてきたほうがいいんじゃない？　そいつらがホントにトップとして恥じないような生活だったり、試合だったりをしてるかって。答えてくれねえと思うけど、聞いてこいよ。

小池　よくそこまで言いきれるね（笑）。

山口　（またまた登場して）逆に「坂田さん、それ全部本気で言ってるんですか？」って聞いてみれば（笑）。

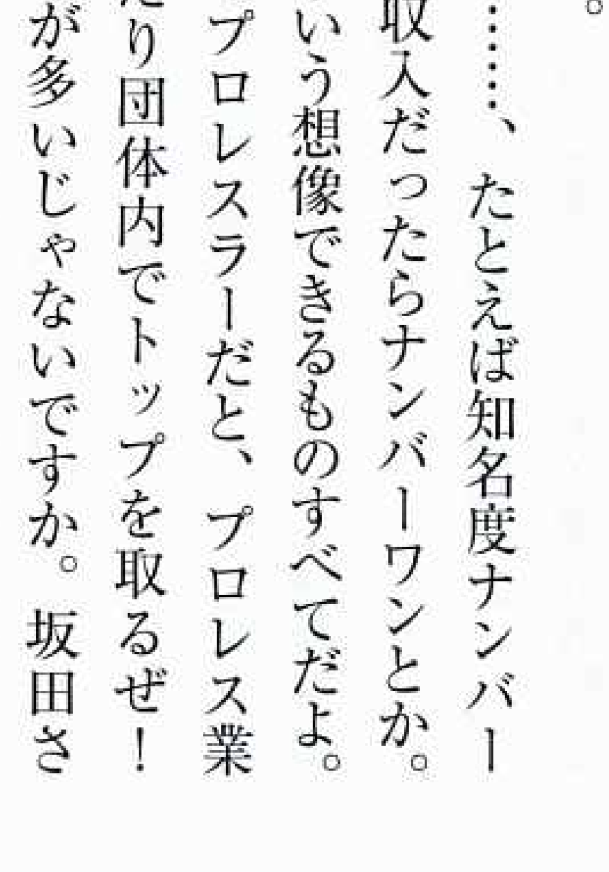
——はあ、それをボクが聞かなきゃいけないんですね……、（おそるおそる）本気ですか？

坂田　本気や!!（キッパリ）。

——こういう発言は常日頃からしてるわけですよね？

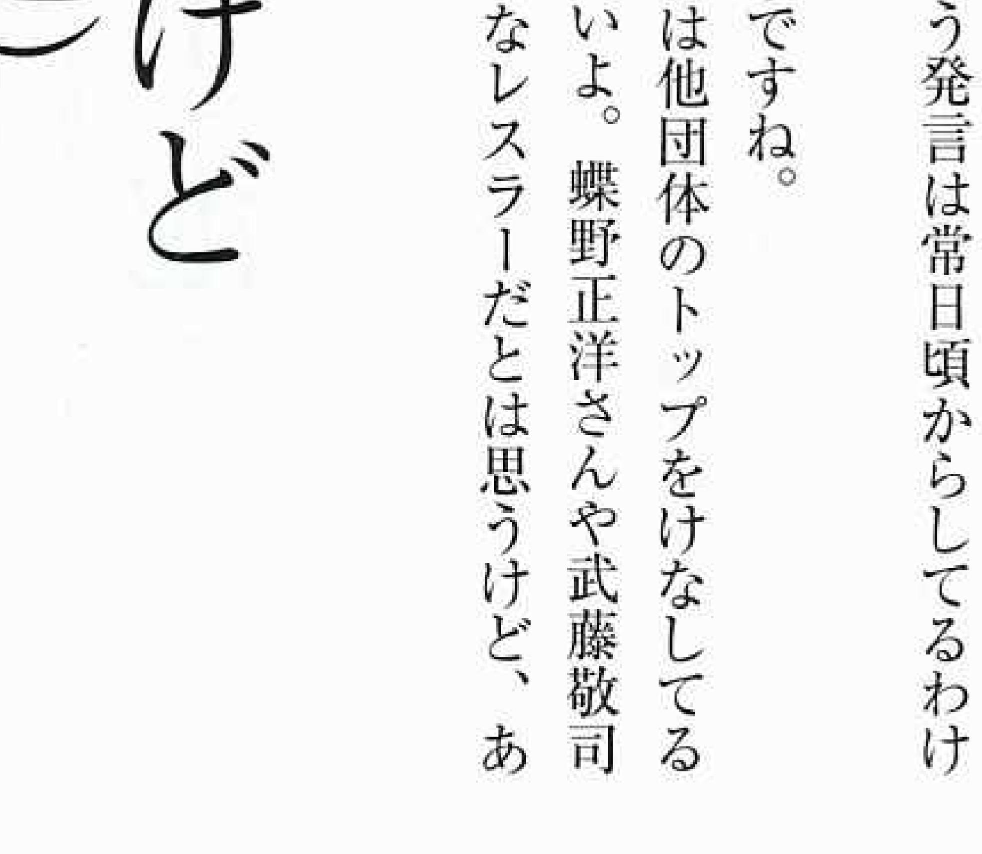
小池　そうですね。

坂田　これは他団体のトップをけなしてるわけじゃないよ。蝶野正洋さんや武藤敬司さんは偉大なレスラーだとは思うけど、あ



入籍翌日についに発表！結婚発表記者会見は都内ホテルで盛大に開催

世間をおおいに賑わせた坂田と小池さんの結婚発表記者会見は、8月30日に都内ホテルで行なわれた。この前日に坂田が婚姻届を提出したことを報告して、記者との質疑応答が行なわれた。プロレスマスコミだけではなく、有名芸能レポーターも数多く集まり、20台以上のテレビカメラがズラリと並び、いつものハッスル会見とはまったく雰囲気が違う！　こういった会見にはお約束の二人で指輪を披露したり（披露したのは結婚指輪で婚約指輪はオーデマ・ピゲのオートクチュールを制作中らしい）、「子どもは何人ぐらい？」という質問に「子だくさんの番組ができるぐらい！」と坂田が答えたり、まぶしいぐらいに幸せなオーラが会見場には漂っていたのだった。



小池さんは「とにかく幸せ。生きててよかった」と語れば、坂田も「最強のパートナーを得た」。そんな二人がハッスルポーズを決めるとおびただしい数のフラッシュが焚かれた。

まさか私が『ハッスル』に出ることになるとは思ってなかった。もの凄い内助の功ですよ(小池)

そこが俺の天下ではない。

——髙田延彦さんなんてどうですか?

坂田　髙田さんという存在はプロレス業界の中では収まりきらないと思う。そこを抜けちゃってる人だけど、プロレス業界に入ってきたとしてもまだトップじゃん。

——そうですね。髙田延彦さんの友人である髙田総統も『ハッスル』のトップに君臨してますよ。

坂田　総統はともかく、髙田さんは腹を割って話せば腹を割って返答してくれるし、もの凄く尊敬してる。俺の憧れでもあるし。

山口　(すかさず割り込み)昔、前田日明にも同じこと言ってませんでした?……って、ツッコんだほうがいいよ、ノブ君(笑)。

——もう、自分で聞いてくださいよ!

坂田　……それはないね。前田さんは、また別の種類の人間って感じだね。

——前田さんに結婚報告しました?

坂田　したよ。

——どんな感じでした? リアクションは。

坂田　「ほう……、そうか。よかったやんけ! 離婚すんなよ」って(あまり似てない前田日明の真似で)。



「♪『ハッスル・マニア』に来いけえいこ〜」という歌とともに横浜アリーナに降臨して度肝を抜いた"妖精さん"。坂田GM(当時)はきっちりと公約を守った。愛の力でさまざまな障害を越えた!

——前田さんらしいなぁ(笑)。

坂田　さっきの「天下を取る」っていう話の続きだけど、ホントに俺が髙田さんのように上に立っていい人格なのかどうかはわからんけど……。

山口　(すかさず)間違いなくふさわしくない!!(キッパリ)。

坂田　(ギロッと睨みウケ流して)理想を言えば……、自分の周りの人間がいい方向にいってもらいたいじゃん。

——坂田さんが先頭に立って引っぱっていくというのが理想ということですかね。

坂田　そうだな。

山口　これは栄子ちゃんにだけ打ち明けるけど、ボクがイベントのスタッフと会議してるときに坂田亘が電話をかけてきたんですよ。で、「いま会議中だから折り返す」って言うと「おう、社長! 会議してる連中に言っといてくれ。俺がおまえらを食わせてやるから頑張れ!」だって。

小池　へぇ〜っ、そんなこと言ってるんですか? フフフフ。

坂田　何がおかしいんだよ!

山口　しかもそれ、昼間で、酔っぱらってるわけじゃないからね。昼間からそんなこと言うやつっている?(笑)。

小池　結婚すると強くなるんでしょうね。結婚してから「天下を取る」って発言が増えたような気がする(笑)。

——そんなお二人が初めて共演したのが、昨年11月の『ハッスルマニア２００６』でしたよね。あのときは大変だったんじゃな

写真で振り返る坂田亘の"ハッスルちょっといい話"



05年からは「しょっぱいハッスル軍」(by坂田)を離脱。坂田軍団としてマーク・コールマンらと合流。リング上で酒だって飲むぞ!



04年は「ハッスル・プリンス」という肩書きで、旧ハッスル軍で闘っていた。髪切りマッチでアン・ジョーに敗れ丸坊主になったことも。



『ハッスル1』で坂田はゼブラーマンになる予定だったが、大晦日のダニエル・グレイシー戦で負傷、欠場となり別人がゼブラーマンに。

あのときは凄い緊張でしゃべってるうちに喉がカラカラになっていく感覚を初めて味わった（坂田）

いですか？

小池　ありえないですよね。事務所の人も「無理！」って言うと思ってましたから。

坂田　（所属事務所の）イエローキャブには、感謝の一言に尽きるよ。ただ、ああいうことが実現した原因を探っていくと、『ハッスル』のリングで俺が「『マニア』にエイコを上げる」って宣言したのがすべての発端だから。

小池　そうだよね。

坂田　言ったはいいけど、スタッフも観に来る客も「こいつら本気で（小池栄子が来るって）考えてんのかな？」って思ったときに、ここまで来たら一回、俺が本気で向き合ってみるかって流れだったから。

小池　お客さんも期待してて、あの頃は「エイコ」コールが凄かったですよね。でも、そのときは違うエイコが出てくるはずだったんですよね？

――そうですね、当初の目論見は違うエイコさんだったみたいですけど（笑）。

小池　まさかこっちにくるとは思ってなかったですけど（笑）。

坂田　二番手だよ。

――失礼きわまりない話ですね（笑）。

小池　もの凄い内助の功ですよ（笑）。

――『ハッスル』の舞台に初めて上がっていかがでしたか？

小池　凄く緊張しましたよ。もっと楽な気持ちでできるのかなと思ったんですけど、普段、自分がやってるお芝居の舞台の100倍ぐらい緊張した。まず温かく迎えてくれるのかどうかも不安だったし、ブーイングされたらどうしようとか思って。あのときは小川（直也）さんが凄く励ましてくれたのを覚えてますよ。「大丈夫だから、頑張って」って。

――さすがキャプテン（当時）、優しいですねぇ！

坂田　結婚発表記者会見のときも緊張はあったけど、あのときの『マニア』の緊張感ほどではなかったよ。マイクでしゃべってる途中に喉がカラッカラになっていく感覚がわかったもん。こういう世界で生きてても、あそこまでの経験は初めてだったな。

――ちなみに、あのオープニングを終えてお二人がバックステージに戻ってきて、抱き合う瞬間をたまたまRGさんが見てて、思わずもらい泣き、というかもらい号泣したらしいんですね。

坂田　ああ、あいつ泣いてたな（笑）。

小池　あのときはちょっと私も感動して、泣きそうになっちゃった、亘くんに会えた瞬間に。

――その場面を想像するだけで映画みたいだなって思いましたけど、そういうところまで観せられれば、より『ハッスル』の凄さとか深さも伝わるのかなぁ。

坂田　でも、意図的に観せたら、それはもう演出なんだよな。それはやっぱり過去の話としておまえがどれだけ美談にしてくれるかってことだよ。

――精一杯、頑張らせていただきます（笑）。『ハッスル』って表に出てないけどいい話がいっぱいありますよね。

坂田　おまえらは俺を見かけで怖いだとか判断するだろ？　でも自分がボロボロになってもいいからって斬り込んでくれれば、いまの話みたいないいところが見えてくるはずなんだよ。だからってそういうことをしてくれって言ってるんじゃないけど。みんな上っ面だけ見るなってこと。『ハッスル』もそうだし、タレントの仕事もそうだし。

小池　あのときの仕事をやり終えた感というか、このプロジェクトを成功させた感は凄かったですね。当日までスタッフとかメイクさんにも言わずに来てもらったり、いろいろ大変だったので。

――超厳戒態勢ですね。

小池　リング上でマイクアピールするのは凄いなって、自分でやってみて思いましたよ。川田（利明）さんとか髙田総統も凄いなって。亘くんだって、どんどんしゃべりがうまくなってきてるし。

――そうですよね。そんな坂田さんがこれからどんどん『ハッスル』の中心に……。

小池　なってください！

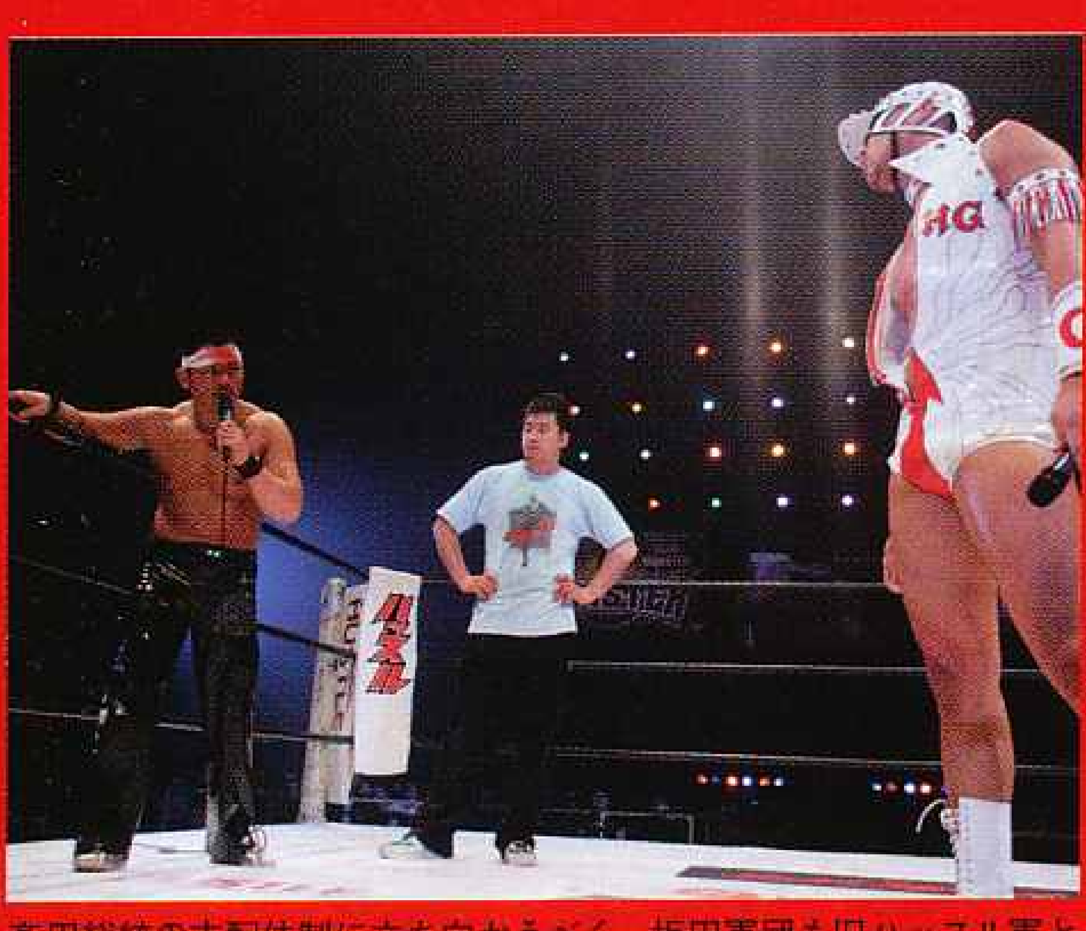
――なりますよね？

坂田　あたりまえや！　俺がやらんで誰がやる？

――ホントそうなんですよね。いいかたちで注目を集めて、テレビも始まれば『ハッスル』の主役になってくると思うんですよ。しゃべりの部分はトレーニングとかしてるんですか？

坂田　センスがいいってことや（笑）。

Wataru Sakata & Eiko Koike



髙田総統の支配体制に立ち向かうべく、坂田軍団も旧ハッスル軍と合流。新生ハッスル軍の結成をHGらに熱く呼びかけたのだった。



同年9月には「エイコを『マニア』のリングに上げる」と宣言して5代目GMに就任。記者会見には必ず青のラメスーツで登場した。



06年3月には天龍＆安田からタッグ王座を奪取。しかし、この頃の坂田はリング上での表現について悩みまくっていたことも……。



ハッスルの中心になってください！（小池）

あたりまえや。俺がやらずに誰がやる？（坂田）

小池　亘くんがヤジに対してパッと言い返すじゃないですか？　ああいう場面ってその人のセンスが出ると思うんですよ。凄く笑いのセンスがある人だと思う。

——小池さんから見て『ハッスル』の坂田さんっていうのは、普段接してる坂田さんとは違いますか？

小池　はい。リングに上がってる亘くんは超カッコいいです。自分も舞台に出てお芝居してる瞬間が凄く好きっていうか、そこをもっと頑張りたいと思ってるんですけど、年に一本できるかどうかなんですよ。亘くんが月に一〜二回、ああやってリングでプロレスして、しゃべったりできるのは凄くうらやましい。

——今後は毎週レギュラー放送も始まってテレビで露出することによって、より多くの人の目に触れますよね。

坂田　『ハッスル』を誰もが知ってるものにしなきゃいけないだろ。テレビだからってへんにいい子ちゃんになるわけでもないし。なんでもやっていい舞台だしさ。なんとなく気持ちが入らない、本気じゃないやつっていうのは消えていくと思うよ。テレビってやっぱり……、自分の嫁さんがそこで働いてるから感じるけど、そんなに甘くないんだよ。「わーい、テレビだ」って喜んでるやつらはどんどん消えてくよ。

——坂田さんご自身も、結婚発表を機にテレビ出演の声がかなりかかってるって話を聞いてますけど。

坂田　うん。

——自分のフィールドではないわけですよね？

小池　でも、このままでいいんだと思いますよ。バラエティに出て、プロレスラー・坂田亘のままでいいんだと思います。バラエティタレントは、毎回が勝負で「次また呼ばれるために！」って必死でそこで闘うけど、そんな必要は一切ないと思うし。かといって軽く流すわけじゃなく、いままでどおり媚びない亘くんのまま出てくれれば、それがおもしろいと思います。

——確かに急ににこやかな坂田さんが出て、一生懸命リアクションしてたら怖いですね。

坂田　べつに普段も怒ってるわけじゃねえよ！　まあ、嬉しい悲鳴だよね。



さかた・わたる■1973年3月11日、愛知県出身。前田日明率いるリングスで94年にデビュー。『DEEP』や『PRIDE』などで活躍後、ZERO-ONEなどプロレスのリングでも大暴れ。現在は『ハッスル』で新生ハッスル軍をリードする兄貴的ポジション。175cm、93kg。

こいけ・えいこ■1980年11月20日、東京都出身。バラエティ番組で幅広く活躍するだけでなく、最近は作家・村上龍の経済トーク番組『カンブリア宮殿』でも司会を務める。『ハッスル』には2006年に一度だけ「妖精さん」として登場した。

——さて、お二人の結婚式なんですが、来年の春まではやりたいとおっしゃってましたね。

坂田　あくまでも漠然とした目標だよ。

——どういう結婚式になるのか、凄く楽しみですね。

坂田　来ていただける人に、俺たち夫婦のこともそうだけど、その場の空気をいつでも思い出せるような心に残る披露宴ができればいいよ。

小池　「楽しかったね」って言ってもらいたいよね。楽しんで帰ってもらえるような出しものをしたいなとは思います。

坂田　俺に「試合しろ」って言うんだよ。

小池　これは付き合い始めた頃からずっと言ってるんですけど、「いつか結婚したら、結婚式で私のためにワンマッチやってほしい」って。当時は「タムちゃんとやって」って言ってたんだよね。タムちゃんに会ってもそれは言ってて。

——いいですねぇ！（笑）。

坂田　まあ、何かおもしろいことはやるよ。

——髙田モンスター軍も来るかもしれないですね（笑）。テレビ中継もできたらおもしろいと思いますけどね。

小池　そのときに『ハッスル』がどんな感じになってるかなぁ。連動できればおもしろいですけどね。

——では、お二人の今後の幸せと一生忘れられない披露宴を期待してます！

坂田　披露宴よりも、まずは『ハッスル』や!!　俺は『ハッスル』で本当に天下を取るから。地上波も始まったことだし突き抜けるぞ!!　そのためには俺も身体も張るし、心も張る。もう一度言うけど、きっとおまえらも俺に感謝する日が来る。そういうことや!!

【07年9月7日／渋谷区恵比寿「スタジオ・エビス」にて収録】

プロレスファンとしても知られ、今年上半期の越中詩郎ブームの火付け役でもある芸人ケンドーコバヤシが、10月6日から始まる『ハッスル』のレギュラー番組『どハッスル!!』のメイン・パーソナリティに起用されることが決定した！　ハッスル軍で活躍中のレイザーラモンの先輩にあたり、厳しい目線と同時に愛情を持って『ハッスル』を観続けてきた人でもある。そんなケンコバさんに、どんな番組になるのかをうかがってみた。

聞き手／坂井ノブ　撮影／平工幸雄　試合撮影／山口比佐夫

写真提供／ハッスルエンターテインメント



メイン司会者 ケンドーコバヤシに聞く

『ハッスル』レギュラー番組の見どころ

「『ギブUPまで待てない!!』以来の"一線を越えた番組"になりますよ!!」

――今日は『どハッスル!!』（以下『どハス』）が、どんな番組なのかうかがいたいと思います。

ケンコバ　はい。非常に……、恐ろしい番組ですね（神妙な顔つきで）。

――恐ろしい番組！　どのように恐ろしいんでしょうか？

ケンコバ　タブーなき世界というんですかね？　企画段階で一線を踏み越えてましたから。

――一線を越えた番組ですか。かつてミスター・ポーゴが提唱した「一線を越えたデスマッチ」のようですね。

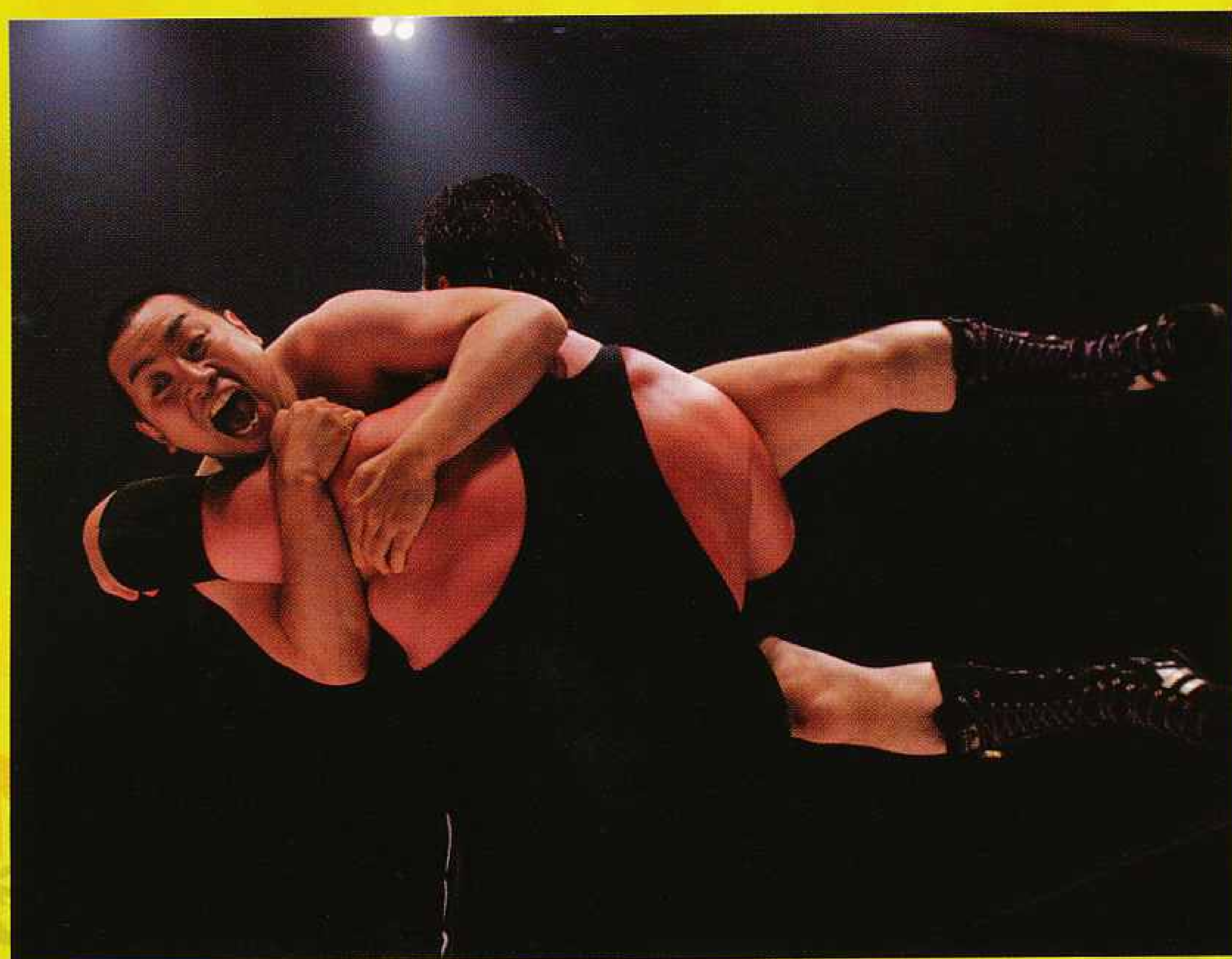
ケンコバ　波紋を呼ぶと思います。良きにつけ、悪しきにつけ。

――いままでのプロレス番組で悪い波紋を呼んだというと山田邦子さんが司会を務めた『ギブUPまで待てない!!』が有名ですが。

ケンコバ　あの番組では馳浩さんが激怒しましたけど、まあ、あんなもんじゃないと思います（笑）。

――さらに上を行きますか！　いわゆる良識派のプロレスファンが観ると腹が立ってしょうがないとか？

ケンコバ　いや、それがそうでもないような気もするんですよね。むしろ「なるほど、そこを突っ込んでくれるのか！」と。間違いなく言えるのは、ハッスル愛、プロレス愛には包まれてますね。そもそも、ボクの中には「プロレスファン同士でいがみ合ってどうする？」みたいなところはあるんですよ。



かつて髙田延彦氏が「あのトボけたやられっぷりは地上波放送に乗ったら化けるぞ」と太鼓判を押したRG。もちろん、RGが生きていればの話だが。

――「プロレスは好きだけど『ハッスル』は……」みたいな人も、いまだに少なくないですからね。プロレス専門誌の扱いも腫れ物に触るような感じでしたからね。

ケンコバ　そういう人たちにも完全に届く番組になってますね。

――具体的なプランをケンコバさんからご提案されたりとかは？

ケンコバ　僕も一つアイデア出させてもらいました。（企画が）動きそうな感じでしたけどね。

――話せる範囲で具体的にお願いします。

ケンコバ　言うていいのかな……、いまはプロレス界の重要な試合も、プロレス界にしか届いてないじゃないですか。プロレス界の重要な試合を団体問わずみんなで語り合おう、みたいな企画なんですけど。

――画期的ですねぇ！　テレビ局の利害関係を超越してますね（笑）。どんな番組になるか楽しみだなぁ。この番組はケンコバさんがメイン・パーソナリティということになるんですよね？

ケンコバ　はい。ボクとアシスタントが一人つきます。

――高田総統との絡みもぜひ観たいです。

ケンコバ　そこもぜひチャレンジしたいですね。

――じつは以前、バッファロー吾郎さんとケンコバさんのラジオ番組に高田総統が一度、降臨したことがあったんですよね。

ケンコバ　そうです、総統に登場していただきました。でも、番組のエンディング前に「いまからジュネーブに飛ぶ」ということで帰られたんですけどね。ジュネーブになんの用があったんやろう？（笑）。国連関係でしか聞いたことない場所ですからね、ジュネーブって。

――国連関係の仕事もしてるんですかね？（笑）。では、インリン様との接点は？

ケンコバ　インリン・オブ・ジョイトイさんには何回も会ってるんですけど、インリン様はないですね。ちなみにインリン様の息子のモンスター・ボノも接点はないです……、ボノのそっくりな曙選手とは何度も会ってるんですけどね。ちなみに曙さんには2年連続でインタビューさせてもらったことがあるんですけどね、年末あたりに。

――ああ、『Dynamite!!』の直前とか、そんな感じですね。

ケンコバ　はい。ああいう結果になるとは思わなかったですね……。ちなみに、そのときは曙選手に軽く突かれただけで吹っ飛ばされましたからね（笑）。さすが横綱やと思いました。

――モンスター・ボノといえば、9月22日にRGさんとシングルで対戦しますけど、これはRGさんにとってはある意味、今年最大の修羅場ですね。

ケンコバ　そうですね。「死んでもいいんじゃないか」というアドバイスをしておきましたけどね。

――ガハハハハ！　どんなアドバイスですか！（笑）。

ケンコバ　いろいろ考えた結果、RGが死んだらやっぱり悲しいですけど、悲しみを最小限に食い止められるのはRGじゃないかなと思うんですよね。

――もし身の回りで誰かが死んだということを考えると、消去法でRGでしたか（笑）。

ケンコバ　はい。非常に悲しいですけど、まだマシかな、と。それは本人にも伝えました。

――言われたほうはたまったもんじゃないですね。「死んでこい！」ってことですもんね（笑）。『ハッスル』をいままでずっとご覧になっていらっしゃったと思うんですが、いよいよ地上波放送が始まるということで、これは大きなチャンスですよね？

ケンコバ　スタッフの方にお話をうかがってたら、もっと早い時間にいきたいという話が出てましたんで、『橋本真也34歳負けたら即引退スペシャル』のようにゴールデ

ンタイム進出も夢じゃないと思うんですよ。

——最近、地上波放送でプロレスが観られる機会がもの凄く減ってますよね。ケンコバさんなりに分析すると、プロレスがこうなってしまった原因はどのへんにあると思いますか？

ケンコバ　こないだ『アメトーーク！』という番組で「昭和プロレス芸人」っていう企画をやったんですよ。そのときにみんなで持ち込んだVTRを流したんですけど、観覧に来てたお客さんがもの凄い歓声を上げてたんですね。プロレスファンが来てたわけでもないんですけど。メチャクチャ前のめりでみんな観てて。いまとの違いは何かっていったら、リング上もそうなんですけど、客席が違うんですよね。

——客席が違う！

ケンコバ　当時の客席は熱が凄かったですからね。

——いま『ハッスル』の後楽園大会も熱はありますけど、当時はそれが全国規模なのがあたりまえだったわけですからね。

ケンコバ　だから、観る側の責任も、もしかしてあったんじゃないか、と。異常な盛り上がりなんですよ、昭和のプロレスは。

——ちなみに、誰の映像を観たんですか？

ケンコバ　初代タイガーマスクの試合は観覧のお客さんが一番沸いてましたね。「ウォ～ッ！」って言ってましたから。で、僕が紹介した越中詩郎vs高田伸彦という試合は越中選手が指ひしぎで勝った試合なんですけど、観覧のお客さんは「え、これで勝っていいの？」みたいな空気が流れて、ちょっ

いま気になる存在は\(^o^)/チエ選手! RGには先輩として死んでこいと言いたい



8月シリーズではなんとTAJIRIから白星を挙げてしまったチエ。そのマニアックな魅力のとりこになる人が続出する日も遠くはないだろう。

と冷や汗かいたんですけど（笑）。

——ガハハハハ！　せっかく『アメトーーク！』で上がった越中株が（笑）。

ケンコバ　「え、こんな人やったん？」みたいな空気になって、ちょっとドキドキしましたけどね（笑）。いい実験って言ったらあれですけど、いいデータが取れましたね。

——そうですね、お笑いのお客さんですもんね。

ケンコバ　お笑いのお客さんでも沸くもんは沸くんやと思って。

——タイガーマスクはいま観てもホントに凄いですもんね。

ケンコバ　そのときに、ほんまに悲しいことなんですけど、くりぃむしちゅーの有田（哲平）さんが、「どうしてもザ・コブラの映像を紹介したい。コブラの悲哀をみんなに伝えたい！」って言うたんですけど、なんとね、テレビ朝日にコブラの映像が残ってないらしいんですよ（笑）。

——えぇ～っ？

ケンコバ　処分しちゃってるらしいんですよ、ザ・コブラの映像を。ショックでしたねぇ（しみじみ）。都市伝説とかでよく言われる、「ファンタアップルは存在したのか、してなかったのか？」みたいに、あと10年ぐらいしたら「コブラはいたのか、いないのか？」で結論は「存在しなかった」って言われるときが来るかもしれないですね。

——うわ～、それぐらい幻の存在になっちゃってるんですね。平成19年という時代はコブラの試合映像は存在しなくても、RGの映像は存在してる、と。歴史はそうやってバトンタッチされていくんですねぇ。

ケンコバ　コブラからRGに（笑）。

——凄い時代だなぁ。では、『どハス』では、まず観客の熱を生み出すということが目標になるんですかね？

ケンコバ　それは意識したいですね。次の日に「昨日の『どハス』観た？」と学校なり職場なりで言ってもらえれば広がってくでしょうからね。

——そうですね。となると選手の人たちにも初代タイガーマスクとか越中さんぐらい凄いものを見せてもらわないといけませんね。いま『ハッスル』で21世紀のタイガーマスクになれそうな選手はいますかね？

ケンコバ　意外と\(^o^)/チエ選手なんかね、琴線に引っかかるものがあるんですよね。

——チエ選手の動きですか？

ケンコバ　いや、なんかね……、勝って両手上げてるときの笑顔がね、ボクの心を浄化してくれるというか。

——異性に対する感情っていう感じではなくて？

ケンコバ　異性ではないですね。ボクも歳をとったのかもしれないですけど、アイスクリームでも買ってあげたいという気持ちにさせてくれるというか。

——ちなみに『PRIDE』ファイターの青木真也選手も\(^o^)/チエが気になるって言ってましたね。

ケンコバ　将来、ボクに娘ができたら、KUSHIDA選手のような男を連れてきてほしいなとは思いますけどね。

——ああいうさわやかさで、ルチャもできる男がいいですか。

ケンコバ　はい。ぜひルチャのできる男を連れてきてほしい（笑）。

——タイガーマスクもバリバリでやってた頃は20代だったし、若いスターがいるというのは非常に大事かもしれないですね。

ケンコバ　ただ、一番テレビにバンバン出てったほうがいいんじゃないかなと思うのは、恐・イタコでしょう。

——なぜですか!?（笑）。

ケンコバ　もしかしたら『オーラの泉』関連の番組を覆せるのは恐・イタコかもしれないですよ。『オーラの泉』はゴールデンにも進出しましたからね。『どハス』のゴールデン進出の鍵は、巷のスピリチュアルブームに便乗できる恐・イタコが握ってると言ってもいいでしょう。

——なるほど（笑）。凄い番組になりそうだなぁ。

ケンコバ　もちろん、坂田選手も結婚で、大きく名前も顔も売れたでしょうしね。この番組が立ち上がるときにこういう話が出てきたのも、何かの縁でしょうね。ボクはいまだに『ギブUPまで待てない!!』で一番印象に残ってるのは、長州力選手の結婚式を中継したときの映像なんですよ。あれは凄く印象に残ってますね。あのとき、長州選手はまだ新日に上がれないときだったんですけど、藤波（辰巳）選手が祝福のコメントで「（藤波のマネで）とりあえずリング上がってこい！」って言ったんですよね。「祝福のコメントお願いします」って言われたのに（笑）。

——リングに上がれないというのに（笑）。普通の結婚式だったら「まあまあ、お祝いの席なんで」ってことになりますけど、『どハス』のカメラが入ると、一線を越えた番組になってしまうのではないかと思うんですが……。

ケンコバ　そうですね、危険な番組ですからね（神妙な顔つきで）。

——たとえば、坂田選手と小池栄子さんの結婚式を『どハス』で中継しようとなった場合、どんな番組になりますかね？

ケンコバ　いままでのプロレスラーの結婚式のいいところを取っていきたいですよね。『ワールドプロレスリング』でやったマサ斎藤さんの結婚式みたいに、みんなで庭でダンスしたりとか（笑）。マサさんの結婚式は素敵な西洋の城みたいなとこでやってましたもんね。

——蝶野さんとマルティーナ夫人も華麗に踊ったりとかしてましたね（笑）。まあ、当然モンスター軍も黙ってないですよね。

ケンコバ　黙ってないわりに、新婦の上司の話はちゃんと聞く、みたいな。そういうところもちゃんと見せたいですね（笑）。

——結婚式といえば、芸人さんの結婚式が最近いろいろ話題になってますけど。

ケンコバ　そうですね、芸人の結婚式から生まれた人気キャラっていうのもおるぐらいですからね。ムーディ勝山なんかは芸人の結婚式でおなじみのキャラだったのが、どんどん表に出てったっていうパターンですから。これはハッスラーにとってもチャンスですよ。出しものは相当練っておいたほうがいいと思います。

——ところで、今回の地上波放送は、『ハッスル』長年の悲願だったんですよね。旗揚げ当初は客入りが悪かったり、一度は決定していた地上波放送が中止になったり、橋本真也さんが亡くなったり、小川直也選手が旅に出たり……。普通のプロレス団体だったら3回ぐらい潰れてもおかしくないぐらいの状況だったんですけど。

ケンコバ　僕が知りうる限り、RGが触ったもので調子が上がってったのは初めてですからね。

——RGが触ったものは皆、必ず不幸になるというRGウィルスですね。

ケンコバ　『ハッスル』も何度か危機に陥ったと思うんですが、なんとか生き残ったという。でも、今後は心配ですよね……。こないだ銀杏BOYZと会ったときに「RGさんと知り合いになりましたよ」と言ってたんで、彼らのことも凄く心配してるんですよ。

——銀杏BOYZも以前ライブ中にパンツを下ろしたりして、けっこう危なっかしいですからね（笑）。公然わいせつで書類送検されてましたけど。

ケンコバ　そこにRGが絡むとなるとよけいに心配ですね。基本的に『どハス』ではRGは取り上げない方向で、「RGは存在しない」ぐらいの感じでいきたいです。

——RGもそのうち都市伝説になるかもしれないですね。

ケンコバ　そしてコブラのように抹消されていくんですよ。

——わかりました（笑）。では、『どハス』楽しみにしてます！

ケンコバ　とにかく、一線を越えた番組になりますんで。期待していてください。

【07年9月6日／ハッスルエンターテインメント事務所にて収録】



けんどーこばやし■1972年7月4日、大阪府大阪市出身。吉本興業のタレント養成機関NSC11期生。同期には陣内智則、たむらけんじ、中川家、ハリガネロックらがいる。大のプロレスファンとして知られ、越中詩郎ブームの火付け役でもある。『ハッスル16』では吉本興業提供試合の解説も務めたことがある。172cm、77kg。

しつこいようですが、10月6日(土)からレギュラー放送開始！

『ハッスル』の世界観をより広く、そして深く伝えるためには不可欠な要素、それがテレビ放送であるのは言うまでもないだろう。9月8日に放送された『ハッスル・エイド2007』も平均視聴率2.8パーセント（関東）を叩き出し、滑り出しも好調だ。最初は関東ローカルだがこれから徐々に放送地域は拡大していくはずだ。レギュラー番組『どハス』はテレビ東京系で毎週土曜日26:50〜27:20放送!! 毎週見逃すな！





「プロレス楽しいッス!!」

ッパリは
んですよ!!

K-1、MMAでは連敗だが

とにかく凄い自信だ!!

第64代横綱

曙

大相撲の元・横綱にしてK-1、総合格闘技、プロレス、そして『ハッスル』にまで足を伸ばし、巨体を揺すって大暴れしている曙が登場だ。昨年末に『Dynamite!!』でジャイアント・シルバに敗れて以来、沈黙を続けてきた曙がまるで故郷ハワイの火山のように大爆発している。そんなノリノリの横綱に、ついに『kamipro』も初取材を敢行！　ほとばしる「プロレスLOVE」と胸がキュンとするすてきなパーソナリティを行間から感じていただきたい！

聞き手／松下ミワ&坂井ノブ
撮影／菊池茂夫　試合写真／平工幸雄、乾晋也



横綱、本誌初登場で吠えまくる!!

屁のツッ
い

——『kamipro』でインタビューを何度かオファーしてたんですけど、やっと横綱のお話を聞けることになって興奮しております！

曙　やっと最近になってインタビューで話せるネタができたということですね。ずっとボクにはネタがなかったんでね……（ちょっと寂しそうに）。

——何をおっしゃいますか！

曙　フッフッフッ。なんでも聞いてよ。

——よろしくお願いします！　今年の8月は『G1クライマックス』、『ハッスル』で凄いインパクトを残しましたよね。

曙　フッフッフッフ。照れるよ。

——か、かわいいです！　横綱に向かって恐れ多い発言ですが（笑）。

曙　まあ、でも、『G1』は自分のいい部分も悪い部分も勉強させてもらいましたよ。身体のコンディションのきつさはありましたけどね。

——今年は凄く暑かったですから、その巨体をコントロールするのは予想以上に大変だったんじゃないですか？

曙　いやいや、それより、もう毎日が楽しかったよ!!　『G1』は非常に周りの反応が良かったから、やっぱりね、やりがいになりますよ。

——ちなみに、お客さんの歓声は聞こえてました？

曙　会場にいるときはお客さんの声とかってあんまり聞こえないんですね、気持ちが集中してるから。ただ、試合終わってから、マスコミのインタビューを受けるじゃないですか。いつも「負けたけど、今日の曙も凄かった！」っていう反応だったから、次の試合がもう待ち遠しくてしょうがないんだよね～（しみじみと）。

——ああ、横綱はほめられて育つタイプなんですね（笑）。

曙　フッフッフッ。やっぱり一番嬉しかったのは長年ボクを見続けている記者の皆さんの声ですよ。

——もっとほめてくれ！　と（笑）。今回は曙さんを『G1』の優勝候補に推してる人もいましたよね。金沢〝GK〟克彦さんとか。

曙　フッフッフッフ（笑）。もちろん優勝はしたかったですけど、『G1』は初めてだし、出る前は凄く不安でしたよ。「また同じような曙だったら居場所がなくなる」って考えたぐらいですから。



今年の『G1』の目玉として参戦した曙は2勝2敗1分という結果に終わったものの、勝敗以上に試合内容への評価が非常に高かった。本文中でも告白しているように子どもの頃にプロレスファンだったというのは大きなアドバンテージだ。これだけデカくて動ける超巨漢はそうそういないって!

——かつて横綱は自分を追い込みすぎて円形脱毛症になったこともありますけど。

曙　今回も不安だったよ。いままであまりシングルはやらせてもらったことないし、務められるかどうかって考えたし。参戦するだけじゃなくて、内容もいい内容でできるか不安でしたよ。ただ、新日本やK−1の皆さんが期待してくれたから出させていただいたんで、期待に応えないと（いけなかった）。……応えられたかな？

——あ、まだほめられたいんですか。あらためまして、横綱は凄かったです!!（笑）。

曙　フッフッフッフ（はにかみながら）。まあ、最終戦が終わって、本当、気持ちよかったですね～。吹っ切れたっていうか。

——しかし、その最終戦から一週間もしないうちに『ハッスル』でまさかの登場をはたしましたよね。これまた大活躍という。

曙　そうですね、ボクもびっくりしましたけど（笑）。あ、ボクじゃなかった……。

——曙さんそっくりのモンスター・ボノですね（笑）。インリン様の卵から誕生したんですが……。

曙　『G1』でいい印象を残したと言われるけど、今後はどんなふうになるのかなとは思ってましたよ。そのへんはですね、全部自分で意識しようとするより、プロの人たちに任せて、ボクはリングの上のことだけ考えてれば絶対いい方向にいくと思いましたね。

——もともと『ハッスル』にはどういったイメージをお持ちでした？

曙　いろんな団体がありますけど、みんな純粋にプロレスが好きですね。全日本も、新日本も、『ハッスル』も引っぱっている人のカラーと考えが強烈に出ていますよね。

——『ハッスル』は、わりとほかのプロレス団体より特殊な世界観ですよね。違和感を感じたりしました？

曙　それは正直言うとありましたね。ボク……、というかボノも一生懸命やるだけです。

——登場したときにおしゃぶりをしてましたけど。

曙　あれは恥ずかしいね!!

——まあ、あれはボノですから（笑）。

曙　あんなに大きな赤ちゃんが産まれるとは思ってなかったんじゃないですか？

——あきらかにタマゴの大きさを無視してますしね（笑）。ちなみに、母親のインリン様はいかがでしたか？

つまずいたっていいじゃないか　にんげんだもの

横綱の華麗なる転身!?　いやいや、波瀾万丈の曙激闘史を振り返る！



［04.3.27 K-1 WORLD GP 2004 in SAITAMA］

○武蔵 vs 曙×

（3R 判定3-0）

曙vsサップが瞬間最高視聴率43パーセントを叩き出し、紅白歌合戦を超えた。そんな世紀の一戦に続いて組まれたのが武蔵との一戦。曙がスリップした武蔵に殴りかかるという暴走もあったものの、武蔵はあくまでも武蔵らしく判定勝利。



［03.12.31 Dynamite!］

○ボブ・サップ vs 曙×

（1R 2分58秒 KO）

サップとの対戦はK-1ルールで行なわれた。気持ちで前に突っ込んでいく曙だったが、サップは怯まずにパンチを顔面に叩き込み曙をKO!!「車に轢かれたヒキガエルのよう」と形容された曙のダウン姿はAAになり、ネットで流行した。



森下社長の自殺や石井和義前館長の逮捕という暗い事件の多かった03年の格闘技界を最後の最後で明るくしたビッグニュース。それが曙参戦、ボブ・サップと対戦というニュースだった。谷川Pが電柱に隠れて横綱を待ち伏せして口説き落としたエピソードは最高!

曙　……いいですねぇ～（照れながら）。

——ワハハハ！　横綱もうっとり（笑）。

曙　（真顔で）でも、なんでお母さんのほうが若いの？

——いやいや、モンスター・ボノは0歳ですから（笑）。ボノの『ハッスル』デビュー戦の相手がRGに決まったわけなんですけれども、RGといえば芸人さんですよね。

曙　まあ、ボノが痛めつけて、本当の厳しさを教えてくれるんじゃないですか？　ただ、芸人さんでも、たぶんプロレスをやってる期間は一緒ぐらいじゃないですか？

——"ふんころがし"と同期というものアレですけど、そう考えると全力で潰しにいきますか？

曙　フッフッフ。全力はいらないでしょ。

——所詮"ふんころがし"だし（笑）。ところで、横綱は過去にWWEに参戦してますが、またWWEに出たいですか？

曙　いや、いまのところは幸せですから。

——いまは幸せ！（笑）。

曙　そうだよ。だからこのあいだ『G1』でやったようなプロレスの試合をしたいですね。ビッグ・ショーとは相撲マッチだったんですけど、もし再戦するならプロレスで再戦したいですね。

——今後、横綱はプロレスにこだわっていきたいと思ってますか？

曙　自分で勝手に思っているだけかもしれないけど、プロレスのお客さんは試合内容を求めるんです。だから、負けても勝ってもいい内容の試合をとにかく目指してやっていきたい。もちろん勝ちたいですけどね。これね、言うと変なふうに受け取られたらイヤなんだけど、格闘技は勝てりゃいいんですよ。「一番になりたい！」ってそれだけの思いでみんな努力して、世界の一番になりたがってる。ただ、プロレスの場合は、それとは違う。勝っても負けてもまだ続きがありますよね。

——負けても終わりじゃない、と。

曙　ボクが勝手に思っているだけかもしれないですけど、いまは次に出て、もっともっといい試合をしたいってワクワクしてます。イメージはできてますよ。

——横綱のプロレスの師匠である武藤（敬司）親方が「プロレスはゴールがないマラソンだ」っておっしゃっていますよね。

曙　ホント、そんな感じですよ。

——武藤親方以外にも、佐山（聡）親方とか、蝶野（正洋）親方とか、いろんな人の下で稽古してますよね。

曙　武藤さんや佐山さんや蝶野さんが言ってる内容はそれぞれ違うかもしれないけど、結局同じゴールを目指して向かってます。自分の持っているものを生かす、それが現在とこれからの曙ですね。

——確かにいまの横綱は巨体を生かしまくってますね。体格では誰にも勝ると思うんですけれど。

曙　いや、これは努力して作ったんですよ。メシ食いたくないのに食ったし、金かけてるよ（笑）。飲み代だっていっぱい取られてるからね～（しみじみ）。

——なるほど（笑）。佐山さんはヤバイぐらいに怖いときもあるんじゃないですか？

曙　よくそういう話を聞くんですけど、見たことないですね。キレやすい性格だとは聞いたことあるんですけど。

——竹刀で弟子をボコボコにやってアドレナリンを引き出すみたいですけど。最近は催眠術もやってますよね。

曙　ああ、ボクもやりましたよ。

——えっ!!　横綱も催眠術を!?

曙　しっかりかかったよ。

——かかりましたか!!（笑）。

曙　でも、催眠術やったときが総合格闘技で一番いい試合しましたからね。

——そ、そうなんですか!?

曙　負けて言うのもなんだけど去年の5月にドン・フライとやった試合。ボブ・サップ戦以外だと、あれが一番いい試合なんだよなぁ～（しみじみ）。

——かなり有効なんですね、催眠術って。

曙　ボクはどっちかっていうと真剣に信じてますからね。

——純粋に信じる人ほどかかりやすいっていう話は聞きますけど。

曙　そうなんだよ（真剣に）。

——精神的な部分ですね。その精神的な部分で問題を抱えているのが、いま話題の横綱・朝青龍なんですけれども。

曙　立ち直って頑張ってほしいですね。

——外国人の力士だから日本のしきたりとか精神的なものがわかってない、という批判もありますよね。

曙　いや、どうしても見た目でそうなるんですよね。でも、外国と日本の力士に違いはないんですよ。ただ生まれたところが違うだけで、やってることは力士は皆一緒な

©FEG inc.



震災に見舞われた新潟をFEGの選手が慰問。中でも曙は抜群の一番人気だった。さすが横綱!!



［06.12.31 K-1 PREMIUM 2006 Dynamite!!］

○ジャイアント・シルバ vs 曙×

（1R 1分2秒 CWアームロック）

05年の大晦日はタレントのボビー・オロゴンに敗れ去った曙。そこで谷川Pが「03年の大晦日よ再び!」と視聴率男のG・シルバをぶつけてきた!　しかし、曙はシウバのジャイアント・アームロックに惨敗!　格闘技って厳しい!

©FEG inc.



［05.07.29 K-1 WORLD GP IN HAWAII］

○チェ・ホンマン vs 曙×

（1R 2分52秒 TKO）

曙は初のハワイ凱旋で散る!　4ヵ月前の対戦ではトーナメントだったため、ダメージの大きい曙サイドからタオル投入でTKO負け。リベンジに挑んだ曙だったが、手数の多いホンマンに防戦一方で二度のダウンを喫してTKO負け。

©FEG inc.



［05.03.19 K-1 WORLD GP 05 in SEOUL］

○曙 vs 角田信朗×

（3R 判定3-0）

曙、ついに初勝利!　K-1アジアGPの一回戦で角田信朗と激突した曙は、体格差もあり二度のダウンを奪って判定勝利!　曙の顔面を狙った角田のフックはなかなか届かず。曙も横の動きを取り入れるなど確実に進化していた。



［04.12.31 Dynamite!!］

○ホイス・グレイシー vs 曙×

（1R 2分13秒 リストロック）

初のMMA挑戦でホイス・グレイシーと対戦！　寝技には付き合わないと言っていた曙だったが、下から腕を取ったホイスがオモプラッタで手首まで固めてあっという間の勝利。「勝つまでやる」と曙は悲壮な決意を試合後に語った。

んですよ。同じ鍋を食べて、同じ稽古をして。だから、世間は外国人だと見てるかもしれないけど、（日本相撲）協会の中ではそうじゃないですよね。日本人力士が同じことやったって同じように怒られますよ。

――確かに横綱が巡業休んでサッカーやってたら、どこの誰でも怒られますよね（笑）。

曙　ボクが後援会の方に言われたのは、「曙は曙なんだよ」って。「あなたはあなたかもしれないけど、曙という名前と横綱という地位は日本のものだから、それに従ってやらないとだめだよ」って。

――そう言われたとき、どうでした？

曙　そこで言われて初めて気づきましたね。やっぱり若い頃はわからないですよ、そこまでのことは。ボクの場合は引退する前に土俵に上がってやってる人が曙だって思ってましたから。普段の自分は曙じゃない。

――横綱の中で線引きしていたわけですか。

曙　そういうのを覚えないとしんどいです。

――相撲界は縦社会でかなり厳しい世界だと思うんですが、その点プロレスとの違いはいかがですか？

曙　一緒ですね。ただ、相撲界の場合は、親方がプライベートも指導するんです、相撲の場合は一つの団体生活ですからね。親方が責任者で。

――なるほど、付き合いの濃さが違うんですね。さて、朝青龍の話はこれぐらいにしてK－1と総合格闘技の話をおうかがいしたいんですけど、格闘技に転向して約4年ぐらい経ちますね。良かったことと悪かったことを振り返っていただけますか？

曙　悪かったのは負け続けた点ですね。良かった点は一人でも応援してくれる人がいれば、これからもやり続けますよ。これが21～22歳とかのバリバリで脂がのってる時期にK－1に転向してたら結果も違っただろうし。36歳で転向しましたからね。相撲を引退して5年間ぐらい何もしていなくて、タバコ吸って、酒飲んでましたから。

――引退したらそうなりますよね（笑）。

曙　でも、やる気だけは誰にも負けませんよぉ!!　大会10日前でも、1ヵ月前でも、電話さえあれば、いつでも試合に出ますから。

――素晴らしいモチベーションですね（笑）。



8月18日、『ハッスル25』（愛知県体育館）でインリン様の卵“イン珠”の中から登場した曙そっくりのモンスター・ボノ。四股を踏んだだけで会場をどよめかせるド迫力はさすが!

曙　次に格闘技のオファーがあれば、そこで暴れて違う曙を見せつけますよ。人間っておもしろいんですよ。一回「バーン！」って爆発すればすぐ忘れますから。

――なるほど！　イヤなことはどんどん忘れたいですもんね。プロレスで弾けたことが格闘技にもいい影響を与えそうですか？

曙　精神的なものはプロレスも格闘技も同じですから。もちろん、格闘技では勝ちたいんですけど、それよりは観てるお客さんを感動させたいですね。勝つにしても負けるにしても、「また曙を観たい」っていうのが一番大事なんで。

――プロとしての価値観ですか。

曙　それは今回の『G1』で多少、身についたかなとは思うんですよ。

――ただ、期待の裏返しだと思うんですけど、谷川さんとかも曙さんに対しては「50キロ痩せなければK－1への出場は認めない！」とか、厳しいコメントを連発してますね。

ボクたちはマットに自分の人生を描くアーティスト！ まあファンタジスタですね

曙　ま、言うのはタダなんですよ。誰が何を言うのも自由なんで。確かに気になりなりますよ。気になりますけど、気にしないです（笑）。言ってることは、わかるんですよ。文句ある人は自分でやってみりゃいいと思った時期もあったけど、そこで口ゲンカしてもしょうがない。そういう世界じゃないから、強ければそういう言葉も消えますよ。

――厳しい状態の中で、それでも谷川さんは曙さんをずっとリングに上げ続けてます。それはなぜだと思いますか？

曙　ボクは、このままじゃ終わりたくないし、まだリングに上げてほしいです。偉そうに言うつもりはないんですけど、それだけ期待されているんでしょう。まあ、ボクはK－1（FEG）所属というか、K－1（FEG）が親方なんで仲良くしとかないと（笑）。

――サダハルンバ親方というか（笑）。いままで負けた相手と再戦したいとか、そういうリクエストはないですか？

曙　いやぁ、それよりもっと大きいものがあるから。引退したときに「闘った！」という満足感がほしいです。

――リベンジよりも先に進みたい？

曙　そうですね。

――ところで、いま体重何キロですか？

曙　いまはちょうど200キロぐらい。相撲の現役時代からは40キロぐらい落ちてますけど。将来的なことを言えば、いずれは200キロオーバーの大会に出たい（笑）。

――どんな大会ですか！（笑）。

曙　自信ありますよぉ。

――でも、対戦相手がいませんよね。

曙　そういう相手を谷川さんに見つけてきてほしいよね。

――ワハハ！　あの親方なら平気で見つけてくるでしょうね（笑）。

曙　ボクみたいに動ける人はいないと思いますよ。いずれはジミー・スヌーカみたいに金網のてっぺんからスーパーフライで飛んでみたいんですけど。

――受ける選手が死んじゃいますよ（笑）。ジミー・スヌーカは好きだったんですか？

曙　大ファンでしたね。毎週日曜日にハワイでプロレス中継をやってて、ずっと観てましたから。スーパーフライはやってみたいなぁ～（しみじみ）。

――そりゃボクらも観たいですよ！

曙　（唐突に）いまの若者って麻薬とかやってるでしょ？

――え？　まあ、薬物乱用はかなり社会問題になってますけど……。



モンスター・ボノ参戦決定！

KYORAKU PRESENTS ハッスル26 ファイティングオペラ

2007年9月22日（土）／大阪・大阪府立体育会館
16:00開場　17:00開始

【決定対戦カード】
モンスター・ボノ vs RG
天龍源一郎vs大谷晋二郎
坂田亘vsレネ・ボナパルト

［入場料］※全席指定・消費税込み
ハッスルVIP【特典／ハッスルグッズ付】10,000円
スタンドS 7,000円／スタンドA 5,000円／スタンドB 3,000円
※1歳以上のお子様も入場料が必要です。

［お問い合わせ］
ハッスルエンターテインメント／TEL.03-5464-1731

あけぼの■1969年5月8日、米国ハワイ州オアフ島出身。K-1では1勝8敗、総合格闘技では2戦2敗と苦しんだが大相撲では優勝11回の第64代横綱。昨年大晦日から約半年間沈黙していた曙は、8月からプロレスのリングを主戦場にいきなり大暴れ！　谷川貞治K-1イベントプロデューサによって追い込まれる状況の厳しさとは裏腹な呑気なコメントがたまらない。身長203cm、体重はかなり絞れて現在200kg（本人談）。

曙　そんなのいらん!!（キッパリ）。

——ど、どういうことでしょうか？

曙　プロレスのリングに入って、持ち上げられて、ポーンと頭から落とされて、フーっと自分の身体が飛ぶのは気持ちいいんですよ。やみつきになりますね。

——横綱はプロレスにやみつき！

曙　プロレス、楽しいっスね！（満面の笑みで）。

——では、今後プロレスのリングで横綱が表現したいものってなんですか？

曙　これは自分の個人的な意見ですけど、ボクたちは絵描きと一緒なんです。

——絵描き！　つまりアーティストだ、と。

曙　マットが自分たちのキャンバス。そこで自分の人生を描き上げる。

——かっこいいですね！

曙　いまはまだ描いてる途中ですね。まだまだです。相撲を18歳から始めてね、亡くなるまで描き終わらないでしょう。亡くなって、その作品ができあがって、そこで初めて皆さんに満足していただけるかどうか……。家を作るときは屋根から建てないでしょ？　土台から作るじゃないですか、それが相撲です。相撲から格闘技に入って柱を立てる。いまはまだ屋根までいってない。よく聞かれるんですけど、「あなたは何者なの？」って。相撲をやって、格闘技をやって、プロレスをやって、それがすべて元・横綱の曙だと思ってますよ。まあ、一言でいえばファンタジスタでしょうね。

——横綱＝ファンタジスタですか！

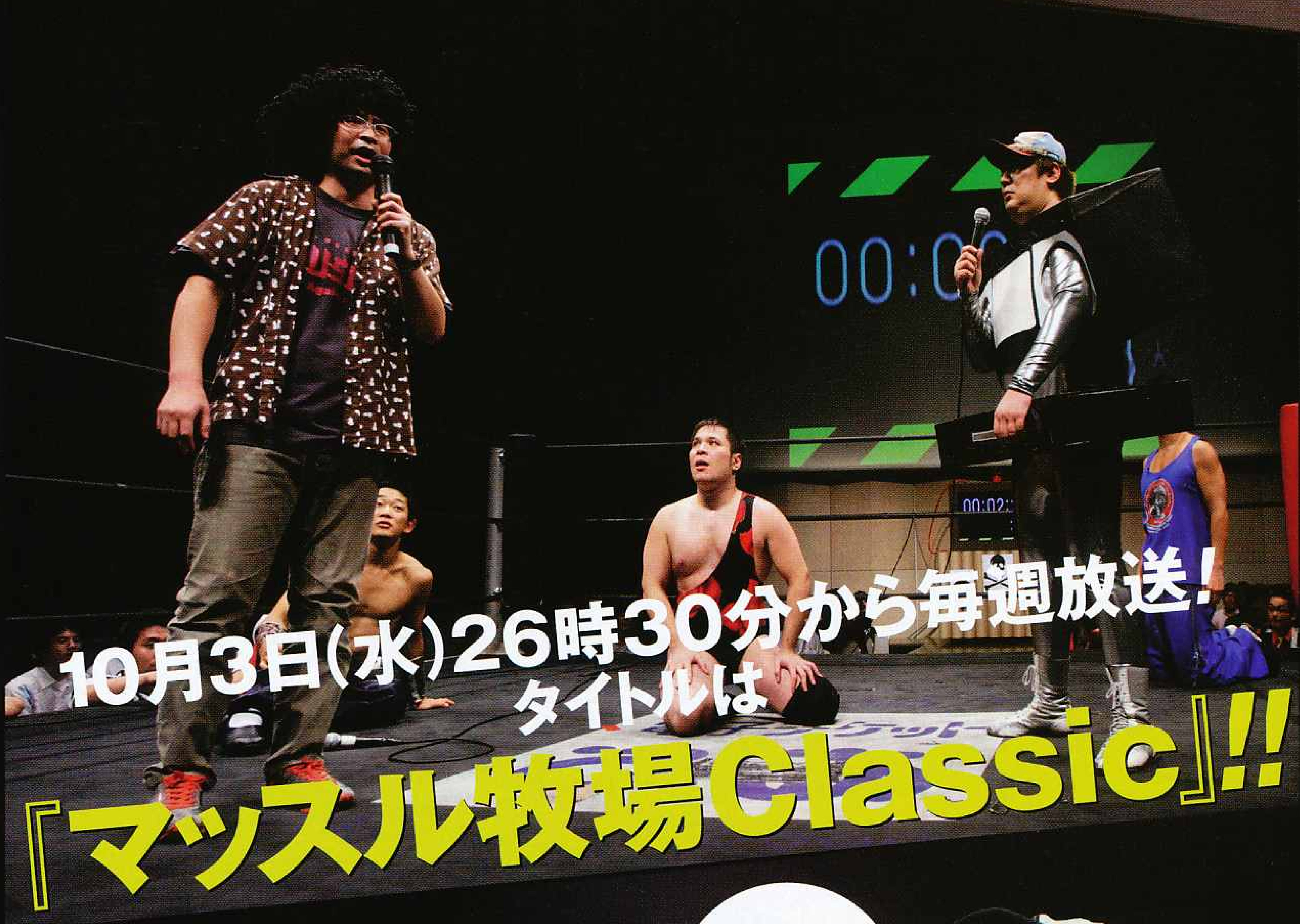
曙　フッフッフッ。ま、そうなれるよう期待していてよ。

——了解しました（笑）。いやあ、華麗なる活躍が目に浮かびますね。

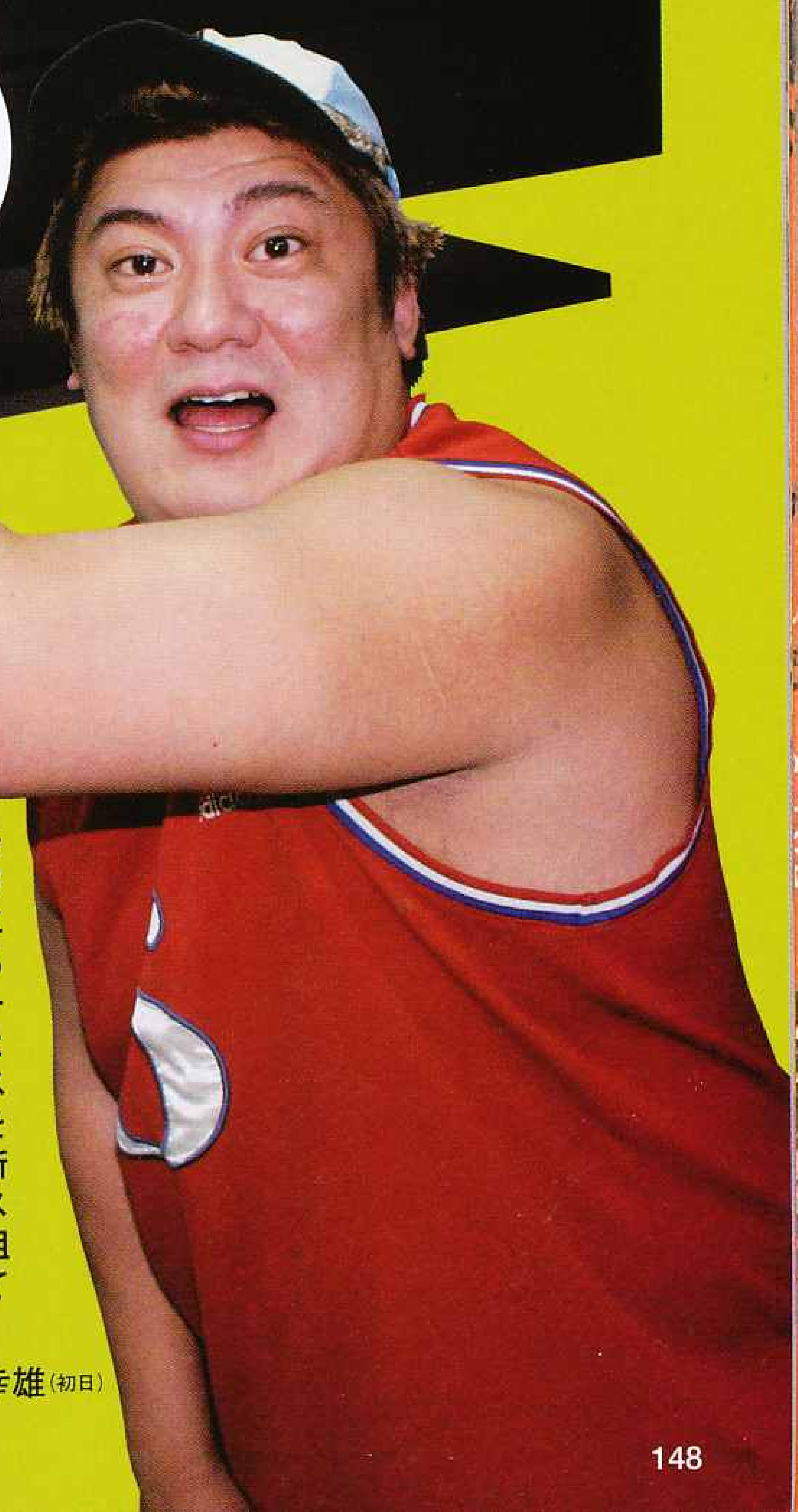
曙　フッフッフッ。照れるよ。

【07年8月22日／ゴールドジムサウス東京・アネックスにて収録】

『ハッスル』に続き『マッスル』も地上波放送決定!!



10月3日(水)26時30分から毎週放送!
タイトルは
『マッスル牧場Classic』!!

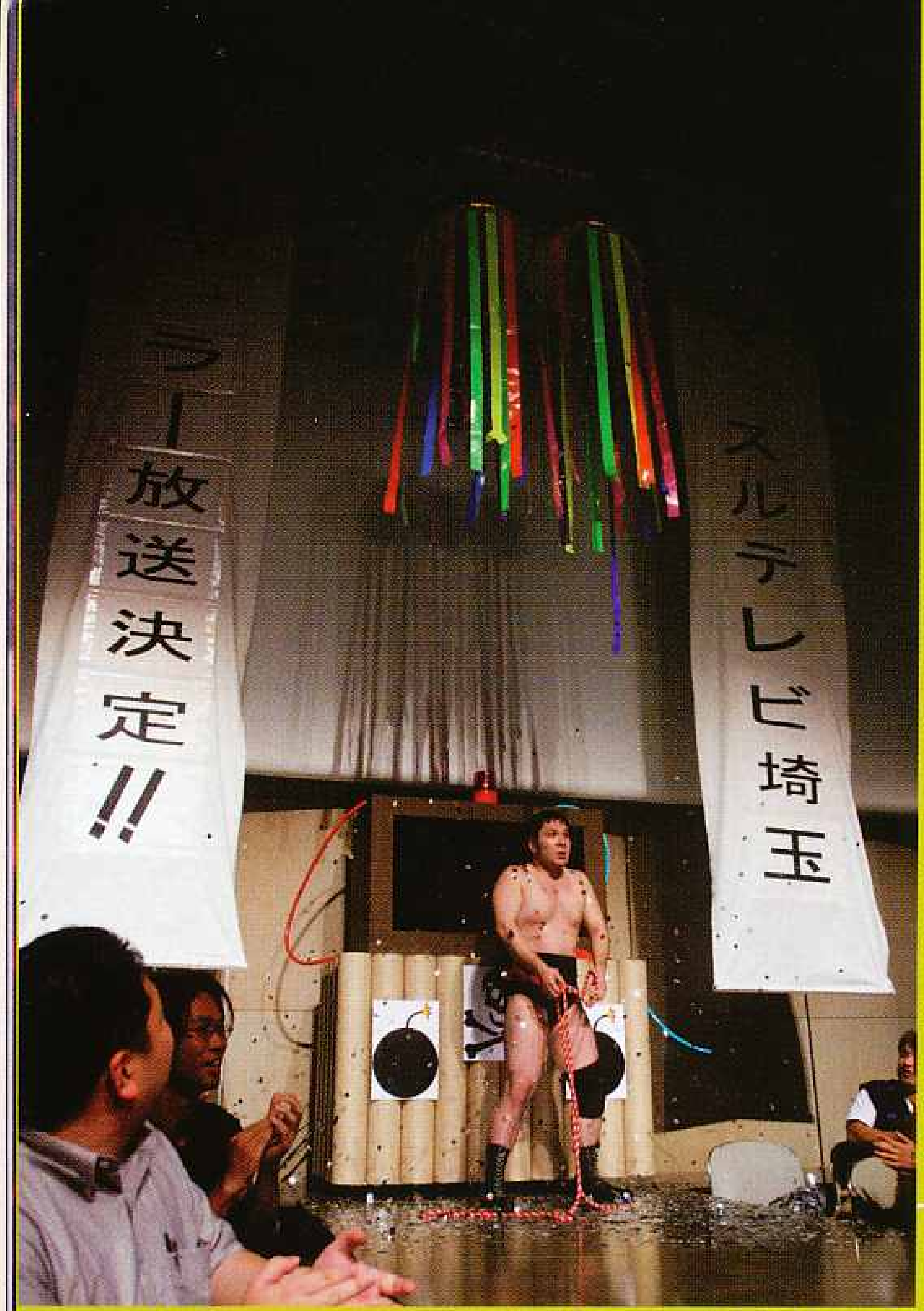


マッスル坂井が語る

プロレスとテレビの可能性

9月5日から初の3連戦を敢行した『マッスル』。初日となる9.5北沢大会のエンディングで10月3日からテレビ埼玉でのレギュラー放送決定が告げられると場内は大爆発。番組名は『マッスル牧場Classic』という、ラテ欄を見ただけでは、何がなんだかな新番組を始めることになったマッスル坂井氏に、いったいどんな番組を作ろうとしているのか直撃してみました。やれんのか～っ!?

構成／松澤チョロ　大会撮影／平工幸雄(初日)



初日のエンディングは、なぜだか会場に時限爆弾が仕掛けられ、会場もろとも爆発寸前のところでアントーニオ本多がイチかバチかで時限爆弾のコードを切断。一瞬の空白ののち、天井から巨大なくす玉が登場。そのヒモを引くと「地上波放送決定！」の垂れ幕が！

番組では、まったくオリジナルの内容を毎回、撮り下ろそうと思ってます！

――『マッスル』初の3連戦の初日をあさってに控えたクソ忙しいところ申し訳ありません！　今回、『マッスル』の地上波放送が決定したという情報を入手したので、発表前にこっそりとお話をうかがいにきました。

坂井　地上波が決まったのはいいんですけど、いまはそれどころじゃなくて……（テーブルには書きかけの台本らしきモノが散乱状態）。

――まだ3連戦の台本のようなものは仕上がってない状況なんでしょうか？

坂井　え〜と……まだ2日目の3分の2ぐらいです。

――うわっ！　じゃあ、ぶっつけ本番的な大会になる可能性が高いと？

坂井　そうですね、はい。

――まあでも、この本が発売される頃には、3連戦も無事に終わり、地上波放送の件も発表されている……はずなんですよね？

坂井　はい、何もなければ（笑）。

――ここ最近でいうと、『ハッスル』に続いての地上波放送が決定ということになるわけですけど。

坂井　『ハッスル』も10月からなので、同じクールからってことですよね。でも、僕らは6月ぐらいに決まってたんですよ。べつに隠してたわけではないんですけど、とくに誰にも言ってなかっただけで。

――いまのプロレス界の現状を考えると、テレビ局はどこであれ、地上波放送決定っていったら、それは凄いことだと思うんですが。

坂井　でも、『マッスル』は埼玉でしか観れないですよ（笑）。

――テレビ埼玉でも、杉並区在住のボクの家でも番組によっては観られますよ。『マッスル』が観られるかどうかはわからないですけど。

坂井　そういう問題とかもクリアしていきたいと思ってます。

――え、電波の問題をどうクリアするんですか？

坂井　昔、まだ地元の新潟にいた頃とか、ニッポン放送とか気合いで聴こうと思えば聴けたじゃないですか。昼間は電波って、なかなか入らないですけど、夜の10時半ぐらいになると伊集院光の『Ｏｈ！　デカナイト』から、なんとなく聴こえるようになるんですよ。で、深夜の1時ぐらいにはもうバッチリで。

――そういうのはありますよね。

坂井　気合いっていうよりも、どちらかというとこちら側が届いてほしいっていう念を送ろうと思ってます。強めの映像を作れば届くんじゃないかって。そういう科学では説明しきれないものって絶対あると思うんで。

――頑張ってください……としか言えないですけど（笑）。で、チラッと聞いた話だと、意図的にテレビ埼玉みたいなところもあったりするんですよね。

坂井　なぜＴＶＫではなく、ＭＸテレビでもなく、フジテレビでもテレビ朝日でもなく、テレビ埼玉か。それは、やっぱりブランドですよ。

――テレビ埼玉ブランド……ですか？

坂井　そうです。やっぱり、プロレスラーを目指すなら新日本や全日本でデビューしたいとか、漫画家を目指すなら『ジャンプ』でデビューしたいとかあると思うんですよ。そういうところを考えて、ずっと僕はテレビを観て育ってきた青年としてですね、どうしてもテレビ埼玉かな、と。

――でも、坂井さんは新潟出身ですよね？

坂井　はい。まあ、テレビ埼玉をたくさん観てたわけではないんですけど、物事をスタートするのにモノ凄くふさわしいのではないかなという気がしまして。テレビ埼玉でやってた番組のビデオを貸し借りしてた時期もありましたし。

――じゃあ、ちょっとした思い入れはあるんですね。

坂井　そうですね。テレビ埼玉って、凄く自由な番組が多かったんですよ。週末の夜の9時とか10時台に埼玉県在住の一般視聴者の方が延々と歌のオーディションを受けて、一応通ったらデビューできるっていう設定の番組があったり。とくに背景もないスタジオみたいなところでずっとカラオケ歌ってるだけで、ＦＯＸチャンネルの『アメリカン・アイドル』って番組を意識してるのか、それより早いのかもしれないですけど。しかも、1〜2時間の番組でめったに合格者は出ないという（笑）。

――それは気になって最後まで観ちゃいますね（笑）。

坂井　あと、極楽とんぼとココリコが最初にレギュラーを持ったのがテレビ埼玉でやってた『素っ裸牧場』っていう番組で、その番組はよく観てましたね。30分のバラエティだったんですけど、当時のバラエティ番組の常識を覆すようなデタラメな番組だったんですね。そういうのを観て学生時分のボクは「頑張らなければいけないな」と思ったんで。だから、自分にとってのテレビ埼玉って、そういうブランドなんですよ。

――具体的に、内容はどのようなものを考えているんですか？

坂井　自分としては普通のプロレスの中継にしようとは思ってないです。後楽園とか北沢でやったものを30分に再編集して放送するとかじゃなくて、まったくオリジナルの内容を撮り下ろそうと思ってます。ドキュメンタリー番組のような感じで。

――発売日には詳細は発表されてると思うんですけど、番組は毎週水曜日の深夜2時半からなんですよね。

坂井　いい時間ですよね。たぶん在京キー局、ＴＢＳとかフジテレビとかの番組が終わる時間帯だと思うんで、ザッピングしたらどうしても映っちゃう。そこで目に留まるようなモノが作れればいいなって。

――タイトルは『マッスル牧場Ｃｌａｓｓｉｃ』ってことですけど、これは『水曜どうでしょうＣｌａｓｓｉｃ』みたいなノリなんですか？

坂井　完全にそうです。モーニング娘。以降、「。」をつけるのが流行りましたけど、たぶん、これからは「Ｃｌａｓｓｉｃ」ってつけるのが流行るのかなって。さっき言った『水曜どうでしょう』とかは、地方のテレビ局から発信された番組というか、独自のカルチャーだったりするじゃないですか。そのへんをあざとく狙っていきたいなと思ってます（笑）。

――自分で言いますか（笑）。

■放送局　テレビ埼玉
■番組名　『マッスル牧場Classic』
■放送日時　10月3日から毎週水曜、26:30〜26:57
■内容　興行以外の『マッスル』っぽいオリジナルドキュメンタリー。その他、詳細は『kamipro Hand』内の「ゴー・フォー・ブログ！　日刊マッスル坂井」にて随時公開される……かも？
■問　『マッスル』実行委員会　TEL.03-5360-6653

坂井 あざとくというか、そういう戦略で、あたかも埼玉から発信されてるような番組にしたいと思ってます。埼玉発の格闘バラエティみたいにして、いろんな町で話題になって、その作ったものが版販っていって、千葉テレビやMXテレビ、そしてテレビ朝日とかフジテレビとか、そういうところで流れるようになって、ゆくゆくはDVDに、と。

――そこまで先を考えているわけですね。

坂井 はい。あと、今回の地上波放送っていうのは、前から言っていた武道館進出とも関係があるんですよ。

――だいぶ前から『マッスル』で日本武道館進出の話はしてましたけども、それとどういった関係が？

坂井 一回、ホントに武道館に電話をかけたんですよ。そしたら、武道館ってプロレス団体とかイベント会社が直接申し込みってできないんですって。テレビ局とかラジオ局がつかなきゃダメっていうんでもなくて、テレビ局やラジオ局からじゃないと申し込みができないらしんですよ。

――あ〜、昔、Uインターとかも、テレビ局やラジオ局をつけて、初めて興行ができたって聞いたことがありますね。

坂井 そういう状況みたいで。ウチなんか、老舗メジャー団体じゃないんで、なおさらバックみたいなのが必用になってくるんです。そこで、Mr.マジック（下島車掌）のつてでテレビ埼玉の方を紹介してもらって話をしたら、あれよあれよという間に放送が決まったという部分もあって。

――今回の地上波放送の向こう側には武道館大会も見据えてるわけですね。これまでよりも現実的に（笑）。

坂井 そういうことです。

――ノア、新日本、『ハッスル』といった、いわゆる他の地上波のプロレス中継との一番の違いっていうのは、どういう部分になりますかね？

坂井 『マッスル』の場合は企画書を提出する段階で「プロレス中継」って書かなかったですからね。「バラエティ番組って言い張ったほうが営業の人もCMとか取ってきやすいから、『バラエティ番組だ』って言い張りましょう」ってことで、実際そう伝えたら、担当の方から「わかりました。任せてください」と言ってもらえて。

――じゃあ、ジャンルとしてはスポーツ枠というよりバラエティ枠？

坂井 ちょっと気まずいですけど、そうらしいです（笑）。

――今回の3連戦はサムライTVですべての大会を完全中継されるとのことですけど、サムライTVとはどういう棲み分けになるんですか？

坂井 これまでどおり、興行を収録したものはサムライで放送します。それは僕らがプロレスの興行を使って『マッスル』というものを表現しようとする場だと思ってるんで。で、今度の番組は地上波のよくある深夜番組という枠組みを使って、僕らで何かプロレス的なことを表現できればなど思ってる次第なんですよ。

――大雑把に言うと、ライバルは他の地上波のプロレス中継というよりはバラエティ番組に……。

坂井 （さえぎって）引きこもりですよ、ライバルは！

――は!? ライバルは引きこもり？

坂井 そうです。そんな時間に起きてる僕らのことを知らない引きこもりと言われる人たちに向けて、僕らが魚の格好してるレスラーを釣って闘ったり、これからハメ撮り的なモノでも始まるんじゃないかっていう淡い期待を抱かせるような展開をやってみたり、いまだ解決しない時効直前の迷宮入りした事件に果敢に挑んでいったり、そういう番組を作っていければと思ってます。プロレスファンよりも引きこもりと言われる人たちのほうが目には見えないですけど（笑）、断然、数的には多いと思いますし、そういう人たちにも通用するような番組にしていきたいです。

――なんだかよくわからないですけど、楽しげではありますね（笑）。

坂井 そういう意味では、いろんな心霊現象を追ってもいいと思いますし、フィットネス番組をやってもいいと思いますし、なんなら、その時間帯でよくやってる通販番組をやってみたり、いまだったらアニメーションに挑戦しようかなとも思ってます。

――アニメにも進出？

坂井 構想的には（笑）。所詮ライブって僕らに興味を持ってる人がチケットを買って観に来てくれるだけじゃないですか。

――サムライTVなんかも専門チャンネルだから、まったく興味ない人は最初から観ないですからね。

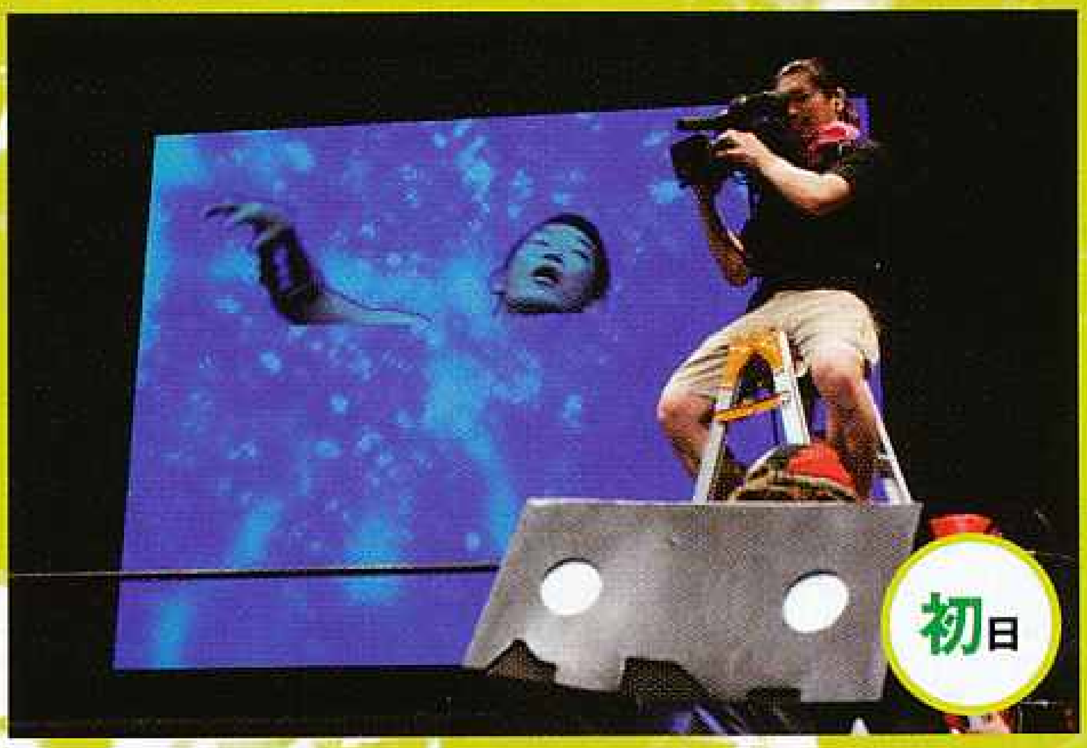
坂井 ですよね。そうじゃなくて、全然なんの予備知識もない人に観てほしいんで。前に松本人志さんが言ってたんですけど、ライブっていうのは確認作業でしかない、と。お客さんはおもしろいことやってくれると思ってチケットを買って観に来て、作る側は、どうやったら新しいものが作れるだろうかって苦労して一生懸命新しいコントを生み出してライブでやる、と。でも観に来るほうは、もともと、おもしろいものをこの人たちはやってくれると思って観に来てくれるわけですよね。

――まあ、そうですね。

坂井 だからそれは、結局どんなに頑張ってうまくいったとしても確認作業でしかないんですよ。それはわからなくもないなって思って。映画はまた

「昨日『マッスル牧場』観た？」って大学のキャンパスで話題になるよう頑張ります！

『マッスル』初の3連戦の行方は？



『マッスル』初の3連戦はサムライTVで3大会とも完全中継が決まったため、これまでのように追加公演として同一内容の興行ができなくなり頭を抱える総合演出家の鶴見亜門。苦し紛れに純然たるプロレスで勝負することになったが、『マッスル』がそのままで終わるはずもなく、坂井がビデオデッキと一体化したMr.VHSになったり、写真のようにクロマキー合成で趙雲が水中に引きずり込まれたりと新たな手法も公開。大会は『マッスル』最短の約1時間半で終了してしまった。



2日目は『マッスル』のレギュラー番組放送が決まったテレビ埼玉の林プロデューサーが来場。いつも以上に気合いが入る亜門は、世間で通用するプロレス番組を作るべく、通常のカメラ以外の特殊カメラ（胃カメラや心霊カメラ、気象衛星ひまわりなど）を導入したデスマッチを敢行するも、これに呆れた林プロデューサーは途中帰宅。その後は坂井がプロ剣道を立ち上げたり、ツルティモならぬ本物のウルティモ・ドラゴン校長が登場したりと、大盛り上がりで大会は終了。



すでにネタ切れか、ダークマッチ3試合と初日＆2日間のダイジェスト映像だけで開演から50分も引っぱった最終日。その後は「食わず嫌い王」ならぬ「戦わず嫌い王選手権」が開催されたり、ウォーズマン似の殺人マシーンに改造された酒井一圭の体内に仕込まれた時限爆弾を除去しようとするも、身体を小さくするアイデアが思いつかない坂井が頭を抱えたまま休憩に突入。休憩明けはエヴァンゲリオンの弐拾伍話風に話が展開され……、以下は各自調査でお願いします！

能動的な、自分から働きかけて観に行かなきゃいけないじゃないですか。そうじゃなくて、テレビはチャンネルさえ合わせれば観れるんで。引きこもりとか、全然興味のない人たちが観て、「明日学校行ってみようかな？」とか、「俺も登山行こうかな」とか、ホントに無気力な人が観て「ちょっとコンビニでも行って『一平ちゃん』でも買ってこようかな」って思ってくれればいいなって思ってます。

——そういう人たちの背中を押してあげるような番組を目指していく、と。

坂井　そうですね。そういう引きこもりと言われる人たちは、わりと家で時代がよくなるのを待ってるんですよ、みんな。

——引きこもりながら（笑）。

坂井　引きこもってるっていうか、雌伏してるんですね。狼は傷が癒えるのをじっくりと待ってると思うんで。

——そういう意味では、ライブに来てくれるようなファン以外にも受け入れられるようなモノを作っていかなければいけませんよね？

坂井　そうですね。むしろ、ライブに来てくれる人たちよりも、そっちの方々に通用するモノを作らなきゃいけないと思ってます。この業界では、よく言われることですけど、ターゲットは〝対世間〟なんで（笑）。

——武道館を目指すなら、対世間に届くようなモノを作らないと満員にはならないですからね。



まっする・さかい■本名・坂井良宏。1977年11月5日、新潟県新潟市出身。DDTプロレス所属の中堅プロレスラーにして『マッスル』の主宰者。DDTの映像やグッズを製作するDDTテックの社長の顔も持つ。186cm、120kg。
マッスルHPアドレス→http://www.ddttec.jp/muscle/

坂井　そうなんですよ。番組を通して『マッスル』に興味を持ってくれる人を増やしていって、初めて武道館が見えてくると思うんで。方法論としては、いま会場に来ているお客さんをネズミ算的に増やしていってすけど、それはたぶん凄く大変で時間のかかることだと思うんで。あとは、やっぱり狙いとして、放送の翌日に「昨日『マッスル牧場』観た？」みたいな話を大学のキャンパスでされるような、そういう番組になればいいなと思ってます。

——興味を持った人はDVDに焼いて貸し借りする、と。

坂井　してほしいですね。で、その貸し借りしたDVDが僕のところに回ってくるようになったら成功かなと思うんですよ。「おもしろいDVDがあるよ」みたいな感じで回ってきて、「これ、おもしろいらしいね……」って、オイ！」ってできるような（笑）。

——そんな素敵な番組になるよう期待してます！（笑）。

【07年8月3日／都内・新宿「DDT事務所」にて収録】

この道ォオ、行けばァアアアア♪ どうなるものかァアアアア♪（オペラ調）



この人はいったい誰なんダーッ!?

答え 今回のオープニングで、“モンスターK”もビビってたじろぐ美声を披露したのが弓場徹（ゆうば・とおる）氏。ボイストレーニングの第一人者として活躍する声楽家であり三重大学教育学部教授でもあるエライ人なのだ。

“謎が謎を呼ぶ” IGF劇場の不思議な11カ条

ムフ！ 6.29 IGF旗揚げ戦をレポートするハズの本誌No.113が白黒1ページという“非常識”な扱いだったため、今回はホント〜に心を入れ替えて（?）IGF劇場の数々の謎と不思議に迫ります！ 読めばわかるさァアアア♪（オペラ調）。

構成／真下義之　撮影／平工幸雄



1

"モンスターK"も驚愕!
じつはIGFもファイティング・オペラだった?

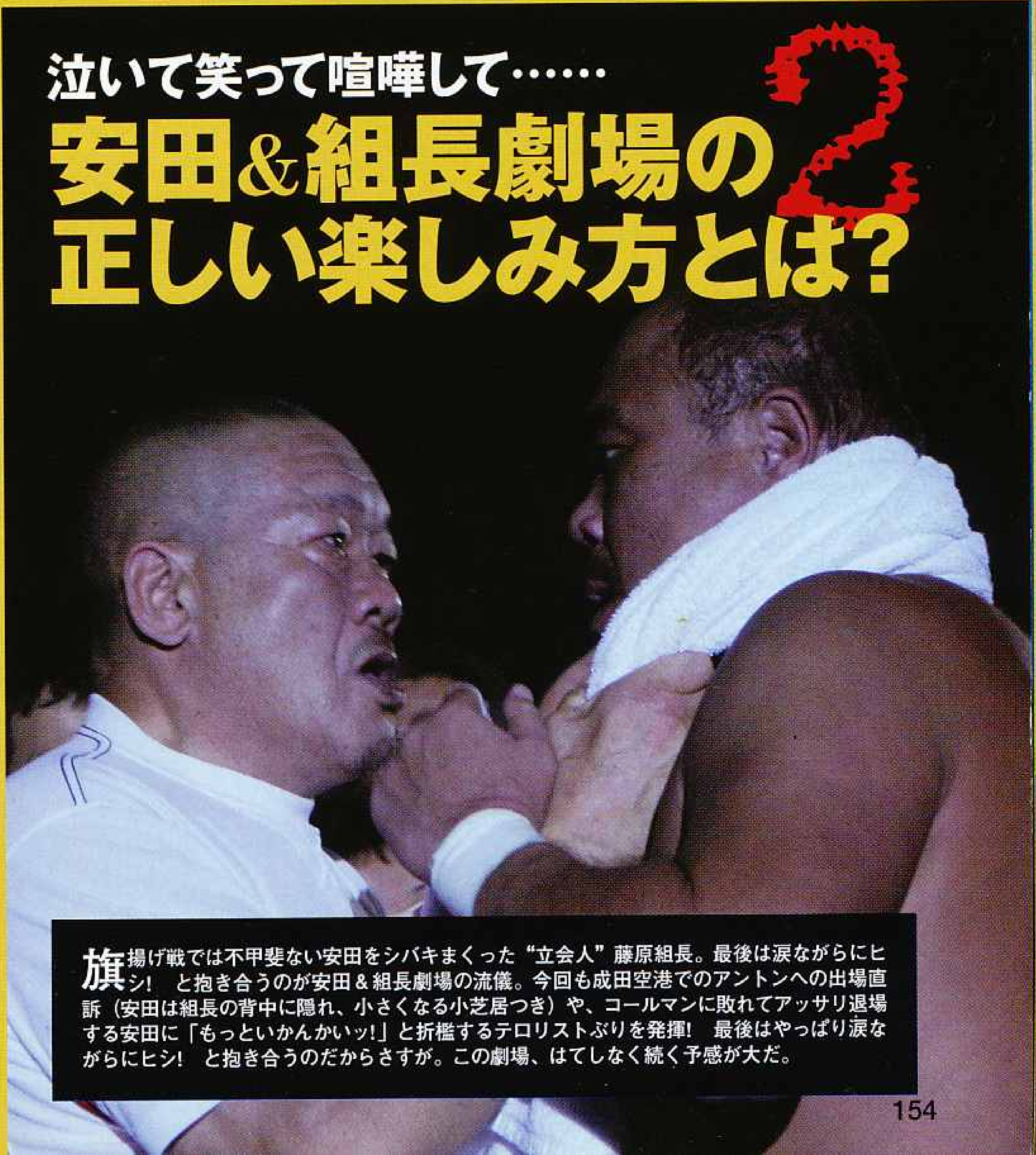
見てみぃこのダンス! 今回もゴキゲンなHIPHOPユニット、TRIPLE-Pが「イノキ、イノキ、歩く神様〜♪」と『道』のカバー曲を熱唱、ここにアントン総帥も登場して「危ぶめば道はなし!」とラップ調の朗読で参加、ぎこちないながらもノリノリのアントンダンスまで披露した。IGFの理念を「とにかく強くなること」とブチ上げていたアントンだが、むしろIGFの神髄は"ファイティング・オペラ"側にあることは明白。アントン・リサイタルの続編に注目ダーッ!



3

46センチ差のU-STYLEマッチ実現!
大巨人には田村のミドルは効かないの?

打っても打っても響かない……。"大巨人"モンターニャ・シウバの前に田村のキックがまったく効かないんだって! 田村はアントンから「自分だけルールを変えたいとか、グダグダうるさい」とキラー発言をされながらも『U-STYLE』ルールを押し通す頑固者ぶり。シウバが「認めた」まではよかったが、"大巨人"のくせに、非常に大人げない態度で田村の攻撃を子ども扱い。勝ちは拾った田村も「二度とやらない」とコリゴリの様子。



2

泣いて笑って喧嘩して……
安田&組長劇場の正しい楽しみ方とは?

旗揚げ戦では不甲斐ない安田をシバキまくった"立会人"藤原組長。最後は涙ながらにヒシ! と抱き合うのが安田&組長劇場の流儀。今回も成田空港でのアントンへの出場直訴(安田は組長の背中に隠れ、小さくなる小芝居つき)や、コールマンに敗れてアッサリ退場する安田に「もっといかんかいッ!」と折檻するテロリストぶりを発揮! 最後はやっぱり涙ながらにヒシ! と抱き合うのだからさすが。この劇場、はてしなく続く予感が大だ。

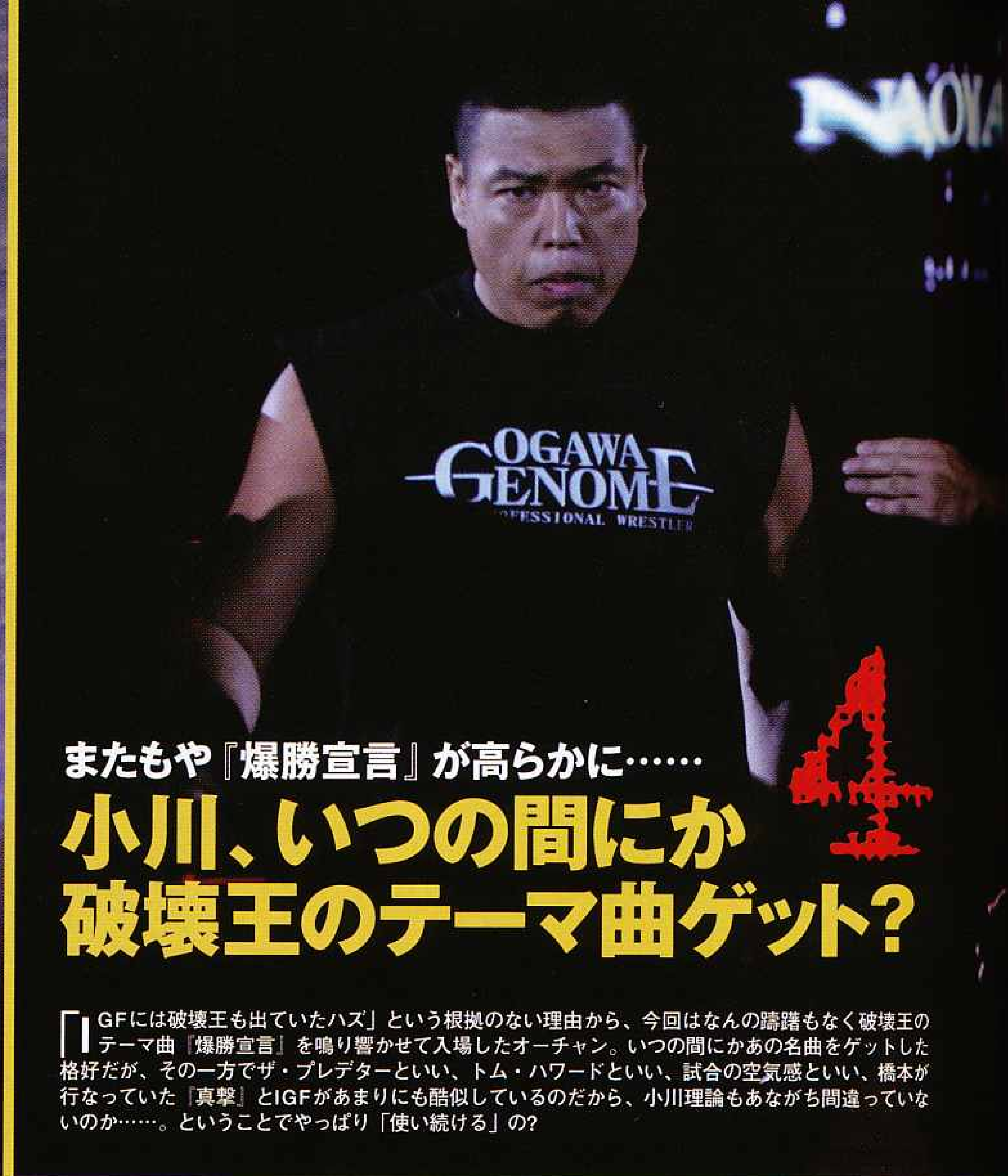


5

今回も特設舞台から、挨拶ダーッ!

なぜアントンはリングに上がらないの?

今回も閉会式で「1、2、3、ダーッ!」といつものアレを特設ステージ上で披露したアントン総帥。だが6.9IGF旗揚げ戦同様、なぜか今回もリングの上には登場せず! じつはIGFの旗揚げ会見では、報道陣からのアントンの肖像権の権利関係に関する質問に答えようとするIGF廣瀬副社長に対して「よけいなことは言わなくていいっ! しゃべるな!」とアントンが一喝する場面もあったことが思い出されるが……やはり“大人の事情”があるのだろう。

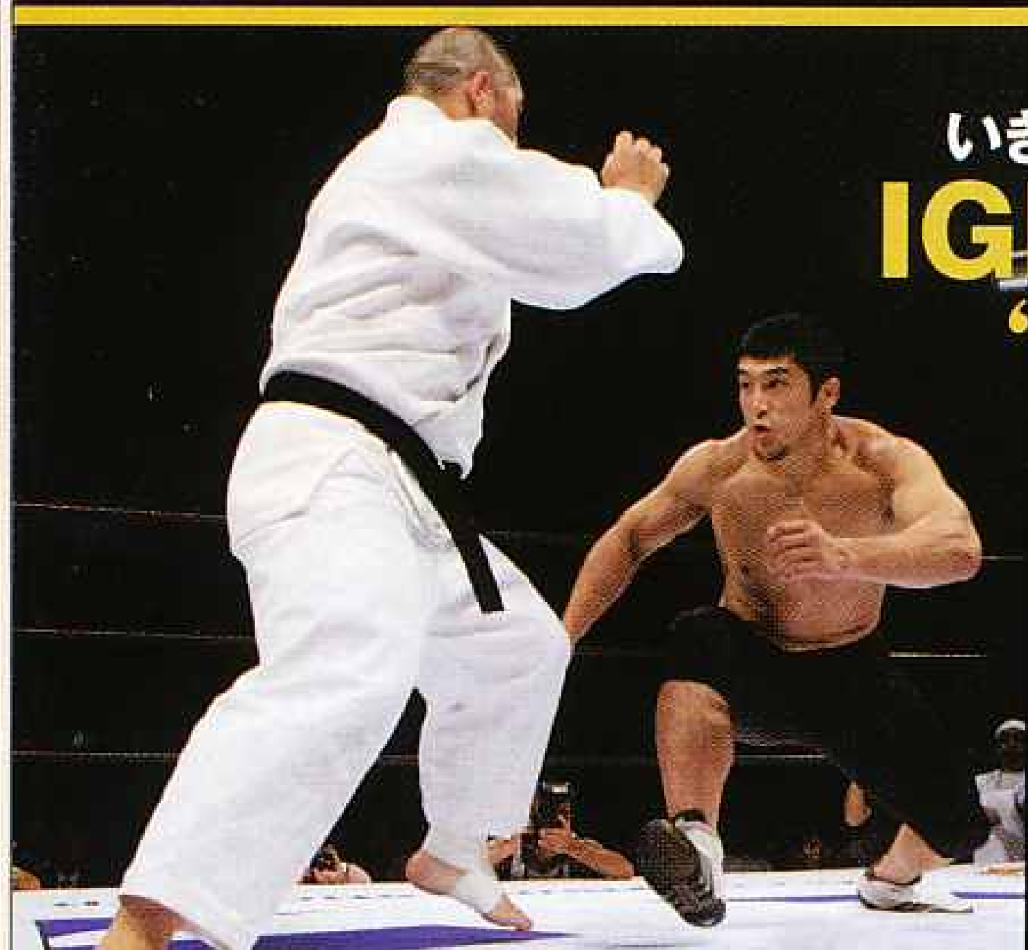


4

またもや『爆勝宣言』が高らかに……

小川、いつの間にか破壊王のテーマ曲ゲット?

「IGFには破壊王も出ていたハズ」という根拠のない理由から、今回はなんの躊躇もなく破壊王のテーマ曲『爆勝宣言』を鳴り響かせて入場したオーチャン。いつの間にかあの名曲をゲットした格好だが、その一方でザ・プレデターといい、トム・ハワードといい、試合の空気感といい、橋本が行なっていた『真撃』とIGFがあまりにも酷似しているのだから、小川理論もあながち間違っていないのか……。ということでやっぱり「使い続ける」の?

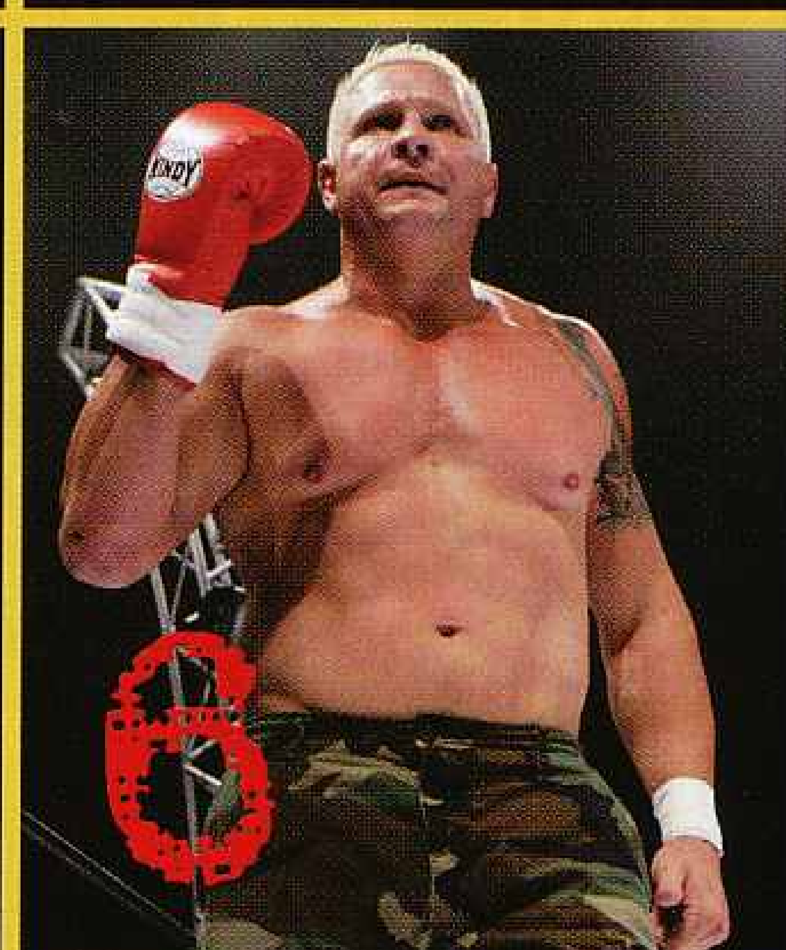


7

いきなりタックル、マウントで逆転!

IGFの試合に謎の“法則性”発見?

腕の取り合いからロープワーク、ドロップキックの打ち合いでキメ! 純プロレス定番のお約束ムーブだが、これと似た法則性をIGFで発見? いきなりタックルか打撃技で奇襲! 相手はマウントか打撃技で逆襲、そしてグラウンドへという試合がリピートしたことで眠気を誘った……という説も。これもアントン・プロデュースなの?



6

殺戮グリーンベレーが大変身!?

トム・ハワードはなぜ片手だけグローブなの?

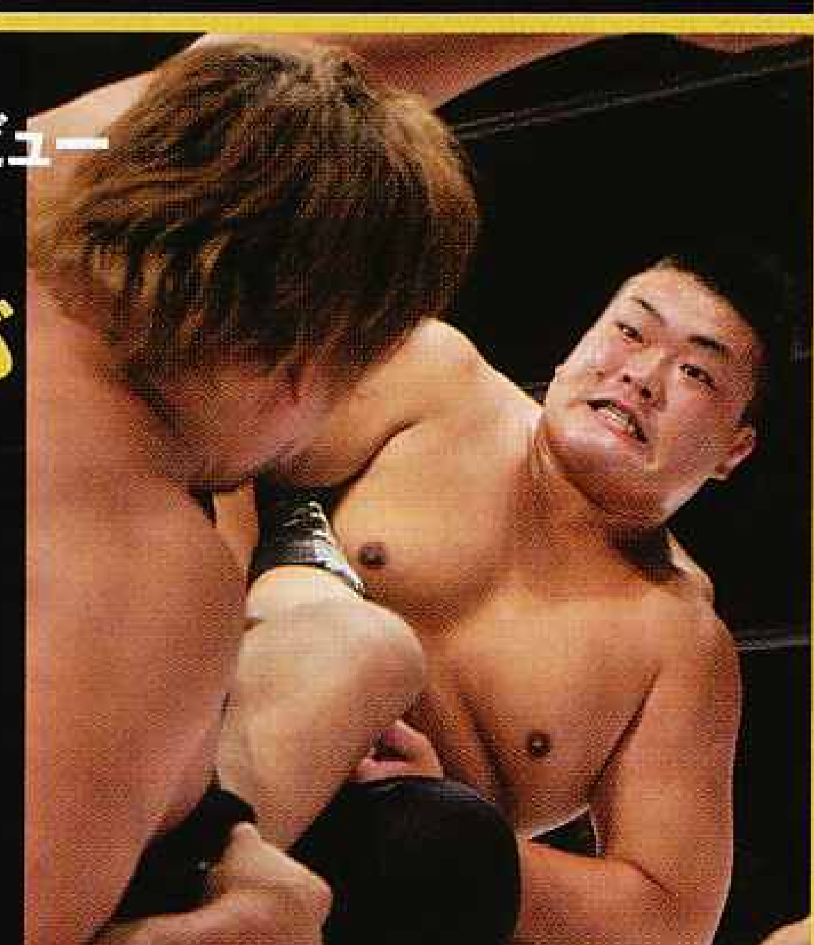
「なぜだ?」と誰もが突っ込んだトム・ハワードの勇姿。右手のみボクシンググローブ着用でメカマミーのロケットパンチばりに不自然極まりないが、器用にパンチを打ち分けていたのはさすが。じつは公式ルールで認められていたこのスタイル、モンターニャ・シウバも検討していたというから片手ボクシングブームが到来か?

9

「ぶぁあああっ!」と小川の直弟子デビュー

澤田の“奇声プロレス”がキュートすぎる?

明大柔道部の後輩で、オーチャンの愛弟子の澤田敦士が石川雄規を相手にデビュー。オーチャンとの茅ケ崎の波打ち際特訓の成果か、試合中に「んがあああ!」や「ぶあああ!」と奇声を発するなど新人らしからぬプロレスセンスを発揮! 見続けているとアザラシの赤ちゃんのようにどこかキュートにさえ見えてくるから不思議である。

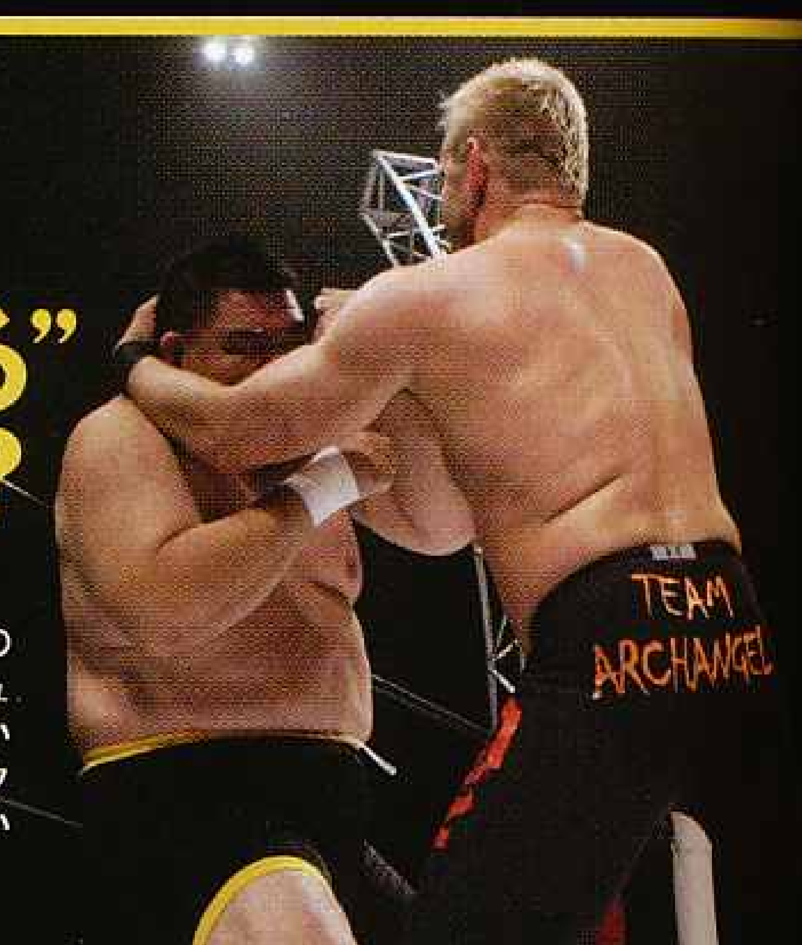


8

スモウは強いんだよう!

若翔洋、“痛みがよくわかる”プロレスデビュー?

一部のマニア注目の若翔洋がハードロックの調べにのってプロレスデビュー。相手もこれがプロレスデビューの元修斗ライトヘビー級王者、エリック・パーソンという破天荒なマッチメイク。だがスムーズに攻めるエリックと顔をグシャグシャにして痛さをアピールする若翔洋という意外な好試合に。これぞ痛みがわかるプロレスか!?





結論

観るんじゃない! 感じるんだ!!

編集部で今大会のPPVを観ていたゲノム番のジャン斉藤と、K−1モンスター好きの坂井ノブが、席は立つわ、本は読みだすわ、グウグウ寝だすわ……とマトモに観ていない状態。だがそんな〝非常識〟な態度でも感想は「おもしろかった!」とズバリ。そう、もはやIGFは「観るんじゃない、感じるものだ」ということが実証されたのである!?

11

某新古書店でチケット配布?

またもや怪情報が到着ダーッ!

前項でも観客動員にまつわる不思議な動きを見せていたIGFだが、なんと本誌は「本を売るなら●●●●●♪」でおなじみ、あの有名新古書店の名古屋店で、「5,000円以上をお買い上げの方にチケットがプレゼントされていた?」という未確認情報をゲット。こんなデマを流すヤツは絶対に許さんッ! 真実を知っている方はぜひご一報を!

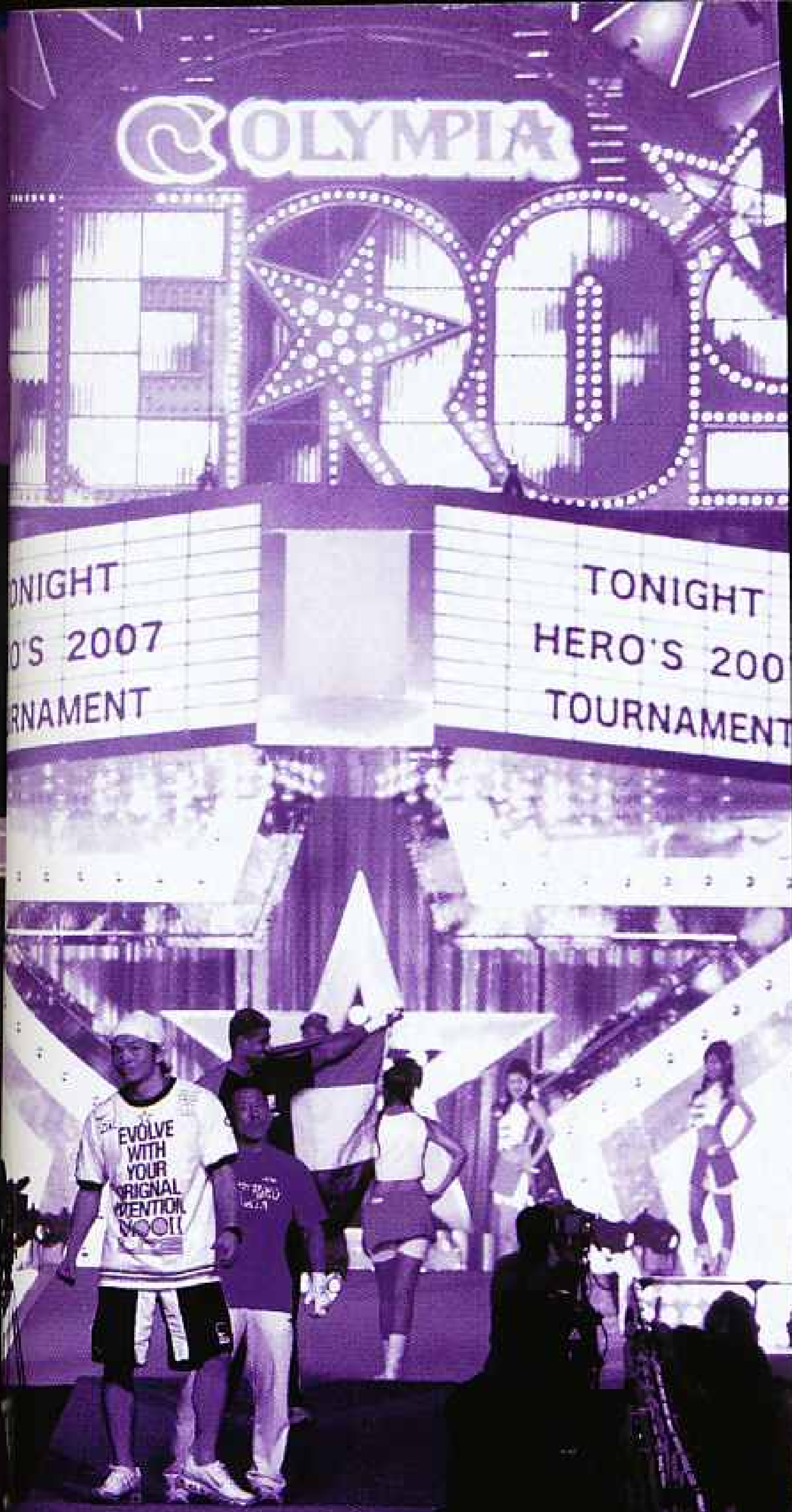
10

水増しじゃありませ〜ん!

IGFの観客動員はホントに実数なの?

当初は「チケットはまったく売れてません!」とズバリ断言していたアントンだが、大会直前に「超満員が予想されるため、入場口の混雑が必至となり、開場時間を変更」など強気の姿勢になったIGF。結果的に7,684人を動員したが、なぜか大会終了後には「あくまで実数です!」と必死の場内アナウンス。これも大人の事情なのだろう。







9.17 HERO'Sは
“PRIDE”っぽかったのか!?

HERO'S

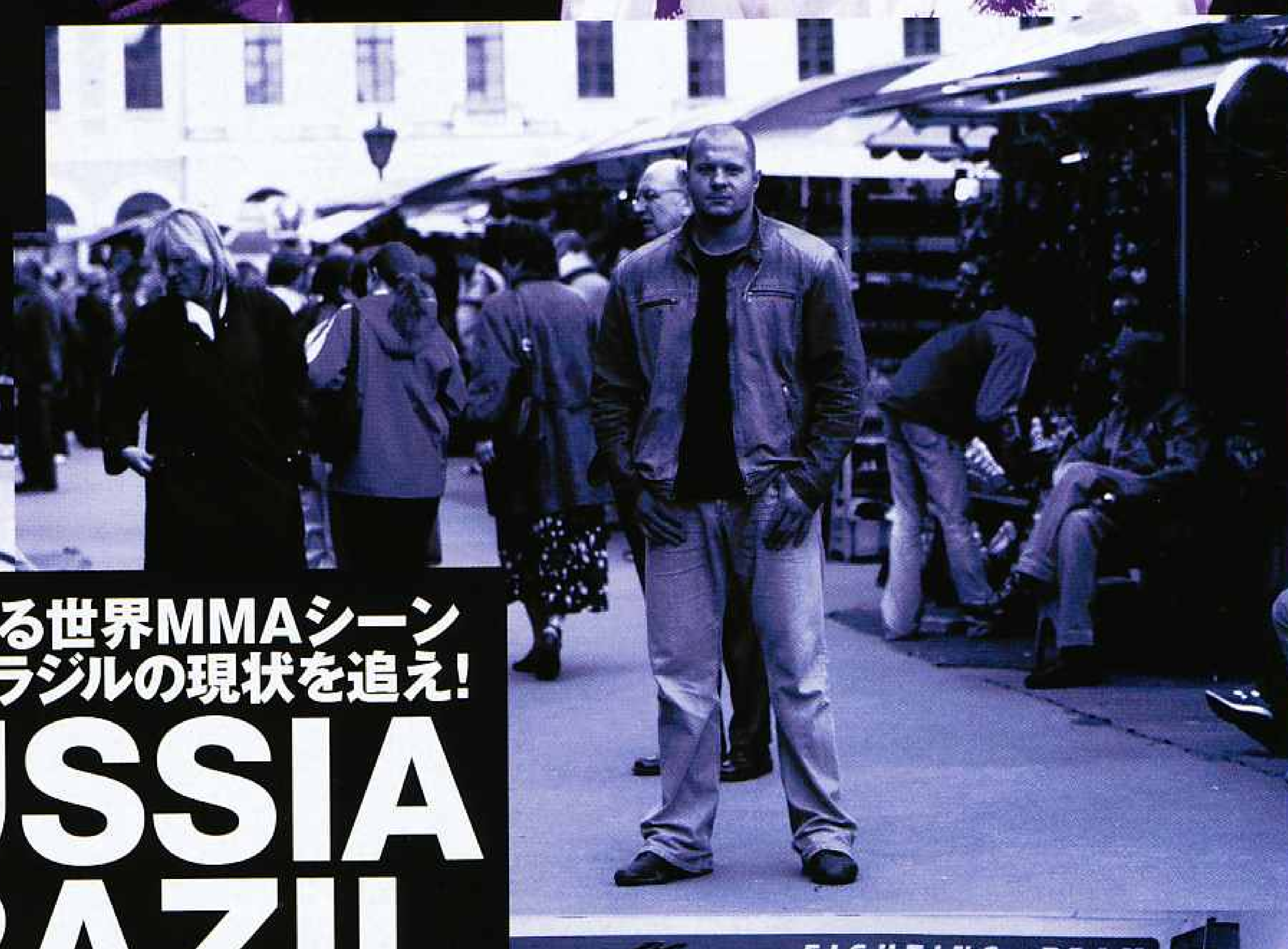
ひさびさに帰ってまいりました!!

10月1日(月)

全国書店にて発売予定!!

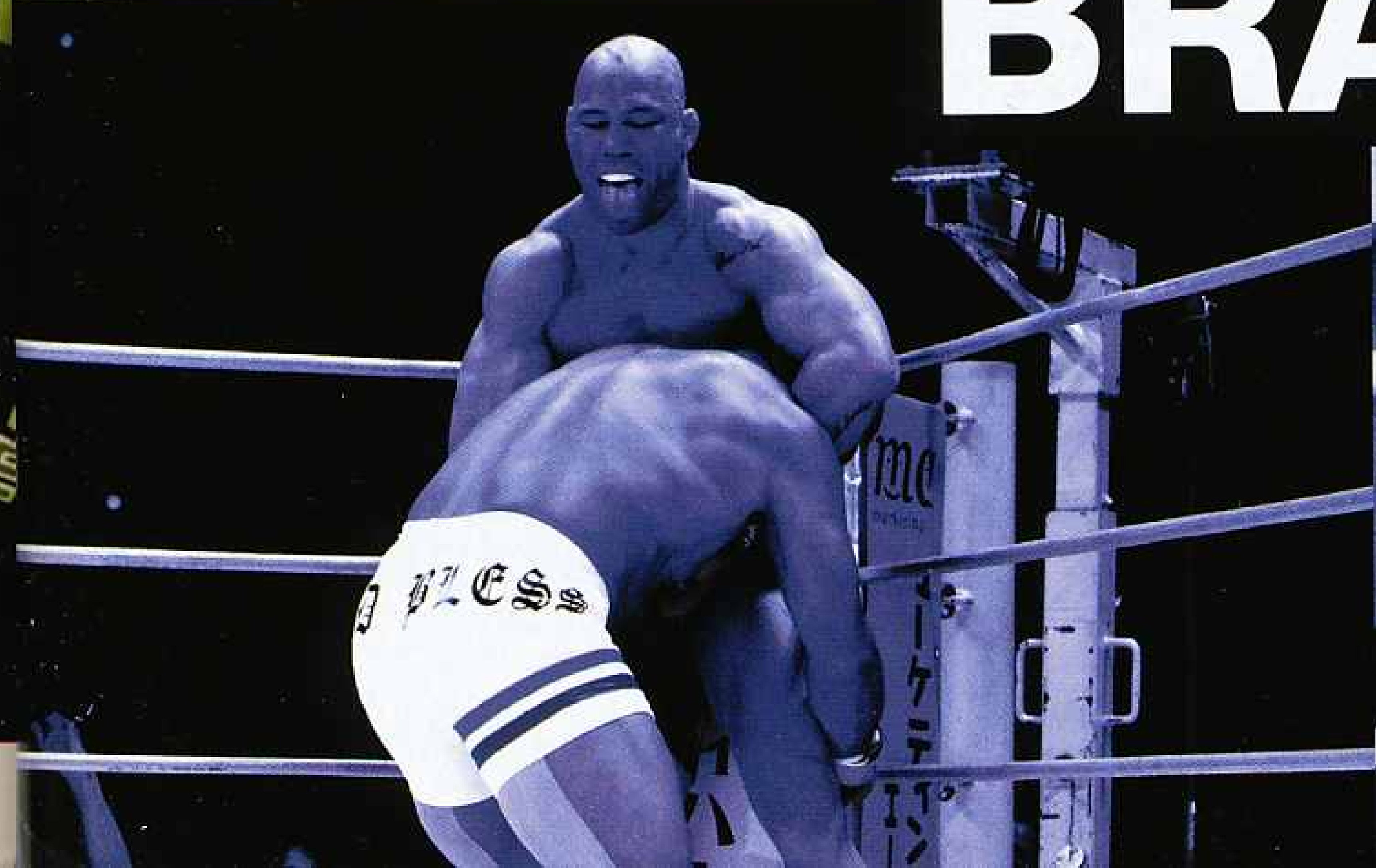
予価¥780(本体743円+税)




変貌をとげる世界MMAシーン
ロシア&ブラジルの現状を追え!

RUSSIA BRAZIL



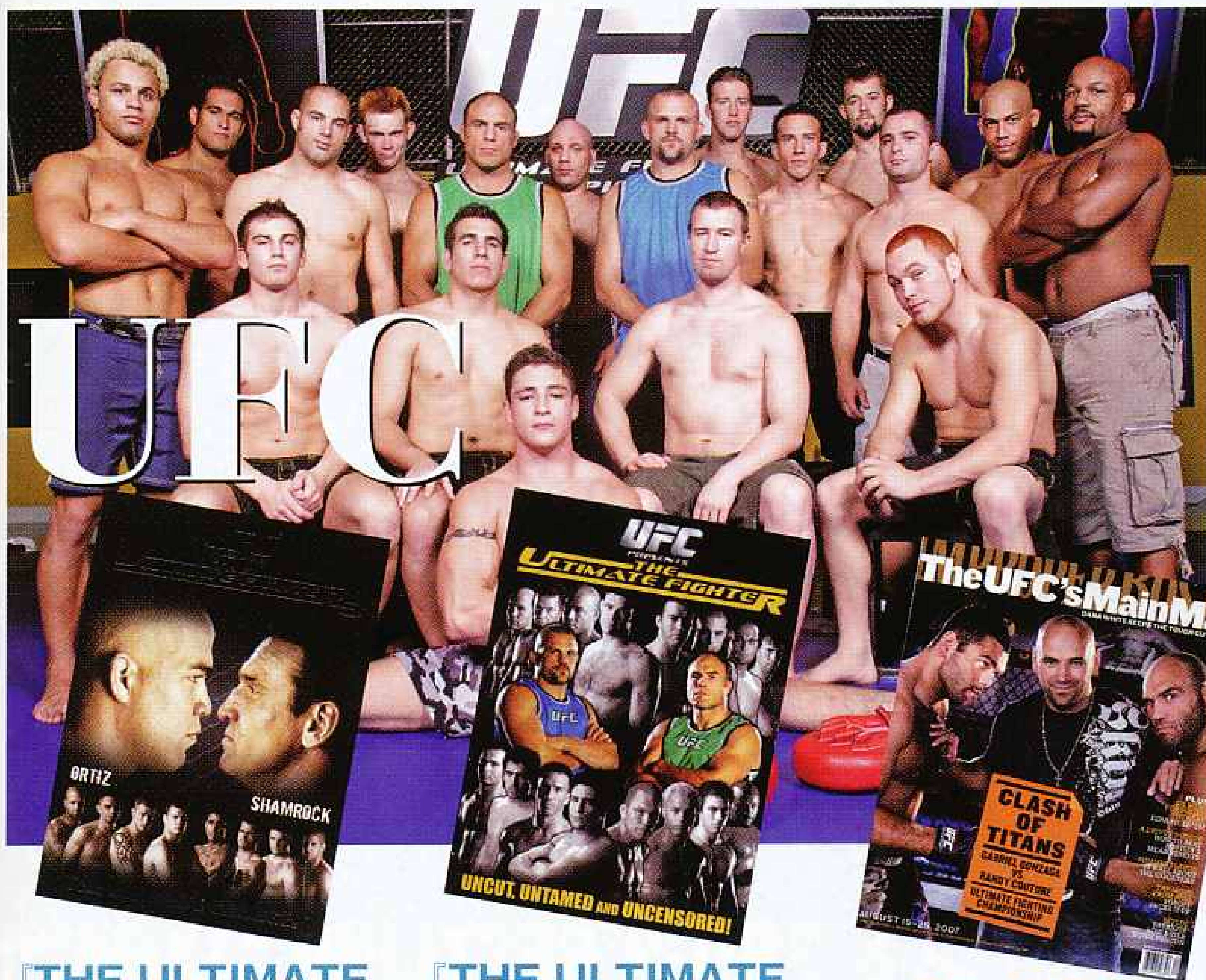




UWF
はたしてHERO'Sファンに響くのか!?
MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE
kamipro
Special
2007 AUTUMN
UFC
ショーグン、UFC上陸成功なるか!?
9.22 UFC76 in アナハイム完全詳報

テレビじゃ観られないUFC入門

なるほど・ザ・UFC!!



『THE ULTIMATE FIGHTER 3』DVD（輸入版）

UFC人気の"震源地"であるリアリティショー、『TUF』シーズン3のDVDが到着！　コーチはケン・シャムロックとティト・オーティズ。さらに因縁が勃発した両者の意地が交錯!?

『THE ULTIMATE FIGHTER』DVD（輸入版）

フォレスト・グリフィン、ディエゴ・サンチェスら"TUF世代"を排出した伝説の『TUF』シーズン1。コーチはチャック・リデルとランディ・クートゥアー。すべてはここから始まった！

ラスベガスのフリーペーパー

"鉄人"ランディがゴンザガを撃破した『UFC74』ラスベガス大会に合わせて発行されたこのフリーペーパーはUFCが表紙を飾ったレア品。ダナのインタビューも掲載！

英語がわからない？　そんなの関係ねぇ！

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます（賞品は7月22日以降発送予定です）。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦こんな読プレがほしい!⑧インタビューが読みたい選手

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス『kamipro』編集部「この道を行けばぁあ（オペラ調）」係まで
※締切は2007年10月20日（土）当日消印有効

kamipro 115 応募券 PRIDEっぽいカード

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

各1名様



Sinister Tシャツ ブラック、ホワイト

UFCの客席での着用率も多いこのブランドは、チャック・リデル、そしてあのアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラもサポートするL.A発の人気ストリートブランド。先モノ好きの君はこのシャツで差をつけろ！

UFC■http://www.ufc.com/

WATARU&KEIKO

各1名様





HUSTLE melty Tシャツ

ホワイト、グリーン／¥ 3,990（税込）

オッケ～イ！　この秋、新生ハッスル軍にも"坂田の結婚"という強力な追い風が吹き荒れる？　いまにも溶ろけてしまいそうなHUSTLEロゴをPOPにあしらったカラフルな新作Tシャツが登場だ。

ハッスル■http://www.hustlehustle.com/

1名様



『小池の胸のうち がんばるの、やめてみます』

小池 栄子（著）（実業之日本社）／¥1,365（税込）

まさかの表紙登場もはたした小池栄子さんが、初のエッセイを出版。タレントとして、一人の女性としての"本音"から結婚の決意までを語った！

実業之日本社■http://www.j-n.co.jp/

ALL JAPAN





各1名様

『みのもけんじ×全日本プロレス 愚零闘武多Tシャツ』

ホワイト／¥3,150（税込）

うわ～ん！　うわ～ん！　と号泣必至。本誌でもおなじみ、『プロレス・スターウォーズ』のみのもけんじ先生が全日本プロレスともコラボレーション。今度は"愚零闘武多"の新作Tシャツを手がけたよ～。

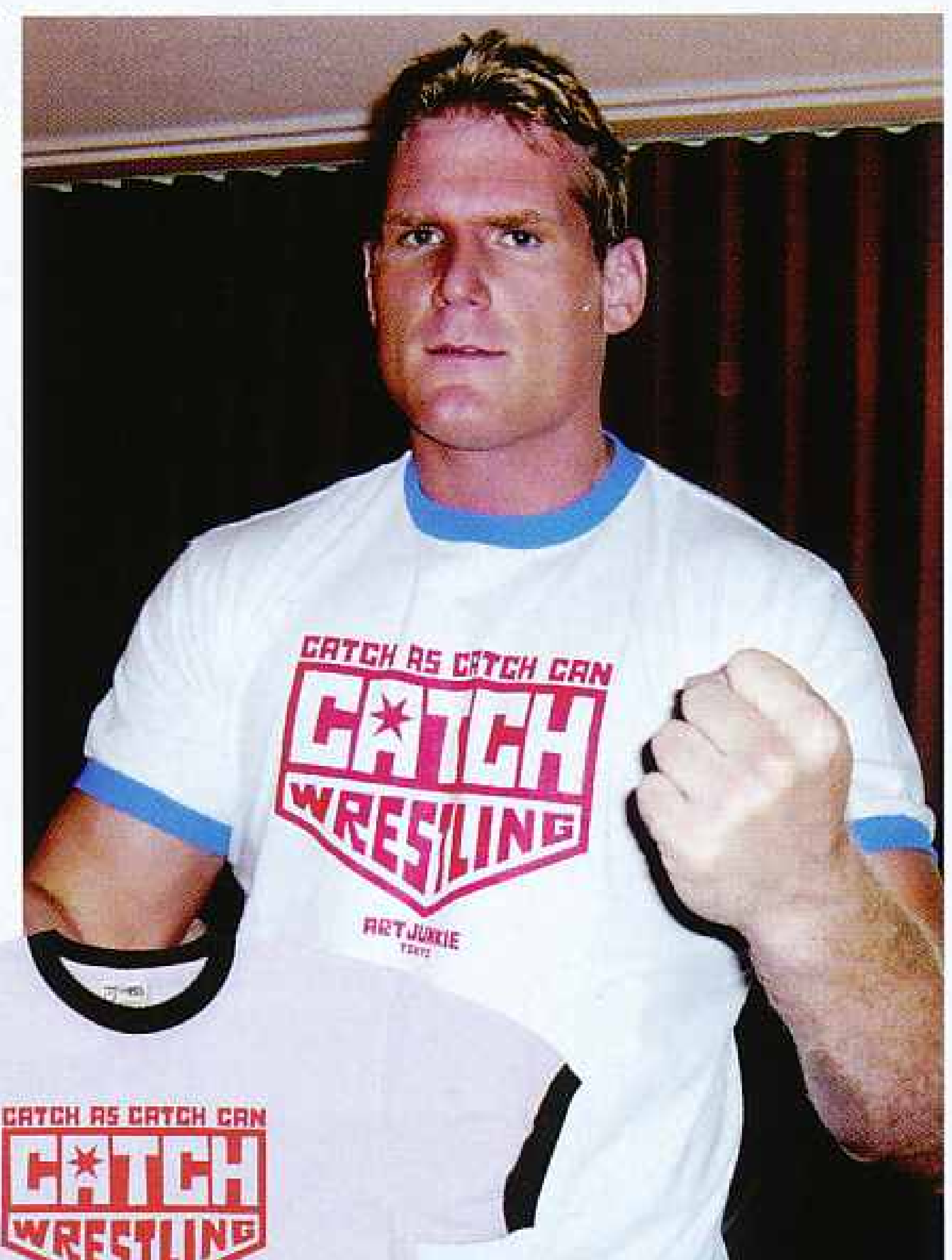
『武藤ベア×グレートムタ Tシャツ Ver.3』

ホワイト／¥3,990（税込）

う～っし！　いつ何時も"プロレスLOVE"な武藤敬司がキュートなクマちゃんキャラになって人気爆発中の"武藤ベア"Tシャツが、グレートムタに変化した"ムタベア"に変化。そのver.3のシャツが到着だ！

全日本プロレス■http://www.all-japan.co.jp/

JOSH







1名様

キャッチウォリアー J-METAL Tシャツ

ホワイト／¥3,990（税込）

IGF旗揚げ戦にマスク姿で現われたジョシュ。そのマスクをデザインしたのが、このキャッチウォリアーTシャツ。ジョシュは9.8 IGF名古屋大会のセコンド時にもこのシャツを着用している、お気に入りの一品だ。

アートジャンキー■http://www.artjunkie.jp/

ISHIKAWA



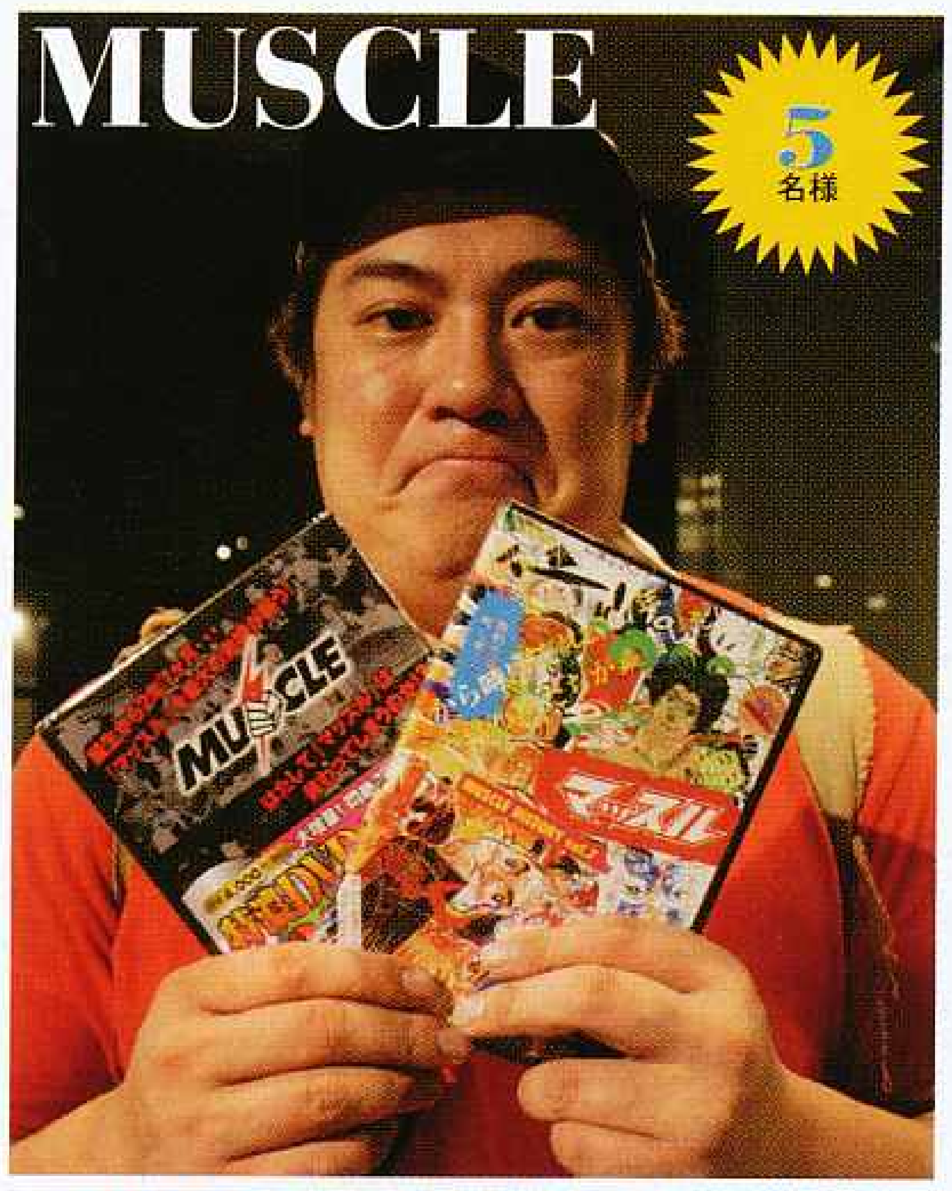
『情念～夢一途なり～』

石川雄規（著）（ワニマガジン社刊）／¥1,700（税込）

今号でカール・ゴッチさんとの素敵なエピソードを語り尽くしてくれた“燃える情念”石川雄規。さらなるディープな“神様”話も満載の自伝本（編集はkamipro編集部）をナーシャッ！　とプレゼント。

格闘探偵団バトラーツ■http://bat-com8000v.jp/

MUSCLE



『MUSCLE HISTORY vol.7』

307分（2枚組）／¥ 4,000（税込）

ドゥ・ザ・マッスル！　マッスルワールドにまさかの鈴木みのる登場などで話題を呼んだ5.4『マッスルハウス4』が早くもDVD化。翌日の名古屋での追加公演も収録した豪華2枚組をマッスル坂井が太っ腹に大放出！

マッスル■http://www.ddttec.jp/muscle/

FUNAKI&LIGER



船木誠勝＆
獣神サンダー・ライガー
ポラロイド写真

ビバ！　マッドネス！　狂気のヤングライオン・エピソードが「これでもか」と続出した船木&ライガーの青春対談を祝して、思い出の多摩川沿いで貴重すぎるポラロイド写真をプレゼント！

PETIT SILMA



プチシルマTシャツ＆
タオル＆ティッシュセット

プチ、プチ、プチ、プチ、プチシルマ～♪　と今号の『プロレス探検隊』ではプチシルマ体操の振り付け師、ラッキィ池田まで登場してGK隊長たちと大ハッスル。プチシルマからのグッズセットを一挙に放出！

レダ■http://www.leda.co.jp/

PANCRASE



9.5大会記念Tシャツ

グレー／¥3,675（税込）

すべての団体に先駆けて、『カール・ゴッチ氏追悼興行』を開催したパンクラス。その9.5後楽園大会の記念Tシャツが到着。シンプル・イズ・ベストなデザインもゴッチイズム継承？

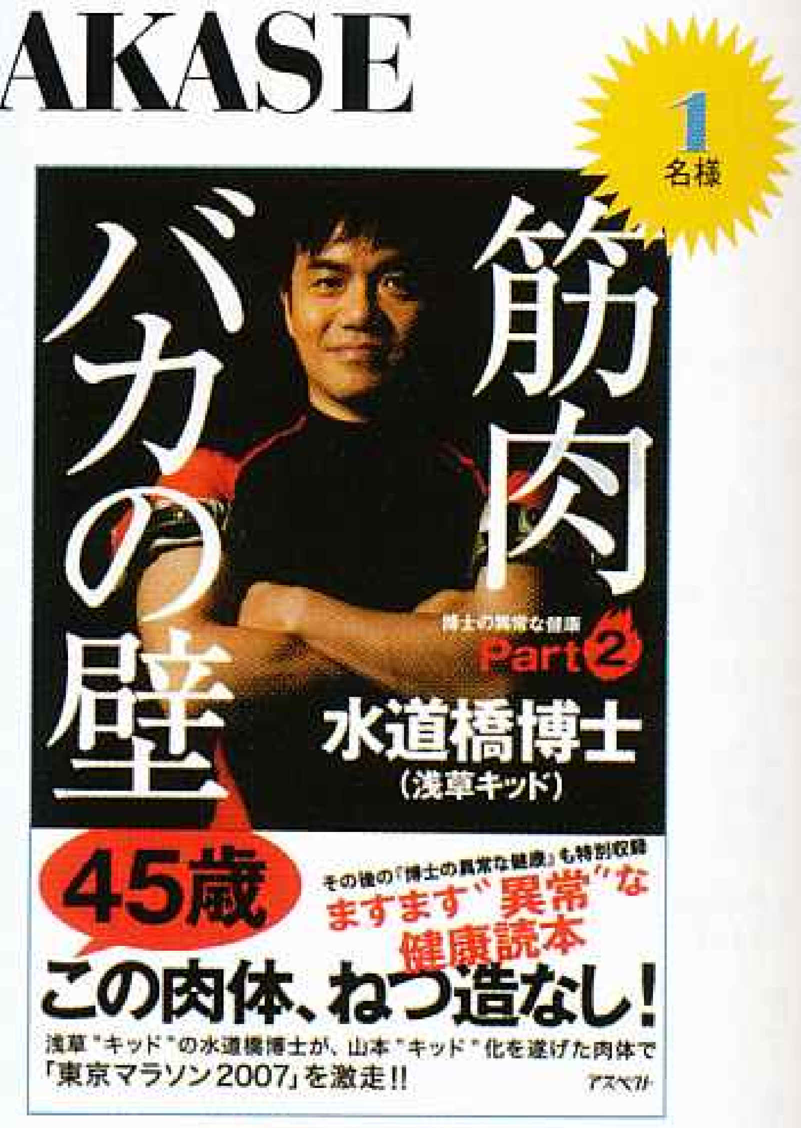
光留塾メッシュキャップ

¥2,625（税込）

トレードマークのメイド服での入場で、あの山本KIDも激怒させるも、「そんなの関係ねぇ！」とばかりに我が道をゆく“アキバ系パンクラシスト”佐藤光留キャップをプレゼント！

パンクラス■http://www.pancrase.co.jp/

HAKASE



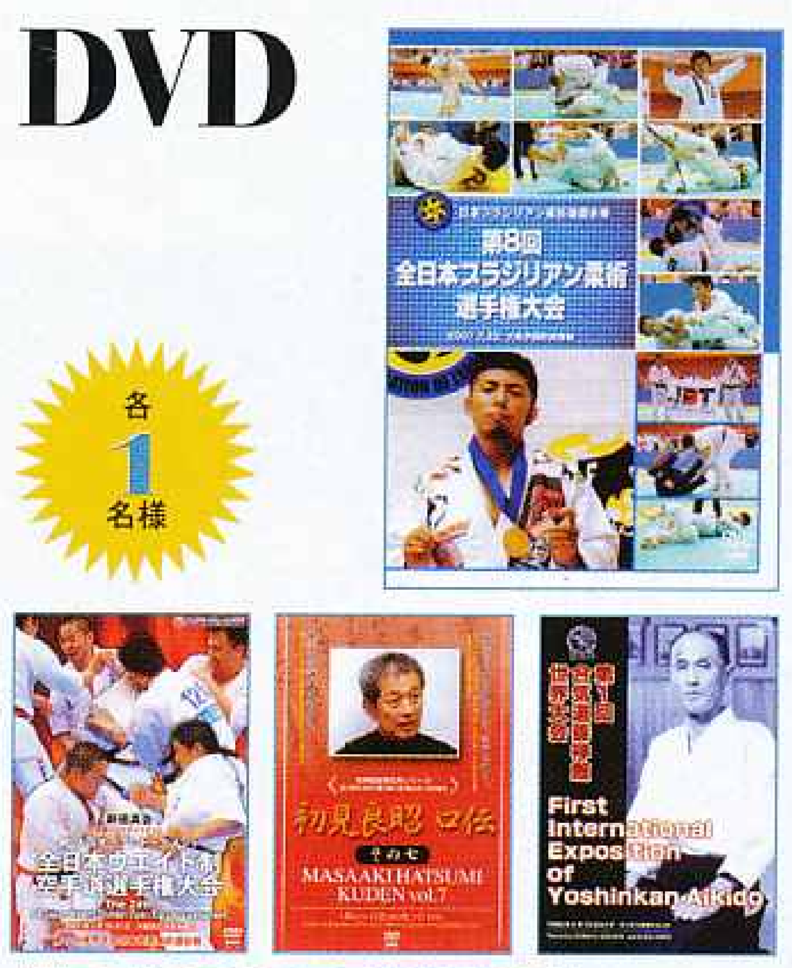
『筋肉バカの壁
博士の異常な健康PART2』

水道橋博士（著）（アスペクト刊）／¥1,365（税込）

あの浅草“キッド”の水道橋博士が、なんと自身の肉体を山本“KID”化に成功!?　今年45歳を迎えた博士が約1年間かけて自身の肉体と向かい合った必読のマッスルドキュメントが到着！

アスペクト■http://www.aspect.co.jp/

DVD



『日本ブラジリアン柔術連盟主催
第8回全日本ブラジリアン柔術選手権大会』

238分／¥5,880（税込）

『新極真会 第24回全日本ウエイト制
空手道選手権大会』

164分／¥5,880（税込）

『武神館秘巻伝照シリーズ 初見良昭 口伝 その七』

110分／¥5,040（税込）

『第1回 養神館合気道世界大会』

89分／¥5,292（税込）

クエスト■http://www.queststation.com/



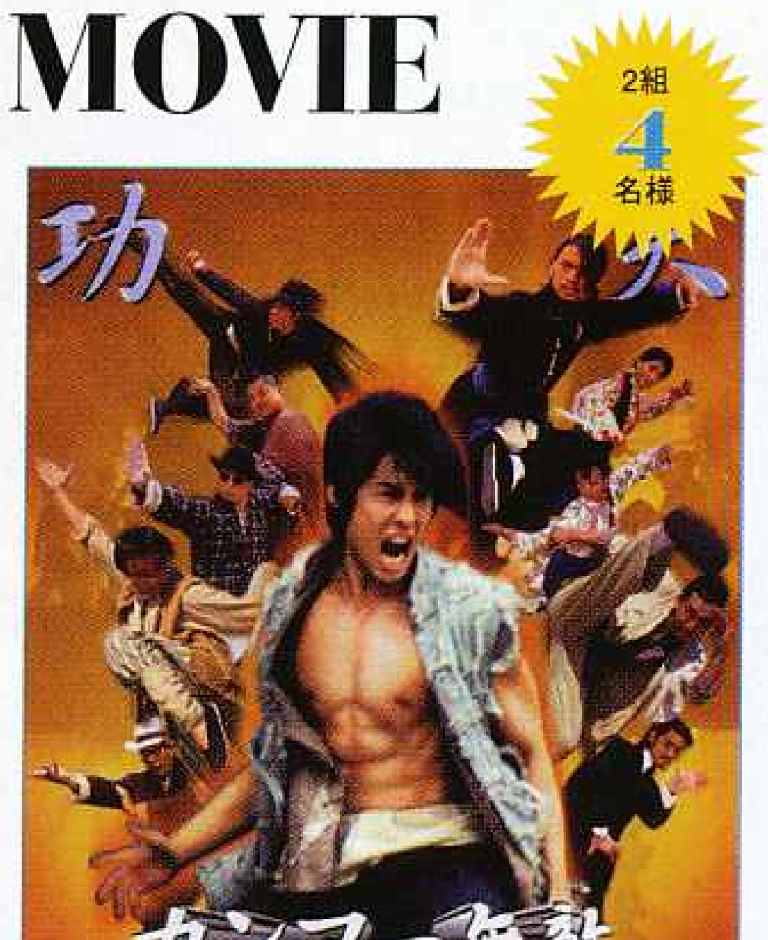
『新日本プロレス創立35周年
記念DVD 新日本事件簿』

180分／¥ 5,355（税込）

新日本プロレスの創立35周年DVDシリーズ、第一弾『新日本事件簿』は、第1回IWGPの猪木舌出し失神事件ほか、激動の事件史を当時の映像と証言の二重奏で徹底検証！

エイベックス■http://avexnet.jp/

MOVIE



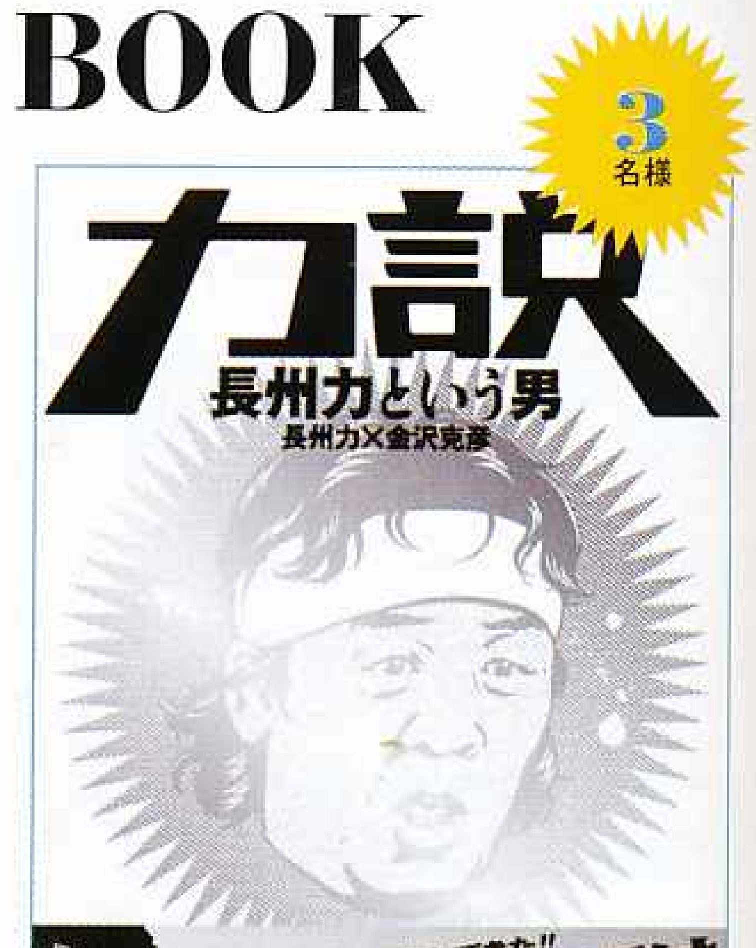
映画『カンフー無敵』チケット

07年10月、シアター・イメージフォーラムで公開！

アチョ～！　“酔拳の達人”王拳聖も出演している、香港発のカンフーアクションがいよいよ公開。主演は新世代スターのヴァネス・ウー。2組4名様にプレゼントアルヨ！

イメージフォーラム■http://www.imageforum.co.jp/

BOOK



『力説 長州力という男』

長州力、金沢克彦（著）（エンターブレイン刊）／¥ 1,890（税込）

“GK隊長”こと、金沢克彦氏と長州力が“最後の”対談集を発売！“長州力という男”を解き明かすこの本。生い立ちから現在まで波乱の55年間を語り尽くした決定版だ。

株式会社エンターブレイン■http://www.enterbrain.co.jp/

kamipro 紙のプロレス
No.115
2007年10月5日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
八木賢太郎(祝砲カウントダウンのため非番)

バ〜カ!!
上杉捨てゼリフ

見習いの見習い
すがわさくん

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん

編集次長(解離性障害!?)
松林 貴

デザイン大将
出田さん(TwoThree)

デザイン司令長官
金井ヒサくん(TwoThree)

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ステロイド
白木しらき(以上、TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上、さおとめの事務所)

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

高級食材
入江フォアグラ(TwoThree)

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
欅本義之

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
(広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで)

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555(代表)

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
(受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00)
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン(URL:http://www.enterbrain.co.jp/)、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。



NEXT ISSUE

9.17『HERO'S』&9.22UFCアナハイム徹底詳報、ロシア、ブラジルほか、MMAワールドワイドな大特集!!

Kamipro Special 2007 AUTUMNは
10月1日(月)発売予定!!

次号No.116はPRIDE10周年記念特集号
10月22日(月)発売予定!!

※ 地域によっては多少発売日が遅れます。やってみないとわかりませんがね(ヒョードル調)。

kamipro 2007 115 天下取りへ攻めるカ・イ・カ・ン!! LOVE & HUSTLE
2007年10月5日
発行人／浜村弘一　編集人／斉藤慎一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町 6-1　☎ 0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

enterbrain

定価：本体838円＋税
雑誌 61955-40　Ⓗ2008.1
Printed in Japan 図書印刷

9784757738010
ISBN978-4-7577-3801-0
C9476 ¥838E
1929476008381